

# 第 I 部 調査の概要

# I 調査概要

## 1. 調査目的

現下の日本の医療分野においては、医療従事者は、長時間労働をはじめとして大変厳しい勤務環境に置かれている。医療従事者の偏在など需給面での問題も顕在化する中で、将来にわたり安全・安心の医療提供体制を構築・維持していくために、医療従事者の労働条件や需給調整の仕組みなどに対する政策的な対応が喫緊の課題となっている。本調査は、こうした医療分野特有の問題点を総合的に把握・分析し、医療従事者の労働条件の改善や専門職としてのキャリア形成に資する仕組みを構築するため、国立の A 大学医学部附属病院（以下、「A 大学病院」と略す）<sup>1</sup>の全面的な調査協力のもと、同大学病院で働く医療従事者全数（医師、看護師、医療技術職員、病院事務職員）を対象とするアンケート調査を実施したものである。

## 2. 調査対象と調査方法

調査対象は、A 大学病院で調査時点に在籍する医療従事者（医師、看護師、医療技術職員<sup>2</sup>、病院事務職員）の全数<sup>3</sup>（悉皆調査）。調査票は医師調査票、看護師調査票、医療技術職員調査票、病院事務職員調査票の 4 種類を作成。同大学病院事務局を通じて、各部署に在籍する医療従事者に配布し、回収した。

## 3. 調査実施期間

2012 年 2 月 7 日から 2 月 27 日。

## 4. 有効回収率

各調査票の配布数、回収数及び、無効票を除いた有効回収率は以下の表 1 のとおり。

表 1：配布数と有効回収率

	医師調査	看護師調査	医療技術職員調査	病院事務職員調査	合計
配布数	532	632	318	155	1637
回収数	172	380	198	131	881
回収率 (%)	32.3	60.1	62.3	84.5	53.8
有効回収数	170	379	166	128	843
有効回収率 (%)	32.0	60.0	52.2	82.6	51.5

<sup>1</sup> 病院名称については匿名性を堅持するため、以下では A 大学病院と表記する。

<sup>2</sup> 医療技術職員とは、A 大学病院にある職種であり、「臨床検査技師」「臨床工学技士」「歯科技工士」「歯科衛生士」「理学療法士」「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」「診療放射線技師」「薬剤師」「管理栄養士」「視能訓練士」「臨床心理士」「診療情報管理士」「社会福祉士」——などの職種である。詳しくは巻末調査票の「医療技術職員」調査票の問 2（仕事・職種）参照。

<sup>3</sup> 調査対象は、A 大学医学部附属病院事務局の全面的な協力のもと、調査時点で在籍する医療従事者のほぼ全数としている（ただし、短時間で数日しか出社しないパート等配付困難の者については除外。また、外部委託関係は調査対象外）。なお、アンケート調査票の設計においても、A 大学病院の協力を得て作成されている。

## 5. 調査項目

アンケート調査票は大学事務局を通じて、ヒアリングなどを踏まえ設計した<sup>4</sup>。本調査は、医師調査、看護師調査、医療技術職員調査、病院事務職員調査の4種類からなっており、職種間の働き方の違い等から調査項目は職種に応じて設計されているが、共通の設問も設けている。調査項目の対応表が表2である(各種調査票は本報告書収録(資料1)の調査票参照)。

表2：各種調査票の設問対応表

調査項目	医師調査票	看護師調査票	医療技術職員調査票	病院事務職員調査票	備考
<職場関連>					
主たる診療科・部署・仕事	問1	問1	問1、問2	問1	各職種でそれぞれ別個の設問
勤務形態	問2	問2	問3	問2	各職種でそれぞれ別個の設問
身分・役職	問3、問4	問3	問4	問3	各職種でそれぞれ別個の設問
患者との関係(主治医制の有無)	問5				医師独自の設問
1日あたり患者数	問6	問4	問5		看護師は入院患者の日勤・夜勤の担当人数。
教育指導時間	問7	問5	問6		
研究・講義時間数	問8				医師独自の設問
多職種カンファレンス	問9、付問	問6、付問	問7、付問		
学会学術集会・研究会	問10	問7	問8		
論文発表、投稿論文提出	問11	問8	問9		
一人前になる期間	問12、付問	問9、付問	問10、付問		
【資格の有無と意向】		問10		問18	看護師独自、病院事務職員独自の設問
過去3年増減状況	問13	問11	問11		
負担感	問14	問12	問12		
電子カルテの負担感	問15	問13	問13	問16	病院事務職員のみ、設問変更。
<勤務状況、働き方>					
勤務日数	問16	問14	問14	問4	
休日日数	問17	問15	問15	問5	
勤務時間制度	問18	問16	問16	問6	
当直	問19、付問1, 2, 3				当直は医師のみ。
オンコール	問20、付問				医師独自の設問
【交代勤務】		問17、付問1, 2			看護師独自の設問
【夜勤】			問17、付問		医療技術職員用の夜勤の問い。
通勤時間	問21、問22	問18、問19	問18、問19	問7、問8	
生活時間	問23、問24	問20、問21	問20、問21	問9、問10	
年次有給休暇	問25、問26(1)~(3)	問22、問23(1)~(3)	問22、問23(1)~(3)	問11、問12(1)~(3)	
仕事と私生活の調和	問27	問24	問24	問13	
満足度	問28	問25	問25	問14	病院事務職員は聞けるもののみ。
勤務先の現状認識	問29	問26	問26	問15	病院事務職員は聞けるもののみ。
健康状態	問30、問31	問27、問28	問27、問28	問17	病院事務職員は聞けるもののみ。
将来の働き方と理由	問32、付問	問29、付問	問29、付問	問19、付問	病院事務職員のみ、異動意向。
<フェイス>					
性別	F1	F1	F1	F1	
年齢	F2	F2	F2	F2	
【最終学歴】				F3	病院事務職員独自の設問
未既婚	F3	F3	F3	F4	
子供の有無、人数、年齢、育児	F4、付問1~6	F4、付問1~6	F4、付問1~6	F5、付問1~6	
同居家族	F5、付問	F5、付問	F5、付問	F6、付問	
免許取得年	F6、F7	F6、付問	F6、付問		各職種でそれぞれ別個の設問
【病院配属経験年数、大学入社年数】				F7	病院事務職員独自の設問
勤続年数	F8	F7	F7	F8	病院事務職員独自の設問
週当たり労働時間	F9	F8	F8	F9	
年収	F10	F9	F9	F10	
労働組合	F11、付問1, 2	F10、付問1, 2	F10、付問1, 2	F11、付問1, 2	
2日分の行動	F12①②	F11①②	F11①②	F12①②	
【自由意見(病院事務職員)】				F13	病院事務職員独自の設問

※医師調査を基準に対応表を作成。【 】は単独の問い。共通の設問に網。

## 6. 回答者属性

### (1)回答者属性

回答者属性は表3のとおり。職種ごとに性別をみると、医師は男性72.4%、女性25.9%となっている一方、看護師は女性94.7%、男性5.0%、医療技術職員が女性69.9%、男性29.5%、病院事務職員が女性72.7%、男性25.8%となっている。

年齢は、その平均値が医師38.2歳、看護師32.4歳、医療技術職員35.8歳、病院事務職員

<sup>4</sup> 設問設計のためのヒアリング及び調査履行のための打ち合わせは、A大学病院に訪問することで、2011年10月18日、2011年11月16日、2011年11月29日、2012年2月1日に行われた。この場を借りて、真摯に協力いただいたA大学病院に感謝申し上げます。

39.3 歳である。その分布をみると、医師は 30 代が 42.9%と 4 割を占めるが、看護師は 20 代が 52.2%と半数を占め、医療技術職員も 20 代が 40.4%と 4 割を占めている。病院事務職員は、40 代が 29.7%、30 代が 25.0%、20 代が 25.0%などとなっている。

未既婚をみると、既婚が医師 77.6%、看護師 29.3%、医療技術職員 48.2%、病院事務職員 56.3%である。子供の有無は「子供がいる」者が医師 60.6%、看護師 20.8%、医療技術職員 39.8%、病院事務職員 46.9%である。

性別にみた未既婚状況をみると、既婚者の割合は医師で男性 84.6%、女性 63.6%、看護師で男性 47.4%、女性 28.1%、医療技術職員で男性 55.1%、女性 44.8%、病院事務職員で男性 57.6%、女性 55.9%である（表 4）。性別にみた子供の有無をみると、「子供がいる」者の割合は医師で男性 68.3%、女性 40.9%、看護師で男性 36.8%、女性 19.8%、医療技術職員で男性 44.9%、女性 37.1%、病院事務職員で男性 45.5%、女性 46.2%である（表 5）

勤続年数は、その平均値が医師 5.6 年、看護師 8.7 年、医療技術職員 7.1 年となっている（表 6）。病院事務職員の病院配属経験年数の平均値は 5.4 年である（表 7）。

表 3：回答者属性（単位＝％）

		医師	看護師	医療技術職員	病院事務職員			医師	看護師	医療技術職員	病院事務職員
n		170	379	166	128	n		170	379	166	128
性	男性	72.4	5.0	29.5	25.8	有 子 無 の 子 供 の 有 無	子供がいる	60.6	20.8	39.8	46.9
	女性	25.9	94.7	69.9	72.7		子供がいない	38.2	78.6	59.6	52.3
	不明	1.8	0.3	0.6	1.6		不明	1.2	0.5	0.6	0.8
年 齢	20代	14.1	52.2	40.4	25.0	(子 供 有 ベ ー ス)	n	103	79	66	60
	30代	42.9	26.4	25.9	25.0		1人	24.3	24.1	18.2	21.7
	40代	31.8	14.0	18.7	29.7		2人	50.5	53.2	53.0	53.3
	50代	5.3	6.9	10.2	11.7		3人	20.4	20.3	27.3	21.7
	60代以上	2.9	0.0	3.0	6.3		4人以上	2.9	1.3	0.0	3.3
	不明	2.9	0.5	1.8	2.3		不明	1.9	1.3	1.5	0.0
	平均	38.2	32.4	35.8	39.3		平均	2.0	2.0	2.1	2.1
	標準偏差	8.6	9.1	11.0	11.2		標準偏差	0.8	0.7	0.7	0.8
未 既 婚	既婚	77.6	29.3	48.2	56.3						
	未婚	21.2	70.7	51.8	42.2						
	不明	1.2	0.0	0.0	1.6						

表 4：性別にみた未既婚（単位＝％）

	医師				看護師				医療技術職員				病院事務職員			
	n	既婚	未婚	不明	n	既婚	未婚	不明	n	既婚	未婚	不明	n	既婚	未婚	不明
計	170	77.6	21.2	1.2	379	29.3	70.7	0.0	166	48.2	51.8	0.0	128	56.3	42.2	1.6
<性別>																
男性	123	84.6	15.4	0.0	19	47.4	52.6	0.0	49	55.1	44.9	0.0	33	57.6	39.4	3.0
女性	44	63.6	36.4	0.0	359	28.1	71.9	0.0	116	44.8	55.2	0.0	93	55.9	43.0	1.1

表 5：性別にみた子供の有無（単位＝％）

	医師				看護師				医療技術職員				病院事務職員			
	n	いる	いない	不明	n	いる	いない	不明	n	いる	いない	不明	n	いる	いない	不明
計	170	60.6	38.2	1.2	379	20.8	78.6	0.5	166	39.8	59.6	0.6	128	46.9	52.3	0.8
<性別>																
男性	123	68.3	30.9	0.8	19	36.8	63.2	0.0	49	44.9	55.1	0.0	33	45.5	51.5	3.0
女性	44	40.9	59.1	0.0	359	19.8	79.7	0.6	116	37.1	62.1	0.9	93	46.2	53.8	0.0

表 6：勤続年数（単位＝％）

	n	1年以下	2年	3～5年 未満	5～10年 未満	10～20年 未満	20年以上	不明	平均 (年)	標本標準 偏差
医師	170	21.8	14.1	20.6	22.9	15.9	1.8	2.9	5.6	5.6
看護師	379	10.8	9.0	22.2	24.3	14.5	13.2	6.1	8.7	8.5
医療技術職員	166	21.1	11.4	19.3	23.5	10.2	7.8	6.6	7.1	8.8

表 7：病院事務職員の大学勤続年数及び大学病院配属経験年数（単位＝％）

	n	3年未満	3～5年 未満	5～10年 未満	10～20年 未満	20年以上	不明	平均 (年)	標本標準 偏差
大学勤続年数	128	27.3	20.3	19.5	9.4	16.4	7.0	9.2	11.1
病院配属経験年数	128	35.9	25.0	22.7	11.7	3.1	1.6	5.4	7.0

(2)過去 3 年間の変化

過去 3 年間の増減状況に対する認識は表 7 のとおり。

表 8：過去 3 年間の増減状況に対する認識（単位＝％）

	調査	n	過去3年間の増減							増加・減少合計		
			大変増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	大変減少した	該当者なし・該当事項なし	不明	増加	変わらない	減少
医師の数	医師	170	2.4	35.9	40.0	12.9	3.5	2.4	2.9	38.3	40.0	16.4
	看護師	379	1.3	14.2	67.0	12.1	0.3	1.8	3.2	15.5	67.0	12.4
	医療技術職員	166	0.6	16.9	42.2	8.4	1.2	13.9	16.9	17.5	42.2	9.6
看護師の数	医師	170	1.8	20.6	58.8	10.0	1.8	3.5	3.5	22.4	58.8	11.8
	看護師	379	6.9	28.8	32.5	26.9	1.8	1.3	1.8	35.7	32.5	28.7
	医療技術職員	166	1.2	16.9	33.1	6.6	0.0	27.1	15.1	18.1	33.1	6.6
医療技術職員の数	医師	170	0.0	20.6	68.8	1.8	0.6	4.7	3.5	20.6	68.8	2.4
	看護師	379	1.1	11.1	73.6	1.8	0.3	9.0	3.2	12.2	73.6	2.1
	医療技術職員	166	3.0	34.3	36.7	6.0	1.2	5.4	13.3	37.3	36.7	7.2
医療事務職員の数	医師	170	2.9	26.5	62.4	1.8	0.0	2.4	4.1	29.4	62.4	1.8
	看護師	379	2.4	19.0	72.8	1.3	0.0	2.4	2.1	21.4	72.8	1.3
	医療技術職員	166	0.0	12.7	49.4	2.4	0.6	19.3	15.7	12.7	49.4	3.0
受け持ち患者の数	医師	170	8.8	30.0	45.9	5.9	1.2	4.7	3.5	38.8	45.9	7.1
	看護師	379	4.5	23.0	44.3	17.2	1.3	6.9	2.9	27.5	44.3	18.5
	医療技術職員	166	6.6	26.5	22.3	2.4	0.0	24.7	17.5	33.1	22.3	2.4
カンファレンスの回数	医師	170	2.9	27.1	64.7	1.2	0.0	1.8	2.4	30.0	64.7	1.2
	看護師	379	12.1	44.1	34.8	2.6	0.8	3.2	2.4	56.2	34.8	3.4
	医療技術職員	166	3.6	14.5	44.0	1.2	0.0	18.1	18.7	18.1	44.0	1.2
若手（新人）に対する教育指導時間	医師	170	7.6	32.9	46.5	4.7	1.2	4.1	2.9	40.5	46.5	5.9
	看護師	379	11.3	31.1	40.1	3.7	0.5	8.7	4.5	42.4	40.1	4.2
	医療技術職員	166	5.4	21.7	35.5	1.2	0.6	18.7	16.9	27.1	35.5	1.8
患者・家族への対応	医師	170	5.9	17.1	63.5	1.8	0.6	7.6	3.5	23.0	63.5	2.4
	看護師	379	5.3	31.1	49.6	3.4	0.8	4.5	5.3	36.4	49.6	4.2
	医療技術職員	166	0.6	9.0	45.2	1.8	0.0	25.9	17.5	9.6	45.2	1.8
患者・家族からの暴言・暴力・性的嫌がらせへの対応	医師	170	1.8	8.8	69.4	1.8	0.6	15.3	2.4	10.6	69.4	2.4
	看護師	379	1.6	14.2	60.7	3.2	1.1	15.8	3.4	15.8	60.7	4.3
	医療技術職員	166	0.6	1.8	40.4	3.6	0.6	36.1	16.9	2.4	40.4	4.2
研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間	医師	170	7.6	21.2	47.1	14.1	5.3	2.4	2.4	28.8	47.1	19.4
	看護師	379	6.9	29.6	49.3	5.5	2.1	4.2	2.4	36.5	49.3	7.6
	医療技術職員	166	6.6	26.5	36.7	5.4	1.2	7.8	15.7	33.1	36.7	6.6
通常業務以外の業務	医師	170	18.8	34.7	38.2	2.9	0.6	2.4	2.4	53.5	38.2	3.5
	看護師	379	15.8	36.4	34.0	7.1	1.3	2.6	2.6	52.2	34.0	8.4
	医療技術職員	166	16.9	31.3	27.1	1.2	0.0	9.0	14.5	48.2	27.1	1.2

※「増加」は「大変増加した」「やや増加した」の合計。「減少」は「大変減少した」「やや減少した」の合計。

## Ⅱ. 調査結果の概要

### 第1章 医師調査の概要

#### 1. 回答者属性

##### (1) 勤続年数と医師経験年数

医師の勤続年数は、その平均値が 5.6 年となっており、これを性別にみると、男性のほうが 6.0 年であり女性の 4.5 年よりも長い（図表 1-1-1）。医師経験年数（調査時点から医師免許取得年を引いた値。以下同じ）は 12.4 年であり、これを性別にみると、男性が 13.3 年、女性が 10.1 年となっている（図表 1-1-2）。

調査では医師免許取得時の大学・病院について、A 大学医学部か否かを尋ねている。それによれば、「A 大学医学部」が 57.6%、「それ以外」が 37.6%となっている。これを医師経験年数別にみると、「それ以外」の割合は、「5～10 年未満」で 50.0%ともっとも高くなっているが、それ以外はいずれも 3 割程度ある（図表 1-1-3）。

図表 1-1-1：勤続年数（単位＝％）〔医師調査〕

	n	1年以下	2年	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	不明	平均(年)	標本標準偏差
計	170	21.8	14.1	20.6	22.9	15.9	1.8	2.9	5.6	5.6
<性別>										
男性	123	17.9	14.6	18.7	26.0	19.5	1.6	1.6	6.0	5.2
女性	44	31.8	13.6	27.3	15.9	6.8	2.3	2.3	4.5	6.5

図表 1-1-2：医師経験年数（単位＝％）〔医師調査〕

	n	3年未満	3～5年未満	5～8年未満	8～10年未満	10～15年未満	15年以上	不明	平均(年)	標本標準偏差
計	170	10.0	9.4	11.8	7.1	19.4	36.5	5.9	12.4	8.3
<性別>										
男性	123	8.1	8.9	11.4	4.9	18.7	43.1	4.9	13.3	8.4
女性	44	13.6	11.4	13.6	13.6	22.7	20.5	4.5	10.1	7.5

※医師経験年数は、調査時点から医師免許取得年を引いた値。

図表 1-1-3：医師免許取得時の大学・病院（単位＝％）〔医師調査〕

	n	A大学医学部	それ以外	不明
計	170	57.6	37.6	4.7
<医師経験年数>				
3年未満	17	64.7	35.3	0.0
3～5年未満	16	62.5	37.5	0.0
5～10年未満	32	46.9	50.0	3.1
10年以上	95	63.2	35.8	1.1

##### (2) 診療科

担当する主な診療科は図表 1-1-4 のとおり。これを集約したものが図表 1-1-5 であり<sup>5</sup>、「内

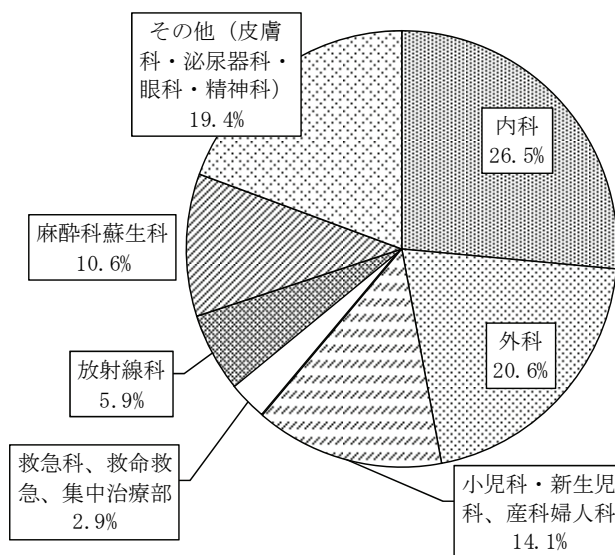
<sup>5</sup> 診療科の分類については、「内科」「外科」「小児科・新生児科、産科婦人科」「救急科、救命救急、集中治療部」「放射線科」「麻酔科蘇生科」「その他」——の 7 カテゴリに分けた。調査票上の選択肢のカテゴリ化について

科」26.5%、「外科」20.6%、「小児科・新生児科、産科婦人科」14.1%、「救急科、救命救急、集中治療部」2.9%、「放射線科」5.9%、「麻酔科蘇生科」10.6%、「その他（皮膚科・泌尿器科・眼科・精神科）」19.4%となっている。

図表 1-1-4：診療科【医師調査】

	件数	%		件数	%
	170	100.0		170	100.0
呼吸器・感染症内科	9	5.3	小児科・新生児科	15	8.8
循環器内科	9	5.3	産科婦人科	9	5.3
消化器内科	9	5.3	救急科	2	1.2
血液内科	2	1.2	集中治療部	1	0.6
腎臓内科	3	1.8	R I 診療室	0	0.0
脳神経内科	0	0.0	新生児集中治療室	0	0.0
リウマチ・膠原病内科	0	0.0	高度救命救急センター	2	1.2
糖尿病・内分泌代謝内科	13	7.6	放射線科	10	5.9
消化器外科	6	3.5	麻酔科蘇生科	18	10.6
移植外科	2	1.2	皮膚科	3	1.8
小児外科	0	0.0	泌尿器科	4	2.4
心臓血管外科	1	0.6	眼科	9	5.3
呼吸器外科	1	0.6	耳鼻いんこう科	0	0.0
乳腺・内分泌外科	1	0.6	精神科	8	4.7
整形外科	18	10.6	その他	9	5.3
脳神経外科	0	0.0			
特殊歯科・口腔外科	6	3.5			
形成外科	0	0.0			

図表 1-1-5：主たる診療科 (n=170)



は、以下のとおり。「内科」は、「呼吸器・感染症内科」「循環器内科」「消化器内科」「血液内科」「腎臓内科」「脳神経内科」「リウマチ・膠原病内科」「糖尿病・内分泌代謝内科」。「外科」は、「消化器外科」「移植外科」「小児外科」「心臓血管外科」「呼吸器外科」「乳腺・内分泌外科」「整形外科」「脳神経外科」「特殊歯科・口腔外科」「形成外科」。「小児科・新生児科、産科婦人科」は「小児科・新生児科」「産科婦人科」。「救急科、救命救急、集中治療部」は、「救急科」「集中治療部」「R I 診療室」「新生児集中治療室」「高度救命救急センター」。「その他」は、「皮膚科」「泌尿器科」「眼科」「耳鼻いんこう科」「精神科」「その他」でカテゴリ化した。

### (3)勤務形態

勤務形態<sup>6</sup>は、「常勤」60.0%、「非常勤」28.2%、「研修医」10.0%、「その他」0.6%などとなっている。これを性別にみると、男性では「常勤」69.1%、「非常勤」22.8%などとなっている一方で、女性では「常勤」36.4%、「非常勤」43.2%などとなっている。男性のほうが「常勤」の割合が高く、女性のほうが「非常勤」の割合が高い。年齢別にみると、年齢が高くなるほど「常勤」の割合は高い（図表 1-1-6）。

身分をみると、「講師以上」（「教授」4.7%、「准教授」7.6%、「講師」6.5%の合計）が18.8%、「助教」（「助教（特定雇用含む）」20.6%、「助教（診療）」11.2%の合計）が31.8%、「医員以下」（「医員」33.5%、「研修医（卒後2年目まで）」10.0%、「大学院生（時間外診療医師）」2.9%の合計）が46.4%などとなっている（図表 1-1-7）。なお、役職については図表 1-1-8のとおり。

調査では患者との関係で主治医制であるか否かを尋ねている<sup>7</sup>。それによれば、「専任主治医（担当医）制」が51.2%、「交代主治医（担当医）制」が21.8%、「いずれにも該当しない」25.9%となっている（図表 1-1-9）。これを勤務形態別にみると、「常勤」のほうが「専任主治医（担当医）制」55.9%、「交代主治医（担当医）制」19.6%、「いずれにも該当しない」24.5%となっており、「非常勤・研修医」のほうが「専任主治医（担当医）制」46.2%、「交代主治医（担当医）制」24.6%、「いずれにも該当しない」29.2%となっている。「常勤」のほうが「非常勤・研修医」に比べ「専任主治医（担当医）制」の割合が高い。性別にみると、「専任主治医（担当医）制」の割合は、男性55.3%、女性40.9%となっており、いずれももっとも割合が高いが、男性のほうが「専任主治医（担当医）制」の割合が高く、女性のほうが「交代主治医（担当医）制」「いずれにも該当しない」の割合が高い。年齢別にみると、「40代」で「専任主治医（担当医）制」の割合がもっとも高くなっている。なお、「50代以上」では「いずれにも該当しない」の割合がもっとも高く、次いで「専任主治医（担当医）制」の割合が高くなっている（図表 1-1-9）。

図表 1-1-6：勤務形態（単位＝％）〔医師調査〕

	n	常勤	非常勤	研修医	その他	不明
計	170	60.0	28.2	10.0	0.6	1.2
<性別>						
男性	123	69.1	22.8	7.3	0.0	0.8
女性	44	36.4	43.2	15.9	2.3	2.3
<年齢別>						
30代以下	97	44.3	38.1	15.5	1.0	1.0
40代	54	79.6	18.5	0.0	0.0	1.9
50代以上	14	92.9	0.0	7.1	0.0	0.0

<sup>6</sup> 本調査票では、A 大学病院の「常勤」の定義を使用し、「ここでの『常勤』とは、医員、時間外診療医師以外の者」としている。

<sup>7</sup> 調査票では、「ここでの主治医とは担当医のことです。「専任主治医（担当医）制」とは、勤務が交代しても主治医が替わらない制度のことを、「交代主治医（担当医）制」とは勤務に伴い主治医が替わる制度のことをいいます」と定義している。



図表 1-1-7：身分（単位＝％）〔医師調査〕

	n	教授	准教授	講師	助教（特定雇用含む）	助教（診療）	医員	研修医（卒後2年目まで）	大学院生（時間外診療医師）	その他	不明
計	170	4.7	7.6	6.5	20.6	11.2	33.5	10.0	2.9	2.4	0.6
<勤務形態>											
常勤	102	7.8	12.7	10.8	34.3	16.7	15.7	0.0	2.0	0.0	0.0
非常勤・研修医	65	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	61.5	26.2	4.6	4.6	0.0

※勤務形態の「その他」は割愛（以下同じ）。

図表 1-1-8：役職（単位＝％）〔医師調査〕

	n	病院長補佐	診療科長	副診療科長	長・副センター長 診療施設等副部長	医長（統括・外来・病棟）	後期研修医（卒後3年目以降）	役職なし	その他	不明
医師・計	170	1.8	2.9	1.2	2.9	14.7	14.1	58.8	2.9	0.6
<勤務形態>										
常勤	102	2.9	4.9	2.0	4.9	24.5	6.9	53.9	0.0	0.0
非常勤・研修医	65	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.2	66.2	7.7	0.0
<身分>										
講師以上	32	9.4	15.6	6.3	15.6	25.0	0.0	28.1	0.0	0.0
助教	54	0.0	0.0	0.0	0.0	31.5	0.0	66.7	1.9	0.0
医員以下	79	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.4	64.6	5.1	0.0

※1:役職の「副病院長」「診療施設等部長・センター長」は、回答者がゼロのため省略。

※2:「身分」の「その他」は割愛（以下同じ）。

図表 1-1-9：患者との関係（主治医制の有無）（単位＝％）〔医師調査〕

	n	専任主治医（担当医）制	交代主治医（担当医）制	いずれにも該当しない	不明
計	170	51.2	21.8	25.9	1.2
<勤務形態>					
常勤	102	55.9	19.6	24.5	0.0
非常勤・研修医	65	46.2	24.6	29.2	0.0
<性別>					
男性	123	55.3	19.5	24.4	0.8
女性	44	40.9	27.3	29.5	2.3
<年齢別>					
30代以下	97	49.5	25.8	23.7	1.0
40代	54	61.1	13.0	24.1	1.9
50代以上	14	35.7	21.4	42.9	0.0

#### (4)休日と勤務時間制度

週あたりの勤務日数（規程・契約等で定められた勤務日数）は、81.2%が「5日」となっている。これを勤務形態別にみると、「非常勤・研修医」は「5日」が69.2%ともっとも高いものの、「4日以下」が30.8%を占めている。身分別にみると、「医員以下」で「4日以下」の割合は、26.7%と他に比べて高い（図表 1-1-10）。

適用されている勤務時間制度<sup>8</sup>では、「通常の勤務時間制度」が 65.9%を占めており、次いで、「裁量労働制」が 28.2%となっている。これを勤務形態別にみると、「非常勤・研修医」は 80.0%が「通常の勤務時間制度」となっている。身分別にみると、身分が高くなるほど、「裁量労働制」の割合が高まる一方で、「通常の勤務時間制度」の割合が低下する。勤続年数別にみると、勤続年数が長くなるほど「裁量労働制」の割合が高まる一方で、「通常の勤務時間制度」の割合が低下する（図表 1-1-11）。

図表 1-1-10：週あたり勤務日数（単位＝％）〔医師調査〕

	n	1日	2日	3日	4日	5日	不明
計	170	2.9	1.2	1.2	12.9	81.2	0.6
<勤務形態>							
常勤	102	1.0	0.0	0.0	8.8	89.2	1.0
非常勤・研修医	65	4.6	3.1	3.1	20.0	69.2	0.0
<身分>							
講師以上	32	3.1	0.0	0.0	0.0	93.8	3.1
助教	54	0.0	0.0	0.0	9.3	90.7	0.0
医員以下	79	3.8	1.3	1.3	20.3	73.4	0.0

図表 1-1-11：勤務時間制度（単位＝％）〔医師調査〕

	n	通常の勤務時間制度	1カ月単位の変形労働時間制	裁量労働制	の管理が方などがさなどてい管理員	その他	不明
計	170	65.9	0.0	28.2	3.5	1.8	0.6
<勤務形態>							
常勤	102	55.9	0.0	42.2	1.0	1.0	0.0
非常勤・研修医	65	80.0	0.0	7.7	7.7	3.1	1.5
<身分>							
講師以上	32	28.1	0.0	71.9	0.0	0.0	0.0
助教	54	61.1	0.0	37.0	0.0	1.9	0.0
医員以下	79	83.5	0.0	6.3	7.6	2.5	0.0
<勤続年数>							
3年未満	61	83.6	0.0	4.9	8.2	1.6	1.6
3～5年未満	35	74.3	0.0	20.0	2.9	2.9	0.0
5年以上	69	46.4	0.0	52.2	0.0	1.4	0.0

## (5)対応する患者数

最近1日あたりの平均外来患者数は、平均 12.6 人となっている（分布をみると、「担当していない」が 19.4%）。勤務形態別にみると、「常勤」のほうが平均 15.7 人となっており、「非

<sup>8</sup> 適用されている勤務時間制度は、A 大学病院で規程上設けられているものについて、調査票上、選択肢化している（本設問は、医師調査票、看護師調査票、医療技術職員調査票、病院事務職員調査票の共通の設問）。なお、調査票上、「裁量労働制」について明確な定義はしていない。ただし、A 大学の「勤務時間、休日、休暇等に関する規程」では、「裁量労働制」について、「労使協定により、労基法第 38 条の 3 に規定する裁量労働制を適用する職員は、職員が行う職務遂行の手段及び時間配分の決定等に関し、職員の裁量に委ねるものとし、当該勤務時間については、その労使協定の定めるところにより勤務したものとみなす」と規程していることから、当該裁量労働制は専門業務型裁量労働制（労基法第 38 条の 3）と考えて差し支えない。

常勤・研修医」(6.1人)よりも高い(分布をみると「担当していない」は「非常勤・研修医」で33.8%)。身分別にみると、その平均値は「助教」で18.3人と最も多く、次いで「講師以上」13.4人、「医員以下」が6.9人となっている(分布をみると、「医員以下」で「担当していない」が30.4%)。主治医制の別<sup>9</sup>にみると、「専任主治医制」では14.8人、「専任主治医制以外」で9.5人となっている(「専任主治医制以外」で「担当していない」が30.9%) (図表1-1-12)。

最近1日あたりの平均受け持ち入院患者数は、平均5.2人となっている。勤務形態別にみると、「常勤」5.6人、「非常勤・研修医」4.6人となっている。身分別にみると、その平均値は「助教」で5.8人と最も多い(分布をみると、「講師以上」で「担当していない」が28.1%、「0人」が28.1%となっている)。主治医制の別にみると、「専任主治医制」が5.6人、「専任主治医制以外」で4.6人となっている(図表1-1-13)。

図表 1-1-12 : 最近1日あたりの平均外来患者数 (単位=%) [医師調査]

	n	0人	1~5人 未満	5~10 人未満	10人 以上	担当し ていな い	不明	平均 (人)	標本 標準 偏差
計	170	9.4	12.9	8.8	48.2	19.4	1.2	12.6	10.2
<勤務形態>									
常勤	102	5.9	6.9	7.8	68.6	10.8	0.0	15.7	10.0
非常勤・研修医	65	15.4	21.5	9.2	18.5	33.8	1.5	6.1	7.2
<身分>									
講師以上	32	6.3	3.1	15.6	68.8	6.3	0.0	13.4	7.4
助教	54	3.7	7.4	3.7	77.8	7.4	0.0	18.3	10.9
医員以下	79	15.2	21.5	8.9	22.8	30.4	1.3	6.9	7.5
<主治医制の別>									
専任主治医制	87	4.6	13.8	6.9	65.5	9.2	0.0	14.8	10.5
専任主治医制以外	81	14.8	11.1	11.1	30.9	30.9	1.2	9.5	8.8

図表 1-1-13 : 最近1日あたりの平均受け持ち入院患者数 (単位=%) [医師調査]

	n	0人	1~5人 未満	5~10 人未満	10~15 人未満	15~20 人未満	20~25 人未満	25人 以上	担当し ていな い	不明	平均 (人)	標本 標準 偏差
計	170	14.7	23.5	22.9	13.5	1.2	1.2	1.2	19.4	2.4	5.2	4.8
<勤務形態>												
常勤	102	18.6	20.6	17.6	15.7	2.0	2.0	2.0	19.6	2.0	5.6	5.6
非常勤・研修医	65	9.2	27.7	32.3	10.8	0.0	0.0	0.0	18.5	1.5	4.6	3.3
<身分>												
講師以上	32	28.1	15.6	9.4	12.5	0.0	3.1	3.1	28.1	0.0	4.9	6.6
助教	54	16.7	25.9	14.8	16.7	3.7	1.9	1.9	14.8	3.7	5.8	5.6
医員以下	79	8.9	25.3	34.2	12.7	0.0	0.0	0.0	17.7	1.3	4.9	3.3
<主治医制の別>												
専任主治医制	87	8.0	31.0	27.6	18.4	1.1	1.1	1.1	10.3	1.1	5.6	4.5
専任主治医制以外	81	22.2	14.8	18.5	8.6	1.2	1.2	1.2	29.6	2.5	4.6	5.3

<sup>9</sup> 以下では主治医制の別について、「専任主治医制」と「専任主治医制以外」(「交代主治医(担当医)制」「いずれにも該当しない」の合計)にカテゴリ化している(以下同じ)。

(6)勤務先の不足感の認識

調査では、勤務先の医師、看護師、医療技術職員、医療事務職員の不足感及び、職場の相談相手、先端医療技術の習得機会の不足感について尋ねている。それを診療科別にまとめたものが図表 1-1-14 である。

図表 1-1-14：勤務先の不足感の認識（単位＝％）〔医師調査〕

	n	非常に感じる	まあ感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	ほとんど感じない	不明	感じる計	感じない計
医師の不足・計	170	28.2	34.7	26.5	7.6	1.8	1.2	62.9	9.4
内科	45	28.9	28.9	31.1	6.7	4.4	0.0	57.8	11.1
外科	35	20.0	42.9	25.7	11.4	0.0	0.0	62.9	11.4
小児科・新生児科、産科婦人科	24	25.0	37.5	20.8	16.7	0.0	0.0	62.5	16.7
救急科、救命救急、集中治療部	5	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
放射線科	10	40.0	50.0	10.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0
麻酔科蘇生科	18	22.2	55.6	16.7	5.6	0.0	0.0	77.8	5.6
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	36.4	18.2	33.3	3.0	3.0	6.1	54.6	6.0
看護師の不足・計	170	20.0	32.9	32.4	10.0	2.9	1.8	52.9	12.9
内科	45	6.7	28.9	44.4	13.3	6.7	0.0	35.6	20.0
外科	35	11.4	25.7	42.9	17.1	0.0	2.9	37.1	17.1
小児科・新生児科、産科婦人科	24	12.5	50.0	25.0	8.3	4.2	0.0	62.5	12.5
救急科、救命救急、集中治療部	5	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
放射線科	10	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0
麻酔科蘇生科	18	44.4	44.4	5.6	5.6	0.0	0.0	88.8	5.6
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	36.4	21.2	27.3	6.1	3.0	6.1	57.6	9.1
医療技術職員の不足・計	170	14.1	35.9	37.6	8.8	2.4	1.2	50.0	11.2
内科	45	4.4	33.3	46.7	11.1	4.4	0.0	37.7	15.5
外科	35	17.1	28.6	42.9	11.4	0.0	0.0	45.7	11.4
小児科・新生児科、産科婦人科	24	4.2	41.7	41.7	12.5	0.0	0.0	45.9	12.5
救急科、救命救急、集中治療部	5	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0
放射線科	10	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0
麻酔科蘇生科	18	22.2	44.4	22.2	5.6	5.6	0.0	66.6	11.2
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	21.2	30.3	33.3	6.1	3.0	6.1	51.5	9.1
医療事務職員の不足・計	170	13.5	34.1	38.2	10.6	2.4	1.2	47.6	13.0
内科	45	8.9	26.7	48.9	11.1	4.4	0.0	35.6	15.5
外科	35	17.1	28.6	37.1	14.3	2.9	0.0	45.7	17.2
小児科・新生児科、産科婦人科	24	4.2	50.0	25.0	20.8	0.0	0.0	54.2	20.8
救急科、救命救急、集中治療部	5	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0
放射線科	10	10.0	50.0	40.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
麻酔科蘇生科	18	22.2	33.3	33.3	11.1	0.0	0.0	55.5	11.1
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	18.2	30.3	39.4	3.0	3.0	6.1	48.5	6.0
仕事上の相談相手（上司・同僚）の不足・計	170	7.1	27.1	42.4	18.2	4.1	1.2	34.2	22.3
内科	45	11.1	28.9	40.0	15.6	4.4	0.0	40.0	20.0
外科	35	0.0	11.4	57.1	20.0	11.4	0.0	11.4	31.4
小児科・新生児科、産科婦人科	24	4.2	33.3	33.3	29.2	0.0	0.0	37.5	29.2
救急科、救命救急、集中治療部	5	20.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
放射線科	10	20.0	40.0	30.0	10.0	0.0	0.0	60.0	10.0
麻酔科蘇生科	18	5.6	27.8	44.4	22.2	0.0	0.0	33.4	22.2
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	6.1	33.3	36.4	15.2	3.0	6.1	39.4	18.2
先端医療技術の習得機会の不足・計	170	8.2	34.1	38.8	14.7	2.9	1.2	42.3	17.6
内科	45	8.9	28.9	42.2	15.6	4.4	0.0	37.8	20.0
外科	35	8.6	25.7	40.0	20.0	5.7	0.0	34.3	25.7
小児科・新生児科、産科婦人科	24	8.3	45.8	29.2	16.7	0.0	0.0	54.1	16.7
救急科、救命救急、集中治療部	5	20.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
放射線科	10	10.0	60.0	20.0	10.0	0.0	0.0	70.0	10.0
麻酔科蘇生科	18	11.1	27.8	38.9	22.2	0.0	0.0	38.9	22.2
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	3.0	39.4	42.4	6.1	3.0	6.1	42.4	9.1

※「感じる」は「非常に感じる」「まあ感じる」の合計。「感じない」は「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計。

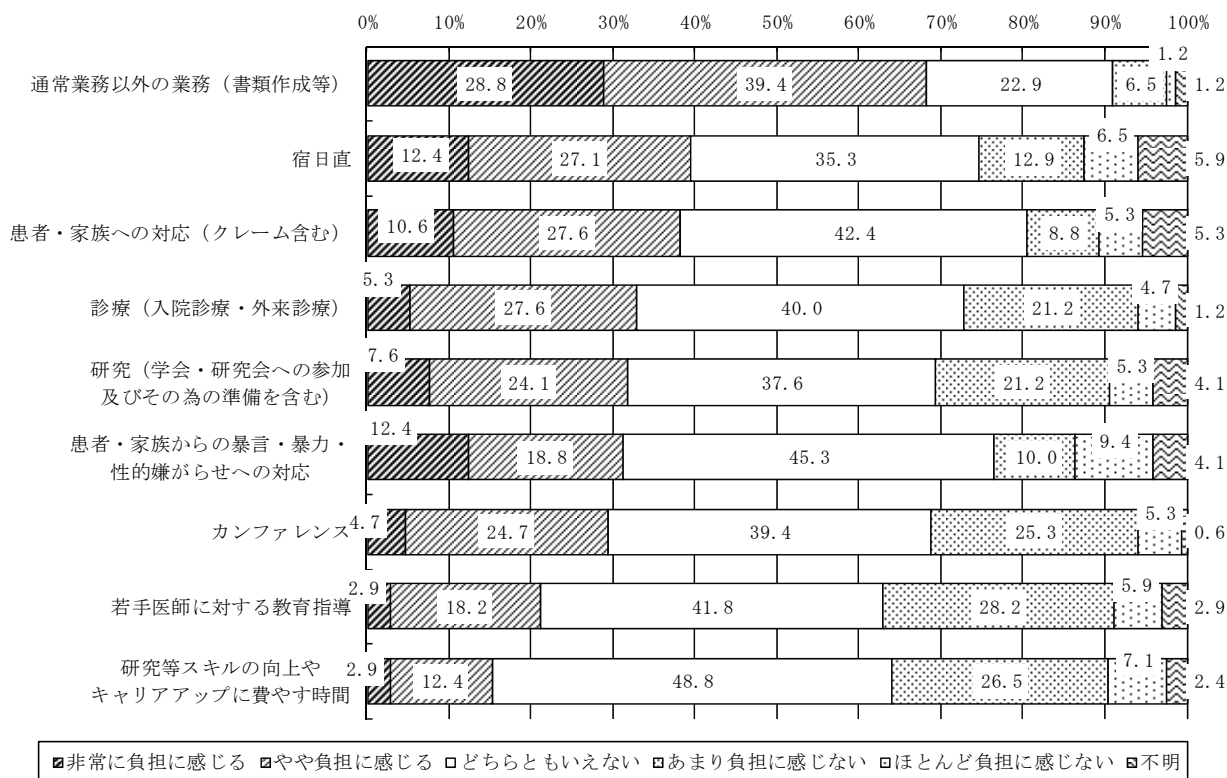
## 2. 医師の業務の負担感と満足度

### (1) 医師の業務の負担感

医師の業務の負担感について、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計）とする割合は、「通常業務以外の業務（書類作成等）」が68.2%と最も高くなっており、次いで、「直日直」（39.5%）、「患者・家族への対応（クレーム含む）」（38.2%）などとなっている。

一方、「負担に感じない」（「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計）の割合をみると、「若手医師に対する教育指導」が34.1%と最も高く、次いで、「研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間」（33.6%）、「カンファレンス」（30.6%）などとなっている（図表 1-2-1）。

図表 1-2-1：医師の業務負担感 [n=170] [医師調査]



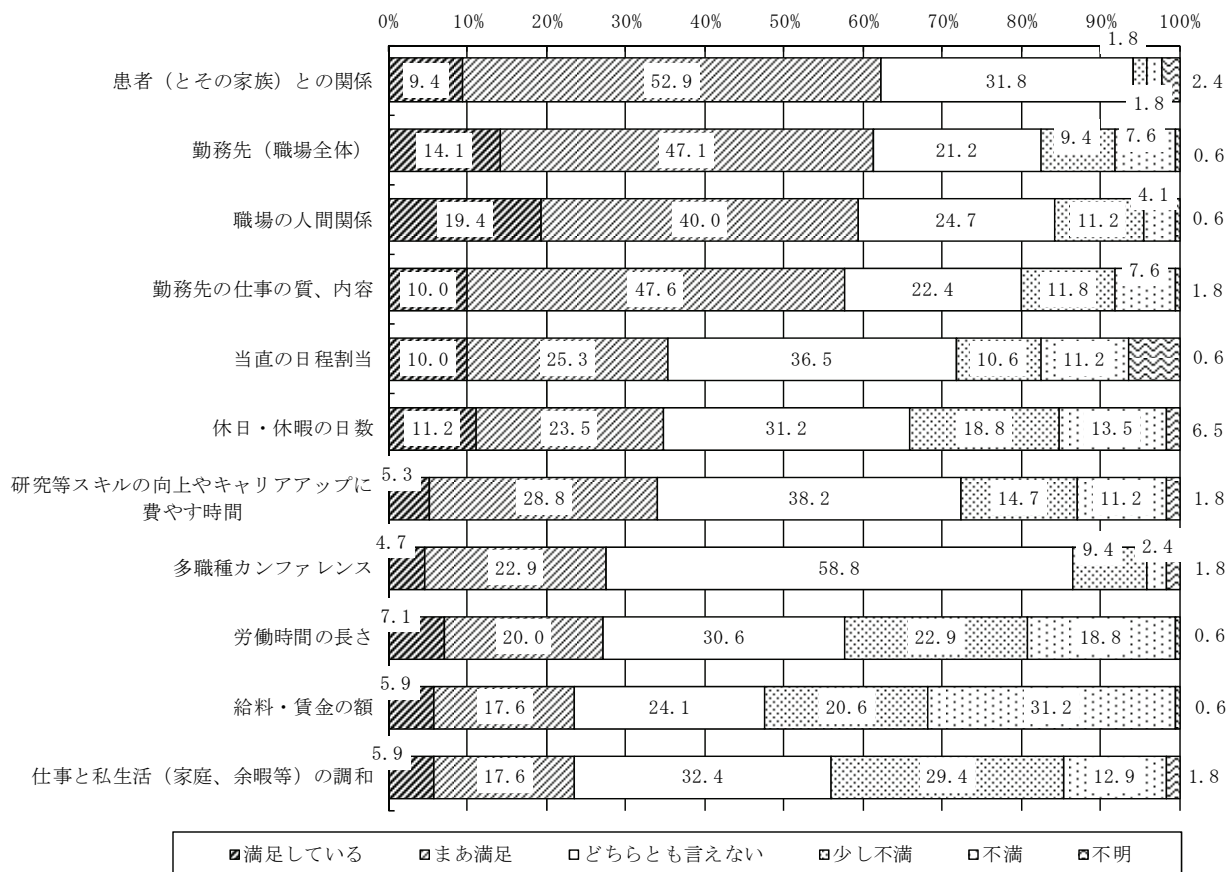
### (2) 医師の満足度

満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合でもっとも高いのは、「患者（とその家族）との関係」（62.3%）であり、次いで、「勤務先（職場全体）」（61.2%）、「職場の人間関係」（59.4%）、「勤務先の仕事の質、内容」（57.6%）などとなっている。

一方、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合がもっとも高いのは、「給料・賃金の額」（51.8%）であり、次いで、「仕事と私生活（家庭、余暇等）の調和」（42.3%）、

「労働時間の長さ」(41.7%)、「休日・休暇の日数」(32.3%) などとなっている(図表 1-2-2)。

図表 1-2-2：医師の満足度 [n=170] [医師調査]



### 3. 医師の勤務状況

#### 3-1. 研究関係

##### (1)研究

自分の研究に費やす時間が「ある」としているのは 61.2%。これを勤務形態別にみると、研究時間がある割合は「常勤」が 76.5%、「非常勤・研修医」が 38.5%となっている。身分別にみると、「講師以上」100.0%、「助教」72.2%、「医員以下」39.2%となっている。医師経験年数別にみると、経験年数が長くなるほど「ある」とする割合は高まる。出身大学別にみると、出身大学によって「ある」とする割合に差はない。

研究時間が「ある」とする者を対象に 1 週間あたりの平均的な研究時間数(自分の研究に費やす時間)をみると、平均値は 7.9 時間である。これを勤務形態別にみると、「常勤」は 8.0 時間、「非常勤・研修医」は 6.6 時間となっている。身分別にみると、「講師以上」9.0 時間、「助教」6.7 時間、「医員以下」7.6 時間となっている。医師経験年数別にみると、その平均値は経験年数が長くなるほどおおむね高まる傾向にある。出身大学別にみると平均値に差はみられない(図表 1-3-1)。

図表 1-3-1：自分の研究に費やす時間の有無、及び週あたりの自分の研究に費やす平均時間数（単位＝％）〔医師調査〕

	n	自分の研究に費やす時間の有無			n	週あたりの自分の研究に費やす平均時間数							平均 (時間)	標本 標準偏差
		ある	ない	不明		3時間 未満	3～5時 間未満	5～10 時間未 満	10～20 時間未 満	20時間 以上	不明			
計	170	61.2	35.9	2.9	104	23.1	21.2	26.0	15.4	14.4	0.0	7.9	8.4	
<診療科>														
内科	45	64.4	33.3	2.2	29	31.0	17.2	20.7	24.1	6.9	0.0	6.2	5.3	
外科	35	74.3	20.0	5.7	26	11.5	23.1	42.3	3.8	19.2	0.0	8.6	8.2	
小児科・新生児科、産科婦人科	24	62.5	33.3	4.2	15	13.3	26.7	20.0	20.0	20.0	0.0	11.0	12.9	
救急科、救命救急、集中治療部	5	60.0	40.0	0.0	3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	4.3	1.7	
放射線科	10	40.0	60.0	0.0	4	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	2.8	2.6	
麻酔科蘇生科	18	50.0	50.0	0.0	9	22.2	11.1	11.1	33.3	22.2	0.0	10.0	7.4	
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	54.5	42.4	3.0	18	22.2	33.3	16.7	11.1	16.7	0.0	7.6	8.7	
<勤務形態>														
常勤	102	76.5	21.6	2.0	78	23.1	23.1	24.4	14.1	15.4	0.0	8.0	8.9	
非常勤・研修医	65	38.5	58.5	3.1	25	24.0	16.0	32.0	20.0	8.0	0.0	6.6	5.1	
<身分>														
講師以上	32	100.0	0.0	0.0	32	21.9	18.8	25.0	15.6	18.8	0.0	9.0	9.2	
助教	54	72.2	25.9	1.9	39	23.1	30.8	23.1	12.8	10.3	0.0	6.7	8.6	
医員以下	79	39.2	57.0	3.8	31	25.8	9.7	32.3	19.4	12.9	0.0	7.6	6.2	
<医師経験年数>														
3年未満	17	11.8	82.4	5.9	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	5.5	1.5	
3～5年未満	16	12.5	81.3	6.3	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	6.0	4.0	
5～10年未満	32	65.6	31.3	3.1	21	19.0	19.0	19.0	23.8	19.0	0.0	8.7	6.9	
10年以上	95	74.7	23.2	2.1	71	21.1	23.9	28.2	14.1	12.7	0.0	7.3	7.4	
<出身大学>														
A大学出身	98	61.2	34.7	4.1	60	20.0	21.7	25.0	20.0	13.3	0.0	7.9	8.4	
それ以外	64	59.4	39.1	1.6	38	26.3	21.1	26.3	10.5	15.8	0.0	7.8	8.2	

※「週あたりの自分の研究に費やす平均時間数」は研究時間が「ある」者を対象に集計。

## (2)大学講義

大学の講義の時間が「ある」としているのは42.4%。これを勤務形態別にみると、研究時間がある割合は「常勤」が63.7%、「非常勤・研修医」が10.8%となっている。身分別にみると、「講師以上」96.9%、「助教」63.0%、「医員以下」8.9%となっている。医師経験年数別にみると、「ある」とする割合は「10年以上」で63.2%となっている。

大学講義が「ある」とする者を対象に1週間あたりの平均的な時間数をみると、平均値は1.6時間である。これを勤務形態別にみると、「常勤」は1.7時間、「非常勤・研修医」は0.7時間となっており、「常勤」のほうが長い。身分別にみると、「講師以上」1.9時間、「助教」1.6時間、「医員以下」0.6時間となっている（図表1-3-2）。

図表 1-3-2：大学の講義の時間の有無、及び週あたりの大学の講義平均時間数

(単位＝%) [医師調査]

	n	大学の講義の時間の有無			n	週あたりの大学の講義平均時間数					
		ある	ない	不明		2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	不明	平均(時間)	標本標準偏差
計	170	42.4	53.5	4.1	72	54.2	26.4	13.9	5.6	1.6	1.2
<診療科>											
内科	45	46.7	53.3	0.0	21	42.9	14.3	33.3	9.5	2.0	1.2
外科	35	31.4	57.1	11.4	11	81.8	9.1	9.1	0.0	1.5	1.5
小児科・新生児科、産科婦人科	24	45.8	45.8	8.3	11	45.5	45.5	0.0	9.1	1.2	0.9
救急科、救命救急、集中治療部	5	60.0	40.0	0.0	3	0.0	100.0	0.0	0.0	2.0	0.0
放射線科	10	40.0	60.0	0.0	4	50.0	25.0	25.0	0.0	1.5	1.7
麻酔科蘇生科	18	27.8	72.2	0.0	5	80.0	20.0	0.0	0.0	1.2	0.4
その他(皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科)	33	51.5	45.5	3.0	17	58.8	29.4	5.9	5.9	1.5	1.1
<勤務形態>											
常勤	102	63.7	34.3	2.0	65	49.2	29.2	15.4	6.2	1.7	1.2
非常勤・研修医	65	10.8	83.1	6.2	7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.5
<身分>											
講師以上	32	96.9	3.1	0.0	31	48.4	29.0	16.1	6.5	1.9	1.3
助教	54	63.0	37.0	0.0	34	50.0	29.4	14.7	5.9	1.6	1.0
医員以下	79	8.9	83.5	7.6	7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.5
<医師経験年数>											
3年未満	17	11.8	82.4	5.9	2	100.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
3～5年未満	16	0.0	93.8	6.3	-	-	-	-	-	-	-
5～10年未満	32	15.6	81.3	3.1	5	80.0	0.0	20.0	0.0	1.2	1.0
10年以上	95	63.2	32.6	4.2	60	48.3	30.0	15.0	6.7	1.0	0.6

※「週あたりの大学の講義平均時間数」は講義が「ある」者を対象に集計。

### (3)学会・研究会・院外研修会等の参加状況、論文発表、投稿論文

過去1年間の学会・研究会・院外研修会等の参加状況は、参加が「ある」とする割合は95.3%であり、ほとんどの者が参加していることになる。これを医師経験年数別にみると、「3年未満」で「ない」の割合が17.6%と他の年数に比べて高くなっている。

参加が「ある」とする者を対象に参加回数をみたところ、その平均値は5.9回だった。身分別にみると、平均値は、「講師以上」8.4回、「助教」6.9回、「医員以下」4.2回となっている。医師経験年数別にみると、経験年数が長くなるほど、参加回数の平均値はおおむね高くなる傾向にある(図表1-3-3)。

調査では、過去3年間の「学会・研究会での論文発表」「学会等の学術雑誌への投稿論文提出」について尋ねている。それによれば、「学会・研究会での論文発表」が「ある」者が76.5%(論文発表の回数の平均値6.2回)、「学会等の学術雑誌への投稿論文提出」が「ある」者が60.6%となっている(投稿論文提出の回数の平均値4.2回)。これを身分別にみると、「学会・研究会での論文発表」、「学会等の学術雑誌への投稿論文提出」いずれも、身分が高まるほど「ある」とする割合が高まり、いずれの回数の平均値も高くなっている。医師経験年数でも同様の傾向を示している。また、学会等の参加回数別にみると、参加回数が高まるほどいずれも「ある」とする割合が高まり、回数の平均値も高くなる傾向にある(図表1-3-4)。



図表 1-3-3：過去1年間の学会・研究会・院外研修会等の参加有無、及び参加回数（単位＝％）〔医師調査〕

	n	過去1年間の学会・研究会・院外研修会等の参加有無			n	過去1年間の学会・研究会・院外研修会等の参加回数							
		ある	ない	不明		1～2回	3～5回未満	5～10回未満	10回以上	不明	5回以上計	平均(回)	標本標準偏差
計	170	95.3	3.5	1.2	162	17.3	25.9	31.5	24.1	1.2	55.6	5.9	4.3
<診療科>													
内科	45	97.8	0.0	2.2	44	15.9	25.0	18.2	38.6	2.3	56.8	7.0	5.6
外科	35	100.0	0.0	0.0	35	17.1	20.0	34.3	28.6	0.0	62.9	6.4	4.1
小児科・新生児科、産科婦人科	24	95.8	0.0	4.2	23	8.7	21.7	56.5	13.0	0.0	69.5	5.8	3.0
救急科、救命救急、集中治療部	5	100.0	0.0	0.0	5	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0	60.0	5.2	3.1
放射線科	10	90.0	10.0	0.0	9	11.1	22.2	33.3	33.3	0.0	66.6	6.9	4.0
麻酔科蘇生科	18	88.9	11.1	0.0	16	12.5	50.0	18.8	18.8	0.0	37.6	4.9	3.3
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	90.9	9.1	0.0	30	30.0	26.7	33.3	6.7	3.3	40.0	4.3	3.0
<身分>													
講師以上	32	96.9	0.0	3.1	31	0.0	19.4	32.3	48.4	0.0	80.7	8.4	4.0
助教	54	98.1	1.9	0.0	53	15.1	20.8	30.2	32.1	1.9	62.3	6.9	5.1
医員以下	79	94.9	5.1	0.0	75	26.7	32.0	32.0	8.0	1.3	40.0	4.2	2.9
<医師経験年数>													
3年未満	17	82.4	17.6	0.0	14	42.9	28.6	28.6	0.0	0.0	28.6	2.9	1.7
3～5年未満	16	100.0	0.0	0.0	16	6.3	37.5	37.5	12.5	6.3	50.0	5.5	3.2
5～10年未満	32	96.9	3.1	0.0	31	19.4	45.2	29.0	6.5	0.0	35.5	4.1	2.1
10年以上	95	95.8	2.1	2.1	91	14.3	17.6	31.9	35.2	1.1	67.1	7.1	4.8

※「過去1年間の学会・研究会・院外研修会等の参加回数」は参加経験「あり」を対象に集計。

図表 1-3-4：過去3年間の学会・研究会での論文発表及び、学会等の学術雑誌への投稿論文の提出の状況

（単位＝％）〔医師調査〕

	学会・研究会での論文発表							学会等の学術雑誌への投稿論文提出						
	論文発表の有無				論文発表の回数			投稿論文提出の有無				投稿論文提出の回数		
	n	ある	ない	無回答	n	平均(回)	標本標準偏差	n	ある	ない	無回答	n	平均(回)	標本標準偏差
計	170	76.5	22.4	1.2	130	6.2	6.1	170	60.6	38.2	1.2	103	4.2	6.8
<診療科>														
内科	45	75.6	22.2	2.2	34	6.7	6.7	45	60.0	37.8	2.2	27	4.7	6.5
外科	35	82.9	17.1	0.0	29	8.5	7.4	35	82.9	17.1	0.0	29	4.4	9.2
小児科・新生児科、産科婦人科	24	75.0	20.8	4.2	18	5.8	3.1	24	50.0	45.8	4.2	12	2.3	1.4
救急科、救命救急、集中治療部	5	100.0	0.0	0.0	5	10.8	9.9	5	60.0	40.0	0.0	3	7.7	3.3
放射線科	10	50.0	50.0	0.0	5	3.0	1.7	10	30.0	70.0	0.0	3	2.3	1.9
麻酔科蘇生科	18	66.7	33.3	0.0	12	4.3	5.0	18	44.4	55.6	0.0	8	3.1	4.5
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	81.8	18.2	0.0	27	3.8	3.0	33	63.6	36.4	0.0	21	4.4	6.7
<身分>														
講師以上	32	93.8	3.1	3.1	30	10.5	8.4	32	93.8	3.1	3.1	30	9.0	11.0
助教	54	88.9	11.1	0.0	48	6.0	5.5	54	72.2	27.8	0.0	39	2.9	2.7
医員以下	79	63.3	36.7	0.0	50	3.9	3.0	79	43.0	57.0	0.0	34	1.5	0.7
<医師経験年数>														
3年未満	17	47.1	52.9	0.0	8	2.1	1.9	17	5.9	94.1	0.0	1	1.0	0.0
3～5年未満	16	56.3	43.8	0.0	9	2.2	1.1	16	12.5	87.5	0.0	2	1.0	0.0
5～10年未満	32	75.0	25.0	0.0	24	3.9	2.6	32	56.3	43.8	0.0	18	1.4	0.6
10年以上	95	86.3	11.6	2.1	82	7.4	6.5	95	78.9	18.9	2.1	75	5.0	7.8
<学会等の参加回数>														
ない、1～2回	34	61.8	38.2	0.0	21	3.2	1.9	34	41.2	58.8	0.0	14	1.3	0.8
3～5回未満	42	71.4	28.6	0.0	30	4.5	3.5	42	54.8	45.2	0.0	23	2.8	3.8
5回以上	90	85.6	14.4	0.0	77	7.7	7.2	90	72.2	27.8	0.0	65	5.3	8.1

※論文発表、投稿論文提出の回数の平均値は、実施ありの者を対象に集計。

#### (4)研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の負担感

研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の負担感（以下「研究等の時間の負担感」と略す）をみると、「負担に感じる」（「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合

計)とする割合は15.3%となっており、「負担に感じない」(「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計)とする割合(33.6%)を下回っている。これを過去3年間の研究等スキルの向上に費やす時間の増減状況別にみると、「負担に感じない」とする割合は、「減少・変わらない」に比べ「増加」のほうが高くなっている。週あたり研究時間数別にみると、「負担に感じない」とする割合は「10時間以上」でもっとも高い。

過去1年間の学会等参加回数別にみると、「負担に感じない」とする割合は「5回以上」でもっとも高くなっている。過去3年間の学会等の論文発表別、及び学術雑誌への投稿論文提出別にみると、いずれも「ある」者のほうが「負担に感じない」とする割合が高くなっている。ただし、「負担に感じる」とする割合も「ない」者に比べ高くなっている(図表1-3-5)。

図表 1-3-5 : 研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の負担感(単位=%) [医師調査]

	研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の負担感							負担感計	
	n	非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる計	負担に感じない計
計	170	2.9	12.4	48.8	26.5	7.1	2.4	15.3	33.6
<過去3年間の研究等スキルの向上に費やす時間の増減状況>									
増加	49	4.1	14.3	32.7	40.8	6.1	2.0	18.4	46.9
減少・変わらない	113	2.7	12.4	55.8	21.2	8.0	0.0	15.1	29.2
<週あたり研究時間数>									
ない	61	1.6	4.9	68.9	11.5	9.8	3.3	6.5	21.3
5時間未満	46	2.2	19.6	37.0	34.8	6.5	0.0	21.8	41.3
5～10時間未満	27	3.7	18.5	44.4	29.6	3.7	0.0	22.2	33.3
10時間以上	31	6.5	9.7	29.0	45.2	6.5	3.2	16.2	51.7
<過去1年間の学会等参加回数>									
ない、1～2回	34	5.9	11.8	55.9	17.6	5.9	2.9	17.7	23.5
3～5回未満	42	2.4	7.1	64.3	14.3	7.1	4.8	9.5	21.4
5回以上	90	2.2	15.6	37.8	35.6	7.8	1.1	17.8	43.4
<過去3年間の学会等での論文発表>									
ない	38	2.6	5.3	63.2	10.5	13.2	5.3	7.9	23.7
ある	130	3.1	14.6	44.6	30.8	5.4	1.5	17.7	36.2
<過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出>									
ない	65	3.1	6.2	61.5	16.9	7.7	4.6	9.3	24.6
ある	103	2.9	16.5	40.8	32.0	6.8	1.0	19.4	38.8

※「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。「負担に感じない」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。

#### (5) 研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の満足度

研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の満足度(以下、「研究等の時間の満足度」と略す)は、「満足である」(「満足している」「まあ満足」の合計)とする割合は34.1%、「不満である」(「不満」「少し不満」の合計)とする割合は25.9%となっており、「満足である」が「不満である」を上回っている。

身分別にみると、「満足である」とする割合は「講師以上」でもっとも高い。医師経験年数別にみると、「満足である」とする割合は年数が長くなるほど高くなり、「5～10年未満」でピークとなる。過去3年間の研究等スキルの向上に費やす時間の増減状況別にみると、「満

足である」とする割合は、「減少・変わらない」に比べ「増加」のほう高い。週あたり研究時間数別にみると、おおむね「満足である」とする割合は時間数が長くなるほど高くなる。過去1年間の学会等参加回数別にみると、「満足である」とする割合は回数が多くなるほど高くなる。過去3年間の学会等の論文発表別、及び学術雑誌への投稿論文提出別にみると、いずれも「ある」者のほうが「満足である」とする割合が高い。出身大学別にみると、「満足である」とする割合は「それ以外」出身者のほうが高くなっている（図表1-3-6）。

図表 1-3-6：研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の満足度（単位＝％）〔医師調査〕

	研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	170	5.3	28.8	38.2	14.7	11.2	1.8	34.1	25.9
<診療科>									
内科	45	2.2	37.8	28.9	17.8	13.3	0.0	40.0	31.1
外科	35	11.4	31.4	40.0	14.3	2.9	0.0	42.8	17.2
小児科・新生児科、産科婦人科	24	4.2	25.0	37.5	12.5	20.8	0.0	29.2	33.3
救急科、救命救急、集中治療部	5	0.0	20.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0	40.0
放射線科	10	0.0	10.0	30.0	40.0	10.0	10.0	10.0	50.0
麻酔科蘇生科	18	5.6	33.3	50.0	11.1	0.0	0.0	38.9	11.1
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	6.1	21.2	45.5	9.1	12.1	6.1	27.3	21.2
<身分>									
講師以上	32	3.1	50.0	21.9	12.5	12.5	0.0	53.1	25.0
助教	54	5.6	16.7	51.9	14.8	11.1	0.0	22.3	25.9
医員以下	79	6.3	27.8	35.4	16.5	11.4	2.5	34.1	27.9
<医師経験年数>									
3年未満	17	17.6	11.8	35.3	17.6	5.9	11.8	29.4	23.5
3～5年未満	16	0.0	31.3	31.3	18.8	18.8	0.0	31.3	37.6
5～10年未満	32	9.4	34.4	31.3	18.8	3.1	3.1	43.8	21.9
10年以上	95	2.1	28.4	44.2	12.6	12.6	0.0	30.5	25.2
<過去3年間の研究等スキルの向上に費やす時間の増減状況>									
増加	49	6.1	53.1	28.6	10.2	2.0	0.0	59.2	12.2
減少・変わらない	113	5.3	20.4	42.5	16.8	14.2	0.9	25.7	31.0
<週あたり研究時間数>									
ない	61	6.6	18.0	42.6	19.7	8.2	4.9	24.6	27.9
5時間未満	46	2.2	19.6	50.0	15.2	13.0	0.0	21.8	28.2
5～10時間未満	27	3.7	33.3	33.3	14.8	14.8	0.0	37.0	29.6
10時間以上	31	9.7	58.1	16.1	6.5	9.7	0.0	67.8	16.2
<過去1年間の学会等参加回数>									
ない、1～2回	34	5.9	17.6	44.1	11.8	14.7	5.9	23.5	26.5
3～5回未満	42	11.9	23.8	33.3	16.7	11.9	2.4	35.7	28.6
5回以上	90	2.2	34.4	38.9	15.6	8.9	0.0	36.6	24.5
<過去3年間の学会等での論文発表>									
ない	38	2.6	18.4	44.7	15.8	10.5	7.9	21.0	26.3
ある	130	6.2	30.8	36.9	14.6	11.5	0.0	37.0	26.1
<過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出>									
ない	65	6.2	23.1	40.0	13.8	12.3	4.6	29.3	26.1
ある	103	4.9	31.1	37.9	15.5	10.7	0.0	36.0	26.2
<出身大学>									
A大学出身	98	3.1	26.5	39.8	18.4	9.2	3.1	29.6	27.6
それ以外	64	6.3	34.4	35.9	9.4	14.1	0.0	40.7	23.5

### 3-2. 若手指導関係

#### (1)若手指導時間と増減状況

調査では、1日あたりの若手（新人）の指導時間の平均（以下、「若手指導時間」と略す）を年度当初、過去1ヵ月（調査時点＝2012年2月）の2時点で尋ねている。それによれば、年度当初の平均値は91.6分、過去1ヵ月の平均値は81.7分であり、10分ほど平均値は低下している（図表1-3-7）。

過去1ヵ月の若手指導時間について、診療科別にみると、その平均値は「麻酔科蘇生科」が169.4分でもっとも高く、次いで「救急科、救命救急、集中治療部」120.0分などとなっている（図表1-3-8）。

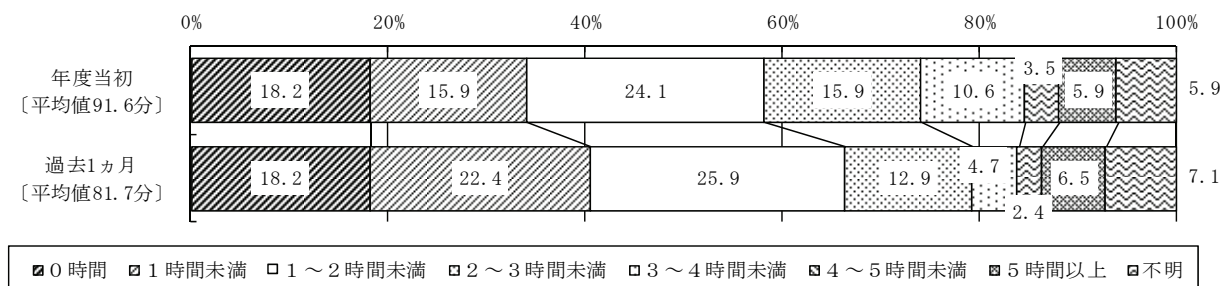
若手指導時間（年度当初、過去1ヵ月）を医師経験年数別みると、経験年数が長くなるほど、いずれも指導時間の平均値は長くなっている。勤続年数別にみても同様に、勤続年数が長くなるほど、いずれの指導時間の平均値も長い。身分別にみると、身分が高くなるほど、いずれの指導時間の平均値も長い。

過去3年間の医師の増減状況別にみると、医師数が「増加」している者は、その平均値は、年度当初が121.1分であり、過去1ヵ月が102.0分であり、過去1ヵ月のほうが約20分低下しているものの、過去1ヵ月の「減少・変わらない」とする者は74.0分であり、医師数が「増加」したとする者は、そうでない者に比べ若年指導時間が長いようである（図表1-3-9）。

過去1ヵ月の若手指導時間を年度当初の若手指導時間別にみると、過去1ヵ月の指導時間が「1時間未満」の割合（「0時間」「1時間未満」の合計）は、年度当初の指導時間が短い者ほど高まる傾向にある。また、過去1ヵ月の指導時間の平均値をみると、年度当初の指導時間が長い者ほど、過去1ヵ月の指導時間が長い傾向にある（図表1-3-10）。

次に、過去3年間の若手（新人）に対する教育指導時間の増減状況をみると、「増加」（「大変増加した」「やや増加した」の合計）の割合が40.5%となっており、「減少」（「大変減少した」「やや減少した」の合計）の割合（5.9%）を大きく上回っている。これを過去1ヵ月の若年指導時間別にみると、指導時間が長い者ほど「増加」（「大変増加した」「やや増加した」の合計）の割合が高い（図表1-3-11）。

図表 1-3-7：1日あたりの若手指導時間の平均（n=170、単位＝%）〔医師調査〕



図表 1-3-8 : 1日あたりの若手指導時間の平均 (単位=%) [医師調査]

	n	0時間	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5時間以上	不明	平均(分)	標本標準偏差	時間換算(/60)
年度当初・計	170	18.2	15.9	24.1	15.9	10.6	3.5	5.9	5.9	91.6	95.4	1.5
<診療科>												
内科	45	17.8	11.1	33.3	22.2	8.9	4.4	2.2	0.0	84.4	70.9	1.4
外科	35	20.0	11.4	22.9	25.7	5.7	0.0	2.9	11.4	75.5	67.2	1.3
小児科・新生児科、産科婦人科	24	16.7	20.8	12.5	12.5	12.5	8.3	4.2	12.5	92.6	92.2	1.5
救急科、救命救急、集中治療部	5	0.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	135.0	49.7	2.3
放射線科	10	10.0	40.0	40.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	52.0	47.5	0.9
麻酔科蘇生科	18	27.8	5.6	5.6	11.1	11.1	11.1	27.8	0.0	161.7	140.1	2.7
その他(皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科)	33	18.2	24.2	27.3	6.1	12.1	0.0	6.1	6.1	83.9	114.0	1.4
過去1ヵ月・計	170	18.2	22.4	25.9	12.9	4.7	2.4	6.5	7.1	81.7	101.6	1.4
<診療科>												
内科	45	20.0	22.2	28.9	17.8	6.7	2.2	2.2	0.0	69.5	67.1	1.2
外科	35	14.3	14.3	28.6	20.0	2.9	0.0	2.9	17.1	71.4	63.2	1.2
小児科・新生児科、産科婦人科	24	33.3	16.7	16.7	4.2	4.2	8.3	8.3	8.3	86.6	124.0	1.4
救急科、救命救急、集中治療部	5	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	120.0	42.4	2.0
放射線科	10	10.0	50.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.0	21.0	0.6
麻酔科蘇生科	18	16.7	16.7	11.1	11.1	5.6	0.0	33.3	5.6	169.4	166.2	2.8
その他(皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科)	33	15.2	33.3	30.3	6.1	3.0	3.0	3.0	6.1	66.9	101.3	1.1

図表 1-3-9 : 1日あたりの若手指導時間の平均 (単位=%) [医師調査]

	年度当初			過去1ヵ月		
	n	平均(分)	標本標準偏差	n	平均(分)	標本標準偏差
計	160	91.6	95.4	158	81.7	101.6
<医師経験年数>						
3年未満	14	13.4	24.4	14	13.4	24.4
3～5年未満	15	64.7	70.3	15	50.0	60.4
5～10年未満	31	105.8	127.8	31	90.0	144.9
10年以上	91	104.3	86.8	89	96.4	94.1
<勤続年数>						
3年未満	56	69.6	92.3	56	61.8	104.0
3～5年未満	34	95.6	113.2	34	89.7	105.0
5年以上	66	106.4	85.0	64	96.2	96.5
<身分>						
講師以上	31	120.5	73.7	29	101.9	64.7
助教	52	102.3	88.1	53	95.7	100.7
医員以下	73	69.3	100.7	72	62.8	108.4
<過去3年間の医師の増減状況>						
増加	62	121.1	112.5	59	102.0	124.2
減少・変わらない	90	77.6	78.4	91	74.0	84.7

※n数は無回答を除き集計。

図表 1-3-10 : 年度当初の若手指導時間別にみた過去1ヵ月の若手指導時間の平均 (単位=%) [医師調査]

	n	過去1ヵ月の若手指導時間								1時間未満	平均値	
		0時間	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5時間以上	不明		平均(分)	標本標準偏差
過去1ヵ月の若手指導時間・計	170	18.2	22.4	25.9	12.9	4.7	2.4	6.5	7.1	40.6	81.7	101.6
<年度当初若手指導時間>												
0時間	31	77.4	6.5	9.7	3.2	0.0	0.0	3.2	0.0	83.9	21.3	58.6
0時間超2時間未満	68	5.9	50.0	42.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	55.9	39.2	21.6
2～4時間未満	45	6.7	4.4	22.2	42.2	17.8	2.2	0.0	4.4	11.1	107.9	56.0
4時間以上	16	0.0	0.0	12.5	6.3	0.0	18.8	56.3	6.3	0.0	292.0	140.9

図表 1-3-11：過去3年間の若手（新人）に対する教育指導時間の増減状況（単位＝％）〔医師調査〕

	n	大変増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	大変減少した	該当する者・該当する事項がない	不明	増加計	減少計
計	170	7.6	32.9	46.5	4.7	1.2	4.1	2.9	40.5	5.9
<過去1ヵ月の若年指導時間>										
0時間	31	0.0	19.4	48.4	3.2	3.2	12.9	12.9	19.4	6.4
0時間超1時間未満	38	7.9	26.3	50.0	10.5	2.6	2.6	0.0	34.2	13.1
1～2時間未満	44	2.3	38.6	50.0	4.5	0.0	2.3	2.3	40.9	4.5
2～4時間未満	30	10.0	50.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
4時間以上	15	33.3	33.3	26.7	6.7	0.0	0.0	0.0	66.6	6.7

※「増加」は「大変増加した」「やや増加した」の合計。「減少」は「大変減少した」「やや減少した」の合計。

## (2)若手（新人）に対する教育指導の負担感

若手（新人）に対する教育指導の負担感（以下「若手指導時間の負担感」と略す）をみると、「負担に感じる」（「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計）とする割合は21.1%となっており、「負担に感じない」（「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計）とする割合（34.1%）を下回っている。これを過去3年間の若手教育指導時間の増減状況別にみると、「負担に感じる」とする割合は、「減少・変わらない」に比べ「増加」のほうが高くなっている。年度当初の若手指導時間別、及び過去1ヵ月の若手指導時間別にみると、いずれも、指導時間が長くなるほど「負担に感じる」とする割合がおおむね高まる傾向にある（図表 1-3-12）。

図表 1-3-12：若手（新人）に対する教育指導の負担感（単位＝％）〔医師調査〕

	若手（新人）に対する教育指導の負担感							負担感計		
	n	非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる計	負担に感じない計	
計	170	2.9	18.2	41.8	28.2	5.9	2.9	21.1	34.1	
<過去3年間の若手教育指導時間の増減状況>										
増加	39	5.1	25.6	30.8	33.3	2.6	2.6	30.7	35.9	
減少・変わらない	112	2.7	17.9	44.6	28.6	5.4	0.9	20.6	34.0	
<年度当初の若手指導時間>										
0時間	31	0.0	6.5	41.9	16.1	22.6	12.9	6.5	38.7	
0時間超2時間未満	68	0.0	10.3	57.4	29.4	1.5	1.5	10.3	30.9	
2～4時間未満	45	4.4	31.1	28.9	35.6	0.0	0.0	35.5	35.6	
4時間以上	16	18.8	37.5	12.5	31.3	0.0	0.0	56.3	31.3	
<過去1ヵ月の若手指導時間>										
0時間	31	0.0	3.2	45.2	16.1	22.6	12.9	3.2	38.7	
0時間超1時間未満	38	0.0	7.9	52.6	39.5	0.0	0.0	7.9	39.5	
1～2時間未満	44	0.0	18.2	43.2	34.1	2.3	2.3	18.2	36.4	
2～4時間未満	30	6.7	43.3	30.0	20.0	0.0	0.0	50.0	20.0	
4時間以上	15	20.0	26.7	26.7	26.7	0.0	0.0	46.7	26.7	

※「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。「負担に感じない」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。

### 3-3. 多職種カンファレンス関係

#### (1)多職種カンファレンスの有無と回数

多職種カンファレンスが「ある」としているのは83.5%であり、8割とほとんどの医師が多職種カンファレンスに参加している。これを勤務形態別にみると、わずかではあるが「常勤」のほうが「ある」とする割合が高い。身分別にみると、「医員以下」で「ある」とする割合が低くなっている。主治医制の別にみると、「ある」とする割合は、「専任主治医制」のほうが「専任主治医制以外」よりも高い。性・子供の有無別にみると、「女性・子供あり」で「ある」とする割合がもっとも低くなっている。

多職種カンファレンスが「ある」とする者を対象に月あたり多職種カンファレンス回数をみると、平均値は5.6回である。これを勤務形態別にみると、「常勤」は6.0回、「非常勤・研修医」は4.9回となっている。身分別にみると、「助教」が7.4回でもっとも回数が多くなっている。主治医制の別にみると、「専任主治医制以外」が6.6回となっており、「専任主治医制」の4.8回を上回っている。年齢別にみると、「40代」が6.0回となっており、他の年齢層よりも高い。性・子供の有無別にみると、「女性・子供あり」で回数がもっとも低くなっている（図表1-3-13）。

図表 1-3-13：多職種カンファレンスの有無、及び月あたり回数（単位＝％）〔医師調査〕

	n	多職種カンファレンスの有無			n	月あたり多職種カンファレンス回数						平均 (回)	標本標準 偏差
		ある	ない	無回答		1回	2回	3～4 回	5～10 回未満	10回 以上	不明		
計	170	83.5	14.1	2.4	142	8.5	13.4	42.3	19.0	12.7	4.2	5.6	5.6
<診療科>													
内科	45	91.1	8.9	0.0	41	14.6	24.4	39.0	12.2	9.8	0.0	4.4	3.7
外科	35	77.1	17.1	5.7	27	7.4	14.8	40.7	25.9	7.4	3.7	4.9	3.7
小児科・新生児科、産科婦人科	24	91.7	0.0	8.3	22	13.6	4.5	36.4	13.6	22.7	9.1	6.9	6.8
救急科、救命救急、集中治療部	5	100.0	0.0	0.0	5	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0	20.0	4.5	1.8
放射線科	10	80.0	20.0	0.0	8	0.0	0.0	12.5	25.0	62.5	0.0	14.8	12.3
麻酔科蘇生科	18	72.2	27.8	0.0	13	0.0	15.4	23.1	30.8	15.4	15.4	5.9	4.9
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	78.8	21.2	0.0	26	3.8	3.8	76.9	15.4	0.0	0.0	4.3	1.5
<勤務形態>													
常勤	102	85.3	13.7	1.0	87	6.9	13.8	43.7	18.4	13.8	3.4	6.0	6.5
非常勤・研修医	65	81.5	15.4	3.1	53	11.3	13.2	37.7	20.8	11.3	5.7	4.9	3.7
<身分>													
講師以上	32	87.5	9.4	3.1	28	7.1	14.3	53.6	10.7	7.1	7.1	4.2	2.5
助教	54	87.0	13.0	0.0	47	4.3	10.6	44.7	19.1	19.1	2.1	7.4	8.2
医員以下	79	81.0	16.5	2.5	64	12.5	15.6	35.9	21.9	10.9	3.1	4.8	3.4
<主治医制の別>													
専任主治医制	87	88.5	10.3	1.1	77	6.5	13.0	50.6	19.5	7.8	2.6	4.8	3.4
専任主治医制以外	81	79.0	18.5	2.5	64	10.9	14.1	31.3	18.8	18.8	6.3	6.6	7.4
<年齢>													
30代以下	97	84.5	14.4	1.0	82	8.5	15.9	43.9	18.3	11.0	2.4	5.1	5.0
40代	54	81.5	13.0	5.6	44	9.1	9.1	38.6	25.0	13.6	4.5	6.0	5.5
50代以上	14	85.7	14.3	0.0	12	8.3	16.7	50.0	0.0	8.3	16.7	4.0	2.9
<性・子供の有無>													
男性・子供あり	84	86.9	9.5	3.6	73	9.6	11.0	38.4	17.8	19.2	4.1	6.5	7.1
男性・子供なし	38	78.9	21.1	0.0	30	10.0	13.3	50.0	20.0	6.7	0.0	4.6	3.6
女性・子供あり	18	55.6	38.9	5.6	10	10.0	30.0	30.0	10.0	0.0	20.0	3.4	2.1
女性・子供なし	26	100.0	0.0	0.0	26	3.8	15.4	50.0	19.2	7.7	3.8	4.7	2.4

※「月あたり多職種カンファレンス回数」は多職種カンファレンスが「ある」者を対象に集計。

## (2)多職種カンファレンスの実施時間帯

多職種カンファレンスの実施時間帯で多いのは、「所定勤務時間内」が41.5%、「所定勤務時間外」が54.2%となっており、「所定勤務時間外」が上回っている。これを診療科別にみると、「所定勤務時間外」は「放射線科」が75.0%と最も高く、次いで「小児科・新生児科、産科婦人科」、「外科」、「麻酔科蘇生科」などが高い（図表1-3-14）。

図表 1-3-14：多職種カンファレンスの実施時間帯（単位＝％）〔医師調査〕

	n	所定勤務 時間内	所定勤務 時間外	不明
計	142	41.5	54.2	4.2
＜診療科別＞				
内科	41	43.9	56.1	0.0
外科	27	29.6	63.0	7.4
小児科・新生児科、産科婦人科	22	36.4	63.6	0.0
救急科、救命救急、集中治療部	5	80.0	20.0	0.0
放射線科	8	12.5	75.0	12.5
麻酔科蘇生科	13	23.1	61.5	15.4
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	26	65.4	30.8	3.8

※多職種カンファレンスがある者を対象に集計。

## (3)カンファレンスの負担感及び、満足度

カンファレンスの負担感をみると、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計）とする割合は29.4%となっており、「負担に感じない」（「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計）とする割合が30.6%となっており、両者はほぼ拮抗している。これを過去3年間のカンファレンスの回数の増減状況別にみると、「負担を感じる」とする割合は、「減少・変わらない」に比べ「増加」のほうが高くなっている。月あたりの多職種カンファレンス回数別にみると、回数が多くなるほど「負担を感じる」とする割合は高い。多職種カンファレンスの実施時間帯別にみると、「所定勤務時間外」のほうが「所定勤務時間内」に比べ、「負担を感じる」とする割合が高い（図表1-3-15）。

多職種カンファレンスの満足度は、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が27.6%であり、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合（11.8%）を上回っている。過去3年間のカンファレンスの回数の増減状況別にみると、「満足である」とする割合は、「減少・変わらない」に比べ「増加」のほうが高い。月あたりの多職種カンファレンス回数別にみると、回数が多くなるほど「満足である」とする割合が高くなっており、「3～4回」がピークとなっている。多職種カンファレンスの実施時間帯別にみると、実施時間帯で満足度にほとんど差はない（図表1-3-16）。

次に、「研究等の時間の満足度」を月あたりの多職種カンファレンス回数別にみると、「満足である」とする割合は「2回」でもっとも高くなっている（図表1-3-17）。



図表 1-3-15 : カンファレンスの負担感 (単位=%) [医師調査]

	カンファレンスの負担感							負担感計	
	n	非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる計	負担に感じない計
計	170	4.7	24.7	39.4	25.3	5.3	0.6	29.4	30.6
<過去3年間のカンファレンスの回数の増減状況>									
増加	51	5.9	37.3	27.5	27.5	2.0	0.0	43.2	29.5
減少・変わらない	112	3.6	18.8	45.5	25.0	7.1	0.0	22.4	32.1
<月あたり多職種カンファレンス回数>									
1回	12	0.0	8.3	50.0	33.3	8.3	0.0	8.3	41.6
2回	19	5.3	21.1	47.4	26.3	0.0	0.0	26.3	26.3
3~4回	60	8.3	23.3	41.7	23.3	3.3	0.0	31.6	26.6
5回以上	45	2.2	33.3	33.3	26.7	4.4	0.0	35.5	31.1
<多職種カンファレンスの実施時間帯>									
所定勤務時間内	59	5.1	18.6	47.5	22.0	6.8	0.0	23.7	28.8
所定勤務時間外	77	5.2	28.6	31.2	32.5	2.6	0.0	33.8	35.1

※「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。「負担に感じない」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。

図表 1-3-16 : 多職種カンファレンスの満足度 (単位=%) [医師調査]

	多職種カンファレンスの満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	170	4.7	22.9	58.8	9.4	2.4	1.8	27.6	11.8
<過去3年間のカンファレンスの回数の増減状況>									
増加	51	5.9	25.5	56.9	7.8	3.9	0.0	31.4	11.7
減少・変わらない	112	4.5	23.2	60.7	9.8	0.9	0.9	27.7	10.7
<月あたり多職種カンファレンス回数>									
1回	12	0.0	16.7	66.7	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7
2回	19	5.3	26.3	63.2	5.3	0.0	0.0	31.6	5.3
3~4回	60	6.7	31.7	55.0	5.0	1.7	0.0	38.4	6.7
5回以上	45	4.4	20.0	57.8	15.6	2.2	0.0	24.4	17.8
<多職種カンファレンスの実施時間帯>									
所定勤務時間内	59	6.8	23.7	57.6	11.9	0.0	0.0	30.5	11.9
所定勤務時間外	77	3.9	27.3	57.1	7.8	3.9	0.0	31.2	11.7

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

図表 1-3-17 : 研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の満足感 (単位=%) [医師調査]

	研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	170	5.3	28.8	38.2	14.7	11.2	1.8	34.1	25.9
<月あたり多職種カンファレンス回数>									
なし	24	8.3	8.3	45.8	16.7	8.3	12.5	16.6	25.0
1回	12	0.0	25.0	33.3	16.7	25.0	0.0	25.0	41.7
2回	19	5.3	42.1	21.1	21.1	10.5	0.0	47.4	31.6
3~4回	60	3.3	35.0	41.7	10.0	10.0	0.0	38.3	20.0
5回以上	45	6.7	28.9	37.8	17.8	8.9	0.0	35.6	26.7

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

### 3-4. 日直及び宿直

#### (1)日直及び宿直の状況

日直、宿直それぞれの有無を尋ねたところ、日直が「ある」とする割合は66.5%、宿直が「ある」とする割合は73.5%となっている（図表 1-3-18）。

これを性別にみると、いずれも、男性のほうが「ある」とする割合が高い（以下、日直について図表 1-3-19、宿直について図表 1-3-20 参照）。女性は日直、宿直いずれも、「ない」とする割合は日直52.3%、宿直52.3%となっている。

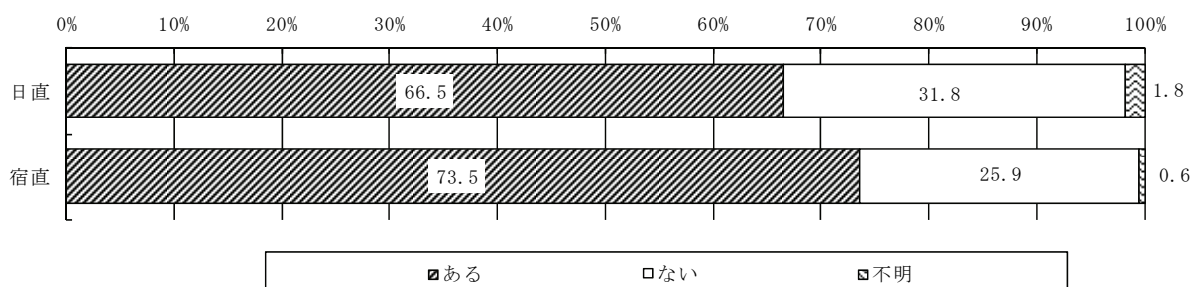
性・子供の有無別にみると、宿直の場合、男性では、子供の有無にかかわらず宿直は7割が「ある」としており（「男性・子供あり」72.6%、「男性・子供なし」73.7%）、日直は8割が「ある」としている（「男性・子供あり」82.1%、「男性・子供なし」81.6%）。その一方で、女性は宿直、日直いずれも、「女性・子供なし」で65.4%が「ある」としているが、「女性・子供あり」で22.2%が「ある」としている。女性の場合、子供がいない者の6割が日直・宿直を実施しているが、子供がいる場合は2割程度となっている。

年齢別にみると、いずれも「ある」とする割合は、「40代」がもっとも高く、次いで「30代以下」となっており、「50代以上」でもっとも低くなっている。

日直が「ある」とする者について、1ヵ月間の平均的な回数を尋ねたところ、日直回数の平均は1.8回。その分布は、「1回」が55.8%ともっとも割合が高く、次いで、「2回」が23.9%などとなっている。一方、宿直が「ある」とする者について、1ヵ月間の平均的な回数を尋ねたところ、宿直回数の平均は2.6回。その分布は、「3～4回」が30.4%ともっとも割合が高く、次いで「1回」が29.6%、「2回」が26.4%などとなっている。

回数の平均値を性別にみると、日直は男性1.7回、女性1.8回で両者にほとんど差はない。宿直回数はわずかながら女性のほうが平均値は高い。宿直回数を性・子供の有無別にみると、「女性・子供なし」が3.5回と、わずかながら他よりも高い。日直、宿直の回数それぞれについて、年齢別にみると、その平均値は年齢が低くなるほど高まる。

図表 1-3-18：月あたりの日直・宿直の有無(n=170)〔医師調査〕



図表 1-3-19：日直の有無、及び月あたり回数（単位＝％）〔医師調査〕

	日直の有無				月あたり日直回数								平均 (回)	標本標 準偏差
	n	ある	ない	不明	n	0回	1回	2回	3～4 回	5～8 回	不明			
計	170	66.5	31.8	1.8	113	2.7	55.8	23.9	12.4	4.4	0.9	1.8	1.3	
<診療科>														
内科	45	66.7	33.3	0.0	30	0.0	73.3	13.3	10.0	3.3	0.0	1.5	1.1	
外科	35	68.6	28.6	2.9	24	0.0	66.7	20.8	12.5	0.0	0.0	1.6	1.0	
小児科・新生児科、産科婦人科	24	79.2	20.8	0.0	19	0.0	42.1	42.1	10.5	0.0	5.3	1.7	0.7	
救急科、救命救急、集中治療部	5	80.0	20.0	0.0	4	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	4.3	2.5	
放射線科	10	70.0	20.0	10.0	7	14.3	71.4	14.3	0.0	0.0	0.0	1.0	0.5	
麻酔科蘇生科	18	72.2	22.2	5.6	13	15.4	38.5	30.8	0.0	15.4	0.0	1.8	1.5	
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	48.5	51.5	0.0	16	0.0	37.5	31.3	25.0	6.3	0.0	2.3	1.4	
<性別>														
男性	123	73.2	24.4	2.4	101	2.2	57.8	24.4	10.0	4.4	1.1	1.7	1.3	
女性	44	47.7	52.3	0.0	21	4.8	47.6	23.8	23.8	0.0	0.0	1.8	1.1	
<性・子供の有無>														
男性・子供あり	84	72.6	25.0	2.4	61	0.0	62.3	23.0	9.8	3.3	1.6	1.7	1.1	
男性・子供なし	38	73.7	23.7	2.6	28	7.1	50.0	28.6	7.1	7.1	0.0	1.8	1.6	
女性・子供あり	18	22.2	77.8	0.0	4	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.8	
女性・子供なし	26	65.4	34.6	0.0	17	0.0	52.9	17.6	29.4	0.0	0.0	1.9	1.2	
<年齢>														
30代以下	97	67.0	30.9	2.1	65	1.5	53.8	20.0	18.5	6.2	0.0	2.0	1.5	
40代	54	77.8	22.2	0.0	42	2.4	61.9	28.6	4.8	0.0	2.4	1.4	0.7	
50代以上	14	14.3	78.6	7.1	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	

※月あたり日直回数は日直がある者を対象に集計。

図表 1-3-20：宿直の有無、及び月あたり回数（単位＝％）〔医師調査〕

	宿直の有無				月あたり宿直回数								平均 (回)	標本標 準偏差
	n	ある	ない	不明	n	0回	1回	2回	3～4 回	5～8 回	不明			
計	170	73.5	25.9	0.6	125	0.8	29.6	26.4	30.4	12.8	0.0	2.6	1.7	
<診療科>														
内科	45	73.3	26.7	0.0	33	0.0	36.4	33.3	24.2	6.1	0.0	2.2	1.5	
外科	35	82.9	17.1	0.0	29	0.0	44.8	20.7	31.0	3.4	0.0	2.2	1.4	
小児科・新生児科、産科婦人科	24	83.3	16.7	0.0	20	0.0	25.0	30.0	15.0	30.0	0.0	3.1	2.1	
救急科、救命救急、集中治療部	5	80.0	20.0	0.0	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	4.8	1.9	
放射線科	10	70.0	20.0	10.0	7	0.0	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	1.3	0.5	
麻酔科蘇生科	18	83.3	16.7	0.0	15	6.7	6.7	13.3	46.7	26.7	0.0	3.3	1.5	
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	51.5	48.5	0.0	17	0.0	5.9	35.3	47.1	11.8	0.0	3.1	1.4	
<性別>														
男性	123	82.1	17.1	0.8	101	0.0	33.7	25.7	28.7	11.9	0.0	2.5	1.6	
女性	44	47.7	52.3	0.0	21	4.8	14.3	23.8	42.9	14.3	0.0	3.2	2.1	
<性・子供の有無>														
男性・子供あり	84	82.1	17.9	0.0	69	0.0	37.7	20.3	29.0	13.0	0.0	2.5	1.6	
男性・子供なし	38	81.6	15.8	2.6	31	0.0	25.8	38.7	25.8	9.7	0.0	2.5	1.5	
女性・子供あり	18	22.2	77.8	0.0	4	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	2.3	1.8	
女性・子供なし	26	65.4	34.6	0.0	17	0.0	11.8	29.4	41.2	17.6	0.0	3.5	2.1	
<年齢>														
30代以下	97	76.3	22.7	1.0	74	0.0	23.0	29.7	35.1	12.2	0.0	2.8	1.7	
40代	54	79.6	20.4	0.0	43	0.0	44.2	20.9	25.6	9.3	0.0	2.2	1.5	
50代以上	14	21.4	78.6	0.0	3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	1.7	1.7	

※月あたり宿直回数は宿直がある者を対象に集計。

(2)宿直 1 回あたりの平均睡眠（仮眠）時間と平均患者数

宿直がある者について、宿直 1 回あたりの平均睡眠（仮眠）時間をみると、「5～6 時間未満」が 36.0%ともっとも割合が高く、次いで、「4～5 時間未満」（28.8%）、「3～4 時間未満」（13.6%）などとなっている（図表 1-3-21）。

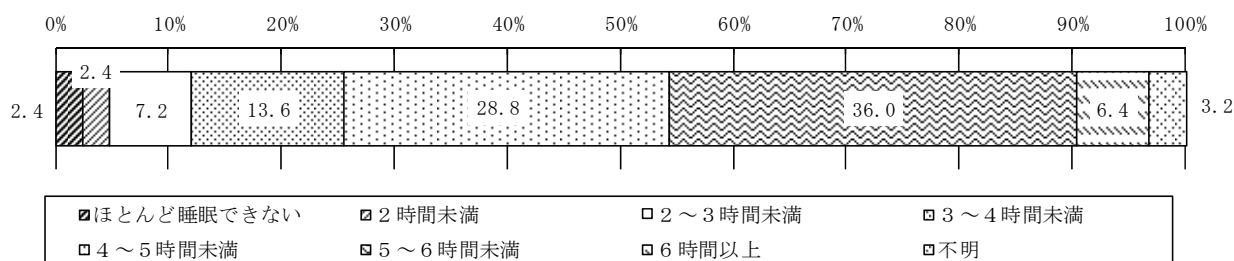
次に、宿直 1 回あたりに診療した（救急患者を含む）平均患者数は、「1～4 人」が 68.0%ともっとも割合が高く、次いで、「5～9 人」（16.8%）、「ほとんどいない」（11.2%）などとなっている。診療科別にみると、「5 人以上」の割合は、「救急科、救命救急、集中治療部」が 100.0%ともっとも高く、次いで「放射線科」「外科」などとなっている（図表 1-3-22）。これを宿直 1 回あたり平均睡眠時間別にみると、「4 時間以上」とする者よりも、「4 時間未満」とする者のほうが診療した患者人数が増える傾向にある（図表 1-3-23）。

過去 1 ヶ月間の宿直の翌日の勤務状況を尋ねたところ、「通常どおり勤務する」が 92.0%となっており、ほとんどが宿直翌日は通常勤務である（図表 1-3-24）。

調査では、過去 1 ヶ月間の宿直翌日の在院時間について、(a)宿直から翌日の勤務時間を加えた平均在院時間（宿直直前に連続して通常勤務をしている場合を加算）、及び(b)もっとも長い場合の在院時間（最長在院時間）の 2 種類で尋ねている。それによれば、平均在院時間の平均値は 35.2 時間（最大値 48 時間、最小値 16 時間）であり、最長在院時間の平均値は 39.9 時間（最大値 76 時間、最小値 16 時間）である。分布をみると、平均在院時間では、「35～40 時間未満」の割合が 52.5%でもっとも高く、次いで「30～35 時間未満」が 21.2%などとなっている。最長在院時間では、「40～48 時間未満」の割合が 39.8%でもっとも高く、次いで「35～40 時間未満」が 28.8%などとなっている（図表 1-3-25）。

診療科別にみると、平均在院時間の平均値はいずれの診療科も 35 時間前後である。最長在院時間の平均値は、「救急科、救命救急、集中治療部」が 46.8 時間でもっとも高く、次いで「麻酔科蘇生科」42.9 時間、「その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）」42.3 時間などとなっている（図表 1-3-26）。

図表 1-3-21：宿直（1 回あたり）の際の平均睡眠（仮眠）時間（n=125）〔医師調査〕

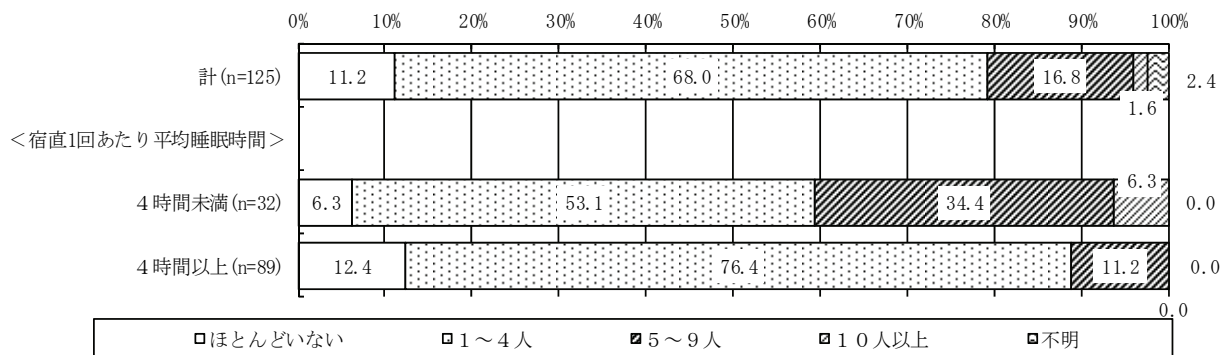


図表 1-3-22：直近1ヵ月間の宿直1回あたりに診療した患者数（単位＝％）〔医師調査〕

	n	ほとんどいない	1～4人	5～9人	10人以上	不明	5人以上計
計	125	11.2	68.0	16.8	1.6	2.4	18.4
＜診療科＞							
内科	33	6.1	84.8	6.1	0.0	3.0	6.1
外科	29	27.6	48.3	20.7	3.4	0.0	24.1
小児科・新生児科、産科婦人科	20	5.0	75.0	20.0	0.0	0.0	20.0
救急科、救命救急、集中治療部	4	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
放射線科	7	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	42.9
麻酔科蘇生科	15	6.7	86.7	0.0	0.0	6.7	0.0
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	17	5.9	76.5	17.6	0.0	0.0	17.6

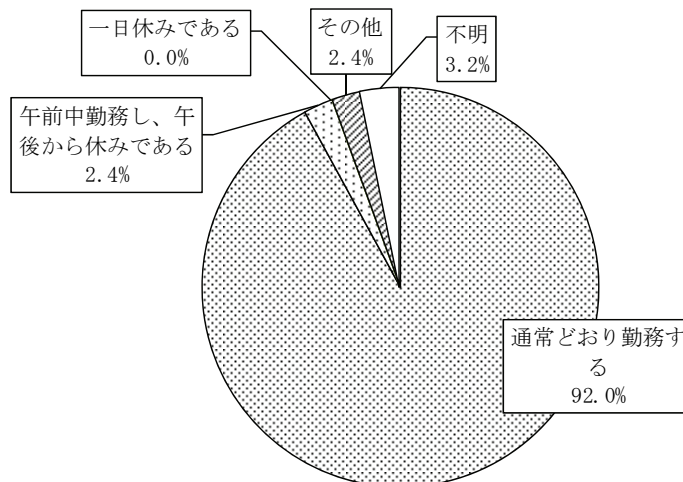
※宿直がある者を対象に集計。

図表 1-3-23：宿直1回あたりの診療した平均患者数〔医師調査〕



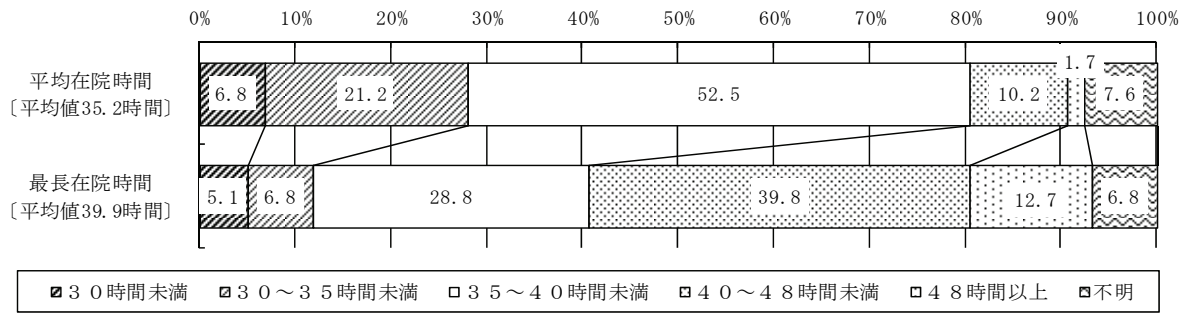
※宿直がある者を対象に集計。

図表 1-3-24：宿直翌日の勤務体制(n=125)〔医師調査〕



※宿直がある者を対象に集計。

図表 1-3-25：宿直 1 回あたりの平均在院時間及び最長在院時間 [n=118] [医師調査]



※宿直翌日が「通常どおり勤務する」「午前中勤務し、午後から休みである者」を対象に集計。

図表 1-3-26：宿直 1 回あたりの平均在院時間及び最長在院時間 (単位=時間) [医師調査]

	平均在院時間					最長在院時間				
	n	平均	標本標準偏差	最大値	最小値	n	平均	標本標準偏差	最大値	最小値
計	109	35.2	4.7	48	16	110	39.9	8.0	76	16
<診療科別>										
内科	31	35.1	4.6	40	16	31	39.1	6.9	62	16
外科	25	36.0	4.0	48	26	26	38.7	5.1	48	24
小児科・新生児科、産科婦人科	17	35.6	3.7	40	24	19	39.3	4.6	50	27
救急科、救命救急、集中治療部	4	34.0	2.3	36	30	4	46.8	14.6	72	38
放射線科	6	32.2	8.1	38	18	6	36.3	6.9	42	24
麻酔科蘇生科	10	35.5	4.9	47	30	9	42.9	9.5	60	30
その他(皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科)	16	35.2	5.1	48	24	15	42.3	11.7	76	30

※宿直翌日が「通常どおり勤務する」「午前中勤務し、午後から休みである者」を対象に集計。

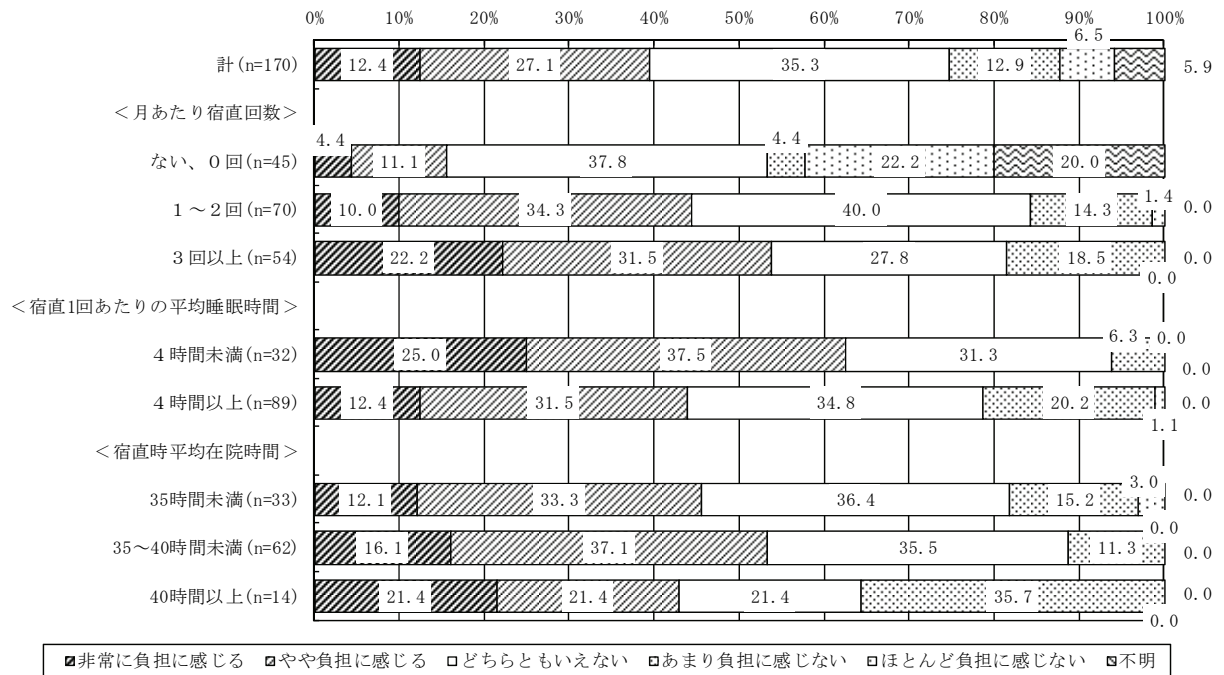
### (3)宿日直の負担感と満足度

「宿日直」の負担感をみると、「負担を感じる」(「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計)とする割合は 39.5%となっている。これを月あたり宿直回数別にみると回数が増加するほど「負担を感じる」割合は高まる。宿直 1 回あたりの平均睡眠時間別にみると、「4 時間未満」で「負担を感じる」割合は、62.5%ともっとも高くなっている。宿直時の平均在院時間別にみると、在院時間が「35~40 時間未満」の者で「負担を感じる」とする割合が 53.2%ともっとも高くなっている(図表 1-3-27)。

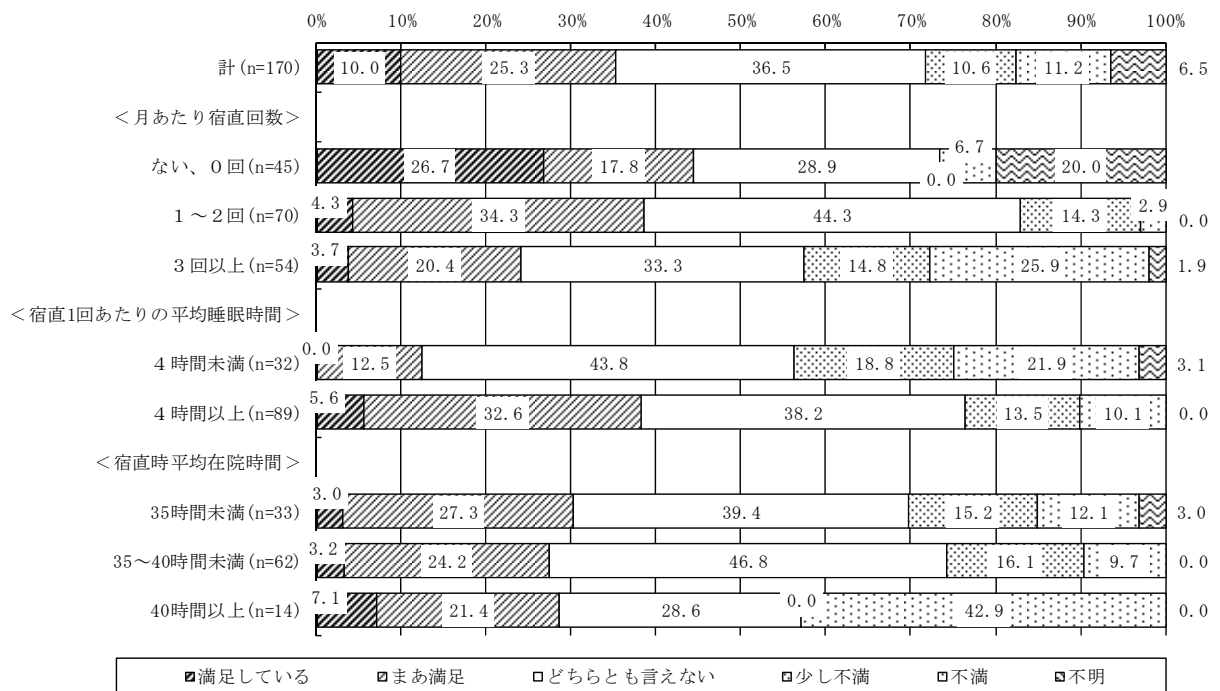
当直の日程割当の満足度は、「満足である」(「満足している」「まあ満足」の合計)とする割合が 35.3%であり、「不満である」(「不満」「少し不満」の合計)とする割合(21.8%)を上回っている。

当直の日程割当の満足度を月あたり宿直回数別にみると、回数が増加するほど「不満である」割合は高まる。宿直 1 回あたりの平均睡眠時間別にみると、「4 時間未満」で「不満である」割合は 40.7%と高くなっている。宿直時の平均在院時間別にみると、在院時間が「40 時間以上」の者で「不満である」とする割合が 42.9%ともっとも高くなっている(図表 1-3-28)。

図表 1-3-27：宿日直の負担感〔医師調査〕



図表 1-3-28：当直の日程割当の満足度〔医師調査〕



### 3-5. オンコールの状態と回数

過去 1 カ月間でのオンコール出勤した回数について尋ねたところ、「そもそもオンコールはない」が 14.7%となっており、82.9%がオンコールのある働き方をしている。具体的な回数をみると、「0 回」が 42.9%と最も割合が高く、次いで、「1～3 回」が 34.1% 「4～6 回」が 3.5%などとなっている。「オンコール 1 回以上」（「1～3 回」「4～6 回」「7～9 回」「10

回以上」の合計)は40.0%となっている。逆に、「過去1ヵ月でオンコールがなかった者」(「そもそもオンコールはない」と過去1ヵ月のオンコール出勤が「0回」の合計。以下、「オンコールがなかった者」と略す)は57.6%である。すなわち、オンコールのある状態にある者は8割程度いるが、実際に過去1ヵ月でオンコールがあった者は4割程度(すなわち、過去1ヵ月でオンコールがなかった者は6割弱)である。

これを診療科別にみると、「オンコール1回以上」の割合が高いのは、「救急科、救命救急、集中治療部」「外科」「放射線科」などとなっている。1日あたり平均受け持ち入院患者数別にみると、担当する入院患者数が増えるほどおおむね「オンコール1回以上」の割合が高くなっており、「10人以上」で65.5%、「5~10人未満」で51.3%などとなっている。

勤務形態別にみると、「常勤」の90.2%がオンコールのある働き方であり、「非常勤・研修医」は70.8%となっている。「オンコール1回以上」の割合は「常勤」46.1%で、「非常勤・研修医」(32.3%)よりも高い。主治医制の別にみると、いずれも、「オンコールのある働き方」は8割程度いるが、「オンコール1回以上」の割合は、「専任主治医制」が42.5%となっており、「専任主治医制以外」(38.2%)よりもわずかに高い。

「オンコールのある働き方」を性別にみると、「男性」87.8%、「女性」70.5%となっており、男女ともに7~8割がオンコールのある状態といえる。しかし、「オンコールがなかった者」を性別にみると、「男性」50.4%、「女性」79.6%となっており、女性のほうがオンコールがなかった割合は高い。性・子供の有無別にみると、オンコールがなかった割合は「女性・子供あり」で94.5%ともっとも高くなっており、次いで、「女性・子供なし」で69.2%などとなっている。年齢別にみると、「オンコールのある働き方」は「40代」でもっとも高い。「オンコール1回以上」の割合をみると、「40代」44.4%、「30代以下」42.3%といずれの年齢層も4割台となっている。「オンコールがなかった者」をみると、「50代以上」で85.7%ともっとも割合が高い。医師経験年数別にみると、経験年数が長くなるほど「オンコールのある働き方」である割合は高まり、「オンコール1回以上」の割合でみても、経験年数が長くなるほどその割合は高まる傾向にある(図表1-3-29)。総じて言えば、8割がオンコール出勤のある状態であり、「救急科、救命救急、集中治療部」「外科」「放射線科」などではオンコール出勤をしている割合も高い。常勤や専任主治医制で実際にオンコール出勤をしている割合が高い。過去1ヵ月でみると、年齢が50代以上や子供のいる女性でオンコールがなかった割合が高くなっており、職場でオンコール出勤の負荷軽減面で配慮している現状がうかがえる。

次に、オンコール1回あたりの平均勤務時間は、「3時間」が29.4%ともっとも割合が高く、次いで、「2時間」(19.1%)、「1時間」(16.2%)、「4時間」(16.2%)などとなっている。

「3時間以内」(「1時間」「2時間」「3時間」の合計)の割合は64.7%となっている(図表1-3-30)。

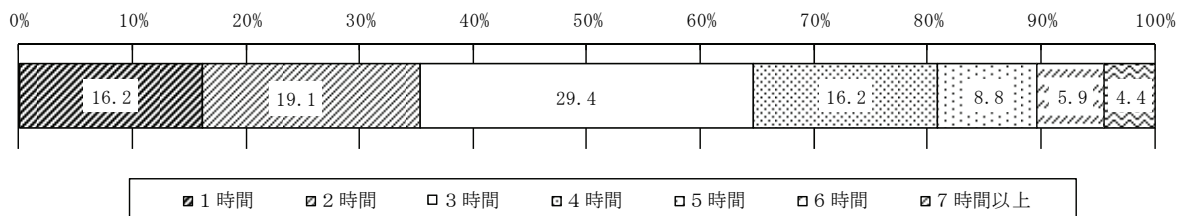


図表 1-3-29 : 過去 1 ヶ月間のオンコール出勤回数 (単位=%) [医師調査]

	n	そもそもオンコールはない	オンコールのある働き方					無回答	オンコールのある働き方	オンコール1回以上	過去1ヵ月でオンコールがなかった者
			0回	1~3回	4~6回	7~9回	10回以上				
計	170	14.7	42.9	34.1	3.5	0.6	1.8	2.4	82.9	40.0	57.6
<診療科>											
内科	45	11.1	44.4	33.3	6.7	0.0	4.4	0.0	88.8	44.4	55.5
外科	35	8.6	34.3	42.9	5.7	2.9	0.0	5.7	85.8	51.5	42.9
小児科・新生児科、産科婦人科	24	16.7	45.8	33.3	0.0	0.0	4.2	0.0	83.3	37.5	62.5
救急科、救命救急、集中治療部	5	20.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	60.0	40.0
放射線科	10	0.0	40.0	50.0	0.0	0.0	0.0	10.0	90.0	50.0	40.0
麻酔科蘇生科	18	27.8	33.3	38.9	0.0	0.0	0.0	0.0	72.2	38.9	61.1
その他 (皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科)	33	21.2	57.6	15.2	3.0	0.0	0.0	3.0	75.8	18.2	78.8
<1日あたり平均受け持ち入院患者数>											
担当なし、0人	58	13.8	55.2	25.9	3.4	0.0	0.0	1.7	84.5	29.3	69.0
1~5人未満	40	20.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	5.0	75.0	25.0	70.0
5~10人未満	39	15.4	30.8	43.6	5.1	0.0	2.6	2.6	82.1	51.3	46.2
10人以上	29	6.9	27.6	48.3	6.9	3.4	6.9	0.0	93.1	65.5	34.5
<勤務形態>											
常勤	102	8.8	44.1	41.2	3.9	0.0	1.0	1.0	90.2	46.1	52.9
非常勤・研修医	65	24.6	38.5	24.6	3.1	1.5	3.1	4.6	70.8	32.3	63.1
<主治医制の別>											
専任主治医制	87	16.1	40.2	36.8	2.3	1.1	2.3	1.1	82.7	42.5	56.3
専任主治医制以外	81	13.6	44.4	32.1	4.9	0.0	1.2	3.7	82.6	38.2	58.0
<性別>											
男性	123	10.6	39.8	42.3	4.1	0.8	0.8	1.6	87.8	48.0	50.4
女性	44	27.3	52.3	11.4	2.3	0.0	4.5	2.3	70.5	18.2	79.6
<性・子供の有無>											
男性・子供あり	84	9.5	38.1	44.0	6.0	1.2	0.0	1.2	89.3	51.2	47.6
男性・子供なし	38	13.2	44.7	36.8	0.0	0.0	2.6	2.6	84.1	39.4	57.9
女性・子供あり	18	27.8	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	66.7	0.0	94.5
女性・子供なし	26	26.9	42.3	19.2	3.8	0.0	7.7	0.0	73.0	30.7	69.2
<年齢>											
30代以下	97	19.6	37.1	35.1	3.1	1.0	3.1	1.0	79.4	42.3	56.7
40代	54	5.6	48.1	40.7	3.7	0.0	0.0	1.9	92.5	44.4	53.7
50代以上	14	14.3	71.4	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	78.5	7.1	85.7
<医師経験年数>											
3年未満	17	23.5	47.1	11.8	5.9	0.0	5.9	5.9	70.7	23.6	70.6
3~5年未満	16	25.0	43.8	31.3	0.0	0.0	0.0	0.0	75.1	31.3	68.8
5~10年未満	32	18.8	34.4	34.4	3.1	3.1	3.1	3.1	78.1	43.7	53.2
10年以上	95	9.5	45.3	38.9	4.2	0.0	1.1	1.1	89.5	44.2	54.8

※「オンコールのある働き方」は「0回」「1~3回」「4~6回」「7~9回」「10回」の合計。「過去1ヵ月でオンコールがなかった者」は「そもそもオンコールはない」と「0回」の合計。

図表 1-3-30 : オンコール 1 回あたりの平均勤務時間 (n=68) [医師調査]



※直近1ヵ月でオンコール出勤があった者を対象に集計。

### 3-6. 患者・家族への対応関係

#### (1)患者・家族への対応及び、暴言・セクハラ等への対応の増減状況

過去3年間の患者・家族への対応（クレーム対応含む）の増減状況をみると、「変わらない」が63.5%ともっとも高いものの、「増加」（「大変増加した」「やや増加した」の合計）も23.0%ある。過去3年間の患者・家族からの暴言・暴力・性的嫌がらせへの対応（以下、「暴言・セクハラ等への対応」と略す）の増減状況をみると、「増加」が10.6%ある。

診療科別にみると、「患者・家族への対応」では、「増加」の割合は「救急科、救命救急、集中治療部」が40.0%ともっとも高く、次いで「小児科・新生児科、産科婦人科」などとなっている。「暴言・セクハラ等への対応」では、「増加」の割合は「救急科、救命救急、集中治療部」が20.0%ともっとも高く、次いで「内科」などとなっている。身分別にみると、おおむね身分が高くなるほど、いずれも「増加」の割合が高い。1日あたり平均外来患者数別にみると、いずれもおおむね「増加」の割合が高くなっている。1日あたりの平均受け持ち入院患者数別にみると、いずれも「10人以上」でもっとも割合が高い。性別にみると、「過去3年間の患者・家族への対応」では「増加」の割合に差はほとんどないが、「過去3年間の暴言・セクハラ等への対応」では、女性のほうが割合はわずかに高い（図表1-3-31）。

図表 1-3-31：過去3年間の患者・家族への対応の増減状況（単位＝％）〔医師調査〕

	n	患者・家族への対応（クレーム含む）の増減状況								患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の増減状況							
		大変増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	大変減少した	該当する者・事項がない	不明	増加	大変増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	大変減少した	該当する者・事項がない	不明	増加
計	170	5.9	17.1	63.5	1.8	0.6	7.6	3.5	23.0	1.8	8.8	69.4	1.8	0.6	15.3	2.4	10.6
<診療科>																	
内科	45	8.9	15.6	64.4	2.2	2.2	4.4	2.2	24.5	4.4	11.1	73.3	6.7	0.0	4.4	0.0	15.5
外科	35	2.9	14.3	60.0	2.9	0.0	17.1	2.9	17.2	2.9	5.7	60.0	0.0	2.9	25.7	2.9	8.6
小児科・新生児科、産科婦人科	24	8.3	25.0	58.3	4.2	0.0	0.0	4.2	33.3	0.0	12.5	75.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5
救急科、救命救急、集中治療部	5	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0
放射線科	10	0.0	10.0	70.0	0.0	0.0	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0	70.0	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0
麻酔科蘇生科	18	0.0	16.7	77.8	0.0	0.0	5.6	0.0	16.7	0.0	0.0	83.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	9.1	15.2	60.6	0.0	0.0	6.1	9.1	24.3	0.0	12.1	63.6	0.0	0.0	15.2	9.1	12.1
<身分>																	
講師以上	32	12.5	18.8	59.4	3.1	0.0	3.1	3.1	31.3	3.1	15.6	68.8	0.0	0.0	9.4	3.1	18.7
助教	54	7.4	27.8	63.0	0.0	0.0	1.9	0.0	35.2	3.7	5.6	81.5	1.9	0.0	7.4	0.0	9.3
医員以下	79	2.5	10.1	65.8	2.5	1.3	12.7	5.1	12.6	0.0	8.9	64.6	2.5	1.3	20.3	2.5	8.9
<1日あたり平均外来患者数>																	
担当なし、0人	49	0.0	6.1	71.4	0.0	0.0	14.3	8.2	6.1	0.0	8.2	63.3	0.0	0.0	20.4	8.2	8.2
1～10人未満	37	5.4	13.5	62.2	2.7	0.0	10.8	5.4	18.9	0.0	8.1	70.3	2.7	0.0	18.9	0.0	8.1
10～15人未満	23	13.0	17.4	60.9	8.7	0.0	0.0	0.0	30.4	13.0	4.3	73.9	0.0	4.3	4.3	0.0	17.3
15人以上	59	8.5	28.8	59.3	0.0	1.7	1.7	0.0	37.3	0.0	11.9	72.9	3.4	0.0	11.9	0.0	11.9
<1日あたり平均受け持ち入院患者数>																	
担当なし、0人	58	3.4	20.7	56.9	1.7	1.7	8.6	6.9	24.1	0.0	10.3	69.0	3.4	0.0	13.8	3.4	10.3
1～5人未満	40	10.0	12.5	65.0	2.5	0.0	10.0	0.0	22.5	5.0	5.0	67.5	2.5	2.5	17.5	0.0	10.0
5～10人未満	39	2.6	12.8	69.2	2.6	0.0	7.7	5.1	15.4	0.0	5.1	71.8	0.0	0.0	17.9	5.1	5.1
10人以上	29	10.3	24.1	65.5	0.0	0.0	0.0	0.0	34.4	3.4	17.2	69.0	0.0	0.0	10.3	0.0	20.6
<性別>																	
男性	123	8.1	15.4	65.9	1.6	0.8	5.7	2.4	23.5	2.4	7.3	74.0	1.6	0.8	11.4	2.4	9.7
女性	44	0.0	22.7	59.1	2.3	0.0	9.1	6.8	22.7	0.0	13.6	59.1	2.3	0.0	22.7	2.3	13.6

※「増加」は「大変増加した」「やや増加した」の合計。

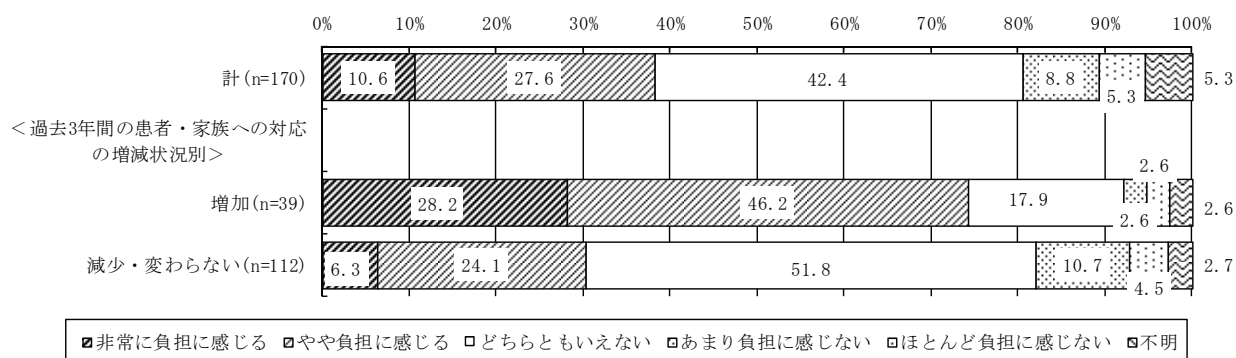
(2)患者・家族への対応及び、暴言・セクハラ等への対応の負担感

「患者・家族への対応（クレーム含む）の負担感」をみると、「負担に感じる」（「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計）とする割合は38.2%となっている。一方、「暴言・セクハラ等への対応の負担感」は「負担に感じる」とする割合は31.2%となっている。

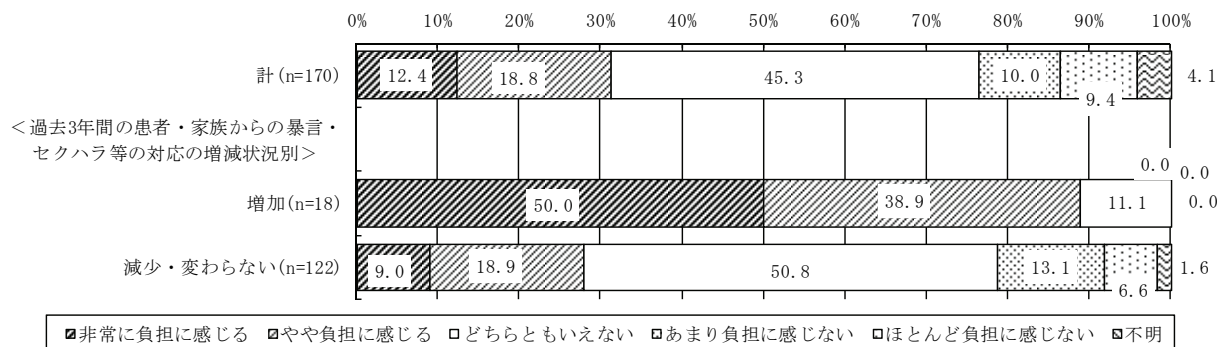
過去3年間の患者・家族への対応の増減状況別に「患者・家族への対応の負担感」をみると、「増加」とする者の「負担に感じる」割合は74.4%と高い（図表1-3-32）。一方、過去3年間の暴言・セクハラ等への対応の増減状況別に「暴言・セクハラ等への対応の負担感」をみると、「増加」とする者の「負担に感じる」割合は88.9%と高い（図表1-3-33）。

これらを診療科別にみると、「患者・家族への対応の負担感」では、「負担に感じる」の割合は「救急科、救命救急、集中治療部」がもっとも高く、次いで「小児科・新生児科、産科婦人科」などとなっている。「暴言・セクハラ等への対応の負担感」では、「負担に感じる」の割合は「小児科・新生児科、産科婦人科」がもっとも高く、次いで「救急科、救命救急、集中治療部」などとなっている。身分別にみると、身分が高くなるほど、いずれも「負担に感じる」の割合が高くなる。性別にみると、いずれも女性の「負担に感じる」とする割合は高い（図表1-3-34）。

図表 1-3-32：患者・家族への対応（クレーム含む）の負担感【医師調査】



図表 1-3-33：患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の負担感【医師調査】



図表 1-3-34：患者・家族への対応の負担感及び、患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の負担感

(単位＝%) [医師調査]

	n	患者・家族への対応（クレーム含む）の負担感							患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の負担感						
		非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる	非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる
計	170	10.6	27.6	42.4	8.8	5.3	5.3	38.2	12.4	18.8	45.3	10.0	9.4	4.1	31.2
<診療科>															
内科	45	13.3	40.0	35.6	4.4	4.4	2.2	53.3	20.0	22.2	42.2	2.2	11.1	2.2	42.2
外科	35	2.9	25.7	45.7	5.7	11.4	8.6	28.6	2.9	20.0	40.0	14.3	17.1	5.7	22.9
小児科・新生児科、産科婦人科	24	25.0	25.0	37.5	8.3	4.2	0.0	50.0	16.7	29.2	33.3	12.5	8.3	0.0	45.9
救急科、救命救急、集中治療部	5	0.0	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	40.0
放射線科	10	0.0	10.0	80.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	20.0	70.0	0.0	0.0	10.0	20.0
麻酔科蘇生科	18	0.0	16.7	55.6	11.1	11.1	5.6	16.7	5.6	0.0	66.7	5.6	16.7	5.6	5.6
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	15.2	21.2	36.4	18.2	0.0	9.1	36.4	12.1	18.2	45.5	18.2	0.0	6.1	30.3
<身分>															
講師以上	32	12.5	34.4	31.3	12.5	3.1	6.3	46.9	9.4	28.1	31.3	15.6	9.4	6.3	37.5
助教	54	16.7	29.6	44.4	5.6	1.9	1.9	46.3	16.7	18.5	50.0	9.3	5.6	0.0	35.2
医員以下	79	6.3	25.3	44.3	10.1	8.9	5.1	31.6	11.4	16.5	46.8	8.9	12.7	3.8	27.9
<性別>															
男性	123	8.9	27.6	44.7	9.8	4.9	4.1	36.5	8.9	18.7	48.0	10.6	10.6	3.3	27.6
女性	44	13.6	27.3	36.4	6.8	6.8	9.1	40.9	20.5	20.5	36.4	9.1	6.8	6.8	41.0

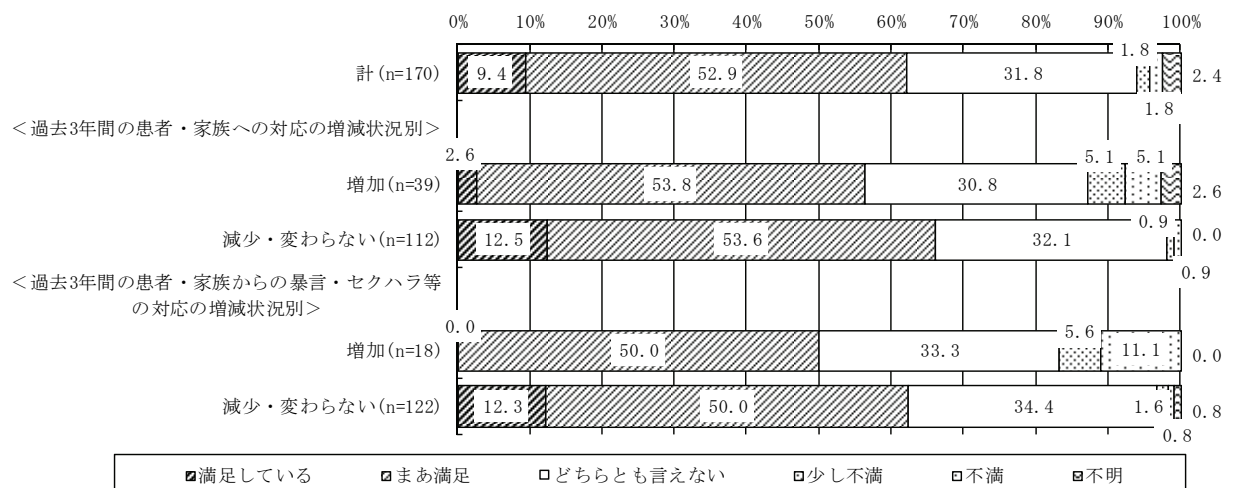
※「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。

### (3)患者（とその家族）との関係に対する満足度

患者（とその家族）との関係に対する満足度は、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が62.3%となっており、その満足度は高い。

これを過去3年間の患者・家族への対応の増減状況別にみると、「満足である」とする者の割合は「減少・変わらない」よりも「増加」のほうが低くなっている。一方、過去3年間の暴言・セクハラ等への対応の増減状況別にみても、「満足である」とする者の割合は「減少・変わらない」よりも「増加」のほうが低い（図表 1-3-35）。

図表 21-3-35：患者（とその家族）との関係に対する満足度 [医師調査]



### 3-7. 通常業務以外の業務<sup>10</sup>

#### (1)電子カルテの導入の負担感

電子カルテの導入による負担感については、「導入前に勤務していなかったためわからない」を除いてみると、「負担が減った」が25.7%、「負担が増えた」が24.3%となっており、両者は拮抗している。これを年齢別にみると、「30代以下」に比べ「40代」「50代以上」のほうが「負担が増えた」とする割合が高くなっている（図表1-3-36）。

図表 1-3-36：電子カルテ導入による業務の負担感

(単位＝%) [医師調査]

	n	負担が 減った	どちら ともい えない	負担が 増えた
計	140	25.7	50.0	24.3
<年齢別>				
30代以下	97	20.6	40.2	13.4
40代	54	25.9	38.9	29.6
50代以上	14	14.3	57.1	28.6

※「導入前に勤務していなかったためわからない」「不明」を除き集計。

#### (2)通常業務以外の業務の増減状況

過去3年間の通常業務以外の業務の増減状況を見ると、「増加」（「大変増加した」「やや増加した」の合計）は、53.5%となっている。これを勤務形態別にみると、「非常勤・研修医」に比べ「常勤」のほうが「増加」とする割合が高い。身分別にみると、身分が高くなるほど「増加」とする割合が高くなる傾向にある。役職別にみると、「役職あり」の「増加」の割合は75.0%と高い。主治医制の別にみると、「専任主治医制」のほうが「増加」の割合が高い。「常勤」で役職が高い者ほど、通常業務業務以外の業務が増加したと感じているようである（図表1-3-37）。

図表 1-3-37：過去3年間の通常業務以外の業務の増減状況（単位＝%）[医師調査]

	n	大変増加 した	やや増加 した	変わら ない	やや減少 した	大変減少 した	該当する 者・事項 がない	不明	増加計	減少計
計	170	18.8	34.7	38.2	2.9	0.6	2.4	2.4	53.5	3.5
<勤務形態>										
常勤	102	27.5	35.3	31.4	3.9	1.0	0.0	1.0	62.8	4.9
非常勤・研修医	65	6.2	32.3	49.2	1.5	0.0	6.2	4.6	38.5	1.5
<身分>										
講師以上	32	50.0	21.9	21.9	3.1	0.0	0.0	3.1	71.9	3.1
助教	54	20.4	48.1	27.8	3.7	0.0	0.0	0.0	68.5	3.7
医員以下	79	6.3	30.4	51.9	2.5	1.3	5.1	2.5	36.7	3.8
<役職>										
役職あり	40	45.0	30.0	22.5	0.0	0.0	0.0	2.5	75.0	0.0
役職なし	124	10.5	37.1	42.7	4.0	0.8	2.4	2.4	47.6	4.8
<主治医制の別>										
専任主治医制	87	16.1	40.2	37.9	3.4	0.0	1.1	1.1	56.3	3.4
専任主治医制以外	81	22.2	28.4	38.3	2.5	1.2	3.7	3.7	50.6	3.7

※「増加」は「大変増加した」「やや増加した」の合計。「減少」は「大変減少した」「やや減少した」の合計。

<sup>10</sup> 「通常業務以外の業務」とは、調査設問上の例示として「通常業務以外の業務（書類作成等）」としている。

### (3) 通常業務以外の業務の負担感

通常業務以外の業務（書類作成等）の負担感は、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計）とする割合は 68.2%となっている。「負担に感じない」（「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計）とする割合は 7.7%とわずかにすぎない。通常業務である「診療」の負担感と比較すると、「負担を感じる」とする割合は、「診療」が 32.9%、「通常業務以外の業務」が 68.2%となっており、「通常業務以外の業務」が「診療」に比べて負担をより感じやすい現状が垣間見える（「負担に感じない」とする割合は「診療」25.9%、「通常業務以外の業務」7.7%）（図表 1-3-38）。

通常業務以外の業務の負担感を電子カルテの負担度別にみると、電子カルテ導入によって「負担が増えた」とする者で通常業務以外の業務が「負担を感じる」とする割合は 85.3%と最も高い。その一方で、電子カルテ導入で「負担が減った」とする者でも 66.7%が通常業務以外の業務の負担を感じているものの、「負担に感じない」とする割合は 19.4%と高くなっている。

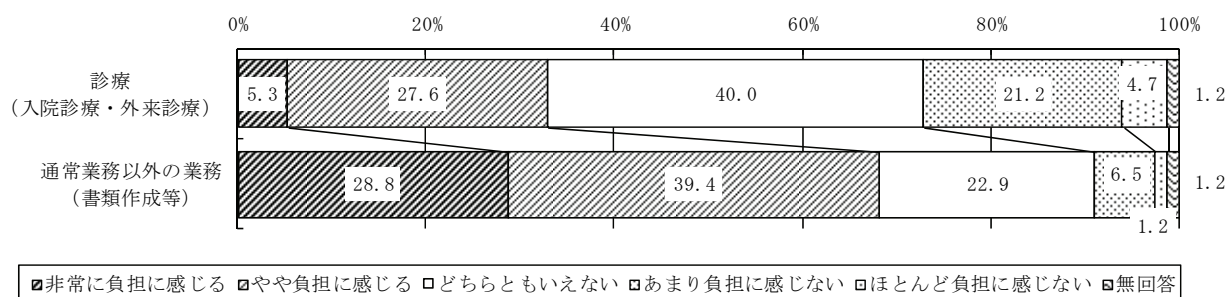
過去 3 年間の通常業務以外の業務の増減別にみると、増加している者の「負担を感じる」割合は 89.1%に及ぶ。逆に、「減少・変わらない」とする者でのその割合は 43.7%と低くなっている。

医師の不足感別にみると、医師不足を感じている者の 75.7%が「負担を感じる」としている。また、医療事務職員の不足感別にみても、医療事務職員の不足を感じている者の 77.8%が「負担を感じる」としている。

勤務形態別にみると、「非常勤・研修医」に比べ「常勤」のほうが「負担を感じる」とする割合が高い。身分別にみると、身分が高くなるほど「負担を感じる」とする割合が高くなる傾向にある。役職別にみると、「役職あり」の 85.0%が「負担を感じる」としている。主治医制の別にみると、「専任主治医制」のほうが「負担を感じる」とする割合は高い。「常勤」で役職が高い者ほど、通常業務以外の業務が多いためか、これを負担に感じるようである。

1日あたりの平均外来患者数別にみると、患者数が増加するほど、「負担を感じる」とする割合は高くなる。1日あたりの平均受け持ち入院患者数別にみると、患者数「10人以上」で「負担を感じる」とする割合が最も高い（図表 1-3-39）。

図表 1-3-38：業務の負担感（n=170、単位=%）〔医師調査〕



図表 1-3-39：通常業務以外の業務の負担感（単位＝％）〔医師調査〕

	通常業務以外の業務の負担感							負担感計	
	n	非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる計	負担に感じない計
計	170	28.8	39.4	22.9	6.5	1.2	1.2	68.2	7.7
<電子カルテ負担度>									
負担が減った	36	30.6	36.1	13.9	16.7	2.8	0.0	66.7	19.4
どちらともいえない	70	25.7	42.9	25.7	5.7	0.0	0.0	68.6	5.7
負担が増えた	34	50.0	35.3	14.7	0.0	0.0	0.0	85.3	0.0
<過去3年間の通常業務以外の業務の増減状況>									
増加	91	45.1	44.0	6.6	4.4	0.0	0.0	89.1	4.4
減少・変わらない	71	9.9	33.8	43.7	9.9	2.8	0.0	43.7	12.7
<医師の不足>									
感じる	107	36.4	39.3	16.8	5.6	0.9	0.9	75.7	6.5
感じない・どちらとも言えない	61	14.8	41.0	34.4	8.2	1.6	0.0	55.8	9.8
<医療事務職員の不足>									
感じる	81	38.3	39.5	13.6	6.2	1.2	1.2	77.8	7.4
感じない・どちらとも言えない	87	19.5	40.2	32.2	6.9	1.1	0.0	59.7	8.0
<勤務形態>									
常勤	102	34.3	40.2	20.6	4.9	0.0	0.0	74.5	4.9
非常勤・研修医	65	21.5	36.9	26.2	9.2	3.1	3.1	58.4	12.3
<身分>									
講師以上	32	46.9	37.5	6.3	9.4	0.0	0.0	84.4	9.4
助教	54	33.3	46.3	18.5	1.9	0.0	0.0	79.6	1.9
医員以下	79	20.3	35.4	31.6	8.9	2.5	1.3	55.7	11.4
<役職>									
役職あり	40	45.0	40.0	10.0	5.0	0.0	0.0	85.0	5.0
役職なし	124	23.4	39.5	27.4	7.3	0.8	1.6	62.9	8.1
<主治医制の別>									
専任主治医制	87	31.0	42.5	14.9	9.2	1.1	1.1	73.5	10.3
専任主治医制以外	81	27.2	35.8	30.9	3.7	1.2	1.2	63.0	4.9
<1日あたりの平均外来患者数>									
担当なし、0人	49	12.2	36.7	38.8	8.2	2.0	2.0	48.9	10.2
1～10人未満	37	40.5	32.4	21.6	2.7	2.7	0.0	72.9	5.4
10～15人未満	23	26.1	47.8	13.0	13.0	0.0	0.0	73.9	13.0
15人以上	59	37.3	44.1	11.9	5.1	0.0	1.7	81.4	5.1
<1日あたりの平均受け持ち入院患者数>									
担当なし、0人	58	27.6	36.2	27.6	3.4	1.7	3.4	63.8	5.1
1～5人未満	40	35.0	37.5	17.5	10.0	0.0	0.0	72.5	10.0
5～10人未満	39	23.1	41.0	28.2	5.1	2.6	0.0	64.1	7.7
10人以上	29	31.0	48.3	10.3	10.3	0.0	0.0	79.3	10.3

※「負担を感じる」は「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計。「負担に感じない」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。

#### 4. 労働時間、休日、年次有給休暇取得日数

##### 4-1. 週あたり労働時間

###### (1) 週あたり労働時間

1週間あたりの実際の労働時間（時間外労働（残業）時間を含む）は、平均時間で56.4時間となっている。その分布をみると、「60～70時間未満」が25.3%と最も割合が高く、次いで、「50～60時間未満」（19.4%）、「80時間以上」（14.7%）、「70～80時間未満」（12.9%）などとなっている。「60時間以上」（「60～70時間未満」「70～80時間未満」「80時間以上」の合計）の割合は52.9%である（図表1-4-1）。

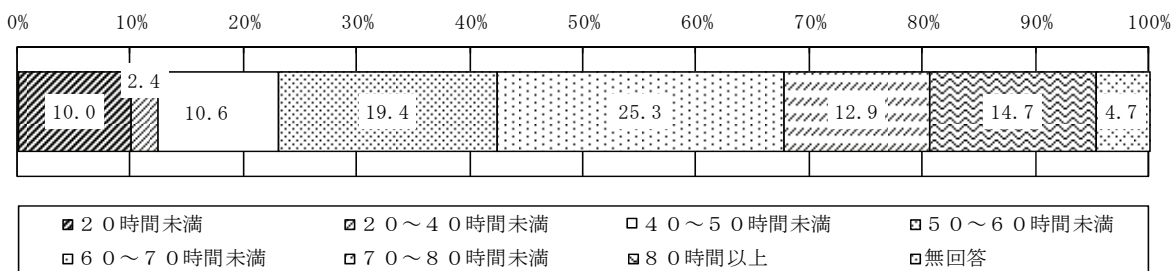
診療科別にみると、「60時間以上」の割合は「放射線科」「小児科・新生児科、産科婦人科」「救急科、救命救急、集中治療部」などで高い。勤務形態別にみると、「60時間以上」の割合は「常勤」のほうが「非常勤・研修医」に比べ高い。「非常勤・研修医」の「40時間未満」（「20時間未満」（15.4%）、「20～40時間未満」（6.2%））の割合は21.6%と、「常勤」に比べ高くなっている。身分別にみると、「助教」で「60時間以上」の割合が57.4%と他よりも高い。主治医制の別にみると、その平均値は専任主治医制がわずかに高い程度である。

「60時間以上」の割合を性別にみると、男性のほうがその割合は高い。性・子供の有無別にみると、「女性・子供がいる」者で「40時間未満」の割合が最も高い。年齢別にみると、平均時間では「50代以上」が61.2時間でもっとも高いが、「60時間以上」の割合をみると「30代以下」がもっとも高くなっている。

週あたり研究時間別にみると、「60時間以上」の割合は時間数が増加するほど高まる傾向にあり、「10時間以上」の場合、77.4%となっている。過去1年間の学会等参加回数別にみると、参加回数が増加するほど「60時間以上」の割合は高い。過去3年間の学会等の論文発表別、及び学術雑誌への投稿論文提出別にみると、いずれも「ある」者のほうが「60時間以上」の割合が高い。月あたりの多職種カンファレンスの回数別にみると、回数が増えるほど「60時間以上」の割合が高まる。

月あたり宿直回数別にみると、回数が増えるほど、「60時間以上」の割合は高まる。オンコールの状態別にみると、オンコールが「1回以上」ある者でその割合はもっとも高い（図表1-4-2）。

図表 1-4-1：週あたり労働時間（n=170）〔医師調査〕





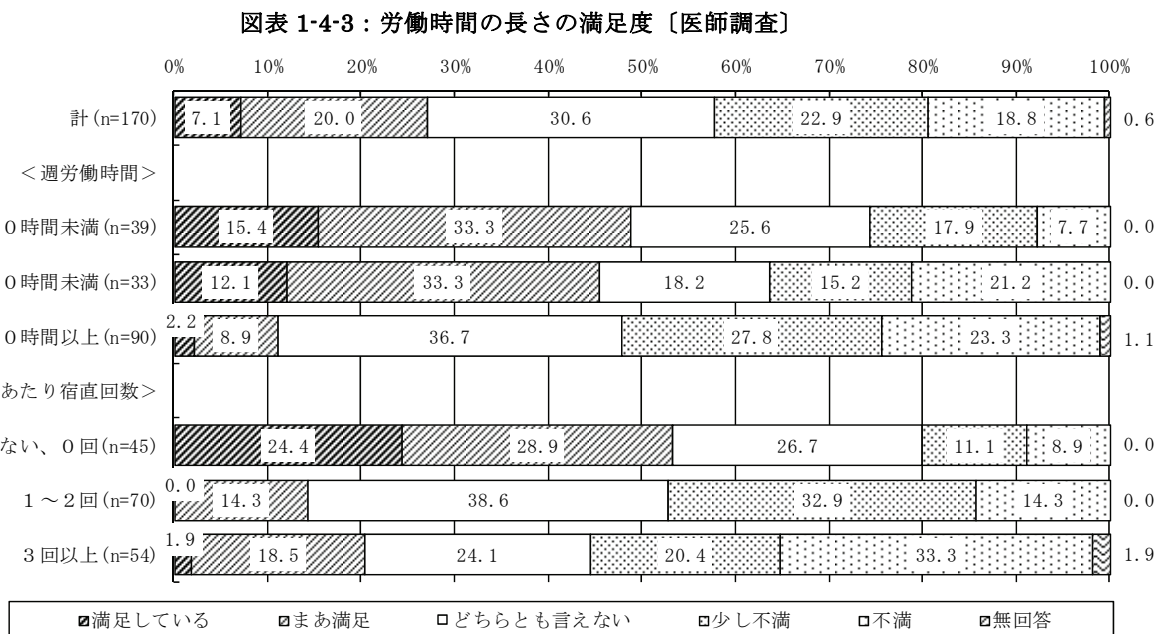
図表 1-4-2 : 週あたり労働時間 (単位=%) [医師調査]

	n	20時間未満	20～40時間未満	40～50時間未満	50～60時間未満	60～70時間未満	70～80時間未満	80時間以上	不明	60時間以上計	平均(時間)	標本標準偏差
計	170	10.0	2.4	10.6	19.4	25.3	12.9	14.7	4.7	52.9	56.4	21.7
<診療科>												
内科	45	11.1	0.0	15.6	17.8	15.6	15.6	17.8	6.7	49.0	56.5	21.2
外科	35	11.4	5.7	0.0	22.9	28.6	14.3	8.6	8.6	51.5	54.1	22.2
小児科・新生児科、産科婦人科	24	8.3	0.0	8.3	0.0	33.3	20.8	25.0	4.2	79.1	65.6	23.5
救急科、救命救急、集中治療部	5	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	40.0	20.0	60.0	71.3	14.3
放射線科	10	10.0	0.0	10.0	0.0	60.0	10.0	10.0	0.0	80.0	57.6	18.2
麻酔科蘇生科	18	0.0	11.1	11.1	22.2	50.0	5.6	0.0	0.0	55.6	53.1	13.0
その他(皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科)	33	15.2	0.0	18.2	36.4	6.1	9.1	15.2	0.0	30.4	51.7	23.0
<勤務形態>												
常勤	102	6.9	0.0	12.7	19.6	26.5	10.8	17.6	5.9	54.9	59.1	19.7
非常勤・研修医	65	15.4	6.2	7.7	20.0	23.1	15.4	10.8	1.5	49.3	51.9	23.8
<身分>												
講師以上	32	3.1	0.0	12.5	21.9	31.3	3.1	15.6	12.5	50.0	59.3	16.5
助教	54	9.3	0.0	13.0	18.5	24.1	14.8	18.5	1.9	57.4	58.6	20.4
医員以下	79	12.7	2.5	8.9	20.3	24.1	16.5	12.7	2.5	53.3	55.2	23.1
<主治医制の別>												
専任主治医制	87	12.6	0.0	6.9	24.1	17.2	13.8	20.7	4.6	51.7	57.8	22.6
専任主治医制以外	81	7.4	4.9	14.8	14.8	33.3	11.1	8.6	4.9	53.0	54.6	20.7
<性別>												
男性	123	7.3	0.8	8.9	18.7	30.1	15.4	13.8	4.9	59.3	58.9	19.5
女性	44	18.2	6.8	15.9	20.5	13.6	6.8	15.9	2.3	36.3	48.9	25.2
<性・子供の有無>												
男性・子供あり	84	7.1	0.0	10.7	17.9	33.3	13.1	14.3	3.6	60.7	59.0	18.9
男性・子供なし	38	7.9	2.6	5.3	21.1	23.7	21.1	13.2	5.3	58.0	58.6	20.7
女性・子供あり	18	27.8	11.1	27.8	16.7	11.1	0.0	5.6	0.0	16.7	37.2	20.9
女性・子供なし	26	11.5	3.8	7.7	23.1	15.4	11.5	23.1	3.8	50.0	57.3	24.7
<年齢>												
30代以下	97	12.4	2.1	10.3	15.5	23.7	17.5	15.5	3.1	56.7	56.2	23.0
40代	54	9.3	3.7	9.3	27.8	25.9	7.4	13.0	3.7	46.3	54.9	20.3
50代以上	14	0.0	0.0	21.4	14.3	28.6	7.1	14.3	14.3	50.0	61.2	16.8
<週あたり研究時間>												
ない	61	18.0	3.3	14.8	19.7	21.3	8.2	11.5	3.3	41.0	49.9	24.4
5時間未満	46	8.7	2.2	8.7	19.6	19.6	15.2	15.2	10.9	50.0	57.6	20.7
5～10時間未満	27	0.0	0.0	14.8	29.6	25.9	14.8	14.8	0.0	55.5	61.4	14.3
10時間以上	31	6.5	0.0	3.2	9.7	38.7	16.1	22.6	3.2	77.4	63.4	19.2
<過去1年間の学会等参加回数>												
ない、1～2回	34	14.7	2.9	17.6	29.4	11.8	11.8	11.8	0.0	35.4	50.9	23.9
3～5回未満	42	9.5	4.8	9.5	23.8	23.8	9.5	14.3	4.8	47.6	53.7	20.5
5回以上	90	8.9	1.1	7.8	13.3	31.1	14.4	16.7	6.7	62.2	59.8	21.0
<過去3年間の学会等での論文発表>												
ない	38	18.4	7.9	10.5	10.5	26.3	13.2	7.9	5.3	47.4	48.3	24.7
ある	130	7.7	0.8	10.0	22.3	24.6	13.1	16.9	4.6	54.6	58.8	20.3
<過去3年間の学術雑誌への投稿論文>												
ない	65	10.8	4.6	9.2	20.0	24.6	12.3	13.8	4.6	50.7	54.9	22.7
ある	103	9.7	1.0	10.7	19.4	25.2	13.6	15.5	4.9	54.3	57.4	21.1
<月あたり多職種カンファレンス回数>												
ない	24	12.5	4.2	12.5	20.8	25.0	12.5	8.3	4.2	45.8	51.9	22.1
1～4回	91	9.9	1.1	9.9	20.9	19.8	16.5	17.6	4.4	53.9	58.1	22.2
5回以上	45	6.7	2.2	11.1	17.8	31.1	8.9	15.6	6.7	55.6	58.2	18.9
<月あたり宿直回数>												
ない、0回	45	17.8	6.7	17.8	24.4	17.8	2.2	6.7	6.7	26.7	45.0	22.4
1～2回	70	10.0	0.0	8.6	15.7	34.3	17.1	10.0	4.3	61.4	57.1	19.0
3回以上	54	1.9	1.9	7.4	20.4	20.4	16.7	27.8	3.7	64.9	65.6	18.9
<オンコールの状態>												
そもそもオンコールはない	25	12.0	4.0	4.0	28.0	28.0	8.0	12.0	4.0	48.0	53.6	22.4
0回	73	11.0	2.7	16.4	21.9	23.3	9.6	9.6	5.5	42.5	52.8	21.2
1回以上	68	5.9	1.5	7.4	14.7	27.9	19.1	20.6	2.9	67.6	62.0	19.3

## (2) 「労働時間の長さ」の満足度

「労働時間の長さ」の満足度をみると、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が 41.7%となっており、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合の 27.1%を上回っている。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど、「不満である」とする割合は高まる。月あたりの宿直回数別にみると、宿直回数が多くなるほど、「不満である」とする割合が高まる（図表 1-4-3）。



## 4-2. 休日

調査では、過去 1 カ月でみて、週あたりで実際に何日休めているかについて尋ねている。それによれば、「週 1 日」が 51.8%でもっとも割合が高く、次いで「週 0 日」(21.8%)、「週 2 日」 20.6%などとなっている。これを週あたり勤務日数別（「4 日以下」と「5 日」）にみると、週 5 日勤務の者では、「週 1 日」が 53.6%でもっとも割合が高く、次いで「週 0 日」(24.6%)、「週 2 日」 21.0%となっていた。78.2%が実際に休めたのは週 1 日以下となっている（図表 1-4-4）。

そこで週 5 日勤務の者（すなわち、制度上で週休 2 日制の者）について、週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど「週 1 日以下」（「週 0 日」「週 1 日」の合計）の割合が高まる傾向にある（「週 0 日」も労働時間が長くなるほどその割合が高まる）。月あたり宿直回数別にみると、「週 0 日」の割合は回数が多くなるほど高まる（宿直「3 回以上」で「週 0 日」が 40.9%）。オンコールの状態別にみても、同様に、オンコールがある者ほど「週 0 日」の割合が高まっている（図表 1-4-5）。

これを診療科別にみると、「週 1 日以下」の割合がもっとも高いのは、「救急科、救命救急、

集中治療部」で100.0%、次いで、「小児科・新生児科、産科婦人科」94.7%、「外科」80.0%などとなっている。勤務形態別にみると、「週0日」は「常勤」24.2%、「非常勤・研修医」24.4%となっており、いずれも2割程度いる。「週1日以下」でみると、「常勤」81.3%、「非常勤・研修医」71.1%となっており、常勤のほうが割合は高い。身分別にみると、「週1日以下」は「助教」でもっとも高くなっている（とくに「週0日」でも「助教」がもっとも割合が高い）。主治医制の別にみると、「専任主治医制」のほうが「週0日」の割合が32.9%となっており、「専任主治医制以外」よりも高い。

性別にみると、「女性」のほうが「週1日以下」の割合が低い。性・子供の有無別にみると、「週1日以下」の割合は「女性・子供あり」でもっとも低くなっている。それ以外はいずれもその割合が8割台であり、「女性・子供なし」が84.2%となっている（「女性・子供なし」は「週0日」が31.6%ともっとも高くなっている）。

年齢別にみると、「1日以下」の割合は40代でもっとも高くなっている。週あたり研究時間別にみると、研究時間が長くなるほど、おおむね「週1日以下」の割合は高まる。過去1年間の学会等参加回数別にみると、「3～5回」で「週1日以下」の割合がもっとも高くなっている。過去3年間の学会等の論文発表別、及び学術雑誌への投稿論文提出別にみると、いずれも「ある」者のほうが「週1日以下」の割合が高い。月あたり多職種カンファレンスの回数別にみると、回数が多くなるほど「週1日以下」の割合が高い（図表1-4-6）。

図表 1-4-4：週あたり休日日数（単位＝％）〔医師調査〕

	n	週0日	週1日	週2日	週3日	週4日以上	不明
計	170	21.8	51.8	20.6	2.4	3.5	0.0
<週あたり勤務日数>							
4日以下	31	6.5	45.2	19.4	12.9	16.1	0.0
5日	138	24.6	53.6	21.0	0.0	0.7	0.0
<雇用形態>							
常勤	102	24.5	56.9	17.6	0.0	1.0	0.0
非常勤・研修医	65	16.9	44.6	24.6	6.2	7.7	0.0
<身分>							
講師以上	32	21.9	59.4	15.6	0.0	3.1	0.0
助教	54	27.8	53.7	18.5	0.0	0.0	0.0
医員以下	79	19.0	49.4	24.1	2.5	5.1	0.0

図表 1-4-5：過去1ヵ月でみた週5日勤務者の実際に休めた休日日数

（単位＝％）〔医師調査〕

	n	週当たりの実際に休めた休日日数					週1日以下計
		週0日	週1日	週2日	週3日	週4日以上	
計	138	24.6	53.6	21.0	0.0	0.7	78.3
<週労働時間>							
50時間未満	22	4.5	50.0	40.9	0.0	4.5	54.5
50～60時間未満	29	27.6	55.2	17.2	0.0	0.0	82.8
60時間以上	80	30.0	56.3	13.8	0.0	0.0	86.3
<月あたり宿直回数>							
ない、0回	32	9.4	46.9	40.6	0.0	3.1	56.3
1～2回	61	21.3	62.3	16.4	0.0	0.0	83.6
3回以上	44	40.9	47.7	11.4	0.0	0.0	88.6
<オンコールの状態>							
そもそもオンコールはない	16	6.3	43.8	50.0	0.0	0.0	50.0
0回	60	16.7	58.3	23.3	0.0	1.7	75.0
1回以上	60	38.3	53.3	8.3	0.0	0.0	91.7

※週5日勤務の者を対象に集計。

図表 1-4-6：過去 1 ヶ月でみた週 5 日勤務者の実際に休めた休日日数（単位＝％）〔医師調査〕

	n	週あたりの実際に休めた休日日数					週1日以下計
		週0日	週1日	週2日	週3日	週4日以上	
計	138	24.6	53.6	21.0	0.0	0.7	78.3
<診療科>							
内科	39	25.6	51.3	20.5	0.0	2.6	76.9
外科	26	34.6	46.2	19.2	0.0	0.0	80.8
小児科・新生児科、産科婦人科	19	21.1	73.7	5.3	0.0	0.0	94.7
救急科、救命救急、集中治療部	5	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	100.0
放射線科	10	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	60.0
麻酔科蘇生科	13	15.4	53.8	30.8	0.0	0.0	69.2
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	26	26.9	46.2	26.9	0.0	0.0	73.1
<雇用形態>							
常勤	91	24.2	57.1	17.6	0.0	1.1	81.3
非常勤・研修医	45	24.4	46.7	28.9	0.0	0.0	71.1
<身分>							
講師以上	30	20.0	60.0	16.7	0.0	3.3	80.0
助教	49	28.6	55.1	16.3	0.0	0.0	83.7
医員以下	58	24.1	48.3	27.6	0.0	0.0	72.4
<主治医制の別>							
専任主治医制	70	32.9	48.6	17.1	0.0	1.4	81.4
専任主治医制以外	66	15.2	59.1	25.8	0.0	0.0	74.2
<性別>							
男性	105	25.7	57.1	16.2	0.0	1.0	82.9
女性	30	20.0	43.3	36.7	0.0	0.0	63.3
<性・子供の有無>							
男性・子供あり	73	24.7	58.9	15.1	0.0	1.4	83.6
男性・子供なし	31	29.0	51.6	19.4	0.0	0.0	80.6
女性・子供あり	11	0.0	27.3	72.7	0.0	0.0	27.3
女性・子供なし	19	31.6	52.6	15.8	0.0	0.0	84.2
<年齢>							
30代以下	73	23.3	50.7	26.0	0.0	0.0	74.0
40代	47	27.7	59.6	12.8	0.0	0.0	87.2
50代以上	13	15.4	53.8	23.1	0.0	7.7	69.2
<週あたり研究時間>							
ない	48	14.6	52.1	33.3	0.0	0.0	66.7
5時間未満	38	28.9	50.0	18.4	0.0	2.6	78.9
5～10時間未満	24	33.3	58.3	8.3	0.0	0.0	91.7
10時間以上	23	26.1	60.9	13.0	0.0	0.0	87.0
<過去1年間の学会等参加回数>							
ない、1～2回	25	24.0	48.0	28.0	0.0	0.0	72.0
3～5回未満	35	22.9	65.7	11.4	0.0	0.0	88.6
5回以上	74	25.7	48.6	24.3	0.0	1.4	74.3
<過去3年間の学会等での論文発表>							
ない	28	21.4	35.7	42.9	0.0	0.0	57.1
ある	108	25.9	57.4	15.7	0.0	0.9	83.3
<過去3年間の学術雑誌への投稿論文>							
ない	49	18.4	55.1	26.5	0.0	0.0	73.5
ある	87	28.7	51.7	18.4	0.0	1.1	80.5
<月あたり多職種カンファレンス回数>							
ない	19	10.5	52.6	36.8	0.0	0.0	63.2
1～4回	73	32.9	47.9	17.8	0.0	1.4	80.8
5回以上	39	15.4	66.7	17.9	0.0	0.0	82.1

※週5日勤務の者を対象に集計。

### 4-3. 年次有給休暇の取得日数

#### (1)年次有給休暇取得日数

今年度 1 年間の年次有給休暇の取得日数は、「0 日」が 25.9%ともっとも割合が高く、次いで、「4～6 日」が 25.3%、「1～3 日」が 19.4%、「7～10 日」が 19.4%などとなっており、半数弱（45.3%）が「3 日以下」（「0 日」「1～3 日」の合計）となっている。

週あたり労働時間別にみると、年次有給休暇取得日数「3日以下」の割合は、「50～60時間」で51.5%と最も割合が高くなっているが、「7日以上」の割合は「60時間以上」が最も低くなっている。月あたり宿直回数別にみると、宿直回数が増加するほど「3日以下」の割合は高い。オンコールの状態別にみると、オンコールが「1回以上」ある者で「3日以下」の割合は最も高い。実際に休めた週あたり休日日数別にみると、「週休1日以下」の者で「3日以下」は52.0%と高くなっている（図表1-4-7）。

「3日以下」の割合を診療科別にみると、「外科」「救急科、救命救急、集中治療部」などで高い。勤務形態別にみると、「非常勤・研修医」のほうが「常勤」に比べ、「3日以下」の割合が高くなっている（とくに「0日」が32.3%と最も高い）。身分別にみると、「講師以上」で「3日以下」の割合が最も高い。主治医制の別にみると、「専任主治医制」のほうが「3日以下」の割合がわずかに高い。

性別にみると、男性のほうが、「3日以下」の割合が50.4%と高くなっている。性・子供の有無別にみると、「女性・子供あり」の「7日以上」の割合が39.0%と最も高い。年齢別にみると、「50代以上」で「3日以下」の割合が50.0%と最も高くなっている。勤続年数別にみると、勤続年数が長くなるほど「3日以下」の割合が低くなる一方で、「7日以上」の割合が高まる傾向にある。

週あたり研究時間別にみると、研究時間が少なくなるほど、おおむね「7日以上」の割合が高くなる。過去1年間の学会等参加回数別にみると、参加回数が「3～5回」で「3日以下」の割合が最も高い。過去3年間の学会等の論文発表別、及び学術雑誌への投稿論文提出別にみると、いずれも「ある」者のほうが「3日以下」の割合が高い。

月あたりの多職種カンファレンスの回数別にみると、回数が少なくなるほど、「7日以上」の割合が高まる（図表1-4-8）

図表 1-4-7：年次有給休暇の取得日数（単位＝％）〔医師調査〕

	n	年次有給休暇取得日数								日数2分類	
		0日	1～3日	4～6日	7～10日	11日～15日	16日～19日	20日以上	不明	3日以下計	7日以上計
計	170	25.9	19.4	25.3	19.4	4.1	1.8	0.6	3.5	45.3	25.9
<週労働時間>											
50時間未満	39	28.2	5.1	30.8	20.5	5.1	0.0	2.6	7.7	33.3	28.2
50～60時間未満	33	24.2	27.3	18.2	21.2	6.1	3.0	0.0	0.0	51.5	30.3
60時間以上	90	24.4	22.2	26.7	18.9	3.3	1.1	0.0	3.3	46.6	23.3
<月あたり宿直回数>											
ない、0回	45	28.9	8.9	24.4	24.4	2.2	4.4	2.2	4.4	37.8	33.2
1～2回	70	20.0	21.4	27.1	21.4	4.3	1.4	0.0	4.3	41.4	27.1
3回以上	54	31.5	25.9	24.1	13.0	5.6	0.0	0.0	0.0	57.4	18.6
<オンコールの状態別>											
そもそもオンコールはない	25	12.0	20.0	28.0	12.0	16.0	4.0	0.0	8.0	32.0	32.0
0回	73	26.0	17.8	23.3	27.4	1.4	1.4	1.4	1.4	43.8	31.6
1回以上	68	32.4	20.6	25.0	14.7	2.9	1.5	0.0	2.9	53.0	19.1
<週あたり休日日数>											
週休1日以下	125	28.8	23.2	24.8	17.6	4.0	0.8	0.0	0.8	52.0	22.4
週休2日以上	45	17.8	8.9	26.7	24.4	4.4	4.4	2.2	11.1	26.7	35.4

図表 1-4-8：年次有給休暇の取得日数（単位＝％）〔医師調査〕

	n	年次有給休暇取得日数								日数2分類	
		0日	1～3日	4～6日	7～10日	11日～15日	16日～19日	20日以上	無回答	3日以下計	7日以上計
計	170	25.9	19.4	25.3	19.4	4.1	1.8	0.6	3.5	45.3	25.9
＜診療科＞											
内科	45	28.9	17.8	17.8	24.4	6.7	2.2	0.0	2.2	46.7	33.3
外科	35	31.4	28.6	20.0	11.4	0.0	5.7	0.0	2.9	60.0	17.1
小児科・新生児科、産科婦人科	24	20.8	16.7	29.2	20.8	4.2	0.0	4.2	4.2	37.5	29.2
救急科、救命救急、集中治療部	5	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0
放射線科	10	10.0	0.0	40.0	30.0	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0	30.0
麻酔科蘇生科	18	27.8	16.7	44.4	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	44.5	5.6
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	27.3	15.2	24.2	27.3	6.1	0.0	0.0	0.0	42.5	33.4
＜勤務形態＞											
常勤	102	22.5	22.5	26.5	16.7	4.9	2.9	1.0	2.9	45.0	25.5
非常勤・研修医	65	32.3	15.4	23.1	21.5	3.1	0.0	0.0	4.6	47.7	24.6
＜身分＞											
講師以上	32	18.8	34.4	21.9	12.5	3.1	6.3	0.0	3.1	53.2	21.9
助教	54	20.4	18.5	29.6	20.4	3.7	1.9	1.9	3.7	38.9	27.9
医員以下	79	32.9	15.2	22.8	21.5	5.1	0.0	0.0	2.5	48.1	26.6
＜主治医制の別＞											
専任主治医制	87	27.6	21.8	19.5	20.7	6.9	2.3	0.0	1.1	49.4	29.9
専任主治医制以外	81	24.7	17.3	32.1	16.0	1.2	1.2	1.2	6.2	42.0	19.6
＜性別＞											
男性	123	27.6	22.8	23.6	17.9	3.3	1.6	0.0	3.3	50.4	22.8
女性	44	22.7	6.8	29.5	25.0	6.8	2.3	2.3	4.5	29.5	36.4
＜性・子供の有無＞											
男性・子供あり	84	27.4	23.8	25.0	14.3	3.6	2.4	0.0	3.6	51.2	20.3
男性・子供なし	38	28.9	18.4	21.1	26.3	2.6	0.0	0.0	2.6	47.3	28.9
女性・子供あり	18	11.1	5.6	33.3	22.2	5.6	5.6	5.6	11.1	16.7	39.0
女性・子供なし	26	30.8	7.7	26.9	26.9	7.7	0.0	0.0	0.0	38.5	34.6
＜年齢＞											
30代以下	97	28.9	16.5	24.7	21.6	5.2	0.0	0.0	3.1	45.4	26.8
40代	54	22.2	18.5	24.1	20.4	3.7	3.7	1.9	5.6	40.7	29.7
50代以上	14	21.4	28.6	35.7	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	50.0	14.2
＜勤続年数＞											
3年未満	61	34.4	13.1	24.6	19.7	3.3	0.0	1.6	3.3	47.5	24.6
3～5年未満	35	22.9	22.9	25.7	20.0	5.7	0.0	0.0	2.9	45.8	25.7
5年以上	69	21.7	21.7	24.6	20.3	4.3	2.9	0.0	4.3	43.4	27.5
＜週あたり研究時間＞											
ない	61	27.9	9.8	26.2	24.6	4.9	0.0	1.6	4.9	37.7	31.1
5時間未満	46	28.3	23.9	19.6	21.7	2.2	4.3	0.0	0.0	52.2	28.2
5～10時間未満	27	18.5	25.9	33.3	14.8	0.0	3.7	0.0	3.7	44.4	18.5
10時間以上	31	25.8	25.8	25.8	9.7	9.7	0.0	0.0	3.2	51.6	19.4
＜過去1年間の学会等参加回数＞											
ない、1～2回	34	29.4	11.8	11.8	29.4	5.9	2.9	0.0	8.8	41.2	38.2
3～5回未満	42	35.7	19.0	26.2	11.9	4.8	0.0	0.0	2.4	54.7	16.7
5回以上	90	20.0	23.3	28.9	18.9	3.3	2.2	1.1	2.2	43.3	25.5
＜過去3年間の学会等での論文発表＞											
ない	38	28.9	13.2	23.7	21.1	2.6	2.6	2.6	5.3	42.1	28.9
ある	130	25.4	21.5	25.4	18.5	4.6	1.5	0.0	3.1	46.9	24.6
＜過去3年間の学術雑誌への投稿論文＞											
ない	65	26.2	9.2	29.2	23.1	4.6	3.1	1.5	3.1	35.4	32.3
ある	103	26.2	26.2	22.3	16.5	3.9	1.0	0.0	3.9	52.4	21.4
＜月あたり多職種カンファレンス回数＞											
ない	24	12.5	20.8	29.2	20.8	4.2	8.3	0.0	4.2	33.3	33.3
1～4回	91	30.8	22.0	20.9	19.8	4.4	1.1	0.0	1.1	52.8	25.3
5回以上	45	26.7	15.6	31.1	20.0	4.4	0.0	0.0	2.2	42.3	24.4

(2)年次有給休暇の用途

年次有給休暇の用途は、「2泊以上の国内旅行」が28.0%ともっとも多くなっており、次いで、「家での休養」が19.5%、「学会・研究会・院外研修会の参加等」が15.9%などとなっている。週あたり労働時間別にみると、労働時間が短くなるほど、「2泊以上の国内旅行」「家事・育児」などの割合が高くなる傾向にあり、労働時間が長くなるほど、「家での休養」「研究」などの割合が高い。年次有給休暇取得日数別にみると、取得日数が増えるほど、「海外旅行」「2泊以上の国内旅行」「家での休養」「家事・育児」「学会・研究会・院外研修会の参加等」などの割合が高まる傾向にある。

週あたり研究時間別にみると、研究時間数が増加するほど、「研究」の割合が高まる。また、過去3年間の学会等での論文発表別、及び過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出別にみると、いずれも「ある」者のほうが「研究」の割合が高い。過去1年間の学会等の参加回数別にみると、回数が5回以上で「学会・研究会・院外研修会の参加等」の割合がもっとも高くなっている(図表1-4-9)

図表 1-4-9：年次有給休暇の用途（複数回答、単位＝％）〔医師調査〕

	n	海外旅行	2泊以上の国内旅行	1泊の国内旅行	日帰りのレジャー	ゴルフなどのスポーツ	登山	ボート観戦など	映画・演劇、コンサート、スポーツ観戦など	家での休養	自分の病気の療養	家族等の看護・介護	家事・育児	研究	学会・研究会・院外研修会の参加等	自己啓発のための学習	その他
計	164	14.0	28.0	4.3	5.5	1.8	3.0	3.0	19.5	4.9	5.5	14.6	3.7	15.9	0.0	6.1	
<週労働時間>																	
50時間未満	35	11.4	31.4	2.9	2.9	2.9	2.9	5.7	8.6	2.9	11.4	20.0	0.0	17.1	0.0	5.7	
50～60時間未満	33	6.1	27.3	9.1	6.1	3.0	3.0	0.0	21.2	6.1	3.0	18.2	3.0	18.2	0.0	15.2	
60時間以上	88	19.3	26.1	3.4	6.8	1.1	3.4	3.4	23.9	4.5	4.5	12.5	5.7	13.6	0.0	2.3	
<年次有給休暇取得日数>																	
0～3日	77	5.2	10.4	6.5	3.9	1.3	0.0	1.3	9.1	2.6	1.3	5.2	2.6	10.4	0.0	1.3	
4～6日	42	19.0	35.7	2.4	11.9	0.0	7.1	7.1	26.2	7.1	11.9	19.0	0.0	16.7	0.0	9.5	
7日以上	44	22.7	52.3	2.3	2.3	4.5	4.5	2.3	31.8	6.8	6.8	25.0	6.8	25.0	0.0	11.4	
<月あたり宿直回数>																	
ない、0回	42	2.4	28.6	2.4	4.8	0.0	4.8	4.8	16.7	2.4	11.9	21.4	2.4	14.3	0.0	11.9	
1～2回	68	23.5	32.4	2.9	2.9	1.5	1.5	2.9	20.6	5.9	2.9	13.2	2.9	20.6	0.0	4.4	
3回以上	54	11.1	22.2	7.4	9.3	3.7	3.7	1.9	20.4	5.6	3.7	11.1	5.6	11.1	0.0	3.7	
<週あたり研究時間>																	
ない	57	15.8	26.3	0.0	1.8	1.8	0.0	3.5	14.0	3.5	8.8	22.8	0.0	14.0	0.0	3.5	
5時間未満	46	17.4	32.6	4.3	4.3	0.0	4.3	2.2	21.7	8.7	0.0	13.0	0.0	15.2	0.0	6.5	
5～10時間未満	27	14.8	18.5	11.1	7.4	0.0	7.4	3.7	22.2	3.7	7.4	11.1	7.4	22.2	0.0	14.8	
10時間以上	30	6.7	33.3	6.7	10.0	0.0	0.0	3.3	20.0	3.3	6.7	6.7	13.3	13.3	0.0	3.3	
<過去3年間の学会等での論文発表>																	
ない	35	14.3	25.7	0.0	2.9	2.9	0.0	5.7	17.1	2.9	11.4	14.3	0.0	14.3	0.0	5.7	
ある	127	14.2	28.3	5.5	5.5	0.8	2.4	2.4	19.7	5.5	3.1	15.0	4.7	15.7	0.0	6.3	
<過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出>																	
ない	62	17.7	33.9	0.0	4.8	0.0	1.6	4.8	16.1	6.5	6.5	17.7	1.6	14.5	0.0	6.5	
ある	100	12.0	24.0	7.0	5.0	2.0	2.0	2.0	21.0	4.0	4.0	13.0	5.0	16.0	0.0	6.0	
<過去1年間の学会等参加回数>																	
ない、1～2回	31	6.5	32.3	0.0	3.2	0.0	3.2	6.5	19.4	0.0	3.2	22.6	0.0	12.9	0.0	9.7	
3～5回未満	40	15.0	22.5	10.0	7.5	2.5	0.0	2.5	10.0	7.5	5.0	12.5	2.5	2.5	0.0	2.5	
5回以上	89	16.9	29.2	3.4	4.5	1.1	2.2	2.2	22.5	5.6	5.6	12.4	5.6	22.5	0.0	6.7	

※「今年度はまだ1日も年休を取得できていない」「不明」を除いて集計。

### (3) 休日・休暇の日数の満足度

「休日・休暇の日数」の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が34.7%、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が32.3%となっており、両者は拮抗している。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど「不満である」とする割合は高まる。

実際に休めた週あたり休日日数別にみると、「週休1日以下」の者で「不満である」とする割合は40.0%と高くなっている一方で、「週休2日以上」の者では「満足である」とする者が68.9%となっている。

年次有給休暇取得日数別にみると、取得日数が少なくなるほど「不満である」とする割合が高まる一方で、「満足である」とする割合がおおむね低下する。

月あたりの宿直回数別にみると、回数が多くなるほど「不満である」とする割合が高まる一方で、「満足である」とする割合が低くなる。オンコールの状態別にみると、「不満である」とする割合は「1回以上」でもっとも高い（図表1-4-10）。

図表 1-4-10：休日・休暇の日数の満足度（単位＝％）〔医師調査〕

	休日・休暇の日数満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計(n=170)	170	11.2	23.5	31.2	18.8	13.5	1.8	34.7	32.3
<週労働時間>									
50時間未満	39	23.1	30.8	20.5	20.5	0.0	5.1	53.9	20.5
50～60時間未満	33	12.1	39.4	24.2	6.1	18.2	0.0	51.5	24.3
60時間以上	90	6.7	13.3	36.7	24.4	17.8	1.1	20.0	42.2
<週あたり休日日数>									
週休1日以下	125	4.0	18.4	36.8	22.4	17.6	0.8	22.4	40.0
週休2日以上	45	31.1	37.8	15.6	8.9	2.2	4.4	68.9	11.1
<年次有給休暇取得日数>									
0～3日	77	6.5	22.1	31.2	22.1	16.9	1.3	28.6	39.0
4～6日	43	16.3	23.3	25.6	16.3	16.3	2.3	39.6	32.6
7日以上	44	13.6	25.0	36.4	18.2	6.8	0.0	38.6	25.0
<月あたり宿直回数>									
ない、0回	45	33.3	33.3	17.8	6.7	6.7	2.2	66.6	13.4
1～2回	70	2.9	22.9	44.3	22.9	7.1	0.0	25.8	30.0
3回以上	54	3.7	16.7	25.9	24.1	27.8	1.9	20.4	51.9
<オンコールの状況>									
そもそもオンコールはない	25	24.0	24.0	16.0	16.0	20.0	0.0	48.0	36.0
0回	73	13.7	28.8	30.1	17.8	6.8	2.7	42.5	24.6
1回以上	68	2.9	17.6	39.7	20.6	19.1	0.0	20.5	39.7

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

## 5. 健康不安、ヒヤリ・ハット体験、患者からの訴訟リスク

### 5-1. 疲労感、睡眠不足、健康不安

「自身の疲労感」「自身の睡眠不足感」「自身の健康不安」について、それぞれ「感じる」（「非常に感じる」「まあ感じる」の合計）と回答した割合は、「疲労感」が65.9%、「睡眠不

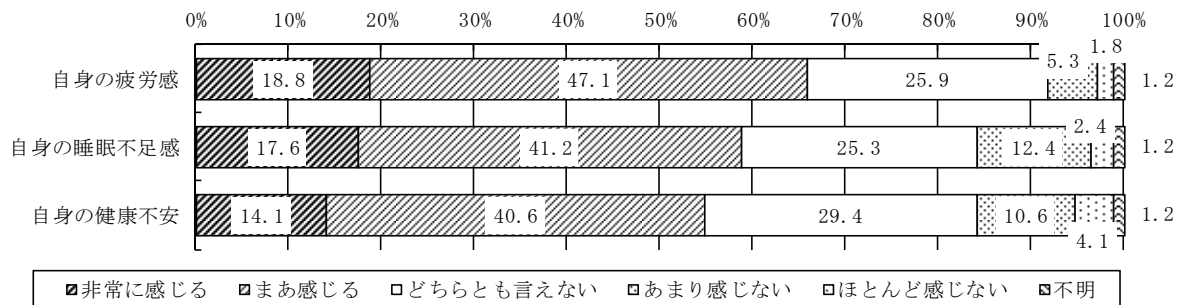


足感」が 58.8%、「健康不安」が 54.7%となっている（図表 1-5-1）。

疲労感、睡眠不足感、健康不安それぞれについて、週あたり労働時間別にみると、「感じる」とする割合は、いずれも労働時間が長くなるほどおおむね高まる傾向にある。月あたりの宿直回数別にみると、宿直回数が増加するほど、いずれも「感じる」とする割合が高まっている。宿直時の睡眠時間別にみると、宿直時で 4 時間未満の睡眠時間の者のほうが、いずれも「感じる」とする割合が高くなっている。実際に休めた週あたり休日数別にみると、「週休 1 日以下」の者のほうが「週休 2 日以上」に比べて、いずれも「感じる」とする割合が高い（図表 1-5-2）。

次に、疲労感に対する認識別に健康不安をみると、疲労を感じている者の健康不安を「感じる」割合は 75.9%である。また、睡眠不足感に対する認識別に健康不安をみると、睡眠不足感を感じている者の健康不安を「感じる」割合は 77.0%となっている（図表 1-5-3）。

図表 1-5-1：医療業務に携わるうえでの認識（n=170）〔医師調査〕

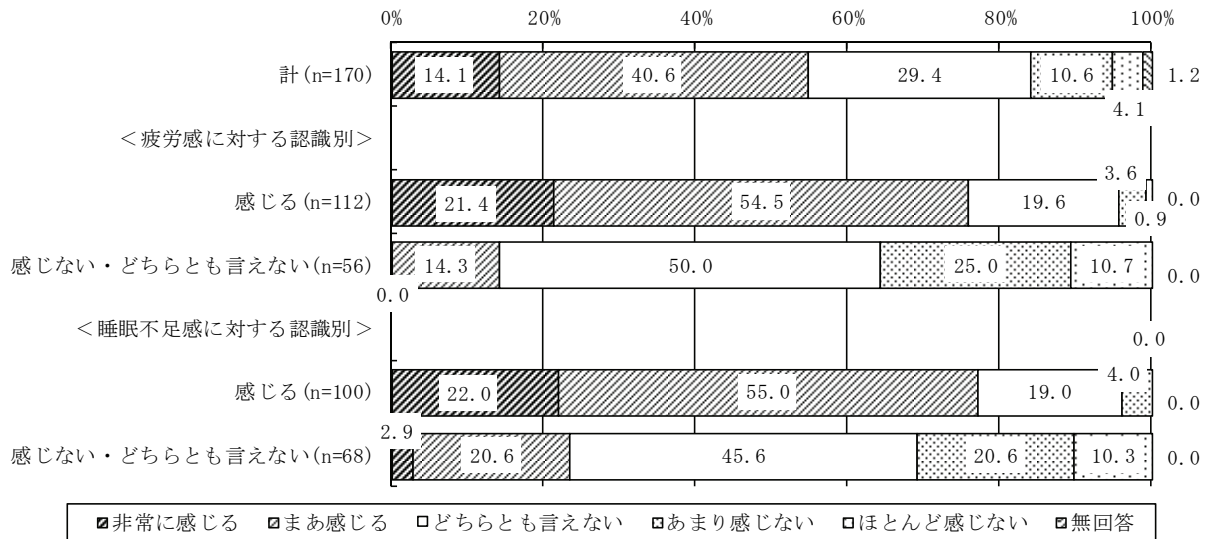


図表 1-5-2：疲労感、睡眠不足感、健康不安に対する認識（単位＝%）〔医師調査〕

	n	疲労感		睡眠不足感		健康不安	
		感じる計	感じない計	感じる計	感じない計	感じる計	感じない計
計	170	65.9	7.1	58.8	14.8	54.7	14.7
<週労働時間>							
5 0 時間未満	39	56.4	10.3	48.7	20.5	48.7	23.0
5 0 ～ 6 0 時間未満	33	72.8	9.1	51.6	18.2	54.6	21.3
6 0 時間以上	90	70.0	5.5	66.6	12.2	58.9	10.0
<月あたり宿直回数>							
ない、0 回	45	55.6	8.8	51.1	17.8	42.2	22.2
1 ～ 2 回	70	67.2	10.0	55.7	18.5	52.8	15.7
3 回以上	54	74.1	1.9	70.4	7.4	68.5	5.6
<宿直時の睡眠時間>							
4 時間未満	32	78.2	3.1	84.4	0.0	68.8	3.1
4 時間以上	89	67.4	6.7	55.1	18.0	56.2	13.5
<週あたり休日数>							
週休 1 日以下	125	68.8	6.4	62.4	11.2	56.8	10.4
週休 2 日以上	45	57.8	8.9	48.9	24.4	48.9	26.7
<年次有給休暇取得日数別>							
0 ～ 3 日	208	61.1	6.5	62.4	11.7	52.0	13.0
4 ～ 6 日	105	74.4	9.3	53.5	16.3	62.8	11.7
7 日以上	52	72.7	4.6	61.4	15.9	54.6	15.9

※「感じる」は「非常に感じる」「まあ感じる」の合計。「感じない」は「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計。

図表 1-5-3：健康不安に対するの認識〔医師調査〕

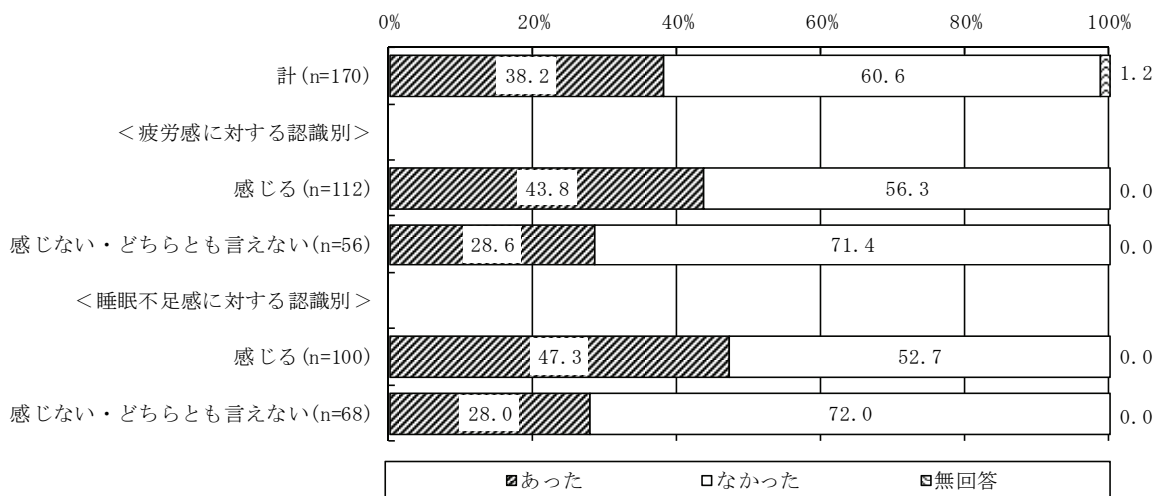


## 5-2. ヒヤリ・ハット体験

調査では、「この1ヵ月間において、医療事故につながるような、「ひやり」としたり、「はっと」したりした体験（ヒヤリ・ハット体験）があるか」について尋ねている。「ヒヤリ・ハット体験」が「あった」とするのは、38.2%となっている。これを疲労感に対する認識別にみると、疲労感を感じている者ほど、「あった」とする割合は高い。睡眠不足感に対する認識別にみても、睡眠不足を感じている者ほど、「あった」とする割合が高い（図表 1-5-4）。

なお、週あたり労働時間別にみると、「あった」とする割合は、「60 時間以上」で 41.1%いるが、「50 時間未満」でも 41.0%いる。月あたり宿直回数別にみると、回数が増加するほど「あった」とする割合は高まる。宿直時の睡眠時間別にみると、宿直時で 4 時間未満の睡眠時間の者のほうが、「あった」とする割合が高く、65.6%となっている（図表 1-5-5）。

図表 1-5-4：この1ヵ月間のヒヤリ・ハット体験の有無〔医師調査〕



図表 1-5-5：この1ヵ月間のヒヤリ・ハット体験の有無

(単位＝%) [医師調査]

	n	あった	なかった	不明
計	170	38.2	60.6	1.2
<週労働時間>				
50時間未満	39	41.0	56.4	2.6
50～60時間未満	33	24.2	75.8	0.0
60時間以上	90	41.1	57.8	1.1
<月あたり宿直回数>				
ない、0回	45	22.2	75.6	2.2
1～2回	70	34.3	65.7	0.0
3回以上	54	57.4	40.7	1.9
<宿直時の睡眠時間>				
4時間未満	32	65.6	31.3	3.1
4時間以上	89	38.2	61.8	0.0

### 5-3. 患者からの訴訟リスク

患者からの訴訟リスクについて尋ねたところ、38.3%が「感じる」（「非常に感じる」「まあ感じる」の合計）と回答しており、「感じない」（「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計）とする回答（20.0%）を上回っている。

これを診療科別にみると、「麻酔科蘇生科」で「感じる」とする割合が72.2%ともっとも高くなっており、次いで「小児科・新生児科、産科婦人科」54.2%、「救急科、救命救急、集中治療部」40.0%などとなっている（図表 1-5-6）

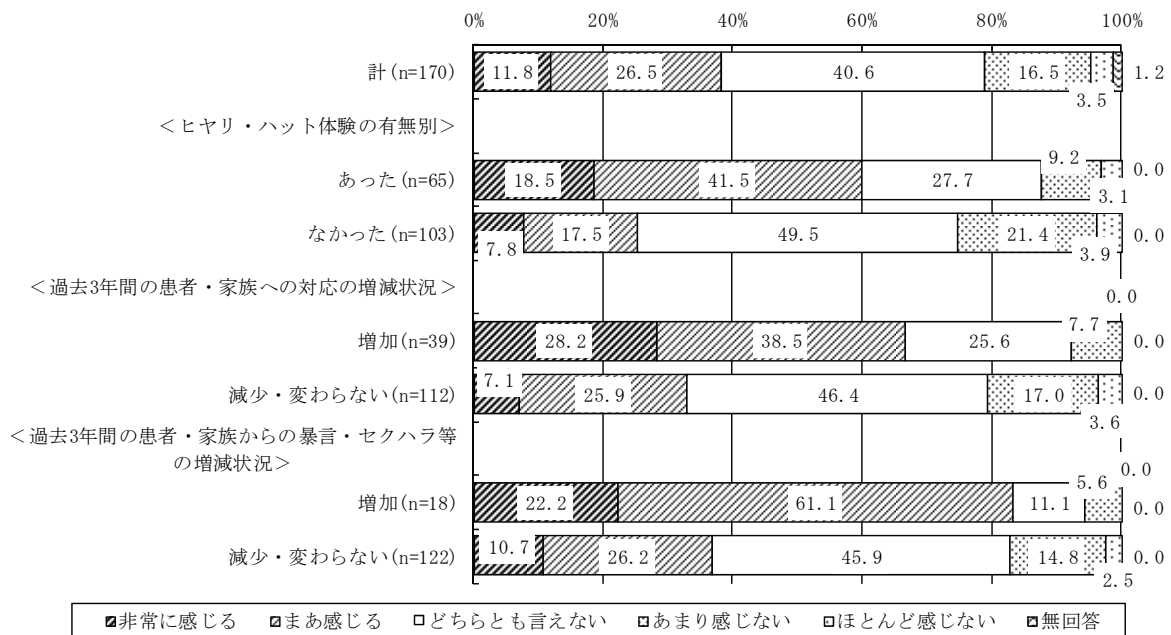
次に、ヒヤリ・ハット体験の有無別にみると、ヒヤリ・ハット体験が「あった」とする者で訴訟リスクを「感じる」とする割合は60.0%となっている。

過去3年間の患者・家族への対応の増減状況別にみると、「減少・変わらない」に比べて「増加」とする者のほうが訴訟リスクを「感じる」とする割合が高い。過去3年間の暴言・セクハラ等への対応の増減状況別にみると、「増加」とする者の「感じる」とする割合は83.3%と高くなっている（図表 1-5-7）。

図表 1-5-6：患者からの訴訟リスクに対する認識（単位＝%）[医師調査]

	n	患者からの訴訟リスクに対する認識						認識計	
		非常に感じる	まあ感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	ほとんど感じない	無回答	感じる計	感じない計
計	170	11.8	26.5	40.6	16.5	3.5	1.2	38.2	20.0
<診療科>									
内科	45	4.4	24.4	48.9	20.0	2.2	0.0	28.9	22.2
外科	35	8.6	17.1	45.7	20.0	8.6	0.0	25.7	28.6
小児科・新生児科、産科婦人科	24	20.8	33.3	29.2	12.5	4.2	0.0	54.2	16.7
救急科、救命救急、集中治療部	5	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
放射線科	10	0.0	30.0	50.0	20.0	0.0	0.0	30.0	20.0
麻酔科蘇生科	18	22.2	50.0	16.7	5.6	5.6	0.0	72.2	11.1
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	18.2	18.2	39.4	18.2	0.0	6.1	36.4	18.2

図表 1-5-7：患者からの訴訟リスクに対する認識〔医師調査〕



## 6. 年収

調査では勤務先での昨年1年間の税込年収（勤続年数が1年に満たない場合は年換算）を尋ねている。年収の平均値は619.9万円。これを身分別にみると、身分が高くなるほど年収の平均値は高くなる。勤務形態別にみると、年収の平均値は、「常勤」744.3万円、「非常勤・研修医」431.0万円である。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど、その平均値は高くなる傾向にある。月あたりの宿直回数別にみると、「1～2回」でその平均値はもっとも高い。オンコールの状態別にみると、オンコールが「1回以上」ある者のほうが年収の平均値は高い。

医師経験年数別にみると、年数が長くほど年収の平均値は高まる傾向にある。勤続年数でも同様であり、勤続年数の「5年以上」の平均値は798.2万円となっている（図表1-6-1）。

次に、給与・賃金の額の満足度をみると、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が51.8%であり、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合（23.5%）を上回っている。

これを診療科別にみると、「不満である」とする割合が高いのは、「外科」「小児科・新生児科、産科婦人科」などとなっている。逆に「満足である」とする割合が高いのは「麻酔科蘇生科」「放射線科」などである。

身分別にみると、「不満である」とする割合は「助教」で61.1%ともっとも高い。勤務形態別にみると、「常勤」のほうが「非常勤・研修医」に比べ「不満である」とする割合が高くなっている。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど「不満である」とする割合が高まる傾向にある。年収別にみると、「不満である」とする割合は、「500万円未満」で58.3%と

もっとも高くなっており、次いで、「700万円以上」で53.0%などとなっている。そこで週労働時間・年収別にみると、「60時間未満・500万円以上」で「満足である」とする割合が38.9%ともっとも高くなっている。その一方で、「60時間以上・500万円未満」では「不満である」とする割合がもっとも高くなっている。月あたり宿直回数別にみると、回数が「1～2回」の者で「不満である」割合がもっとも高い。オンコールの状態別にみると、「そもそもオンコールがない」者で「満足である」とする割合がもっとも高く、「不満である」とする割合は「0回」53.5%、「1回以上」53.0%と高くなっている（図表1-6-2）。

図表 1-6-1：勤務先の年収（単位＝%）〔医師調査〕

	n	300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～700万円未満	700～1000万円未満	1000万円以上	不明	平均(万円)	標本標準偏差
計	170	9.4	12.9	12.9	16.5	27.1	11.8	9.4	619.9	321.6
<診療科>										
内科	45	8.9	13.3	17.8	11.1	26.7	11.1	11.1	584.4	271.9
外科	35	8.6	14.3	11.4	25.7	17.1	14.3	8.6	620.9	326.5
小児科・新生児科、産科婦人科	24	8.3	8.3	12.5	12.5	33.3	12.5	12.5	634.4	320.6
救急科、救命救急、集中治療部	5	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	725.0	303.1
放射線科	10	10.0	0.0	0.0	30.0	20.0	20.0	20.0	853.8	486.0
麻酔科蘇生科	18	5.6	5.6	16.7	22.2	33.3	11.1	5.6	681.8	309.0
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	15.2	21.2	12.1	9.1	33.3	6.1	3.0	549.1	293.8
<身分>										
講師以上	32	0.0	0.0	6.3	9.4	43.8	34.4	6.3	901.3	277.7
助教	54	0.0	1.9	18.5	18.5	35.2	14.8	11.1	735.2	303.1
医員以下	79	17.7	26.6	12.7	17.7	15.2	1.3	8.9	440.5	214.8
<勤務形態>										
常勤	102	2.9	2.0	15.7	17.6	33.3	18.6	9.8	744.3	314.8
非常勤・研修医	65	20.0	30.8	7.7	15.4	16.9	1.5	7.7	431.0	230.9
<週労働時間>										
50時間未満	39	23.1	7.7	17.9	20.5	12.8	10.3	7.7	501.3	315.7
50～60時間未満	33	12.1	12.1	12.1	9.1	42.4	6.1	6.1	621.9	277.0
60時間以上	90	3.3	16.7	11.1	18.9	27.8	15.6	6.7	667.3	329.5
<月あたり宿直回数>										
ない、0回	45	22.2	13.3	13.3	8.9	20.0	13.3	8.9	540.2	333.2
1～2回	70	5.7	12.9	12.9	14.3	25.7	18.6	10.0	689.0	371.5
3回以上	54	3.7	13.0	13.0	25.9	35.2	1.9	7.4	598.0	204.9
<オンコールの状態>										
そもそもオンコールはない	25	8.0	24.0	12.0	20.0	24.0	0.0	12.0	514.2	236.2
0回	73	12.3	12.3	15.1	13.7	27.4	13.7	5.5	610.8	321.6
1回以上	68	5.9	10.3	11.8	19.1	29.4	13.2	10.3	664.6	320.7
<医師経験年数>										
3年未満	17	17.6	58.8	5.9	5.9	0.0	0.0	11.8	332.0	62.2
3～5年未満	16	6.3	18.8	18.8	31.3	25.0	0.0	0.0	518.1	174.8
5～10年未満	32	15.6	18.8	12.5	18.8	21.9	9.4	3.1	534.2	272.8
10年以上	95	6.3	3.2	13.7	16.8	34.7	16.8	8.4	721.0	339.3
<勤続年数>										
3年未満	61	18.0	29.5	11.5	18.0	13.1	4.9	4.9	451.3	231.2
3～5年未満	35	8.6	5.7	22.9	25.7	22.9	2.9	11.4	561.3	263.9
5年以上	69	2.9	2.9	10.1	11.6	43.5	23.2	5.8	798.2	324.6

図表 1-6-2：給与・賃金の額の満足度（単位＝％）〔医師調査〕

	給与・賃金の額の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	170	5.9	17.6	24.1	20.6	31.2	0.6	23.5	51.8
<診療科>									
内科	45	4.4	24.4	35.6	17.8	17.8	0.0	28.8	35.6
外科	35	0.0	5.7	20.0	22.9	51.4	0.0	5.7	74.3
小児科・新生児科、産科婦人科	24	4.2	8.3	16.7	29.2	41.7	0.0	12.5	70.9
救急科、救命救急、集中治療部	5	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0	40.0
放射線科	10	0.0	40.0	30.0	30.0	0.0	0.0	40.0	30.0
麻酔科蘇生科	18	16.7	33.3	22.2	11.1	16.7	0.0	50.0	27.8
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	12.1	12.1	15.2	18.2	39.4	3.0	24.2	57.6
<身分別>									
講師以上	32	3.1	25.0	15.6	21.9	34.4	0.0	28.1	56.3
助教	54	1.9	13.0	24.1	22.2	38.9	0.0	14.9	61.1
医員以下	79	8.9	17.7	29.1	19.0	24.1	1.3	26.6	43.1
<勤務形態>									
常勤	102	2.9	18.6	22.5	21.6	34.3	0.0	21.5	55.9
非常勤・研修医	65	10.8	16.9	26.2	18.5	26.2	1.5	27.7	44.7
<週労働時間>									
50時間未満	39	10.3	25.6	25.6	12.8	25.6	0.0	35.9	38.4
50～60時間未満	33	6.1	24.2	21.2	18.2	30.3	0.0	30.3	48.5
60時間以上	90	4.4	12.2	23.3	24.4	34.4	1.1	16.6	58.8
<年収>									
500万円未満	60	8.3	8.3	23.3	23.3	35.0	1.7	16.6	58.3
500～700万円未満	28	7.1	32.1	17.9	25.0	17.9	0.0	39.2	42.9
700万円以上	66	3.0	19.7	24.2	19.7	33.3	0.0	22.7	53.0
<週労働時間・年収別>									
60時間未満・500万円未満	31	16.1	9.7	19.4	16.1	38.7	0.0	25.8	54.8
60時間未満・500万円以上	36	0.0	38.9	27.8	16.7	16.7	0.0	38.9	33.3
60時間以上・500万円未満	28	0.0	7.1	25.0	32.1	32.1	3.6	7.1	64.3
60時間以上・500万円以上	56	7.1	14.3	19.6	23.2	35.7	0.0	21.4	58.9
<月あたり宿直回数>									
ない、0回	45	15.6	26.7	20.0	15.6	22.2	0.0	42.3	37.8
1～2回	70	1.4	12.9	21.4	30.0	34.3	0.0	14.3	64.3
3回以上	54	3.7	16.7	29.6	13.0	35.2	1.9	20.4	48.2
<オンコールの状態>									
そもそもオンコールはない	25	8.0	32.0	12.0	8.0	40.0	0.0	40.0	48.0
0回	73	6.8	17.8	20.5	28.8	24.7	1.4	24.6	53.5
1回以上	68	2.9	13.2	30.9	16.2	36.8	0.0	16.1	53.0

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

## 7. 仕事と生活の優先度と仕事、勤務先の満足度

### (1)仕事と生活の優先度

調査では仕事と生活のどちらを優先しているか、現在の状況と今後の希望にわけて尋ねている。それによれば、現在の状況で、「仕事優先」（「仕事」「どちらかといえば仕事」の合計）が67.7%、「同じくらい」が20.0%、「生活優先」（「生活」「どちらかといえば生活」の合計）が11.7%となっている。一方、今後の希望については、「（仕事と生活が）同じくらい」を望

んでいる者がもっとも高く 48.2%となっており、次いで、「生活優先」が 26.4%、「仕事優先」が 24.1%となっている（図表 1-7-1）。

現在の状況について、月あたりの宿直回数別にみると、宿直回数が「ない、0回」者の「仕事優先」は 48.9%となっており、「生活優先」は 28.9%となっている。宿直回数が増えるほど、「仕事優先」の割合は高まる傾向にある。オンコールの状態別にみると、「1回以上」で「仕事優先」の割合がもっとも高い。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど「仕事優先」の割合が高まる傾向にあり、「60時間以上」ではその割合は 80.0%となっている。週あたり休日日数別にみると、「週休1日以下」の者の「仕事優先」の割合は 76.8%となっている。「週休2日以上」の「仕事優先」の割合は、42.2%である。年次有給休暇取得日数別にみると、取得日数「0~3日」で「仕事優先」の割合はもっとも高い（図表 1-7-2）。

次に、仕事の優先度の今後の希望を現在の状況別にみると、現在の「仕事優先」の者で、もっとも割合が高いのは「(仕事と生活が)同じくらい」(45.2%)である。現在、「仕事優先」の者の半数弱は、仕事と生活のウェイトを同程度とすることを希望しているようである。今後の希望も「仕事優先」としている者は 33.1%であり、「生活優先」に切り替えたいと考えている者が 21.7%となっている（図表 1-7-3）。

今後の希望について、週あたり労働時間別にみると、「60時間以上」の者では、「(仕事と生活が)同じくらい」が 46.7%ともっとも割合が高い。今後の希望も「仕事優先」としている者は 24.5%であり、「生活優先」を希望する者が 26.7%となっている。

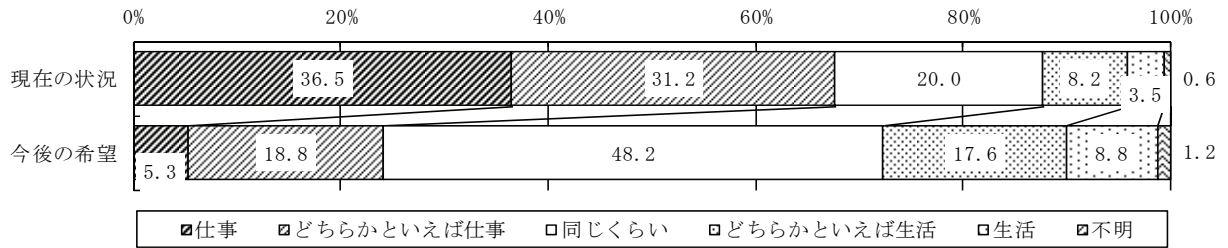
身分別にみると、身分が上がるほど「仕事優先」の割合が高まる一方で、「生活優先」の割合が低くなる傾向にある。また、年齢別にみると、年齢が高くなるほど、「仕事優先」の割合が高まる一方で、「生活優先」の割合が低くなる傾向にある。

性別にみると、女性のほうが「生活優先」の割合が高い。性・年齢別にみると、男性では年齢が上がるほど「仕事優先」の割合が高まるが、女性では、「30代以下」よりも「40代以上」のほうが「生活優先」の割合が高い。

性・子供の有無別にみると、男性では子供の有無にかかわらず、「仕事優先」が 3割前後存在し、「生活優先」は「男性・子供あり」のほうが「男性・子供なし」に比べて高くなっている。女性では、子供の有無にかかわらず、生活優先が 4割程度存在し、「仕事優先」の割合は「女性・子供なし」のほうが「女性・子供あり」に比べて高い（図表 1-7-4）。

仕事と私生活の調和の満足度をみると、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が 42.3%であり、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合（23.5%）を大きく上回っている。これを仕事と生活の優先度（現在の状況）別にみると、「仕事優先」から「生活優先」になるほど、「満足である」とする割合が高まる。「仕事優先」では、「不満である」とする割合は 53.1%と高くなっている（図表 1-7-5）。

図表 1-7-1 : 仕事と生活の優先度 (n=170、単位=%) [医師調査]

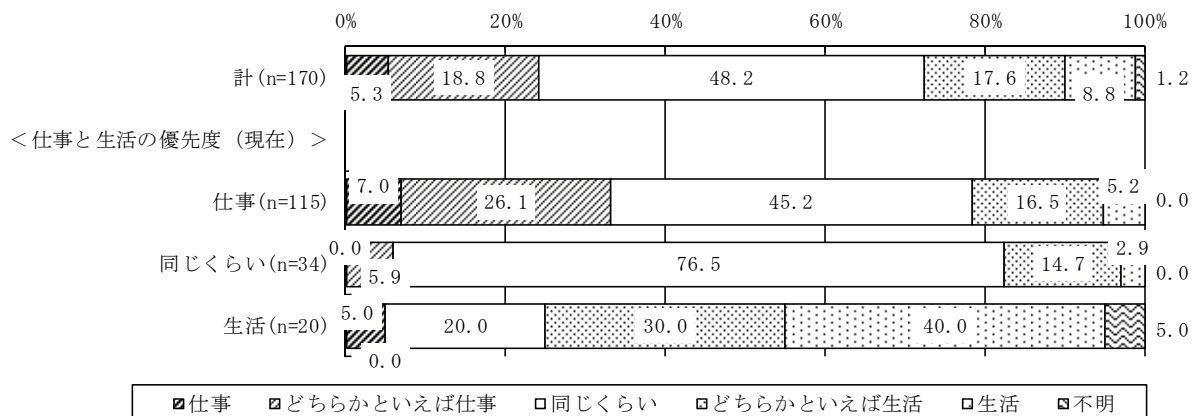


図表 1-7-2 : 仕事と生活の優先度 (現在の状況) (単位=%) [医師調査]

	仕事と生活の優先度 (現在の状況)							優先度計	
	n	仕事	どちらかといえば仕事	同じくらい	どちらかといえば生活	生活	不明	仕事優先計	生活優先計
計	170	36.5	31.2	20.0	8.2	3.5	0.6	67.7	11.7
<月あたり宿直回数>									
ない、0回	45	28.9	20.0	22.2	15.6	13.3	0.0	48.9	28.9
1~2回	70	32.9	41.4	21.4	4.3	0.0	0.0	74.3	4.3
3回以上	54	48.1	27.8	16.7	5.6	0.0	1.9	75.9	5.6
<オンコールの状態>									
そもそもオンコールはない	25	20.0	36.0	24.0	12.0	8.0	0.0	56.0	20.0
0回	73	34.2	31.5	17.8	9.6	5.5	1.4	65.7	15.1
1回以上	68	45.6	30.9	19.1	4.4	0.0	0.0	76.5	4.4
<週労働時間>									
50時間未満	39	10.3	25.6	33.3	23.1	7.7	0.0	35.9	30.8
50~60時間未満	33	39.4	30.3	21.2	3.0	6.1	0.0	69.7	9.1
60時間以上	90	46.7	33.3	13.3	4.4	1.1	1.1	80.0	5.5
<週あたり休日日数>									
週休1日以下	125	46.4	30.4	17.6	4.0	0.8	0.8	76.8	4.8
週休2日以上	45	8.9	33.3	26.7	20.0	11.1	0.0	42.2	31.1
<年次有給休暇取得日数>									
0~3日	77	44.2	33.8	14.3	5.2	1.3	1.3	78.0	6.5
4~6日	43	23.3	37.2	30.2	9.3	0.0	0.0	60.5	9.3
7日以上	44	38.6	25.0	18.2	11.4	6.8	0.0	63.6	18.2

※「仕事優先」は「仕事」「どちらかといえば仕事」の合計。「生活優先」は「生活」「どちらかといえば生活」の合計。

図表 1-7-3 : 仕事と生活の優先度 (今後の希望) (単位=%) [医師調査]



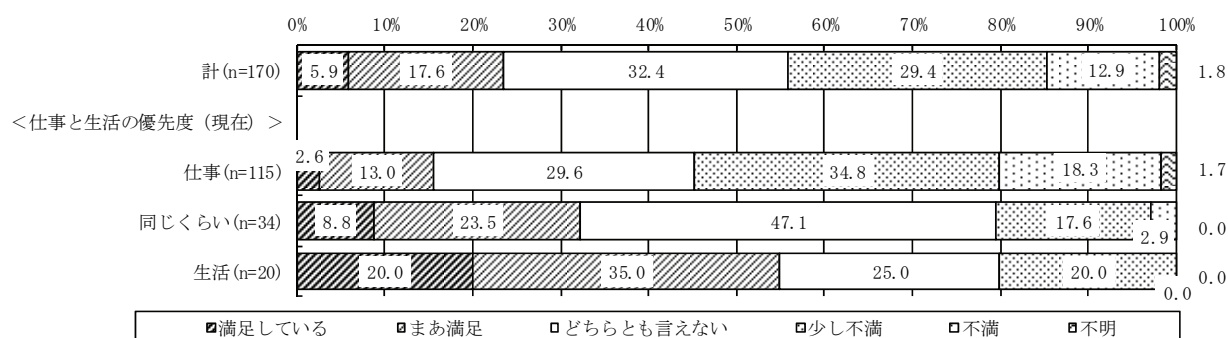


図表 1-7-4 : 仕事と生活の優先度 (今後の希望) (単位=%) [医師調査]

	仕事と生活の優先度 (今後)							優先度計	
	n	仕事	どちらかといえば仕事	同じくらい	どちらかといえば生活	生活	不明	仕事優先計	生活優先計
計	170	5.3	18.8	48.2	17.6	8.8	1.2	24.1	26.4
<週労働時間>									
50時間未満	39	7.7	7.7	59.0	17.9	7.7	0.0	15.4	25.6
50～60時間未満	33	0.0	33.3	36.4	21.2	9.1	0.0	33.3	30.3
60時間以上	90	6.7	17.8	46.7	16.7	10.0	2.2	24.5	26.7
<身分>									
講師以上	32	9.4	31.3	43.8	15.6	0.0	0.0	40.7	15.6
助教	54	5.6	22.2	48.1	13.0	9.3	1.9	27.8	22.3
医員以下	79	2.5	11.4	50.6	22.8	11.4	1.3	13.9	34.2
<年齢>									
30代以下	97	4.1	16.5	49.5	19.6	10.3	0.0	20.6	29.9
40代	54	5.6	22.2	48.1	16.7	5.6	1.9	27.8	22.3
50代以上	14	14.3	21.4	50.0	14.3	0.0	0.0	35.7	14.3
<性別>									
男性	123	5.7	24.4	48.8	13.8	6.5	0.8	30.1	20.3
女性	44	4.5	4.5	47.7	29.5	13.6	0.0	9.0	43.1
<性・年齢>									
男性・30代以下	63	3.2	23.8	49.2	14.3	9.5	0.0	27.0	23.8
男性・40代	45	6.7	24.4	51.1	13.3	2.2	2.2	31.1	15.6
男性・50代以上	13	15.4	23.1	46.2	15.4	0.0	0.0	38.5	15.4
女性・30代以下	34	5.9	2.9	50.0	29.4	11.8	0.0	8.8	41.2
女性・40代以上	10	0.0	10.0	40.0	30.0	20.0	0.0	10.0	50.0
<性・子供の有無>									
男性・子供あり	84	7.1	21.4	46.4	14.3	9.5	1.2	28.5	23.8
男性・子供なし	38	2.6	28.9	55.3	13.2	0.0	0.0	31.5	13.2
女性・子供あり	18	0.0	0.0	55.6	27.8	16.7	0.0	0.0	44.5
女性・子供なし	26	7.7	7.7	42.3	30.8	11.5	0.0	15.4	42.3

※「仕事優先」は「仕事」「どちらかといえば仕事」の合計。「生活優先」は「生活」「どちらかといえば生活」の合計。

図表 1-7-5 : 仕事と私生活の調和の満足度 (単位=%) [医師調査]



## (2) 勤務先の仕事の質、内容の満足度

勤務先の仕事の質、内容の満足度をみると、「満足である」(「満足している」「まあ満足」の合計)とする割合が57.6%であり、「不満である」(「不満」「少し不満」の合計)とする割合(19.4%)を大きく上回っている。これを仕事と生活の優先度(現在の状況)別にみると、

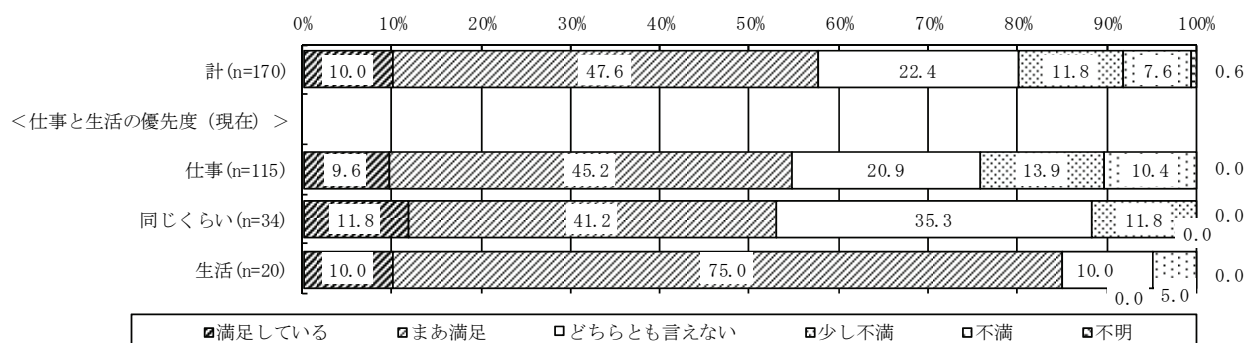
「仕事優先」から「生活優先」になるほど、おおむね「満足である」とする割合が高まる。「仕事優先」では、「不満である」とする割合は24.3%と高い（図表 1-7-6）。

診療科別にみると、「満足である」とする割合が高いのは、「救急科、救命救急、集中治療部」で100.0%ともっとも高く、次いで、「麻酔科蘇生科」「その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）」などとなっている。身分別にみると、「満足である」とする割合が高いのは「講師以上」（75.1%）である。「不満である」とする割合は、「助教」（20.4%）、「医員以下」（20.3%）で高い。勤務形態別にみると、「非常勤・研修医」のほうが「常勤」に比べ、わずかに「満足である」とする割合が高い。主治医制の別にみると、「専任主治医制以外」のほうが「専任主治医制」に比べ、「満足である」とする割合が高くなっている。

週あたり研究時間別にみると、研究時間がある者では、研究時間が長くなるほど、「満足である」とする割合が高まる傾向にある。先端医療技術の習得機会の不足別にみると、不足を「感じる」とする者よりも、「感じない・どちらとも言えない」者のほうが「満足である」割合は高い。月あたりの宿直回数別にみると、「ない、0回」で「満足である」とする割合が75.5%ともっとも高くなっている。「不満である」とする割合は、回数が多くなるほど高まる傾向にある。オンコールの状態別にみると、「満足である」とする割合は、オンコールが「1回以上」でもっとも低くなっている。週あたり労働時間別にみると、労働時間が「50～60時間」で「満足である」とする割合が61.7%ともっとも高くなっている。「不満である」とする割合は、労働時間が長くなるほど高まる傾向にある。実際に休めた週あたり休日数別にみると、「週休1日以下」の者のほうが「不満である」とする割合が高くなっている。年次有給休暇取得日数別にみると、「不満である」とする割合は、おおむね取得日数が少なくなるほど高まる傾向にある。

仕事上の相談相手の不足の認識別にみると、仕事上の相談相手の不足を「感じる」者のほうが、「感じない・どちらとも言えない」者に比べて、「満足である」とする割合が低くなっている。健康不安の認識別にみると、健康不安を「感じる」者のほうが、「感じない・どちらとも言えない」者に比べて、「満足である」とする割合が低い（図表 1-7-7）。

図表 1-7-6：勤務先の仕事の質、内容の満足度（単位＝%）〔医師調査〕



図表 1-7-7：勤務先の仕事の質、内容の満足度（単位＝％）〔医師調査〕

	勤務先の仕事の質、内容の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	170	10.0	47.6	22.4	11.8	7.6	0.6	57.6	19.4
＜診療科＞									
内科	45	8.9	48.9	28.9	6.7	6.7	0.0	57.8	13.4
外科	35	5.7	51.4	22.9	5.7	14.3	0.0	57.1	20.0
小児科・新生児科、産科婦人科	24	0.0	37.5	25.0	37.5	0.0	0.0	37.5	37.5
救急科、救命救急、集中治療部	5	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
放射線科	10	0.0	50.0	40.0	0.0	10.0	0.0	50.0	10.0
麻酔科蘇生科	18	22.2	50.0	11.1	11.1	5.6	0.0	72.2	16.7
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	18.2	42.4	15.2	12.1	9.1	3.0	60.6	21.2
＜身分＞									
講師以上	32	18.8	56.3	9.4	6.3	9.4	0.0	75.1	15.7
助教	54	1.9	42.6	35.2	13.0	7.4	0.0	44.5	20.4
医員以下	79	10.1	49.4	19.0	12.7	7.6	1.3	59.5	20.3
＜勤務形態＞									
常勤	102	6.9	48.0	24.5	13.7	6.9	0.0	54.9	20.6
非常勤・研修医	65	15.4	46.2	20.0	7.7	9.2	1.5	61.6	16.9
＜主治医制の別＞									
専任主治医制	87	6.9	46.0	26.4	9.2	11.5	0.0	52.9	20.7
専任主治医制以外	81	13.6	49.4	18.5	13.6	3.7	1.2	63.0	17.3
＜週あたり研究時間＞									
ない	61	13.1	47.5	19.7	11.5	6.6	1.6	60.6	18.1
5時間未満	46	8.7	41.3	32.6	4.3	13.0	0.0	50.0	17.3
5～10時間未満	27	7.4	44.4	22.2	14.8	11.1	0.0	51.8	25.9
10時間以上	31	9.7	58.1	12.9	19.4	0.0	0.0	67.8	19.4
＜先端医療技術の習得機会の不足＞									
感じる	72	6.9	41.7	23.6	13.9	13.9	0.0	48.6	27.8
感じない・どちらとも言えない	96	11.5	53.1	21.9	10.4	3.1	0.0	64.6	13.5
＜月あたり宿直回数＞									
ない、0回	45	22.2	53.3	13.3	6.7	4.4	0.0	75.5	11.1
1～2回	70	5.7	44.3	28.6	10.0	11.4	0.0	50.0	21.4
3回以上	54	5.6	46.3	22.2	18.5	5.6	1.9	51.9	24.1
＜オンコールの状態＞									
そもそもオンコールはない	25	4.0	56.0	16.0	16.0	8.0	0.0	60.0	24.0
0回	73	9.6	52.1	23.3	9.6	4.1	1.4	61.7	13.7
1回以上	68	11.8	38.2	25.0	13.2	11.8	0.0	50.0	25.0
＜週労働時間＞									
50時間未満	39	15.4	41.0	28.2	10.3	5.1	0.0	56.4	15.4
50～60時間未満	33	15.2	51.5	15.2	6.1	12.1	0.0	66.7	18.2
60時間以上	90	6.7	47.8	22.2	15.6	6.7	1.1	54.5	22.3
＜週あたり週休日数＞									
週休1日以下	125	8.8	47.2	21.6	13.6	8.0	0.8	56.0	21.6
週休2日以上	45	13.3	48.9	24.4	6.7	6.7	0.0	62.2	13.4
＜年次有給休暇取得日数＞									
0～3日	77	10.4	39.0	24.7	15.6	9.1	1.3	49.4	24.7
4～6日	43	4.7	62.8	18.6	4.7	9.3	0.0	67.5	14.0
7日以上	44	11.4	45.5	25.0	13.6	4.5	0.0	56.9	18.1
＜仕事上の相談相手の不足＞									
感じる	58	8.6	39.7	25.9	17.2	8.6	0.0	48.3	25.8
感じない・どちらとも言えない	110	10.0	52.7	20.9	9.1	7.3	0.0	62.7	16.4
＜健康不安＞									
感じる	93	7.5	48.4	18.3	17.2	8.6	0.0	55.9	25.8
感じない・どちらとも言えない	75	12.0	48.0	28.0	5.3	6.7	0.0	60.0	12.0

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

### (3)勤務先（職場全体）の満足度

勤務先（職場全体）の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が61.2%であり、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合（17.0%）を大きく上回っている。これを勤続年数別にみると、勤続年数が短い者ほどおおむね「満足である」とする割合がわずかに高まる。出身大学別にみると、「満足である」とする割合に出身大学は関係がない。

調査では職場での過去3年間の医師数、看護師数、医療技術職員数、医療事務職員数の増減状況をそれぞれ尋ねている。それによれば、いずれの職種でも「減少・変わらない」とする者よりも、「増加」とする者のほうが「満足である」とする割合が高い（図表 1-7-8）。職場の人員増加がなされていると感じている者ほど、勤務先の満足度は高まるようである。

図表 1-7-8：勤務先（職場全体）の満足度（単位＝％）〔医師調査〕

	勤務先（職場全体）の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	170	14.1	47.1	21.2	9.4	7.6	0.6	61.2	17.0
<勤続年数>									
3年未満	61	16.4	45.9	19.7	9.8	6.6	1.6	62.3	16.4
3～5年未満	35	20.0	42.9	17.1	14.3	5.7	0.0	62.9	20.0
5年以上	69	8.7	50.7	26.1	7.2	7.2	0.0	59.4	14.4
<出身大学>									
A大学出身	98	10.2	51.0	22.4	10.2	5.1	1.0	61.2	15.3
それ以外	64	17.2	43.8	20.3	9.4	9.4	0.0	61.0	18.8
<過去3年間の医師数の増減状況>									
増加	65	12.3	56.9	18.5	4.6	7.7	0.0	69.2	12.3
減少・変わらない	96	15.6	39.6	24.0	12.5	8.3	0.0	55.2	20.8
<過去3年間の看護師数の増減状況>									
増加	38	13.2	55.3	18.4	10.5	2.6	0.0	68.5	13.1
減少・変わらない	120	15.0	43.3	23.3	8.3	10.0	0.0	58.3	18.3
<過去3年間の医療技術者数の増減状況>									
増加	35	14.3	54.3	17.1	11.4	2.9	0.0	68.6	14.3
減少・変わらない	121	13.2	44.6	24.0	9.1	9.1	0.0	57.8	18.2
<過去3年間の医療事務職員数の増減状況>									
増加	50	10.0	60.0	18.0	10.0	2.0	0.0	70.0	12.0
減少・変わらない	109	15.6	41.3	22.9	9.2	11.0	0.0	56.9	20.2

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

## 8. 将来の働き方

### (1)将来の働き方

将来の働き方は、「別の病院に異動したい」が44.7%ともっとも割合が高く、次いで、「今の病院で働き続けたい」が37.6%、「開業したい」が6.5%、「診療を辞めたい（医師の資格を活かして、研究職や行政職、企業就職をする等）」が2.9%などとなっている。

「今の職場で働き続けたい」とする割合を性別にみると、男性のほうがその割合が高い。年齢別にみると、年齢が高くなるほど、その割合は高くなる。

医師経験年数別にみると、経験年数が長くなるほど「今の職場で働きたい」とする割合は高い。出身大学別にみると、A大学出身者よりも、わずかではあるが、「それ以外」のほうが、その割合は高い。勤続年数別にみると勤続年数が長くなるほど、「今の職場で働きたい」とする割合は高くなっている。勤務形態別にみると、「今の職場で働きたい」とする割合は「常勤」のほうが高い。身分別にみると、「講師以上」でその割合は71.9%と高くなっている。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど、「今の病院で働きたい」とする割合は低くなり、「別の病院に異動したい」とする割合は高まる傾向にある。実際に休めた週あたり休日数別にみると、「週休1日以下」の者は「週休2日以上」の者に比べ、「別の病院に異動したい」とする割合が高い。年次有給休暇取得日数別にみると、「7日以上」で「今の病院で働きたい」とする割合が高い。年収別にみると、年収が高くなるほど「今の病院で働きたい」とする割合は高くなる（図表1-8-1）。

週あたり研究時間別にみると、研究時間が長くなるほど「今の病院で働きたい」とする割合は高まる。また、研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の満足度別にみると、「満足」とする者ほど、「今の病院で働きたい」とする割合が高く、「どちらとも言えない・不満」とする者のほうが「別の病院に異動したい」とする割合が高い（図表1-8-2）。

図表 1-8-1：将来の働き方（単位＝％）〔医師調査〕

	n	今の病院で働きたい	別の病院に異動したい	開業したい	診療を辞めたい	その他	不明
計	170	37.6	44.7	6.5	2.9	5.9	2.4
<性別>							
男性	123	40.7	43.1	5.7	4.1	4.9	1.6
女性	44	31.8	52.3	9.1	0.0	6.8	0.0
<年齢>							
30代以下	97	32.0	54.6	4.1	1.0	6.2	2.1
40代	54	44.4	37.0	11.1	3.7	3.7	0.0
50代以上	14	64.3	14.3	7.1	7.1	7.1	0.0
<医師経験年数>							
3年未満	17	29.4	29.4	17.6	0.0	11.8	11.8
3～5年未満	16	31.3	68.8	0.0	0.0	0.0	0.0
5～10年未満	32	34.4	56.3	3.1	0.0	6.3	0.0
10年以上	95	41.1	43.2	7.4	4.2	4.2	0.0
<出身大学>							
A大学出身	98	36.7	48.0	6.1	2.0	5.1	2.0
それ以外	64	39.1	43.8	7.8	3.1	4.7	1.6
<勤続年数>							
3年未満	61	32.8	49.2	8.2	1.6	4.9	3.3
3～5年未満	35	37.1	45.7	5.7	2.9	5.7	2.9
5年以上	69	43.5	42.0	5.8	2.9	5.8	0.0

	n	今の病院で働きたい	別の病院に異動したい	開業したい	診療を辞めたい	その他	不明
計	170	37.6	44.7	6.5	2.9	5.9	2.4
<勤務形態>							
常勤	102	40.2	44.1	4.9	3.9	5.9	1.0
非常勤・研修医	65	35.4	43.1	9.2	1.5	6.2	4.6
<身分>							
講師以上	32	71.9	18.8	0.0	3.1	6.3	0.0
助教	54	25.9	51.9	9.3	5.6	5.6	1.9
医員以下	79	31.6	50.6	6.3	1.3	6.3	3.8
<週労働時間>							
50時間未満	39	43.6	38.5	12.8	0.0	2.6	2.6
50～60時間未満	33	39.4	45.5	6.1	3.0	6.1	0.0
60時間以上	90	33.3	50.0	4.4	3.3	7.8	1.1
<週あたり休日数>							
週休1日以下	125	34.4	50.4	4.8	3.2	6.4	0.8
週休2日以上	45	46.7	28.9	11.1	2.2	4.4	6.7
<年次有給休暇取得日数>							
0～3日	77	32.5	48.1	6.5	5.2	3.9	3.9
4～6日	43	32.6	48.8	9.3	0.0	9.3	0.0
7日以上	44	47.7	40.9	4.5	2.3	4.5	0.0
<年収>							
500万円未満	60	31.7	48.3	10.0	3.3	5.0	1.7
500～700万円未満	28	39.3	50.0	3.6	0.0	7.1	0.0
700万円以上	66	43.9	40.9	6.1	3.0	6.1	0.0

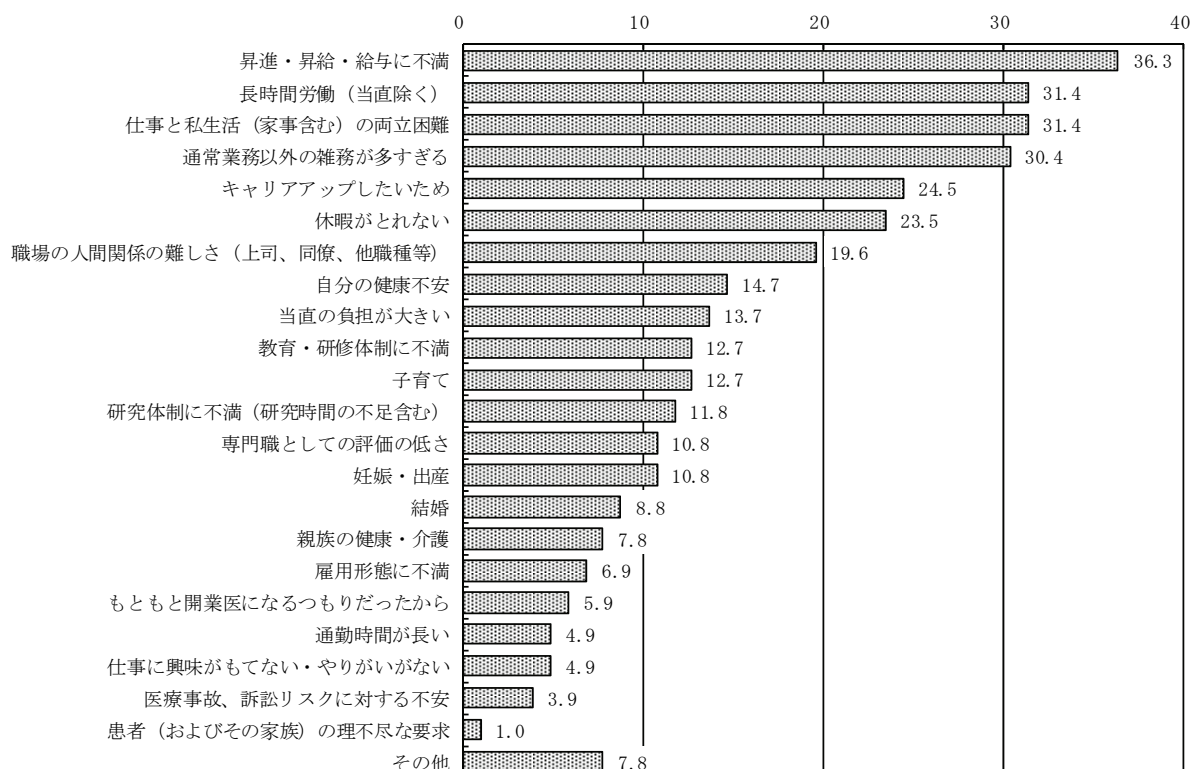
図表 1-8-2：将来の働き方（単位＝％）〔医師調査〕

	n	今の病院 で働き続 けたい	別の病院 に異動し たい	開業した い	診療を辞 めたい	その他	無回答
計	170	37.6	44.7	6.5	2.9	5.9	2.4
<週あたり研究時間数別>							
ない	61	31.1	47.5	11.5	1.6	3.3	4.9
5時間未満	46	37.0	47.8	4.3	6.5	2.2	2.2
5～10時間未満	27	37.0	40.7	3.7	3.7	14.8	0.0
10時間以上	31	54.8	35.5	0.0	0.0	9.7	0.0
<研究等スキルの向上やキャリアアップ に費やす時間の満足度別>							
満足	58	55.2	32.8	1.7	0.0	8.6	1.7
どちらとも言えない・不満	109	28.4	52.3	9.2	4.6	4.6	0.9

(2)今の病院で働きたくないとする理由

調査では、「別の病院に異動したい」「開業したい」「診療を辞めたい」「その他」と回答した者について、今の病院で働きたくないとする理由を尋ねている。それによれば、「昇進・昇給・給与に不満」が36.3%と最も多く、次いで、「長時間労働（当直除く）」（31.4%）、「仕事と私生活（家事含む）の両立困難」（31.4%）、「通常業務以外の雑務が多すぎる」（30.4%）、「キャリアアップしたいため」（24.5%）、「休暇がとれない」（23.5%）などとなっている（図表 1-8-3）。

図表 1-8-3：今の病院で働きたくないとする理由（n=102、複数回答、単位＝％）〔医師調査〕



※「別の病院に移動したい」「開業したい」「診療を辞めたい」「その他」と回答した者を対象に集計。「国際貢献・ボランティアに参加したいため」は該当者ゼロのため図表から割愛。

## 第2章 看護師調査の概要

### 1. 回答者属性

#### (1) 勤続年数、看護師経験年数

看護師の勤続年数は、その平均値が 8.7 年となっており、これを性別にみると、女性のほうが 8.9 年と長い(図表 2-1-1)。看護師経験年数(調査時点から看護資格取得年を引いた値。以下同じ)は 10.6 年であり、これを性別にみると、男性のほうが 4.7 年、女性 10.9 年となっている(図表 2-1-2)。

調査では看護資格取得時の大学等について尋ねている。それによれば、「A 大学」が 34.6%、「それ以外の大学」が 19.5%となっている。これを医師経験年数別にみると、「専門学校」「短大」の割合は、経験年数が長くなるほどおおむね高まる一方で、「大学出身者」(「A 大学」「それ以外の大学」)の割合が低くなる傾向にある(図表 2-1-3)。

図表 2-1-1 : 勤続年数 (単位=%) [看護師調査]

	n	1年以下	2年	3~5年 未満	5~10年 未満	10~20 年未満	20年以 上	不明	平均 (年)	標本標 準偏差
計	379	10.8	9.0	22.2	24.3	14.5	13.2	6.1	8.7	8.5
<性別>										
男性	19	21.1	21.1	21.1	31.6	0.0	0.0	5.3	3.4	2.2
女性	359	10.3	8.4	22.3	24.0	15.0	13.9	6.1	8.9	8.6

図表 2-1-2 : 看護師経験年数 (単位=%) [看護師調査]

	n	3年未満	3~5年 未満	5~8年 未満	8~10年 未満	10~15 年未満	15年以 上	不明	平均 (年)	標本標 準偏差
計	373	15.0	19.8	13.4	7.8	11.5	26.0	6.4	10.6	9.5
<性別>										
男性	19	26.3	21.1	26.3	5.3	15.8	0.0	5.3	4.7	3.3
女性	353	14.4	19.8	12.7	7.9	11.3	27.2	6.5	10.9	9.6

※看護師経験年数は、調査時点から看護資格取得年を引いた値。

図表 2-1-3 : 看護資格取得時の大学等 (単位=%) [看護師調査]

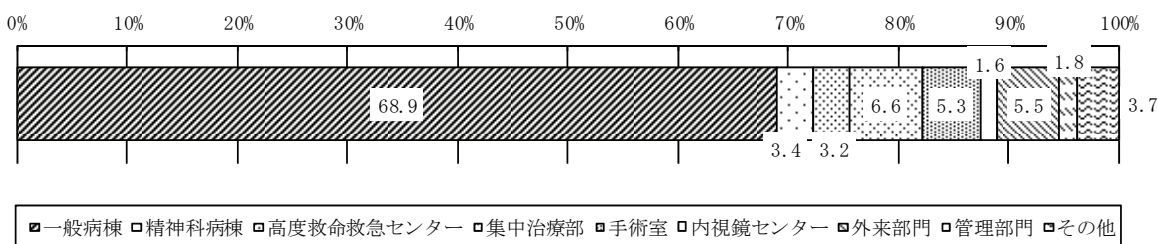
	n	A大学	それ以 外の大 学	短大	専門学 校	その他	資格は まだ取 得して いない	不明
計	379	34.6	19.5	12.1	32.2	0.0	0.0	1.6
<看護師経験年数>								
3年未満	56	42.9	35.7	1.8	19.6	0.0	0.0	0.0
3~5年未満	74	31.1	35.1	12.2	21.6	0.0	0.0	0.0
5~10年未満	79	30.4	20.3	16.5	32.9	0.0	0.0	0.0
10年以上	140	36.4	5.0	15.0	43.6	0.0	0.0	0.0

(2) 配属部署及び勤務形態、役職

担当する配属部署は図表 2-1-4 のとおり。68.9%と約 7 割が一般病棟に配属されている。看護師の勤務形態はほとんどすべて「常勤」<sup>11</sup>である（図表 2-1-5）。

役職をみると、85.2%が「役職なし」であり、「部長、副部長」0.8%、「看護師長」4.2%、「副看護師長」9.2%などとなっている。これを年齢別にみると、年齢が高くなるほど「役職あり」（「部長、副部長」「看護師長」「副看護師長」の合計）は高まる傾向にあり、「40 代以上」では、「部長、副部長」3.8%、「看護師長」20.3%、「副看護師長」29.1%となっている（図表 2-1-6）。

図表 2-1-4：配属部署〔看護師調査〕



図表 2-1-5：勤務形態（単位＝%）〔看護師調査〕

	n	常勤	非常勤	アルバイト	その他	不明
計	379	99.7	0.0	0.0	0.0	0.3

図表 2-1-6：役職（単位＝%）〔看護師調査〕

	n	部長、副部長	看護師長	副看護師長	役職なし（看護師等）	看護補助者	その他	不明
計	379	0.8	4.2	9.2	85.2	0.0	0.0	0.5
<年齢別>								
20代以下	198	0.0	0.0	0.0	99.5	0.0	0.0	0.5
30代	100	0.0	0.0	11.0	89.0	0.0	0.0	0.0
40代以上	79	3.8	20.3	29.1	45.6	0.0	0.0	1.3

(3) 休日と勤務時間制度

週あたりの勤務日数（規程・契約等で定められた勤務日数）は、82.1%が「5 日」となっている。これを配属別にみると、「外来部門」「管理部門、その他」での「5 日」の割合が高いが、「4 日以下」の割合は、「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」20.6%、「一般病棟、精神科病棟」19.6%となっている。役職別にみると、「役職あり」は 100.0%が「5 日」であり、「役職なし」で「4 日以下」の割合は、20.8%となっている（図表 2-1-7）。適用されている勤務時間制度では、「1 ヶ月単位の変形労働時間制」が 61.5%を占めてお

<sup>11</sup> 看護師の「常勤化」は近年の A 大学病院の方針による。したがって、以下の集計では、看護師についてはすべて「常勤」と考えて差し支えない。



り、次いで、「通常の勤務時間制度」が36.1%となっている。これを配属別にみると、「外来部門」「管理部門、その他」で「通常の勤務時間制度」の割合が高い。「1ヵ月単位の変形労働時間制」は、「一般病棟、精神科病棟」69.3%「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」で65.1%と高くなっている。交代制勤務の有無別にみると、「夜勤なし」は「通常の勤務時間制度」の割合がもっとも高い。「1ヵ月単位の変形労働時間制」の割合が高いのは、「三交代制・変則三交代制」(87.1%)、「二交代制・変則二交代制」(69.6%)である。役職別にみると、「役職なし」の62.8%が「1ヵ月単位の変形労働時間制」となっている(図表2-1-8)。

図表 2-1-7：週あたり勤務日数（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	1日	2日	3日	4日	5日	不明
計	379	0.0	1.6	4.2	11.9	82.1	0.3
<配属>							
一般病棟、精神科病棟	274	0.0	0.7	4.7	14.2	80.3	0.0
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	63	0.0	6.3	4.8	9.5	79.4	0.0
外来部門	21	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
管理部門、その他	21	0.0	0.0	0.0	0.0	95.2	4.8
<役職>							
役職あり	54	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
役職なし	323	0.0	1.9	5.0	13.9	78.9	0.3

図表 2-1-8：勤務時間制度（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	通常の勤務時間制度	1ヵ月単位の変形労働時間制	裁量労働制	管理職が管理監督者でない時間帯	その他	不明
計	379	36.1	61.5	1.3	0.3	0.0	0.8
<配属>							
一般病棟、精神科病棟	274	28.8	69.3	1.1	0.0	0.0	0.7
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	63	30.2	65.1	3.2	0.0	0.0	1.6
外来部門	21	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
管理部門、その他	21	85.7	9.5	0.0	4.8	0.0	0.0
<交代勤務の有無>							
夜勤なし	60	86.7	8.3	3.3	1.7	0.0	0.0
三交代制・変則三交代制	62	11.3	87.1	0.0	0.0	0.0	1.6
二交代制・変則二交代制	250	28.8	69.6	1.2	0.0	0.0	0.4
<役職>							
役職あり	54	42.6	53.7	1.9	1.9	0.0	0.0
役職なし	323	35.0	62.8	1.2	0.0	0.0	0.9

#### (4)対応する患者数

最近1日あたりの平均入院患者数（日勤）は、平均5.1人となっている。最近1日あたりの平均受け持ち入院患者数（夜勤）は、平均13.0人となっている。

配属別にみると、日勤の平均値では、「一般病棟」が5.7人、「精神科病棟」が6.9人であり、夜勤の平均値では、「一般病棟」15.2人、「精神科病棟」14.7人などとなっている。日勤・

夜勤ともに「担当していない」の割合は、「内視鏡センター」「外来部門」「その他」「手術室」「管理部門」などで高い。役職別にみると、「担当していない」の割合は「役職あり」で高くなっている（図表 2-1-9）。

図表 2-1-9：最近1日あたりの平均受け持ち入院患者数（日勤・夜勤）〔看護師調査〕（単位＝％）

	n	担当していない	0人	1～5人未満	5～10人未満	10～20人未満	20人以上	無回答	平均(人)	標本標準偏差
日勤・計	379	13.5	3.4	19.3	59.9	2.4	0.0	1.6	5.1	2.3
日勤										
<配属>										
一般病棟	261	3.1	1.5	9.2	82.4	2.7	0.0	1.1	5.7	1.8
精神科病棟	13	7.7	7.7	7.7	69.2	7.7	0.0	0.0	6.9	2.6
高度救命救急センター	12	0.0	0.0	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0	2.5	1.0
集中治療部	25	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.7
手術室	20	50.0	5.0	45.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.7
内視鏡センター	6	83.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	10.0	0.0
外来部門	21	71.4	4.8	0.0	9.5	0.0	0.0	14.3	4.0	2.8
管理部門	7	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	14	64.3	14.3	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	1.5
<役職>										
役職あり	54	31.5	20.4	5.6	37.0	1.9	0.0	3.7	3.8	2.9
役職なし	323	10.2	0.6	21.7	64.1	2.5	0.0	0.9	5.3	2.1
夜勤・計	379	16.9	5.3	11.6	3.7	47.5	12.7	2.4	13.0	6.9
夜勤										
<配属>										
一般病棟	261	4.6	3.1	2.3	5.0	65.1	18.0	1.9	15.2	5.3
精神科病棟	13	0.0	7.7	0.0	0.0	76.9	7.7	7.7	14.7	4.7
高度救命救急センター	12	0.0	0.0	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0	2.7	1.1
集中治療部	25	0.0	4.0	96.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.7
手術室	20	65.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.5	0.8
内視鏡センター	6	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
外来部門	21	90.5	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0
管理部門	7	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	14	85.7	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5
<役職>										
役職あり	54	31.5	18.5	7.4	1.9	31.5	5.6	3.7	9.6	7.9
役職なし	323	14.2	3.1	12.4	4.0	50.5	13.9	1.9	13.4	6.6

### (5)勤務先の不足感の認識

調査では、勤務先の医師、看護師、医療技術職員、医療事務職員の不足感及び、職場の相談相手、先端医療技術の習得機会の不足感について尋ねている。とくに看護師の不足については、73.4%が不足を感じている（「非常に感じる」「まあ感じる」の合計）。「非常に感じる」は31.7%である（図表 2-1-10）。

図表 2-1-10：勤務先の不足感の認識（単位＝％、n=379）〔看護師調査〕

	非常に感じる	まあ感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	ほとんど感じない	不明	感じる計	感じない計
医師の不足	10.0	35.4	22.7	28.5	2.9	0.5	45.4	31.4
看護師の不足	31.7	41.7	13.2	12.1	1.1	0.3	73.4	13.2
医療技術職員の不足	7.7	26.6	44.3	18.7	2.4	0.3	34.3	21.1
医療事務職員（医療クレーン等）の不足	5.8	22.4	39.1	27.4	5.0	0.3	28.2	32.4
仕事上の相談相手（上司・同僚）の不足	7.9	27.2	33.8	28.5	2.4	0.3	35.1	30.9
先端医療技術の習得機会の不足	2.9	30.9	40.9	23.0	1.8	0.5	33.8	24.8

※「感じる」は「非常に感じる」「まあ感じる」の合計。「感じない」は「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計。

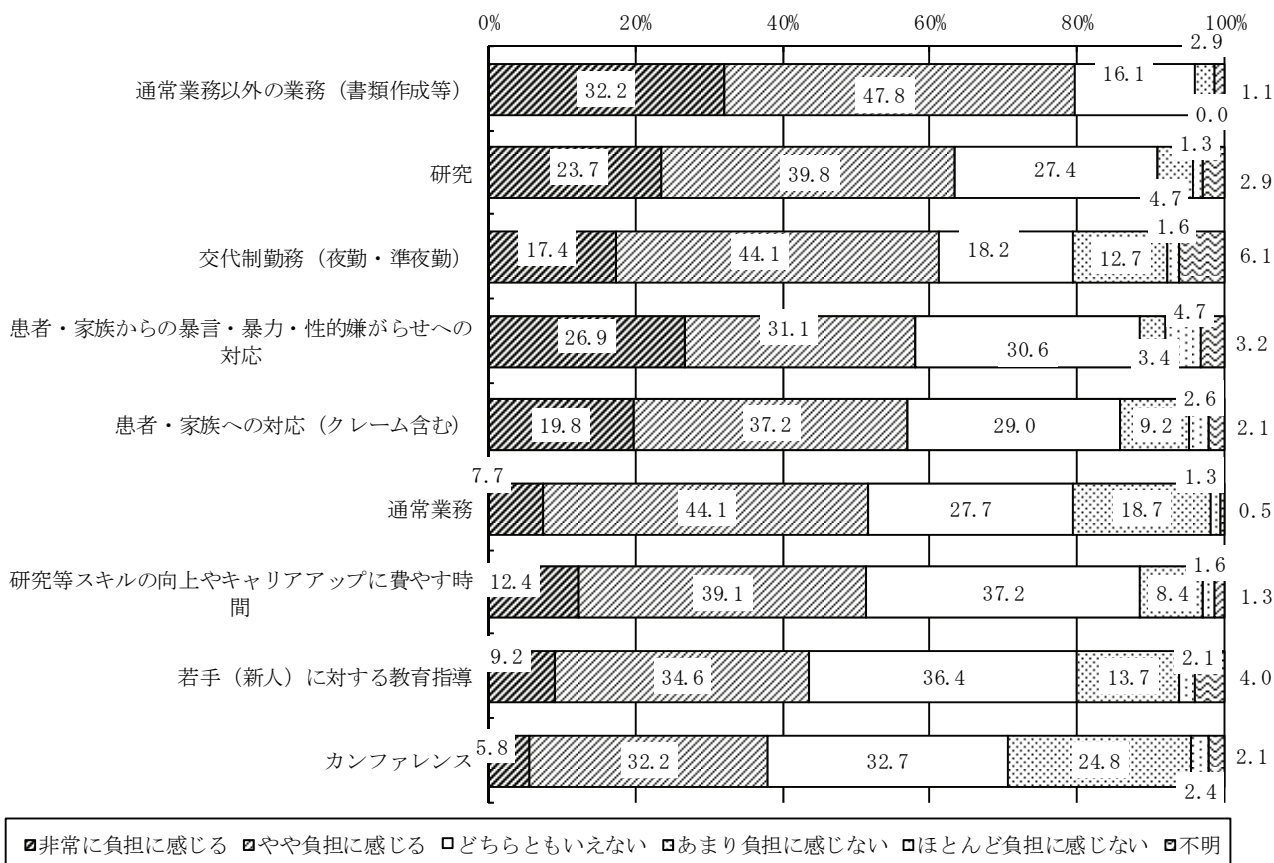
## 2. 看護師の業務の負担感と満足度

### (1) 看護師の業務負担感

看護師の業務の負担感について、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計）とする割合は、「通常業務以外の業務（書類作成等）」が80.0%ともっとも高くなっており、次いで、「研究」（63.5%）、「交代制勤務」（61.5%）、「患者・家族からの暴言・暴力・性的いやがらせへの対応」（58.0%）、「患者・家族への対応（クレーム含む）」（57.0%）などとなっている。

一方、「負担に感じない」（「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計）の割合をみると、「カンファレンス」が27.2%ともっとも高く、次いで、「通常業務」（20.0%）、「若手看護師に対する教育指導」（15.8%）などとなっている（図表2-2-1）。

図表 2-2-1：看護師の業務負担感 [n=379] [看護師調査]

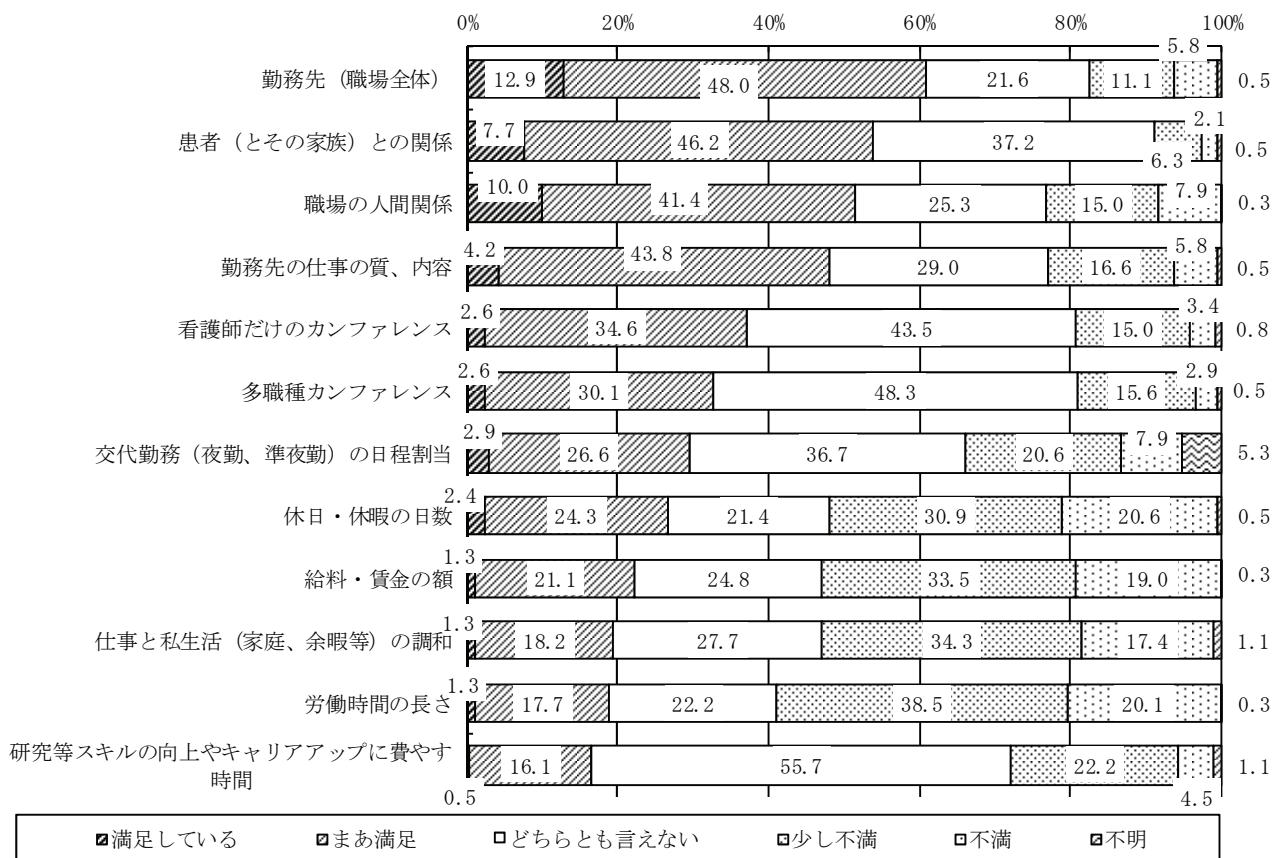


### (2) 看護師の満足度

満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合でもっとも高いのは、「勤務先（職場全体）」（60.9%）であり、次いで、「患者（とその家族）との関係」（53.8%）、「職場の人間関係」（51.5%）、「勤務先の仕事の質、内容」（48.0%）などとなっている。

一方、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合がもっとも高いのは、「労働時間の長さ」（58.6%）であり、次いで、「給料・賃金の額」（52.5%）、「仕事と私生活（家庭、余暇等）の調和」（51.7%）、「休日・休暇の日数」（51.5%）などとなっている（図表 2-2-2）。

図表 2-2-2：看護師の満足度 [n=379] [看護師調査]



### 3. 看護師の勤務状況

#### 3-1. 研究関係

##### (1) 学会等参加、論文発表、投稿論文の提出状況

過去1年間の学会・研究会・院外研修会等の参加状況をみると、参加経験が「ある」としているのは69.7%である。これを看護師経験年数別にみると、経験年数が長くなるほどおおむねその割合は高くなっている（「3年未満」が46.4%と半数である一方、「3年以上」（「3～5年未満」「5～10年未満」「10年以上」）では7割程度）。役職別にみると、「役職あり」のほうが「ある」の割合が高い。

参加経験がある者の平均参加回数は、2.6回である。これを看護師経験年数別にみると、経験年数が長くなるほど平均値は高まる。役職別にみると、「役職あり」の平均値は4.4回であり、「役職なし」の平均値2.2回よりも高い（図表 2-3-1）。

次に、調査では、過去3年間での「学会・研究会での論文発表」、「学会等の学術雑誌への

「投稿論文提出」についてそれぞれ実施の有無及びその回数を尋ねている。それによれば、「学会・研究会での論文発表」をした割合は 29.6%（実施した者の論文発表回数の平均値は 1.3 回）、「学会等の学術雑誌への投稿論文提出」を実施した割合は 11.9%（実施した者の投稿論文提出回数の平均値は 1.1 回）となっている。

「学会・研究会での論文発表」「学会等の学術雑誌への投稿論文提出」の実施割合を看護師経験年数別にみると、「ある」とする割合は、いずれも「3 年未満」がもっとも低く、「5～10 年未満」が高くなっている。役職別にみると、「役職あり」とする者のほうがいずれも実施割合は高い（図表 2-3-2）。

図表 2-3-1：過去 1 年間の学会・研究会・院外研修会等の参加有無、及び参加回数（単位＝%）〔看護師調査〕

	n	過去 1 年間の学会・研究会・院外研修会等の参加有無		n	過去 1 年間の学会・研究会・院外研修会等の参加回数							
		ある	ない		1～2 回	3～5 回未満	5～10 回未満	10 回以上	不明	5 回以上計	平均 (回)	標本標準偏差
計	379	69.7	30.3	264	63.6	25.0	7.6	3.0	0.8	10.6	2.6	2.9
<看護師経験年数>												
3 年未満	56	46.4	53.6	26	80.8	19.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	1.0
3～5 年未満	74	70.3	29.7	52	73.1	23.1	3.8	0.0	0.0	3.8	2.0	1.1
5～10 年未満	79	69.6	30.4	55	70.9	21.8	5.5	1.8	0.0	7.3	2.1	1.6
10 年以上	140	77.9	22.1	109	50.5	31.2	10.1	6.4	1.8	16.5	3.4	4.0
<役職>												
役職あり	54	92.6	7.4	50	36.0	32.0	16.0	12.0	4.0	28.0	4.4	4.9
役職なし	323	65.6	34.4	212	69.8	23.6	5.7	0.9	0.0	6.6	2.2	2.0

※「過去 1 年間の学会・研究会・院外研修会等の参加回数」は参加経験「あり」を対象に集計。

図表 2-3-2：過去 3 年間の学会・研究会での論文発表及び、学会等の学術雑誌への投稿論文の提出の状況

（単位＝%）〔看護師調査〕

	学会・研究会での論文発表							学会等の学術雑誌への投稿論文提出						
	論文発表の有無				論文発表の回数 (平均)			投稿論文提出の有無				投稿論文提出の回数 (平均)		
	n	ある	ない	無回答	n	平均	標本標準偏差	n	ある	ない	無回答	n	平均	標本標準偏差
計	379	29.6	69.9	0.5	112	1.3	0.6	379	11.9	86.3	1.8	45	1.1	0.4
<看護師経験年数>														
3 年未満	56	7.1	91.1	1.8	4	1.0	0.0	56	8.9	91.1	0.0	5	1.0	0.0
3～5 年未満	74	25.7	74.3	0.0	19	1.2	0.4	74	13.5	86.5	0.0	10	1.0	0.0
5～10 年未満	79	38.0	62.0	0.0	30	1.2	0.4	79	13.9	84.8	1.3	11	1.1	0.3
10 年以上	140	35.7	63.6	0.7	50	1.5	0.8	140	12.1	84.3	3.6	17	1.1	0.3
<役職>														
役職あり	54	37.0	61.1	1.9	20	1.9	0.9	54	22.2	72.2	5.6	12	1.1	0.3
役職なし	323	28.5	71.2	0.3	92	1.2	0.5	323	10.2	88.5	1.2	33	1.1	0.4

※論文発表、投稿論文提出の回数の平均値は、実施ありの者を対象に集計。

## (2) 研究の負担感

看護師の「研究（学会・研究会への参加及びそのための準備を含む）」の負担感をみると、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計）とする割合は、63.5% となっている一方で、「負担に感じない」（「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計）とする割合は 6.0% とわずかにすぎない。6 割強の看護師が「研究」に対して負

担に感じている。

これを過去 3 年間の研究等スキルの向上等に費やす時間の増減状況別にみると、「負担に感じる」割合は、「減少・変わらない」よりも、「増加」のほうが高い。

過去 1 年間の学会等参加回数別にみると、参加回数が「ない」者で「負担に感じる」とする割合がもっとも低い一方で、「2 回」がもっとも高くなっている。

過去 3 年間の学会等での論文発表別、及び過去 3 年間の学会等の学術雑誌への投稿論文提出別にみると、いずれも、「ある」とする者のほうが「負担に感じる」割合が高い(図表 2-3-3)。

図表 2-3-3 : 研究の負担感 (単位=%) [看護師調査]

	研究の負担感							負担感計	
	n	非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる計	負担に感じない計
計	379	23.7	39.8	27.4	4.7	1.3	2.9	63.5	6.0
<過去3年間の研究等スキルの向上等に費やす時間の増減状況>									
増加	138	26.8	41.3	23.9	5.1	1.4	1.4	68.1	6.5
減少・変わらない	216	22.7	39.8	30.1	5.1	0.9	1.4	62.5	6.0
<過去1年間の学会等参加回数>									
ない	115	21.7	34.8	38.3	0.9	1.7	2.6	56.5	2.6
1 回	98	31.6	31.6	26.5	3.1	2.0	5.1	63.2	5.1
2 回	70	27.1	47.1	17.1	7.1	0.0	1.4	74.2	7.1
3 回以上	94	16.0	48.9	22.3	9.6	1.1	2.1	64.9	10.7
<過去3年間の学会等での論文発表>									
ない	265	21.5	37.0	31.7	4.5	1.5	3.8	58.5	6.0
ある	112	29.5	45.5	17.9	5.4	0.9	0.9	75.0	6.3
<過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出>									
ない	327	23.5	39.1	29.1	4.0	1.2	3.1	62.6	5.2
ある	45	24.4	44.4	17.8	11.1	0.0	2.2	68.8	11.1

※「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。「負担に感じない」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。

### (3)研究等スキル向上やキャリアアップに費やす時間の満足度

看護師の「研究等スキル向上やキャリアアップに費やす時間」の満足度をみると、「満足である」(「満足している」「まあ満足」の合計)とする割合が 16.6%、「不満である」(「不満」「少し不満」の合計)とする割合が 26.7%となっており、「不満である」とする割合が 10.1ポイント高くなっている。

これを過去 3 年間の研究等スキルの向上等に費やす時間の増減状況別にみると、「満足である」とする割合は、「減少・変わらない」よりも、「増加」のほうがわずかに高い程度である。「不満である」とする割合は増減状況でほとんど差はない。

過去 1 年間の学会等の参加回数別にみると、「満足である」とする割合は参加回数が「2 回」でもっとも高くなっている。一方、「不満である」とする割合は回数が多くなるほどおおむね高まる傾向にある。

過去 3 年間の学会等での論文発表別、及び過去 3 年間の学会等の学術雑誌への投稿論文提

出別にみると、いずれも、「ある」とする者のほうが「満足である」割合が高い（図表 2-3-4）。

図表 2-3-4：研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の満足感（単位＝％）〔看護師調査〕

	研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	379	0.5	16.1	55.7	22.2	4.5	1.1	16.6	26.7
<過去3年間の研究等スキルの向上等に費やす時間の増減状況>									
増加	138	0.0	18.8	53.6	19.6	6.5	1.4	18.8	26.1
減少・変わらない	216	0.9	14.4	56.9	24.1	2.8	0.9	15.3	26.9
<過去1年間の学会等参加回数>									
ない	115	0.0	13.0	65.2	16.5	3.5	1.7	13.0	20.0
1回	98	0.0	11.2	61.2	22.4	4.1	1.0	11.2	26.5
2回	70	2.9	24.3	47.1	20.0	5.7	0.0	27.2	25.7
3回以上	94	0.0	18.1	45.7	29.8	5.3	1.1	18.1	35.1
<過去3年間の学会等での論文発表>									
ない	265	0.4	13.6	60.0	18.9	5.7	1.5	14.0	24.6
ある	112	0.9	22.3	46.4	28.6	1.8	0.0	23.2	30.4
<過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出>									
ない	327	0.6	13.5	58.1	22.3	4.3	1.2	14.1	26.6
ある	45	0.0	33.3	44.4	17.8	4.4	0.0	33.3	22.2

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

### 3-2. 資格取得

調査では、看護師の資格として、「専門看護師」「認定看護師」「認定看護管理者」についてそれぞれ取得の有無及び、未取得者について取得の意向を尋ねている。それによれば、資格取得者割合は、「専門看護師」2.6%、「認定看護師」4.5%、「認定看護管理者」2.4%となっている。

資格の未取得者の取得意向をみると、「取得希望」（「どうしても取得したい」「できれば取得したい」の合計）は、「専門看護師」13.1%、「認定看護師」14.7%、「認定看護管理者」5.0%となっている。

これを看護師経験年数別にみると、「取得希望」の割合は、「専門看護師」「認定看護師」については、「5～10年未満」でもっとも割合が高いが、「認定看護管理者」は「取得希望」の割合が「10年以上」でもっとも高くなっている。

なお、「取得非希望」（「取得したいと思わない」「あまり取得したいと思わない」）について看護師経験年数別にみると、いずれも経験年数が長くなるほど、おおむね高くなっている（図表 2-3-5）。

図表 2-3-5：資格取得の有無及び取得取得意向（単位＝％）〔看護師調査〕

	取得の有無				資格取得意向（取得「ない」ベース）							取得希望計	
	n	ある	ない	不明	n	どうしても取得したい	できれば取得したい	どちらともいえない	あまり取得したいと思わない	取得したいと思わない	不明	取得希望計	取得非希望計
専門看護師	379	2.6	96.0	1.3	364	0.5	12.6	25.8	18.7	31.3	11.0	13.1	50.0
<看護師経験年数>													
3年未満	56	0.0	100.0	0.0	56	0.0	12.5	37.5	23.2	14.3	12.5	12.5	37.5
3～5年未満	74	1.4	98.6	0.0	73	0.0	11.0	27.4	20.5	27.4	13.7	11.0	47.9
5～10年未満	79	3.8	94.9	1.3	75	0.0	16.0	26.7	16.0	34.7	6.7	16.0	50.7
10年以上	140	2.1	95.0	2.9	133	1.5	12.0	20.3	19.5	37.6	9.0	13.5	57.1
認定看護師	379	4.5	94.7	0.8	359	1.1	13.6	27.6	17.5	29.0	11.1	14.7	46.5
<看護師経験年数>													
3年未満	56	0.0	100.0	0.0	56	0.0	14.3	39.3	19.6	14.3	12.5	14.3	33.9
3～5年未満	74	0.0	100.0	0.0	74	0.0	12.2	28.4	21.6	25.7	12.2	12.2	47.3
5～10年未満	79	3.8	94.9	1.3	75	0.0	21.3	26.7	12.0	32.0	8.0	21.3	44.0
10年以上	140	8.6	90.7	0.7	127	3.1	9.4	22.8	19.7	35.4	9.4	12.5	55.1
認定看護管理者	379	2.4	95.5	2.1	362	0.3	4.7	21.5	18.2	43.1	12.2	5.0	61.3
<看護師経験年数>													
3年未満	56	0.0	100.0	0.0	56	0.0	3.6	41.1	19.6	23.2	12.5	3.6	42.8
3～5年未満	74	0.0	100.0	0.0	74	0.0	1.4	23.0	23.0	39.2	13.5	1.4	62.2
5～10年未満	79	1.3	96.2	2.5	76	0.0	5.3	22.4	13.2	50.0	9.2	5.3	63.2
10年以上	140	5.7	90.7	3.6	127	0.8	7.9	13.4	19.7	48.0	10.2	8.7	67.7

※資格取得意向は各資格の取得が「ない」者を対象に集計。「取得希望」は「どうしても取得したい」「できれば取得したい」の合計。「取得非希望」は「取得したいと思わない」「あまり取得したいと思わない」の合計。

### 3-3. 後輩指導関係

調査では、新人看護師等に対する後輩指導時間の1日あたり（日勤の場合）の平均を、年度当初と過去1ヵ月（調査時点＝2012年2月）の2時点について尋ねている。それによれば、後輩指導時間の年度当初の平均値は101.3分、過去1ヵ月の平均値は40.1分となっており、後輩指導時間が大きく低下している（図表2-3-6）。これを勤続年数別にみると、年度当初については、勤続が長くなるほど指導時間は長くなる傾向にあり、「5～7年未満」がピークとなっている（平均値は168.5時間）（図表2-3-7）。後輩指導がこれらの層によってなされていることがわかる。

そこで、「過去1ヵ月の後輩指導時間」を年度当初の後輩指導時間別にみると、過去1ヵ月の後輩指導時間が「1時間未満」となっている割合は、年度当初で「1時間未満」だった者で88.5%となっている一方で、「1～2時間未満」が77.9%、「2～4時間未満」が57.1%、「4時間以上」が29.7%となっている（図表2-3-8）。

調査では、過去3年間の若手（新人）に対する教育指導時間の増減状況を尋ねている。それによれば、「増加」（「大変増加した」「やや増加した」）とする割合は42.5%となっており、約4割が増加したとしている。「減少」（「大変減少した」「やや減少した」）とする割合は4.2%にすぎない。これを過去1ヵ月の後輩指導時間別にみると、「1時間未満」では「増加」の割合が44.5%となっているが、「1～2時間未満」64.3%、「2時間以上」76.9%となっており、過去1ヵ月の後輩指導時間が長くなるほど「増加」とする割合が高くなっている（図表2-3-9）。

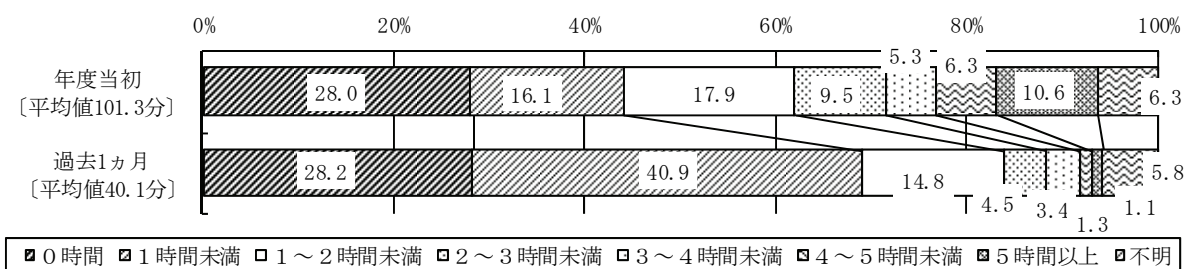
次に「若手（新人）に対する教育指導」の負担感をみると、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計）とする割合は、43.8%となっている一方で、「負



担に感じない」（「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計）とする割合は15.8%となっている。

これを過去3年間の若手（新人）に対する教育指導時間の増減状況別にみると、「負担を感じる」割合は、「減少・変わらない」よりも、「増加」のほうが高い。年度当初の後輩指導時間別、及び過去1ヵ月の後輩指導時間別でみると、いずれも後輩指導時間が長くなるほど「負担を感じる」割合が高くなっている（図表2-3-10）。

図表 2-3-6 : 1日あたりの後輩指導時間の平均 (n=379、単位=%) [看護師調査]



図表 2-3-7 : 1日あたりの後輩指導時間の平均 (単位=%) [看護師調査]

	n	0時間	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5時間以上	不明	平均値 (分)	標本標準偏差	時間換算 (/60)
年度当初・計	379	28.0	16.1	17.9	9.5	5.3	6.3	10.6	6.3	101.3	130.7	1.7
<勤続年数>												
3年未満	75	58.7	17.3	8.0	4.0	1.3	0.0	2.7	8.0	32.2	90.3	0.5
3～5年未満	84	14.3	20.2	21.4	10.7	6.0	3.6	19.0	4.8	133.5	146.5	2.2
5～7年未満	46	6.5	13.0	23.9	13.0	13.0	13.0	17.4	0.0	168.5	149.3	2.8
7年以上	151	25.2	13.9	21.2	9.3	5.3	9.9	7.3	7.9	97.7	113.8	1.6
過去1ヵ月・計	379	28.2	40.9	14.8	4.5	3.4	1.3	1.1	5.8	40.1	59.9	0.7
<勤続年数>												
3年未満	75	57.3	28.0	5.3	1.3	0.0	0.0	0.0	8.0	12.0	21.1	0.2
3～5年未満	84	10.7	54.8	21.4	6.0	2.4	1.2	1.2	2.4	46.1	50.6	0.8
5～7年未満	46	6.5	54.3	21.7	8.7	6.5	0.0	2.2	0.0	57.0	64.2	1.0
7年以上	151	27.2	38.4	13.2	4.6	5.3	2.0	1.3	7.9	47.0	71.5	0.8

図表 2-3-8 : 年度当初の後輩指導時間別にみた過去1ヵ月の後輩指導時間の平均

(単位=%) [看護師調査]

	n	0時間	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5時間以上	不明	1時間未満
過去1ヵ月の後輩指導時間・計	379	28.2	40.9	14.8	4.5	3.4	1.3	1.1	5.8	69.1
<年度当初の後輩指導時間別>										
0時間	106	87.7	7.5	2.8	0.9	0.0	0.9	0.0	0.0	95.3
1時間未満	61	9.8	78.7	8.2	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	88.5
1～2時間未満	68	8.8	69.1	19.1	0.0	1.5	0.0	0.0	1.5	77.9
2～4時間未満	56	0.0	57.1	32.1	5.4	3.6	0.0	0.0	1.8	57.1
4時間以上	64	1.6	28.1	26.6	17.2	15.6	6.3	4.7	0.0	29.7

図表 2-3-9：過去3年間の若手（新人）に対する教育指導時間の増減状況（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	大変増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	大変減少した	該当する者・該当する事項がない	不明	増加計	減少計
計	379	11.3	31.1	40.1	3.7	0.5	8.7	4.5	42.5	4.2
<過去1ヵ月の後輩指導時間別>										
0時間	107	8.4	12.1	41.1	3.7	1.9	24.3	8.4	20.6	5.6
1時間未満	155	8.4	36.1	49.7	5.2	0.0	0.0	0.6	44.5	5.2
1～2時間未満	56	21.4	42.9	33.9	1.8	0.0	0.0	0.0	64.3	1.8
2時間以上	39	23.1	53.8	15.4	2.6	0.0	5.1	0.0	76.9	2.6

※「増加」は「大変増加した」「やや増加した」の合計。「減少」は「大変減少した」「やや減少した」の合計。

図表 2-3-10：若手（新人）に対する教育指導の負担感（単位＝％）〔看護師調査〕

	若手（新人）に対する教育指導の負担感							負担感計		
	n	非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる計	負担に感じない計	
合計	379	9.2	34.6	36.4	13.7	2.1	4.0	43.8	15.8	
<過去3年間の若手（新人）に対する教育指導時間の増減状況>										
増加	161	13.7	44.7	28.6	11.8	1.2	0.0	58.4	13.0	
減少・変わらない	168	5.4	31.5	43.5	16.7	1.8	1.2	36.9	18.5	
<年度当初の後輩指導時間>										
0時間	106	6.6	14.2	55.7	8.5	4.7	10.4	20.8	13.2	
1時間未満	61	6.6	34.4	39.3	16.4	3.3	0.0	41.0	19.7	
1～2時間未満	68	7.4	39.7	27.9	25.0	0.0	0.0	47.1	25.0	
2～4時間未満	56	16.1	44.6	26.8	10.7	1.8	0.0	60.7	12.5	
4時間以上	64	12.5	56.3	20.3	10.9	0.0	0.0	68.8	10.9	
<過去1ヵ月の後輩指導時間>										
0時間	107	8.4	14.0	53.3	8.4	4.7	11.2	22.4	13.1	
1時間未満	155	7.1	41.3	31.6	18.1	1.9	0.0	48.4	20.0	
1～2時間未満	56	12.5	46.4	28.6	12.5	0.0	0.0	58.9	12.5	
2時間以上	39	15.4	53.8	20.5	10.3	0.0	0.0	69.2	10.3	

※「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。「負担に感じない」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。

### 3-4. 多職種カンファレンス関係

#### (1)多職種カンファレンスの状況

部署での多職種カンファレンス（治療方針の検討等）の有無を尋ねたところ、88.7%が「ある」としている。カンファレンスがある者について、月あたりの平均回数をみると、その平均値は4.5回である。分布をみると、「1回」が29.5%ともっとも割合が高く、次いで、「3～4回」が27.4%、「2回」が17.6%などとなっている。

多職種カンファレンスの有無を配属別にみると、多職種カンファレンスがある割合がもっとも高いのは、「一般病棟、精神科病棟」が96.7%となっており、次いで「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」が74.6%などとなっている。月あたりの平均回数を配属別にみると、平均回数は「管理部門、その他」が6.1回、「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」が6.0回などとなっている（図表 2-3-11）。

調査では、多職種カンファレンスがある者について、その実施時間帯を尋ねている。それ

によれば、「所定勤務時間内」が 54.2%となっており、「所定勤務時間外」が 43.2%となっている。これを配属別にみると、「一般病棟、精神科病棟」で「所定勤務時間内」が 55.8%となっている一方で、「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」は「所定勤務時間外」が 51.1%となっている。交代制勤務の有無別にみると、「三交代制・変則三交代制」で「所定勤務時間外」が 56.7%と他よりも高くなっている（図表 2-3-12）。

図表 2-3-11：多職種カンファレンスの有無、及び月あたり回数（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	多職種カンファレンスの有無			n	月あたり多職種カンファレンス回数							平均 (回)	標本標準偏差
		ある	ない	無回答		1回	2回	3～4回	5～10回未満	10回以上	無回答			
計	379	88.7	10.3	1.1	336	29.5	17.6	27.4	13.1	10.1	2.4	4.5	5.6	
<配属>														
一般病棟、精神科病棟	274	96.7	2.6	0.7	265	29.8	18.9	26.8	11.7	10.2	2.6	4.2	4.8	
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	63	74.6	23.8	1.6	47	17.0	12.8	36.2	21.3	10.6	2.1	6.0	7.5	
外来部門	21	47.6	47.6	4.8	10	70.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0	2.1	1.8	
管理部門、その他	21	66.7	33.3	0.0	14	35.7	21.4	14.3	14.3	14.3	0.0	6.1	9.9	

※「月あたり多職種カンファレンス回数」は多職種カンファレンスが「ある」者を対象に集計。

図表 2-3-12：多職種カンファレンスの実施時間帯（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	所定勤務時間内	所定勤務時間外	不明
計	336	54.2	43.2	2.7
<配属>				
一般病棟、精神科病棟	265	55.8	41.1	3.0
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	47	46.8	51.1	2.1
外来部門	10	50.0	50.0	0.0
管理部門、その他	14	50.0	50.0	0.0
<交代制勤務の有無>				
夜勤なし	38	52.6	47.4	0.0
三交代制・変則三交代制	60	40.0	56.7	3.3
二交代制・変則二交代制	233	58.8	38.2	3.0

※多職種カンファレンスがある者を対象に集計。

## (2)カンファレンスの負担感及び満足度

看護師の「カンファレンス」の負担感をみると、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計）とする割合は、38.0%となっている一方で、「負担に感じない」（「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計）とする割合は 27.2%となっている。これを過去 3 年間のカンファレンスの回数の増減状況別にみると、「負担を感じる」割合は、「増加」が 38.5%、「減少・変わらない」が 40.0%となっており、増減にかかわらず「負担を感じる」割合にほとんど差はみられない。一方、「負担に感じない」とする割合は「増加」で 30.5%となっており、「減少・変わらない」の 20.7%を上回っている。

月あたりの多職種カンファレンスの回数別にみると、「5 回以上」で「負担を感じる」割合がもっとも高くなっているものの、「負担に感じない」とする割合も回数が増加するほど高くなっている。多職種カンファレンスの実施時間帯別にみると、「所定勤務時間外」であるほうが「負担を感じる」とする割合が高い（図表 2-3-13）。

「多職種カンファレンス」の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が 32.7%、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が 18.5%となっており、「満足である」とする割合が 14.2 ポイント高くなっている。これを過去 3 年間のカンファレンスの回数の増減状況別にみると、「満足である」とする割合は、「減少・変わらない」よりも、「増加」のほうが高い。月あたりの多職種カンファレンスの回数別にみると、回数が増加するほど「満足である」とする割合は高まる傾向にある。多職種カンファレンスの実施時間帯別にみると、「所定勤務時間内」であるほうが「満足である」とする割合が高い。所定勤務時間内に行われるほうが満足度は高まる傾向にあるようである（図表 2-3-14）。

なお、「研究等スキル向上やキャリアアップに費やす時間」の満足度をカンファレンスの回数別にみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合は、カンファレンスの回数が「5 回以上」で 19.2%ともっとも高くなっている（図表 2-3-15）。

図表 2-3-13：カンファレンスの負担感（単位＝％）〔看護師調査〕

	カンファレンスの負担感							負担感計	
	n	非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる計	負担に感じない計
計	379	5.8	32.2	32.7	24.8	2.4	2.1	38.0	27.2
＜過去3年間のカンファレンスの回数の増減状況＞									
増加	213	6.6	31.9	29.6	28.6	1.9	1.4	38.5	30.5
減少・変わらない	145	4.8	35.2	37.2	17.9	2.8	2.1	40.0	20.7
＜月あたりの多職種カンファレンス回数＞									
ない	39	7.7	23.1	38.5	17.9	2.6	10.3	30.8	20.5
1回	99	5.1	34.3	36.4	20.2	2.0	2.0	39.4	22.2
2～4回	151	6.0	27.8	35.1	29.1	1.3	0.7	33.8	30.4
5回以上	78	5.1	39.7	23.1	25.6	5.1	1.3	44.8	30.7
＜多職種カンファレンスの実施時間帯＞									
所定勤務時間内	182	2.7	31.9	33.0	28.0	2.7	1.6	34.6	30.8
所定勤務時間外	145	9.0	32.4	33.1	22.8	2.1	0.7	41.4	24.8

※「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。「負担に感じない」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。

図表 2-3-14：多職種カンファレンスの満足度（単位＝％）〔看護師調査〕

	多職種カンファレンスの満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	379	2.6	30.1	48.3	15.6	2.9	0.5	32.7	18.5
＜過去3年間のカンファレンスの回数の増減状況＞									
増加	213	3.8	35.2	45.1	13.1	2.8	0.0	39.0	15.9
減少・変わらない	145	1.4	24.8	50.3	20.7	2.1	0.7	26.2	22.8
＜月あたりの多職種カンファレンス回数＞									
ない	39	0.0	12.8	48.7	28.2	7.7	2.6	12.8	35.9
1回	99	2.0	26.3	55.6	14.1	2.0	0.0	28.3	16.1
2～4回	151	4.0	33.1	47.0	13.2	2.0	0.7	37.1	15.2
5回以上	78	2.6	39.7	37.2	16.7	3.8	0.0	42.3	20.5
＜多職種カンファレンスの実施時間帯＞									
所定勤務時間内	182	2.7	37.4	45.1	12.6	2.2	0.0	40.1	14.8
所定勤務時間外	145	3.4	26.9	50.3	15.9	2.8	0.7	30.3	18.6

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

図表 2-3-15：研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の満足感（単位＝％）〔看護師調査〕

	研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	379	0.5	16.1	55.7	22.2	4.5	1.1	16.6	26.7
<月あたりの多職種カンファレンス回数>									
ない	39	0.0	17.9	48.7	28.2	5.1	0.0	17.9	33.3
1回	99	0.0	15.2	54.5	22.2	7.1	1.0	15.2	29.3
2～4回	151	1.3	15.2	58.9	20.5	2.6	1.3	16.5	23.1
5回以上	78	0.0	19.2	53.8	20.5	5.1	1.3	19.2	25.6

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

### 3-5. 交代制勤務

#### (1)交代制勤務の状況

交代制勤務の有無について尋ねたところ、「二交代制・変則二交代制」が 66.0%、「三交代制・変則三交代制」が 16.4%などとなっている。「交代勤務あり」（「二交代制・変則二交代制」「三交代制・変則三交代制」の合計）は、82.4%である。

これを配属別にみると、「一般病棟、精神科病棟」では「二交代制・変則二交代制」が 77.4%、「三交代制・変則三交代制」が 17.5%などとなっており、「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」では「二交代制・変則二交代制」が 58.7%、「三交代制・変則三交代制」が 20.6%などとなっている。

役職別にみると、「交代勤務あり」の割合は「役職なし」のほうが高い。年齢別にみると、年齢が低くなるほど「交代勤務あり」の割合が高くなっている。未婚別にみると、「未婚」のほうが高い。子供の有無別にみても、「子供のいない」者のほうが高くなっている（図表 2-3-16）。

調査では、「三交代制・変則三交代制」をしている者について、1 ヶ月あたりの夜勤回数、準夜勤回数をそれぞれ尋ねている。それによれば、「三交代制・変則三交代制」の夜勤回数の平均値は 5.0 回、準夜勤回数の平均値は 4.3 回となっている（図表 2-3-17）。

夜勤・準夜勤の回数の合計をみると、平均値は 9.2 回であり、その分布をみると「5～10 回未満」が 46.8%ともっとも割合が高く、次いで、「10～15 回未満」が 38.7%などとなっている。これを配属別にみると、平均値は、「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」のほうが 10.8 回と高くなっている。役職別にみると、「役職なし」のほうが平均値は高い。年齢別にみると、その平均値は「30 代」で 9.6 回とわずかに他の年齢層より高くなっている（図表 2-3-18）。

他方、調査では、「二交代制・変則二交代制」をしている者について、夜勤 1 勤務あたりの所定労働時間及び、1 ヶ月あたりの夜勤回数を尋ねている。まず、二交代制の所定労働時間をみると、「16 時間」が 76.8%ともっとも割合が高く、次いで、「12 時間」11.2%、「14 時間」8.4%となっている。配属別にみると、「一般病棟、精神科病棟」では「16 時間」が

89.2%と最も割合が高い一方で、「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」では「12時間」が73.0%と最も割合が高く、次いで、「14時間」が13.5%などとなっている（図表2-3-19）。

次に、二交代制の夜勤回数をみると、その平均値は3.8回となっている。配属別にみると、平均値は、「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」が4.6回、「一般病棟、精神科病棟」が3.7回となっている。二交代制勤務の所定労働時間別にみると、その平均値は、「12時間」で4.8回と最も高くなっており、「14時間」3.8回、「16時間」3.6回となっている。分布をみると、「12時間」では、「5回以上」の割合が64.3%と高い。役職別にみると、「役職なし」のほうが平均値は高い。年齢別にみると、年齢が低くなるほどその平均値は高くなっており、「20代以下」4.0回、「30代」3.9回となっている（図表2-3-20）。

図表 2-3-16：交代制勤務の有無（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	夜勤はない	夜勤はあるが現在は夜勤をしていない	三交代制・変則三交代制	二交代制・変則二交代制	その他	不明	交代勤務あり
計	379	13.7	2.1	16.4	66.0	1.1	0.8	82.4
<配属>								
一般病棟、精神科病棟	274	2.9	1.5	17.5	77.4	0.4	0.4	94.9
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	63	15.9	3.2	20.6	58.7	0.0	1.6	79.3
外来部門	21	95.2	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0
管理部門、その他	21	66.7	9.5	4.8	4.8	9.5	4.8	9.6
<役職>								
役職あり	54	20.4	5.6	9.3	57.4	7.4	0.0	66.7
役職なし	323	12.4	1.5	17.6	67.5	0.0	0.9	85.1
<年齢別>								
20代以下	198	3.0	1.0	18.7	77.3	0.0	0.0	96.0
30代	100	15.0	4.0	18.0	63.0	0.0	0.0	81.0
40代以上	79	39.2	2.5	8.9	41.8	5.1	2.5	50.7
<未既婚別>								
既婚	111	32.4	2.7	9.0	52.3	1.8	1.8	61.3
未婚	268	6.0	1.9	19.4	71.6	0.7	0.4	91.0
<子供の有無別>								
子供がいる	79	41.8	2.5	7.6	43.0	2.5	2.5	50.6
子供がいない	298	6.4	2.0	18.5	72.1	0.7	0.3	90.6

※「交代勤務あり」は、「三交代制・変則三交代制」「二交代制・変則二交代制」の合計。

図表 2-3-17：三交代制・変則三交代制勤務者の月あたり夜勤・準夜勤回数(n=62、単位＝％)

〔看護師調査〕

	1回	2回	3～4回	5～8回	9回以上	不明	平均(回)	標本標準偏差
夜勤回数	1.6	3.2	46.8	35.5	9.7	3.2	5.0	2.0
準夜勤回数	3.2	6.5	51.6	32.3	1.6	4.8	4.3	1.4

図表 2-3-18：三交代制夜勤・準夜勤合計回数（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	5回未満	5～10回未満	10～15回未満	15～20回未満	20回以上	不明	平均(回)	標本標準偏差
計	62	8.1	46.8	38.7	1.6	1.6	3.2	9.2	3.1
<配属>									
一般病棟、精神科病棟	48	8.3	56.3	31.3	2.1	0.0	2.1	8.8	2.8
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	13	7.7	15.4	61.5	0.0	7.7	7.7	10.8	3.5
<役職>									
役職あり	5	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	6.6	3.2
役職なし	57	5.3	47.4	40.4	1.8	1.8	3.5	9.4	2.9
<年齢>									
20代以下	37	8.1	45.9	40.5	2.7	0.0	2.7	8.9	2.6
30代	18	11.1	44.4	33.3	0.0	5.6	5.6	9.6	4.0
40代以上	7	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	9.4	2.5

※「配属」の「管理部門、その他」は割愛。

図表 2-3-19：二交代制の夜勤1勤務あたりの所定労働時間（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	12時間	14時間	16時間	不明
計	250	11.2	8.4	76.8	3.6
<配属>					
一般病棟、精神科病棟	212	0.5	7.5	89.2	2.8
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	37	73.0	13.5	5.4	8.1

図表 2-3-20：二交代制の夜勤回数（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	1～3回	4回	5回以上	不明	平均(回)	標本標準偏差
計	250	29.6	52.8	16.0	1.6	3.8	1.1
<配属>							
一般病棟、精神科病棟	212	30.2	59.9	8.5	1.4	3.7	0.9
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	37	24.3	13.5	59.5	2.7	4.6	1.8
<二交代制勤務の所定労働時間>							
12時間	28	25.0	10.7	64.3	0.0	4.8	1.8
14時間	21	38.1	42.9	14.3	4.8	3.8	0.9
16時間	192	28.6	61.5	9.4	0.5	3.6	0.9
<役職>							
役職あり	31	80.6	12.9	6.5	0.0	2.5	1.1
役職なし	218	22.5	58.3	17.4	1.8	4.0	1.0
<年齢>							
20代以下	153	20.9	60.8	17.0	1.3	4.0	0.9
30代	63	31.7	49.2	17.5	1.6	3.9	1.2
40代以上	33	66.7	21.2	9.1	3.0	2.7	1.2

※「配属」の「管理部門、その他」は割愛。

## (2)日勤・夜勤時の受け持ち担当入院患者数

調査では、1日当たりの平均的な受け持ち担当入院患者数について、日勤・夜勤のいずれも尋ねている。それによれば、日勤の場合の平均値は5.1人であり、その分布をみると、「5～10人未満」が70.5%ともっとも高くなっており、次いで「1～5人未満」が22.7%などとなっている。夜勤の場合の平均値は13.0人であり、その分布をみると、「10～20人未満」が58.8%ともっとも高くなっており、次いで「20人以上」が15.7%、「1～5人未満」が14.4%などとなっている。

これを配属別にみると、日勤の場合、平均値は、「一般病棟、精神科病棟」が 5.8 人、「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」が 2.4 人となっている。分布をみると、「一般病棟、精神科病棟」では、「5～10 人未満」が 85.5%ともっとも割合が高く、次いで、「1～5 人未満」が 9.5%などとなっている。「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」は、「1～5 人未満」が 93.8%を占めている。一方、夜勤の場合、平均値は、「一般病棟、精神科病棟」が 15.1 人、「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」が 2.2 人となっている。分布をみると、「一般病棟、精神科病棟」では、「10～20 人未満」が 70.3%ともっとも割合が高く、次いで、「20 人以上」が 18.8%などとなっている。「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」は、「1～5 人未満」が 86.0%を占めている（図表 2-3-21）。

次に、夜勤の場合の平均的な受け持ち担当入院患者数を交代勤務の有無別にみると、その平均値は、「二交代制・変則二交代制」は 14.5 人、「三交代制・変則三交代制」が 9.0 人となっている。その分布をみると、「二交代制・変則二交代制」では、「10～20 人未満」が 64.2%ともっとも割合が高く、次いで、「20 人以上」が 19.4%などとなっており、「三交代制・変則三交代制」では、「10～20 人未満」が 46.8%ともっとも割合が高く、次いで、「1～5 人未満」25.8%、「5～10 人未満」19.4%などとなっている（図表 2-3-22）。

図表 2-3-21：1 日あたりの平均的な受け持ち担当入院患者数（日勤・夜勤）（単位＝%）〔看護師調査〕

		n	0 人	1～5 人未満	5～10 人未満	10～20 人未満	20 人以上	平均 (人)	標本標準偏差
日勤	平均受け持ち入院患者数（日勤）・計	322	4.0	22.7	70.5	2.8	0.0	5.1	2.3
	<配属>								
	一般病棟、精神科病棟	262	1.9	9.5	85.5	3.1	0.0	5.8	1.8
	救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	48	2.1	93.8	2.1	2.1	0.0	2.4	1.4
夜勤	平均受け持ち入院患者数（夜勤）・計	306	6.5	14.4	4.6	58.8	15.7	13.0	6.9
	<配属>								
	一般病棟、精神科病棟	256	3.5	2.3	5.1	70.3	18.8	15.1	5.3
	救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	43	11.6	86.0	2.3	0.0	0.0	2.2	1.1

※「担当していない」、不明を除き集計。

図表 2-3-22：1 日あたりの平均的な受け持ち担当入院患者数（夜勤）（単位＝%）〔看護師調査〕

		n	0 人	1～5 人未満	5～10 人未満	10～20 人未満	20 人以上	平均 (人)	標本標準偏差
夜勤	平均受け持ち入院患者数（夜勤）・計	306	6.5	14.4	4.6	58.8	15.7	13.0	6.9
	<交代勤務の有無>								
	夜勤なし	11	72.7	9.1	0.0	18.2	0.0	3.3	6.5
	三交代制・変則三交代制	62	3.2	25.8	19.4	46.8	4.8	9.0	5.5
二交代制・変則二交代制	232	3.9	11.6	0.9	64.2	19.4	14.5	6.4	

※「担当していない」、不明を除き集計。



### (3)交代制勤務の負担感

「交代制勤務」の負担感をみると、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計）とする割合は 61.5%となっている一方で、「負担に感じない」（「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計）とする割合は 14.3%となっている。これを交代制勤務の有無別にみると、「負担を感じる」とする割合は、「三交代制・変則三交代制」が 75.8%、「二交代制・変則二交代制」66.8%となっており、「三交代制・変則三交代制」のほうが高い。

三交代制（夜勤・準夜勤回数）別にみると、「10回以上」のほうが「10回未満」に比べ「負担を感じる」割合は高い。一方、二交代制（所定労働時間）別にみると、「負担を感じる」とする割合は、所定労働時間が「14時間」で 76.2%、「12時間」で 71.4%となっており、「16時間」が 65.6%ともっとも低くなっている。二交代制（夜勤回数）別にみると、回数が増えるほど「負担を感じる」割合が高まる一方で、「負担に感じない」割合が低くなる傾向にある（図表 2-3-23）。

図表 2-3-23：交代制勤務の負担感（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	非常に負担を感じる	やや負担を感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担を感じる計	負担に感じない計
計	379	17.4	44.1	18.2	12.7	1.6	6.1	61.5	14.3
＜交代勤務の有無＞									
夜勤なし	60	18.3	10.0	21.7	6.7	8.3	35.0	28.3	15.0
三交代制・変則三交代制	62	14.5	61.3	8.1	16.1	0.0	0.0	75.8	16.1
二交代制・変則二交代制	250	17.6	49.2	19.6	13.2	0.4	0.0	66.8	13.6
三交代制									
＜三交代制（夜勤・準夜勤回数）＞									
10回未満	34	11.8	61.8	8.8	17.6	0.0	0.0	73.5	17.6
10回以上	26	19.2	57.7	7.7	15.4	0.0	0.0	76.9	15.4
二交代制									
＜二交代制（所定労働時間）＞									
12時間	28	10.7	60.7	17.9	7.1	3.6	0.0	71.4	10.7
14時間	21	19.0	57.1	9.5	14.3	0.0	0.0	76.2	14.3
16時間	192	18.8	46.9	21.9	12.5	0.0	0.0	65.6	12.5
＜二交代制（夜勤回数）＞									
1～3回	74	16.2	41.9	27.0	14.9	0.0	0.0	58.1	14.9
4回	132	17.4	52.3	17.4	12.9	0.0	0.0	69.7	12.9
5回以上	40	20.0	52.5	15.0	10.0	2.5	0.0	72.5	12.5

※「負担を感じる」は「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計。「負担に感じない」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。

### (4)「交代勤務の日程割当」の満足度

「交代勤務の日程割当」の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が 29.5%、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が 28.5%となっており、両者は拮抗している。

これを交代制勤務の有無別にみると、「不満である」とする割合は、「三交代制・変則三交代制」が 29.1%、「二交代制・変則二交代制」31.6%となっており、両者にはほとんど差はなく、いずれも 3割程度が不満を持っている。

三交代制（夜勤・準夜勤回数）別にみると、「10回以上」のほうが「10回未満」に比べ「不満である」とする割合は高い。一方、二交代制（所定労働時間）別にみると、「不満である」とする割合は、所定労働時間が「14時間」で47.6%と他に比べて高くなっている。二交代制（夜勤回数）別にみると、回数が増えるほど「不満である」割合が高まる一方で、「満足である」とする割合が低くなる傾向にある（図表2-3-24）。

図表 2-3-24：交代勤務（夜勤、準夜勤）の日程割当の満足度（単位＝％）〔看護師調査〕

	交代勤務（夜勤、準夜勤）の日程割当の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	379	2.9	26.6	36.7	20.6	7.9	5.3	29.5	28.5
<交代勤務の有無>									
夜勤なし	60	5.0	11.7	38.3	13.3	1.7	30.0	16.7	15.0
三交代制・変則三交代制	62	0.0	30.6	40.3	22.6	6.5	0.0	30.6	29.1
二交代制・変則二交代制	250	2.8	29.2	36.0	22.0	9.6	0.4	32.0	31.6
三交代制									
<三交代制（夜勤・準夜勤回数）>									
10回未満	34	0.0	35.3	52.9	5.9	5.9	0.0	35.3	11.8
10回以上	26	0.0	23.1	26.9	42.3	7.7	0.0	23.1	50.0
二交代制									
<二交代制（所定労働時間）>									
12時間	28	0.0	25.0	46.4	17.9	10.7	0.0	25.0	28.6
14時間	21	0.0	9.5	38.1	42.9	4.8	4.8	9.5	47.6
16時間	192	3.1	31.8	34.9	20.3	9.9	0.0	34.9	30.2
<二交代制（夜勤回数）>									
1～3回	74	4.1	40.5	29.7	18.9	5.4	1.4	44.6	24.3
4回	132	3.0	24.2	38.6	25.0	9.1	0.0	27.2	34.1
5回以上	40	0.0	25.0	37.5	17.5	20.0	0.0	25.0	37.5

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

### 3-6. 患者・家族への対応関係

#### (1)患者・家族への対応及び、暴言・セクハラ等への対応の増減状況

過去3年間の患者・家族への対応（クレーム対応含む）の増減状況をみると、「変わらない」が49.6%ともっとも高いものの、「増加」（「大変増加した」「やや増加した」の合計）も36.4%ある。また、過去3年間の患者・家族からの暴言・暴力・性的嫌がらせへの対応（以下、「過去3年間の暴言・セクハラ等への対応」と略す）の増減状況をみると、「変わらない」が60.7%ともっとも高いものの、「増加」も15.8%ある。

これらを配属別にみると、「過去3年間の患者・家族への対応」では、「増加」の割合は「一般病棟、精神科病棟」が39.8%ともっとも高く、次いで「外来部門」などとなっている。「過去3年間の暴言・セクハラ等への対応」では、「増加」の割合は「外来部門」が33.3%ともっとも高い。役職別にみると、「役職あり」のほうが、いずれも「増加」の割合が高い。性別にみると、「女性」のほうが、いずれも「増加」の割合が高い。年齢別にみると、「過去3年間の患者・家族への対応」では「増加」の割合は、「30代」41.0%、「40代以上」39.2%と高くなっている。「過去3年間の暴言・セクハラ等への対応」では、年齢が高くなるほど「増加」の割合が高くなる（図表2-3-25）。

図表 2-3-25 : 過去 3 年間の患者・家族への対応の増減状況 (単位=%) [看護師調査]

	n	患者・家族への対応 (クレーム含む) の増減状況								患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の増減状況							
		大変増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	大変減少した	該当する者・事項がない	不明	増加	大変増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	大変減少した	該当する者・事項がない	不明	増加
計	379	5.3	31.1	49.6	3.4	0.8	4.5	5.3	36.4	1.6	14.2	60.7	3.2	1.1	15.8	3.4	15.8
<配属>																	
一般病棟、精神科病棟	274	5.1	34.7	50.7	3.3	0.7	1.5	4.0	39.8	1.1	14.2	67.9	3.3	1.1	9.9	2.6	15.3
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	63	3.2	25.4	46.0	4.8	0.0	12.7	7.9	28.6	1.6	11.1	42.9	4.8	1.6	33.3	4.8	12.7
外来部門	21	9.5	23.8	52.4	4.8	0.0	4.8	4.8	33.3	9.5	23.8	52.4	0.0	0.0	14.3	0.0	33.3
管理部門、その他	21	9.5	9.5	42.9	0.0	4.8	19.0	14.3	19.0	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0	42.9	14.3	14.3
<身分>																	
役職あり	54	5.6	37.0	35.2	5.6	3.7	7.4	5.6	42.6	0.0	25.9	53.7	0.0	1.9	13.0	5.6	25.9
役職なし	323	5.3	30.3	52.3	3.1	0.3	3.7	5.0	35.6	1.9	12.1	62.2	3.7	0.9	16.1	3.1	14.0
<性別>																	
男性	19	0.0	26.3	63.2	5.3	0.0	0.0	5.3	26.3	0.0	5.3	78.9	5.3	0.0	10.5	0.0	5.3
女性	359	5.6	31.5	48.7	3.3	0.8	4.7	5.3	37.1	1.7	14.8	59.6	3.1	1.1	16.2	3.6	16.5
<年齢>																	
20代以下	198	3.5	29.8	56.6	2.5	0.0	3.0	4.5	33.3	1.5	11.6	65.2	4.5	0.0	14.6	2.5	13.1
30代	100	7.0	34.0	45.0	4.0	0.0	5.0	5.0	41.0	1.0	16.0	60.0	3.0	0.0	18.0	2.0	17.0
40代以上	79	7.6	31.6	38.0	5.1	2.5	7.6	7.6	39.2	2.5	19.0	50.6	0.0	3.8	16.5	7.6	21.5

※「増加」は「大変増加した」「やや増加した」の合計。

## (2)患者・家族への対応及び、暴言・セクハラ等への対応の負担感

「患者・家族への対応 (クレーム含む) の負担感」をみると、「負担に感じる」(「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計) とする割合は 57.0%となっている。過去 3 年間の患者・家族への対応の増減状況別に「患者・家族への対応の負担感」をみると、「増加」とする者の「負担に感じる」割合は 71.0%と高い (図表 2-3-26)。

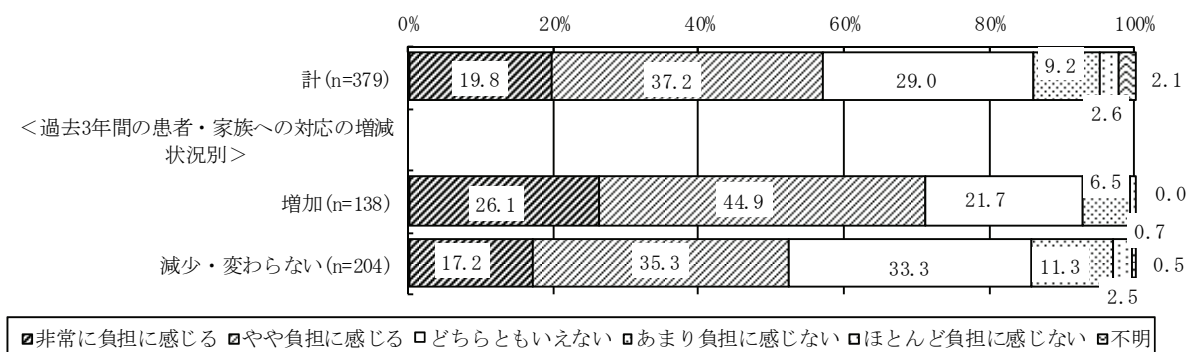
一方、「暴言・セクハラ等への対応の負担感」は「負担に感じる」とする割合は 58.0%となっている。過去 3 年間の暴言・セクハラ等への対応の増減状況別に「暴言・セクハラ等への対応の負担感」をみると、「増加」とする者の「負担に感じる」割合は 85.0%と高い (図表 2-3-27)。

これを配属別にみると、「患者・家族への対応の負担感」では、「負担に感じる」の割合は「一般病棟、精神科病棟」が 65.0%ともっとも高く、次いで「外来部門」などとなっている。「暴言・セクハラ等への対応の負担感」では、「負担に感じる」の割合は「外来部門」が 66.7%ともっとも高く、次いで「一般病棟、精神科病棟」などとなっている。役職別にみると、「患者・家族への対応の負担感」では、「負担に感じる」の割合にほとんど差はない。「暴言・セクハラ等への対応の負担感」では、「役職あり」のほうが「負担に感じる」の割合が高い。性別にみると、「患者・家族への対応の負担感」では「負担に感じる」の割合に差はない。一方、「暴言・セクハラ等への対応の負担感」では、「女性」のほうが負担に感じる割合は高くなっている。

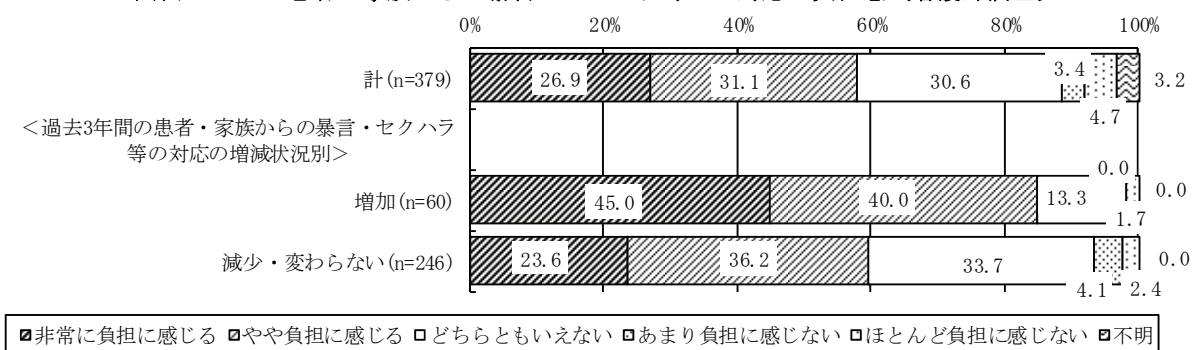
年齢別にみると、「患者・家族への対応の負担感」では「負担に感じる」割合は、「20代」で 59.1%、「40代以上」で 58.0%と高くなっている。「暴言・セクハラ等への対応の負担感」

では、年齢が「30代」で「負担を感じる」割合がもっとも高い（図表 2-3-28）。

図表 2-3-26：患者・家族への対応（クレーム含む）の負担感〔看護師調査〕



図表 2-3-27：患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の負担感〔看護師調査〕



図表 2-3-28：患者・家族への対応の負担感及び、患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の負担感（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	患者・家族への対応（クレーム含む）の負担感							患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の負担感						
		非常に負担を感じる	やや負担を感じる	どちらともいえない	あまり負担を感じない	ほとんど負担を感じない	不明	負担に感じる計	非常に負担を感じる	やや負担を感じる	どちらともいえない	あまり負担を感じない	ほとんど負担を感じない	不明	負担に感じる計
計	379	19.8	37.2	29.0	9.2	2.6	2.1	57.0	26.9	31.1	30.6	3.4	4.7	3.2	58.0
<配属>															
一般病棟、精神科病棟	274	21.2	43.8	25.9	8.0	0.7	0.4	65.0	27.7	36.5	29.2	3.3	2.2	1.1	64.2
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	63	15.9	17.5	44.4	11.1	6.3	4.8	33.4	23.8	12.7	41.3	4.8	12.7	4.8	36.5
外来部門	21	23.8	28.6	38.1	4.8	4.8	0.0	52.4	38.1	28.6	28.6	0.0	4.8	0.0	66.7
管理部門、その他	21	9.5	19.0	14.3	23.8	14.3	19.0	28.5	14.3	19.0	19.0	4.8	14.3	28.6	33.3
<役職>															
役職あり	54	22.2	35.2	27.8	7.4	1.9	5.6	57.4	27.8	42.6	16.7	1.9	3.7	7.4	70.4
役職なし	323	19.2	37.5	29.4	9.6	2.8	1.5	56.7	26.6	29.4	32.8	3.7	5.0	2.5	56.0
<性別>															
男性	19	26.3	31.6	36.8	5.3	0.0	0.0	57.9	21.1	26.3	36.8	0.0	15.8	0.0	47.4
女性	359	19.5	37.6	28.4	9.5	2.8	2.2	57.1	27.3	31.5	30.1	3.6	4.2	3.3	58.8
<年齢>															
20代以下	198	16.2	42.9	28.8	10.1	2.0	0.0	59.1	23.2	33.3	33.3	4.5	4.5	1.0	56.5
30代	100	22.0	36.0	33.0	7.0	1.0	1.0	58.0	31.0	32.0	30.0	3.0	3.0	1.0	63.0
40代以上	79	25.3	25.3	24.1	10.1	6.3	8.9	50.6	30.4	25.3	24.1	1.3	7.6	11.4	55.7

※「負担を感じる」は「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計。

### (3)患者（とその家族）との関係に対する満足度

患者（とその家族）との関係に対する満足度は、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が 53.9%となっており、その満足度は高い。「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合は 8.4%と少ない。

これを過去 3 年間の患者・家族への対応の増減状況別にみると、「増加」とする者ほど「不満である」とする割合が高い。過去 3 年間の暴言・セクハラ等への対応の増減状況別にみても、「不満である」とする者の割合は「増加」のほうが高い（図表 2-3-29）。

図表 2-3-29：患者（とその家族）との関係に対する満足度（単位＝％）〔看護師調査〕

	患者（とその家族）との関係の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	379	7.7	46.2	37.2	6.3	2.1	0.5	53.9	8.4
<過去3年間の患者・家族への対応の増減状況別>									
増加状況>	138	3.6	50.7	30.4	10.1	4.3	0.7	54.3	14.4
減少・変わらない	204	10.3	46.1	39.7	3.9	0.0	0.0	56.4	3.9
<過去3年間の患者・家族からの暴言・セクハラ等の対応の増減状況>									
増加	60	3.3	41.7	28.3	20.0	6.7	0.0	45.0	26.7
減少・変わらない	246	6.5	49.6	37.8	4.5	1.2	0.4	56.1	5.7

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

## 3-7. 通常業務以外の業務

### (1)電子カルテの導入の負担感

電子カルテの導入による負担感については、「導入前に勤務していなかったためわからない」を除いてみると、「負担が減った」が 29.0%、「負担が増えた」が 17.2%となっており、「負担が減った」とする者の割合のほうが高い。これを年齢別にみると、年齢が低くなるほど「負担が減った」とする割合が高まる傾向にある（図表 2-3-30）。

図表 2-3-30：電子カルテ導入による業務の負担感（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	負担が減った	どちらともいえない	負担が増えた
計	238	29.0	53.8	17.2
<年齢別>				
20代以下	83	41.0	51.8	7.2
30代	78	25.6	56.4	17.9
40代以上	75	20.0	53.3	26.7

※「導入前に勤務していなかったためわからない」「不明」を除き集計。

### (2)通常業務以外の業務の増減状況及び、通常業務以外の業務の負担感

過去 3 年間の通常業務以外の業務の増減状況をみると、「増加」（「大変増加した」「やや増加した」の合計）は、52.2%となっている。これを役職別にみると、「役職あり」の「増加」の割合は 74.1%と高い（図表 2-3-31）。

通常業務以外の業務（書類作成等）の負担感は、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」

「やや負担に感じる」の合計) とする割合は 80.0%となっている。「負担に感じない」(「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計) とする割合は 2.9%とわずかにすぎない(図表 2-3-32。「通常業務」での「負担に感じる」割合は 51.8%で、「通常業務以外の業務」のほうが高い)。

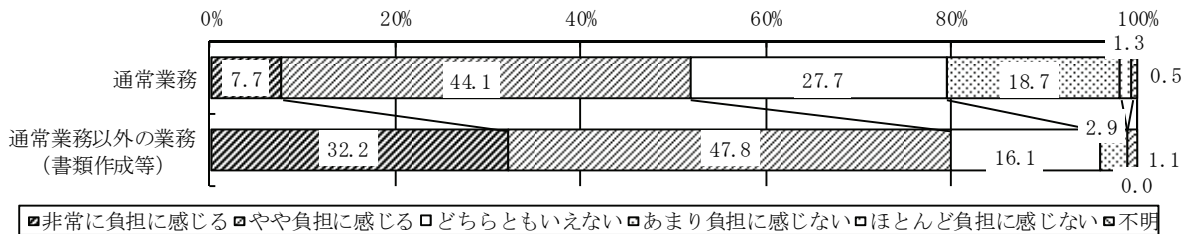
通常業務以外の業務の負担感を電子カルテの負担度別にみると、「負担に感じる」とする割合にほとんど差はみられないが、通常業務以外の業務が「非常に負担に感じる」とする割合は、電子カルテ導入によって「負担が増えた」とする者でもっとも高くなっている。過去 3 年間の通常業務以外の業務の増減別にみると、増加している者の「負担に感じる」割合は 89.9%と高くなっている。看護師の不足感別にみると、看護師不足を感じている者の 82.7%が「負担に感じる」としている。また、役職別にみると、「役職あり」の 85.2%が「負担に感じる」としている(図表 2-3-33)。

図表 2-3-31 : 過去 3 年間の通常業務以外の業務の増減状況 (単位=%) [看護師調査]

	n	大変増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	大変減少した	該当する者・事項がない	不明	増加計	減少計
計	379	15.8	36.4	34.0	7.1	1.3	2.6	2.6	52.2	8.4
<役職>										
役職あり	54	24.1	50.0	20.4	0.0	1.9	0.0	3.7	74.1	1.9
役職なし	323	14.6	34.4	36.2	8.4	1.2	2.8	2.5	49.0	9.6

※「増加」は「大変増加した」「やや増加した」の合計。「減少」は「大変減少した」「やや減少した」の合計。

図表 2-3-32 : 業務の負担感 (n=379、単位=%) [看護師調査]



図表 2-3-33 : 通常業務以外の業務の負担感 (単位=%) [看護師調査]

	通常業務以外の業務の負担感							負担感計	
	n	非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる計	負担に感じない計
計	379	32.2	47.8	16.1	2.9	0.0	1.1	80.0	2.9
<電子カルテ負担度>									
負担が減った	69	17.4	55.1	21.7	5.8	0.0	0.0	72.5	5.8
どちらともいえない	128	28.1	52.3	14.8	2.3	0.0	2.3	80.5	2.3
負担が増えた	41	46.3	26.8	22.0	4.9	0.0	0.0	73.2	4.9
<過去3年間の通常業務以外の業務の増減状況>									
増加	198	41.9	48.0	8.1	2.0	0.0	0.0	89.9	2.0
減少・変わらない	161	20.5	50.3	24.8	4.3	0.0	0.0	70.8	4.3
<看護師の不足>									
感じる	278	34.5	48.2	13.7	2.2	0.0	1.4	82.7	2.2
感じない・どちらとも言えない	100	26.0	46.0	23.0	5.0	0.0	0.0	72.0	5.0
<役職>									
役職あり	54	38.9	46.3	7.4	5.6	0.0	1.9	85.2	5.6
役職なし	323	31.0	48.0	17.6	2.5	0.0	0.9	79.0	2.5

※「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。「負担に感じない」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。

## 4. 労働時間、休日、年次有給休暇取得日数

### 4-1. 週あたり労働時間

#### (1) 週あたり労働時間

1 週間あたりの実際の労働時間（時間外労働（残業）時間を含む）は、平均時間で 45.2 時間となっている。その分布をみると、「50～60 時間未満」が 33.8%と最も割合が高く、次いで、「40～50 時間未満」（30.9%）、「60～70 時間未満」（11.3%）などとなっている。「60 時間以上」（「60～70 時間未満」「70～80 時間未満」「80 時間以上」の合計）の割合は 13.9%である（以下、図表 2-4-1 参照）。

これを配属別にみると、平均値が高いのは「一般病棟、精神科病棟」（46.8 時間）、「管理部門、その他」（44.2 時間）などであり、「60 時間以上」でみると、「一般病棟、精神科病棟」が 18.3%と最も割合が高くなっている。

役職別にみると、「60 時間以上」の割合は「役職あり」で 20.4%と高い（平均値は 50.4 時間）。年齢別にみると、年齢が低くなるほど「60 時間以上」の割合は高くなっている。子供の有無でみると、子供がいる者のほうが平均値は低い。

過去 1 年間の学会等の参加回数別にみると、回数が多くなるほど「60 時間以上」の割合は高くなる。過去 3 年間の学会等での論文発表別にみると、論文発表が「ある」者のほうがその割合は高い。過去 3 年間の学術雑誌への投稿論文提出別にみると、論文提出が「ある」者のほうが「60 時間以上」の割合は 20.0%と高くなっている（平均値は 50.0 時間）。

月あたり多職種カンファレンス回数別にみると、カンファレンス回数が「2～4 回」で「60 時間以上」の割合が 17.2%と高くなっている。

交代勤務の有無別にみると、平均値は、「二交代制・変則二交代制」46.9 時間、「三交代制・変則三交代制」42.0 時間、「夜勤なし」41.5 時間の順となっている。「60 時間以上」の割合をみると、「二交代制・変則二交代制」が 17.2%と高い。

三交代制（夜勤・準夜勤回数）別にみると、「10 回未満」のほうが「10 回以上」に比べ平均値が低く、「60 時間以上」の割合も低い。「20 時間未満」の割合をみると、「10 回以上」が 23.1%、「10 回未満」が 8.8%となっており、「10 回以上」のほうがその割合は高い。三交代制で回数が多い者には短時間の割合が多いようであり、それが平均値を低くしているようである。

一方、二交代制（所定労働時間）別にみると、所定労働時間が長くなるほど、「60 時間以上」の割合が高くなっている。その平均値をみると、「16 時間」で 47.6 時間となっており、他に比べて高くなっている。二交代制（夜勤回数）別にみると、平均値にほとんど差はみられない。「60 時間以上」の割合をみると、「4 回」が 18.2%、「5 回以上」が 17.5%などとなっている。

図表 2-4-1 : 週あたり労働時間 (単位=%) [看護師調査]

	n	20時間未満	20～40時間未満	40～50時間未満	50～60時間未満	60～70時間未満	70～80時間未満	80時間以上	不明	60時間以上計	平均	標本標準偏差
計	379	10.6	3.2	30.9	33.8	11.3	1.8	0.8	7.7	13.9	45.2	15.7
<配属>												
一般病棟、精神科病棟	274	9.1	3.3	27.7	33.2	14.6	2.6	1.1	8.4	18.3	46.8	15.4
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	63	17.5	1.6	36.5	34.9	3.2	0.0	0.0	6.3	3.2	40.5	17.0
外来部門	21	9.5	0.0	57.1	23.8	0.0	0.0	0.0	9.5	0.0	40.8	12.6
管理部門、その他	21	9.5	9.5	28.6	47.6	4.8	0.0	0.0	0.0	4.8	44.2	14.8
<役職>												
役職あり	54	1.9	3.7	25.9	42.6	18.5	1.9	0.0	5.6	20.4	50.4	10.1
役職なし	323	12.1	3.1	31.9	32.2	9.9	1.9	0.9	8.0	12.7	44.3	16.3
<年齢>												
20代以下	198	8.1	3.0	27.8	36.4	13.1	2.5	1.5	7.6	17.1	47.4	15.1
30代	100	16.0	3.0	32.0	29.0	10.0	1.0	0.0	9.0	11.0	41.6	16.8
40代以上	79	10.1	3.8	38.0	32.9	8.9	1.3	0.0	5.1	10.2	44.2	14.9
<子供の有無>												
いる	79	12.7	3.8	41.8	27.8	6.3	1.3	0.0	6.3	7.6	42.2	15.2
いない	298	10.1	3.0	27.9	35.6	12.8	2.0	1.0	7.7	15.8	46.1	15.8
<過去1年間の学会等参加回数>												
ない	115	12.2	4.3	33.9	27.8	8.7	0.9	0.9	11.3	10.5	42.9	16.3
1回	98	11.2	3.1	31.6	38.8	9.2	1.0	2.0	3.1	12.2	45.3	15.6
2回	70	10.0	1.4	34.3	27.1	11.4	4.3	0.0	11.4	15.7	45.6	16.1
3回以上	94	8.5	3.2	23.4	40.4	17.0	2.1	0.0	5.3	19.1	47.5	14.7
<過去3年間の学会等での論文発表>												
ない	265	12.1	2.6	32.8	32.1	9.8	1.9	1.1	7.5	12.8	44.4	16.4
ある	112	7.1	4.5	26.8	37.5	14.3	1.8	0.0	8.0	16.1	47.0	14.0
<過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出>												
ない	327	11.0	3.4	31.8	32.4	11.0	1.5	0.9	8.0	13.4	44.8	15.8
ある	45	4.4	2.2	24.4	44.4	15.6	4.4	0.0	4.4	20.0	50.0	12.7
<月あたり多職種カンファレンス回数>												
ない	39	15.4	2.6	33.3	35.9	5.1	0.0	0.0	7.7	5.1	42.1	17.0
1回	99	7.1	3.0	39.4	35.4	9.1	1.0	1.0	4.0	11.1	45.9	13.0
2～4回	151	11.3	3.3	23.2	34.4	13.2	3.3	0.7	10.6	17.2	45.5	16.7
5回以上	78	11.5	2.6	34.6	33.3	10.3	1.3	1.3	5.1	12.9	45.2	16.3
<交代勤務の有無>												
夜勤なし	60	13.3	5.0	46.7	23.3	8.3	0.0	0.0	3.3	8.3	41.5	15.5
三交代制・変則三交代制	62	14.5	1.6	38.7	29.0	3.2	3.2	1.6	8.1	8.0	42.0	17.0
二交代制・変則二交代制	250	9.2	3.2	25.6	36.8	14.4	2.0	0.8	8.0	17.2	46.9	15.3
三交代制												
<三交代制(夜勤・準夜勤回数)>												
10回未満	34	8.8	2.9	44.1	26.5	2.9	5.9	0.0	8.8	8.8	44.1	14.9
10回以上	26	23.1	0.0	30.8	30.8	3.8	0.0	3.8	7.7	7.6	38.8	19.8
二交代制												
<二交代制(所定労働時間)>												
12時間	28	7.1	0.0	46.4	32.1	3.6	0.0	0.0	10.7	3.6	44.2	13.1
14時間	21	14.3	4.8	19.0	47.6	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	44.1	17.2
16時間	192	8.9	3.6	24.0	36.5	16.1	2.1	1.0	7.8	19.2	47.6	15.3
<二交代制(夜勤回数)>												
1～3回	74	6.8	1.4	24.3	44.6	12.2	2.7	0.0	8.1	14.9	47.8	12.7
4回	132	10.6	4.5	26.5	33.3	15.9	1.5	0.8	6.8	18.2	46.1	16.0
5回以上	40	10.0	2.5	27.5	32.5	15.0	0.0	2.5	10.0	17.5	47.4	17.3



(2) 「労働時間の長さ」の満足度

「労働時間の長さ」の満足度をみると、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が58.6%と6割弱を占めており、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合の19.0%を大きく上回っている。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど、「不満である」とする割合は高まる。

交代制勤務の有無別にみると、「不満である」とする割合は「二交代制・変則二交代制」が68.0%ともっとも高くなっており、次いで、「三交代制・変則三交代制」が38.7%などとなっている。

三交代制（夜勤・準夜勤回数）別にみると、「10回未満」のほうが「10回以上」に比べ「満足である」とする割合はわずかに高い。一方、二交代制（所定労働時間）別にみると、「不満である」とする割合は、所定労働時間が長くなるほど高くなっている。二交代制（夜勤回数）別にみると、回数が「1～3回」の者がもっとも「不満である」とする割合が低い（図表2-4-2）。

図表 2-4-2：労働時間の長さの満足度（単位＝％）

	労働時間の長さの満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	379	1.3	17.7	22.2	38.5	20.1	0.3	19.0	58.6
<週労働時間>									
50時間未満	169	1.8	24.9	24.9	36.1	12.4	0.0	26.7	48.5
50～60時間未満	128	0.8	16.4	24.2	38.3	19.5	0.8	17.2	57.8
60時間以上	53	1.9	5.7	9.4	45.3	37.7	0.0	7.6	83.0
<交代勤務の有無>									
夜勤なし	60	5.0	31.7	21.7	26.7	15.0	0.0	36.7	41.7
三交代制・変則三交代制	62	0.0	25.8	35.5	33.9	4.8	0.0	25.8	38.7
二交代制・変則二交代制	250	0.4	12.4	18.8	43.2	24.8	0.4	12.8	68.0
三交代制									
<三交代制（夜勤・準夜勤回数）>									
10回未満	34	0.0	26.5	32.4	35.3	5.9	0.0	26.5	41.2
10回以上	26	0.0	23.1	38.5	34.6	3.8	0.0	23.1	38.5
二交代制									
<二交代制（所定労働時間）>									
12時間	28	0.0	25.0	14.3	46.4	14.3	0.0	25.0	60.7
14時間	21	0.0	9.5	19.0	57.1	9.5	4.8	9.5	66.7
16時間	192	0.5	10.4	18.8	43.2	27.1	0.0	10.9	70.3
<二交代制（夜勤回数）>									
1～3回	74	1.4	13.5	20.3	44.6	18.9	1.4	14.9	63.5
4回	132	0.0	12.1	15.9	43.9	28.0	0.0	12.1	71.9
5回以上	40	0.0	12.5	20.0	42.5	25.0	0.0	12.5	67.5

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

#### 4-2. 休日

調査では、過去 1 ヶ月でみて、週あたりで実際に何日休めているかについて尋ねている。それによれば、「週 2 日」が 89.7%でもっとも割合が高い。これを週あたり勤務日数別にみると、週 5 日勤務の者では、「週 2 日」が 91.3%でもっとも割合が高くなっている(図表 2-4-3)

そこで週 5 日勤務の者(すなわち、制度上で週休 2 日制の者)について、週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど「週 1 日以下」(「週 0 日」「週 1 日」の合計)の割合が高まる傾向にある。

交代制勤務の有無別にみると、「週 1 日以下」の割合は、「三交代制・変則三交代制」で 9.6%でもっとも高くなっている。

役職別にみると、「役職あり」のほうが「役職なし」に比べ、「週 1 日以下」の割合が高い(図表 2-4-4)。

図表 2-4-3 : 週あたり休日日数 (単位=%) [看護師調査]

	n	週 0 日	週 1 日	週 2 日	週 3 日	週 4 日以上	不明
計	379	0.5	7.7	89.7	0.3	1.6	0.3
<週あたり勤務日数>							
2 日	6	16.7	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0
3 日	16	0.0	12.5	81.3	6.3	0.0	0.0
4 日	45	0.0	11.1	86.7	0.0	2.2	0.0
5 日	311	0.3	6.8	91.3	0.0	1.3	0.3

図表 2-4-4 : 過去 1 ヶ月でみた週 5 日勤務者の実際に休めた休日日数 (単位=%) [看護師調査]

	n	週当たりの実際に休めた休日日数						週 1 日以下計
		週 0 日	週 1 日	週 2 日	週 3 日	週 4 日以上	不明	
計	311	0.3	6.8	91.3	0.0	1.3	0.3	7.1
<週あたり労働時間>								
5 0 時間未満	136	0.0	5.9	91.9	0.0	1.5	0.7	5.9
5 0 ~ 6 0 時間未満	110	0.0	5.5	94.5	0.0	0.0	0.0	5.5
6 0 時間以上	48	2.1	8.3	85.4	0.0	4.2	0.0	10.4
<交代勤務の有無>								
夜勤なし	59	0.0	6.8	91.5	1.7	0.0	0.0	6.8
三交代制・変則三交代制	52	1.9	7.7	88.5	1.9	0.0	0.0	9.6
二交代制・変則二交代制	193	0.0	6.7	91.7	1.0	0.0	0.5	6.7
<役職>								
役職あり	54	0.0	9.3	90.7	0.0	0.0	0.0	9.3
役職なし	255	0.4	6.3	91.4	0.0	1.6	0.4	6.7

※週 5 日勤務の者を対象に集計。

### 4-3. 年次有給休暇の取得日数

#### (1)年次有給休暇取得日数

今年度 1 年間の年次有給休暇の取得日数は、「1～3 日」が 46.2%と最も割合が高く、次いで、「4～6 日」が 27.7%、「7～10 日」が 9.0%、「0 日」が 8.7%などとなっており、約半数（54.9%）が「3 日以下」（「0 日」「1～3 日」の合計）となっている（以下、図表 2-4-5 参照）。

これを配属別にみると、「3 日以下」の割合は「一般病棟、精神科病棟」が 64.2%と最も高くなっている。

役職別にみると、「3 日以下」の割合は「役職あり」で 57.4%、「役職なし」で 54.4%となっており、わずかに「役職あり」が高い。勤続年数別にみると、おおむね勤続年数が短い者ほど「3 日以下」の割合が高く、勤続年数が長くなるほど、「7 日以上」（「7～10 日」「11～15 日」「16～19 日」「20 日」「21 日以上」の合計）の割合が高くなっている。

年齢別にみると、「3 日以下」の割合は「20 代以下」で 61.6%と高くなっている。「7 日以上」の割合は年齢が上がるほど高い。子供の有無でみると、子供がいる者のほうが「7 日以上」の割合が高くなっている。

過去 1 年間の学会等の参加回数別にみると、おおむね回数が多くなるほど「7 日以上」の割合は高くなる。過去 3 年間の学会等での論文発表別にみると、論文発表が「ある」者のほうが「3 日以下」の割合は高い。過去 3 年間の学術雑誌への投稿論文提出別でも、論文提出が「ある」者のほうが「3 日以下」の割合が高くなっている。

月あたり多職種カンファレンス回数別にみると、カンファレンス回数が多い者ほど、「3 日以下」の割合が高くなっている。

交代勤務の有無別にみると、「3 日以下」の割合は、「三交代制・変則三交代制」が 71.0%と最も高くなっており（「7 日以上」が 1.6%）、次いで、「二交代制・変則二交代制」が 60.0%などとなっている。

三交代制（夜勤・準夜勤回数）別にみると、「10 回以上」のほうが「10 回未満」に比べ「3 日以下」の割合が高く、76.9%となっている。一方、二交代制（所定労働時間）別にみると、所定労働時間が長くなるほど、「3 日以下」の割合が高くなっている。二交代制（夜勤回数）別にみると、「7 日以上」の割合は回数が少なくなるほどわずかに高くなっている。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど、「3 日以下」の割合は高まり、「60 時間以上」では 67.9%と最も高くなっている。

図表 2-4-5：年次有給休暇取得日数（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	0日	1～3日	4～6日	7～10日	11～15日	16～19日	20日	21日以上	不明	3日以下計	7日以上計
計	379	8.7	46.2	27.7	9.0	1.8	1.8	0.3	0.8	3.7	54.9	13.7
<配属>												
一般病棟、精神科病棟	274	12.0	52.2	25.5	4.0	0.7	0.4	0.4	0.4	4.4	64.2	5.9
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	63	0.0	33.3	41.3	15.9	1.6	3.2	0.0	3.2	1.6	33.3	23.9
外来部門	21	0.0	23.8	28.6	28.6	9.5	4.8	0.0	0.0	4.8	23.8	42.9
管理部門、その他	21	0.0	28.6	14.3	33.3	9.5	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	57.1
<役職>												
役職あり	54	11.1	46.3	14.8	20.4	1.9	1.9	0.0	3.7	0.0	57.4	27.9
役職なし	323	8.0	46.4	30.0	6.8	1.9	1.9	0.3	0.3	4.3	54.4	11.2
<勤続年数>												
3年未満	75	14.7	44.0	25.3	5.3	0.0	1.3	0.0	0.0	9.3	58.7	6.6
3～5年未満	84	3.6	59.5	25.0	4.8	2.4	0.0	1.2	0.0	3.6	63.1	8.4
5～7年未満	46	2.2	50.0	30.4	10.9	2.2	2.2	0.0	0.0	2.2	52.2	15.3
7年以上	151	11.3	38.4	30.5	11.3	2.6	2.6	0.0	2.0	1.3	49.7	18.5
<年齢>												
20代以下	198	10.1	51.5	27.8	5.6	1.0	0.0	0.5	0.0	3.5	61.6	7.1
30代	100	7.0	40.0	35.0	6.0	3.0	2.0	0.0	1.0	6.0	47.0	12.0
40代以上	79	7.6	40.5	19.0	21.5	2.5	6.3	0.0	2.5	0.0	48.1	32.8
<子供の有無>												
いる	79	7.6	30.4	24.1	19.0	5.1	7.6	0.0	2.5	3.8	38.0	34.2
いない	298	9.1	50.7	28.5	6.4	1.0	0.3	0.3	0.3	3.4	59.8	8.3
<過去1年間の学会等参加回数>												
ない	115	13.0	51.3	26.1	5.2	0.0	0.9	0.9	0.0	2.6	64.3	7.0
1回	98	9.2	36.7	33.7	8.2	3.1	2.0	0.0	1.0	6.1	45.9	14.3
2回	70	4.3	50.0	30.0	5.7	2.9	1.4	0.0	0.0	5.7	54.3	10.0
3回以上	94	6.4	46.8	22.3	16.0	2.1	3.2	0.0	2.1	1.1	53.2	23.4
<過去3年間の学会等での論文発表>												
ない	265	8.3	43.8	29.4	8.7	2.3	1.5	0.4	0.8	4.9	52.1	13.7
ある	112	8.9	51.8	24.1	9.8	0.9	2.7	0.0	0.9	0.9	60.7	14.3
<過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出>												
ない	327	8.9	44.3	28.7	8.9	2.1	1.5	0.3	0.9	4.3	53.2	13.7
ある	45	6.7	57.8	24.4	6.7	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0	64.5	11.1
<月あたり多職種カンファレンス回数>												
ない	39	2.6	30.8	33.3	28.2	0.0	5.1	0.0	0.0	0.0	33.4	33.3
1回	99	13.1	42.4	23.2	7.1	5.1	2.0	0.0	2.0	5.1	55.5	16.2
2～4回	151	7.3	49.0	31.8	6.6	1.3	0.7	0.0	0.7	2.6	56.3	9.3
5回以上	78	9.0	55.1	21.8	7.7	0.0	2.6	1.3	0.0	2.6	64.1	11.6
<交代勤務の有無>												
夜勤なし	60	0.0	21.7	25.0	26.7	8.3	8.3	1.7	3.3	5.0	21.7	48.3
三交代制・変則三交代制	62	8.1	62.9	25.8	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	71.0	1.6
二交代制・変則二交代制	250	11.2	48.8	28.8	6.0	0.8	0.8	0.0	0.0	3.6	60.0	7.6
三交代制												
<三交代制（夜勤・準夜勤回数）>												
10回未満	34	8.8	55.9	29.4	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	64.7	2.9
10回以上	26	7.7	69.2	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	76.9	0.0
二交代制												
<二交代制（所定労働時間）>												
12時間	28	0.0	32.1	53.6	7.1	0.0	3.6	0.0	0.0	3.6	32.1	10.7
14時間	21	0.0	57.1	33.3	4.8	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	9.5
16時間	192	14.6	51.6	24.0	5.2	0.5	0.5	0.0	0.0	3.6	66.1	6.3
<二交代制（夜勤回数）>												
1～3回	74	13.5	48.6	21.6	10.8	1.4	1.4	0.0	0.0	2.7	62.1	13.6
4回	132	11.4	52.3	27.3	4.5	0.8	0.8	0.0	0.0	3.0	63.7	6.1
5回以上	40	7.5	37.5	47.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	45.0	2.5
<週労働時間>												
50時間未満	169	7.7	44.4	30.2	8.3	2.4	2.4	0.0	1.2	3.6	52.1	14.3
50～60時間未満	128	8.6	44.5	27.3	13.3	2.3	1.6	0.8	0.8	0.8	53.1	18.8
60時間以上	53	13.2	54.7	24.5	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	67.9	1.9

(2) 年次有給休暇の用途

年次有給休暇の用途は、「家での休養」が26.0%ともっとも多くなっており、次いで、「学会・研究会・院外研修会の参加等」が20.4%、「自分の病気・けがの療養」が20.4%などとなっている。約2割が年次有給休暇を使って「学会・研究会・院外研修会の参加等」をしているようである。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が短くなるほど、「家での休養」「家族等の看護・介護」「家事・育児」などの割合が高くなる傾向にあり、労働時間が長くなるほど、「海外旅行」「2泊以上の国内旅行」「学会・研究会・院外研修会の参加等」などの割合が高くなる傾向にある。交代勤務の有無別にみると、「二交代制・変則二交代制」は他に比べて、「海外旅行」「2泊以上の国内旅行」「1泊の国内旅行」「映画・演劇、コンサート、スポーツ観戦など」等の割合が高く、「三交代制・変則三交代制」は他に比べて「家での休養」「日帰りのレジャー」などの割合が高い。過去1年間の学会等の参加回数別にみると、回数が多くなるほど、「学会・研究会・院外研修会の参加等」などの割合が高まる傾向にある。また、過去3年間の学会等での論文発表別にみると、論文発表が「ある」者のほうが「学会・研究会・院外研修会の参加等」「自己啓発のための学習」「研究」の割合は高い。また、過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出別でも、論文提出が「ある」者のほうが「学会・研究会・院外研修会の参加等」「自己啓発のための学習」「研究」の割合は高くなっている（図表2-4-6）。

図表 2-4-6：年次有給休暇の用途（複数回答、単位＝％）〔看護師調査〕

	n	海外旅行	2泊以上の国内旅行	1泊の国内旅行	日帰りのレジャー	ゴルフなどのスポーツ	登山	映画・演劇、コンサート、スポーツ観戦など	家での休養	自分の病気・けがの療養	家族等の看護・介護	家事・育児	研究	学会・研究会・院外研修会の参加等	自己啓発のための学習	その他
計	373	7.8	8.8	5.4	6.2	0.0	1.6	2.7	26.0	20.4	9.1	12.1	1.3	20.4	6.7	19.8
<週労働時間>																
50時間未満	167	4.8	7.8	3.6	6.0	0.0	2.4	2.4	27.5	22.2	12.6	16.8	1.8	17.4	5.4	21.6
50～60時間未満	127	9.4	8.7	7.1	7.1	0.0	1.6	1.6	25.2	19.7	6.3	8.7	0.8	24.4	10.2	21.3
60時間以上	52	9.6	9.6	5.8	1.9	0.0	0.0	5.8	23.1	23.1	3.8	7.7	1.9	25.0	3.8	11.5
<年次有給休暇取得日数>																
0～3日	206	5.8	6.3	2.4	4.4	0.0	1.0	1.0	25.2	13.6	5.3	6.8	0.5	14.6	3.4	19.9
4～6日	105	10.5	9.5	11.4	10.5	0.0	3.8	2.9	33.3	26.7	8.6	11.4	1.0	23.8	4.8	20.0
7日以上	52	9.6	13.5	5.8	3.8	0.0	0.0	9.6	15.4	34.6	26.9	32.7	5.8	38.5	25.0	17.3
<交代勤務の有無>																
夜勤なし	59	6.8	5.1	5.1	1.7	0.0	3.4	1.7	8.5	39.0	35.6	39.0	1.7	27.1	18.6	16.9
三交代制・変則三交代制	62	4.8	3.2	3.2	8.1	0.0	1.6	0.0	33.9	25.8	0.0	4.8	1.6	9.7	1.6	29.0
二交代制・変則二交代制	246	8.5	11.4	6.1	6.9	0.0	1.2	3.7	28.9	14.2	4.9	7.3	1.2	20.7	4.9	17.9
<過去1年間の学会等参加回数>																
ない	113	6.2	8.8	7.1	8.0	0.0	1.8	1.8	24.8	17.7	9.7	14.2	0.0	3.5	2.7	21.2
1回	96	7.3	8.3	4.2	4.2	0.0	0.0	3.1	29.2	29.2	8.3	7.3	2.1	13.5	5.2	25.0
2回	68	7.4	14.7	5.9	4.4	0.0	4.4	2.9	30.9	19.1	4.4	14.7	1.5	30.9	2.9	11.8
3回以上	94	10.6	5.3	4.3	7.4	0.0	1.1	2.1	19.1	16.0	11.7	12.8	1.1	39.4	14.9	18.1
<過去3年間の学会等での論文発表>																
ない	259	7.3	8.9	5.4	5.0	0.0	1.2	2.3	25.9	20.8	10.4	13.5	0.8	16.6	5.8	21.6
ある	112	8.9	8.9	5.4	8.9	0.0	2.7	3.6	25.9	19.6	6.3	8.9	2.7	29.5	8.9	15.2
<過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出>																
ない	321	7.2	9.0	5.3	6.2	0.0	1.6	2.5	25.9	21.2	8.7	13.1	0.3	19.3	5.9	19.6
ある	45	11.1	8.9	6.7	6.7	0.0	0.0	4.4	28.9	17.8	11.1	4.4	6.7	22.2	13.3	22.2

※「今年度はまだ1日も年休を取得できていない」「不明」を除いて集計。

(3) 「休日・休暇の日数」の満足度

「休日・休暇の日数」の満足度をみると、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が 51.5%と半数を占めており、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合の 26.7%を大きく上回っている。

週あたり労働時間別にみると、労働時間の長さにかかわらず「不満である」とする割合は半数程度いる。実際に休めた週あたり休日数別にみると、「週休 1 日以下」の者で「不満である」とする割合が高い。年次有給休暇取得日数別にみると、取得日数が多くなるほど「不満である」とする割合が低下する一方で、「満足である」とする割合が高まる。

交代制勤務の有無別にみると、「不満である」とする割合は「三交代制・変則三交代制」が 66.1%ともっとも高くなっており、次いで、「二交代制・変則二交代制」が 52.4%などとなっている。三交代制（夜勤・準夜勤回数）別にみると、「10 回以上」のほうが「10 回未満」に比べ「不満である」とする割合は高くなっており、「10 回以上」の「不満である」とする割合は 76.9%となっている。一方、二交代制（所定労働時間）別にみると、「不満である」とする割合は、所定労働時間が長くなるほど高くなっており、二交代制（夜勤回数）別にみると、回数が増えるほど「不満である」とする割合が高くなっており、「5 回以上」では「不満である」とする割合は 70.0%となっている（図表 2-4-7）。

図表 2-4-7：休日・休暇の日数の満足度（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	休日・休暇の日数満足度						満足度計	
		満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	379	2.4	24.3	21.4	30.9	20.6	0.5	26.7	51.5
<週労働時間>									
50時間未満	169	2.4	23.1	22.5	31.4	20.7	0.0	25.5	52.1
50～60時間未満	128	2.3	28.1	18.0	30.5	20.3	0.8	30.4	50.8
60時間以上	53	1.9	22.6	20.8	34.0	18.9	1.9	24.5	52.9
<週あたり休日数>									
週休1日以下	31	3.2	19.4	19.4	38.7	19.4	0.0	22.6	58.1
週休2日以上	347	2.3	24.8	21.6	30.3	20.5	0.6	27.1	50.8
<年次有給休暇取得日数>									
0～3日	208	0.5	16.8	20.7	37.5	24.5	0.0	17.3	62.0
4～6日	105	2.9	25.7	21.9	30.5	19.0	0.0	28.6	49.5
7日以上	52	9.6	48.1	19.2	11.5	7.7	3.8	57.7	19.2
<交代勤務の有無>									
夜勤なし	60	3.3	36.7	25.0	18.3	15.0	1.7	40.0	33.3
三交代制・変則三交代制	62	0.0	11.3	22.6	38.7	27.4	0.0	11.3	66.1
二交代制・変則二交代制	250	2.4	24.0	20.8	32.0	20.4	0.4	26.4	52.4
三交代制									
<三交代制（夜勤・準夜勤回数）>									
10回未満	34	0.0	17.6	23.5	38.2	20.6	0.0	17.6	58.8
10回以上	26	0.0	3.8	19.2	42.3	34.6	0.0	3.8	76.9
二交代制									
<二交代制（所定労働時間）>									
12時間	28	0.0	35.7	17.9	28.6	17.9	0.0	35.7	46.4
14時間	21	0.0	9.5	33.3	33.3	19.0	4.8	9.5	52.4
16時間	192	2.1	24.5	19.3	32.8	21.4	0.0	26.6	54.2
<二交代制（夜勤回数）>									
1～3回	74	4.1	35.1	24.3	20.3	14.9	1.4	39.2	35.2
4回	132	1.5	22.7	19.7	34.8	21.2	0.0	24.2	56.0
5回以上	40	2.5	10.0	17.5	42.5	27.5	0.0	12.5	70.0

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

## 5. 健康不安、ヒヤリ・ハット体験、患者からのクレーム

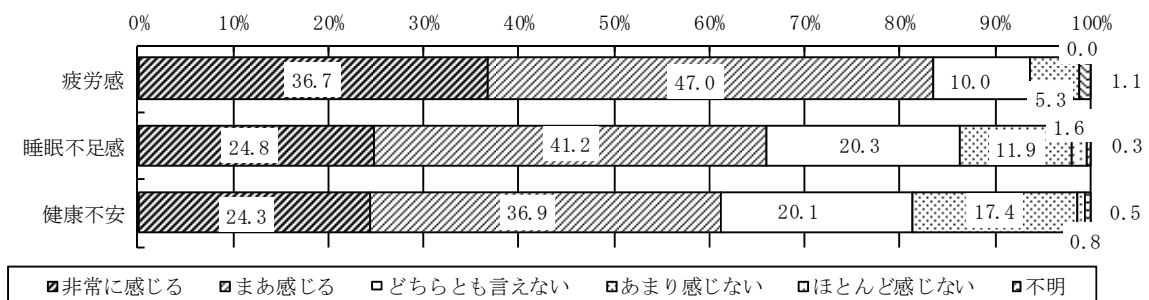
### 5-1. 疲労感、睡眠不足、健康不安

自身の「疲労感」「睡眠不足感」「健康不安」について、それぞれ「感じる」（「非常に感じる」「まあ感じる」の合計）と回答した割合は、「疲労感」が83.7%、「睡眠不足感」が66.0%、「健康不安」が61.2%となっている（図表2-5-1）。

疲労感、睡眠不足感、健康不安それぞれについて、週あたり労働時間別にみると、「感じる」とする割合は、疲労感と睡眠不足についてはおおむね労働時間が長くなるほど高まる傾向にある。年次有給休暇取得日数別にみても、疲労感と睡眠不足については取得日数が少なくなるほど高まる傾向にある。交代勤務の有無別にみると、「二交代制・変則二交代制」は「疲労感」で「感じる」とする割合がもっとも高い。「三交代制・変則三交代制」は「睡眠不足感」でもっとも割合が高くなっている（図表2-5-2）。

疲労感に対する認識別に健康不安をみると、疲労感を感じている者の健康不安を「感じる」割合は71.0%である。睡眠不足感に対する認識別に健康不安をみると、睡眠不足感を感じている者の健康不安を「感じる」割合は74.4%である（図表2-5-3）。

図表 2-5-1：業務に携わるうえでの認識（n=379）〔看護師調査〕

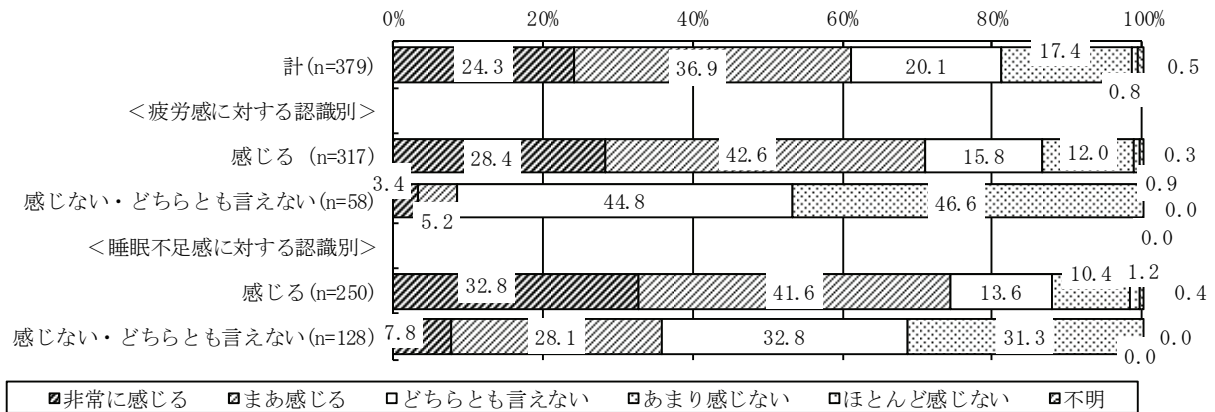


図表 2-5-2：疲労感、睡眠不足感、健康不安に対する認識（単位＝%）〔看護師調査〕

	計	疲労感		睡眠不足感		健康不安		
		感じる計	感じない計	感じる計	感じない計	感じる計	感じない計	
計	379	83.7	5.3	66.0	13.5	61.2	18.2	
＜週労働時間＞								
50時間未満	169	81.7	5.9	63.9	14.8	62.7	18.4	
50～60時間未満	128	85.2	5.5	63.3	15.6	59.4	20.3	
60時間以上	53	88.7	1.9	73.6	7.5	62.2	13.2	
＜年次有給休暇取得日数＞								
0～3日	208	85.6	3.8	71.2	12.5	61.0	16.8	
4～6日	105	82.9	6.7	61.9	11.5	60.0	22.9	
7日以上	52	75.0	7.7	48.1	21.1	61.6	13.5	
＜交代勤務の有無＞								
夜勤なし	60	80.0	5.0	56.7	18.4	75.0	11.7	
三交代制・変則三交代制	62	75.8	11.3	74.2	14.5	46.8	32.3	
二交代制・変則二交代制	250	87.2	4.0	66.4	12.4	62.0	16.4	

※「感じる」は「非常に感じる」「まあ感じる」の合計。「感じない」は「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計。

図表 2-5-3：健康不安に対する認識〔看護師調査〕

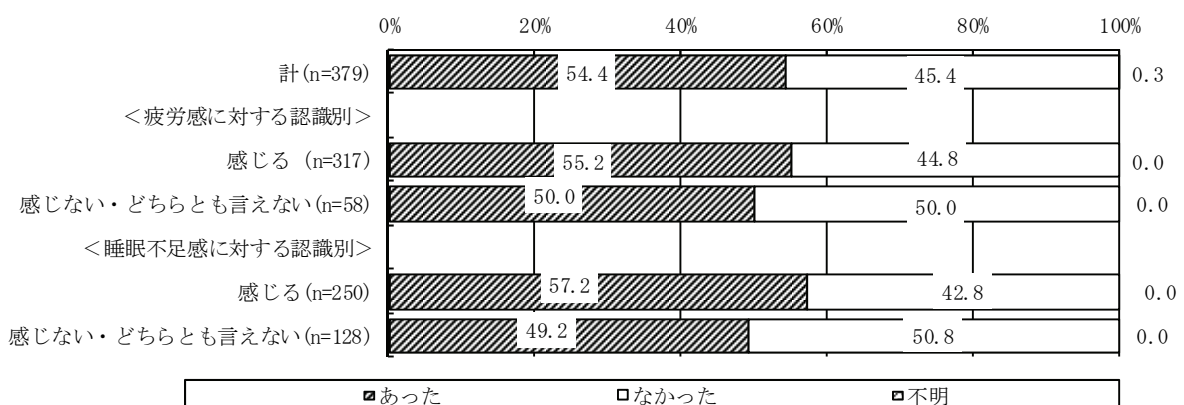


## 5-2. ヒヤリ・ハット体験

調査では、「この1ヵ月間において、医療事故につながるような、「ひやり」としたり、「はっと」したりした体験（ヒヤリ・ハット体験）があるか」について尋ねている。「ヒヤリ・ハット体験」が「あった」とするのは、54.4%である。これを疲労感に対する認識別にみると、疲労感を感じている者ほど、「あった」とする割合は高い。睡眠不足感に対する認識別にみても、睡眠不足感を感じている者ほど、「あった」とする割合が高くなっている（図表 2-5-4）。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど、「あった」とする割合が高まる。交代勤務の有無別にみると、「あった」とする割合は「二交代制・変則二交代制」で 62.4% ともっとも高くなっている。三交代制（夜勤・準夜勤回数）別にみると、「10 回以上」のほうが「10 回未満」に比べ「あった」とする割合は高い。一方、二交代制（所定労働時間）別にみると、「あった」とする割合は、所定労働時間が短くなるほど高くなっている。二交代制（夜勤回数）別にみると、回数が増えるほど「あった」とする割合が高くなっており、「5 回以上」ではその割合が 70.0%となっている。年次有給休暇取得日数別にみると、「7 日以上」の者で「あった」とする割合がもっとも低くなっている（図表 2-5-5）。

図表 2-5-4：この1ヵ月間のヒヤリ・ハット体験の有無〔看護師調査〕





図表 2-5-5：この1ヵ月間のヒヤリ・ハット体験の有無（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	あった	なかった	不明
計	379	54.4	45.4	0.3
＜週労働時間＞				
50時間未満	169	50.3	49.7	0.0
50～60時間未満	128	54.7	44.5	0.8
60時間以上	53	60.4	39.6	0.0
＜交代勤務の有無＞				
夜勤なし	60	31.7	68.3	0.0
三交代制・変則三交代制	62	43.5	56.5	0.0
二交代制・変則二交代制	250	62.4	37.2	0.4
三交代				
＜三交代制（夜勤・準夜勤回数）＞				
10回未満	34	44.1	55.9	0.0
10回以上	26	46.2	53.8	0.0
二交代				
＜二交代制（所定労働時間）＞				
12時間	28	67.9	32.1	0.0
14時間	21	66.7	28.6	4.8
16時間	192	60.9	39.1	0.0
＜二交代制（夜勤回数）＞				
1～3回	74	58.1	40.5	1.4
4回	132	61.4	38.6	0.0
5回以上	40	70.0	30.0	0.0
＜年次有給休暇取得日数別＞				
0～3日	208	56.3	43.8	0.0
4～6日	105	57.1	42.9	0.0
7日以上	52	36.5	61.5	1.9

### 5-3. 患者からのクレーム

患者からのクレームや訴訟リスク（以下、「患者からのクレーム等」と略す）について尋ねたところ、37.7%が「感じる」（「非常に感じる」「まあ感じる」の合計）と回答しており、「感じない」（「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計）とする回答（21.7%）を上回っている。

これをヒヤリ・ハット体験の有無別にみると、ヒヤリ・ハット体験が「あった」とする者で患者からのクレーム等を「感じる」とする割合は41.7%となっている。過去3年間の患者・家族への対応（クレーム含む）の増減状況別にみると、「増加」している者ほど、患者からのクレーム等を「感じる」とする割合が高くなっている。患者・家族からの暴言・セクハラ等の対応の増減状況別にみると、「増加」している者ほど、患者からのクレーム等を「感じる」とする割合が高くなっており、その割合は76.7%となっている（図表2-5-6）。

図表 2-5-6：患者からのクレームや訴訟リスクに対する認識（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	非常に感じる	まあ感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	ほとんど感じない	不明	感じる計	感じない計
計	379	5.5	32.2	40.4	17.2	4.5	0.3	37.7	21.7
＜ヒヤリ・ハット体験の有無＞									
あった	206	5.8	35.9	40.8	15.0	2.4	0.0	41.7	17.4
なかった	172	5.2	27.9	40.1	19.8	7.0	0.0	33.1	26.8
＜過去3年間の患者・家族への対応の増減状況＞									
増加	138	10.9	47.8	26.1	12.3	2.2	0.7	58.7	14.5
減少・変わらない	204	2.0	23.5	49.0	20.6	4.9	0.0	25.5	25.5
＜過去3年間の患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の増減状況＞									
増加	60	20.0	56.7	18.3	3.3	1.7	0.0	76.7	5.0
減少・変わらない	246	2.4	30.9	45.5	17.9	2.8	0.4	33.3	20.7

※「感じる」は「非常に感じる」「まあ感じる」の合計。「感じない」は「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計。

## 6. 年収

### (1) 年収

調査では勤務先での昨年1年間の税込年収（勤続年数が1年に満たない場合は年換算）を尋ねている。年収の平均値は422.4万円。看護師経験年数別、及び勤続年数別にみると、いずれも、年数が長くなるほど平均値は高くなる。これを役職別にみると、「役職あり」のほうが高い（図表2-6-1）。

図表 2-6-1：勤務先の年収（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～700万円未満	700万円以上	不明	平均(万円)	標本標準偏差
計	379	9.8	25.3	24.0	24.3	2.9	13.7	422.4	123.8
<看護師経験年数>									
3年未満	56	32.1	39.3	12.5	3.6	0.0	12.5	324.4	73.1
3～5年未満	74	17.6	43.2	32.4	2.7	0.0	4.1	347.6	72.1
5～10年未満	79	6.3	34.2	39.2	11.4	0.0	8.9	385.3	74.9
10年以上	140	0.7	6.4	19.3	51.4	7.1	15.0	525.3	112.8
<勤続年数>									
3年未満	75	28.0	38.7	16.0	5.3	0.0	12.0	336.3	81.2
3～5年未満	84	16.7	33.3	33.3	9.5	0.0	7.1	359.6	89.7
5～7年未満	46	2.2	37.0	39.1	10.9	2.2	8.7	399.5	83.9
7年以上	151	0.0	7.9	19.2	49.0	6.6	17.2	522.6	107.4
<役職>									
役職あり	54	0.0	1.9	7.4	64.8	18.5	7.4	591.0	95.1
役職なし	323	11.5	29.1	26.6	17.6	0.3	14.9	391.9	102.3
<配属>									
一般病棟、精神科病棟	274	12.4	28.5	22.6	19.3	2.2	15.0	404.0	121.5
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	63	4.8	23.8	28.6	34.9	0.0	7.9	433.1	102.9
外来部門	21	0.0	4.8	38.1	33.3	0.0	23.8	477.5	79.7
管理部門、その他	21	0.0	9.5	14.3	47.6	23.8	4.8	561.0	129.9
<交代勤務の有無>									
夜勤なし	60	3.3	13.3	23.3	40.0	8.3	11.7	490.8	124.6
三交代制・変則三交代制	62	11.3	32.3	22.6	19.4	1.6	12.9	395.4	119.0
二交代制・変則二交代制	250	11.2	27.2	24.8	20.4	2.0	14.4	408.7	117.8
<週労働時間>									
50時間未満	169	7.1	27.2	28.4	26.0	2.4	8.9	425.8	118.9
50～60時間未満	128	10.9	22.7	24.2	27.3	3.1	11.7	432.7	121.5
60時間以上	53	17.0	35.8	17.0	17.0	5.7	7.5	391.0	137.5

### (2) 給与・賃金の額の満足度

給与・賃金の額の満足度をみると、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が52.5%であり、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合（22.4%）を上回っている。

これを配属別にみると、「不満である」とする割合が高いのは、「一般病棟、精神科病棟」が53.6%ともっとも高く、次いで「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」などである。役職別にみると、「役職あり」のほう「不満である」とする割合が高い。週あたり労働時間別にみると、労働時間にかかわらず、「不満である」とする割合が5割程度あ

るが、「60時間以上」でその割合は52.9%ともっとも高くなっている。交代勤務の有無別にみると、「二交代制・変則二交代制」で「不満である」とする割合がもっとも高い。

年収別にみると、「不満である」とする割合がもっとも高いのは「300～500万円未満」である。

看護師経験年数別にみると、「不満である」とする割合は、経験年数が長くなるほど高まる傾向にあり、「5～10年未満」でピークとなっている。勤続年数別にみると、勤続年数が「5～7年未満」で「不満である」とする割合がもっとも高くなっている（図表2-6-2）。

図表 2-6-2：給与・賃金の額の満足度（単位＝％）〔看護師調査〕

	給与・賃金の額の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	379	1.3	21.1	24.8	33.5	19.0	0.3	22.4	52.5
<配属>									
一般病棟、精神科病棟	274	0.7	21.5	23.7	33.2	20.4	0.4	22.2	53.6
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	63	0.0	23.8	23.8	33.3	19.0	0.0	23.8	52.3
外来部門	21	0.0	14.3	42.9	28.6	14.3	0.0	14.3	42.9
管理部門、その他	21	14.3	14.3	23.8	42.9	4.8	0.0	28.6	47.7
<役職>									
役職あり	54	3.7	22.2	16.7	46.3	11.1	0.0	25.9	57.4
役職なし	323	0.9	21.1	26.3	31.3	20.1	0.3	22.0	51.4
<週あたり労働時間>									
50時間未満	169	0.0	26.0	23.1	34.9	16.0	0.0	26.0	50.9
50～60時間未満	128	2.3	15.6	31.3	30.5	19.5	0.8	17.9	50.0
60時間以上	53	3.8	24.5	18.9	34.0	18.9	0.0	28.3	52.9
<交代勤務の有無>									
夜勤なし	60	1.7	25.0	30.0	35.0	8.3	0.0	26.7	43.3
三交代制・変則三交代制	62	0.0	29.0	24.2	32.3	14.5	0.0	29.0	46.8
二交代制・変則二交代制	250	1.2	18.4	24.4	32.8	22.8	0.4	19.6	55.6
<年収>									
300万円未満	37	0.0	32.4	32.4	24.3	10.8	0.0	32.4	35.1
300～500万円未満	187	1.1	16.6	26.2	34.2	21.9	0.0	17.7	56.1
500万円以上	103	2.9	24.3	20.4	37.9	14.6	0.0	27.2	52.5
<看護師経験年数>									
3年未満	56	0.0	35.7	19.6	28.6	16.1	0.0	35.7	44.7
3～5年未満	74	0.0	17.6	29.7	31.1	21.6	0.0	17.6	52.7
5～10年未満	79	1.3	13.9	21.5	38.0	25.3	0.0	15.2	63.3
10年以上	140	2.9	21.4	24.3	37.1	13.6	0.7	24.3	50.7
<勤続年数>									
3年未満	75	0.0	24.0	25.3	30.7	20.0	0.0	24.0	50.7
3～5年未満	84	1.2	25.0	23.8	28.6	21.4	0.0	26.2	50.0
5～7年未満	46	2.2	15.2	21.7	37.0	23.9	0.0	17.4	60.9
7年以上	151	2.0	19.9	25.8	38.4	13.2	0.7	21.9	51.6

## 7. 仕事と生活の優先度と仕事、勤務先の満足度

### (1)仕事と生活の優先度

調査では仕事と生活のどちらを優先しているか、現在の状況と今後の希望にわけて尋ねている。それによれば、現在の状況で、「仕事優先」（「仕事」「どちらかといえば仕事」の合計）が64.2%、「同じくらい」が19.8%、「生活優先」（「生活」「どちらかといえば生活」の合計）が15.8%となっている。一方、今後の希望については、「生活優先」を望んでいる者がもっとも割合が高く55.7%となっており、次いで「（仕事と生活が）同じくらい」39.1%、「仕事優先」は3.9%とわずかである（図表 2-7-1）。

現在の状況について、週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど「仕事優先」の割合が高まる傾向にあり、「60時間以上」ではその割合は81.2%となっている（図表 2-7-2）。

交代勤務の有無別にみると、「仕事優先」とする割合がもっとも高いのは、「三交代制・変則三交代制」の74.2%となっている。週あたり休日日数別にみると、「週休1日以下」の者の「仕事優先」の割合は77.4%となっている。年次有給休暇取得日数別にみると、取得日数「0～3日」で「仕事優先」の割合はもっとも高い（図表 2-7-3）。

次に、仕事の優先度の今後の希望を現在の状況別にみると、現在の「仕事優先」の者で、もっとも割合が高いのは「生活優先」で52.3%となっている。次いで、「（仕事と生活が）同じくらい」も42.0%などとなっている。

今後の希望について、週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど、「生活優先」の割合は高まる傾向にある。

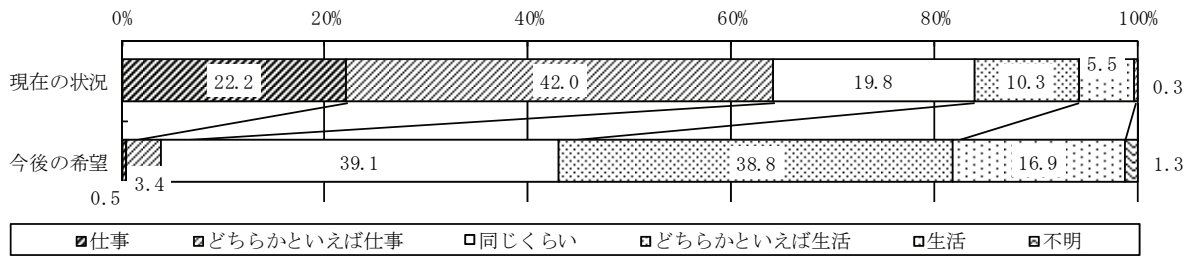
役職別にみると、「役職なし」のほうが「生活優先」の割合が高い。年齢別にみると、年齢が低くなるほど、「生活優先」の割合が高まる傾向にある。

性別にみると、男性のほうが「生活優先」の割合がわずかに高い程度である。

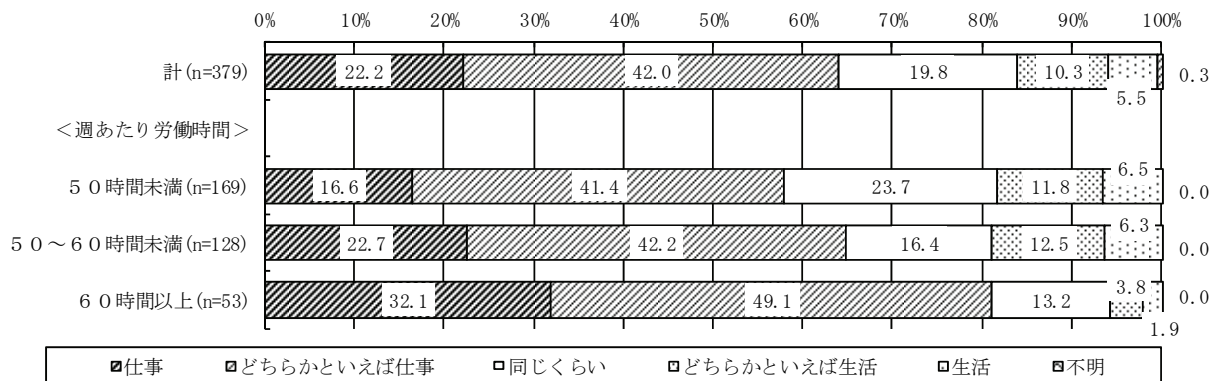
未婚別にみると、「未婚」のほうが「既婚」に比べ、「生活優先」の割合が高くなっている。子供の有無別にみると、「子供なし」のほうが「子供あり」に比べて、「生活優先」の割合が高い（図表 2-7-4）。

仕事と私生活の調和の満足度をみると、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が51.7%であり、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合（19.5%）を大きく上回っている。これを仕事と生活の優先度（現在の状況）別にみると、「仕事優先」から「生活優先」になるほど、「満足である」とする割合が高まる。「仕事優先」では、「不満である」とする割合は61.3%と高くなっている（図表 2-7-5）。

図表 2-7-1 : 仕事と生活の優先度 (n=379、単位=%) [看護師調査]



図表 2-7-2 : 仕事と生活の優先度 (現在の状況) [看護師調査]



図表 2-7-3 : 仕事と生活の優先度 (現在の状況) (単位=%) [看護師調査]

	仕事と生活の優先度 (現在の状況)							優先度計	
	n	仕事	どちらかといえば仕事	同じくらい	どちらかといえば生活	生活	不明	仕事優先計	生活優先計
計	379	22.2	42.0	19.8	10.3	5.5	0.3	64.2	15.8
<交代勤務の有無>									
夜勤なし	60	21.7	33.3	20.0	18.3	6.7	0.0	55.0	25.0
三交代制・変則三交代制	62	35.5	38.7	14.5	8.1	3.2	0.0	74.2	11.3
二交代制・変則二交代制	250	18.8	44.8	21.6	8.8	5.6	0.4	63.6	14.4
<週あたり休日日数>									
週休1日以下	31	35.5	41.9	12.9	3.2	6.5	0.0	77.4	9.7
週休2日以上	347	21.0	42.1	20.2	11.0	5.5	0.3	63.1	16.5
<年次有給休暇取得日数>									
0～3日	208	22.1	44.7	19.2	10.1	3.8	0.0	66.8	13.9
4～6日	105	21.9	37.1	20.0	11.4	8.6	1.0	59.0	20.0
7日以上	52	23.1	38.5	21.2	9.6	7.7	0.0	61.6	17.3

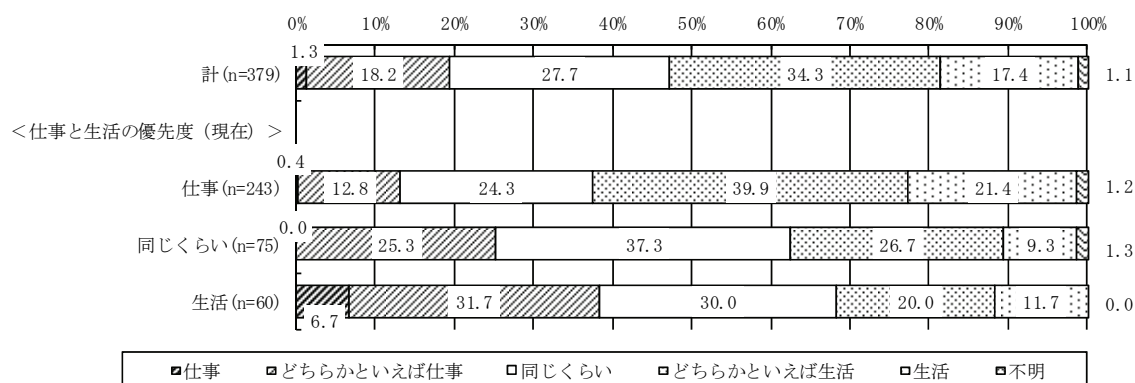
※「仕事優先」は「仕事」「どちらかといえば仕事」の合計。「生活優先」は「生活」「どちらかといえば生活」の合計。

図表 2-7-4 : 仕事と生活の優先度 (今後の希望) (単位=%) [看護師調査]

	仕事と生活の優先度 (今後)							優先度計	
	n	仕事	どちらかといえば仕事	同じくらい	どちらかといえば生活	生活	不明	仕事優先計	生活優先計
計	379	0.5	3.4	39.1	38.8	16.9	1.3	3.9	55.7
<仕事と生活の優先度 (現在) >									
仕事	243	0.8	4.1	42.0	38.3	14.0	0.8	4.9	52.3
同じくらい	75	0.0	1.3	49.3	42.7	5.3	1.3	1.3	48.0
生活	60	0.0	3.3	15.0	36.7	41.7	3.3	3.3	78.4
<週労働時間>									
50時間未満	169	0.0	2.4	44.4	36.7	14.8	1.8	2.4	51.5
50~60時間未満	128	0.8	4.7	35.2	42.2	15.6	1.6	5.5	57.8
60時間以上	53	0.0	1.9	37.7	39.6	20.8	0.0	1.9	60.4
<役職>									
役職あり	54	1.9	0.0	51.9	33.3	11.1	1.9	1.9	44.4
役職なし	323	0.3	4.0	36.8	39.9	17.6	1.2	4.3	57.5
<年齢>									
20代以下	198	0.0	4.5	34.3	40.4	19.7	1.0	4.5	60.1
30代	100	1.0	1.0	43.0	39.0	16.0	0.0	2.0	55.0
40代以上	79	1.3	2.5	46.8	34.2	11.4	3.8	3.8	45.6
<性別>									
男性	19	0.0	0.0	42.1	31.6	26.3	0.0	0.0	57.9
女性	359	0.6	3.6	39.0	39.0	16.4	1.4	4.2	55.4
<未婚婚>									
既婚	111	1.8	2.7	43.2	33.3	18.0	0.9	4.5	51.3
未婚	268	0.0	3.7	37.3	41.0	16.4	1.5	3.7	57.4
<子供の有無>									
子供あり	79	1.3	3.8	49.4	31.6	12.7	1.3	5.1	44.3
子供なし	298	0.3	3.4	36.2	40.9	17.8	1.3	3.7	58.7

※「仕事優先」は「仕事」「どちらかといえば仕事」の合計。「生活優先」は「生活」「どちらかといえば生活」の合計。

図表 2-7-5 : 仕事と私生活の調和の満足度 [看護師調査]

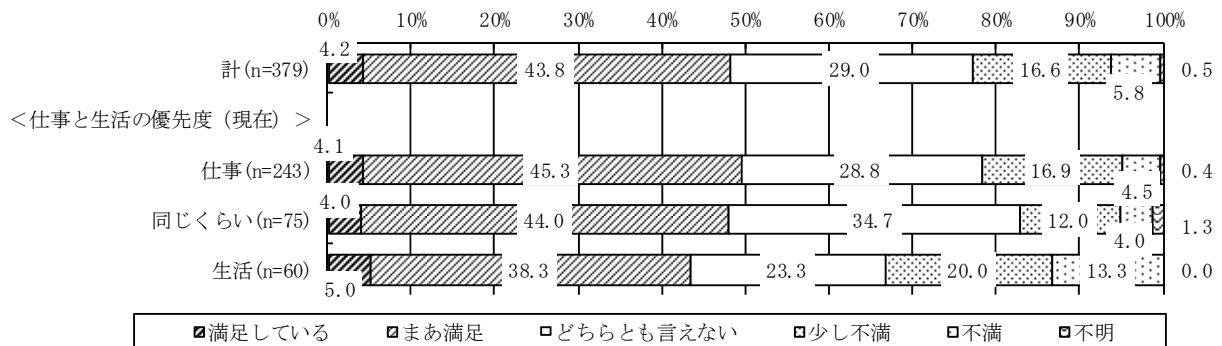


## (2)勤務先の仕事の質、内容の満足度

勤務先の仕事の質、内容の満足度をみると、「満足である」(「満足している」「まあ満足」の合計)とする割合が48.0%であり、「不満である」(「不満」「少し不満」の合計)とする割合(22.4%)を大きく上回っている。仕事と生活の優先度(現在の状況)別にみると、「生活優先」から「仕事優先」になるほど「満足である」とする割合はわずかに高まる。「生活優先」で「不満である」とする割合がもっとも高く、「(仕事と生活が)同じくらい」でもっとも低くなっている(図表2-7-6)。

交代勤務の有無別にみると、「三交代制・変則三交代制」で「満足である」とする割合がもっとも高くなっている。週あたり労働時間別にみると、「50～60時間」の者で「満足である」とする割合がもっとも高い。これを診療科別にみると、「不満である」とする割合がもっとも高いのは、「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」で30.1%となっている。役職別にみると、「役職あり」のほうが「満足である」とする割合が高い。仕事上の相談相手の不足の認識別にみると、仕事上の相談相手の不足を「感じる」者のほうが、「感じない・どちらとも言えない」者に比べて、「不満である」とする割合が高い。健康不安の認識別にみると、健康不安を「感じる」者のほうが、「感じない・どちらとも言えない」者に比べて、「不満である」とする割合が高い（図表2-7-7）。

図表 2-7-6：勤務先の仕事の質、内容の満足度〔看護師調査〕



図表 2-7-7：勤務先の仕事の質、内容の満足度（単位＝％）〔看護師調査〕

	勤務先の仕事の質、内容の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	379	4.2	43.8	29.0	16.6	5.8	0.5	48.0	22.4
<交代勤務の有無>									
夜勤なし	60	3.3	48.3	30.0	15.0	3.3	0.0	51.6	18.3
三交代制・変則三交代制	62	8.1	59.7	16.1	12.9	3.2	0.0	67.8	16.1
二交代制・変則二交代制	250	3.2	38.8	32.0	18.0	7.2	0.8	42.0	25.2
<週労働時間>									
50時間未満	169	3.6	43.2	30.2	16.6	6.5	0.0	46.8	23.1
50～60時間未満	128	4.7	47.7	25.0	16.4	5.5	0.8	52.4	21.9
60時間以上	53	5.7	41.5	30.2	18.9	3.8	0.0	47.2	22.7
<配属>									
一般病棟、精神科病棟	274	4.7	44.5	29.2	15.7	5.1	0.7	49.2	20.8
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	63	3.2	39.7	27.0	20.6	9.5	0.0	42.9	30.1
外来部門	21	0.0	38.1	47.6	14.3	0.0	0.0	38.1	14.3
管理部門、その他	21	4.8	52.4	14.3	19.0	9.5	0.0	57.2	28.5
<役職>									
役職あり	54	11.1	48.1	24.1	14.8	0.0	1.9	59.2	14.8
役職なし	323	3.1	43.3	29.4	17.0	6.8	0.3	46.4	23.8
<仕事上の相談相手の不足>									
感じる	133	1.5	36.8	25.6	25.6	9.8	0.8	38.3	35.4
感じない・どちらとも言えない	245	5.7	47.8	31.0	11.8	3.7	0.0	53.5	15.5
<健康不安>									
感じる	232	2.6	40.1	29.3	20.7	6.9	0.4	42.7	27.6
感じない・どちらとも言えない	145	6.9	49.7	29.0	10.3	4.1	0.0	56.6	14.4

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

### (3)勤務先（職場全体）の満足度

勤務先（職場全体）の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が60.9%であり、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合（16.9%）を大きく上回っている。これを勤続年数別にみると、「満足である」とする割合は勤続年数が「3～5年未満」（71.4%）、「3年未満」（70.6%）で高い。

過去3年間の受け持ち患者人数の増減状況別にみると、受け持ち患者人数が「増加」とする者で「不満である」とする割合が高い。

過去3年間の患者・家族への対応の増減状況別にみると、「増加」とする者で「満足である」とする割合が低い。また、過去3年間の患者・家族からの暴言・セクハラ等の増減状況別にみると、「増加」とする者で「満足である」とする割合が低い。

過去3年間の通常業務以外の業務の増減状況別にみると、「増加」とする者で「満足である」とする割合が低い（図表2-7-8）。

図表2-7-8：勤務先（職場全体）の満足度（単位＝％）〔看護師調査〕

	勤務先（職場全体）の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	379	12.9	48.0	21.6	11.1	5.8	0.5	60.9	16.9
<勤続年数>									
3年未満	75	9.3	61.3	12.0	8.0	8.0	1.3	70.6	16.0
3～5年未満	84	14.3	57.1	15.5	10.7	2.4	0.0	71.4	13.1
5～7年未満	46	10.9	41.3	19.6	17.4	10.9	0.0	52.2	28.3
7年以上	151	15.9	39.7	27.8	11.3	4.6	0.7	55.6	15.9
<過去3年間の受け持ち患者数の増減状況>									
増加	104	8.7	47.1	17.3	14.4	12.5	0.0	55.8	26.9
減少・変わらない	238	13.9	48.3	23.9	10.1	2.9	0.8	62.2	13.0
<過去3年間の患者・家族への対応の増減状況>									
増加	138	11.6	42.8	26.8	10.9	7.2	0.7	54.4	18.1
減少・変わらない	204	14.7	52.9	17.6	10.8	3.4	0.5	67.6	14.2
<過去3年間の患者・家族からの暴言・セクハラ等の増減状況>									
増加	60	11.7	38.3	31.7	8.3	10.0	0.0	50.0	18.3
減少・変わらない	246	11.0	52.0	19.1	12.6	4.9	0.4	63.0	17.5
<過去3年間の通常業務以外の業務の増減状況>									
増加	198	13.1	44.4	24.7	9.6	8.1	0.0	57.5	17.7
減少・変わらない	161	13.0	50.9	18.6	13.7	2.5	1.2	63.9	16.2

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

## 8. 離職についての考えと離職を考える理由

### (1)離職についての考え

調査では、現在の勤務先から離職を考えたことがあるか、尋ねている。それによれば、25.9%が「考えている」としており、「たまに考えている」（48.3%）を合わせると、74.2%が離職を検討したことがある。

離職を「考えている」とする割合を週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほどその割合は高まる。交代勤務の有無別にみると、離職を「考えている」とする割合は、「二



交代制・変則二交代制」で 28.0%と他に比べて高い。三交代制（夜勤・準夜勤回数）別にみると、「10 回以上」のほうが「10 回未満」に比べ「考えている」とする割合は高い。一方、二交代制（所定労働時間）別にみると、「考えている」とする割合は、所定労働時間が「16 時間」で 30.2%ともっとも高くなっている。二交代制（夜勤回数）別にみると、回数が増えるほど「考えている」とする割合が高くなっており、「5 回以上」ではその割合が 37.5%となっている。年次有給休暇取得日数別にみると、「0～3 日」の者で「考えている」とする割合がもっとも高い（図表 2-8-1）。

配属別にみると、「考えている」とする割合は、「一般病棟、精神科病棟」（27.4%）、「救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター」（27.0%）で他よりも高くなっている。役職別にみると、「役職なし」のほうが「考えている」とする割合は高い。

勤続年数別にみると、年数が長くなるほど「考えている」とする割合が高まる傾向にあり、「5～7 年未満」ではその割合が 43.5%でピークとなるが、「7 年以上」ではその割合は 17.2%と低下している。

年齢別にみると、年齢が低いほど、「考えている」とする割合は高まる傾向にある。性別でみると、「考えている」とする割合は男性のほうがわずかに高い。未婚別にみると、「未婚」のほうが「考えている」とする割合は高い。子供の有無別にみると、「子供のいない」者で「考えている」とする割合が高い。

年収別にみると、年収が低くなるほど、「考えている」とする割合が高まる傾向にある（図表 2-8-2）。

図表 2-8-1：離職についての考え方（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	考えている	たまに考えている	考えていない	不明	離職検討あり計
計	379	25.9	48.3	24.3	1.6	74.2
<週労働時間>						
5 0 時間未満	169	22.5	52.1	24.3	1.2	74.6
5 0 ～ 6 0 時間未満	128	23.4	46.1	28.1	2.3	69.5
6 0 時間以上	53	30.2	52.8	17.0	0.0	83.0
<交代勤務の有無>						
夜勤なし	60	20.0	45.0	33.3	1.7	65.0
三交代制・変則三交代制	62	25.8	50.0	24.2	0.0	75.8
二交代制・変則二交代制	250	28.0	49.2	21.2	1.6	77.2
三交代						
<三交代制（夜勤・準夜勤回数）>						
1 0 回未満	34	23.5	41.2	35.3	0.0	64.7
1 0 回以上	26	26.9	61.5	11.5	0.0	88.4
二交代						
<二交代制（所定労働時間）>						
1 2 時間	28	25.0	53.6	17.9	3.6	78.6
1 4 時間	21	14.3	71.4	9.5	4.8	85.7
1 6 時間	192	30.2	46.4	22.4	1.0	76.6
<二交代制（夜勤回数）>						
1 ～ 3 回	74	14.9	52.7	31.1	1.4	67.6
4 回	132	31.1	48.5	19.7	0.8	79.6
5 回以上	40	37.5	47.5	10.0	5.0	85.0
<年次有給休暇取得日数>						
0 ～ 3 日	208	30.8	47.6	20.7	1.0	78.4
4 ～ 6 日	105	18.1	54.3	25.7	1.9	72.4
7 日以上	52	19.2	42.3	36.5	1.9	61.5

※「離職検討あり」は「考えている」「たまに考えている」の合計。

図表 2-8-2：離職についての考え方（単位＝％）〔看護師調査〕

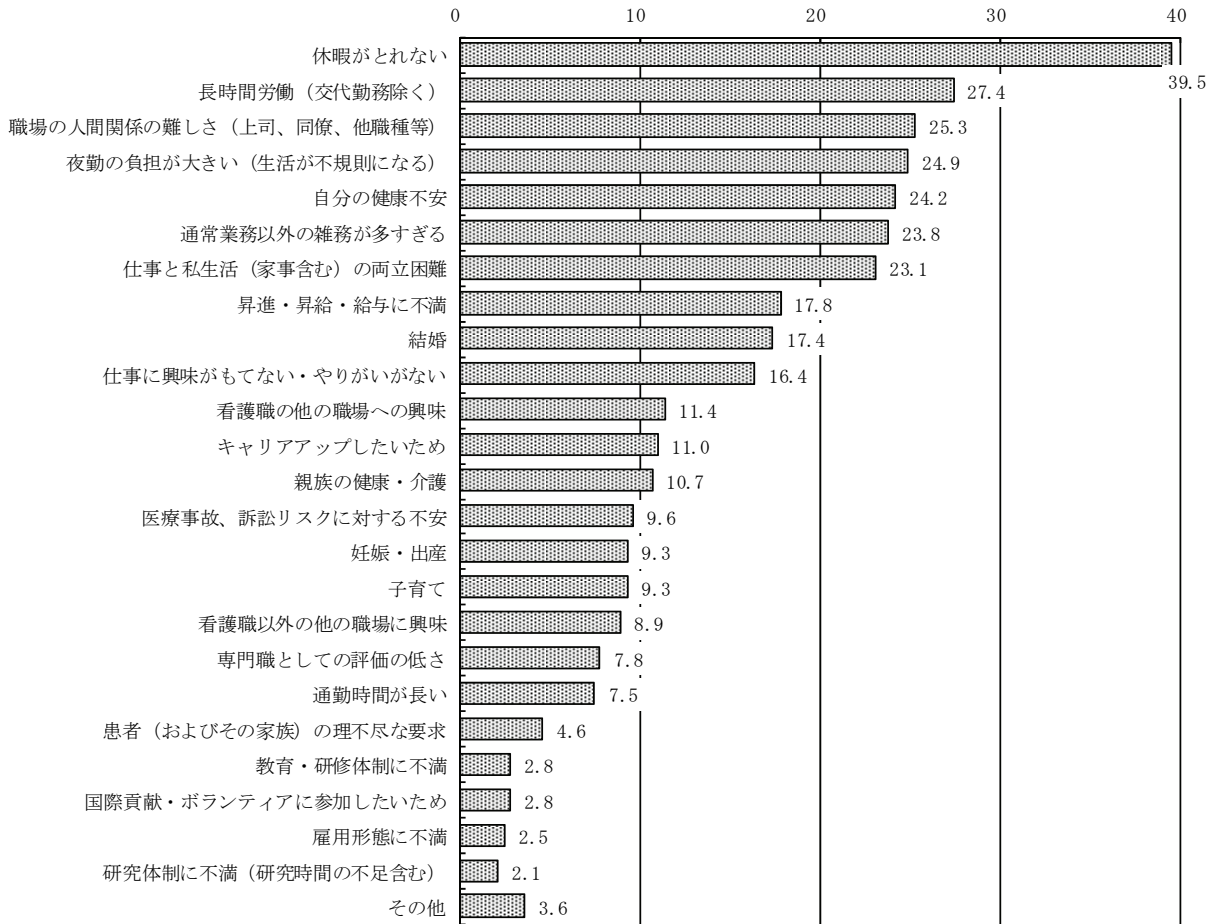
	n	考えてい る	たまに考 えている	考えてい ない	不明	離職検討 あり計
計	379	25.9	48.3	24.3	1.6	74.2
<配属>						
一般病棟、精神科病棟	274	27.4	47.8	23.4	1.5	75.2
救急センター、集中治療部、手術 室、内視鏡センター	63	27.0	52.4	19.0	1.6	79.4
外来部門	21	19.0	42.9	33.3	4.8	61.9
管理部門、その他	21	9.5	47.6	42.9	0.0	57.1
<役職>						
役職あり	54	18.5	37.0	44.4	0.0	55.5
役職なし	323	27.2	49.8	21.1	1.9	77.0
<勤続年数>						
3年未満	75	25.3	46.7	28.0	0.0	72.0
3～5年未満	84	28.6	56.0	14.3	1.2	84.6
5～7年未満	46	43.5	45.7	10.9	0.0	89.2
7年以上	151	17.2	47.0	33.8	2.0	64.2
<年齢>						
20代以下	198	32.8	46.5	19.7	1.0	79.3
30代	100	22.0	59.0	16.0	3.0	81.0
40代以上	79	13.9	39.2	46.8	0.0	53.1
<性別>						
男性	19	31.6	42.1	15.8	10.5	73.7
女性	359	25.6	48.5	24.8	1.1	74.1
<未既婚>						
既婚	111	19.8	43.2	33.3	3.6	63.0
未婚	268	28.4	50.4	20.5	0.7	78.8
<子供の有無>						
子供がいる	79	11.4	41.8	41.8	5.1	53.2
子供がいない	298	29.5	50.3	19.5	0.7	79.8
<年収>						
300万円未満	37	29.7	45.9	24.3	0.0	75.6
300～500万円未満	187	26.7	54.0	18.2	1.1	80.7
500万円以上	103	20.4	42.7	35.0	1.9	63.1

※「離職検討あり」は「考えている」「たまに考えている」の合計。

## (2)離職を考える理由

次に、調査では、離職を「考えている」「たまに考えている」とする者について、離職を考える理由を尋ねている。それによれば、「休暇がとれない」が39.5%ともっとも多く、次いで、「長時間労働（交代勤務除く）」(27.4%)、「職場の人間関係の難しさ」(25.3%)、「夜勤の負担が大きい（生活が不規則になる）」(24.9%)、「自分の健康不安」(24.2%)、「通常業務以外の雑務が多すぎる」(23.8%)、「仕事と私生活（家事含む）の両立困難」(23.1%)などとなっている（図表 2-8-3）。

図表 2-8-3：離職を考える理由（n=281、複数回答、単位＝％）〔看護師調査〕



※離職を考えている者（「考えている」「たまに考えている」）と回答した者を対象に集計。

### 第3章 医療技術職員調査の概要

#### 1. 回答者属性

##### (1) 勤続年数、医療技術者経験年数

医療技術職員の勤続年数は、その平均値が7.1年となっており、これを性別にみると、男性のほうが8.6年と長い（図表3-1-1）。医療技術者経験年数（調査時点から医療技術者資格取得年を引いた値。以下同じ）は11.1年であり、これを性別にみると、男性10.6年、女性11.4年となっている（図表3-1-2）。

調査では医療技術者資格取得時の大学等について尋ねている。それによれば、「それ以外の大学」が33.1%、「専門学校」22.9%、「A大学」が18.1%などとなっている（図表3-1-3）。

図表 3-1-1：勤続年数（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	1年以下	2年	3～5年 未満	5～10年 未満	10～20 年未満	20～30 年未満	30年以上	不明	平均	標本標準偏差
計	166	21.1	11.4	19.3	23.5	10.2	2.4	5.4	6.6	7.1	8.8
<性別>											
男性	49	20.4	10.2	14.3	22.4	10.2	6.1	8.2	8.2	8.6	9.8
女性	116	21.6	12.1	21.6	23.3	10.3	0.9	4.3	6.0	6.4	8.3

図表 3-1-2：医療技術者資格取得後の経験年数（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	3年未満	3～5年 未満	5～8年 未満	8～10年 未満	10～15 年未満	15年以上	不明	平均	標本標準偏差
計	136	15.4	21.3	13.2	6.6	11.0	25.0	7.4	11.1	10.9
<性別>										
男性	48	18.8	20.8	14.6	6.3	16.7	20.8	2.1	10.6	10.5
女性	88	13.6	21.6	12.5	6.8	8.0	27.3	10.2	11.4	11.1

※医療技術者資格を取得している者を対象に集計。医療技術者経験年数は、調査時点から医療技術者資格取得年を引いた値。

図表 3-1-3：医療技術者資格取得時の大学等（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	A大学	それ以外の大学	短大	専門学校	独学のみ	その他	資格はまだ取得していない	不明
計	166	18.1	33.1	3.6	22.9	1.8	2.4	10.2	7.8
<医療技術者経験年数>									
3年未満	21	4.8	61.9	0.0	23.8	4.8	4.8	0.0	0.0
3～5年未満	29	17.2	37.9	0.0	34.5	6.9	3.4	0.0	0.0
5～10年未満	27	25.9	48.1	0.0	25.9	0.0	0.0	0.0	0.0
10年以上	49	30.6	32.7	12.2	24.5	0.0	0.0	0.0	0.0

##### (2) 配属部署及び勤務形態、役職

担当する配属部署は図表3-1-4のとおり。

仕事・職種は図表3-1-5のとおりであり、大分類<sup>12</sup>でまとめると、「臨床検査技師」が27.7%、「診療放射線技師」が12.7%、「薬剤師」が12.0%、「理学療法士等」が23.5%、「その他」

<sup>12</sup> 職種・仕事のカテゴリについては、「臨床検査技師」、「診療放射線技師」、「薬剤師」、「理学療法士等」、「その他」の5カテゴリとした。「理学療法士等」には、「臨床工学技士」、「歯科技工士」、「歯科衛生士」、「理学療法士」、「作業療法士」、「言語聴覚士」、「管理栄養士」、「視能訓練士」、「臨床心理士」、「診療情報管理士」、「社会福祉士」をまとめている。

が 22.9%となっている。

勤務形態<sup>13</sup>・役職は図表 3-1-6 のとおり。

職種ごとに男女比をみると、医療技術職員全体では、女性が 69.9%を占めている。これを職種別にみると、「臨床検査技師」は「男性」19.6%、「女性」80.4%。「診療放射線技師」は「男性」71.4%、「女性」28.6%。「薬剤師」は「男性」55.0%、「女性」45.0%。「理学療法士等」は「男性」25.6%、「女性」74.4%。「その他」は「男性」7.9%、「女性」89.5%となっている。「男性」の割合が高いのは、「診療放射線技師」(71.4%)である。「薬剤師」では男女がほぼ半々である。それ以外の職種では「女性」が7～8割程度を占めている(図表 3-1-7)。

勤務形態を職種別にみると、「臨床検査技師」は「常勤」34.8%、「非常勤」39.1%、「アルバイト」4.3%。「診療放射線技師」は「常勤」66.7%、「非常勤」33.3%。「薬剤師」は「常勤」40.0%、「非常勤」55.0%。「理学療法士等」は「常勤」33.3%、「非常勤」61.5%などとなっている。「常勤」の割合が高いのは、「診療放射線技師」(66.7%)であり、それ以外の職種は「非常勤」が4～5割程度を占めている。なお、「その他」は、「非常勤」が84.2%と高く、「アルバイト」も2.6%いる。勤続年数別にみると、おおむね「常勤」は勤続年数が長くなるほど高まる傾向にある(図表 3-1-8)。

役職を勤務形態別にみると、「常勤」で役職者(主任以上)の割合が高い(図表 3-1-9)。

図表 3-1-4 : 医療技術職員の配属部署  
〔医療技術職員調査〕

	件数		%	
	件数	%	件数	%
	166	100.0		
薬剤部	19	11.4		
臨床検査部	33	19.9		
手術部	0	0.0		
放射線部	21	12.7		
輸血部	2	1.2		
リハビリテーション部	21	12.7		
血液浄化療法部	1	0.6		
子どものこころ診療部	2	1.2		
医療福祉支援センター	2	1.2		
臨床試験センター	7	4.2		
臨床栄養部	0	0.0		
先端心臓血管病センター	1	0.6		
先端細胞治療センター	0	0.0		
先端予防医療センター	0	0.0		
精神科	4	2.4		
特殊歯科・口腔外科	3	1.8		
泌尿器科	2	1.2		
眼科	7	4.2		
耳鼻いんこう科	0	0.0		
産科婦人科	4	2.4		
その他	37	22.3		

図表 3-1-5 : 医療技術職員の仕事・  
職種〔医療技術職員調査〕

	件数		%	
	件数	%	件数	%
	166	100.0		
臨床検査技師	46	27.7		
臨床工学技士	1	0.6		
歯科技工士	0	0.0		
歯科衛生士	3	1.8		
理学療法士	11	6.6		
作業療法士	7	4.2		
言語聴覚士	3	1.8		
診療放射線技師	21	12.7		
薬剤師	20	12.0		
管理栄養士	0	0.0		
視能訓練士	6	3.6		
臨床心理士	4	2.4		
診療情報管理士	3	1.8		
社会福祉士	1	0.6		
その他	38	22.9		
無回答	2	1.2		
職種(大分類)				
臨床検査技師	46	27.7		
診療放射線技師	21	12.7		
薬剤師	20	12.0		
理学療法士等	39	23.5		
その他	38	22.9		
無回答	2	1.2		

図表 3-1-6 : 医療技術職員の勤務形態・  
役職〔医療技術職員調査〕

	件数		%	
	件数	%	件数	%
	166	100.0		
勤務形態	常勤	55	33.1	
	非常勤	93	56.0	
	アルバイト	3	1.8	
	その他	15	9.0	
役職	技師長、副部長	1	0.6	
	副技師長	3	1.8	
	主任	12	7.2	
	その他	12	7.2	
	役職なし(一般技師等)	128	77.1	
	診療科等検査等補助	9	5.4	
不明	1	0.6		

<sup>13</sup> ここでの「常勤」とは、A 大学病院の定義により、「所定の勤務時間が週あたり 38 時間 45 分の者」としている。

図表 3-1-7：職種別にみた男女比（単位＝％）

〔医療技術職員調査〕

	n	男性	女性	無回答
計	166	29.5	69.9	0.6
＜職種＞				
臨床検査技師	46	19.6	80.4	0.0
診療放射線技師	21	71.4	28.6	0.0
薬剤師	20	55.0	45.0	0.0
理学療法士等	39	25.6	74.4	0.0
その他	38	7.9	89.5	2.6

図表 3-1-8：勤務形態（単位＝％）

〔医療技術職員調査〕

	n	常勤	非常勤	アルバイト	その他
計	166	33.1	56.0	1.8	9.0
＜職種＞					
臨床検査技師	46	34.8	39.1	4.3	21.7
診療放射線技師	21	66.7	33.3	0.0	0.0
薬剤師	20	40.0	55.0	0.0	5.0
理学療法士等	39	33.3	61.5	0.0	5.1
その他	38	7.9	84.2	2.6	5.3
＜年齢＞					
20代以下	67	20.9	71.6	1.5	6.0
30代	43	51.2	41.9	0.0	7.0
40代	31	25.8	58.1	6.5	9.7
50代以上	22	50.0	27.3	0.0	22.7
＜勤続年数＞					
3年未満	54	16.7	75.9	1.9	5.6
3～5年未満	32	12.5	81.3	0.0	6.3
5～7年未満	19	42.1	47.4	0.0	10.5
7年以上	50	64.0	24.0	0.0	12.0

図表 3-1-9：役職（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	技師長、 副部長	副技師長	主任	その他	役職なし（一 般技師等）	診療科等検査 等補助	無回答
計	166	0.6	1.8	7.2	7.2	77.1	5.4	0.6
＜勤務形態＞								
常勤	55	1.8	5.5	21.8	1.8	69.1	0.0	0.0
非常勤・アルバイト	96	0.0	0.0	0.0	8.3	84.4	6.3	1.0
＜年齢＞								
20代以下	67	0.0	0.0	0.0	0.0	97.0	3.0	0.0
30代	43	0.0	2.3	9.3	2.3	79.1	7.0	0.0
40代	31	0.0	3.2	9.7	19.4	58.1	9.7	0.0
50代以上	22	4.5	4.5	22.7	13.6	45.5	4.5	4.5
＜勤続年数＞								
3年未満	54	0.0	0.0	0.0	5.6	88.9	5.6	0.0
3～5年未満	32	0.0	0.0	0.0	6.3	90.6	3.1	0.0
5～7年未満	19	0.0	0.0	0.0	10.5	89.5	0.0	0.0
7年以上	50	2.0	6.0	24.0	8.0	50.0	8.0	2.0

### (3)休日と勤務時間制度

週あたりの勤務日数（規程・契約等で定められた勤務日数）は、92.8％が「5日」となっている。ほとんどが5日勤務である。これを職種別にみると、「4日以下」の割合は、「その他」「理学療法士等」「臨床検査技師」でわずかにみられる。勤務形態別にみると、「4日以下」の割合は、「非常勤・アルバイト」でわずかにみられるが、「非常勤・アルバイト」でも89.6％が5日勤務である。役職別にみても、「役職なし・診療科等検査等補助」の91.2％が5日勤務である（図表 3-1-10）。

適用されている勤務時間制度では、「通常の勤務時間制度」が91.6％を占めており、「1ヵ月単位の変形労働時間制」が2.4％とわずかに存在する。

勤務形態別にみると、「1ヵ月単位の変形労働時間制」は、「常勤」で3.6％、「非常勤・アルバイト」で2.1％ある。役職別にみると、「役職なし・診療科等検査等補助」でその割合は2.9％あり、夜勤の有無別にみると、夜勤が「ある」者で7.4％と高くなっている（図表 3-1-11）。

図表 3-1-10：週あたり勤務日数（単位＝％）〔医療技術者調査〕

	n	1日	2日	3日	4日	5日	不明
計	166	0.6	1.2	0.6	4.8	92.8	0.0
＜職種＞							
臨床検査技師	46	0.0	0.0	0.0	4.3	95.7	0.0
診療放射線技師	21	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
薬剤師	20	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
理学療法士等	39	0.0	0.0	0.0	12.8	87.2	0.0
その他	38	2.6	5.3	2.6	2.6	86.8	0.0
＜勤務形態＞							
常勤	55	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
非常勤・アルバイト	96	1.0	2.1	1.0	6.3	89.6	0.0
＜役職＞							
役職あり	16	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
役職なし・診療科等検査等補助	137	0.7	1.5	0.7	5.8	91.2	0.0

図表 3-1-11：勤務時間制度（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	通常の勤務時間制度	1カ月単位の勤務時間制	裁量労働制	の管理がなされるなどではない	その他	不明
計	166	91.6	2.4	0.0	0.6	3.0	2.4
＜職種＞							
臨床検査技師	46	91.3	4.3	0.0	0.0	2.2	2.2
診療放射線技師	21	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
薬剤師	20	85.0	10.0	0.0	0.0	5.0	0.0
理学療法士等	39	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	38	81.6	0.0	0.0	2.6	7.9	7.9
＜勤務形態＞							
常勤	55	96.4	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0
非常勤・アルバイト	96	89.6	2.1	0.0	1.0	4.2	3.1
＜役職＞							
役職あり	16	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
役職なし・診療科等検査等補助	137	93.4	2.9	0.0	0.7	2.2	0.7
＜夜勤の有無＞							
ない	109	91.7	0.0	0.0	0.9	3.7	3.7
ある	54	90.7	7.4	0.0	0.0	1.9	0.0

(4)対応する患者数

対応する患者数は図表 3-1-12、図表 3-1-13 のとおり。最近 1 日あたりの平均外来患者数は、平均 9.6 人となっている。最近 1 日あたりの平均受け持ち入院患者数は、平均 9.8 人となっている。

図表 3-1-12：最近 1 日あたりの平均外来患者数（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	担当していない	0人	1～5人未満	5～10人未満	10～20人未満	20～30人未満	30人以上	不明	平均(人)	標準偏差
計	166	36.1	15.7	15.7	6.0	10.2	3.6	6.6	6.0	9.6	14.6
＜職種＞											
臨床検査技師	46	65.2	8.7	2.2	2.2	8.7	2.2	6.5	4.3	17.0	25.1
診療放射線技師	21	19.0	9.5	4.8	0.0	19.0	9.5	23.8	14.3	21.9	15.2
薬剤師	20	35.0	35.0	0.0	5.0	20.0	5.0	0.0	0.0	5.6	6.7
理学療法士等	39	2.6	7.7	48.7	17.9	12.8	5.1	5.1	0.0	6.8	8.5
その他	38	44.7	26.3	13.2	2.6	0.0	0.0	2.6	10.5	2.8	7.0

図表 3-1-13：最近1日あたりの平均受け持ち入院患者数（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	担当していない	0人	1～5人未満	5～10人未満	10～20人未満	20～30人未満	30人以上	不明	平均(人)	標本標準偏差
計	166	35.5	13.3	11.4	9.0	16.3	3.6	3.0	7.8	9.8	14.3
＜職種＞											
臨床検査技師	46	67.4	8.7	0.0	2.2	10.9	2.2	2.2	6.5	15.0	26.4
診療放射線技師	21	4.8	9.5	4.8	23.8	19.0	14.3	9.5	14.3	12.9	10.3
薬剤師	20	0.0	10.0	60.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	9.8	17.8
理学療法士等	39	17.9	7.7	10.3	12.8	46.2	0.0	0.0	5.1	10.3	6.1
その他	38	50.0	28.9	5.3	2.6	0.0	0.0	0.0	13.2	0.7	1.7

### (5)勤務先の不足感の認識

調査では、勤務先の医師、看護師、医療技術職員、医療事務職員の不足感及び、職場の相談相手、先端医療技術の習得機会の不足感について尋ねている。とくに医療技術職員の不足については、54.8％が不足を感じている（「非常に感じる」「まあ感じる」の合計）（図表 3-1-14）。

医療技術職員の不足感を職種別にみると、「感じる」とする割合が高い職種は、「理学療法士等」「薬剤師」「診療放射線技師」などである（図表 3-1-15）。

図表 3-1-14：勤務先の不足感の認識（単位＝％、n=166）〔医療技術職員調査〕

	非常に感じる	まあ感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	ほとんど感じない	不明	感じる計	感じない計
医師の不足	12.7	28.3	29.5	12.0	4.8	12.7	41.0	16.8
看護師の不足	10.2	24.1	36.1	12.7	6.0	10.8	34.3	18.7
医療技術職員の不足	20.5	34.3	22.3	8.4	3.6	10.8	54.8	12.0
医療事務職員（医療クランク等）の不足	4.8	18.7	48.8	11.4	4.2	12.0	23.5	15.6
仕事上の相談相手（上司・同僚）の不足	9.6	31.3	30.7	17.5	1.8	9.0	40.9	19.3
先端医療技術の習得機会の不足	5.4	18.7	46.4	14.5	3.0	12.0	24.1	17.5

※「感じる」は「非常に感じる」「まあ感じる」の合計。「感じない」は「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計。

図表 3-1-15：医療技術職員の不足感の認識（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	非常に感じる	まあ感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	ほとんど感じない	不明	感じる計	感じない計
計	166	20.5	34.3	22.3	8.4	3.6	10.8	54.8	12.0
＜職種＞									
臨床検査技師	46	10.9	39.1	19.6	8.7	8.7	13.0	50.0	17.4
診療放射線技師	21	33.3	33.3	23.8	9.5	0.0	0.0	66.6	9.5
薬剤師	20	25.0	50.0	20.0	5.0	0.0	0.0	75.0	5.0
理学療法士等	39	35.9	41.0	12.8	7.7	0.0	2.6	76.9	7.7
その他	38	7.9	13.2	36.8	10.5	5.3	26.3	21.1	15.8

※「感じる」は「非常に感じる」「まあ感じる」の合計。「感じない」は「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計。

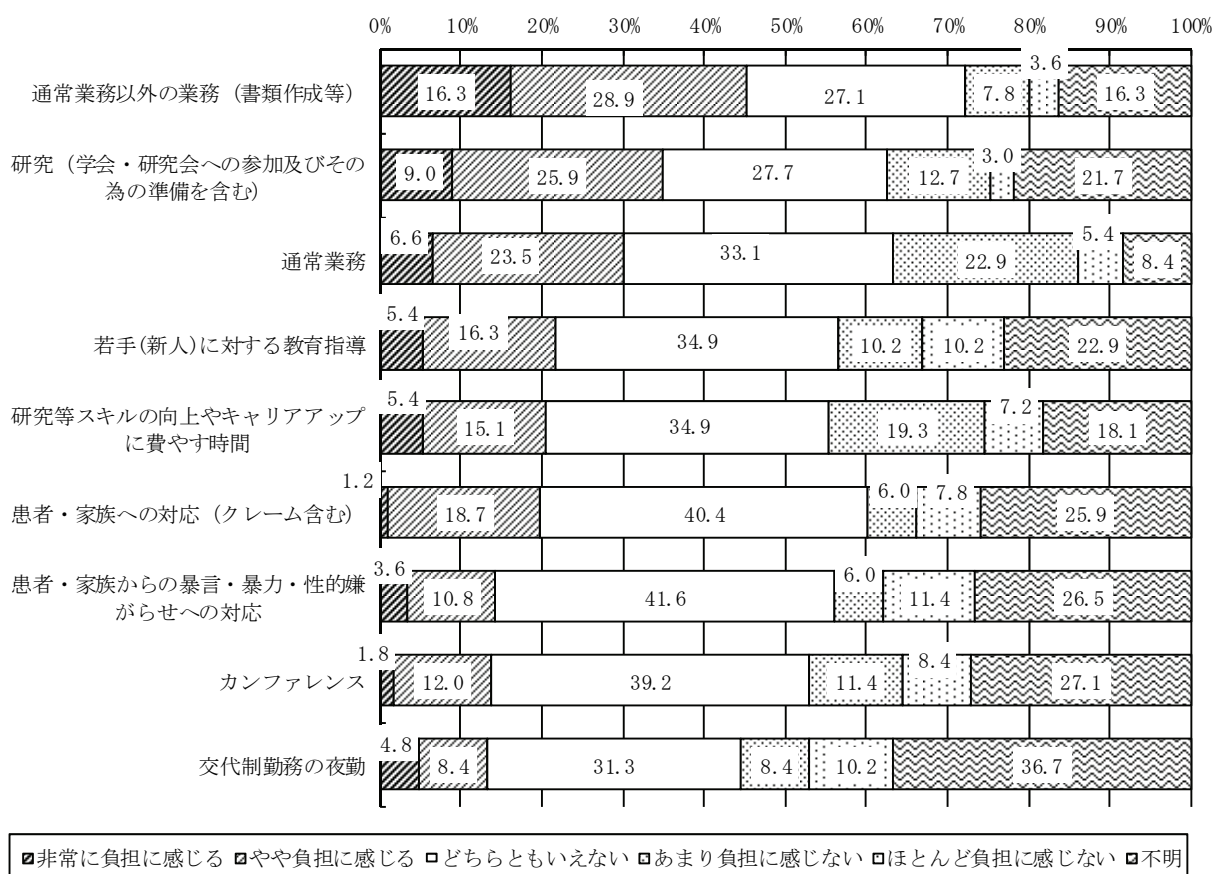


## 2. 医療技術職員の業務の負担感と満足度

### (1) 医療技術職員の業務の負担感

医療技術職員の業務の負担感について、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計）とする割合は、「通常業務以外の業務（書類作成等）」が45.2%ともっとも高くなっており、次いで、「研究」（34.9%）、「通常業務」30.1%などとなっている（図表 3-2-1）。

図表 3-2-1：医療技術職員の業務負担感 [n=166] [医療技術職員調査]

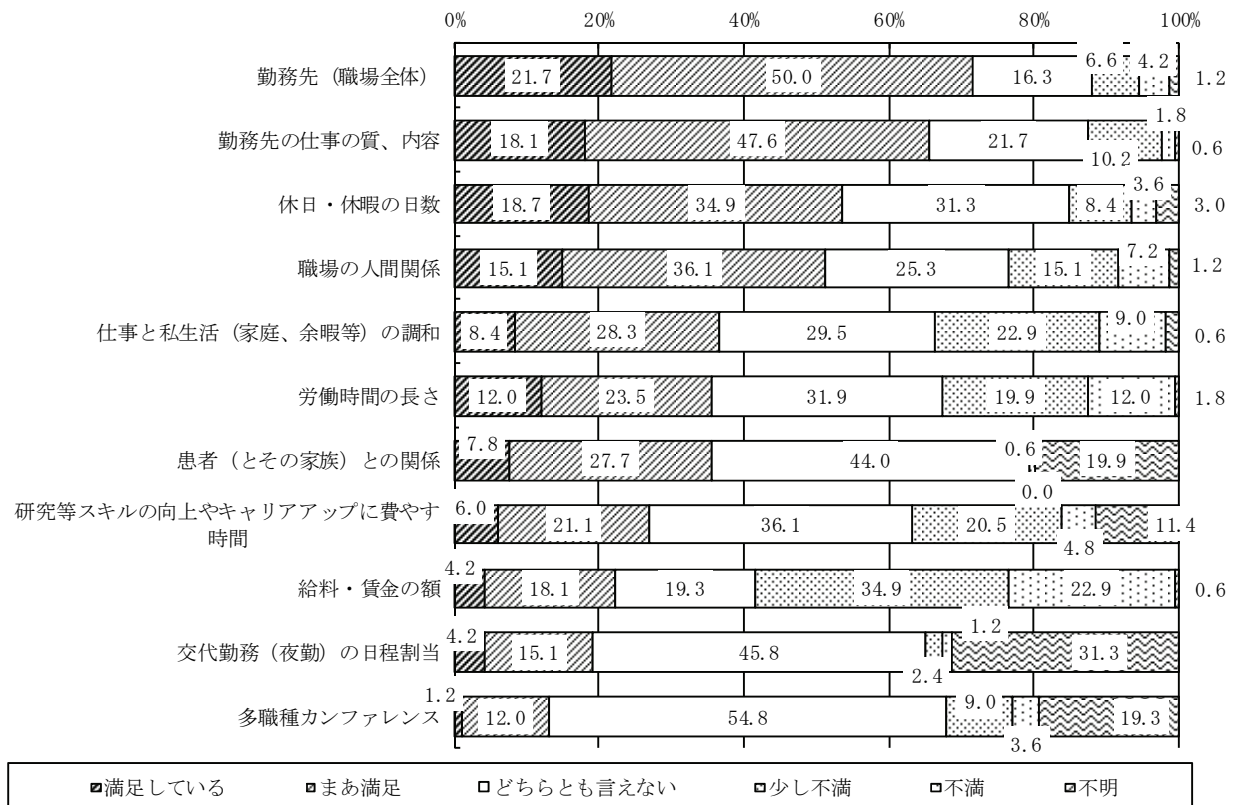


### (2) 医療技術職員の満足度

満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合でもっとも高いのは、「勤務先（職場全体）」（71.7%）であり、次いで「勤務先の仕事の質、内容」（65.7%）、「休日・休暇の日数」（53.6%）、「職場の人間関係」（51.2%）などとなっている。

一方、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合がもっとも高いのは、「給料・賃金の額」（57.8%）であり、次いで「仕事と私生活の調和」（31.9%）、「労働時間の長さ」（31.9%）、「研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間」（25.3%）などとなっている（図表 3-2-2）。

図表 3-2-2：医療技術職員の満足度 [n=166] [医療技術職員調査]



### 3. 医療技術職員の勤務状況

#### 3-1. 研究関係

##### (1) 学会等参加、論文発表、投稿論文の提出状況

過去1年間の学会・研究会・院外研修会等の参加状況をみると、参加経験が「ある」としているのは71.7%である（以下、図表3-3-1参照）。これを医療技術者経験年数別にみると、どの年数層も7～8割程度、参加経験があるとしているが、「3～5年未満」が93.1%ともっとも高くなっている。職種別にみると、参加経験が「ある」とする割合は、「診療放射線技師」が100.0%ともっとも高く、次いで、「理学療法士等」（97.4%）、「薬剤師」（85.0%）、「臨床検査技師」（67.4%）、「その他」（28.9%）となっている。役職別にみると、「役職あり」のほうが「ある」の割合が高い。勤務形態別にみると、「常勤」のほうがその割合は高くなっている。

参加経験がある者の平均参加回数は、5.5回である。これを医療技術者経験年数別にみると、「3年未満」で平均値はもっとも高い。職種別にみると、平均値は「理学療法士等」が6.4回、「診療放射線技師」が6.3回と高い。分布をみると、「5回以上」（「5～10回未満」「10回以上」の合計）の割合は、「診療放射線技師」が76.1%ともっとも高くなっている。役職別にみると、「5回以上」の割合は「役職あり」が62.6%であり、「役職なし」の47.5%よりも高い。勤務形態別にみると、「5回以上」の割合は「常勤」が58.8%であり、「非常勤・ア

アルバイト」の43.5%よりも高くなっている。

次に、調査では、過去3年間での「学会・研究会での論文発表」「学会等の学術雑誌への投稿論文提出」についてそれぞれ実施の有無及びその回数を尋ねている（以下、図表3-3-2参照）。それによれば、「学会・研究会での論文発表」をした割合は37.3%（実施した者の論文発表回数の平均値は3.3回）、「学会等の学術雑誌への投稿論文提出」を実施した割合は18.1%（実施した者の投稿論文提出回数の平均値は1.6回）となっている。

「学会・研究会での論文発表」の実施割合を医療技術者経験年数別にみると、「ある」とする割合は、「3年未満」がもっとも低く、「5～10年未満」がもっとも高くなっている。職種別にみると、「ある」とする割合は、「診療放射線技師」が61.9%と最も高く、次いで、「理学療法士等」（51.3%）などとなっている（論文発表の回数の平均値は、「理学療法士等」（4.5回）がもっとも高い）。役職別にみると、「ある」の割合は、「役職あり」のほうが高い。勤務形態別にみると、「常勤」のほうが「ある」の割合は高い。

「学会等の学術雑誌への投稿論文提出」の実施割合を医療技術者経験年数別にみると、「ある」とする割合は、「3年未満」がもっとも低く、「3～5年未満」がもっとも高くなっている。職種別にみると、「ある」とする割合は、「理学療法士等」が33.3%と最も高く、次いで、「臨床検査技師」（19.6%）などとなっている。役職別にみると、「ある」の割合は、「役職あり」のほうが高い。勤務形態別にみると、「常勤」のほうが「ある」の割合は高い。

図表3-3-1：過去1年間の学会・研究会・院外研修会等の参加有無、及び参加回数

（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	過去1年間の学会・研究会・院外研修会等の参加有無			n	過去1年間の学会・研究会・院外研修会等の参加回数							
		ある	ない	不明		1～2回	3～5回未満	5～10回未満	10回以上	不明	5回以上	平均(回)	標本標準偏差
計	166	71.7	22.3	6.0	119	24.4	26.9	29.4	19.3	0.0	48.7	5.5	5.6
<医療技術者経験年数>													
3年未満	21	85.7	9.5	4.8	18	22.2	22.2	33.3	22.2	0.0	55.5	7.3	10.7
3～5年未満	29	93.1	6.9	0.0	27	18.5	29.6	25.9	25.9	0.0	51.8	5.9	4.3
5～10年未満	27	85.2	14.8	0.0	23	26.1	34.8	34.8	4.3	0.0	39.1	4.0	2.1
10年以上	49	75.5	22.4	2.0	37	21.6	21.6	32.4	24.3	0.0	56.7	5.5	3.7
<職種>													
臨床検査技師	46	67.4	30.4	2.2	18	19.4	29.0	29.0	22.6	0.0	51.6	5.2	3.4
診療放射線技師	21	100.0	0.0	0.0	27	0.0	23.8	57.1	19.0	0.0	76.1	6.3	3.3
薬剤師	20	85.0	10.0	5.0	23	35.3	23.5	17.6	23.5	0.0	41.1	5.1	3.8
理学療法士等	39	97.4	2.6	0.0	37	23.7	31.6	26.3	18.4	0.0	44.7	6.4	8.3
その他	38	28.9	50.0	21.1	11	72.7	18.2	0.0	9.1	0.0	9.1	2.4	2.9
<役職>													
役職あり	16	100.0	0.0	0.0	16	12.5	25.0	31.3	31.3	0.0	62.6	6.6	4.1
役職なし・診療科等検査等補助	137	73.7	23.4	2.9	101	24.8	27.7	29.7	17.8	0.0	47.5	5.4	5.8
<勤務形態>													
常勤	55	92.7	5.5	1.8	51	13.7	27.5	35.3	23.5	0.0	58.8	5.7	3.5
非常勤・アルバイト	96	64.6	29.2	6.3	62	30.6	25.8	25.8	17.7	0.0	43.5	5.6	7.0

※「過去1年間の学会・研究会・院外研修会等の参加回数」は参加経験「あり」を対象に集計。「役職」及び「勤務形態」の「その他」は割愛。

図表 3-3-2：過去 3 年間の学会・研究会での論文発表及び、学会等の学術雑誌への投稿論文の提出の状況  
(単位＝%) [医療技術職員調査]

	学会・研究会での論文発表							学会等の学術雑誌への投稿論文提出						
	論文発表の有無				論文発表の回数			投稿論文提出の有無				投稿論文提出の回数		
	n	ある	ない	不明	n	平均	標本標準偏差	n	ある	ない	不明	n	平均	標本標準偏差
計	166	37.3	56.0	6.6	62	3.3	2.7	166	18.1	73.5	8.4	30	1.6	1.0
<医療技術者経験年数>														
3年未満	21	38.1	61.9	0.0	8	1.6	0.9	21	14.3	85.7	0.0	3	1.0	0.0
3～5年未満	29	44.8	55.2	0.0	13	3.4	2.2	29	24.1	75.9	0.0	7	1.7	1.0
5～10年未満	27	55.6	40.7	3.7	15	4.6	3.7	27	18.5	74.1	7.4	5	1.6	0.5
10年以上	49	42.9	53.1	4.1	21	3.2	2.5	49	20.4	73.5	6.1	10	1.7	0.9
<職種>														
臨床検査技師	46	39.1	56.5	4.3	18	2.9	1.7	46	19.6	73.9	6.5	9	1.7	0.9
診療放射線技師	21	61.9	38.1	0.0	13	2.7	2.8	21	9.5	90.5	0.0	2	2.5	1.5
薬剤師	20	35.0	65.0	0.0	7	2.6	1.3	20	15.0	85.0	0.0	3	1.3	0.5
理学療法士等	39	51.3	46.2	2.6	20	4.5	3.6	39	33.3	61.5	5.1	13	1.4	0.5
その他	38	7.9	71.1	21.1	3	2.0	0.8	38	5.3	71.1	23.7	2	3.0	2.0
<役職>														
役職あり	16	68.8	31.3	0.0	11	3.5	3.0	16	37.5	56.3	6.3	6	1.8	1.1
役職なし・診療科等検査等補助	137	37.2	59.1	3.6	51	3.3	2.7	137	17.5	78.1	4.4	24	1.6	1.0
<勤務形態>														
常勤	55	60.0	38.2	1.8	33	3.3	2.2	55	27.3	67.3	5.5	15	1.7	1.0
非常勤・アルバイト	96	29.2	62.5	8.3	28	3.5	3.3	96	14.6	76.0	9.4	14	1.6	1.0

※論文発表、投稿論文提出の回数の平均値は、実施ありの者を対象に集計。

## (2) 研究の負担感、及び研究等スキル向上やキャリアアップに費やす時間の満足度

医療技術職員の「研究（学会・研究会への参加及びそのための準備を含む）」の負担感をみると、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計）とする割合は、34.9%となっている一方で、「負担に感じない」（「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計）とする割合は 15.7%となっている。

これを過去 3 年間の研究等スキルの向上等に費やす時間の増減状況別にみると、「負担を感じる」割合は、「減少・変わらない」よりも、「増加」のほうが高い。

過去 1 年間の学会等参加回数別にみると、おおむね参加回数が増えるほど「負担を感じる」とする割合は高まる。

過去 3 年間の学会等での論文発表別、及び過去 3 年間の学会等の学術雑誌への投稿論文提出別にみると、いずれも、「ある」とする者のほうが「負担を感じる」割合が高い(図表 3-3-3)。

医療技術職員の「研究等スキル向上やキャリアアップに費やす時間」の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が 27.1%、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が 25.3%となっており、両者は拮抗している。

これを過去 3 年間の研究等スキルの向上等に費やす時間の増減状況別にみると、「満足である」とする割合は、「減少・変わらない」よりも、「増加」のほうがわずかに高い（ただし、「不満である」とする割合も、「減少・変わらない」よりも、「増加」のほうが高い）。

過去 1 年間の学会等の参加回数別にみると、「満足である」とする割合は、回数が増えるほど高まる傾向にあり、「5～10 回未満」でピークとなっている（ただし、「不満である」とする割合も回数が増えるとともに高まる傾向にあり、「5～10 回未満」でもっとも高くなって

いる)。同様に、過去3年間の学会等での論文発表別、及び過去3年間の学会等の学術雑誌への投稿論文提出別にみると、いずれも、「ある」とする者のほうが「満足である」割合が高いものの、「不満である」割合も「ある」とする者のほうが高くなっている(図表3-3-4)。学会等の参加回数などが増えることで、満足感を持つ層と不満を抱く層の二層が存在するのかもしれない。

図表 3-3-3 : 研究の負担感 (単位=%) [医療技術者調査]

	研究の負担感							負担感計	
	n	非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる計	負担に感じない計
計	166	9.0	25.9	27.7	12.7	3.0	21.7	34.9	15.7
<過去3年間の研究等スキルの向上等に費やす時間の増減状況>									
増加	55	12.7	47.3	21.8	12.7	3.6	1.8	60.0	16.3
減少・変わらない	72	11.1	20.8	36.1	16.7	1.4	13.9	31.9	18.1
<過去1年間の学会等参加回数>									
ない	37	5.4	2.7	21.6	2.7	10.8	56.8	8.1	13.5
1～2回	29	17.2	27.6	31.0	10.3	0.0	13.8	44.8	10.3
3～5回未満	32	3.1	40.6	40.6	12.5	0.0	3.1	43.7	12.5
5～10回未満	35	5.7	40.0	34.3	17.1	0.0	2.9	45.7	17.1
10回以上	23	21.7	26.1	17.4	30.4	0.0	4.3	47.8	30.4
<過去3年間の学会等での論文発表>									
ない	93	5.4	22.6	31.2	7.5	4.3	29.0	28.0	11.8
ある	62	16.1	35.5	25.8	22.6	0.0	0.0	51.6	22.6
<過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出>									
ない	122	9.0	27.0	28.7	10.7	3.3	21.3	36.0	14.0
ある	30	13.3	26.7	33.3	26.7	0.0	0.0	40.0	26.7

※「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。「負担に感じない」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。

図表 3-3-4 : 研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の満足感 (単位=%) [医療技術職員調査]

	研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	166	6.0	21.1	36.1	20.5	4.8	11.4	27.1	25.3
<過去3年間の研究等スキルの向上等に費やす時間の増減状況>									
増加	55	9.1	23.6	25.5	30.9	9.1	1.8	32.7	40.0
減少・変わらない	72	5.6	23.6	50.0	16.7	4.2	0.0	29.2	20.9
<過去1年間の学会等参加回数>									
ない	37	2.7	13.5	37.8	10.8	0.0	35.1	16.2	10.8
1～2回	29	0.0	27.6	44.8	20.7	6.9	0.0	27.6	27.6
3～5回未満	32	3.1	28.1	40.6	21.9	6.3	0.0	31.2	28.2
5～10回未満	35	8.6	28.6	25.7	31.4	5.7	0.0	37.2	37.1
10回以上	23	21.7	8.7	39.1	21.7	8.7	0.0	30.4	30.4
<過去3年間の学会等での論文発表>									
ない	93	3.2	19.4	45.2	17.2	1.1	14.0	22.6	18.3
ある	62	11.3	22.6	25.8	29.0	11.3	0.0	33.9	40.3
<過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出>									
ない	122	4.9	18.9	41.0	20.5	4.9	9.8	23.8	25.4
ある	30	13.3	26.7	23.3	30.0	6.7	0.0	40.0	36.7

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

### 3-2. 若手指導関係

調査では、新人（若手）に対する教育指導時間の1日あたり（日勤の場合）の平均を、年度当初と過去1ヵ月（調査時点＝2012年2月）の2時点について尋ねている。それによれば、若手指導時間の年度当初の平均値は44.8分、過去1ヵ月の平均値は18.6分となっており、若手指導時間が低下している（図表3-3-5）。年度当初の教育指導時間を医療技術者経験年数別にみると、「5～10年未満」「10年以上」の者で平均値が高い。これらの層が教育指導の役割を大きく担っているようである。

そこで、「過去1ヵ月の若手指導時間」を年度当初の若手指導時間別にみると、過去1ヵ月の若手指導時間が「1時間未満」となっている割合は、年度当初で「1時間未満」だった者で92.9%となっている一方で、「1時間以上」だった者のその割合が56.8%となっている（図表3-3-6）。

調査では、過去3年間の若手（新人）に対する教育指導時間の増減状況を尋ねている。それによれば、「増加」（「大変増加した」「やや増加した」とする割合は27.1%となっている。これを過去1ヵ月の若手指導時間別にみると、「1時間未満」では「増加」の割合が54.2%となっており、「1時間以上」は65.0%となっている。過去1ヵ月の若手指導時間が長くなるほど「増加」とする割合が高くなっている（図表3-3-7）。

次に「若手（新人）に対する教育指導」の負担感をみると、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計）とする割合は、21.7%であり、「負担に感じない」（「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計）とする割合は20.4%となっており、両者は拮抗している。

これを過去3年間の若手（新人）に対する教育指導時間の増減状況別にみると、「負担を感じる」割合は、「減少・変わらない」よりも、「増加」のほうが高い。年度当初の若手指導時間別、及び過去1ヵ月の若手指導時間別でみると、いずれも若手指導時間が長くなるほど「負担を感じる」割合が高くなっている（図表3-3-8）。

図表 3-3-5：1日あたりの若手指導時間の平均（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

		n	0時間	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5時間以上	不明	平均値(分)	標本標準偏差	時間換算(/60)
年度当初	年度当初・計	166	58.4	8.4	8.4	4.8	2.4	2.4	4.2	10.8	44.8	94.5	0.7
	<医療技術者経験年数>												
	3年未満	21	76.2	4.8	0.0	4.8	0.0	0.0	4.8	9.5	33.2	108.8	0.6
	3～5年未満	29	65.5	6.9	6.9	6.9	6.9	0.0	0.0	6.9	29.3	56.7	0.5
	5～10年未満	27	37.0	14.8	22.2	3.7	0.0	3.7	11.1	7.4	74.4	111.0	1.2
	10年以上	49	49.0	10.2	12.2	8.2	4.1	6.1	4.1	6.1	63.9	104.0	1.1
過去1ヵ月	過去1ヵ月・計	166	62.0	14.5	6.6	2.4	3.0	0.0	0.0	11.4	18.6	40.0	0.3
	<医療技術者経験年数>												
	3年未満	21	81.0	0.0	4.8	0.0	4.8	0.0	0.0	9.5	12.6	41.7	0.2
	3～5年未満	29	65.5	20.7	0.0	3.4	3.4	0.0	0.0	6.9	17.0	40.2	0.8
	5～10年未満	27	51.9	25.9	7.4	3.7	3.7	0.0	0.0	7.4	24.6	42.2	1.0
	10年以上	49	53.1	18.4	12.2	4.1	4.1	0.0	0.0	8.2	27.0	45.5	0.8

図表 3-3-6 : 年度当初の若手指導時間別にみた過去 1 ヶ月の若手指導時間の平均 (単位=%)

[医療技術職員調査]

	n	0時間	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5時間以上	不明	1時間未満
過去1ヵ月・計	166	62.0	14.5	6.6	2.4	3.0	0.0	0.0	11.4	76.5
年度当初										
<年度当初の若手指導時間別>										
0時間	97	91.8	4.1	2.1	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	95.9
1時間未満	14	50.0	42.9	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	92.9
1時間以上	37	18.9	37.8	21.6	5.4	13.5	0.0	0.0	2.7	56.8

図表 3-3-7 : 過去 3 年間の若手 (新人) に対する教育指導時間の増減状況 (単位=%)

[医療技術職員調査]

	n	大変増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	大変減少した	該当する者・該当する事項がない	不明	増加計	減少計
計	166	5.4	21.7	35.5	1.2	0.6	18.7	16.9	27.1	1.8
<過去1ヵ月の若手指導時間別>										
0時間	103	1.9	14.6	39.8	1.0	1.0	28.2	13.6	16.5	1.9
1時間未満	24	16.7	37.5	41.7	0.0	0.0	0.0	4.2	54.2	0.0
1時間以上	20	15.0	50.0	30.0	5.0	0.0	0.0	0.0	65.0	5.0

※「増加」は「大変増加した」「やや増加した」の合計。「減少」は「大変減少した」「やや減少した」の合計。

図表 3-3-8 : 若手 (新人) に対する教育指導の負担感 (単位=%) [医療技術職員調査]

	若手 (新人) に対する教育指導の負担感							負担感計	
	n	非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる計	負担に感じない計
合計	166	5.4	16.3	34.9	10.2	10.2	22.9	21.7	20.4
<過去3年間の若手 (新人) に対する教育指導時間の増減状況>									
増加	45	11.1	35.6	31.1	11.1	6.7	4.4	46.7	17.8
減少・変わらない	62	6.5	16.1	40.3	19.4	12.9	4.8	22.6	32.3
<年度当初の若手指導時間>									
0時間	97	3.1	9.3	42.3	8.2	11.3	25.8	12.4	19.6
1時間未満	14	0.0	35.7	21.4	21.4	21.4	0.0	35.7	42.9
1時間以上	37	16.2	29.7	29.7	16.2	5.4	2.7	45.9	21.6
<過去1ヵ月の若手指導時間>									
0時間	103	4.9	11.7	42.7	6.8	9.7	24.3	16.5	16.5
1時間未満	24	4.2	25.0	25.0	25.0	16.7	4.2	29.2	41.7
1時間以上	20	15.0	35.0	20.0	20.0	10.0	0.0	50.0	30.0

※「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。「負担に感じない」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。

### 3-3. 多職種カンファレンス関係

#### (1)多職種カンファレンスの状況

部署での多職種カンファレンス (治療方針の検討等) の有無を尋ねたところ、47.6%が「ある」としている。カンファレンスがある者について、月あたりの平均回数をみると、その平均値は 4.3 回である。分布をみると、「3～4 回」が 40.5%ともっとも割合が高く、次いで、「1 回」が 19.0%、「5～10 回」が 16.5%などとなっている (以下、図表 3-3-9 参照)。

多職種カンファレンスの有無を配属別にみると、多職種カンファレンスがある割合がもっとも高いのは、「リハビリテーション部」で100.0%となっている。次いで「薬剤部」が57.9%、「放射線部」42.9%などとなっている。月あたりの平均回数を部署別にみると、平均回数は「リハビリテーション部」が6.0回、「臨床検査部」が4.3回、「薬剤部」が3.8回などとなっている。職種別にみると、「ある」の割合がもっとも高いのは、「理学療法士等」(79.5%)であり、次いで、「薬剤師」65.0%などとなっている。

勤務形態別にみると、「非常勤」のほうが「ある」とする割合が高い。役職別にみると、役職で「ある」とする割合に違いはない。医療技術者経験年数別にみると、10年以上で「ある」とする割合がもっとも低くなっている。

次に、調査では、多職種カンファレンスがある者について、その実施時間帯を尋ねている。それによれば、「所定勤務時間内」が45.6%となっており、「所定勤務時間外」が50.6%となっている。これを配属別にみると、「所定勤務時間外」の割合は「リハビリテーション部」がもっとも高く、次いで「臨床検査部」なども高い。職種別にみると、「所定勤務時間外」の割合が高いのは、「臨床検査技師」や「理学療法士等」などである。月あたりの多職種カンファレンス回数別にみると、回数が多くなるほど「所定勤務時間外」の割合が高まる傾向にある(図表3-3-10)。

図表 3-3-9 : 多職種カンファレンスの有無、及び月当たり回数 (単位=%) [医療技術職員調査]

	n	多職種カンファレンスの有無			n	月あたり多職種カンファレンス回数							平均	標本標準偏差
		ある	ない	不明		1回	2回	3~4回	5~10回未満	10回以上	不明			
計	166	47.6	42.2	10.2	79	19.0	12.7	40.5	16.5	10.1	1.3	4.3	3.2	
<配属>														
薬剤部	19	57.9	36.8	5.3	11	18.2	0.0	72.7	9.1	0.0	0.0	3.8	1.7	
臨床検査部	33	27.3	63.6	9.1	9	33.3	22.2	33.3	0.0	11.1	0.0	4.3	5.7	
放射線部	21	42.9	57.1	0.0	9	44.4	22.2	33.3	0.0	0.0	0.0	2.2	1.3	
リハビリテーション部	21	100.0	0.0	0.0	21	0.0	9.5	23.8	42.9	23.8	0.0	6.0	2.7	
それ以外	72	40.3	41.7	18.1	29	20.7	13.8	44.8	10.3	6.9	3.4	3.8	2.5	
<職種>														
臨床検査技師	46	26.1	60.9	13.0	12	33.3	25.0	33.3	0.0	8.3	0.0	3.8	5.0	
診療放射線技師	21	42.9	57.1	0.0	9	44.4	22.2	33.3	0.0	0.0	0.0	2.2	1.3	
薬剤師	20	65.0	35.0	0.0	13	15.4	0.0	76.9	7.7	0.0	0.0	3.8	1.6	
理学療法士等	39	79.5	17.9	2.6	31	3.2	9.7	35.5	32.3	19.4	0.0	5.4	2.8	
その他	38	34.2	42.1	23.7	13	30.8	15.4	30.8	7.7	7.7	7.7	3.5	2.8	
<勤務形態>														
常勤	55	47.3	49.1	3.6	26	19.2	7.7	42.3	19.2	11.5	0.0	4.8	4.0	
非常勤・アルバイト	96	52.1	35.4	12.5	50	20.0	14.0	38.0	16.0	10.0	2.0	4.1	2.7	
<役職>														
役職あり	16	50.0	50.0	0.0	8	25.0	25.0	12.5	12.5	25.0	0.0	5.8	6.1	
役職なし・診療科等検査等補助	137	51.1	40.9	8.0	70	18.6	11.4	44.3	17.1	8.6	0.0	4.1	2.6	
<医療技術者経験年数>														
3年未満	21	52.4	42.9	4.8	11	18.2	18.2	45.5	9.1	9.1	0.0	3.6	2.4	
3~5年未満	29	58.6	41.4	0.0	17	11.8	11.8	41.2	29.4	5.9	0.0	4.5	2.5	
5~10年未満	27	59.3	37.0	3.7	16	12.5	12.5	50.0	12.5	12.5	0.0	4.5	2.7	
10年以上	49	44.9	46.9	8.2	22	27.3	9.1	31.8	13.6	18.2	0.0	4.7	4.4	

※「月あたり多職種カンファレンス回数」は多職種カンファレンスが「ある」者を対象に集計。



図表 3-3-10：多職種カンファレンスの実施時間帯（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	所定勤務時間内	所定勤務時間外	不明
計	79	45.6	50.6	3.8
<配属>				
薬剤部	11	54.5	45.5	0.0
臨床検査部	9	33.3	66.7	0.0
放射線部	9	44.4	44.4	11.1
リハビリテーション部	21	9.5	90.5	0.0
それ以外	29	72.4	20.7	6.9
<職種>				
臨床検査技師	12	33.3	66.7	0.0
診療放射線技師	9	44.4	44.4	11.1
薬剤師	13	61.5	38.5	0.0
理学療法士等	31	38.7	61.3	0.0
その他	13	61.5	30.8	7.7
<月あたり多職種カンファレンス回数>				
1回	15	60.0	40.0	0.0
2～4回	42	50.0	47.6	2.4
5回以上	21	28.6	66.7	4.8

※多職種カンファレンスがある者を対象に集計。

## (2)カンファレンスの負担感及び、多職種カンファレンスの満足度

医療技術職員の「カンファレンス」の負担感をみると、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計）とする割合は 13.8%となっている一方で、「負担に感じない」（「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計）とする割合は 19.8%となっている。わずかに「負担に感じない」とする割合が高い。

これを過去 3 年間のカンファレンスの回数の増減状況別にみると、「負担を感じる」とする割合は、「増加」が 46.6%、「減少・変わらない」が 12.0%となっており、「増加」のほうが「負担を感じる」割合が高い。

月あたりの多職種カンファレンスの回数別にみると、おおむね回数が増加するほど「負担を感じる」とする割合が高まる傾向にあり、「5 回以上」で「負担を感じる」割合が 52.4%ともっとも高くなっている。多職種カンファレンスの実施時間帯別にみると、「所定勤務時間外」であるほうが「負担を感じる」とする割合が高い（図表 3-3-11）。

次に、「多職種カンファレンス」の満足度をみると、「どちらとも言えない」とするものが 54.8%ともっとも割合が高い。「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が 13.2%、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が 12.6%となっており、両者は拮抗している。

これを過去 3 年間のカンファレンスの回数の増減状況別にみると、「満足である」とする割合は、「減少・変わらない」よりも、「増加」のほうが高い（ただし、「不満である」とする割合も「増加」のほうが高くなっている）。月あたりの多職種カンファレンスの回数別にみると、回数が増加するほど「満足である」とする割合は高まる傾向にあり、「2～4 回」でピークとなっている。「不満である」とする割合も、「2～4 回」でもっとも低くなっており、回数が「5 回以上」で「不満である」とする割合がもっとも高くなっている。多職種カンファレ

ンスの実施時間帯別にみると、「所定勤務時間外」であるほうが「不満である」とする割合が高い（図表 3-3-12）。

図表 3-3-11：カンファレンスの負担感（単位＝％）〔医療技術者調査〕

	カンファレンスの負担感							負担感計	
	n	非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる計	負担に感じない計
計	166	1.8	12.0	39.2	11.4	8.4	27.1	13.8	19.8
＜過去3年間のカンファレンスの回数の増減状況＞									
増加	30	3.3	43.3	36.7	10.0	0.0	6.7	46.6	10.0
減少・変わらない	75	2.7	9.3	53.3	17.3	12.0	5.3	12.0	29.3
＜月あたり多職種カンファレンス回数＞									
ない	70	1.4	7.1	44.3	8.6	5.7	32.9	8.5	14.3
1回	15	0.0	0.0	46.7	13.3	20.0	20.0	0.0	33.3
2～4回	42	0.0	14.3	42.9	23.8	11.9	7.1	14.3	35.7
5回以上	21	9.5	42.9	38.1	4.8	0.0	4.8	52.4	4.8
＜多職種カンファレンスの実施時間帯＞									
所定勤務時間内	36	0.0	8.3	47.2	16.7	19.4	8.3	8.3	36.1
所定勤務時間外	40	5.0	27.5	40.0	15.0	2.5	10.0	32.5	17.5

※「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。「負担に感じない」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。

図表 3-12：多職種カンファレンスの満足度（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	多職種カンファレンスの満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	166	1.2	12.0	54.8	9.0	3.6	19.3	13.2	12.6
＜過去3年間のカンファレンスの回数の増減状況＞									
増加	30	3.3	20.0	46.7	16.7	10.0	3.3	23.3	26.7
減少・変わらない	75	1.3	16.0	69.3	6.7	2.7	4.0	17.3	9.4
＜月あたり多職種カンファレンス回数＞									
ない	70	0.0	1.4	61.4	11.4	1.4	24.3	1.4	12.8
1回	15	0.0	20.0	53.3	13.3	6.7	6.7	20.0	20.0
2～4回	42	2.4	26.2	59.5	7.1	2.4	2.4	28.6	9.5
5回以上	21	4.8	19.0	47.6	9.5	14.3	4.8	23.8	23.8
＜多職種カンファレンスの実施時間帯＞									
所定勤務時間内	36	2.8	19.4	55.6	5.6	8.3	8.3	22.2	13.9
所定勤務時間外	40	2.5	25.0	55.0	12.5	5.0	0.0	27.5	17.5

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

### 3-4. 夜勤

#### (1)夜勤の状況

月あたりの夜勤の有無について尋ねたところ、「ある」が 32.5%となっている。

これを配属別にみると、「ある」とする割合は、「薬剤部」89.5%、「放射線部」81.0%、「臨床検査部」54.5%などとなっている。「リハビリテーション部」は夜勤がない。職種別にみると、「ある」とする割合は、「薬剤師」が 85.0%、「診療放射線技師」が 81.0%、「臨床検査技師」が 43.5%などとなっている（以下、図表 3-3-13 参照）。

勤務形態別にみると、「ある」とする割合は「非常勤・アルバイト」に比べ「常勤」のほう

が高い。役職別にみると、「役職あり」のほうが夜勤のある割合は高い。

年齢別にみると、年齢が低くなるほど「ある」とする割合が高くなっている。性・子供の有無別にみると、「女性・子供あり」で夜勤がある割合がもっとも低く、「男性」は子供の有無にかかわらず6割弱に夜勤がある。「女性・子供なし」では夜勤がある割合は30.6%である。医療技術者経験年数別にみると、経験年数が長くなるほど「ある」とする割合が高まる傾向にあり、「5～10年未満」でピークとなっている。

調査では、「夜勤」が「ある」者について、1ヵ月あたりの夜勤回数を尋ねている。それによれば、夜勤回数の平均値は1.5回となっている。配属別にみると、平均値は「臨床検査部」2.1回、「放射線部」1.4回、「薬剤師」1.0回となっている。勤務形態別にみると、「常勤」1.6回、「非常勤・アルバイト」1.4回となっており、分布をみると、「2回以上」（「2回」「3回」の合計）の割合は、「常勤」58.6%、「非常勤・アルバイト」32.0%となっており、「常勤」のほうが高い。役職別にみると、平均値は「役職あり」のほうが低い。

年齢別にみると、平均値が最も高いのは「30代」である。性・子供の有無別にみると、平均値は「女性・子供あり」の2.0%でもっとも高く、次いで「女性・子供なし」1.6%などとなっている。医師技術者経験年数別にみると、平均値は経験年数が長くなるほど高まる傾向にある（図表3-3-14）。

夜勤1回あたりの対応患者数では、「10人以上」が57.4%ともっとも割合が高く、次いで、「1～4人」20.4%、「5～9人」13.0%であり、「ほとんどいない」は3.7%となっている。配属別にみると、「10人以上」の割合は「放射線部」が88.2%ともっとも高く、次いで「臨床検査部」「薬剤部」となっている（図表3-3-15）。

図表 3-3-13：夜勤の有無（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	夜勤の有無		
		ある	ない	不明
計	166	32.5	65.7	1.8
<配属>				
薬剤部	19	89.5	10.5	0.0
臨床検査部	33	54.5	45.5	0.0
放射線部	21	81.0	19.0	0.0
リハビリテーション部	21	0.0	95.2	4.8
それ以外	72	2.8	94.4	2.8
<職種>				
臨床検査技師	46	43.5	56.5	0.0
診療放射線技師	21	81.0	19.0	0.0
薬剤師	20	85.0	15.0	0.0
理学療法士等	39	0.0	97.4	2.6
その他	38	0.0	94.7	5.3
<勤務形態>				
常勤	55	52.7	47.3	0.0
非常勤・アルバイト	96	26.0	70.8	3.1
<役職>				
役職あり	16	43.8	56.3	0.0
役職なし・診療科等検査等補助	137	34.3	64.2	1.5

	n	夜勤の有無		
		ある	ない	不明
計	166	32.5	65.7	1.8
<年齢>				
20代以下	67	49.3	50.7	0.0
30代	43	34.9	62.8	2.3
40代	31	12.9	83.9	3.2
50代以上	22	9.1	86.4	4.5
<性・子供の有無>				
男性・子供あり	22	59.1	40.9	0.0
男性・子供なし	27	59.3	40.7	0.0
女性・子供あり	43	7.0	88.4	4.7
女性・子供なし	72	30.6	68.1	1.4
<医療技術者経験年数>				
3年未満	21	42.9	57.1	0.0
3～5年未満	29	48.3	51.7	0.0
5～10年未満	27	51.9	44.4	3.7
10年以上	49	34.7	63.3	2.0

図表 3-3-14：月あたり夜勤回数（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	月あたり夜勤回数 【夜勤ありベース】				
		1回	2回	3回	平均	標本標準 偏差
計	54	53.7	42.6	3.7	1.5	0.6
<配属>						
薬剤部	17	100.0	0.0	0.0	1.0	0.0
臨床検査部	18	5.6	83.3	11.1	2.1	0.4
放射線部	17	64.7	35.3	0.0	1.4	0.5
<職種>						
臨床検査技師	20	5.0	85.0	10.0	2.1	0.4
診療放射線技師	17	64.7	35.3	0.0	1.4	0.5
薬剤師	17	100.0	0.0	0.0	1.0	0.0
<勤務形態>						
常勤	29	41.4	55.2	3.4	1.6	0.6
非常勤・アルバイト	25	68.0	28.0	4.0	1.4	0.6
<役職>						
役職あり	7	71.4	28.6	0.0	1.3	0.5
役職なし・診療科等検査等補助	47	51.1	44.7	4.3	1.5	0.6
<年齢>						
20代以下	33	60.6	39.4	0.0	1.4	0.5
30代	15	40.0	46.7	13.3	1.7	0.7
40代	4	50.0	50.0	0.0	1.5	0.5
50代以上	2	50.0	50.0	0.0	1.5	0.5
<性・子供の有無>						
男性・子供あり	13	69.2	30.8	0.0	1.3	0.5
男性・子供なし	16	56.3	43.8	0.0	1.4	0.5
女性・子供あり	3	0.0	100.0	0.0	2.0	0.0
女性・子供なし	22	50.0	40.9	9.1	1.6	0.7
<医療技術者経験年数>						
3年未満	9	66.7	33.3	0.0	1.3	0.5
3～5年未満	14	64.3	35.7	0.0	1.4	0.5
5～10年未満	14	50.0	50.0	0.0	1.5	0.5
10年以上	17	41.2	47.1	11.8	1.7	0.7

※夜勤が「ある」者を対象に集計。

図表 3-3-15：夜勤1回あたりの対応患者数（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	夜勤1回あたりの対応患者数				
		ほとんど いない	1～4人	5～9人	10人 以上	不明
計	54	3.7	20.4	13.0	57.4	5.6
<配属>						
薬剤部	17	0.0	41.2	11.8	41.2	5.9
臨床検査部	18	11.1	16.7	11.1	50.0	11.1
放射線部	17	0.0	0.0	11.8	88.2	0.0

※夜勤が「ある」者を対象に集計。

## (2)夜勤の負担感、及び夜勤の日程割当の満足度

「交代制勤務の夜勤」の負担感をみると、「どちらともいえない」が49.5%ともっとも高いものの、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計）とする割合は20.9%となっている一方で、「負担に感じない」（「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計）とする割合は29.5%となっており、「負担に感じない」とする割合のほうが高い。

これを月あたり夜勤回数別にみると、「負担を感じる」とする割合は「1回」に比べ「2～3回」のほうが高い。「2～3回」で50.0%となっており、「負担に感じない」（29.2%）を上回っている（図表 3-3-16）。

「交代勤務（夜勤）の日程割当」の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が28.0%、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が5.3%となっている。

これを月あたり夜勤回数別にみると、「満足である」とする割合は、「2～3回」44.0%、「1回」41.4%となっており、ほとんど差はみられない（図表3-3-17）。

図表3-3-16：交代制勤務の夜勤の負担感（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	負担を感じる計	負担に感じない計
計	105	7.6	13.3	49.5	13.3	16.2	20.9	29.5
<月あたり夜勤回数>								
ない、0回	51	0.0	3.9	64.7	2.0	29.4	3.9	31.4
1回	29	10.4	17.2	44.8	24.1	3.5	27.6	27.6
2～3回	24	20.8	29.2	20.8	25.0	4.2	50.0	29.2

※無回答を除き集計。「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。「負担に感じない」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。

図表3-3-17：交代勤務(夜勤)の日程割当の満足度（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	交代勤務（夜勤）の日程割当					満足度計	
		満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	満足である計	不満である計
計	114	6.1	21.9	66.7	3.5	1.8	28.0	5.3
<月あたり夜勤回数>								
ない、0回	59	8.5	6.8	83.1	1.7	0.0	15.3	1.7
1回	29	0.0	41.4	48.3	6.9	3.4	41.4	10.3
2～3回	25	8.0	36.0	48.0	4.0	4.0	44.0	8.0

※無回答を除き集計。「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

### 3-5. 患者・家族への対応関係

#### (1)患者・家族への対応及び、暴言・セクハラ等への対応の増減状況

過去3年間の患者・家族への対応（クレーム対応含む）の増減状況をみると、「変わらない」とする割合が45.2%ともっとも高い（「該当する者・該当する事項がない」も25.9%ある）。「増加」（「大変増加した」「やや増加した」の合計）は9.6%ある。また、過去3年間の患者・家族からの暴言・暴力・性的嫌がらせへの対応（以下、「過去3年間の暴言・セクハラ等への対応」と略す）の増減状況をみると、「変わらない」が40.4%ともっとも高い（「該当する者・事項がない」は36.1%である）。「増加」は2.4%となっている。

これらを職種別にみると、「過去3年間の患者・家族への対応」では、「増加」の割合で高いのは「理学療法士等」「診療放射線技師」などである。「過去3年間の暴言・セクハラ等への対応」では、「増加」の割合は「理学療法士等」「薬剤師」などで高い。患者・家族との接点が多い職種で「増加」の認識をいなく割合が高いのかもしれない。

役職別にみると、「役職あり」のほうが、いずれも「増加」の割合が高い。性別にみると、「男性」のほうが、いずれも「増加」の割合がわずかに高い。年齢別にみると、「過去3年

間の患者・家族への対応」での「増加」の割合は、「20代以下」(13.4%)、「50代以上」(13.6%)で他より高くなっている。「過去3年間の暴言・セクハラ等への対応」では、「40代」で「増加」の割合が他よりも高い(図表3-3-18)。

図表3-3-18：過去3年間の患者・家族への対応の増減状況(単位＝%)【医療技術職員調査】

	n	患者・家族への対応(クレーム含む)の増減状況							患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の増減状況								
		大変増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	大変減少した	該当する者・事項がない	不明	増加	大変増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	大変減少した	該当する者・事項がない	不明	増加
計	166	0.6	9.0	45.2	1.8	0.0	25.9	17.5	9.6	0.6	1.8	40.4	3.6	0.6	36.1	16.9	2.4
<職種>																	
臨床検査技師	46	2.2	0.0	30.4	2.2	0.0	50.0	15.2	2.2	0.0	2.2	23.9	2.2	0.0	56.5	15.2	2.2
診療放射線技師	21	0.0	14.3	66.7	0.0	0.0	9.5	9.5	14.3	0.0	0.0	76.2	0.0	0.0	9.5	14.3	0.0
薬剤師	20	0.0	10.0	75.0	0.0	0.0	5.0	10.0	10.0	5.0	0.0	55.0	0.0	0.0	35.0	5.0	5.0
理学療法士等	39	0.0	23.1	64.1	5.1	0.0	5.1	2.6	23.1	0.0	5.1	56.4	12.8	0.0	23.1	2.6	5.1
その他	38	0.0	2.6	18.4	0.0	0.0	36.8	42.1	2.6	0.0	0.0	18.4	0.0	2.6	39.5	39.5	0.0
<役職>																	
役職あり	16	0.0	25.0	62.5	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	12.5	56.3	0.0	0.0	25.0	6.3	12.5
役職なし・診療科等検査等補助	137	0.7	8.0	47.4	2.2	0.0	27.0	14.6	8.7	0.7	0.7	42.3	4.4	0.7	38.0	13.1	1.4
<性別>																	
男性	49	0.0	10.2	59.2	4.1	0.0	20.4	6.1	10.2	2.0	2.0	57.1	4.1	0.0	28.6	6.1	4.0
女性	116	0.9	8.6	39.7	0.9	0.0	28.4	21.6	9.5	0.0	1.7	33.6	3.4	0.9	39.7	20.7	1.7
<年齢>																	
20代以下	67	1.5	11.9	58.2	3.0	0.0	19.4	6.0	13.4	0.0	1.5	56.7	3.0	0.0	32.8	6.0	1.5
30代	43	0.0	4.7	51.2	2.3	0.0	30.2	11.6	4.7	0.0	2.3	34.9	9.3	0.0	41.9	11.6	2.3
40代	31	0.0	6.5	29.0	0.0	0.0	38.7	25.8	6.5	3.2	3.2	22.6	0.0	3.2	45.2	22.6	6.4
50代以上	22	0.0	13.6	22.7	0.0	0.0	22.7	40.9	13.6	0.0	0.0	31.8	0.0	0.0	27.3	40.9	0.0

※「増加」は「大変増加した」「やや増加した」の合計。

## (2)患者・家族への対応及び、暴言・セクハラ等への対応の負担感

「患者・家族への対応(クレーム含む)の負担感」をみると、「負担に感じる」(「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計)とする割合は19.9%となっている。一方、「暴言・セクハラ等への対応の負担感」は「負担に感じる」とする割合は14.4%となっている。

これらを職種別にみると、「患者・家族への対応の負担感」では、「負担に感じる」とする割合は「診療放射線技師」が47.6%ともっとも高く、次いで、「薬剤師」、「理学療法士等」などである。「暴言・セクハラ等への対応の負担感」では、「負担に感じる」とする割合は「薬剤師」「診療放射線技師」「理学療法士等」などで高い。

役職別にみると、「役職あり」のほうが、いずれも「負担に感じる」とする割合が高い。

性別にみると、いずれも「負担に感じる」とする割合は男性で高い。年齢別にみると、いずれも、「20代以下」「50代以上」で割合が高い(図表3-3-19)。

過去3年間の患者・家族への対応の増減状況別に「患者・家族への対応の負担感」をみると、患者・家族への対応が「増加」したとする者の「負担に感じる」割合は56.3%と高い(「減少・変わらない」の「負担に感じる」とする割合は27.0%。図表3-3-20)。一方、過去3年間の暴言・セクハラ等への対応の増減状況別に「暴言・セクハラ等への対応の負担感」をみると、暴言・セクハラ等への対応が「増加」したとする者の「負担に感じる」割合は100.0%

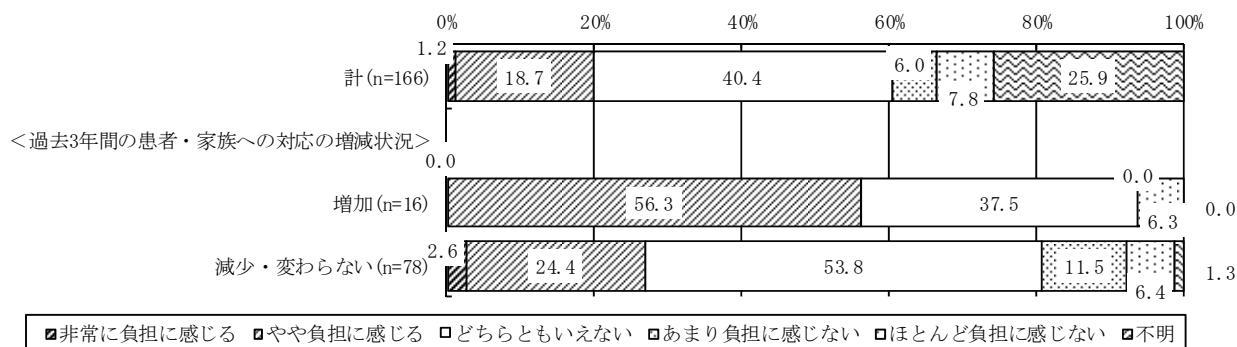
と高い（図表 3-3-21）。

図表 3-3-19：患者・家族への対応の負担感及び、患者・家族からのセクハラ・パワハラ等への対応の負担感  
（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	患者・家族への対応（クレーム含む）の負担感							負担に感じる計	患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の負担感							負担に感じる計
		非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	非常に負担に感じる		やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明			
計	166	1.2	18.7	40.4	6.0	7.8	25.9	19.9	3.6	10.8	41.6	6.0	11.4	26.5	14.4		
<職種>																	
臨床検査技師	46	0.0	10.9	39.1	2.2	8.7	39.1	10.9	0.0	4.3	41.3	2.2	13.0	39.1	4.3		
診療放射線技師	21	0.0	47.6	33.3	14.3	4.8	0.0	47.6	0.0	28.6	52.4	4.8	9.5	4.8	28.6		
薬剤師	20	5.0	25.0	60.0	5.0	0.0	5.0	30.0	20.0	10.0	55.0	5.0	5.0	5.0	30.0		
理学療法士等	39	2.6	25.6	48.7	7.7	10.3	5.1	28.2	5.1	17.9	43.6	10.3	15.4	7.7	23.0		
その他	38	0.0	2.6	28.9	5.3	10.5	52.6	2.6	0.0	2.6	28.9	7.9	7.9	52.6	2.6		
<役職>																	
役職あり	16	6.3	43.8	18.8	12.5	12.5	6.3	50.1	6.3	25.0	25.0	6.3	18.8	18.8	31.3		
役職なし・診療科等検査等補助	137	0.7	17.5	46.0	5.8	7.3	22.6	18.2	3.6	10.2	46.7	5.8	10.9	22.6	13.8		
<性別>																	
男性	49	0.0	26.5	44.9	12.2	8.2	8.2	26.5	6.1	14.3	42.9	10.2	16.3	10.2	20.4		
女性	116	1.7	15.5	38.8	3.4	7.8	32.8	17.2	2.6	9.5	41.4	4.3	9.5	32.8	12.1		
<年齢>																	
20代以下	67	1.5	26.9	55.2	6.0	7.5	3.0	28.4	3.0	14.9	58.2	6.0	13.4	4.5	17.9		
30代	43	2.3	7.0	46.5	7.0	9.3	27.9	9.3	4.7	4.7	46.5	7.0	9.3	27.9	9.4		
40代	31	0.0	16.1	16.1	6.5	12.9	48.4	16.1	3.2	9.7	16.1	9.7	12.9	48.4	12.9		
50代以上	22	0.0	22.7	22.7	4.5	0.0	50.0	22.7	4.5	13.6	22.7	0.0	4.5	54.5	18.1		

※「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。

図表 3-3-20：患者・家族への対応（クレーム含む）の負担感〔医療技術職員調査〕



図表 3-3-21：患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の負担感（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の負担感						負担感計	
		非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる計	負担に感じない計
計	166	3.6	10.8	41.6	6.0	11.4	26.5	14.4	17.4
<過去3年間の患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の増減状況>									
増加	4	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
減少・変わらない	74	5.4	18.9	55.4	10.8	8.1	1.4	24.3	18.9

※「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。

### (3)患者（とその家族）との関係に対する満足度

患者（とその家族）との関係に対する満足度は、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が35.5%となっている。「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合は0.6%でほとんどいない。

職種別にみると、「満足である」とする割合は、「理学療法士等」（53.9%）、「薬剤師」（50.0%）で高い。

過去3年間の患者・家族への対応の増減状況別にみると、「満足である」とする者の割合は「減少・変わらない」よりも「増加」のほうが低くなっている。過去3年間の暴言・セクハラ等への対応の増減状況別にみると、「増加」とする者の「満足である」とする割合はゼロである（図表3-3-22）。

図表3-3-22：患者（とその家族）との関係に対する満足度（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	患者（とその家族）との関係の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	166	7.8	27.7	44.0	0.6	0.0	19.9	35.5	0.6
<職種>									
臨床検査技師	46	13.0	10.9	47.8	0.0	0.0	28.3	23.9	0.0
診療放射線技師	21	0.0	38.1	61.9	0.0	0.0	0.0	38.1	0.0
薬剤師	20	5.0	45.0	45.0	5.0	0.0	0.0	50.0	5.0
理学療法士等	39	15.4	38.5	43.6	0.0	0.0	2.6	53.9	0.0
その他	38	0.0	21.1	31.6	0.0	0.0	47.4	21.1	0.0
<過去3年間の患者・家族への対応の増減状況>									
増加	16	6.3	18.8	75.0	0.0	0.0	0.0	25.1	0.0
減少・変わらない	78	11.5	43.6	42.3	1.3	0.0	1.3	55.1	1.3
<過去3年間の患者・家族からの暴言・セクハラ等への対応の増減状況>									
増加	4	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
減少・変わらない	74	12.2	39.2	47.3	1.4	0.0	0.0	51.4	1.4

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

## 3-6. 通常業務以外の業務

### (1)電子カルテの導入の負担感

電子カルテの導入による負担感については、「導入前に勤務していなかったためわからない」を除いてみると、「負担が減った」が37.2%、「負担が増えた」が11.5%となっており、「負担が減った」とする割合のほうが上回っている。これを職種別にみると、「負担が減った」とする割合は、「臨床検査技師」「薬剤師」などで高くなっている。年齢別にみると、年齢が高くなるほどわずかではあるが「負担が増えた」とする割合がおおむね高まる傾向にある（図表3-3-23）。



図表 3-3-23 : 電子カルテ導入による業務の負担感

(単位=%) [医療技術職員調査]

	n	負担が減った	どちらとも いえない	負担が増えた
計	78	37.2	51.3	11.5
<職種>				
臨床検査技師	23	52.2	47.8	0.0
診療放射線技師	12	25.0	41.7	33.3
薬剤師	8	50.0	50.0	0.0
理学療法士等	20	20.0	55.0	25.0
その他	15	40.0	60.0	0.0
<年齢>				
20代以下	19	52.6	36.8	10.5
30代	26	23.1	65.4	11.5
40代	18	55.6	33.3	11.1
50代以上	14	21.4	64.3	14.3

※「導入前に勤務していなかったためわからない」「不明」を除き集計。

(2)通常業務以外の業務の増減状況及び、通常業務以外の業務の負担感

過去3年間の通常業務以外の業務の増減状況を見ると、「増加」（「大変増加した」「やや増加した」の合計）は、48.2%となっている。これを職種別にみると、「増加」とする割合が高いのは「理学療法士等」「診療放射線技師」「薬剤師」などである。役職別にみると、「役職あり」の「増加」の割合は81.3%と高い（図表 3-3-24）。

通常業務以外の業務（書類作成等）の負担感は、「負担を感じる」（「非常に負担を感じる」「やや負担を感じる」の合計）とする割合は45.2%となっている。「負担に感じない」（「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計）とする割合は11.4%である。

通常業務以外の業務の負担感を電子カルテの負担度別にみると、「負担を感じる」とする割合は、電子カルテ導入によって負担が増えたと感じるほど高い。

過去3年間の通常業務以外の業務の増減状況別にみると、増加している者の「負担を感じる」割合が高くなっている。医療技術職員の不足感別にみると、医療技術職員の不足を感じている者の62.7%が「負担を感じる」としている（図表 3-3-25）。

図表 3-3-24 : 過去3年間の通常業務以外の業務の増減状況 (単位=%) [医療技術職員調査]

	n	大変増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	大変減少した	該当する者・事項がない	不明	増加計	減少計
計	166	16.9	31.3	27.1	1.2	0.0	9.0	14.5	48.2	1.2
臨床検査技師	46	8.7	28.3	34.8	0.0	0.0	15.2	13.0	37.0	0.0
診療放射線技師	21	14.3	47.6	28.6	0.0	0.0	0.0	9.5	61.9	0.0
薬剤師	20	25.0	35.0	35.0	0.0	0.0	0.0	5.0	60.0	0.0
理学療法士等	39	30.8	41.0	20.5	2.6	0.0	2.6	2.6	71.8	2.6
その他	38	10.5	13.2	21.1	2.6	0.0	18.4	34.2	23.7	2.6
<役職>										
役職あり	16	50.0	31.3	12.5	0.0	0.0	6.3	0.0	81.3	0.0
役職なし・診療科等検査等補助	137	13.9	33.6	31.4	1.5	0.0	8.8	10.9	47.5	1.5

※「増加」は「大変増加した」「やや増加した」の合計。「減少」は「大変減少した」「やや減少した」の合計。

図表 3-3-25：通常業務以外の業務の負担感（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	通常業務以外の業務の負担感							負担感計		
	n	非常に負担に感じる	やや負担に感じる	どちらともいえない	あまり負担に感じない	ほとんど負担に感じない	不明	負担に感じる計	負担に感じない計	
計	166	16.3	28.9	27.1	7.8	3.6	16.3	45.2	11.4	
<職種>										
臨床検査技師	46	10.9	19.6	30.4	15.2	2.2	21.7	30.5	17.4	
診療放射線技師	21	9.5	61.9	19.0	4.8	4.8	0.0	71.4	9.6	
薬剤師	20	25.0	35.0	40.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	
理学療法士等	39	35.9	30.8	25.6	2.6	2.6	2.6	66.7	5.2	
その他	38	2.6	18.4	23.7	10.5	5.3	39.5	21.0	15.8	
<役職>										
役職あり	16	37.5	43.8	6.3	6.3	0.0	6.3	81.3	6.3	
役職なし・診療科等検査等補助	137	15.3	28.5	31.4	8.8	4.4	11.7	43.8	13.2	
<電子カルテ負担度>										
負担が減った	29	20.7	20.7	20.7	20.7	3.4	13.8	41.4	24.1	
どちらともいえない	40	15.0	40.0	35.0	5.0	0.0	5.0	55.0	5.0	
負担が増えた	9	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
<過去3年間の通常業務以外の業務の増減状況>										
増加	80	30.0	36.3	23.8	5.0	3.8	1.3	66.3	8.8	
減少・変わらない	47	6.4	34.0	38.3	14.9	4.3	2.1	40.4	19.2	
<医療技術職員の不足>										
感じる	91	26.4	36.3	24.2	6.6	3.3	3.3	62.7	9.9	
感じない・どちらとも言えない	57	5.3	26.3	38.6	10.5	5.3	14.0	31.6	15.8	

※「負担に感じる」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。「負担に感じない」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。

## 4. 労働時間、休日、年次有給休暇取得日数

### 4-1. 週あたり労働時間

#### (1) 週あたり労働時間

1週間あたりの実際の労働時間（時間外労働（残業）時間を含む）は、平均時間で40.6時間であり、分布をみると、「40～50時間未満」が26.5%ともっとも割合が高く、次いで、「20～40時間未満」（23.5%）、「50～60時間未満」（16.9%）などとなっている。「60時間以上」（「60～70時間未満」「70～80時間未満」「80時間以上」の合計）の割合は15.0%である（以下、図表3-4-1参照）。

これを配属別にみると、平均値が高いのは「リハビリテーション部」（52.2時間）、「薬剤部」（48.6時間）などで、職種別にみると、「薬剤師」「理学療法士等」が高い。勤務形態別にみると、平均値は「常勤」（46.1時間）のほうが高い。役職別にみると、「役職あり」（49.2時間）のほうが高い。年齢別にみると、「30代」で「60時間以上」の割合が23.2%と高くなっている。性・子供の有無別にみると、「女性・子供あり」で平均値が33.2時間と低い。

過去1年間の学会等の参加回数別にみると、回数が多くなるほど「60時間以上」の割合が高くなる傾向にあり、「5～10回」でピークとなっている。過去3年間の学会等での論文発表別にみると、論文発表が「ある」者のほうが「60時間以上」の割合は高い。過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出別にみると、論文提出が「ある」者のほうが「60時間以上」の割合は33.3%と高くなっている（平均値は49.2時間）。

月あたり多職種カンファレンスの回数別にみると、回数が増加するほどおおむね「60時間以上」の割合は高まる。月あたり夜勤回数別にみると、「1回」で平均値が45.6時間ともっとも高くなっており、「60時間以上」の割合も31.0%と高くなっている。

図表 3-4-1：週あたり労働時間（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	20時間未満	20～40時間未満	40～50時間未満	50～60時間未満	60～70時間未満	70時間以上	不明	60時間以上計	平均	標本標準偏差
計	166	12.7	23.5	26.5	16.9	12.0	3.0	5.4	15.0	40.6	16.6
＜配属＞											
薬剤部	19	10.5	5.3	10.5	36.8	36.8	0.0	0.0	36.8	48.6	15.6
臨床検査部	33	6.1	18.2	57.6	3.0	6.1	3.0	6.1	9.1	40.8	12.1
放射線部	21	28.6	0.0	28.6	28.6	4.8	9.5	0.0	14.3	40.0	22.9
リハビリテーション部	21	14.3	0.0	0.0	33.3	47.6	4.8	0.0	52.4	52.2	15.9
それ以外	72	11.1	44.4	23.6	9.7	0.0	1.4	9.7	1.4	34.6	13.1
＜職種＞											
臨床検査技師	46	4.3	28.3	52.2	4.3	4.3	2.2	4.3	6.5	39.2	11.4
診療放射線技師	21	28.6	0.0	28.6	28.6	4.8	9.5	0.0	14.3	40.0	22.9
薬剤師	20	10.0	0.0	15.0	35.0	35.0	5.0	0.0	40.0	50.7	15.6
理学療法士等	39	17.9	15.4	10.3	28.2	25.6	2.6	0.0	28.2	44.5	17.7
その他	38	10.5	50.0	15.8	5.3	0.0	0.0	18.4	0.0	31.6	10.9
＜勤務形態＞											
常勤	55	14.5	0.0	34.5	29.1	14.5	7.3	0.0	21.8	46.1	18.3
非常勤・アルバイト	96	13.5	30.2	22.9	12.5	11.5	1.0	8.3	12.5	38.1	15.3
＜役職＞											
役職あり	16	12.5	0.0	31.3	31.3	12.5	12.5	0.0	25.0	49.2	19.5
役職なし・診療科等検査等補助	137	13.1	23.4	27.0	16.1	13.1	2.2	5.1	15.3	40.2	16.1
＜年齢＞											
20代以下	67	17.9	14.9	32.8	17.9	13.4	3.0	0.0	16.4	40.8	16.3
30代	43	11.6	14.0	23.3	23.3	20.9	2.3	4.7	23.2	44.1	16.6
40代	31	9.7	48.4	9.7	6.5	3.2	6.5	16.1	9.7	35.7	19.1
50代以上	22	0.0	31.8	40.9	18.2	4.5	0.0	4.5	4.5	41.1	10.1
＜性・子供の有無＞											
男性・子供あり	22	9.1	0.0	13.6	40.9	22.7	13.6	0.0	36.3	52.9	17.6
男性・子供なし	27	18.5	7.4	51.9	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	40.0	14.8
女性・子供あり	43	2.3	58.1	23.3	4.7	0.0	0.0	11.6	0.0	33.2	8.9
女性・子供なし	72	16.7	16.7	23.6	19.4	16.7	2.8	4.2	19.5	41.4	17.3
＜過去1年間の学会等参加回数＞											
ない	37	8.1	59.5	18.9	2.7	2.7	0.0	8.1	2.7	32.1	10.5
1～2回	29	13.8	20.7	24.1	17.2	17.2	0.0	6.9	17.2	40.3	16.0
3～5回未満	32	6.3	15.6	28.1	28.1	15.6	3.1	3.1	18.7	46.2	14.1
5～10回未満	35	20.0	2.9	28.6	22.9	17.1	8.6	0.0	25.7	44.6	20.5
10回以上	23	21.7	0.0	43.5	21.7	8.7	4.3	0.0	13.0	41.0	17.1
＜過去3年間の学会等での論文発表＞											
ない	93	9.7	32.3	29.0	12.9	8.6	2.2	5.4	10.8	38.8	14.7
ある	62	19.4	4.8	25.8	25.8	17.7	4.8	1.6	22.5	43.8	18.9
＜過去3年間の学術雑誌への投稿論文提＞											
ない	122	14.8	25.4	28.7	16.4	9.0	1.6	4.1	10.6	38.6	16.3
ある	30	10.0	6.7	20.0	26.7	23.3	10.0	3.3	33.3	49.2	16.0
＜月あたり多職種カンファレンス回数＞											
ない	70	11.4	22.9	37.1	17.1	5.7	2.9	2.9	8.6	39.9	14.9
1回	15	26.7	33.3	13.3	13.3	6.7	6.7	0.0	13.4	36.1	21.0
2～4回	42	7.1	21.4	23.8	14.3	23.8	4.8	4.8	28.6	44.4	16.8
5回以上	21	23.8	4.8	9.5	38.1	23.8	0.0	0.0	23.8	44.3	18.1
＜月あたり夜勤回数＞											
ない、0回	109	10.1	33.9	21.1	14.7	10.1	1.8	8.3	11.9	39.1	15.2
1回	29	20.7	0.0	20.7	27.6	24.1	6.9	0.0	31.0	45.6	20.0
2～3回	25	16.0	4.0	56.0	16.0	4.0	4.0	0.0	8.0	40.6	16.6

## (2) 「労働時間の長さ」の満足度

「労働時間の長さ」の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が 35.5%となっており、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が 31.9%であることから、両者は拮抗している。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど、「不満である」とする割合は高まる。「60 時間以上」の「不満である」とする割合は 76.0%であり、「50～60 時間」でも 50.0%となっている。月あたり夜勤回数別にみると、「1 回」で「不満である」とする割合が 44.8%ともっとも高くなっている（図表 3-4-2）。

図表 3-4-2：労働時間の長さの満足度（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	労働時間の長さの満足度						満足度計	
		満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	166	12.0	23.5	31.9	19.9	12.0	0.6	35.5	31.9
<週労働時間>									
50 時間未満	104	17.3	32.7	31.7	11.5	5.8	1.0	50.0	17.3
50～60 時間未満	28	0.0	10.7	39.3	32.1	17.9	0.0	10.7	50.0
60 時間以上	25	0.0	4.0	20.0	44.0	32.0	0.0	4.0	76.0
<月あたり夜勤回数>									
ない、0 回	109	15.6	27.5	23.9	20.2	11.9	0.9	43.1	32.1
1 回	29	3.4	3.4	48.3	20.7	24.1	0.0	6.8	44.8
2～3 回	25	8.0	28.0	48.0	16.0	0.0	0.0	36.0	16.0

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

## 4-2. 休日

調査では、過去 1 ヶ月でみて、週あたりで実際に何日休めているかについて尋ねている。それによれば、「週 2 日」が 76.5%でもっとも割合が高い。これを週あたり勤務日数別にみると、週 5 日勤務の者では、「週 2 日」が 79.2%となっている（図表 3-4-3）

そこで週 5 日勤務の者（すなわち、制度上で週休 2 日制の者）について、週あたり労働時間別にみると、「週 1 日以下」（「週 0 日」「週 1 日」の合計）の割合は、「50 時間未満」でもっとも低い。月あたり夜勤回数別にみると、「週 1 日以下」の割合は、「2～3 回」でもっとも高い。職種別にみると、「週 1 日以下」の割合は「理学療法士等」でもっとも高い。勤務形態別でみると、その割合は、「常勤」が 21.8%と高いが、「非常勤・アルバイト」でも 11.6%ある。役職別にみると、「週 1 日以下」の割合は「役職あり」のほうが高い（図表 3-4-4）。

図表 3-4-3：週あたり休日日数（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	週 0 日	週 1 日	週 2 日	週 3 日	週 4 日以上	不明
計	166	3.0	12.0	76.5	3.0	4.2	1.2
<週あたり勤務日数>							
4 日以下	12	0.0	16.7	41.7	33.3	8.3	0.0
5 日	154	3.2	11.7	79.2	0.6	3.9	1.3

図表 3-4-4：過去 1 ヶ月でみた週 5 日勤務者の実際に休めた休日日数

(単位＝%)〔医療技術職員調査〕

	n	週あたりの実際に休めた休日日数						週 1 日以下計
		週 0 日	週 1 日	週 2 日	週 3 日	週 4 日以上	不明	
計	154	3.2	11.7	79.2	0.6	3.9	1.3	14.9
<週労働時間>								
5 0 時間未満	94	4.3	8.5	83.0	0.0	3.2	1.1	12.8
5 0 ～ 6 0 時間未満	28	3.6	17.9	71.4	0.0	3.6	3.6	21.4
6 0 時間以上	25	0.0	20.0	68.0	4.0	8.0	0.0	20.0
<月あたり夜勤回数>								
ない、0 回	97	5.2	9.3	79.4	0.0	5.2	1.0	14.4
1 回	29	0.0	13.8	82.8	0.0	0.0	3.4	13.8
2 ～ 3 回	25	0.0	20.0	72.0	4.0	4.0	0.0	20.0
<職種>								
臨床検査技師	44	0.0	13.6	79.5	2.3	2.3	2.3	13.6
診療放射線技師	21	0.0	14.3	81.0	0.0	4.8	0.0	14.3
薬剤師	20	0.0	10.0	85.0	0.0	5.0	0.0	10.0
理学療法士等	34	5.9	14.7	73.5	0.0	2.9	2.9	20.6
その他	33	9.1	6.1	78.8	0.0	6.1	0.0	15.2
<勤務形態>								
常勤	55	5.5	16.4	69.1	0.0	5.5	3.6	21.8
非常勤・アルバイト	86	2.3	9.3	83.7	1.2	3.5	0.0	11.6
<役職>								
役職あり	16	0.0	18.8	68.8	0.0	6.3	6.3	18.8
役職なし・診療科等検査等補助	125	2.4	11.2	81.6	0.8	3.2	0.8	13.6

※週 5 日勤務の者を対象に集計。

### 4-3. 年次有給休暇の取得日数

#### (1)年次有給休暇取得日数

今年度 1 年間の年次有給休暇の取得日数は、「1～3 日」が 29.5%と最も割合が高く、次いで、「4～6 日」が 24.7%、「7～10 日」が 21.7%などとなっている。「0 日」は 6.6%である。「3 日以下」（「0 日」「1～3 日」の合計）は 36.1%となっている（以下、図表 3-4-5 参照）。

これを職種別で見ると、「3 日以下」の割合は、「薬剤師」が 65.0%となっており、次いで、「臨床検査技師」、「理学療法士等」などとなっている。勤務形態別にみると、「3 日以下」の割合は「常勤」のほうが高い。役職別にみると、「3 日以下」の割合にほとんど差はないが、「7 日以上」（「7～10 日」「11～15 日」「16～19 日」「20 日」「21 日以上」の合計）の割合は「役職あり」のほうが高い。勤続年数別にみると、勤続年数「3 年未満」で「3 日以下」の割合が最も高くなっている。年齢別にみると、年齢が低くなるほど「3 日以下」の割合が高くなる。性・子供の有無別にみると、「女性・子供あり」で「7 日以上」の割合が最も高くなっている。

過去 1 年間の学会等の参加回数別にみると、回数が 5 回以上で、「3 日以下」の割合が高くなっており、「5～10 回未満」54.3%、「10 回以上」52.1%となっている。過去 3 年間の学会等での論文発表別にみると、論文発表が「ある」者のほうが「3 日以下」の割合は高い。過去 3 年間の学術雑誌への投稿論文提出別にみると、論文提出が「ある」者のほうが「3 日以下」の割合がわずかに高くなっている。

月あたり夜勤回数別にみると、回数が増えるほど、「3 日以下」の割合は高まる。週あたり

労働時間別にみると、労働時間が「60時間以上」で、「3日以下」の割合が44.0%ともっとも高い。実際に休めた週あたり休日日数別にみると、「週休1日以下」の者で「3日以下」の割合は52.0%と高い。

図表 3-4-5：年次有給休暇取得日数（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	0日	1～3日	4～6日	7～10日	11～15日	16～19日	20日	21日以上	不明	3日以下計	7日以上計
計	166	6.6	29.5	24.7	21.7	11.4	3.0	0.0	1.2	1.8	36.1	37.3
<職種>												
臨床検査技師	46	4.3	34.8	26.1	19.6	8.7	4.3	0.0	0.0	2.2	39.1	32.6
診療放射線技師	21	0.0	19.0	28.6	19.0	14.3	14.3	0.0	4.8	0.0	19.0	52.4
薬剤師	20	20.0	45.0	20.0	10.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	65.0	15.0
理学療法士等	39	5.1	33.3	20.5	23.1	15.4	0.0	0.0	2.6	0.0	38.4	41.1
その他	38	7.9	18.4	23.7	31.6	13.2	0.0	0.0	0.0	5.3	26.3	44.8
<勤務形態>												
常勤	55	5.5	40.0	20.0	14.5	10.9	7.3	0.0	1.8	0.0	45.5	34.5
非常勤・アルバイト	96	7.3	26.0	29.2	26.0	9.4	0.0	0.0	1.0	1.0	33.3	36.4
<役職>												
役職あり	16	6.3	31.3	18.8	6.3	18.8	18.8	0.0	0.0	0.0	37.6	43.9
役職なし・診療科等検査	137	6.6	30.7	25.5	21.9	11.7	1.5	0.0	1.5	0.7	37.3	36.6
<勤続年数>												
3年未満	54	11.1	38.9	27.8	20.4	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	22.3
3～5年未満	32	0.0	28.1	18.8	31.3	18.8	0.0	0.0	0.0	3.1	28.1	50.1
5～7年未満	19	5.3	31.6	31.6	26.3	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	36.9	31.6
7年以上	50	6.0	22.0	22.0	16.0	22.0	10.0	0.0	0.0	2.0	28.0	48.0
<年齢>												
20代以下	67	7.5	44.8	25.4	17.9	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	52.3	22.4
30代	43	11.6	27.9	20.9	16.3	16.3	2.3	0.0	4.7	0.0	39.5	39.6
40代	31	3.2	12.9	19.4	41.9	16.1	0.0	0.0	0.0	6.5	16.1	58.0
50代以上	22	0.0	9.1	31.8	18.2	18.2	18.2	0.0	0.0	4.5	9.1	54.6
<性・子供の有無>												
男性・子供あり	22	4.5	31.8	18.2	18.2	18.2	4.5	0.0	4.5	0.0	36.3	45.4
男性・子供なし	27	0.0	55.6	29.6	7.4	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	55.6	14.8
女性・子供あり	43	2.3	4.7	27.9	41.9	14.0	4.7	0.0	0.0	4.7	7.0	60.6
女性・子供なし	72	12.5	33.3	22.2	16.7	9.7	2.8	0.0	1.4	1.4	45.8	30.6
<過去1年間の学会等参加回数>												
ない	37	8.1	13.5	24.3	27.0	21.6	2.7	0.0	0.0	2.7	21.6	51.3
1～2回	29	13.8	34.5	24.1	17.2	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	48.3	27.5
3～5回未満	32	0.0	15.6	40.6	34.4	3.1	3.1	0.0	3.1	0.0	15.6	43.7
5～10回未満	35	5.7	48.6	20.0	5.7	11.4	5.7	0.0	2.9	0.0	54.3	25.7
10回以上	23	4.3	47.8	17.4	13.0	13.0	4.3	0.0	0.0	0.0	52.1	30.3
<過去3年間の学会等での論文発表>												
ない	93	9.7	22.6	31.2	18.3	14.0	3.2	0.0	0.0	1.1	32.3	35.5
ある	62	3.2	43.5	17.7	19.4	9.7	3.2	0.0	3.2	0.0	46.7	35.5
<過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出>												
ない	122	7.4	31.1	26.2	18.0	13.1	2.5	0.0	0.8	0.8	38.5	34.4
ある	30	6.7	33.3	23.3	23.3	10.0	3.3	0.0	0.0	0.0	40.0	36.6
<月あたり多職種カンファレンス回数>												
ない	70	10.0	34.3	21.4	12.9	15.7	4.3	0.0	0.0	1.4	44.3	32.9
1回	15	13.3	26.7	33.3	20.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	40.0	26.7
2～4回	42	4.8	38.1	23.8	21.4	7.1	2.4	0.0	2.4	0.0	42.9	33.3
5回以上	21	0.0	14.3	28.6	38.1	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	57.1
<月あたり夜勤回数>												
ない、0回	109	6.4	22.0	23.9	24.8	16.5	3.7	0.0	0.0	2.8	28.4	45.0
1回	29	10.3	37.9	34.5	13.8	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	48.2	17.2
2～3回	25	4.0	56.0	20.0	12.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0
<週労働時間>												
50時間未満	104	2.9	33.7	27.9	18.3	11.5	3.8	0.0	0.0	1.9	36.6	33.6
50～60時間未満	28	10.7	25.0	10.7	32.1	14.3	3.6	0.0	3.6	0.0	35.7	53.6
60時間以上	25	16.0	28.0	24.0	16.0	12.0	0.0	0.0	4.0	0.0	44.0	32.0
<週あたり休日日数>												
週休1日以下	25	8.0	44.0	24.0	20.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	52.0	24.0
週休2日以上	139	6.5	27.3	24.5	21.6	12.9	3.6	0.0	1.4	2.2	33.8	39.5

(2)年次有給休暇の用途

年次有給休暇の用途は、「自分の病気・けがの療養」が 30.3%と最も多くなっており、次いで、「家での休養」が 24.8%などとなっている。

年次有給休暇取得日数別にみると、取得日数が長くなるほど、おおむね「海外旅行」「日帰りレジャー」「家での休養」「自分の病気けがの療養」「家族等の看護・介護」「家事・育児」「学会・研究会・院外研修会の参加等」などの割合が高まる傾向にある。

過去1年間の学会等の参加回数別にみると、回数が多くなるほど、おおむね「学会・研究会・院外研修会の参加等」などの割合が高まる傾向にある。また、過去3年間の学会等での論文発表別にみると、論文発表が「ある」者のほうが「学会・研究会・院外研修会の参加等」「研究」の割合は高い。また、過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出別でも、論文提出がある者のほうが「学会・研究会・院外研修会の参加等」「研究」の割合は高くなっている（図表 3-4-6）。

図表 3-4-6：年次有給休暇の用途（複数回答、単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	海外旅行	2泊以上の国内旅行	1泊の国内旅行	日帰りのレジャー	ゴルフなどのスポーツ	登山	映画・演劇、コンサート、スポーツ観戦など	家での休養	自分の病気・けがの療養	家族等の看護・介護	家事・育児	研究	学会・研究会・院外研修会の参加等	自己啓発のための学習	その他
計	165	7.9	17.0	10.3	7.3	0.6	1.8	2.4	24.8	30.3	15.8	22.4	2.4	15.2	4.2	17.0
<週労働時間>																
50時間未満	101	7.9	17.8	9.9	9.9	0.0	2.0	2.0	28.7	26.7	19.8	24.8	0.0	7.9	4.0	24.8
50～60時間未満	25	12.0	16.0	20.0	4.0	4.0	0.0	4.0	36.0	52.0	20.0	12.0	12.0	36.0	12.0	0.0
60時間以上	21	9.5	23.8	9.5	4.8	0.0	4.8	4.8	9.5	42.9	4.8	19.0	0.0	33.3	0.0	4.8
<年次有給休暇取得日数>																
0～3日	49	6.1	18.4	12.2	2.0	0.0	2.0	4.1	20.4	20.4	4.1	8.2	0.0	10.2	2.0	20.4
4～6日	41	9.8	19.5	7.3	7.3	0.0	0.0	4.9	29.3	22.0	14.6	22.0	0.0	17.1	7.3	19.5
7日以上	62	9.7	17.7	11.3	11.3	1.6	3.2	0.0	30.6	50.0	27.4	35.5	6.5	21.0	4.8	16.1
<月あたり夜勤回数>																
ない、0回	101	6.9	15.8	14.9	8.9	1.0	2.0	2.0	30.7	33.7	18.8	28.7	4.0	16.8	5.0	17.8
1回	26	15.4	38.5	3.8	7.7	0.0	3.8	3.8	23.1	30.8	7.7	11.5	0.0	15.4	3.8	15.4
2～3回	24	8.3	8.3	4.2	4.2	0.0	0.0	4.2	16.7	25.0	12.5	16.7	0.0	16.7	4.2	25.0
<過去1年間の学会等参加回数>																
ない	34	8.8	17.6	14.7	14.7	0.0	2.9	2.9	29.4	23.5	26.5	52.9	0.0	0.0	2.9	14.7
1～2回	25	12.0	8.0	8.0	4.0	0.0	0.0	0.0	20.0	28.0	12.0	12.0	0.0	16.0	4.0	36.0
3～5回未満	32	3.1	28.1	12.5	6.3	3.1	3.1	3.1	28.1	50.0	15.6	9.4	9.4	25.0	12.5	9.4
5～10回未満	33	18.2	15.2	9.1	3.0	0.0	0.0	6.1	33.3	30.3	12.1	18.2	0.0	21.2	3.0	12.1
10回以上	22	0.0	22.7	9.1	9.1	0.0	4.5	0.0	18.2	31.8	9.1	9.1	4.5	27.3	0.0	22.7
<過去3年間の学会等での論文発表>																
ない	84	9.5	22.6	11.9	7.1	0.0	2.4	2.4	27.4	32.1	20.2	27.4	0.0	11.9	7.1	19.0
ある	60	8.3	13.3	10.0	6.7	1.7	1.7	3.3	25.0	33.3	10.0	13.3	6.7	25.0	1.7	16.7
<過去3年間の学術雑誌への投稿論文提出>																
ない	113	8.0	19.5	11.5	8.0	0.0	1.8	1.8	25.7	31.0	16.8	22.1	0.9	16.8	5.3	19.5
ある	28	14.3	17.9	10.7	3.6	3.6	3.6	7.1	28.6	35.7	10.7	21.4	10.7	21.4	3.6	14.3

※「今年度はまだ1日も年休を取得できていない」、不明を除き集計。

### (3) 「休日・休暇の日数」の満足度

「休日・休暇の日数」の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が53.6%と半数を占めており、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合の12.0%を大きく上回っている。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が短くなるほど「満足である」とする割合が高まる傾向にある。実際に休めた週あたり休日数別にみると、「週休1日以下」の者で「不満である」とする割合は32.0%と高くなっている一方で、「週休2日以上」の者では「満足である」とする者が58.3%となっている。

年次有給休暇取得日数別にみると、取得日数が少なくなるほど「不満である」とする割合が高まる。

月あたり夜勤回数別にみると、夜勤が「ない、0回」の者で「満足である」とする割合がもっとも高い。「不満である」とする割合は「1回」が20.7%、「2～3回」が16.0%と高くなっている（図表3-4-7）

図表 3-4-7：休日・休暇の日数の満足度（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	休日・休暇の日数の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	166	18.7	34.9	31.3	8.4	3.6	3.0	53.6	12.0
<週労働時間>									
50時間未満	104	25.0	37.5	20.2	9.6	3.8	3.8	62.5	13.4
50～60時間未満	28	3.6	35.7	46.4	10.7	3.6	0.0	39.3	14.3
60時間以上	25	8.0	24.0	60.0	4.0	4.0	0.0	32.0	8.0
<週あたり休日数>									
週休1日以下	25	8.0	20.0	36.0	24.0	8.0	4.0	28.0	32.0
週休2日以上	139	20.9	37.4	30.9	5.8	2.2	2.9	58.3	8.0
<年次有給休暇取得日数>									
0～3日	60	13.3	31.7	31.7	13.3	3.3	6.7	45.0	16.6
4～6日	41	19.5	41.5	24.4	9.8	4.9	0.0	61.0	14.7
7日以上	62	19.4	35.5	37.1	3.2	3.2	1.6	54.9	6.4
<月あたり夜勤回数>									
ない、0回	109	21.1	36.7	30.3	5.5	2.8	3.7	57.8	8.3
1回	29	6.9	37.9	34.5	13.8	6.9	0.0	44.8	20.7
2～3回	25	20.0	24.0	36.0	16.0	0.0	4.0	44.0	16.0

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

## 5. 健康不安、ヒヤリ・ハット体験、患者からのクレーム

### 5-1. 疲労感、睡眠不足、健康不安

自身の「疲労感」「睡眠不足感」「健康不安」について、それぞれ「感じる」（「非常に感じる」「まあ感じる」の合計）と回答した割合は、「疲労感」が66.9%、「睡眠不足感」が52.4%、「健康不安」が53.0%となっている（図表3-5-1）。

疲労感、睡眠不足感、健康不安それぞれについて、「感じる」とする割合を職種別にみると、疲労感については、「診療放射線技師」90.4%、「薬剤師」90.0%、「理学療法士等」79.5%が「感じる」としている。睡眠不足感については、「薬剤師」85.0%、「診療放射線技師」71.4%、



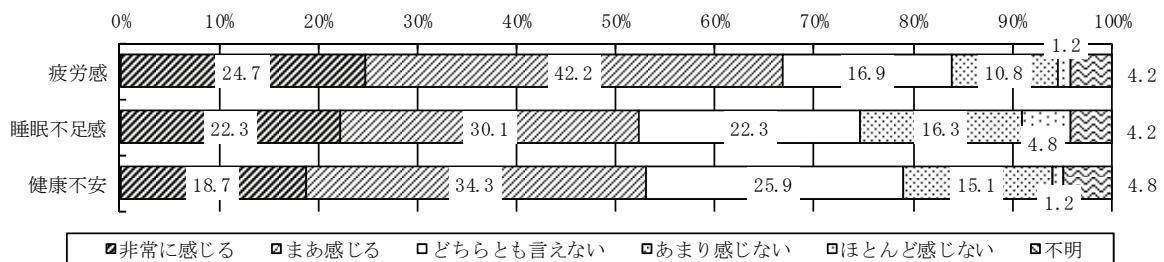
「理学療法士等」61.5%が「感じる」としている。健康不安については、「診療放射線技師」76.2%、「理学療法士等」66.7%、「薬剤師」55.0%が「感じる」としている。

勤務形態別にみると、「常勤」のほうがいずれも「感じる」とする割合が高い。役職別に見ても、「役職あり」のほうがいずれも「感じる」とする割合が高い。

週あたり労働時間別にみると、「感じる」とする割合は、いずれも、50 時間以上（「50～60 時間」「60 時間以上」）の者で高くなっている。年次有給休暇取得日数別にみると、いずれも「0～3 日」でもっとも「感じる」とする割合が高くなっている。月あたり夜勤回数別にみると、夜勤のある者（「1 回」「2～3 回」）でいずれも「感じる」とする割合が高くなっている（図表 3-5-2）。

疲労感に対する認識別に健康不安をみると、疲労感を感じている者の健康不安を「感じる」割合は 76.5%である。睡眠不足感に対する認識別に健康不安をみると、睡眠不足感を感じている者の健康不安を「感じる」割合は 81.6%である（図表 3-5-3）。

図表 3-5-1：業務に携わるうえでの認識（n=166）〔医療技術職員調査〕

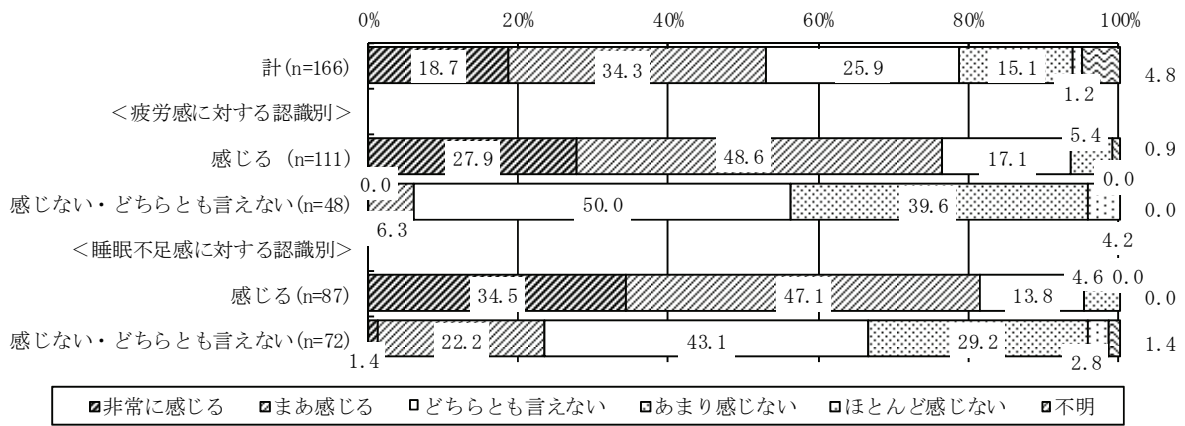


図表 3-5-2：疲労感、睡眠不足感、健康不安に対する認識（単位＝%）〔医療技術職員調査〕

	計	疲労感		睡眠不足感		健康不安	
		感じる計	感じない計	感じる計	感じない計	感じる計	感じない計
計	166	66.9	12.0	52.4	21.1	53.0	16.3
＜職種＞							
臨床検査技師	46	54.4	21.7	45.7	30.4	47.8	26.0
診療放射線技師	21	90.4	0.0	71.4	9.6	76.2	4.8
薬剤師	20	90.0	0.0	85.0	5.0	55.0	10.0
理学療法士等	39	79.5	10.3	61.5	15.4	66.7	15.4
その他	38	44.8	15.8	23.7	29.0	28.9	15.8
＜勤務形態＞							
常勤	55	93.8	6.3	67.2	21.9	87.5	6.3
非常勤・アルバイト	96	63.5	13.9	50.0	19.8	49.6	19.0
＜役職＞							
役職あり	16	93.8	6.3	81.3	12.5	87.5	6.3
役職なし・診療科等検査等補助	137	63.5	13.9	50.4	22.6	49.6	19.0
＜週労働時間＞							
50 時間未満	104	59.7	16.4	43.2	26.0	45.2	19.3
50～60 時間未満	28	92.9	3.6	75.0	14.3	75.0	14.3
60 時間以上	25	88.0	0.0	84.0	4.0	80.0	4.0
＜年次有給休暇取得日数＞							
0～3 日	60	75.0	6.7	66.7	11.7	63.3	11.7
4～6 日	41	58.6	14.6	39.1	26.8	36.6	17.1
7 日以上	62	66.2	16.1	48.3	27.5	54.9	21.0
＜月あたり夜勤回数＞							
ない、0 回	109	58.7	14.7	41.3	24.8	47.7	15.6
1 回	29	89.6	0.0	79.3	10.3	62.0	10.3
2～3 回	25	72.0	16.0	68.0	20.0	64.0	28.0

※「感じる」は「非常に感じる」「まあ感じる」の合計。「感じない」は「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計。

図表 3-5-3：健康不安に対する認識〔医療技術職員調査〕



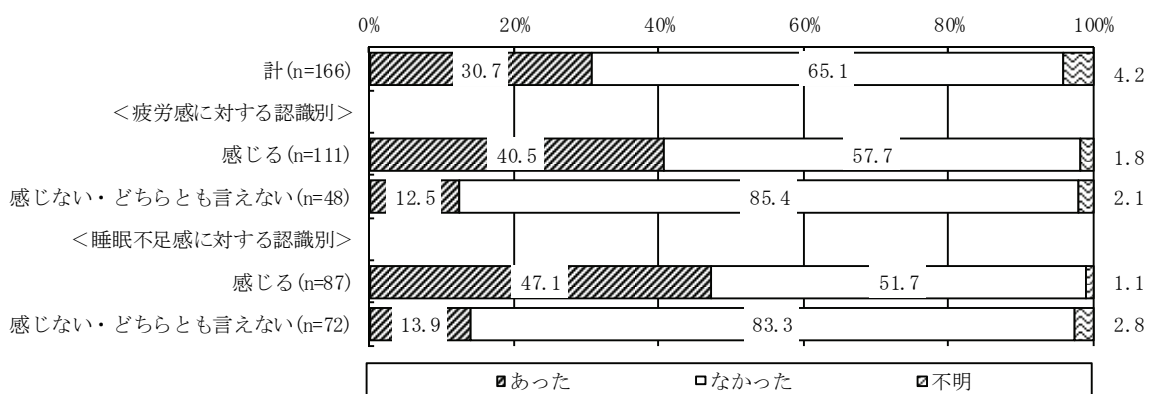
## 5-2. ヒヤリ・ハット体験

調査では、「この1ヵ月間において、医療事故につながるような、「ひやり」としたり、「はっと」したりした体験（ヒヤリ・ハット体験）があるか」について尋ねている。「ヒヤリ・ハット体験」が「あった」とするのは、30.7%となっている。

これを疲労感に対する認識別にみると、疲労感を感じている者ほど、「あった」とする割合は高い。睡眠不足感に対する認識別にみても、睡眠不足感を感じている者ほど、「あった」とする割合が高くなっている（図表 3-5-4）。

次に、これを職種別にみると、「あった」とする割合は、「薬剤師」65.0%、「診療放射線技師」61.9%などが高い。医療技術者経験年数別にみると、「3年未満」で62.4%ともっとも高くなっている。勤務形態別にみると、「あった」とする割合は「常勤」のほうが高い。役職別にみると、「役職あり」のほうが高い。週あたり労働時間別にみると、労働時間が「50時間未満」で「あった」とする割合がもっとも低い。月あたり夜勤回数別にみると、「あった」とする割合がもっとも高いのは「1回」（72.4%）である。年次有給休暇取得日数別にみると、「0～3日」で「あった」とする割合がもっとも高くなっている（図表 3-5-5）。

図表 3-5-4：この1ヵ月間のヒヤリ・ハット体験の有無〔医療技術職員調査〕



図表 3-5-5：この1ヵ月間のヒヤリ・ハット体験の有無（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	あった	なかった	不明
計	166	30.7	65.1	4.2
<職種>				
臨床検査技師	46	23.9	73.9	2.2
診療放射線技師	21	61.9	38.1	0.0
薬剤師	20	65.0	35.0	0.0
理学療法士等	39	28.2	71.8	0.0
その他	38	5.3	81.6	13.2
<医療技術者経験年数>				
3年未満	21	52.4	47.6	0.0
3～5年未満	29	34.5	65.5	0.0
5～10年未満	27	37.0	63.0	0.0
10年以上	49	36.7	61.2	2.0
<勤務形態>				
常勤	55	40.0	60.0	0.0
非常勤・アルバイト	96	28.1	66.7	5.2
<役職>				
役職あり	16	37.5	62.5	0.0
役職なし・診療科等検査等補助	137	32.8	65.0	2.2

	n	あった	なかった	不明
計	166	30.7	65.1	4.2
<週労働時間>				
50時間未満	104	22.1	74.0	3.8
50～60時間未満	28	57.1	42.9	0.0
60時間以上	25	44.0	56.0	0.0
<月あたり夜勤回数>				
ない、0回	109	18.3	75.2	6.4
1回	29	72.4	27.6	0.0
2～3回	25	36.0	64.0	0.0
<年次有給休暇取得日数別>				
0～3日	60	40.0	58.3	1.7
4～6日	41	29.3	68.3	2.4
7日以上	62	24.2	69.4	6.5

### 5-3. 患者からのクレーム

患者からのクレームや訴訟リスク（以下、「患者からのクレーム等」と略す）について尋ねたところ、14.4％が「感じる」（「非常に感じる」「まあ感じる」の合計）と回答している。「感じない」（「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計）とする回答は24.1％である。これを職種別にみると、「感じる」とする割合が高いのは、「理学療法士等」「薬剤師」である。勤続年数別にみると、「感じる」とする割合は「7年以上」で18.0％と高く、次いで、「3年未満」も高い。ヒヤリ・ハット体験の有無別にみると、ヒヤリ・ハット体験が「あった」とする者で患者からのクレーム等を「感じる」とする割合は27.5％となっている。過去3年間の患者・家族への対応（クレーム含む）の増減別にみると、「増加」している者ほど、患者からのクレーム等を「感じる」とする割合が高くなっている（図表 3-5-6）。

図表 3-5-6：患者からのクレームや訴訟リスクに対する認識（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	非常に感じる	まあ感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	ほとんど感じない	不明	感じる計	感じない計
計	166	4.2	10.2	48.2	14.5	9.6	13.3	14.4	24.1
<職種>									
臨床検査技師	46	2.2	2.2	41.3	13.0	23.9	17.4	4.4	36.9
診療放射線技師	21	0.0	9.5	61.9	23.8	4.8	0.0	9.5	28.6
薬剤師	20	10.0	15.0	55.0	20.0	0.0	0.0	25.0	20.0
理学療法士等	39	5.1	28.2	38.5	17.9	7.7	2.6	33.3	25.6
その他	38	2.6	0.0	57.9	5.3	2.6	31.6	2.6	7.9
<勤続年数>									
3年未満	54	5.6	11.1	51.9	14.8	9.3	7.4	16.7	24.1
3～5年未満	32	0.0	12.5	53.1	12.5	12.5	9.4	12.5	25.0
5～7年未満	19	0.0	10.5	47.4	26.3	0.0	15.8	10.5	26.3
7年以上	50	8.0	10.0	42.0	12.0	12.0	16.0	18.0	24.0
<ヒヤリ・ハット体験の有無>									
あった	51	11.8	15.7	51.0	15.7	3.9	2.0	27.5	19.6
なかった	108	0.9	8.3	50.0	14.8	13.0	13.0	9.2	27.8
<過去3年間の患者・家族への対応の増減>									
増加	16	6.3	37.5	50.0	6.3	0.0	0.0	43.8	6.3
減少・変わらない	78	5.1	11.5	50.0	24.4	9.0	0.0	16.6	33.4

※「感じる」は「非常に感じる」「まあ感じる」の合計。「感じない」は「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計。

## 6. 年収

### (1) 年収

調査では勤務先での昨年1年間の税込年収（勤続年数が1年に満たない場合は年換算）を尋ねている。年収の平均値は307.3万円。これを職種別にみると、平均値は、「診療放射線技師」が496.5万円でもっとも高く、次いで、「薬剤師」「理学療法士等」などとなっている。勤務形態別にみると、平均値は「常勤」475.1万円、「非常勤・アルバイト」222.9万円。役職別にみると、平均値は「役職あり」のほうが高く、690.6万円となっている。

医療技術者経験年数別、及び勤続年数別にみると、いずれも、年数が長くなるほど平均値は高くなる。

月あたり夜勤回数別にみると夜勤回数が多くなるほど、平均値が高くなる傾向にある。週あたり労働時間別にみると、「50～60時間未満」がもっとも平均値が高い（図表3-6-1）。

図表 3-6-1：勤務先の年収（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～700万円未満	700万円以上	不明	平均(万円)	標準偏差
計	166	3.6	24.1	18.7	21.1	7.8	9.0	4.8	10.8	307.3	179.9
<職種>											
臨床検査技師	46	4.3	32.6	15.2	19.6	8.7	8.7	4.3	6.5	289.2	163.7
診療放射線技師	21	0.0	0.0	4.8	28.6	19.0	28.6	14.3	4.8	496.5	195.1
薬剤師	20	0.0	0.0	15.0	55.0	0.0	25.0	0.0	5.0	373.9	118.1
理学療法士等	39	0.0	17.9	38.5	20.5	10.3	0.0	7.7	5.1	306.2	165.1
その他	38	10.5	47.4	13.2	0.0	2.6	0.0	0.0	26.3	155.4	71.1
<勤務形態>											
常勤	55	0.0	1.8	12.7	21.8	16.4	27.3	14.5	5.5	475.1	186.5
非常勤・アルバイト	96	6.3	30.2	21.9	24.0	4.2	0.0	0.0	13.5	222.9	90.3
<役職>											
役職あり	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	43.8	43.8	12.5	690.6	142.0
役職なし・診療科等検査等補助	137	3.6	25.5	21.9	25.5	9.5	5.8	0.7	7.3	273.2	129.7
<医療技術者経験年数>											
3年未満	21	0.0	14.3	57.1	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	248.3	46.7
3～5年未満	29	0.0	10.3	24.1	44.8	17.2	0.0	0.0	3.4	295.6	73.6
5～10年未満	27	0.0	7.4	22.2	33.3	18.5	11.1	0.0	7.4	339.7	94.3
10年以上	49	4.1	20.4	8.2	12.2	6.1	24.5	16.3	8.2	429.8	245.8
<勤続年数>											
3年未満	54	7.4	27.8	31.5	25.9	1.9	0.0	0.0	5.6	222.6	83.4
3～5年未満	32	3.1	25.0	15.6	34.4	12.5	0.0	0.0	9.4	261.4	100.7
5～7年未満	19	0.0	21.1	5.3	31.6	21.1	10.5	0.0	10.5	331.5	133.9
7年以上	50	2.0	22.0	12.0	4.0	8.0	26.0	16.0	10.0	433.2	240.8
<月あたり夜勤回数>											
ない、0回	109	5.5	35.8	22.0	8.3	5.5	2.8	6.4	13.8	263.4	192.0
1回	29	0.0	0.0	10.3	55.2	3.4	24.1	3.4	3.4	387.0	123.5
2～3回	25	0.0	0.0	16.0	36.0	24.0	20.0	0.0	4.0	391.9	117.8
<週労働時間>											
50時間未満	104	3.8	36.5	17.3	19.2	6.7	3.8	2.9	9.6	258.1	148.7
50～60時間未満	28	0.0	3.6	17.9	25.0	21.4	10.7	17.9	3.6	444.8	215.8
60時間以上	25	0.0	0.0	32.0	32.0	0.0	32.0	0.0	4.0	371.8	140.7

### (2) 給与・賃金の満足度

給与・賃金の額の満足度をみると、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が57.8%であり、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合（22.3%）

を上回っている。

これを職種別にみると、「不満である」とする割合が高いのは、「薬剤師」（75.0%）、「理学療法士等」（61.5%）などである。

勤務形態別にみると、「非常勤・アルバイト」で「不満である」とする割合は 67.7% ともっとも高い。役職別にみると、「役職なし・診療科等検査等補助」のほうが「役職あり」に比べて「不満である」とする割合は高い。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど「不満である」とする割合が高まり、「満足である」とする割合が低くなる傾向にある。月あたり夜勤回数別にみると、「不満である」とする割合は「1回」で 65.5% ともっとも高くなっている。

年収別にみると、「不満である」とする割合は、「200～400万円」（59.0%）、「200万円未満」（58.7%）で高くなっている（図表 3-6-2）。

図表 3-6-2：給与・賃金の額の満足度（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	給与・賃金の額の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	166	4.2	18.1	19.3	34.9	22.9	0.6	22.3	57.8
<職種>									
臨床検査技師	46	6.5	34.8	10.9	26.1	21.7	0.0	41.3	47.8
診療放射線技師	21	0.0	9.5	38.1	33.3	19.0	0.0	9.5	52.3
薬剤師	20	0.0	5.0	20.0	45.0	30.0	0.0	5.0	75.0
理学療法士等	39	7.7	7.7	23.1	43.6	17.9	0.0	15.4	61.5
その他	38	2.6	21.1	15.8	31.6	26.3	2.6	23.7	57.9
<勤務形態>									
常勤	55	9.1	23.6	29.1	29.1	9.1	0.0	32.7	38.2
非常勤・アルバイト	96	2.1	14.6	14.6	35.4	32.3	1.0	16.7	67.7
<役職>									
役職あり	16	0.0	12.5	43.8	25.0	18.8	0.0	12.5	43.8
役職なし・診療科等検査等補助	137	5.1	19.0	18.2	35.0	22.6	0.0	24.1	57.6
<週労働時間>									
50時間未満	104	4.8	22.1	17.3	28.8	26.0	1.0	26.9	54.8
50～60時間未満	28	0.0	14.3	25.0	39.3	21.4	0.0	14.3	60.7
60時間以上	25	4.0	8.0	24.0	52.0	12.0	0.0	12.0	64.0
<月あたり夜勤回数>									
ない、0回	109	4.6	19.3	18.3	36.7	20.2	0.9	23.9	56.9
1回	29	0.0	6.9	27.6	37.9	27.6	0.0	6.9	65.5
2～3回	25	8.0	28.0	16.0	24.0	24.0	0.0	36.0	48.0
<年収>									
200万円未満	46	2.2	28.3	10.9	32.6	26.1	0.0	30.5	58.7
200～400万円未満	66	7.6	10.6	22.7	34.8	24.2	0.0	18.2	59.0
400万円以上	36	0.0	22.2	27.8	33.3	16.7	0.0	22.2	50.0

## 7. 仕事と生活の優先度と仕事、勤務先の満足度

### (1)仕事と生活の優先度

調査では仕事と生活のどちらを優先しているか、現在の状況と今後の希望にわけて尋ねている。それによれば、現在の状況で、「仕事優先」（「仕事」「どちらかといえば仕事」の合計）が 62.1%、「同じくらい」が 23.5%、「生活優先」（「生活」「どちらかといえば生活」の合計）が 14.4%となっている。一方、今後の希望については、「（仕事と生活が）同じくらい」を望

んでいる者がもっとも高く 43.4%となっており、次いで、「生活優先」が 36.1%、「仕事優先」が 18.6%となっている（図表 3-7-1）。

現在の状況について、月あたりの夜勤回数別にみると、回数が増えるほど、「仕事優先」の割合は高まる傾向にある。週あたり労働時間別にみると、「50～60 時間」で「仕事優先」の割合が 82.1%と最も高い。週あたり休日日数別にみると、「週休 1 日以下」の者の「仕事優先」の割合は 84.0%となっている。「週休 2 日以上」の「仕事優先」の割合は、57.6%である。年次有給休暇取得日数別にみると、取得日数「0～3 日」で「仕事優先」の割合はもっとも高い（図表 3-7-2）。

次に、仕事の優先度の今後の希望を現在の状況別にみると、現在の「仕事優先」の者で、もっとも割合が高いのは「(仕事と生活が) 同じくらい」(45.6%)である。今後の希望も「仕事優先」としている者は 28.2%であり、「生活優先」に切り替えたいと考えている者が 24.3%となっている（図表 3-7-2）

今後の希望について、週あたり労働時間別にみると、「60 時間以上」の者では、「(仕事と生活が) 同じくらい」が 60.0%を占める。今後の希望も「仕事優先」としている者は 12.0%であり、「生活優先」としている者は 28.0%となっている。

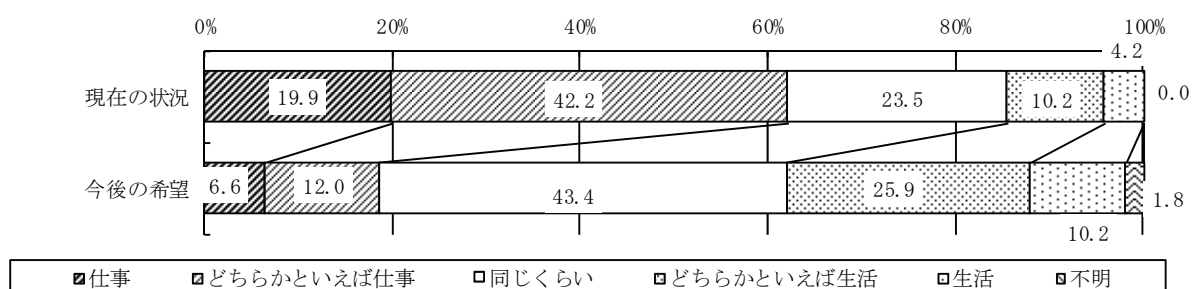
役職別にみると、「役職あり」のほうがわずかに「生活優先」の割合が高い。また、年齢別にみると、「40 代」で「生活優先」の割合が 51.6%と高くなっている。

性別にみると、「(仕事と生活が) 同じくらい」が男性 42.9%、女性 44.0%と男女にかかわらずほとんど同じ割合となっている。「仕事優先」の割合は男性でわずかに高い程度である。

性・子供の有無別にみると、「仕事優先」の割合がもっとも高いのは「男性・子供あり」となっている。女性は「生活優先」の割合が「子供あり」で 37.3%、「子供なし」で 36.1%となっており、子供の有無にかかわらず 4 割弱が「生活優先」を希望している（図表 3-7-3）。

仕事と私生活の調和の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が 36.7%であり、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が 31.9%となっており、両者はほぼ拮抗している。これを仕事と生活の優先度（現在の状況）別にみると、「仕事優先」から「生活優先」になるほど、「満足である」とする割合が高まる。「仕事優先」では、「不満である」とする割合は 41.7%となっている（図表 3-7-4）。

図表 3-7-1：仕事と生活の優先度 (n=166) [医療技術職員調査]



図表 3-7-2 : 仕事と生活の優先度（現在の状況）（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	仕事と生活の優先度（現在の状況）							優先度計	
	n	仕事	どちらかといえば仕事	同じくらい	どちらかといえば生活	生活	不明	仕事優先計	生活優先計
計	166	19.9	42.2	23.5	10.2	4.2	0.0	62.1	14.4
<月あたり夜勤回数>									
ない、0回	109	14.7	39.4	26.6	12.8	6.4	0.0	54.1	19.2
1回	29	13.8	58.6	24.1	3.4	0.0	0.0	72.4	3.4
2～3回	25	48.0	32.0	12.0	8.0	0.0	0.0	80.0	8.0
<週労働時間>									
50時間未満	104	18.3	41.3	23.1	11.5	5.8	0.0	59.6	17.3
50～60時間未満	28	21.4	60.7	14.3	3.6	0.0	0.0	82.1	3.6
60時間以上	25	32.0	32.0	32.0	4.0	0.0	0.0	64.0	4.0
<週あたり休日数>									
週休1日以下	25	36.0	48.0	8.0	8.0	0.0	0.0	84.0	8.0
週休2日以上	139	17.3	40.3	26.6	10.8	5.0	0.0	57.6	15.8
<年次有給休暇取得日数>									
0～3日	60	36.7	40.0	16.7	5.0	1.7	0.0	76.7	6.7
4～6日	41	9.8	46.3	31.7	9.8	2.4	0.0	56.1	12.2
7日以上	62	11.3	43.5	22.6	16.1	6.5	0.0	54.8	22.6

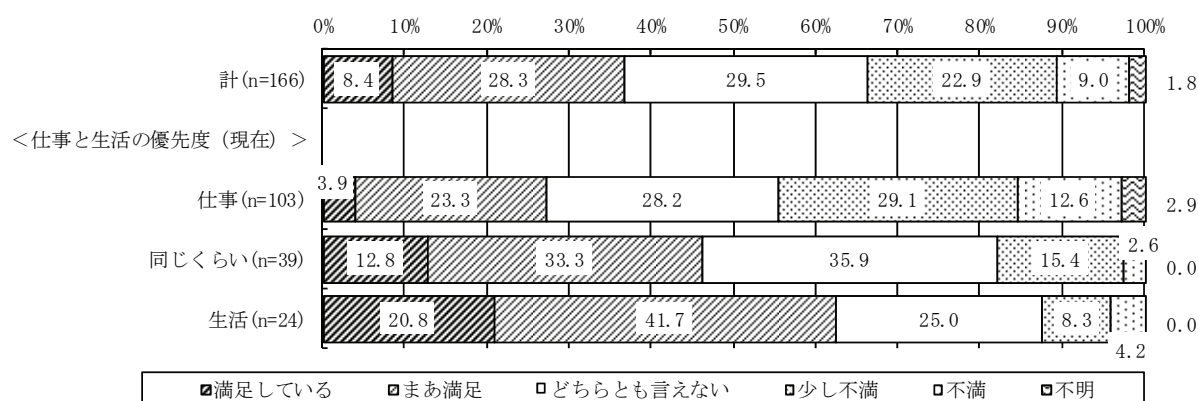
※「仕事優先」は「仕事」「どちらかといえば仕事」の合計。「生活優先」は「生活」「どちらかといえば生活」の合計。

図表 3-7-3 : 仕事と生活の優先度（今後の希望）（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	仕事と生活の優先度（今後の希望）							優先度計	
	n	仕事	どちらかといえば仕事	同じくらい	どちらかといえば生活	生活	不明	仕事優先計	生活優先計
計	166	6.6	12.0	43.4	25.9	10.2	1.8	18.6	36.1
<仕事と生活の優先度（現在）>									
仕事	103	10.7	17.5	45.6	19.4	4.9	1.9	28.2	24.3
同じくらい	39	0.0	5.1	64.1	20.5	7.7	2.6	5.1	28.2
生活	24	0.0	0.0	0.0	62.5	37.5	0.0	0.0	100.0
<週労働時間>									
50時間未満	104	8.7	12.5	41.3	25.0	9.6	2.9	21.2	34.6
50～60時間未満	28	3.6	17.9	32.1	39.3	7.1	0.0	21.5	46.4
60時間以上	25	4.0	8.0	60.0	12.0	16.0	0.0	12.0	28.0
<役職>									
役職あり	16	6.3	6.3	43.8	31.3	12.5	0.0	12.6	43.8
役職なし・診療科等検査等補助	137	5.8	10.9	45.3	27.0	10.2	0.7	16.7	37.2
<年齢>									
20代以下	67	11.9	13.4	38.8	26.9	9.0	0.0	25.3	35.9
30代	43	0.0	11.6	48.8	30.2	9.3	0.0	11.6	39.5
40代	31	3.2	12.9	29.0	29.0	22.6	3.2	16.1	51.6
50代以上	22	9.1	4.5	72.7	9.1	0.0	4.5	13.6	9.1
<性別>									
男性	49	14.3	6.1	42.9	26.5	10.2	0.0	20.4	36.7
女性	116	3.4	13.8	44.0	25.9	10.3	2.6	17.2	36.2
<性・子供の有無>									
男性・子供あり	22	9.1	9.1	36.4	36.4	9.1	0.0	18.2	45.5
男性・子供なし	27	18.5	3.7	48.1	18.5	11.1	0.0	22.2	29.6
女性・子供あり	43	2.3	11.6	41.9	23.3	14.0	7.0	13.9	37.3
女性・子供なし	72	4.2	15.3	44.4	27.8	8.3	0.0	19.5	36.1

※「仕事優先」は「仕事」「どちらかといえば仕事」の合計。「生活優先」は「生活」「どちらかといえば生活」の合計。

図表 3-7-4 : 仕事と私生活の調和の満足度 (n=166) [医療技術職員調査]



## (2)勤務先の仕事の質、内容の満足度

勤務先の仕事の質、内容の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が **65.7%** であり、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合（**12.0%**）を大きく上回っている。

仕事と生活の優先度（現在の状況）別にみると、仕事と生活の優先度にかかわらず、「満足である」とする割合にほとんど差は見られない。「不満である」とする割合は、「（仕事と生活が）同じくらい」でもっとも低くなっている。

月あたりの夜勤回数別にみると、「満足である」とする割合は「**2～3回**」で **84.0%** と高い。週あたり労働時間別にみると、労働時間が短くなるほど「満足である」とする割合が高くなる。「**60時間以上**」での「不満である」とする割合は **24.0%** ともっとも高くなっている。

職種別にみると、「満足である」とする割合は、「臨床検査技師」で **86.9%** ともっとも割合が高く、次いで、「診療放射線技師」（**71.4%**）などとなっている。勤務形態別にみると、「満足である」とする割合にほとんど差はみられない。役職別にみると、「役職なし・診療科等検査等補助」のほうが「役職あり」に比べて「満足である」とする割合は高い。

仕事上の相談相手の不足の認識別にみると、仕事上の相談相手の不足を「感じる」者のほうが、「感じない・どちらとも言えない」者に比べて、「不満である」とする割合が高い。健康不安の認識別にみると、健康不安を「感じる」者のほうが、「感じない・どちらとも言えない」者に比べて、「不満である」とする割合が高い（図表 3-7-5）。



図表 3-7-5：勤務先の仕事の質、内容の満足度（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	勤務先の仕事の質、内容の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	166	18.1	47.6	21.7	10.2	1.8	0.6	65.7	12.0
<仕事と生活の優先度（現在）>									
仕事	103	20.4	44.7	19.4	11.7	2.9	1.0	65.1	14.6
同じくらい	39	12.8	53.8	28.2	5.1	0.0	0.0	66.6	5.1
生活	24	16.7	50.0	20.8	12.5	0.0	0.0	66.7	12.5
<月あたり夜勤回数>									
ない、0回	109	12.8	47.7	24.8	11.0	2.8	0.9	60.5	13.8
1回	29	13.8	51.7	24.1	10.3	0.0	0.0	65.5	10.3
2～3回	25	48.0	36.0	8.0	8.0	0.0	0.0	84.0	8.0
<週労働時間>									
50時間未満	104	21.2	49.0	18.3	8.7	1.9	1.0	70.2	10.6
50～60時間未満	28	10.7	53.6	25.0	7.1	3.6	0.0	64.3	10.7
60時間以上	25	16.0	44.0	16.0	24.0	0.0	0.0	60.0	24.0
<職種>									
臨床検査技師	46	32.6	54.3	6.5	6.5	0.0	0.0	86.9	6.5
診療放射線技師	21	23.8	47.6	19.0	9.5	0.0	0.0	71.4	9.5
薬剤師	20	5.0	50.0	30.0	10.0	5.0	0.0	55.0	15.0
理学療法士等	39	7.7	46.2	23.1	20.5	2.6	0.0	53.9	23.1
その他	38	13.2	39.5	36.8	5.3	2.6	2.6	52.7	7.9
<勤務形態>									
常勤	55	25.5	38.2	20.0	14.5	1.8	0.0	63.7	16.3
非常勤・アルバイト	96	16.7	47.9	22.9	9.4	2.1	1.0	64.6	11.5
<役職>									
役職あり	16	12.5	43.8	25.0	12.5	6.3	0.0	56.3	18.8
役職なし・診療科等検査等補助	137	20.4	48.2	19.7	10.9	0.7	0.0	68.6	11.6
<仕事上の相談相手の不足>									
感じる	68	16.2	45.6	19.1	14.7	4.4	0.0	61.8	19.1
感じない・どちらとも言えない	83	21.7	48.2	21.7	8.4	0.0	0.0	69.9	8.4
<健康不安>									
感じる	88	18.2	46.6	17.0	15.9	2.3	0.0	64.8	18.2
感じない・どちらとも言えない	70	20.0	47.1	27.1	4.3	1.4	0.0	67.1	5.7

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

### (3)勤務先（職場全体）の満足度

勤務先（職場全体）の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が71.7%と高くなっており、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合（10.8%）を大きく上回っている。

これを職種別にみると、「満足である」とする割合が高いのは、「臨床検査技師」（84.8%）、「診療放射線技師」（80.9%）などである。

勤務形態別にみると、「常勤」「非常勤・アルバイト」で「満足である」とする割合に差はほとんどみられない。役職別にみると、「役職なし・診療科等検査等補助」のほうが「役職あり」に比べて「満足である」とする割合は高い。

勤続年数別にみると、勤続年数が「3～5年未満」で「満足である」とする割合が低くなっているが、他の年数ではその割合は7割程度と高く、とくに「3年未満」では79.6%ともっとも高くなっている（図表 3-7-6）。

図表 3-7-6：勤務先（職場全体）の満足度（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	勤務先（職場全体）の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	166	21.7	50.0	16.3	6.6	4.2	1.2	71.7	10.8
＜職種＞									
臨床検査技師	46	28.3	56.5	8.7	2.2	4.3	0.0	84.8	6.5
診療放射線技師	21	23.8	57.1	14.3	4.8	0.0	0.0	80.9	4.8
薬剤師	20	5.0	60.0	25.0	5.0	0.0	5.0	65.0	5.0
理学療法士等	39	20.5	41.0	20.5	10.3	7.7	0.0	61.5	18.0
その他	38	21.1	42.1	18.4	10.5	5.3	2.6	63.2	15.8
＜勤務形態＞									
常勤	55	21.8	49.1	18.2	7.3	3.6	0.0	70.9	10.9
非常勤・アルバイト	96	25.0	44.8	15.6	7.3	5.2	2.1	69.8	12.5
＜役職＞									
役職あり	16	12.5	43.8	18.8	12.5	12.5	0.0	56.3	25.0
役職なし・診療科等検査等補助	137	24.1	50.4	16.8	5.1	2.9	0.7	74.5	8.0
＜勤続年数＞									
3年未満	54	29.6	50.0	11.1	7.4	1.9	0.0	79.6	9.3
3～5年未満	32	15.6	43.8	25.0	6.3	6.3	3.1	59.4	12.6
5～7年未満	19	10.5	63.2	15.8	0.0	5.3	5.3	73.7	5.3
7年以上	50	22.0	50.0	14.0	10.0	4.0	0.0	72.0	14.0

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

## 8. 離職についての考えと離職を考える理由

調査では、現在の勤務先から離職を考えたことがあるか、尋ねている。それによれば 38.6% は離職を「考えていない」としている。一方、22.3% が「考えている」としており、「たまに考えている」（36.7%）を合わせると、59.0% が離職を検討したことがある。

これを職種別にみると、離職を「考えている」とする割合は「理学療法士等」「薬剤師」で高い。勤務形態別にみると、「考えている」とする割合は、「非常勤・アルバイト」のほうが高い。役職別にみると「役職なし・診療科等検査等補助」のほうが「役職あり」に比べて「考えている」とする割合は高くなっている。勤続年数別にみると、「3～5年未満」で「考えている」とする割合が 40.6% ともっとも高い。年齢別にみると、年齢が低くなるほど「考えている」とする割合が高まる傾向にあり、年齢が高くなるほど「考えていない」とする割合は高くなる傾向にある。性・子供の有無別にみると、「女性・子供あり」で離職を「考えている」とする割合がもっとも低い。

週あたり労働時間別にみると、「離職検討あり」（「考えている」「たまに考えている」の合計）は、労働時間が長くなるほど高まる。月あたり夜勤回数別にみると、離職を「考えている」とする割合は「1回」でもっとも高い。年次有給休暇取得日数別にみると、「0～3日」の者で「離職検討あり」とする割合がもっとも高い。年収別にみると、「200～400万円未満」で「考えている」とする割合がもっとも高くなっている（図表 3-8-1）。

次に、調査では、離職を「考えている」「たまに考えている」とする者について、離職を考える理由を尋ねている。それによれば、「昇進・昇給・給与に不満」が 44.9% ともっとも多い。次いで、「仕事と私生活（家事含む）の両立困難」（27.6%）、「職場の人間関係の難しさ」（26.5%）、「雇用形態に不満」（23.5%）、「キャリアアップしたいため」（18.4%）、「長時間

労働（交代勤務除く）」（18.4%）、「専門職としての評価の低さ」（18.4%）などとなっている（図表 3-8-2）。

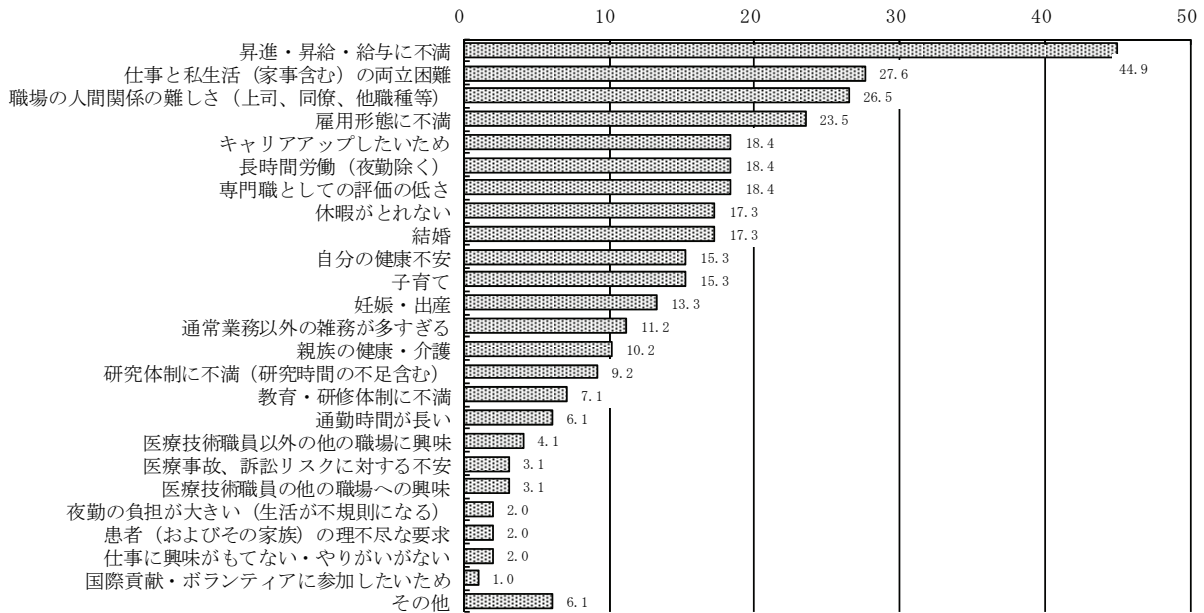
これを勤務形態別にみると、「常勤」では、「仕事と私生活（家事含む）の両立困難」が 37.1% ともっとも多く、次いで、「職場の人間関係の難しさ」「昇進・昇給・給与に不満」「キャリアアップしたいため」「長時間労働（夜勤除く）」「休暇がとれない」「子育て」などが続く。「非常勤・アルバイト」では、「昇進・昇給・給与に不満」が 54.5% ともっとも多く、「雇用形態に不満」も 32.7% と高い。次いで、「職場の人間関係の難しさ」「仕事と私生活（家事含む）の両立困難」「専門職としての評価の低さ」などが続く。両者を比較すると、「常勤」に比べ「非常勤・アルバイト」のほうが高いのは、「雇用形態に不満」（27.0 ポイント）、「昇進・昇給・給与に不満」（25.9 ポイント）などとなっている（図表 3-8-3）。

図表 3-8-1：離職についての考え方（単位＝%）〔医療技術職員調査〕

	n	考えている	たまに考えている	考えていない	不明	離職検討あり計
計	166	22.3	36.7	38.6	2.4	59.0
<職種>						
臨床検査技師	46	8.7	32.6	56.5	2.2	41.3
診療放射線技師	21	9.5	38.1	47.6	4.8	47.6
薬剤師	20	45.0	40.0	15.0	0.0	85.0
理学療法士等	39	48.7	38.5	12.8	0.0	87.2
その他	38	7.9	36.8	52.6	2.6	44.7
<勤務形態>						
常勤	55	16.4	47.3	34.5	1.8	63.7
非常勤・アルバイト	96	26.0	31.3	39.6	3.1	57.3
<役職>						
役職あり	16	12.5	37.5	43.8	6.3	50.0
役職なし・診療科等検査等補助	137	24.8	37.2	37.2	0.7	62.0
<勤続年数>						
3年未満	54	14.8	51.9	31.5	1.9	66.7
3～5年未満	32	40.6	21.9	34.4	3.1	62.5
5～7年未満	19	31.6	31.6	31.6	5.3	63.2
7年以上	50	12.0	36.0	50.0	2.0	48.0
<年齢>						
20代以下	67	38.8	40.3	20.9	0.0	79.1
30代	43	16.3	46.5	37.2	0.0	62.8
40代	31	9.7	35.5	51.6	3.2	45.2
50代以上	22	4.5	13.6	77.3	4.5	18.1
<性・子供の有無>						
男性・子供あり	22	13.6	40.9	40.9	4.5	54.5
男性・子供なし	27	40.7	25.9	33.3	0.0	66.6
女性・子供あり	43	4.7	30.2	60.5	4.7	34.9
女性・子供なし	72	29.2	44.4	26.4	0.0	73.6
<週労働時間>						
50時間未満	104	15.4	36.5	45.2	2.9	51.9
50～60時間未満	28	39.3	35.7	25.0	0.0	75.0
60時間以上	25	36.0	40.0	24.0	0.0	76.0
<月あたり夜勤回数>						
ない、0回	109	22.9	34.9	38.5	3.7	57.8
1回	29	31.0	41.4	27.6	0.0	72.4
2～3回	25	8.0	44.0	48.0	0.0	52.0
<年次有給休暇取得日数>						
0～3日	60	18.3	48.3	31.7	1.7	66.6
4～6日	41	22.0	29.3	43.9	4.9	51.3
7日以上	62	25.8	30.6	41.9	1.6	56.4
<年収>						
200万円未満	46	10.9	43.5	43.5	2.2	54.4
200～400万円未満	66	33.3	39.4	27.3	0.0	72.7
400万円以上	36	19.4	36.1	44.4	0.0	55.5

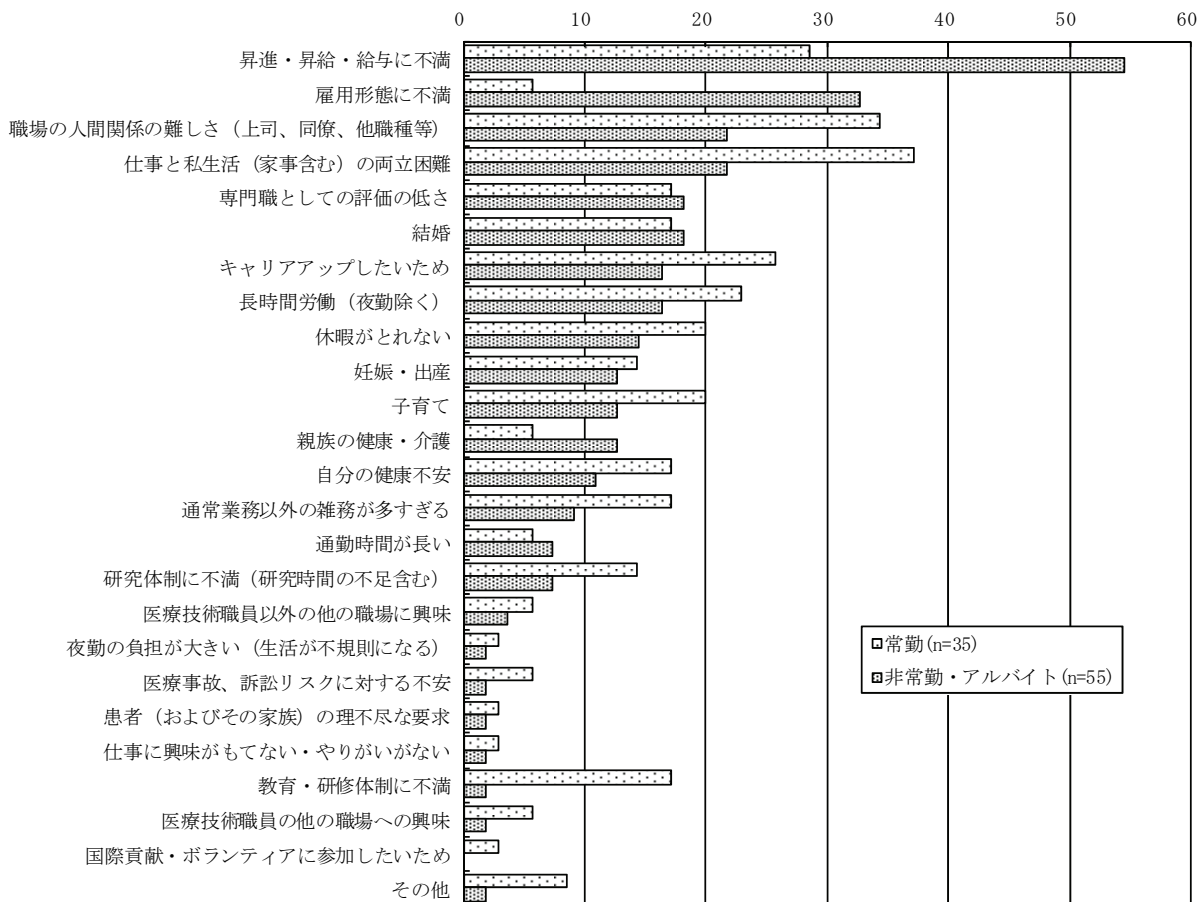
※「離職検討あり」は「考えている」「たまに考えている」の合計。

図表 3-8-2：離職を考える理由（n=98、複数回答、単位＝％）〔医療技術職員調査〕



※離職を考えている者（「考えている」「たまに考えている」）と回答した者を対象に集計。

図表 3-8-3：勤務形態別にみた離職を考える理由（n=98、複数回答、単位＝％）〔医療技術職員調査〕



※離職を考えている者（「考えている」「たまに考えている」）と回答した者を対象に集計。

## 第4章 病院事務職員調査の概要

### 1. 回答者属性

#### (1) 勤続年数、配属

病院事務職員の勤続年数（A 大学に採用されてからの年数）は平均値が 9.2 年である。これを性別にみると、男性 14.8 年、女性 6.7 年となっており、女性のほうが短い。病院配属経験年数（A 大学病院に配属されてからの経験年数）は 5.4 年であり、これを性別にみると、男性 6.4 年、女性 5.0 年となっている（図表 4-1-1）。

病院事務職員の主たる配属部署は、医事関係が 38.3% ともっとも割合が高く、次いで、「診療科等事務補助」「会計関係」「総務関係」などとなっている（図表 4-1-2）。

勤務形態<sup>14</sup>は、「非常勤」が 51.6% でもっとも割合が高く、次いで、「常勤」が 38.3% などとなっている（図表 4-1-3）。

配属別にみた男女比をみると、いずれも、女性の割合が高く、その割合は「診療科補助」が 96.4%、「医事関係」が 65.3%、「総務、会計関係」が 58.5% となっている（図表 4-1-4）。

勤務形態を配属別にみると、「非常勤・アルバイト」（「非常勤」と「アルバイト」の合計）は「診療科補助」が 75.0% ともっとも高く、次いで、「その他」「医事関係」などとなっている。性別にみると、男性の 90.9% が「常勤」である。女性は 69.9% が「非常勤・アルバイト」である。性・配属別にみると、女性で「非常勤・アルバイト」の割合が高いのは、「診療科補助」（74.1%）、「医事関係」（71.9%）である（図表 4-1-5）。

図表 4-1-1：病院事務職員の大学勤続年数及び附属病院配属経験年数（単位＝％）

	n	3年未満	3～5年 未満	5～10 年未満	10～ 20年未 満	20年以 上	無回答	平均	標本標準 偏差
大学勤続年数	128	27.3	20.3	19.5	9.4	16.4	7.0	9.2	11.1
<性別>									
男性	33	12.1	9.1	18.2	24.2	33.3	3.0	14.8	10.7
女性	93	33.3	24.7	20.4	4.3	9.7	7.5	6.7	9.7
<勤務形態>									
常勤	49	14.3	12.2	22.4	18.4	32.7	0.0	13.3	10.3
非常勤・アルバイト	70	32.9	28.6	17.1	2.9	5.7	12.9	6.0	10.1
病院配属経験年数	128	35.9	25.0	22.7	11.7	3.1	1.6	5.4	7.0
<性別>									
男性	33	27.3	18.2	24.2	24.2	3.0	3.0	6.4	5.4
女性	93	39.8	26.9	22.6	6.5	3.2	1.1	5.0	7.4
<勤務形態>									
常勤	49	24.5	16.3	34.7	18.4	4.1	2.0	6.9	6.6
非常勤・アルバイト	70	41.4	34.3	14.3	5.7	2.9	1.4	4.5	7.2

<sup>14</sup> ここでの「常勤」とは、A 大学病院の定義により、「所定の勤務時間が週あたり 38 時間 45 分の者」としている。

図表 4-1-2：病院事務職員の主たる配置  
部署〔病院事務職員調査〕

		件数	%
		128	100.0
配 属 部 署	総務関係	19	14.8
	会計関係	22	17.2
	医事関係	49	38.3
	施設管理関係	0	0.0
	診療科等事務補助	27	21.1
	診療科等研究補助	1	0.8
	その他	9	7.0
	不明	1	0.8

図表 4-1-3：病院事務職員の勤務形態と  
役職〔病院事務職員調査〕

		件数	%
		128	100.0
勤 務 形 態	常勤	49	38.3
	非常勤	66	51.6
	アルバイト	4	3.1
	その他	8	6.3
	不明	1	0.8
	役 職	事務部長	1
課長		3	2.3
主査（係長と同等）		14	10.9
主任		3	2.3
その他		9	7.0
役職なし（一般係員等）		97	75.8
不明		1	0.8

図表 4-1-4：配置部署別にみた男女比（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	n	男性	女性	無回答
計	128	25.8	72.7	1.6
<配置部署別>				
総務、会計関係	41	39.0	58.5	2.4
医事関係	49	32.7	65.3	2.0
診療科補助	28	3.6	96.4	0.0
その他	9	0.0	100.0	0.0

図表 4-1-5：勤務形態（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

		n	常勤	非常勤	アルバイ ト	その他	不明	非常勤・ アルバイト
病院事務職員・計		128	38.3	51.6	3.1	6.3	0.8	54.7
<配属>								
総務関係・会計関係		41	58.5	41.5	0.0	0.0	0.0	41.5
医事関係		49	40.8	49.0	2.0	6.1	2.0	51.0
診療科補助		28	10.7	67.9	7.1	14.3	0.0	75.0
その他		9	22.2	55.6	11.1	11.1	0.0	66.7
<性・配属>								
男性・計		33	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
男 性	総務、会計関係	16	93.8	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3
	医事関係	16	93.8	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3
	診療科補助	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	女性・計	93	20.4	65.6	4.3	8.6	1.1	69.9
女 性	総務、会計関係	24	37.5	62.5	0.0	0.0	0.0	62.5
	医事関係	32	15.6	68.8	3.1	9.4	3.1	71.9
	診療科補助	27	11.1	66.7	7.4	14.8	0.0	74.1
	その他	9	22.2	55.6	11.1	11.1	0.0	66.7

※男性の配属の「その他」は該当者ゼロ。

## (2)休日と勤務時間制度

週あたりの勤務日数（規程・契約等で定められた勤務日数）は、99.2%とほとんどが「5日」となっている。職種別にみると、「4日」は「診療科補助」でわずかに存在する。また、

勤務形態別にみると、「非常勤・アルバイト」でわずかに「4日」が存在する（図表 4-1-6）。

適用されている勤務時間制度では、「通常の勤務時間制度」が 99.2%とほとんどを占めている（図表 4-1-7）。

図表 4-1-6：週あたり勤務日数（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	n	1日	2日	3日	4日	5日	不明
計	128	0.0	0.0	0.0	0.8	99.2	0.0
<職種>							
総務、会計関係	41	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
医事関係	49	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
診療科補助	28	0.0	0.0	0.0	3.6	96.4	0.0
その他	9	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
<勤務形態>							
常勤	49	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
非常勤・アルバイト	70	0.0	0.0	0.0	1.4	98.6	0.0
<役職>							
役職あり	21	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
役職なし	97	0.0	0.0	0.0	1.0	99.0	0.0

図表 4-1-7：勤務時間制度（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	n	通常の勤務時間制度	1カ月単位の 勤務時間制 の変形労働時間制	裁量労働制	の管理が 方さな れど で い ない 管 理 員	その他	不明
計	128	99.2	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0
<職種>							
総務、会計関係	41	97.6	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0
医事関係	49	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
診療科補助	28	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	9	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
<雇用形態>							
常勤	49	98.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
非常勤・アルバイト	70	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
<役職>							
役職あり	21	95.2	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0
役職なし	97	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### (3)電子カルテ導入による業務内容の変化と負担感

病院事務職調査では、電子カルテの導入による業務内容の変化を尋ねている。「導入前に勤務していなかったためわからない」を除いてみると、「変化があった」が 50.0%、「変化はなかった」が 50.0%となっており、半々の結果となっている。これを配属別にみると、「医事関係」で「変化があった」とする割合が 77.8%となっている。一方、「総務、会計関係」では「変化がなかった」が 75.0%となっている（図表 4-1-8）。

電子カルテ導入で業務内容に「変化があった」者を対象に、「あなたの業務の負担感はどうなりましたか」と尋ねたところ、「負担が増えた」が39.3%、「どちらともいえない」が39.3%、「負担が減った」が21.4%となっている。

これを配属別にみると、「負担が増えた」としているのは「総務、会計関係」がもっとも割合が高く、次いで、「医事関係」となっている。「負担が減った」とする割合では「診療科補助」が他に比べてもっとも高い（図表 4-1-9）。

図表 4-1-8：電子カルテ導入による業務内容の変化の有無（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	n	変化があった	変化はなかった
計	56	50.0	50.0
<配属>			
総務、会計関係	20	25.0	75.0
医事関係	18	77.8	22.2
診療科補助	14	50.0	50.0

※「導入前に勤務していなかったためわからない」「不明」を除き集計。

図表 4-1-9：電子カルテ導入による業務の負担感（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	n	負担が減った	どちらともいえない	負担が増えた
計	28	21.4	39.3	39.3
<配属>				
総務、会計関係	5	20.0	0.0	80.0
医事関係	14	21.4	35.7	42.9
診療科補助	7	28.6	71.4	0.0

※電子カルテ導入で業務内容に「変化があった」者を対象に集計。

#### (4)資格取得

調査では、病院事務関係の資格として、「医療事務系の資格」「経理事務系の資格」「パソコン操作関係の資格」についてそれぞれ取得の有無及び、未取得者について取得の意向を尋ねている。それによれば、「資格あり」（「取得済み」「取得済みだが、もっと上級の資格もとりたい」の合計）の割合は、「医療事務系の資格」35.1%、「経理事務系の資格」33.6%、「パソコン操作関係の資格」18.8%となっている（図表 4-1-10）。

資格の取得意向（「取得していない」「取得済みだが、もっと上級の資格もとりたい」が対象）をみると、「取得希望」（「どうしても取得したい」「できれば取得したい」の合計）は、「医療事務系の資格」27.1%、「経理事務系の資格」23.9%、「パソコン操作関係の資格」42.9%となっている（図表 4-1-11）。

医療事務系の資格について配属別にみると、「資格取得あり」の割合が高いのは、「医事関係」で42.9%となっており、次いで、「診療科補助」が39.3%などとなっている。資格取得意向についても、「取得希望」の割合が高いのは「医事関係」で38.7%であり、次いで、「診療科補助」が29.4%などとなっている（図表 4-1-12）。

「医療事務系の資格」「経理事務系の資格」「パソコン操作関係の資格」についてそれぞれ、病院経験年数別にみると、「医療事務系の資格」と「経理事務系の資格」については、経験年数が短いほど「取得希望」の割合が高まる（図表 4-1-13）。



図表 4-1-10：資格取得の有無（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	取得の有無					資格取得あり
	n	取得済み	取得済みだが、もっと上級の資格もとりたい	取得していない	不明	
医療事務系の資格	128	28.1	7.0	59.4	5.5	35.1
経理事務系の資格	128	23.4	10.2	61.7	4.7	33.6
パソコン操作関係の資格	128	12.5	6.3	75.8	5.5	18.8

※「資格取得あり」は「取得済み」「取得済みだが、もっと上級の資格もとりたい」の合計。

図表 4-1-11：資格の取得意向（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	資格取得意向 （「取得済みだが、もっと上級の資格もとりたい」「取得していない」ベース）							取得希望計	
	n	どうしても取得したい	できれば取得したい	どちらともいえない	あまり取得したいと思わない	取得したいと思わない	不明	取得希望計	取得非希望計
医療事務系の資格	85	2.4	24.7	20.0	15.3	30.6	7.1	27.1	45.9
経理事務系の資格	92	2.2	21.7	27.2	13.0	28.3	7.6	23.9	41.3
パソコン操作関係の資格	105	1.0	41.9	23.8	13.3	10.5	9.5	42.9	23.8

※資格取得意向は「取得済みだが、もっと上級の資格もとりたい」「取得していない」を対象に集計。「取得希望」は「どうしても取得したい」「できれば取得したい」の合計。「取得非希望」は「取得したいと思わない」「あまり取得したいと思わない」の合計。

図表 4-1-12：医療事務系の資格の取得意向（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	取得の有無					資格取得意向							取得希望計		
	n	取得済み	取得済みだが、もっと上級の資格もとりたい	取得していない	不明	資格取得あり	n	どうしても取得したい	できれば取得したい	どちらともいえない	あまり取得したいと思わない	取得したいと思わない	不明	取得希望計	取得非希望計
計	128	28.1	7.0	59.4	5.5	35.1	85	2.4	24.7	20.0	15.3	30.6	7.1	27.1	45.9
<配属>															
総務、会計関係	41	19.5	4.9	65.9	9.8	24.4	29	3.4	13.8	31.0	6.9	37.9	6.9	17.2	44.8
医事関係	49	32.7	10.2	53.1	4.1	42.9	31	3.2	35.5	12.9	19.4	19.4	9.7	38.7	38.8
診療科補助	28	35.7	3.6	57.1	3.6	39.3	17	0.0	29.4	17.6	17.6	35.3	0.0	29.4	52.9
その他	9	22.2	0.0	77.8	0.0	22.2	7	0.0	14.3	14.3	28.6	42.9	0.0	14.3	71.5

※資格取得意向は「取得済みだが、もっと上級の資格もとりたい」「取得していない」を対象に集計。「取得希望」は「どうしても取得したい」「できれば取得したい」の合計。「取得非希望」は「取得したいと思わない」「あまり取得したいと思わない」の合計。

図表 4-1-13：資格の取得希望（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	医療事務系の資格		経理事務系の資格		パソコン操作関係の資格	
	取得希望計	取得非希望計	取得希望計	取得非希望計	取得希望計	取得非希望計
計	27.1	45.9	23.9	41.3	42.9	23.8
<病院経験年数>						
3年未満	36.3	36.3	46.9	25.0	48.6	25.7
3～5年未満	28.6	38.1	14.3	47.6	51.9	7.4
5年以上	10.3	65.5	8.1	54.0	29.3	34.2

※資格取得意向は「取得済みだが、もっと上級の資格もとりたい」「取得していない」を対象に集計。「取得希望」は「どうしても取得したい」「できれば取得したい」の合計。「取得非希望」は「取得したいと思わない」「あまり取得したいと思わない」の合計。

(5)勤務先の不足感の認識

調査では、勤務先の医師、看護師、医療技術職員、医療事務職員の不足感及び、職場の相談相手、より専門的な能力の習得機会の不足感について尋ねている（図表 4-1-14 参照）。それを配属別にまとめたのが図表 4-1-15 である。

医療事務職員の不足については、40.6%が不足を感じている（「非常に感じる」「まあ感じる」の合計）。これを配属別にみると、「医事関係」で「感じる」とする割合は55.1%と高くなっている。

図表 4-1-14：勤務先の不足感の認識（単位＝％、n=128）〔病院事務職員調査〕

	非常に感じる	まあ感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	ほとんど感じない	不明	感じる計	感じない計
医師の不足	15.6	33.6	35.2	7.8	5.5	2.3	49.2	13.3
看護師の不足	13.3	32.8	38.3	7.8	5.5	2.3	46.1	13.3
医療技術職員の不足	9.4	25.8	50.8	6.3	5.5	2.3	35.2	11.8
医療事務職員（医療クラーク等）の不足	10.9	29.7	40.6	11.7	4.7	2.3	40.6	16.4
仕事上の相談相手（上司・同僚）の不足	13.3	30.5	32.0	14.1	8.6	1.6	43.8	22.7
より専門的な能力の習得機会の不足	12.5	30.5	41.4	10.9	3.1	1.6	43.0	14.0

※「感じる」は「非常に感じる」「まあ感じる」の合計。「感じない」は「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計。

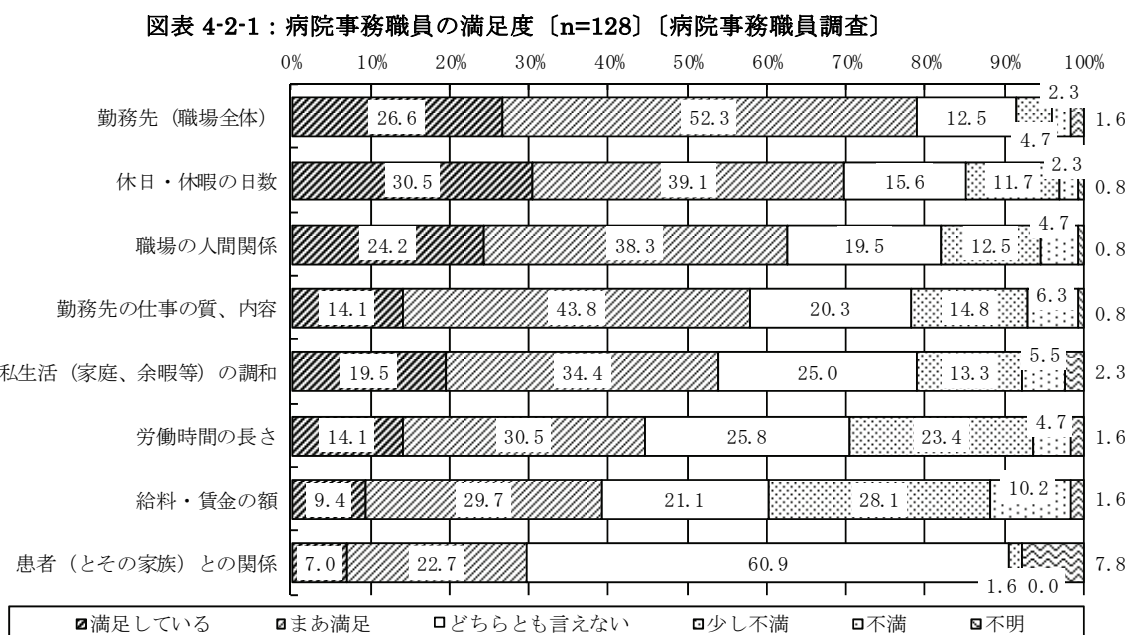
図表 4-1-15：配属別にみた勤務先の不足感の現状認識（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	n	非常に感じる	まあ感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	ほとんど感じない	不明	感じる計	感じない計
医師の不足・計	128	15.6	33.6	35.2	7.8	5.5	2.3	49.2	13.3
総務、会計関係	41	12.2	41.5	29.3	7.3	7.3	2.4	53.7	14.6
医事関係	49	8.2	38.8	42.9	4.1	4.1	2.0	47.0	8.2
診療科補助	28	28.6	21.4	32.1	14.3	3.6	0.0	50.0	17.9
その他	9	22.2	11.1	33.3	11.1	11.1	11.1	33.3	22.2
看護師の不足・計	128	13.3	32.8	38.3	7.8	5.5	2.3	46.1	13.3
総務、会計関係	41	14.6	39.0	29.3	7.3	7.3	2.4	53.6	14.6
医事関係	49	10.2	34.7	40.8	8.2	4.1	2.0	44.9	12.3
診療科補助	28	17.9	25.0	50.0	7.1	0.0	0.0	42.9	7.1
その他	9	0.0	22.2	33.3	11.1	22.2	11.1	22.2	33.3
医療技術職員の不足・計	128	9.4	25.8	50.8	6.3	5.5	2.3	35.2	11.8
総務、会計関係	41	12.2	31.7	39.0	7.3	7.3	2.4	43.9	14.6
医事関係	49	2.0	30.6	55.1	6.1	4.1	2.0	32.6	10.2
診療科補助	28	17.9	14.3	64.3	3.6	0.0	0.0	32.2	3.6
その他	9	0.0	11.1	44.4	11.1	22.2	11.1	11.1	33.3
医療事務職員の不足・計	128	10.9	29.7	40.6	11.7	4.7	2.3	40.6	16.4
総務、会計関係	41	7.3	29.3	43.9	12.2	4.9	2.4	36.6	17.1
医事関係	49	14.3	40.8	30.6	10.2	2.0	2.0	55.1	12.2
診療科補助	28	7.1	21.4	53.6	14.3	3.6	0.0	28.5	17.9
その他	9	11.1	0.0	44.4	11.1	22.2	11.1	11.1	33.3
仕事上の相談相手の不足・計	128	13.3	30.5	32.0	14.1	8.6	1.6	43.8	22.7
総務、会計関係	41	19.5	34.1	26.8	9.8	7.3	2.4	53.6	17.1
医事関係	49	10.2	28.6	36.7	16.3	6.1	2.0	38.8	22.4
診療科補助	28	10.7	21.4	39.3	14.3	14.3	0.0	32.1	28.6
その他	9	11.1	44.4	11.1	22.2	11.1	0.0	55.5	33.3
より専門的な能力の習得機会の不足・計	128	12.5	30.5	41.4	10.9	3.1	1.6	43.0	14.0
総務、会計関係	41	14.6	34.1	34.1	12.2	2.4	2.4	48.7	14.6
医事関係	49	12.2	36.7	36.7	12.2	0.0	2.0	48.9	12.2
診療科補助	28	7.1	21.4	60.7	7.1	3.6	0.0	28.5	10.7
その他	9	22.2	0.0	44.4	11.1	22.2	0.0	22.2	33.3

※「感じる」は「非常に感じる」「まあ感じる」の合計。「感じない」は「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計。

## 2. 病院事務職員の満足度

満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合でもっとも高いのは、「勤務先（職場全体）」（78.9%）であり、次いで、「休日・休暇の日数」（69.6%）、「職場の人間関係」（62.5%）、「勤務先の仕事の質、内容」（57.9%）、「仕事と私生活（家庭、余暇等）の調和」（53.9%）などとなっている。一方、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合がもっとも高いのは、「給料・賃金の額」（38.3%）であり、次いで、「労働時間の長さ」（28.1%）などとなっている（図表 4-2-1）。



## 3. 労働時間、休日、年次有給休暇取得日数

### 3-1. 週あたり労働時間

#### (1) 週あたり労働時間

1週間あたりの実際の労働時間（時間外労働（残業）時間を含む）は、平均時間で37.1時間となっている。その分布をみると、「20～40時間」が41.4%と最も割合が高く、次いで、「40～50時間未満」が27.3%、「50～60時間未満」（16.4%）、「20時間未満」（8.6%）、「60時間以上」（4.7%）となっている（以下、図表 4-3-1 参照）。

これを配属別にみると、平均値が高いのは「総務、会計関係」（39.9時間）、「医事関係」（37.0時間）などとなっている。

勤務形態別にみると、「常勤」の平均値は45.1時間となっており、「非常勤・アルバイト」よりも高い。「常勤」の分布をみると、「50～60時間未満」が38.8%でもっとも割合が高い（「60時間以上」の割合は10.2%）。

役職別にみると、「役職あり」のほうが平均値は高く、49.5時間となっている。分布をみると、「60時間以上」の割合は23.8%である。

年齢別にみると、「50代以上」で平均値が40.5時間でもっとも高い。

性・子供の有無別にみると、「女性・子供なし」で平均値が31.4時間でもっとも低くなっている（図表4-3-1）。

図表4-3-1：週あたり労働時間（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	n	20時間未満	20～40時間未満	40～50時間未満	50～60時間未満	60時間以上	不明	平均（時間）	標本標準偏差
計	128	8.6	41.4	27.3	16.4	4.7	1.6	37.1	12.6
<配属>									
総務、会計関係	41	7.3	31.7	26.8	29.3	4.9	0.0	39.9	12.6
医事関係	49	10.2	38.8	24.5	16.3	6.1	4.1	37.0	13.3
診療科補助	28	10.7	53.6	35.7	0.0	0.0	0.0	33.1	10.0
その他	9	0.0	66.7	11.1	11.1	11.1	0.0	35.7	13.1
<勤務形態>									
常勤	49	10.2	2.0	36.7	38.8	10.2	2.0	45.1	12.7
非常勤・アルバイト	70	8.6	65.7	20.0	2.9	1.4	1.4	31.7	9.8
<役職>									
役職あり	21	4.8	0.0	28.6	38.1	23.8	4.8	49.5	10.4
役職なし	97	9.3	49.5	27.8	11.3	1.0	1.0	34.8	11.4
<年齢>									
20代以下	32	15.6	21.9	37.5	21.9	3.1	0.0	37.7	14.0
30代	32	3.1	56.3	21.9	15.6	3.1	0.0	37.3	10.1
40代	38	10.5	52.6	21.1	10.5	5.3	0.0	34.3	13.0
50代以上	23	4.3	30.4	34.8	17.4	8.7	4.3	40.5	12.2
<性・子供の有無>									
男性・子供あり	15	0.0	6.7	33.3	33.3	26.7	0.0	49.1	8.1
男性・子供なし	17	17.6	0.0	47.1	29.4	0.0	5.9	40.8	15.1
女性・子供あり	43	7.0	74.4	16.3	0.0	2.3	0.0	31.4	9.0
女性・子供なし	50	8.0	38.0	30.0	22.0	2.0	0.0	37.9	12.1

## (2) 「労働時間の長さ」の満足度

「労働時間の長さ」の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が44.6%となっており、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合の28.1%を大きく上回っている。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど、「不満である」とする割合は高まる。「50時間未満」の者の「満足である」とする割合は50.5%と高い。「60時間以上」の「不満である」とする割合は66.7%ともっとも高くなっている。

配属別にみると、「不満である」とする割合が高いのは、「総務、会計関係」（36.6%）、「医事関係」（32.6%）である。

勤務形態別にみると、「満足である」とする割合は、「非常勤・アルバイト」で高い。「常勤」の「不満である」とする割合は49.0%と高くなっている。役職別にみると、「役職あり」で「不満である」とする割合が高い（図表4-3-2）。

図表 4-3-2：労働時間の長さの満足度（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	n	労働時間の長さの満足度						満足度計	
		満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	128	14.1	30.5	25.8	23.4	4.7	1.6	44.6	28.1
<週労働時間>									
50時間未満	99	16.2	34.3	28.3	14.1	5.1	2.0	50.5	19.2
50～60時間未満	21	4.8	14.3	23.8	52.4	4.8	0.0	19.1	57.2
60時間以上	6	16.7	16.7	0.0	66.7	0.0	0.0	33.4	66.7
<配属>									
総務、会計関係	41	12.2	19.5	31.7	29.3	7.3	0.0	31.7	36.6
医事関係	49	10.2	36.7	18.4	26.5	6.1	2.0	46.9	32.6
診療科補助	28	25.0	28.6	35.7	10.7	0.0	0.0	53.6	10.7
その他	9	11.1	55.6	11.1	22.2	0.0	0.0	66.7	22.2
<勤務形態>									
常勤	49	2.0	20.4	28.6	38.8	10.2	0.0	22.4	49.0
非常勤・アルバイト	70	22.9	37.1	22.9	12.9	1.4	2.9	60.0	14.3
<役職>									
役職あり	21	4.8	14.3	42.9	33.3	4.8	0.0	19.1	38.1
役職なし	97	16.5	32.0	23.7	20.6	5.2	2.1	48.5	25.8

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

### 3-2. 休日

調査では、過去 1 ヶ月でみて、週あたりで実際に何日休めているかについて尋ねている。それによれば、「週 2 日」が 89.1%でもっとも割合が高い。これを週あたり勤務日数別にみると、週 5 日勤務の者では、「週 2 日」が 89.8%となっている（図表 4-3-3）

そこで週 5 日勤務の者（すなわち、制度上で週休 2 日制の者）について、週あたり労働時間別にみると、「週 1 日以下」（「週 0 日」「週 1 日」の合計）の割合は、「50 時間未満」9.2%、「50～60 時間未満」9.5%といずれも 1 割弱程度ある。配属別にみると、「週 1 日以下」の割合は「総務、会計関係」でもっとも高い。勤務形態別でみると、その割合は、「常勤」が 8.2%あり、「非常勤・アルバイト」でも 10.1%ある（図表 4-3-4）。

図表 4-3-3：週あたり休日日数（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	n	週 0 日	週 1 日	週 2 日	週 3 日	週 4 日以上	不明
計	128	5.5	3.9	89.1	0.8	0.8	0.0
<週あたり勤務日数>							
4 日	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
5 日	127	5.5	3.9	89.8	0.0	0.8	0.0

図表 4-3-4：過去 1 ヶ月でみた週 5 日勤務者の実際に休めた休日日数（単位＝％）

〔病院事務職員調査〕

	n	週あたりに実際に休めた休日日数						週1日 以下計
		週0日	週1日	週2日	週3日	週4日 以上	不明	
計	127	5.5	3.9	89.8	0.0	0.8	0.0	9.4
<週あたり労働時間>								
50時間未満	98	4.1	5.1	89.8	0.0	1.0	0.0	9.2
50～60時間未満	21	9.5	0.0	90.5	0.0	0.0	0.0	9.5
60時間以上	6	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
<配属>								
総務、会計関係	41	7.3	4.9	87.8	0.0	0.0	0.0	12.2
医事関係	49	8.2	0.0	91.8	0.0	0.0	0.0	8.2
診療科補助	27	0.0	7.4	88.9	0.0	3.7	0.0	7.4
その他	9	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
<勤務形態>								
常勤	49	8.2	0.0	91.8	0.0	0.0	0.0	8.2
非常勤・アルバイト	69	4.3	5.8	88.4	0.0	1.4	0.0	10.1
<役職>								
役職あり	21	9.5	0.0	90.5	0.0	0.0	0.0	9.5
役職なし	96	5.2	5.2	88.5	0.0	1.0	0.0	10.4

※週5日勤務の者を対象に集計。

### 3-3. 年次有給休暇の取得日数

#### (1)年次有給休暇取得日数

今年度1年間の年次有給休暇の取得日数は、「7～10日」が31.3%ともっとも割合が高く、次いで、「4～6日」が30.5%、「11～15日」が14.1%、「1～3日」が10.2%などとなっている。「3日以下」（「0日」「1～3日」の合計）は14.1%である。「7日以上」（「7～10日」「11～15日」「16～19日」「20日」「21日以上」の合計）の割合は53.2%となっている。

これを週あたり労働時間別にみると、「7日以上」の割合は労働時間が長くなるほど低下する傾向にある。

配属別にみると、「常勤」のほうが「非常勤・アルバイト」に比べ「3日以下」の割合がわずかに高い。役職別にみると、「役職なし」のほうが「7日以上」の割合が高くなっている。

病院配属経験年数別にみると、経験年数が長くなるほど、「7日以上」の割合は高まる傾向にある。「3年未満」では「3日以下」の割合が23.9%と他に比べ高い（「0日」が10.9%となっている）。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど、「7日以上」の割合が高まる傾向にある。性・子供の有無別にみると、「7日以上」の割合は、「女性・子供あり」（58.2%）、「女性・子供なし」（56.0%）、「男性・子供あり」（53.4%）で高い。「3日以下」の割合は、「男性・子供なし」で35.3%ともっとも高くなっている（図表 4-3-5）。

図表 4-3-5 : 年次有給休暇取得日数 (単位=%) [病院事務職員調査]

	n	0日	1~3日	4~6日	7~10日	11日~15日	16日~19日	20日	21日以上	不明	3日以下計	7日以上計	11日以上計
計	128	3.9	10.2	30.5	31.3	14.1	3.9	1.6	2.3	2.3	14.1	53.2	21.9
<週労働時間>													
50時間未満	99	4.0	11.1	29.3	32.3	13.1	3.0	2.0	3.0	2.0	15.1	53.4	21.1
50~60時間未満	21	0.0	9.5	33.3	28.6	14.3	9.5	0.0	0.0	4.8	9.5	52.4	23.8
60時間以上	6	16.7	0.0	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.4	16.7
<配属>													
総務、会計関係	41	2.4	9.8	39.0	24.4	17.1	2.4	2.4	2.4	0.0	12.2	48.7	24.3
医事関係	49	4.1	10.2	30.6	28.6	14.3	8.2	0.0	4.1	0.0	14.3	55.2	26.6
診療科補助	28	3.6	10.7	21.4	39.3	14.3	0.0	3.6	0.0	7.1	14.3	57.2	17.9
その他	9	0.0	11.1	22.2	55.6	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	55.6	0.0
<勤務形態>													
常勤	49	2.0	14.3	42.9	16.3	14.3	6.1	0.0	2.0	2.0	16.3	38.7	22.4
非常勤・アルバイト	70	5.7	7.1	25.7	37.1	12.9	2.9	2.9	2.9	2.9	12.8	58.7	21.6
<役職>													
役職あり	21	0.0	9.5	47.6	19.0	23.8	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5	42.8	23.8
役職なし	97	5.2	10.3	25.8	35.1	11.3	5.2	2.1	2.1	3.1	15.5	55.8	20.7
<病院配属経験年数>													
3年未満	46	10.9	13.0	34.8	30.4	6.5	2.2	0.0	0.0	2.2	23.9	39.1	8.7
3~5年未満	32	0.0	6.3	31.3	40.6	12.5	6.3	0.0	0.0	3.1	6.3	59.4	18.8
5年以上	48	0.0	10.4	27.1	25.0	20.8	4.2	4.2	6.3	2.1	10.4	60.5	35.5
<年齢>													
20代以下	32	9.4	3.1	31.3	31.3	6.3	6.3	0.0	3.1	9.4	12.5	47.0	15.7
30代	32	0.0	15.6	31.3	31.3	12.5	6.3	3.1	0.0	0.0	15.6	53.2	21.9
40代	38	5.3	10.5	28.9	34.2	21.1	0.0	0.0	0.0	0.0	15.8	55.3	21.1
50代以上	23	0.0	13.0	30.4	26.1	13.0	4.3	4.3	8.7	0.0	13.0	56.4	30.3
<性・子供の有無>													
男性・子供あり	15	0.0	0.0	46.7	6.7	33.3	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0	53.4	46.7
男性・子供なし	17	0.0	35.3	41.2	17.6	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	35.3	23.5	5.9
女性・子供あり	43	0.0	9.3	32.6	41.9	14.0	2.3	0.0	0.0	0.0	9.3	58.2	16.3
女性・子供なし	50	10.0	6.0	22.0	34.0	12.0	4.0	2.0	4.0	6.0	16.0	56.0	22.0

(2)年次有給休暇の用途

年次有給休暇の用途は、「自分の病気・けがの療養」が30.1%ともっとも多くなっており、次いで、「家での休養」が24.7%、「家事・育児」が22.3%などとなっている。

年次有給休暇取得日数別にみると、「海外旅行」「2泊以上の国内旅行」「1泊の国内旅行」「日帰りレジャー」などは取得日数が増加するほどおおむね高まる傾向にある(図表4-3-6)。

図表 4-3-6 : 年次有給休暇の用途 (複数回答、単位=%) [病院事務職員調査]

	n	海外旅行	2泊以上の国内旅行	1泊の国内旅行	日帰りのレジャー	ゴルフなどのスポーツ	登山	サート、観戦など	映画・演劇、コンサート	家での休養	自分の病気・けがの療養	家族等の看護・介護	家事・育児	研究	学会・研究会の参加・院外研修会	自己啓発のための学習	その他
計	166	7.8	16.9	10.2	7.2	0.6	1.8	2.4	24.7	30.1	15.7	22.3	2.4	15.1	4.2	16.9	
<年次有給休暇の取得日数別>																	
0~3日	13	0.0	15.4	15.4	7.7	0.0	7.7	15.4	23.1	15.4	15.4	46.2	0.0	0.0	0.0	7.7	
4~6日	39	2.6	17.9	17.9	15.4	0.0	0.0	15.4	33.3	28.2	15.4	23.1	0.0	2.6	7.7	25.6	
7日以上	68	8.8	17.6	20.6	17.6	7.4	1.5	14.7	23.5	38.2	27.9	36.8	0.0	2.9	2.9	25.0	

※「今年度はまだ1日も年休を取得できていない」不明を除き集計。

### (3) 「休日・休暇の日数」の満足度

「休日・休暇の日数」の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が69.6%となっており、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合の14.0%を大きく上回っている。

週あたり労働時間別にみると、「満足である」とする割合は「50～60時間未満」（76.2%）、「50時間未満」（70.7%）で高い。

年次有給休暇取得日数別にみると、取得日数が多くなるほど「満足である」とする割合が高まる。

配属別にみると、「満足である」とする割合が高いのは、「医事関係」（71.5%）、「診療科補助」（71.4%）である。

勤務形態別にみると、「非常勤・アルバイト」のほうが「常勤」に比べ、「満足である」とする割合は高い。役職別にみると、「役職あり」は「役職なし」に比べ、「満足である」とする割合が低い（図表4-3-7）。

図表4-3-7：休日・休暇の日数の満足度（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	休日・休暇の日数満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	128	30.5	39.1	15.6	11.7	2.3	0.8	69.6	14.0
<週労働時間>									
50時間未満	99	34.3	36.4	14.1	12.1	2.0	1.0	70.7	14.1
50～60時間未満	21	14.3	61.9	9.5	9.5	4.8	0.0	76.2	14.3
60時間以上	6	33.3	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	50.0	16.7
<年次有給休暇取得日数>									
0～3日	18	33.3	22.2	22.2	16.7	5.6	0.0	55.5	22.3
4～6日	39	25.6	38.5	20.5	12.8	2.6	0.0	64.1	15.4
7日以上	68	32.4	42.6	11.8	10.3	1.5	1.5	75.0	11.8
<配属>									
総務、会計関係	41	24.4	41.5	19.5	12.2	2.4	0.0	65.9	14.6
医事関係	49	32.7	38.8	12.2	10.2	4.1	2.0	71.5	14.3
診療科補助	28	32.1	39.3	14.3	14.3	0.0	0.0	71.4	14.3
その他	9	44.4	22.2	22.2	11.1	0.0	0.0	66.6	11.1
<勤務形態>									
常勤	49	16.3	42.9	24.5	14.3	2.0	0.0	59.2	16.3
非常勤・アルバイト	70	37.1	40.0	8.6	11.4	1.4	1.4	77.1	12.8
<役職>									
役職あり	21	9.5	33.3	42.9	14.3	0.0	0.0	42.8	14.3
役職なし	97	34.0	38.1	11.3	12.4	3.1	1.0	72.1	15.5

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

## 4. 健康不安、患者からのクレーム

### (1) 疲労感、睡眠不足、健康不安

自身の「疲労感」「睡眠不足感」「健康不安」について、それぞれ「感じる」（「非常に感じ



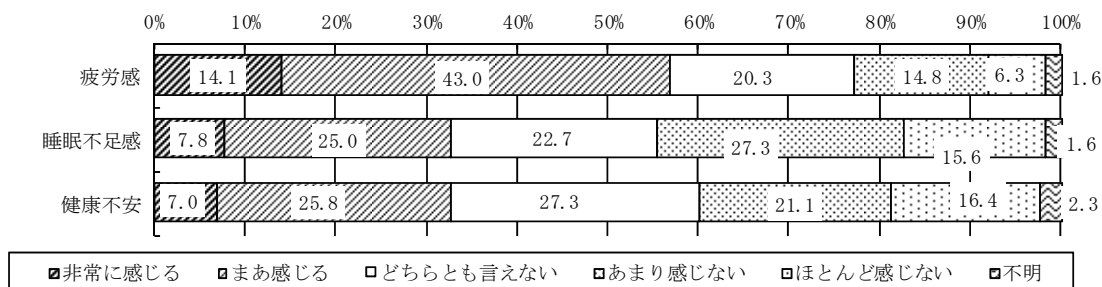
る「まあ感じる」の合計)と回答した割合は、「疲労感」が57.1%、「睡眠不足感」が32.8%、「健康不安」が32.8%となっている(図表4-4-1)。

疲労感、睡眠不足感、健康不安それぞれについて、配属別にみると、「感じる」とする割合は、いずれも、「総務、会計関係」がもっとも割合が高い。勤務形態別にみると、いずれも「常勤」が高い。役職別にみると、「疲労感」については、「役職なし」のほうが「役職あり」に比べ「感じる」とする割合が高いが、「睡眠不足感」、「健康不安」では、ほとんど差はみられない。

週あたり労働時間別にみると、いずれも、「50～60時間未満」で「感じる」とする割合が高くなっている。年次有給休暇取得日数別にみると、「睡眠不足感」については「感じる」とする割合は取得日数が少なくなるほど高まる傾向にある(図表4-4-2)。

疲労感に対する認識別に健康不安をみると、疲労感を感じている者ほど健康不安を「感じる」割合が高い。睡眠不足感に対する認識別に健康不安をみても、睡眠不足感を感じている者ほど、健康不安を「感じる」割合が高い(図表4-4-3)。

図表 4-4-1：業務に携わるうえでの認識 (n=128) [病院事務職調査]



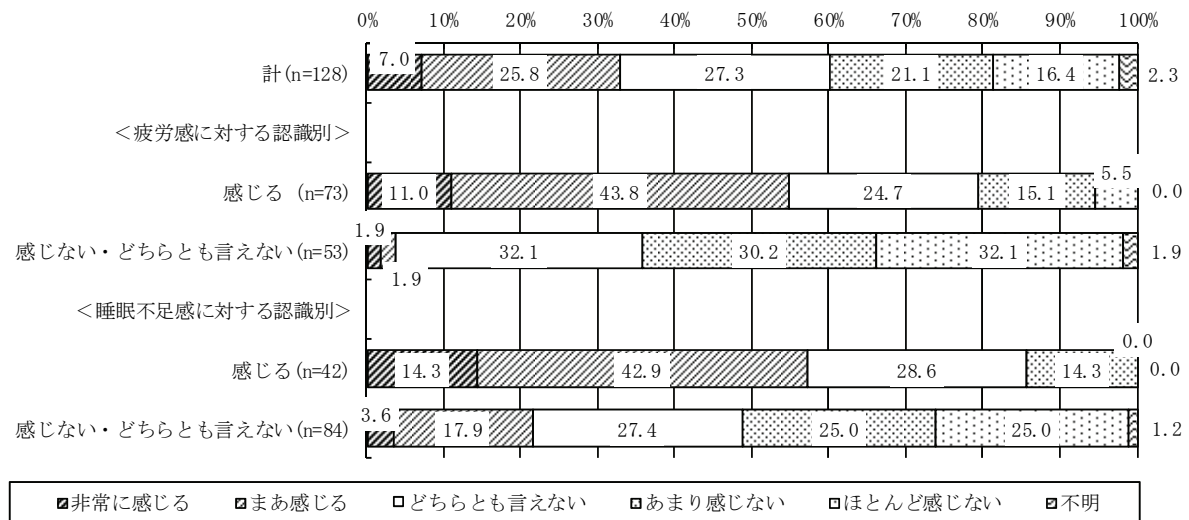
図表 4-4-2：疲労感、睡眠不足感、健康不安に対する認識 (単位=%)

[病院事務職員調査]

	計	疲労感		睡眠不足感		健康不安	
		感じる計	感じない計	感じる計	感じない計	感じる計	感じない計
計	128	57.1	21.1	32.8	42.9	32.8	37.5
<配置>							
総務、会計関係	41	63.5	19.5	39.0	39.0	39.1	31.7
医事関係	49	53.0	16.3	30.6	42.9	32.7	38.7
診療科補助	28	53.5	28.6	21.5	46.5	17.9	39.3
<勤務形態>							
常勤	49	65.3	10.2	48.9	30.6	46.9	22.5
非常勤・アルバイト	70	55.7	25.7	24.3	48.5	25.7	47.2
<役職>							
役職あり	21	47.7	19.1	33.3	38.1	33.3	33.3
役職なし	97	58.8	23.7	33.0	43.3	35.1	38.2
<週労働時間>							
50時間未満	99	54.6	22.3	32.3	42.5	31.3	38.4
50～60時間未満	21	66.7	14.3	47.7	42.8	38.1	33.3
60時間以上	6	50.0	33.4	0.0	50.0	16.7	50.0
<年次有給休暇取得日数>							
0～3日	18	55.5	33.4	44.5	33.3	27.8	33.4
4～6日	39	48.7	18.0	33.3	41.0	30.7	38.4
7日以上	68	60.3	20.6	29.4	47.0	32.3	39.7

※「感じる」は「非常に感じる」「まあ感じる」の合計。「感じない」は「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計。配置の「その他」は割愛。

図表 4-4-3：健康不安に対する認識〔病院事務職員調査〕



(2)患者からのクレーム

患者からのクレームや訴訟リスク（以下、「患者からのクレーム等」と略す）について尋ねたところ、29.7%が「感じる」（「非常に感じる」「まあ感じる」の合計）と回答しており、「感じない」（「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計）とする回答（31.2%）と拮抗している。

これを配属別にみると、「感じる」とする割合は、「医事関係」で49.0%ともっとも高くなっている（図表 4-4-4）。

図表 4-4-4：患者からのクレームや訴訟リスクに対する認識（単位＝%）〔病院事務職員調査〕

	n	非常に感じる	まあ感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	ほとんど感じない	不明	感じる計	感じない計
計	128	4.7	25.0	33.6	19.5	11.7	5.5	29.7	31.2
＜配属＞									
総務、会計関係	41	0.0	17.1	43.9	17.1	17.1	4.9	17.1	34.2
医事関係	49	10.2	38.8	30.6	14.3	4.1	2.0	49.0	18.4
診療科補助	28	3.6	14.3	28.6	32.1	17.9	3.6	17.9	50.0
その他	9	0.0	22.2	22.2	22.2	11.1	22.2	22.2	33.3

※「感じる」は「非常に感じる」「まあ感じる」の合計。「感じない」は「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計。

5. 年収

(1)年収

調査では勤務先での昨年1年間の税込年収（勤続年数が1年に満たない場合は年換算）を尋ねている。年収の平均値は276.2万円。これを配属別にみると、平均値は、「総務、会計関係」が355.0万円でもっとも高く、次いで、「医事関係」（297.7万円）、「診療科補助」（152.1万円）などとなっている。勤務形態別にみると、平均値は「常勤」474.8万円、「非常勤・アルバイト」144.4万円。役職別にみると、平均値は「役職あり」のほうが高く、610.2万円

となっている。

病院配属経験年数別、及び大学勤続年数別にみると、いずれも、年数が長くなるほど平均値は高くなる。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど平均値は高まる（図表 4-5-1）。

図表 4-5-1：勤務先の年収（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	n	100万 円未満	100～ 200万 円未満	200～ 300万 円未満	300～ 400万 円未満	400～ 500万 円未満	500～ 700万 円未満	700万 円以上	不明	平均 (万円)	標本標 準偏差
計	128	5.0	58.0	15.0	12.0	8.0	20.0	5.0	5.0	276.2	200.6
<配属>											
総務、会計関係	41	0.0	34.1	7.3	22.0	4.9	19.5	9.8	2.4	355.0	228.9
医事関係	49	0.0	40.8	16.3	4.1	10.2	22.4	2.0	4.1	297.7	190.9
診療科補助	28	7.1	71.4	10.7	3.6	3.6	0.0	0.0	3.6	152.1	74.2
<勤務形態>											
常勤	49	0.0	2.0	10.2	20.4	16.3	40.8	10.2	0.0	474.8	178.8
非常勤・アルバイト	70	7.1	72.9	10.0	2.9	0.0	0.0	0.0	7.1	144.4	49.2
<役職>											
役職あり	21	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5	71.4	19.0	0.0	610.2	126.1
役職なし	97	5.2	53.6	14.4	12.4	6.2	3.1	0.0	5.2	198.0	112.2
<病院配属経験年数>											
3年未満	46	2.2	63.0	10.9	8.7	4.3	4.3	4.3	2.2	217.4	176.5
3～5年未満	32	9.4	43.8	9.4	12.5	6.3	3.1	6.3	9.4	243.3	193.8
5年以上	48	2.1	31.3	12.5	8.3	8.3	35.4	2.1	0.0	351.8	203.9
<勤続年数>											
3年未満	35	2.9	68.6	11.4	8.6	5.7	0.0	2.9	0.0	190.0	143.8
3～5年未満	26	7.7	46.2	11.5	19.2	0.0	0.0	3.8	11.5	204.7	130.5
5～10年未満	25	4.0	52.0	12.0	12.0	8.0	12.0	0.0	0.0	236.3	151.6
10年以上	33	3.0	6.1	15.2	3.0	12.1	51.5	9.1	0.0	477.6	202.9
<週労働時間>											
50時間未満	99	5.1	57.6	13.1	5.1	7.1	8.1	0.0	4.0	207.7	141.5
50～60時間未満	21	0.0	0.0	9.5	33.3	4.8	38.1	14.3	0.0	481.9	183.4
60時間以上	6	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	66.7	16.7	0.0	563.3	220.2

## (2)給与・賃金の満足度

給与・賃金の額の満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が 39.1%であり、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合が 38.3%となっており両者は拮抗している。

これを配属別にみると、「不満である」とする割合が高いのは、「総務、会計関係」（46.3%）、「診療科補助」（46.4%）などである。

勤務形態別にみると、勤務形態によって「満足である」とする割合にほとんど差はみられないが、「常勤」のほうが「不満である」とする割合が高い。役職別にみると、役職の有無によって「不満である」とする割合にほとんど差はみられないが、「役職なし」のほうが「役職あり」に比べて「満足である」とする割合は高くなっている。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど「満足である」とする割合が高まる。年収別にみると、「不満である」とする割合は、「200～400万円」（51.8%）でもっとも

高くなっている（図表 4-5-2）。

図表 4-5-2：給与・賃金の額の満足度（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	給与・賃金の額の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	128	9.4	29.7	21.1	28.1	10.2	1.6	39.1	38.3
<配属>									
総務、会計関係	41	7.3	26.8	19.5	34.1	12.2	0.0	34.1	46.3
医事関係	49	10.2	40.8	20.4	20.4	6.1	2.0	51.0	26.5
診療科補助	28	10.7	10.7	28.6	35.7	10.7	3.6	21.4	46.4
<勤務形態>									
常勤	49	4.1	34.7	16.3	36.7	8.2	0.0	38.8	44.9
非常勤・アルバイト	70	11.4	25.7	24.3	22.9	12.9	2.9	37.1	35.8
<役職>									
役職あり	21	4.8	23.8	33.3	33.3	4.8	0.0	28.6	38.1
役職なし	97	10.3	29.9	20.6	24.7	12.4	2.1	40.2	37.1
<週労働時間>									
50時間未満	99	9.1	28.3	20.2	30.3	10.1	2.0	37.4	40.4
50～60時間未満	21	9.5	33.3	23.8	19.0	14.3	0.0	42.8	33.3
60時間以上	6	16.7	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0	50.0	33.3
<年収>									
200万円未満	63	15.9	30.2	19.0	23.8	11.1	0.0	46.1	34.9
200～400万円未満	27	3.7	14.8	22.2	40.7	11.1	7.4	18.5	51.8
400万円以上	33	3.0	42.4	21.2	27.3	6.1	0.0	45.4	33.4

## 6. 仕事と生活の優先度と仕事、勤務先の満足度

### (1)仕事と生活の優先度

調査では仕事と生活のどちらを優先しているか、現在の状況と今後の希望にわけて尋ねている。それによれば、現在の状況で、「仕事優先」（「仕事」「どちらかといえば仕事」の合計）が43.7%、「同じくらい」が27.3%、「生活優先」（「生活」「どちらかといえば生活」の合計）が28.2%となっている。一方、今後の希望については、「（仕事と生活が）同じくらい」を望んでいる者がもっとも高く42.2%となっており、次いで、「生活優先」が46.9%、「仕事優先」が10.2%となっている（図表 4-6-1）。

現在の状況について、配属別にみると、「総務、会計関係」で「仕事優先」の割合が58.6%と高くなっている。週あたり労働時間別にみると、「50～60時間」で「仕事優先」の割合が76.1%ともっとも高い。年次有給休暇取得日数別にみると、「仕事優先」の割合は取得日数が「0～3日」で55.6%、「4～6日」で51.3%と高くなっている（図表 4-6-2）。

次に、仕事の優先度の今後の希望を現在の状況別にみると、現在の「仕事優先」の者で、「生活優先」に切り替えたいと考えている者が39.2%、「（仕事と生活が）同じくらい」が37.5%）であり、今後の希望も「仕事優先」としている者は23.2%となっている。

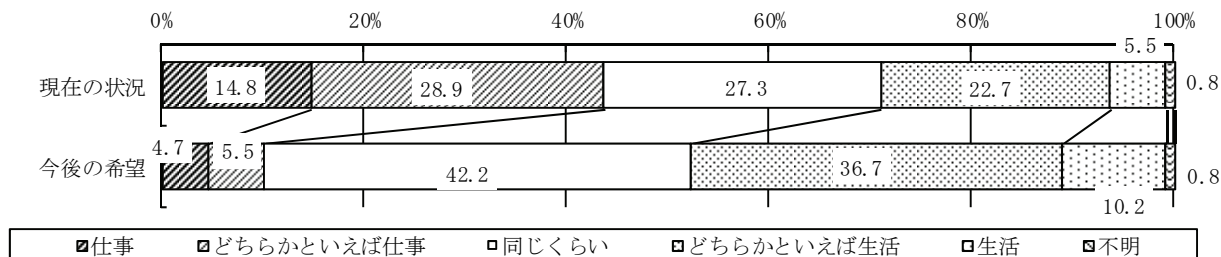
今後の希望について、週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど、今後の希望も「仕事優先」とする割合が高まる。「生活優先」とする割合は、「50時間未満」で47.5%、「50～60時間未満」で47.6%となっている。

役職別にみると、「役職あり」のほうがわずかに「仕事優先」の割合が高い。また、年齢別にみると、「生活優先」の割合が「20代以下」(50.1%)、「30代」(53.1%)で、他の年齢層に比べ高くなっている。

性別にみると、男女で「生活優先」の割合にほとんど差はみられない。性・子供の有無別にみると、「女性・子供なし」で「仕事優先」の割合がもっとも高く、「男性・子供なし」で「生活優先」の割合がもっとも高くなっている(図表4-6-3)。

仕事と私生活の調和の満足度をみると、「満足である」(「満足している」「まあ満足」の合計)とする割合が53.9%であり、「不満である」(「不満」「少し不満」の合計)とする割合(18.8%)を大きく上回っている。これを仕事と生活の優先度(現在の状況)別にみると、「仕事優先」から「生活優先」になるほど、「満足である」とする割合が高まる。「仕事優先」では、「不満である」とする割合は35.7%となっている(図表4-6-4)。

図表 4-6-1 : 仕事と生活の優先度 (n=128) [病院事務職員調査]



図表 4-6-2 : 仕事と生活の優先度 (現在の状況) (単位=%) [医療技術職員調査]

	仕事と生活の優先度 (現在の状況)							優先度計	
	n	仕事	どちらかといえば仕事	同じくらい	どちらかといえば生活	生活	不明	仕事優先計	生活優先計
計	128	14.8	28.9	27.3	22.7	5.5	0.8	43.7	28.2
<配属>									
総務、会計関係	41	22.0	36.6	17.1	14.6	7.3	2.4	58.6	21.9
医事関係	49	12.2	34.7	28.6	20.4	4.1	0.0	46.9	24.5
診療科補助	28	7.1	14.3	39.3	32.1	7.1	0.0	21.4	39.2
<週労働時間>									
50時間未満	99	12.1	22.2	30.3	27.3	7.1	1.0	34.3	34.4
50～60時間未満	21	19.0	57.1	14.3	9.5	0.0	0.0	76.1	9.5
60時間以上	6	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	66.6	0.0
<年次有給休暇取得日数>									
0～3日	18	16.7	38.9	33.3	11.1	0.0	0.0	55.6	11.1
4～6日	39	15.4	35.9	25.6	20.5	2.6	0.0	51.3	23.1
7日以上	68	14.7	22.1	25.0	27.9	8.8	1.5	36.8	36.7

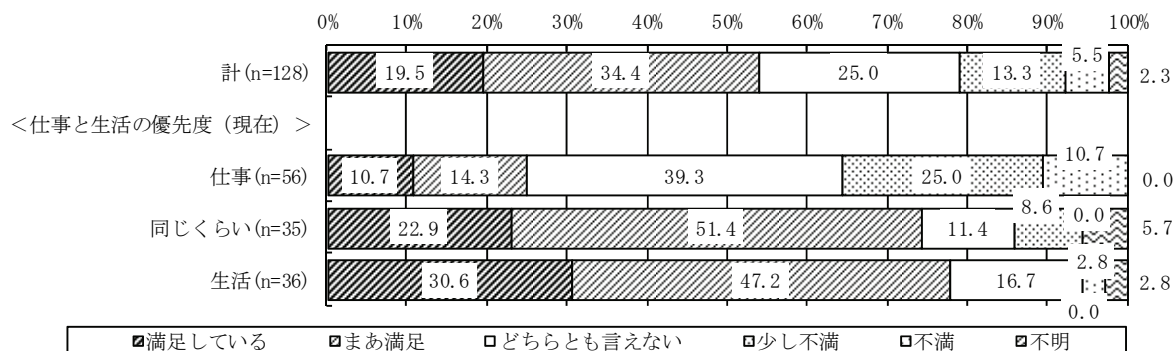
※「仕事優先」は「仕事」「どちらかといえば仕事」の合計。「生活優先」は「生活」「どちらかといえば生活」の合計。

図表 4-6-3 : 仕事と生活の優先度 (今後の希望) (単位=%) [病院事務職員調査]

	仕事と生活の優先度 (今後の希望)							優先度計	
	n	仕事	どちらかといえば仕事	同じくらい	どちらかといえば生活	生活	不明	仕事優先計	生活優先計
計	128	4.7	5.5	42.2	36.7	10.2	0.8	10.2	46.9
<仕事と生活の優先度 (現在) >									
仕事	56	10.7	12.5	37.5	32.1	7.1	0.0	23.2	39.2
同じくらい	35	0.0	0.0	71.4	22.9	5.7	0.0	0.0	28.6
生活	36	0.0	0.0	22.2	58.3	19.4	0.0	0.0	77.7
<週労働時間>									
50時間未満	99	4.0	4.0	43.4	37.4	10.1	1.0	8.0	47.5
50～60時間未満	21	4.8	9.5	38.1	33.3	14.3	0.0	14.3	47.6
60時間以上	6	16.7	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0	33.4	16.7
<役職>									
役職あり	21	4.8	9.5	38.1	38.1	9.5	0.0	14.3	47.6
役職なし	97	5.2	5.2	41.2	36.1	11.3	1.0	10.4	47.4
<年齢>									
20代以下	32	3.1	6.3	37.5	43.8	6.3	3.1	9.4	50.1
30代	32	6.3	0.0	40.6	40.6	12.5	0.0	6.3	53.1
40代	38	7.9	5.3	47.4	28.9	10.5	0.0	13.2	39.4
50代以上	23	0.0	13.0	47.8	34.8	4.3	0.0	13.0	39.1
<性別>									
男性	33	0.0	6.1	45.5	42.4	6.1	0.0	6.1	48.5
女性	93	6.5	5.4	40.9	35.5	10.8	1.1	11.9	46.3
<性・子供の有無>									
男性・子供あり	15	0.0	6.7	66.7	20.0	6.7	0.0	6.7	26.7
男性・子供なし	17	0.0	5.9	29.4	58.8	5.9	0.0	5.9	64.7
女性・子供あり	43	4.7	2.3	44.2	34.9	14.0	0.0	7.0	48.9
女性・子供なし	50	8.0	8.0	38.0	36.0	8.0	2.0	16.0	44.0

※「仕事優先」は「仕事」「どちらかといえば仕事」の合計。「生活優先」は「生活」「どちらかといえば生活」の合計。

図表 4-6-4 : 仕事と私生活の調和の満足度 [病院事務職員調査]



## (2) 勤務先の仕事の質、内容の満足度

勤務先の仕事の質、内容の満足度をみると、「満足である」(「満足している」「まあ満足」の合計)とする割合が 57.9%であり、「不満である」(「不満」「少し不満」の合計)とする割合 (21.1%) を大きく上回っている。

仕事と生活の優先度 (現在の状況) 別にみると、現在の状況として、仕事と生活が「同じくらい」とする者で「満足である」とする割合がもっとも高い。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が長くなるほど「不満である」とする割合が高くなる。

配属別にみると、「満足である」とする割合は、「診療科補助」(67.8%)でもっとも高い。勤務形態別にみると、「非常勤・アルバイト」で「満足である」とする割合は62.8%と高くなっている。役職別にみると、「役職なし」のほうが「満足である」とする割合が高く、「不満である」とする割合は「役職あり」のほうが高い。

仕事上の相談相手の不足の認識別にみると、仕事上の相談相手の不足を「感じる」者のほうが、「感じない・どちらとも言えない」者に比べて、「不満である」とする割合が高い。健康不安の認識別にみると、健康不安を「感じる」者のほうが、「感じない・どちらとも言えない」者に比べて、「不満である」とする割合が高い(図表4-6-5)。

図表4-6-5：勤務先の仕事の質、内容の満足度(単位=%) [病院事務職員調査]

	勤務先の仕事の質、内容の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	128	14.1	43.8	20.3	14.8	6.3	0.8	57.9	21.1
<仕事と生活の優先度(現在)>									
仕事	56	7.1	41.1	19.6	23.2	8.9	0.0	48.2	32.1
同じくらい	35	28.6	45.7	14.3	2.9	5.7	2.9	74.3	8.6
生活	36	11.1	47.2	25.0	13.9	2.8	0.0	58.3	16.7
<週労働時間>									
50時間未満	99	17.2	40.4	21.2	12.1	8.1	1.0	57.6	20.2
50~60時間未満	21	0.0	52.4	23.8	23.8	0.0	0.0	52.4	23.8
60時間以上	6	16.7	50.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	33.3
<配属>									
総務、会計関係	41	9.8	41.5	22.0	19.5	7.3	0.0	51.3	26.8
医事関係	49	14.3	42.9	14.3	18.4	8.2	2.0	57.2	26.6
診療科補助	28	21.4	46.4	25.0	3.6	3.6	0.0	67.8	7.2
<勤務形態>									
常勤	49	0.0	49.0	18.4	24.5	8.2	0.0	49.0	32.7
非常勤・アルバイト	70	21.4	41.4	22.9	7.1	5.7	1.4	62.8	12.8
<役職>									
役職あり	21	0.0	52.4	14.3	28.6	4.8	0.0	52.4	33.4
役職なし	97	17.5	42.3	21.6	12.4	5.2	1.0	59.8	17.6
<仕事上の相談相手の不足>									
感じる	56	5.4	33.9	26.8	23.2	10.7	0.0	39.3	33.9
感じない・どちらとも言えない	70	21.4	52.9	14.3	8.6	2.9	0.0	74.3	11.5
<健康不安>									
感じる	42	4.8	40.5	26.2	21.4	7.1	0.0	45.3	28.5
感じない・どちらとも言えない	83	19.3	45.8	16.9	12.0	6.0	0.0	65.1	18.0

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

### (3)勤務先(職場全体)の満足度

勤務先(職場全体)の満足度をみると、「満足である」(「満足している」「まあ満足」の合計)とする割合が78.9%と高くなっており、「不満である」(「不満」「少し不満」の合計)とする割合は7.0%とわずかである。

これを配属別にみると、「満足である」とする割合がもっとも高いのは、「診療科補助」(85.7%)である。「不満である」とする割合がもっとも高いのは「総務、会計関係」(12.2%)である。

勤務形態別にみると、「非常勤・アルバイト」のほうが「満足である」とする割合が高い。役職別にみると、「役職あり」に比べ「役職なし」のほうが「満足である」とする割合がわず

かに高い程度である（図表 4-6-6）。

図表 4-6-6：勤務先（職場全体）の満足度（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	勤務先（職場全体）の満足度							満足度計	
	n	満足している	まあ満足	どちらとも言えない	少し不満	不満	不明	満足である計	不満である計
計	128	26.6	52.3	12.5	4.7	2.3	1.6	78.9	7.0
<配属>									
総務、会計関係	41	22.0	56.1	9.8	9.8	2.4	0.0	78.1	12.2
医事関係	49	26.5	51.0	14.3	2.0	4.1	2.0	77.5	6.1
診療科補助	28	32.1	53.6	10.7	3.6	0.0	0.0	85.7	3.6
<勤務形態>									
常勤	49	20.4	55.1	14.3	6.1	4.1	0.0	75.5	10.2
非常勤・アルバイト	70	30.0	51.4	10.0	4.3	1.4	2.9	81.4	5.7
<役職>									
役職あり	21	14.3	61.9	19.0	4.8	0.0	0.0	76.2	4.8
役職なし	97	30.9	48.5	11.3	4.1	3.1	2.1	79.4	7.2

※「満足である」は「満足している」「まあ満足」の合計。「不満である」は「不満」「少し不満」の合計。

## 7. 異動についての考えと異動を考える理由

調査では、「現在の職場（病院）から異動したいという希望があるか」を尋ねている。それによれば、18.0%が「考えている」としており、「たまに考えている」（34.4%）を合わせると、52.4%が異動を検討したことがある。

異動を「考えている」とする割合を配属別にみると、「総務、会計関係」が36.6%ともっとも高い。勤務形態別にみると、「常勤」で「考えている」とする割合が高くなっている。その一方で、「非常勤・アルバイト」のほうが「考えていない」とする割合が高くなっている。役職別にみると、「考えている」とする割合にほとんど差は見られない。病院配属経験年数別にみると、「3～5年未満」で「考えている」とする割合が31.3%ともっとも高くなる。

週あたり労働時間別にみると、労働時間が「50～60時間未満」で「考えている」とする割合がもっとも高くなる。年次有給休暇取得日数別にみると、「0～3日」の者で「考えている」とする割合がもっとも高い。

年収別にみると、年収が高くなるほど「考えている」とする割合が高くなる（図表 4-7-1）。

次に、調査では、異動を「考えている」「たまに考えている」とする者について、異動を考える理由を尋ねている。それによれば、「職場の人間関係の難しさ（上司、同僚、他職種等）」が34.3%ともっとも多く、次いで、「キャリアアップしたいため」（23.9%）、「昇進・昇給・給与に不満」（20.9%）、「長時間労働」（19.4%）、「仕事に興味をもてない・やりがいいがない」（17.9%）などとなっている（図表 4-7-2）。

これを勤務形態別にみると、「常勤」では、「職場の人間関係の難しさ（上司、同僚、他職種等）」が36.4%ともっとも多く、次いで、「長時間労働」「仕事に興味をもてない・やりがいいがない」「仕事と私生活（家事含む）の両立困難」「キャリアアップしたいため」などとなっている。「非常勤・アルバイト」では「キャリアアップしたいため」が34.4%ともっとも



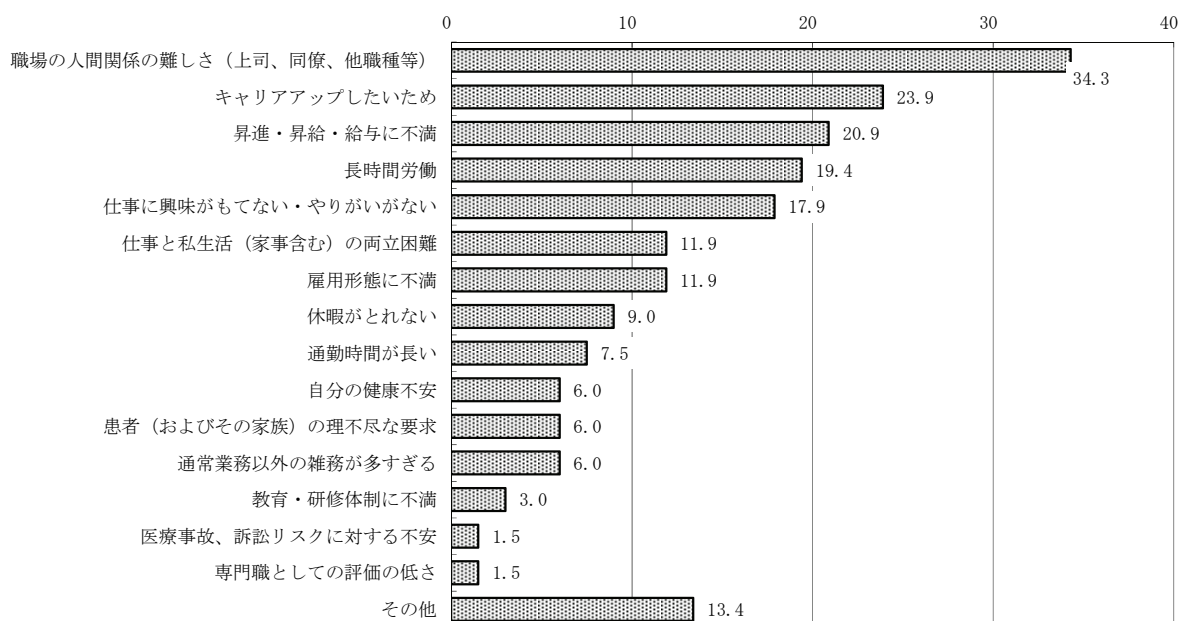
多く、次いで、「昇進・昇給・給与に不満」「職場の人間関係の難しさ（上司、同僚、他職種等）」「雇用形態に不満」などとなっている（図表 4-7-3）。

図表 4-7-1：異動についての考え方（単位＝％）〔病院事務職員調査〕

	n	考えている	たまに考えている	考えていない	不明	異動検討あり計
計	128	18.0	34.4	42.2	5.5	52.4
<配属>						
総務、会計関係	41	36.6	34.1	22.0	7.3	70.7
医事関係	49	12.2	32.7	49.0	6.1	44.9
診療科補助	28	3.6	35.7	60.7	0.0	39.3
<勤務形態>						
常勤	49	30.6	36.7	28.6	4.1	67.3
非常勤・アルバイト	70	11.4	34.3	47.1	7.1	45.7
<役職>						
役職あり	21	19.0	33.3	38.1	9.5	52.3
役職なし	97	17.5	34.0	43.3	5.2	51.5
<病院配属経験年数>						
3年未満	46	13.0	34.8	47.8	4.3	47.8
3～5年未満	32	31.3	34.4	28.1	6.3	65.7
5年以上	48	14.6	33.3	45.8	6.3	47.9
<週労働時間>						
50時間未満	99	16.2	33.3	45.5	5.1	49.5
50～60時間未満	21	33.3	38.1	23.8	4.8	71.4
60時間以上	6	0.0	33.3	50.0	16.7	33.3
<年次有給休暇取得日数>						
0～3日	18	27.8	27.8	38.9	5.6	55.6
4～6日	39	17.9	30.8	46.2	5.1	48.7
7日以上	68	16.2	36.8	41.2	5.9	53.0
<年収>						
200万円未満	63	11.1	34.9	50.8	3.2	46.0
200～400万円未満	27	18.5	44.4	33.3	3.7	62.9
400万円以上	33	33.3	27.3	33.3	6.1	60.6

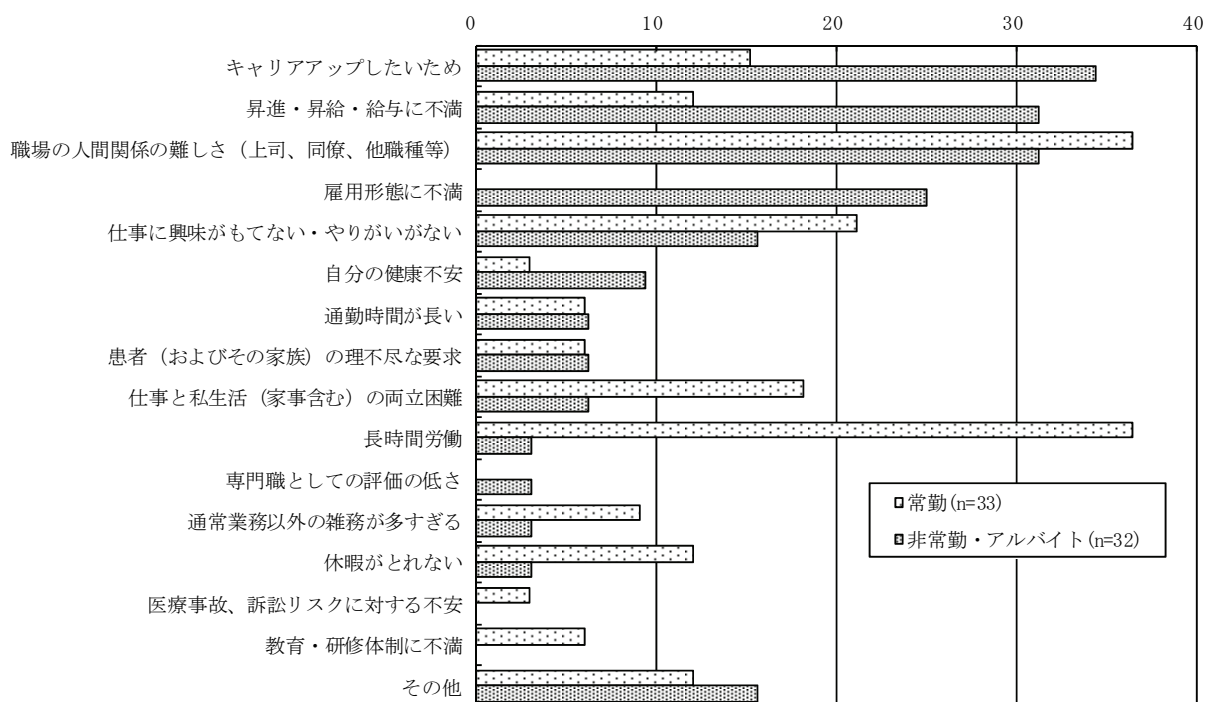
※「異動検討あり」は「考えている」「たまに考えている」の合計。

図表 4-7-2：異動を考える理由（n=67、複数回答、単位＝％）〔病院事務職員調査〕



※異動を考えている者（「考えている」「たまに考えている」と回答した者を対象に集計）。

図表 4-7-3：勤務形態別にみた異動を考える理由（複数回答、単位＝％）〔病院事務職員調査〕



※異動を考えている者（「考えている」「たまに考えている」）と回答した者を対象に集計。

## 第5章 職種間の比較

### 1. 職種ごとの回答者属性

#### (1)勤務形態

勤務形態をみると、医師は、「常勤」が60.0%、「非常勤」28.2%、「研修医」10.0%などとなっている。「常勤以外」（「非常勤」「研修医」「その他」の合計）は38.8%となっている（図表5-1-1）。

看護師はほとんどが「常勤」である。医療技術職員では、「常勤」33.1%、「非常勤」56.0%などとなっており、「常勤以外」（「非常勤」「アルバイト」「その他」の合計）は66.8%となっている。これを職種別にみると、「常勤」の割合が高いのは「診療放射線技師」（66.7%）であり、他の職種をみると、「薬剤師」40.0%、「臨床検査技師」34.8%、「理学療法士等」33.3%などとなっている。

病院事務職員では、「常勤」38.3%、「非常勤」51.6%などとなっており、「常勤以外」（「非常勤」「アルバイト」「その他」の合計）は61.0%となっている。これを配属別にみると、「常勤」の割合が高いのは「総務関係・会計関係」（58.5%）、「医事関係」（40.8%）であり、「常勤以外」をみると、「診療科補助」が89.3%と高くなっている（図表5-1-2）。

図表 5-1-1：医師の勤務形態（単位＝％）〔医師調査〕

	n	常勤	非常勤	研修医	その他	不明	常勤以外計
医師・計	170	60.0	28.2	10.0	0.6	1.2	38.8

※ここでの「常勤以外」は「非常勤」「研修医」「その他」の合計。

図表 5-1-2：看護師、医療技術職員、病院事務職員の勤務形態（単位＝％）

	n	常勤	非常勤	アルバイト	その他	不明	常勤以外計
看護師・計	379	99.7	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0
医療技術職員・計	166	33.1	56.0	1.8	9.0	0.0	66.8
<職種別>							
臨床検査技師	46	34.8	39.1	4.3	21.7	0.0	65.1
診療放射線技師	21	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3
薬剤師	20	40.0	55.0	0.0	5.0	0.0	60.0
理学療法士等	39	33.3	61.5	0.0	5.1	0.0	66.6
その他	38	7.9	84.2	2.6	5.3	0.0	92.1
病院事務職員・計	128	38.3	51.6	3.1	6.3	0.8	61.0
<配置部署別>							
総務関係・会計関係	41	58.5	41.5	0.0	0.0	0.0	41.5
医事関係	49	40.8	49.0	2.0	6.1	2.0	57.1
診療科補助	28	10.7	67.9	7.1	14.3	0.0	89.3
その他	9	22.2	55.6	11.1	11.1	0.0	77.8

※ここでの「常勤以外」は「非常勤」「アルバイト」「その他」の合計。

#### (2)性別

病院全体の男女比をみると、「男性」26.6%、「女性」72.6%となっており、7割は女性で占められている。これを職種ごとにみると、医師は、「男性」72.4%、「女性」25.9%となっており、男性が7割を占めている。これを勤務形態別にみると、「非常勤・研修医」では「男性」56.9%、「女性」40.0%となっており、おおよそ半々に近い比率であるが、「常勤」では、「男性」が83.3%を占めている。

一方、看護師は、「女性」94.7%とほとんどが女性である。

医療技術職員では、「女性」69.9%となっており、7割が女性で占められている。これを職種別にみると、「診療放射線技師」での「男性」の割合が71.4%と高く、「薬剤師」も「男性」が55.0%を占めている。女性の割合が高いのは「臨床検査技師」（80.4%）、「理学療法士等」（74.4%）、「その他」（89.5%）となっている。

病院事務職員も、「女性」72.7%となっており、7割が女性で占められている。これを配属別にみると、「総務、会計関係」での「男性」の割合が39.0%と高く、「医事関係」も「男性」が32.7%を占めている。「診療科補助」「その他」はほとんどが女性である（図表5-1-3）。

図表 5-1-3：各職種の男女比（単位＝％）

	n	男性	女性	不明	
病院全体・計	843	26.6	72.6	0.8	
医師・計	170	72.4	25.9	1.8	
常勤	102	83.3	15.7	1.0	
非常勤・研修医	65	56.9	40.0	3.1	
看護師・計	379	5.0	94.7	0.3	
医療技術職員・計	166	29.5	69.9	0.6	
医療技術職員	臨床検査技師	46	19.6	80.4	0.0
	常勤	16	31.3	68.8	0.0
	非常勤・アルバイト	20	20.0	80.0	0.0
	診療放射線技師	21	71.4	28.6	0.0
	常勤	14	78.6	21.4	0.0
	非常勤・アルバイト	7	57.1	42.9	0.0
	薬剤師	20	55.0	45.0	0.0
	常勤	8	87.5	12.5	0.0
	非常勤・アルバイト	11	36.4	63.6	0.0
	理学療法士等	39	25.6	74.4	0.0
	常勤	13	23.1	76.9	0.0
	非常勤・アルバイト	24	29.2	70.8	0.0
その他	38	7.9	89.5	2.6	
常勤	3	0.0	100.0	0.0	
非常勤・アルバイト	33	9.1	87.9	3.0	
病院事務職員・計	128	25.8	72.7	1.6	
病院事務職員	総務、会計関係	41	39.0	58.5	2.4
	常勤	24	62.5	37.5	0.0
	非常勤・アルバイト	17	5.9	88.2	5.9
	医事関係	49	32.7	65.3	2.0
	常勤	20	75.0	25.0	0.0
	非常勤・アルバイト	25	4.0	92.0	4.0
	診療科補助	28	3.6	96.4	0.0
	常勤	3	0.0	100.0	0.0
	非常勤・アルバイト	21	4.8	95.2	0.0
	その他	9	0.0	100.0	0.0
	常勤	2	0.0	100.0	0.0
	非常勤・アルバイト	6	0.0	100.0	0.0

## 2. 医療従事者の勤務状況

### (1) 研究関係

過去1年間の学会・研究会・院外研修会等の参加状況を職種ごとにみると、参加が「ある」とする割合は医師が95.3%、看護師が69.7%、医療技術職員が71.7%となっている。医師のほとんどが参加しているが、看護師、医療技術職員も7割が参加している。医療技術職員

を職種別にみると、「診療放射線技師」「理学療法士等」「薬剤師」などがとくに高い。参加回数の平均値をみると、医師が 5.9 回、医療技術職員が 5.5 回などとなっている（医療技術職員を職種別にみると、「診療放射線技師」「理学療法士等」がとくに高い）（図表 5-2-1）。

次に、過去 3 年間の「学会・研究会での論文発表」「学会等の学術雑誌への投稿論文提出」をみると、「学会・研究会での論文発表」が「ある」者は、医師が 76.5%、看護師が 29.6%、医療技術職員が 37.3%となっている。論文発表回数の平均値は医師 6.2 回、看護師 1.3 回、医療技術職員 3.3 回である。一方、「学会等の学術雑誌への投稿論文提出」が「ある」者は、医師が 60.6%、看護師が 11.9%、医療技術職員が 18.1%となっている。投稿論文提出の回数の平均値は医師 4.2 回、看護師 1.1 回、医療技術職員 1.6 回である（図表 5-2-2）。

図表 5-2-1：過去 1 年間の学会・研究会・院外研修会等の参加有無、及び参加回数（単位＝％）

	n	過去 1 年間の学会・研究会・院外研修会等の参加有無			n	過去 1 年間の学会・研究会・院外研修会等の参加回数								
		ある	ない	不明		1～2 回	3～5 回未満	5～10 回未満	10 回以上	不明	5回以上計	平均	標本標準偏差	
医師・計	170	95.3	3.5	1.2	162	17.3	25.9	31.5	24.1	1.2	55.6	5.9	4.3	
看護師・計	379	69.7	30.3	0.0	264	63.6	25.0	7.6	3.0	0.8	10.6	2.6	2.9	
医療技術職員・計	166	71.7	22.3	6.0	119	24.4	26.9	29.4	19.3	0.0	48.7	5.5	5.6	
<職種>														
医療技術職員	臨床検査技師	46	67.4	30.4	2.2	18	19.4	29.0	29.0	22.6	0.0	51.6	5.2	3.4
	診療放射線技師	21	100.0	0.0	0.0	27	0.0	23.8	57.1	19.0	0.0	76.1	6.3	3.3
	薬剤師	20	85.0	10.0	5.0	23	35.3	23.5	17.6	23.5	0.0	41.1	5.1	3.8
	理学療法士等	39	97.4	2.6	0.0	37	23.7	31.6	26.3	18.4	0.0	44.7	6.4	8.3
	その他	38	28.9	50.0	21.1	11	72.7	18.2	0.0	9.1	0.0	9.1	2.4	2.9

※「過去 1 年間の学会・研究会・院外研修会等の参加回数」は参加経験「あり」を対象に集計。

図表 5-2-2：過去 3 年間の学会・研究会での論文発表及び、学会等の学術雑誌への投稿論文の提出の状況（単位＝％）

	n	学会・研究会での論文発表				学会等の学術雑誌への投稿論文提出									
		論文発表の有無			無回答	論文発表の回数			投稿論文提出の有無				投稿論文提出の回数		
		ある	ない	無回答		n	平均	標本標準偏差	n	ある	ない	無回答	n	平均	標本標準偏差
医師・計	170	76.5	22.4	1.2	130	6.2	6.1	170	60.6	38.2	1.2	103	4.2	6.8	
看護師・計	379	29.6	69.9	0.5	112	1.3	0.6	379	11.9	86.3	1.8	45	1.1	0.4	
医療技術職員・計	166	37.3	56.0	6.6	62	3.3	2.7	166	18.1	73.5	8.4	30	1.6	1.0	
<職種>															
医療技術職員	臨床検査技師	46	39.1	56.5	4.3	18	2.9	1.7	46	19.6	73.9	6.5	9	1.7	0.9
	診療放射線技師	21	61.9	38.1	0.0	13	2.7	2.8	21	9.5	90.5	0.0	2	2.5	1.5
	薬剤師	20	35.0	65.0	0.0	7	2.6	1.3	20	15.0	85.0	0.0	3	1.3	0.5
	理学療法士等	39	51.3	46.2	2.6	20	4.5	3.6	39	33.3	61.5	5.1	13	1.4	0.5
	その他	38	7.9	71.1	21.1	3	2.0	0.8	38	5.3	71.1	23.7	2	3.0	2.0

※論文発表、投稿論文提出の回数の平均値は、実施ありの者を対象に集計。

## (2)多職種カンファレンス関係

多職種カンファレンスが「ある」としているのは、医師 83.5%、看護師 88.7%、医療技術職員 47.6%となっている。医療技術職員を職種別にみると、「ある」とする割合は「理学療法士等」で 79.5%と高く、次いで、「薬剤師」65.0%、「診療放射線技師」42.9%などとなっている。多職種カンファレンスがある者の月あたりの回数をみると、医師が 5.6 回、看護師が 4.5 回、医療技術職員が 4.3 回となっている。月あたり 4～5 回、多職種カンファレンスが実施されているようである（図表 5-2-3）。

図表 5-2-3：多職種カンファレンスの有無、及び月あたり回数（単位＝％）

	n	多職種カンファレンスの有無			n	月あたり多職種カンファレンス回数							平均	標準偏差
		ある	ない	不明		1回	2回	3～4回	5～10回未満	10回以上	不明			
医師・計	170	83.5	14.1	2.4	142	8.5	13.4	42.3	19.0	12.7	4.2	5.6	5.6	
看護師・計	379	88.7	10.3	1.1	336	29.5	17.6	27.4	13.1	10.1	2.4	4.5	5.6	
医療技術職員・計	166	47.6	42.2	10.2	79	19.0	12.7	40.5	16.5	10.1	1.3	4.3	3.2	
<職種>														
医療臨床検査技師	46	26.1	60.9	13.0	12	33.3	25.0	33.3	0.0	8.3	0.0	3.8	5.0	
医療診療放射線技師	21	42.9	57.1	0.0	9	44.4	22.2	33.3	0.0	0.0	0.0	2.2	1.3	
医療薬剤師	20	65.0	35.0	0.0	13	15.4	0.0	76.9	7.7	0.0	0.0	3.8	1.6	
医療理学療法士等	39	79.5	17.9	2.6	31	3.2	9.7	35.5	32.3	19.4	0.0	5.4	2.8	
医療その他	38	34.2	42.1	23.7	13	30.8	15.4	30.8	7.7	7.7	7.7	3.5	2.8	

※「月当たり多職種カンファレンス回数」は多職種カンファレンスが「ある」者を対象に集計。

### (3)若年指導関係

調査では、1日あたりの若手（新人）の指導時間の平均（以下、「若手指導時間」と略す）を年度当初、過去1カ月の2時点で尋ねている。その平均値を職種別に比較すると、医師で「年度当初」91.6分、「過去1カ月」81.7分となっており、看護師では「年度当初」101.3分、「過去1カ月」40.1分となっており、医療技術職員が「年度当初」44.8分、「過去1カ月」18.6分となっている。看護師と医療技術職員はほぼ1年を経て指導時間が半分以上短縮しているが、医師は10分程度しか短くなっていないことがわかる（図表 5-2-4）。

医師調査では、「一人前になるための期間」として、「現在、独立して診療・治療を行っているか」について尋ねている（看護師調査では「看護業務を行っているか」、医療技術職員調査では「業務を行っているか」と表記）。それによれば、看護師が「独立して一人で看護業務を行っている」とする割合（以下、「独立して仕事ができる割合」と略す）は、57.0%ともっとも高い（医師はその割合が43.5%、医療技術職員が36.7%）。独立して仕事ができる割合が看護業務では高いことがうかがえる。

これを医師免許取得後（看護師、医療技術職員の場合、資格取得後）の経験年数別にみると、独立して仕事ができる割合は、3年未満ではほとんどいないが、看護師、医療技術職員では3年以降にその割合が高まっている。一方、医師では、「3～5年未満」で6.3%であり、「5～10年未満」25.0%、「10年以上」65.3%となっており、医師が一人前になるための期間が長いことがうかがえる（ただし、独立して仕事ができる割合に「たまに上司や先輩の助力を得て診察・治療を行っている」を加えると、「3～5年未満」（62.6%）、「5～10年未満」（84.4%）、「10年以上」99.0%となっており、助力を含めれば3年以上で診療・治療が行えているとする割合は高まる）（図表 5-2-5）。

調査では、「独立して一人で診察・治療を行っている」「たまに上司や先輩の助力を得て診察・治療を行っている」と回答した者を対象に、一人前になるための期間を尋ねている。その平均値を年換算でみると、医師は7.2年、看護師は2.9年、医療技術職員が2.8年となっている。医師について診療科別にみると、もっとも期間が長いのは、「救急科、救命救急、集中治療部」8.7年、「外科」8.4年などとなっている（図表 5-2-6）。

図表 5-2-4 : 1日あたりの若手指導時間の平均 (単位=%)

		n	0時間	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5時間以上	不明	平均(分)	標準偏差	時間換算(/60)
医師	年度当初・計	170	18.2	15.9	24.1	15.9	10.6	3.5	5.9	5.9	91.6	95.4	1.5
	過去1ヵ月・計	170	18.2	22.4	25.9	12.9	4.7	2.4	6.5	7.1	81.7	101.6	1.4
看護師	年度当初・計	379	28.0	16.1	17.9	9.5	5.3	6.3	10.6	6.3	101.3	130.7	1.7
	過去1ヵ月・計	379	28.2	40.9	14.8	4.5	3.4	1.3	1.1	5.8	40.1	59.9	0.7
医療技術職員	年度当初・計	166	58.4	8.4	8.4	4.8	2.4	2.4	4.2	10.8	44.8	94.5	0.7
	過去1ヵ月・計	166	62.0	14.5	6.6	2.4	3.0	0.0	0.0	11.4	18.6	40.0	0.3

※看護師調査のみ、「後輩指導時間」と表記している。

図表 5-2-5 : 現在、独立して一人で診療・治療(業務)を行っているか (単位=%)

	医師					看護師					医療技術職員				
	n	独立して一人で行っている	たまたまに上司や先輩の力を得て診察・治療の助を行っている	まだ一人では診察・治療をこなせていない	不明	n	独立して一人で行っている	たまたまに上司や先輩の力を得て看護業務を行っている	まだ一人では看護業務をこなせていない	不明	n	独立して一人で行っている	たまたまに上司や先輩の力を得て業務を行っている	まだ一人では業務をこなせていない	不明
計	170	43.5	40.0	14.1	2.4	379	57.0	37.7	1.3	4.0	166	36.7	42.2	12.0	9.0
<経験年数>															
3年未満	17	0.0	23.5	76.5	0.0	56	1.8	91.1	7.1	0.0	21	0.0	66.7	33.3	0.0
3～5年未満	16	6.3	56.3	37.5	0.0	74	40.5	56.8	1.4	1.4	29	34.5	41.4	20.7	3.4
5～10年未満	32	25.0	59.4	9.4	6.3	79	58.2	35.4	0.0	6.3	27	40.7	44.4	7.4	7.4
10年以上	95	65.3	33.7	0.0	1.1	140	86.4	8.6	0.0	5.0	49	59.2	30.6	4.1	6.1

※医師調査では、「現在、独立して診療・治療を行っているか」について尋ねているが、看護師調査では「看護業務を行っているか」、医療技術職員調査では「業務を行っているか」と表記している。経験年数は、医師の場合、医師免許取得後の経験年数、看護師の場合、看護資格取得後の経験年数、医療技術職員の場合、医療技術者の資格を取得後の経験年数のこと。

図表 5-2-6 : 一人前になるための期間 (単位=%)

		n	平均(月)	標準偏差	平均値(年)
医師	医師・計	142	85.9	39.6	7.2
	<診療科>				
	内科	41	79.5	43.8	6.6
	外科	31	100.4	41.2	8.4
	小児科・新生児科、産科婦人科	22	85.7	36.3	7.1
	救急科、救命救急、集中治療部	3	104.0	22.6	8.7
	放射線科	7	89.1	28.6	7.4
	麻酔科蘇生科	14	60.9	27.4	5.1
	その他(皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科)	24	89.5	33.6	7.5
看護師	看護師・計	359	34.4	16.6	2.9
	<配属>				
	一般病棟、精神科病棟	261	34.9	17.1	2.9
	救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	58	33.6	15.5	2.8
	外来部門 管理部門、その他	20 20	33.9 31.4	13.7 15.0	2.8 2.6
医療技術職員	医療技術職員・計	131	33.0	27.7	2.8
	<職種>				
	臨床検査技師	37	25.0	19.9	2.1
	診療放射線技師	17	51.2	37.1	4.3
	薬剤師	16	54.4	35.1	4.5
	理学療法士等 その他	35 25	28.8 24.2	14.0 25.5	2.4 2.0

※独立または助力を得て業務を行っている者を対象に集計。

(4) 医師の宿日直、及び看護師の交代勤務、医療技術職員の夜勤の状況

医師の宿日直の状況をみると、「日直」があるのは 66.5%、「宿直」があるのが 73.5%となっており、6～7割は宿日直がある。これを月当たりの回数別にみると宿直が 1.8回、日直が 2.6回となっている（図表 5-2-7）。

次に、看護師の交代勤務の状況をみると、「二交代制・変則二交代制」が 66.0%、「三交代制・変則三交代制」が 16.4%などとなっている。「交代勤務あり」（「二交代制・変則二交代制」、「三交代制・変則三交代制」の合計）は、82.4%などとなっている（図表 5-2-8）。「三交代制・変則三交代制」をしている者について、1ヵ月あたりの夜勤回数・準夜勤回数の合計をみると、平均値は 9.2回であり、その分布をみると「5～10回未満」が 46.8%ともっとも割合が高く、次いで、「10～15回未満」が 38.7%などとなっている（図表 5-2-9）。一方、二交代制の夜勤回数をみると、その平均値は 3.8回となっている。二交代制勤務の所定労働時間別にみると、その平均値は、「12時間」で 4.8回ともっとも高くなっており、「14時間」3.8回、「16時間」3.6回となっている（図表 5-2-10）。

医療技術職員の月あたりの夜勤の有無についてみると、「ある」とする者が 32.5%となっている。これを職種別にみると、「ある」とする割合は、「薬剤師」が 85.0%、「診療放射線技師」が 81.0%、「臨床検査技師」が 43.5%などとなっている。「夜勤」が「ある」者について、1ヵ月あたりの夜勤回数をみると、夜勤回数の平均値は 1.5回となっている。職種別にみると、平均値は「臨床検査技師」2.1回、「診療放射線技師」1.4回、「薬剤師」1.0回となっている（図表 5-2-11）。

以上を踏まえると、総じていえば、医師の 6～7割は宿日直がある状態で、平均的にみて、月に日直を 1～2回、宿直を 2～3回行っている。看護師は、二交代制で 6割であり、三交代制も 2割弱いる。回数でいえば、平均的にみて、二交代制であれば月に 4回程度行っており、三交代制であれば夜勤・準夜勤の合計回数として 9回ほど行っている。医療技術職員で夜勤があるのは、主に「薬剤師」、「診療放射線技師」であり、「臨床検査技師」は半数弱程度が夜勤を行っている。回数でみると、平均でみて、月あたり 1回程度（「臨床検査技師」で 2回程度）となっている。

図表 5-2-7：宿日直の有無、及び月あたり回数（単位＝％）〔医師調査〕

	宿日直の有無				月あたり宿日直の回数							平均 (回)	標本標 準偏差
	n	ある	ない	不明	n	0回	1回	2回	3～4 回	5～8 回	不明		
日直	170	66.5	31.8	1.8	113	2.7	55.8	23.9	12.4	4.4	0.9	1.8	1.3
宿直	170	73.5	25.9	0.6	125	0.8	29.6	26.4	30.4	12.8	0.0	2.6	1.7

※月あたり宿日直回数は宿直、日直がそれぞれある者を対象に集計。



図表 5-2-8 : 交代制勤務の有無 (単位=%) [看護師調査]

	n	夜勤はない	夜勤はあるが現在は夜勤をしていない	三交代制・変則三交代制	二交代制・変則二交代制	その他	不明	交代勤務あり
看護師	379	13.7	2.1	16.4	66.0	1.1	0.8	82.4

図表 5-2-9 : 三交代制夜勤・準夜勤合計回数 (単位=%) [看護師調査]

	n	5回未満	5~10回未満	10~15回未満	15~20回未満	20回以上	不明	平均(回)	標本標準偏差
三交代制の回数	62	8.1	46.8	38.7	1.6	1.6	3.2	9.2	3.1

図表 5-2-10 : 二交代制の夜勤回数 (単位=%) [看護師調査]

	n	1~3回	4回	5回以上	不明	平均(回)	標本標準偏差
二交代制の回数	250	29.6	52.8	16.0	1.6	3.8	1.1
<二交代制勤務の所定労働時間>							
1 2時間	28	25.0	10.7	64.3	0.0	4.8	1.8
1 4時間	21	38.1	42.9	14.3	4.8	3.8	0.9
1 6時間	192	28.6	61.5	9.4	0.5	3.6	0.9

図表 5-2-11 : 夜勤の有無 (単位=%) [医療技術職員調査]

	n	夜勤の有無			n	月あたり夜勤回数				
		ある	ない	不明		1回	2回	3回	平均	標本標準偏差
計	166	32.5	65.7	1.8	54	53.7	42.6	3.7	1.5	0.6
<職種>										
臨床検査技師	46	43.5	56.5	0.0	20	5.0	85.0	10.0	2.1	0.4
診療放射線技師	21	81.0	19.0	0.0	17	64.7	35.3	0.0	1.4	0.5
薬剤師	20	85.0	15.0	0.0	17	100.0	0.0	0.0	1.0	0.0
理学療法士等	39	0.0	97.4	2.6	-	-	-	-	-	-
その他	38	0.0	94.7	5.3	-	-	-	-	-	-

## (5)業務の負担感

業務の負担感を職種ごとにみると、いずれの職種も「通常業務以外の業務（書類作成等）に負担を感じる割合がもっとも高い（とくに、看護師は80.0%が「負担あり」と回答しており、医師も68.2%が感じている）。次いで、医師では、「宿日直」「患者・家族への対応（クレーム含む）」などとなっており、看護師では、「交代勤務」「研究（学会・研究会への参加及びそのための準備を含む）」などとなっており、医療技術職員では、「研究（学会・研究会への参加及びそのための準備を含む）」「通常業務」の割合が高くなっている。

一方、「負担なし」の割合に着目すると、医師では、「若手医師に対する教育指導」「研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間」「カンファレンス」の割合が高い。看護師では、「カンファレンス」「通常業務」「若手（新人）に対する教育指導」などが高い。医療技術職員では、「通常業務」「研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間」「若手（新人）に対する教育指導」などが高くなっている（図表 5-2-12）。

図表 5-2-12：職種別にみた業務負担感（単位＝％）

	医師 (n=170)				看護師 (n=379)				医療技術職員 (n=166)			
	負担あり計	どちらとも言えない	負担なし計	無回答	負担あり計	どちらとも言えない	負担なし計	無回答	負担あり計	どちらとも言えない	負担なし計	無回答
通常業務以外の業務（書類作成等）	68.2	22.9	7.6	1.2	80.0	16.1	2.9	1.1	45.2	27.1	11.4	16.3
宿日直〔交代制勤務・交代制勤務の夜勤〕	39.5	35.3	19.4	5.9	61.5	18.2	14.3	6.1	13.2	31.3	18.6	36.7
患者・家族への対応（クレーム含む）	38.2	42.4	14.1	5.3	57.0	29.0	11.8	2.1	19.9	40.4	13.8	25.9
診療（入院診療・外来診療）〔通常業務〕	32.9	40.0	25.9	1.2	51.8	27.7	20.1	0.5	30.1	33.1	28.3	8.4
研究（学会・研究会への参加及びその為の準備を含む）	31.8	37.6	26.5	4.1	63.5	27.4	6.0	2.9	34.9	27.7	15.7	21.7
患者・家族からの暴言・暴力・性的嫌がらせへの対応	31.2	45.3	19.4	4.1	58.0	30.6	8.1	3.2	14.4	41.6	17.4	26.5
カンファレンス	29.4	39.4	30.6	0.6	38.0	32.7	27.2	2.1	13.8	39.2	19.8	27.1
若手医師〔若手（新人）〕に対する教育指導	21.1	41.8	34.1	2.9	43.8	36.4	15.8	4.0	21.7	34.9	20.4	22.9
研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間	15.3	48.8	33.6	2.4	51.5	37.2	10.0	1.3	20.5	34.9	26.5	18.1

※1：「負担あり計」は「非常に負担に感じる」「やや負担に感じる」の合計。「負担なし計」は「ほとんど負担に感じない」「あまり負担に感じない」の合計。「負担あり計」の上位3位、「負担なし」の上位3位に網。調査票上、医師調査の「宿日直」は、看護師調査では「交代制勤務」、「医療技術職員」では「交代制勤務の夜勤」と表記。医師調査の「診療」は、看護師調査、医療技術職員調査では「通常業務」と表記。医師調査の「若手医師に対する教育指導」は、看護師調査、医療技術職員調査では「若手（新人）に対する教育指導」と表記されている。

※2：医師調査の「負担あり計」で降順に並べ替えている。

### 3. 労働時間、休日、年次有給休暇取得日数

#### (1) 週あたり労働時間

1 週間あたりの実際の労働時間（時間外労働（残業）時間を含む）を職種ごとにみると、その平均時間は、医師で 56.4 時間となっている。その分布をみると、「60～70 時間未満」が 25.3% ともっとも割合が高く、次いで、「50～60 時間未満」（19.4%）、「80 時間以上」（14.7%）、「70～80 時間未満」（12.9%）などとなっている。「60 時間以上」（「60～70 時間未満」「70～80 時間未満」「80 時間以上」の合計）の割合は 52.9% である。診療科別にみると、「60 時間以上」の割合は、「放射線科」、「小児科・新生児科、産科婦人科」、「救急科、救命救急、集中治療部」などで高い。

看護師では、週あたり労働時間の平均時間は 45.2 時間となっている。その分布をみると、「50～60 時間未満」が 33.8% ともっとも割合が高く、次いで、「40～50 時間未満」（30.9%）、「60～70 時間未満」（11.3%）などとなっている。「60 時間以上」の割合は 13.9% である。配属別にみると、「60 時間以上」の割合は、「一般病棟、精神科病棟」が 18.3% ともっとも高くなっている。

医療技術職員では、週あたり労働時間の平均時間で 40.6 時間であり、分布をみると、「40～50 時間未満」が 26.5% ともっとも割合が高く、次いで、「20～40 時間未満」（23.5%）、「50～60 時間未満」（16.9%）などとなっている。「60 時間以上」の割合は 15.0% である。職種別にみると、「薬剤師」「理学療法士等」が高い。

病院事務職員では、平均時間で 37.1 時間となっており、その分布をみると、「20～40 時間」が 41.4% ともっとも割合が高く、次いで、「40～50 時間未満」が 27.3%、「50～60 時間未満」(16.4%)、「20 時間未満」(8.6%) などとなっている。これを配属別にみると、平均値が高いのは「総務、会計関係」(39.9 時間)、「医事関係」(37.0 時間) などとなっている(図表 5-3-1)。

職種ごとに平均値を比較すると、医師が 56.4 時間でもっとも労働時間が長い。「60 時間以上」の割合でみても、医師は 52.9% ともっとも高くなっている。

図表 5-3-1：週あたり労働時間 (単位=%)

		n	20時間未満	20～40時間未満	40～50時間未満	50～60時間未満	60～70時間未満	70～80時間未満	80時間以上	不明	60時間以上計	平均(時間)	標本標準偏差
医師・計		170	10.0	2.4	10.6	19.4	25.3	12.9	14.7	4.7	52.9	56.4	21.7
＜診療科別＞													
医師	内科	45	11.1	0.0	15.6	17.8	15.6	15.6	17.8	6.7	49.0	56.5	21.2
	外科	35	11.4	5.7	0.0	22.9	28.6	14.3	8.6	8.6	51.5	54.1	22.2
	小児科・新生児科、産科婦人科	24	8.3	0.0	8.3	0.0	33.3	20.8	25.0	4.2	79.1	65.6	23.5
	救急科、救命救急、集中治療部	5	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	40.0	20.0	60.0	71.3	14.3
	放射線科	10	10.0	0.0	10.0	0.0	60.0	10.0	10.0	0.0	80.0	57.6	18.2
	麻酔科蘇生科	18	0.0	11.1	11.1	22.2	50.0	5.6	0.0	0.0	55.6	53.1	13.0
	その他(皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科)	33	15.2	0.0	18.2	36.4	6.1	9.1	15.2	0.0	30.4	51.7	23.0
看護師・計		379	10.6	3.2	30.9	33.8	11.3	1.8	0.8	7.7	13.9	45.2	15.7
＜配属＞													
看護師	一般病棟、精神科病棟	274	9.1	3.3	27.7	33.2	14.6	2.6	1.1	8.4	18.3	46.8	15.4
	救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	63	17.5	1.6	36.5	34.9	3.2	0.0	0.0	6.3	3.2	40.5	17.0
	外来部門	21	9.5	0.0	57.1	23.8	0.0	0.0	0.0	9.5	0.0	40.8	12.6
	管理部門、その他	21	9.5	9.5	28.6	47.6	4.8	0.0	0.0	0.0	4.8	44.2	14.8
医療技術職員・計		166	12.7	23.5	26.5	16.9	12.0	3.0	0.0	5.4	15.0	40.6	16.6
＜職種＞													
医療技術職員	臨床検査技師	46	4.3	28.3	52.2	4.3	4.3	2.2	0.0	4.3	6.5	39.2	11.4
	診療放射線技師	21	28.6	0.0	28.6	28.6	4.8	9.5	0.0	0.0	14.3	40.0	22.9
	薬剤師	20	10.0	0.0	15.0	35.0	35.0	5.0	0.0	0.0	40.0	50.7	15.6
	理学療法士等	39	17.9	15.4	10.3	28.2	25.6	2.6	0.0	0.0	28.2	44.5	17.7
	その他	38	10.5	50.0	15.8	5.3	0.0	0.0	0.0	18.4	0.0	31.6	10.9
病院事務職員・計		128	8.6	41.4	27.3	16.4	4.7	0.0	0.0	1.6	4.7	37.1	12.6
＜配属＞													
病院事務職員	総務、会計関係	41	7.3	31.7	26.8	29.3	4.9	0.0	0.0	0.0	4.9	39.9	12.6
	医事関係	49	10.2	38.8	24.5	16.3	6.1	0.0	0.0	4.1	6.1	37.0	13.3
	診療科補助	28	10.7	53.6	35.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.1	10.0
	その他	9	0.0	66.7	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	35.7	13.1

## (2) 休日

週 5 日勤務の者(すなわち、制度上で週休 2 日制の者)について、過去 1 ヶ月でみて、週あたりで実際に何日休めているかをみると、医師は、「週 1 日」が 53.6% でもっとも割合が高く、次いで「週 0 日」(24.6%)、「週 2 日」21.0% などとなっている。「週 1 日以下」(「週 1 日」「週 0 日」の合計)は 78.3% となっている。一方、看護師はその割合が 7.1%、医療技術職員が 14.9%、病院事務職員が 9.4% となっている(図表 5-3-2)

図表 5-3-2 : 過去 1 ヶ月でみた週 5 日勤務者の実際に休めた休日日数 (単位=%)

	n	週あたりに実際に休めた休日日数						週 1 日 以下計
		週 0 日	週 1 日	週 2 日	週 3 日	週 4 日 以上	不明	
医師	138	24.6	53.6	21.0	0.0	0.7	0.0	78.3
看護師	311	0.3	6.8	91.3	0.0	1.3	0.3	7.1
医療技術職員	154	3.2	11.7	79.2	0.6	3.9	1.3	14.9
<職種>								
臨床検査技師	44	0.0	13.6	79.5	2.3	2.3	2.3	13.6
診療放射線技師	21	0.0	14.3	81.0	0.0	4.8	0.0	14.3
薬剤師	20	0.0	10.0	85.0	0.0	5.0	0.0	10.0
理学療法士等	34	5.9	14.7	73.5	0.0	2.9	2.9	20.6
その他	33	9.1	6.1	78.8	0.0	6.1	0.0	15.2
病院事務職員	127	5.5	3.9	89.8	0.0	0.8	0.0	9.4
<配属>								
総務、会計関係	41	7.3	4.9	87.8	0.0	0.0	0.0	12.2
医事関係	49	8.2	0.0	91.8	0.0	0.0	0.0	8.2
診療科補助	27	0.0	7.4	88.9	0.0	3.7	0.0	7.4
その他	9	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※週5日勤務の者を対象に集計。

### (3)年次有給休暇取得日数

調査では、職場で年次有給休暇を取る場合の実際の申請方法について尋ねている。それによれば、「書面で届ける」とする割合がもっとも高いのは病院事務職員で 73.4%となっており、次いで、医療技術職員が 57.8%、看護師が 40.9%、医師が 31.8%となっている。医師は「口頭で申し出をし、許可を得る」とする割合が 43.5%ともっとも割合が高い(図表 5-3-3)。

年次有給休暇の取得日数について「3日以下」(「0日」「1~3日」の合計)の割合を職種ごとにみると、看護師が 54.9%ともっとも高く、次いで、医師が 45.3%となっている(医師は「0日」が 25.9%と他の職種に比べ高い)。

「3日以下」の割合を医師について、診療科別にみると、「救急科、救命救急、集中治療部」「外科」などで高くなっている。看護師では、「一般病棟、精神科病棟」で高い。医療技術職員では、「薬剤師」「臨床検査技師」「理学療法士等」で高くなっている(図表 5-3-4)。

図表 5-3-3 : 年次有給休暇の申請方法 (単位=%)

	n	書面で届け 出る	口頭で申し 出をし、許 可を得る	口頭で申し 出る	同僚に言え ば休める	その他	不明
医師	170	31.8	43.5	10.6	1.8	8.8	3.5
看護師	379	40.9	31.4	1.3	0.3	25.1	1.1
医療技術職員	166	57.8	30.1	6.0	3.6	1.8	0.6
病院事務職員	128	73.4	14.1	6.3	2.3	3.9	0.0

図表 5-3-4 : 年次有給休暇の取得日数 (単位=%)

	n	年次有給休暇取得日数									日数2分類	
		0日	1~3日	4~6日	7~10日	11日~15日	16日~19日	20日	21日以上	不明	3日以下計	7日以上計
医師・計	170	25.9	19.4	25.3	19.4	4.1	1.8	0.6	0.0	3.5	45.3	25.9
医師												
<診療科別>												
内科	45	28.9	17.8	17.8	24.4	6.7	2.2	0.0	0.0	2.2	46.7	33.3
外科	35	31.4	28.6	20.0	11.4	0.0	5.7	0.0	0.0	2.9	60.0	17.1
小児科・新生児科、産科婦人科	24	20.8	16.7	29.2	20.8	4.2	0.0	4.2	0.0	4.2	37.5	29.2
救急科、救命救急、集中治療部	5	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0
放射線科	10	10.0	0.0	40.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0	30.0
麻酔科蘇生科	18	27.8	16.7	44.4	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	44.5	5.6
その他(皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科)	33	27.3	15.2	24.2	27.3	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	42.5	33.4
看護師・計	379	8.7	46.2	27.7	9.0	1.8	1.8	0.3	0.8	3.7	54.9	13.7
看護師												
<配属>												
一般病棟、精神科病棟	274	12.0	52.2	25.5	4.0	0.7	0.4	0.4	0.4	4.4	64.2	5.9
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	63	0.0	33.3	41.3	15.9	1.6	3.2	0.0	3.2	1.6	33.3	23.9
外来部門	21	0.0	23.8	28.6	28.6	9.5	4.8	0.0	0.0	4.8	23.8	42.9
管理部門、その他	21	0.0	28.6	14.3	33.3	9.5	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	57.1
医療技術職員・計	166	6.6	29.5	24.7	21.7	11.4	3.0	0.0	1.2	1.8	36.1	37.3
医療技術職員												
<職種>												
臨床検査技師	46	4.3	34.8	26.1	19.6	8.7	4.3	0.0	0.0	2.2	39.1	32.6
診療放射線技師	21	0.0	19.0	28.6	19.0	14.3	14.3	0.0	4.8	0.0	19.0	52.4
薬剤師	20	20.0	45.0	20.0	10.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	65.0	15.0
理学療法士等	39	5.1	33.3	20.5	23.1	15.4	0.0	0.0	2.6	0.0	38.4	41.1
その他	38	7.9	18.4	23.7	31.6	13.2	0.0	0.0	0.0	5.3	26.3	44.8
病院事務職員・計	128	3.9	10.2	30.5	31.3	14.1	3.9	1.6	2.3	2.3	14.1	53.2
病院事務職員												
<配属>												
総務、会計関係	41	2.4	9.8	39.0	24.4	17.1	2.4	2.4	2.4	0.0	12.2	48.7
医事関係	49	4.1	10.2	30.6	28.6	14.3	8.2	0.0	4.1	0.0	14.3	55.2
診療科補助	28	3.6	10.7	21.4	39.3	14.3	0.0	3.6	0.0	7.1	14.3	57.2
その他	9	0.0	11.1	22.2	55.6	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	55.6

(4)通勤時間と交通手段

通勤時間を職種ごとにみると、「30分以内」「10分以内」「11~30分以内」の合計)とする割合は、医師 87.0%、看護師 85.2%、医療技術職員 71.7%、病院事務職員 69.5%となっている(図表 5-3-5)。

交通手段は、いずれの職種も「自家用車」がもっとも割合が高い(図表 5-3-6)

図表 5-3-5 : 通勤時間 (単位=%)

	n	10分以内	11~30分以内	31分~60分以内	61~90分以内	91分以上	不明	30分以内計	60分以内計
医師	170	33.5	53.5	10.0	1.8	0.6	0.6	87.0	97.0
看護師	379	33.5	51.7	12.9	1.1	0.5	0.3	85.2	98.1
医療技術職員	166	18.1	53.6	25.9	1.2	0.0	1.2	71.7	97.6
病院事務職員	128	12.5	57.0	29.7	0.8	0.0	0.0	69.5	99.2

図表 5-3-6 : 交通手段 (複数回答、単位=%)

	n	徒歩のみ	自転車	バイク	バス	電車・自動車	自家用車	その他	不明
医師	170	18.8	25.9	1.2	1.8	0.6	76.5	0.0	0.6
看護師	379	28.2	33.8	0.5	0.8	0.5	54.9	0.3	0.3
医療技術職員	166	23.5	28.9	2.4	4.2	0.6	58.4	0.0	1.2
病院事務職員	128	18.8	25.0	4.7	3.9	2.3	60.2	0.0	0.0

## (5)生活時間

調査では、「通常勤務の場合、あなたが勤務を終え病院を退出されてから、翌日に病院に出勤するまでの時間（睡眠時間を含む。以下、「生活時間」と略す）は実態として、どのくらいか（直近の月でみて、1日あたりのおおよその生活時間）」などと尋ねている。生活時間の平均値は、医師が10.0時間、看護師11.3時間、医療技術職員12.1時間、病院事務職員13.7時間となっており、医師がもっとも生活時間が短い。

分布をみると、医師は「10～12時間未満」が34.7%ともっとも割合が高く、次いで「8～10時間未満」が28.8%、「12～14時間」が17.1%などとなっている。看護師は「12～14時間」が43.0%ともっとも割合が高く、次いで、「10～12時間未満」が36.4%などとなっている。医療技術職員も「12～14時間」が24.7%ともっとも割合が高く、次いで、「10～12時間未満」が23.5%、「14～16時間」が17.5時間などとなっている。病院事務職員は、「12～14時間」が36.7%ともっとも割合が高く、次いで、「16時間以上」が25.8%、「14～16時間」が21.9%などとなっている。

医師について診療科別にみると、平均値が低い（すなわち、生活時間が短い）のは、「外科」（9.0時間）、「救急科、救命救急、集中治療部」（9.2時間）、「放射線科」（9.2時間）などである。とくに、「救急科、救命救急、集中治療部」「放射線科」では、「8時間未満」がそれぞれ20.0%と他よりも高い。看護師について配属別にみると、「管理部門、その他」（10.9時間）がもっとも低くなっている（図表5-3-7）。

週あたり労働時間別にみると、平均値は労働時間が長くなるほど低くなる傾向にある。「10時間未満」（「8時間未満」「8～10時間未満」の合計）の割合をみると、週あたりの労働時間で「60時間以上」の者では、医師が50.0%、看護師が22.7%、医療技術職員が36.0%、病院事務職員が16.7%となっており、もっとも割合が高くなっている（図表5-3-8）。これを勤務形態別にみると、いずれの職種も「常勤」のほうが平均値が低くなっており、常勤以外の働き方のほうが生活時間は長い傾向にある（図表5-3-9）。

次に、生活時間について、睡眠時間を除き何をして過ごすことが多いか尋ねたところ（3つまでの複数回答）、いずれの職種も、「家族等との団欒」「育児・家事」が上位となっている。性別にみると、女性は、医師、看護師、医療技術職員で「育児・家事」の割合がいずれももっとも高い。

「持ち帰り仕事」についてみると、医師で19.4%、医療技術職員で12.0%、看護師で10.3%が回答している。とくに医師の男性は21.1%と高い。「研究」についてみると、医療技術職員が9.0%、医師が6.5%となっている。これを性別にみると、医療技術職員の男性で16.3%と高くなっている（図表5-3-10）。

これを週あたり労働時間別にみると、「持ち帰り仕事」の割合は、医師については、「50～60時間未満」で33.3%、「50時間未満」で25.6%と高くなっている。看護師、医療技術職員については、労働時間が長くなるほどその割合は高くなる傾向にある（図表5-3-11）。

図表 5-3-7：直近月の 1 日あたりの平均生活時間（通常勤務）（単位＝％）

	n	1日あたり平均生活時間								平均値等			
		8時間未満	8～10時間未満	10～12時間未満	12～14時間未満	14～16時間未満	16時間以上	不明	平均(時間)	標本標準偏差	最大値(時間)	最小値(時間)	
医師・計	170	11.2	28.8	34.7	17.1	7.6	0.0	0.6	10.0	2.3	16	4	
医師													
<診療科別>													
内科	45	11.1	24.4	35.6	24.4	4.4	0.0	0.0	10.2	2.2	15	6	
外科	35	11.4	54.3	28.6	5.7	0.0	0.0	0.0	9.0	1.6	12	4	
小児科・新生児科、産科婦人科	24	16.7	33.3	29.2	8.3	12.5	0.0	0.0	9.8	2.6	15	6	
救急科、救命救急、集中治療部	5	20.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.2	1.2	10	7	
放射線科	10	20.0	30.0	30.0	20.0	0.0	0.0	0.0	9.2	2.3	13	5	
麻酔科蘇生科	18	11.1	22.2	38.9	11.1	16.7	0.0	0.0	10.6	2.6	16	7	
その他（皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科）	33	3.0	9.1	39.4	30.3	15.2	0.0	3.0	11.2	2.1	14	4	
看護師・計	379	2.6	9.5	36.4	43.0	7.1	0.0	1.3	11.3	1.8	19	3	
看護師													
<配属>													
一般病棟、精神科病棟	274	3.3	9.5	38.3	43.4	4.0	0.0	1.5	11.1	1.8	15	3	
救急センター、集中治療部、手術室、内視鏡センター	63	0.0	11.1	30.2	39.7	17.5	0.0	1.6	11.8	2.1	19	8	
外来部門	21	4.8	0.0	14.3	61.9	19.0	0.0	0.0	12.5	1.5	14	7	
管理部門、その他	21	0.0	14.3	52.4	28.6	4.8	0.0	0.0	10.9	1.5	14	8	
医療技術職員・計	166	4.8	13.9	23.5	24.7	17.5	12.7	5.0	12.1	2.9	20	4	
医療技術職員													
<職種>													
臨床検査技師	46	4.3	21.7	15.2	15.2	23.9	19.6	0.0	12.5	3.3	19	7	
診療放射線技師	21	4.8	9.5	33.3	52.4	0.0	0.0	0.0	10.9	1.9	13	4	
薬剤師	20	5.0	20.0	35.0	40.0	0.0	0.0	0.0	10.6	1.8	13	5	
理学療法士等	39	7.7	15.4	41.0	23.1	7.7	0.0	2.0	10.7	2.0	15	6	
その他	38	2.6	2.6	5.3	13.2	39.5	28.9	3.0	14.4	2.5	20	6	
病院事務職員・計	128	0.8	2.3	11.7	36.7	21.9	25.8	1.0	13.7	2.5	20	5	
病院事務職員													
<配属>													
総務、会計関係	41	0.0	0.0	12.2	53.7	19.5	12.2	1.0	13.2	1.8	17	11	
医事関係	49	0.0	4.1	14.3	32.7	22.4	26.5	0.0	13.6	2.4	19	8	
診療科補助	28	3.6	0.0	10.7	25.0	28.6	32.1	0.0	14.1	2.8	18	5	
その他	9	0.0	11.1	0.0	11.1	11.1	66.7	0.0	15.6	3.5	20	8	

図表 5-3-8：週あたり労働時間別にみた直近月の 1 日あたりの平均生活時間（通常勤務）（単位＝％）

	n	1日あたり平均生活時間								10時間未満	平均値等			
		8時間未満	8～10時間未満	10～12時間未満	12～14時間未満	14～16時間未満	16時間以上	不明	平均(時間)		標本標準偏差	最大値(時間)	最小値(時間)	
医師・計	170	11.2	28.8	34.7	17.1	7.6	0.0	0.6	40.0	10.0	2.3	16	4	
医師														
<週労働時間>														
50時間未満	39	2.6	23.1	20.5	28.2	23.1	0.0	2.6	25.7	11.5	2.4	15	6	
50～60時間未満	33	9.1	18.2	33.3	30.3	9.1	0.0	0.0	27.3	10.5	2.5	14	4	
60時間以上	90	14.4	35.6	41.1	7.8	1.1	0.0	0.0	50.0	9.3	1.7	16	5	
看護師・計	379	2.6	9.5	36.4	43.0	7.1	0.0	1.3	12.1	11.3	1.8	19	3	
看護師														
<週労働時間>														
50時間未満	169	3.0	7.1	24.9	49.7	14.2	0.0	1.2	10.1	11.7	1.9	18	4	
50～60時間未満	128	3.1	6.3	39.8	46.9	2.3	0.0	1.6	9.4	11.2	1.8	19	3	
60時間以上	53	1.9	20.8	60.4	17.0	0.0	0.0	0.0	22.7	10.2	1.5	13	4	
医療技術職員・計	166	4.8	13.9	23.5	24.7	17.5	12.7	3.0	18.7	12.1	2.9	20	4	
医療技術職員														
<週労働時間>														
50時間未満	104	2.9	13.5	15.4	26.9	22.1	18.3	1.0	16.4	12.8	3.0	20	4	
50～60時間未満	28	7.1	7.1	42.9	35.7	7.1	0.0	0.0	14.2	11.0	1.7	14	6	
60時間以上	25	12.0	24.0	44.0	12.0	0.0	0.0	8.0	36.0	9.5	1.8	12	5	
病院事務職員・計	128	0.8	2.3	11.7	36.7	21.9	25.8	0.8	3.1	13.7	2.5	20	5	
病院事務職員														
<週労働時間>														
50時間未満	99	1.0	2.0	10.1	25.3	27.3	33.3	1.0	3.0	14.2	2.5	20	5	
50～60時間未満	21	0.0	0.0	9.5	90.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.1	0.6	13	11	
60時間以上	6	0.0	16.7	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	10.8	1.5	12	8	

図表 5-3-9：直近月の1日あたりの平均生活時間（通常勤務）（単位＝％）

	n	1日あたり平均生活時間							平均値等			
		8時間未満	8～10時間未満	10～12時間未満	12～14時間未満	14～16時間未満	16時間以上	不明	平均(時間)	標準偏差	最大値(時間)	最小値(時間)
医師・計	170	11.2	28.8	34.7	17.1	7.6	0.0	0.6	10.0	2.3	16	4
<勤務形態>												
常勤	102	12.7	31.4	34.3	15.7	5.9	0.0	0.0	9.8	2.2	16	4
非常勤・研修医	65	9.2	23.1	35.4	20.0	10.8	0.0	1.5	10.4	2.4	15	4
看護師・計	379	2.6	9.5	36.4	43.0	7.1	0.0	1.3	11.3	1.8	19	3
医療技術職員・計	166	4.8	13.9	23.5	24.7	17.5	12.7	3.0	12.1	2.9	20	4
<勤務形態>												
常勤	55	7.3	14.5	34.5	30.9	9.1	1.8	1.8	10.9	2.4	16	4
非常勤・アルバイト	96	4.2	14.6	18.8	24.0	19.8	14.6	4.2	12.4	3.0	20	6
病院事務職員・計	128	0.8	2.3	11.7	36.7	21.9	25.8	0.8	13.7	2.5	20	5
<勤務形態>												
常勤	49	0.0	2.0	16.3	71.4	10.2	0.0	0.0	12.2	1.2	15	8
非常勤・アルバイト	70	1.4	1.4	10.0	15.7	27.1	42.9	1.4	14.6	2.7	20	5

※看護師の勤務形態は「常勤」のみ。

図表 5-3-10：生活時間の過ごし方（3つまでの複数回答、単位＝％）

	n	家族等との団欒	育児・家事	研究(研究・勉強)	持ち帰り仕事	会食・飲酒	読書	スポーツ	映画鑑賞・音楽鑑賞	その他	何もしない	不明
医師・計	170	51.8	40.6	6.5	19.4	23.5	17.1	5.9	10.0	5.3	10.6	2.4
<性別>												
男性	123	56.1	29.3	7.3	21.1	25.2	14.6	8.1	8.9	4.9	13.8	2.4
女性	44	43.2	72.7	4.5	11.4	18.2	25.0	0.0	13.6	6.8	2.3	2.3
看護師・計	379	40.1	48.5	1.1	10.3	26.9	14.5	5.0	24.8	18.2	8.2	0.8
<性別>												
男性	19	42.1	42.1	0.0	0.0	21.1	21.1	0.0	36.8	26.3	10.5	0.0
女性	359	39.8	48.7	1.1	10.6	27.3	14.2	5.3	24.2	17.8	8.1	0.8
医療技術職員・計	166	50.6	53.0	9.0	12.0	23.5	21.7	6.6	15.1	17.5	5.4	1.2
<性別>												
男性	49	51.0	38.8	16.3	10.2	22.4	20.4	6.1	14.3	14.3	10.2	0.0
女性	116	50.0	58.6	6.0	12.9	24.1	22.4	6.9	15.5	19.0	3.4	1.7
病院事務職員・計	128	66.4	60.2	5.5	1.6	15.6	20.3	4.7	23.4	16.4	1.6	0.0
<性別>												
男性	33	51.5	42.4	6.1	3.0	18.2	30.3	3.0	33.3	12.1	6.1	0.0
女性	93	71.0	67.7	5.4	1.1	14.0	17.2	5.4	20.4	17.2	0.0	0.0

※病院事務職員のみ、選択肢「研究」は「研究・勉強」としている。

図表 5-3-11：生活時間の過ごし方（3つまでの複数回答、単位＝％）

	n	家族等との団欒	育児・家事	研究(研究・勉強)	持ち帰り仕事	会食・飲酒	読書	スポーツ	映画鑑賞・音楽鑑賞	その他	何もしない	不明
医師・計	170	51.8	40.6	6.5	19.4	23.5	17.1	5.9	10.0	5.3	10.6	2.4
50時間未満	39	61.5	59.0	0.0	25.6	17.9	17.9	2.6	5.1	5.1	5.1	2.6
50～60時間未満	33	45.5	36.4	9.1	33.3	33.3	15.2	12.1	9.1	6.1	9.1	0.0
60時間以上	90	51.1	37.8	8.9	13.3	22.2	17.8	5.6	13.3	5.6	10.0	3.3
看護師・計	379	40.1	48.5	1.1	10.3	26.9	14.5	5.0	24.8	18.2	8.2	0.8
50時間未満	169	45.6	51.5	1.2	5.9	23.7	16.0	2.4	27.2	20.1	7.1	0.0
50～60時間未満	128	39.8	50.0	0.8	14.1	29.7	14.1	8.6	22.7	15.6	6.3	0.8
60時間以上	53	32.1	41.5	0.0	17.0	30.2	11.3	5.7	26.4	22.6	7.5	1.9
医療技術職員・計	166	50.6	53.0	9.0	12.0	23.5	21.7	6.6	15.1	17.5	5.4	1.2
50時間未満	104	49.0	56.7	7.7	8.7	21.2	27.9	7.7	14.4	15.4	2.9	1.0
50～60時間未満	28	64.3	42.9	14.3	10.7	35.7	7.1	7.1	21.4	21.4	7.1	0.0
60時間以上	25	36.0	48.0	8.0	24.0	24.0	16.0	4.0	8.0	16.0	16.0	0.0
病院事務職員・計	128	66.4	60.2	5.5	1.6	15.6	20.3	4.7	23.4	16.4	1.6	0.0
50時間未満	99	68.7	65.7	5.1	1.0	16.2	17.2	5.1	24.2	13.1	1.0	0.0
50～60時間未満	21	57.1	42.9	0.0	4.8	19.0	33.3	4.8	23.8	38.1	0.0	0.0
60時間以上	6	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0

※病院事務職員のみ、選択肢「研究」は「研究・勉強」としている。



#### 4. 満足度、疲労感、ヒヤリ・ハット体験

##### (1)満足度

満足度をみると、医師、看護師については、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合が高いのは、「患者（とその家族）との関係」「勤務先（職場全体）」「職場の人間関係」「勤務先の仕事の質、内容」で上位となっている。医療技術職員、病院事務職員については「勤務先（職場全体）」「勤務先の仕事の質、内容」「休日・休暇の日数」「職場の人間関係」などが高い。いずれの職種も、勤務先や仕事、職場の人間関係などに対する満足度は高いようである。

一方、「不満である」（「不満」「少し不満」の合計）とする割合をみると、いずれの職種も、「給与・賃金の額」「労働時間の長さ」「仕事と私生活（家庭、余暇等）の調和」が上位にきている。医師、看護師では、「休日・休暇の日数」の割合も高い（図表 5-4-1）。

図表 5-4-1：職種別にみた満足度（単位＝％）

	医師 (n=170)				看護師 (n=379)				医療技術職員 (n=166)				病院事務職員 (n=128)			
	満足計	どちらとも言えない	不満計	無回答	満足計	どちらとも言えない	不満計	無回答	満足計	どちらとも言えない	不満計	無回答	満足計	どちらとも言えない	不満計	無回答
勤務先（職場全体）	61.2	21.2	17.0	0.6	60.9	21.6	16.9	0.5	71.7	16.3	10.8	1.2	78.9	12.5	7.0	1.6
勤務先の仕事の質、内容	57.6	22.4	19.4	0.6	48.0	29.0	22.4	0.5	65.7	21.7	12.0	0.6	57.9	20.3	21.1	0.8
給料・賃金の額	23.5	24.1	51.8	0.6	22.4	24.8	52.5	0.3	22.3	19.3	57.8	0.6	39.1	21.1	38.3	1.6
労働時間の長さ	27.1	30.6	41.7	0.6	19.0	22.2	58.6	0.3	35.5	31.9	31.9	0.6	44.6	25.8	28.1	1.6
交代勤務（夜勤、準夜勤）の日程割当	35.3	36.5	21.8	6.5	29.6	36.7	28.5	5.3	19.3	45.8	3.6	31.3	-	-	-	-
休日・休暇の日数	34.7	31.2	32.3	1.8	26.7	21.4	51.5	0.5	53.6	31.3	12.0	3.0	69.6	15.6	14.0	0.8
仕事と私生活（家庭、余暇等）の調和	23.5	32.4	42.4	1.8	19.5	27.7	51.7	1.1	36.7	29.5	31.9	1.8	53.9	25.0	18.8	2.3
職場の人間関係	59.4	24.7	15.3	0.6	51.4	25.3	22.9	0.3	51.2	25.3	22.3	1.2	62.5	19.5	17.2	0.8
患者（とその家族）との関係	62.3	31.8	3.6	2.4	53.9	37.2	8.4	0.5	35.5	44.0	0.6	19.9	29.7	60.9	1.6	7.8
研究等スキルの向上やキャリアアップに費やす時間	34.1	38.2	25.9	1.8	16.6	55.7	26.7	1.1	27.1	36.1	25.3	11.4	-	-	-	-
多職種カンファレンス	27.6	58.8	11.8	1.8	32.7	48.3	18.5	0.5	13.2	54.8	12.6	19.3	-	-	-	-
看護師だけのカンファレンス	-	-	-	-	37.2	43.5	18.4	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-

※「満足計」は「満足している」「まあ満足している」の合計。「不満計」は「不満」「少し不満」の合計。「満足計」の上位4位、「不満計」の上位4位に網。調査票上、医師調査の「当直の日程割当」は、看護師調査、医療技術職員調査では「交代勤務の日程割当」と表記。「-」は調査票で設問がないことを意味する。

##### (2)疲労感

調査では、自身の「疲労感」「睡眠不足感」「健康不安」「患者からの訴訟リスク」（看護師、医療技術職員、病院事務職員の調査票では、「患者からのクレームや訴訟リスク」と表記）について尋ねている。「疲労感」についてみると、「感じる」（「非常に感じる」「まあ感じる」の合計）と回答した割合は、医師 65.9%、看護師 83.7%、医療技術職員 66.9%、病院事務職員 57.1%となっている。疲労感を「感じる」とする割合は看護師がもっとも高く、8割が感

じている。

「睡眠不足感」についてみると、「感じる」（「非常に感じる」「まあ感じる」の合計）と回答した割合は、医師 58.8%、看護師 66.0%、医療技術職員 52.4%、病院事務職員 32.8%となっており、睡眠不足感も看護師の割合がもっとも高い。

「健康不安」については、「感じる」（「非常に感じる」「まあ感じる」の合計）とする割合は、医師 54.7%、看護師 61.2%、医療技術職員 53.0%、病院事務職員 32.8%となっており、健康不安でも看護師の割合がもっとも高くなっている。

「患者からの訴訟リスク」（看護師、医療技術職員の場合「患者からのクレームや訴訟リスク」）については、訴訟リスクでは医師が 38.2%となっている。一方、「患者からのクレームや訴訟リスク」では看護師が 37.7%、医療技術職員が 14.4%、病院事務職員が 29.7%となっている（図表 5-4-2）。

次に、最近の健康状態について尋ねたところ、いずれの職種も、「以前に比べて疲れやすい」の割合がもっとも高く、次いで「朝起きたとき、ぐったり疲れを感じる」などの割合が高くなっている（図表 5-4-3）。

図表 5-4-2：医療業務に携わるうえでの認識（単位＝％）

	医師 (n=170)				看護師 (n=379)				医療技術職員 (n=166)				病院事務職員 (n=128)			
	感じる計	どちらとも言えない	感じない計	不明	感じる計	どちらとも言えない	感じない計	不明	感じる計	どちらとも言えない	感じない計	不明	感じる計	どちらとも言えない	感じない計	不明
自身の疲労感	65.9	25.9	7.1	1.2	83.7	10.0	5.3	1.1	66.9	16.9	12.0	4.2	57.1	20.3	21.1	1.6
自身の睡眠不足感	58.8	25.3	14.8	1.2	66.0	20.3	13.5	0.3	52.4	22.3	21.1	4.2	32.8	22.7	42.9	1.6
自身の健康不安	54.7	29.4	14.7	1.2	61.2	20.1	18.2	0.5	53.0	25.9	16.3	4.8	32.8	27.3	37.5	2.3
患者からの訴訟リスク	38.2	40.6	20.0	1.2	37.7	40.4	21.7	0.3	14.4	48.2	24.1	13.3	29.7	33.6	31.2	5.5

※1：「感じる計」は「非常に感じる」「まあ感じる」の合計。「感じない計」は「ほとんど感じない」「あまり感じない」の合計。

※2：調査票上、医師調査の「患者からの訴訟リスク」は、看護師調査、医療技術職員調査、病院事務職員調査では「患者からのクレームや訴訟リスク」と表記している。

図表 5-4-3：健康状態（複数回答、単位＝％）

	n	朝起きたとき、ぐったり疲れを感じる	以前と比べて疲れやすい	へとへとだ	やる気がでない	ゆううつだ	いらいらする	物事に集中できない	以上のいずれも該当しない	不明
医師	170	24.7	52.4	9.4	16.5	18.2	15.9	15.3	24.1	2.4
看護師	379	43.0	66.0	20.1	35.6	33.8	34.3	14.8	8.2	1.3
医療技術職員	166	32.5	58.4	21.1	16.3	24.7	16.9	11.4	24.1	0.6
病院事務職員	128	19.5	39.1	5.5	14.1	18.8	18.0	10.9	29.7	3.1

### (3) ヒヤリ・ハット体験

調査では、現在の勤務先で、この 1 ヶ月間において、医療事故につながるような、「ひやり」としたり、「はっと」したりした体験（ヒヤリ・ハット体験）があったか、尋ねている。それによれば、ヒヤリ・ハット体験が「あった」とするのは、医師が 38.2%、看護師が 54.4%、医療技術職員が 30.7%となっている。医療技術職員を職種別にみると、薬剤師が 65.0%、診療放射線技師が 61.9%などと高くなっている（図表 5-4-4）。

図表 5-4-4：この1ヵ月間のヒヤリ・ハット体験の有無（単位＝％）

		n	あった	なかった	不明
医師		170	38.2	60.6	1.2
看護師		379	54.4	45.4	0.3
医療技術職員		166	30.7	65.1	4.2
職 種	臨床検査技師	46	23.9	73.9	2.2
	診療放射線技師	21	61.9	38.1	0.0
	薬剤師	20	65.0	35.0	0.0
	理学療法士等	39	28.2	71.8	0.0
	その他	38	5.3	81.6	13.2

## 5. 離職意向

医師調査では、将来の働き方を尋ねており、それによれば、「別の病院に異動したい」が44.7%ともっとも割合が高く、次いで、「今の病院で働き続けたい」が37.6%、「開業したい」が6.5%、「診療を辞めたい（医師の資格を活かして、研究職や行政職、企業就職をする等）」が2.9%などとなっている。「離職希望」（「別の病院に異動したい」「開業したい」「診療を辞めたい」「その他」の合計）は60.0%となっている（図表 5-5-1）。

看護師調査及び医療技術職員調査では、現在の勤務先から離職を考えることがあるか、尋ねている。それによれば、看護師は、25.9%が「考えている」としており、医療技術職員は、22.3%が「考えている」としている。医療技術職員を職種別にみると、「理学療法士等」「薬剤師」などで高くなっている（図表 5-5-2、図表 5-5-3）。

離職したい理由を職種ごとにみると、医師については、今の病院で働きたくないと考える理由は、「昇進・昇給・給与に不満」が36.3%ともっとも多く、次いで、「長時間労働（当直除く）」（31.4%）、「仕事と私生活（家事含む）の両立困難」（31.4%）、「通常業務以外の雑務が多すぎる」（30.4%）、「キャリアアップしたいため」（24.5%）、「休暇がとれない」（23.5%）などとなっている。

看護師については、「休暇がとれない」が39.5%ともっとも多く、次いで、「長時間労働（交代勤務除く）」（27.4%）、「職場の人間関係の難しさ」（25.3%）、「夜勤の負担が大きい（生活が不規則になる）」（24.9%）、「自分の健康不安」（24.2%）、「通常業務以外の雑務が多すぎる」（23.8%）、「仕事と私生活（家事含む）の両立困難」（23.1%）などとなっている。

医療技術職員は、「昇進・昇給・給与に不満」が44.9%ともっとも多く、次いで、「仕事と私生活（家事含む）の両立困難」（27.6%）、「職場の人間関係の難しさ」（26.5%）、「雇用形態に不満」（23.5%）、「キャリアアップしたいため」（18.4%）、「長時間労働（交代勤務除く）」（18.4%）、「専門職としての評価の低さ」（18.4%）などとなっている。

職種間で比較すると、いずれの職種も「長時間労働」「仕事と私生活（家事含む）の両立困難」を理由にあげる割合が高いことは共通している（図表 5-5-4）。

図表 5-5-1：医師の将来の働き方（単位＝％）〔医師調査〕

	n	今の病院で働き続けたい	別の病院に異動したい	開業したい	診療を辞めたい	その他	無回答	離職希望計
医師	170	37.6	44.7	6.5	2.9	5.9	2.4	60.0

※「離職希望計」は「別の病院に異動したい」「開業したい」「診療を辞めたい」「その他」の合計。

図表 5-5-2：看護師の離職についての考え方（単位＝％）〔看護師調査〕

	n	考えている	たまに考えている	考えていない	無回答	離職検討あり計
看護師	379	25.9	48.3	24.3	1.6	74.2

※「離職検討あり」は「考えている」「たまに考えている」の合計。

図表 5-5-3：医療技術職員の離職についての考え方（単位＝％）〔医療技術職員調査〕

	n	考えている	たまに考えている	考えていない	無回答	離職検討あり計
医療技術職員	166	22.3	36.7	38.6	2.4	59.0
<職種別>						
臨床検査技師	46	8.7	32.6	56.5	2.2	41.3
診療放射線技師	21	9.5	38.1	47.6	4.8	47.6
薬剤師	20	45.0	40.0	15.0	0.0	85.0
理学療法士等	39	48.7	38.5	12.8	0.0	87.2
その他	38	7.9	36.8	52.6	2.6	44.7

※「離職検討あり」は「考えている」「たまに考えている」の合計。

図表 5-5-4：離職したい理由（複数回答、単位＝％）

	医者 (n=102)	上位	看護師 (n=281)	上位	医療技術 職員 (n=98)	上位
昇進・昇給・給与に不満	36.3	①	17.8		44.9	①
長時間労働（当直除く）	31.4	②	27.4	②	18.4	⑤
仕事と私生活（家事含む）の両立困難	31.4	③	23.1		27.6	②
通常業務以外の雑務が多すぎる	30.4	④	23.8		11.2	
キャリアアップしたいため	24.5	⑤	11.0		18.4	⑤
休暇がとれない	23.5		39.5	①	17.3	
職場の人間関係の難しさ	19.6		25.3	③	26.5	③
自分の健康不安	14.7		24.2	⑤	15.3	
当直（夜勤等）の負担が大きい	13.7		24.9	④	2.0	
教育・研修体制に不満	12.7		2.8		7.1	
子育て	12.7		9.3		15.3	
研究体制に不満（研究時間の不足含む）	11.8		2.1		9.2	
専門職としての評価の低さ	10.8		7.8		18.4	⑤
妊娠・出産	10.8		9.3		13.3	
結婚	8.8		17.4		17.3	
親族の健康・介護	7.8		10.7		10.2	
雇用形態に不満	6.9		2.5		23.5	④
もともと開業医になるつもりだったから	5.9		—		—	
通勤時間が長い	4.9		7.5		6.1	
仕事に興味をもてない・やりがいがない	4.9		16.4		2.0	
医療事故、訴訟リスクに対する不安	3.9		9.6		3.1	
患者（およびその家族）の理不尽な要求	1.0		4.6		2.0	
看護職（医療技術職）の他の職場への興味	—		11.4		3.1	
看護職（医療技術職）以外の他の職場への興味	—		8.9		4.1	
国際貢献・ボランティアに参加したいため	0.0		2.8		1.0	
その他	7.8		3.6		6.1	
不明	3.9		0.0		2.0	

※1：各調査の上位5位に網（数字は順位）。

※2：調査票上、「もともと開業医になるつもりだったから」は医師調査単独の選択肢。

「看護職（医療技術職）の他の職場への興味」「看護職（医療技術職）以外の他の職場への興味」は看護師調査、医療技術職員調査のみの選択肢。「—」は当該選択肢がないことを意味する。

## 6. 仕事と子育ての両立

### (1) 育児休業取得経験

性別にみた子供の有無をみると、「子供がいる」者の割合は医師で男性 68.3%、女性 40.9%、看護師で男性 36.8%、女性 19.8%、医療技術職員で男性 44.9%、女性 37.1%、病院事務職員で男性 45.5%、女性 46.2%である（図表 5-6-1）

子供がいる者について、現在の勤務先での育児休業取得状況を尋ねたところ、男女別にみると、男性の取得はほとんどない（医師の男性が 2.4%以外、他の職種は取得がゼロ）。女性について職種別にみると、医師 22.2%、看護師 57.7%、医療技術職員 4.7%、病院事務職員 4.7%となっている。看護師では子供をもつ女性の 6 割弱が、現在の勤務先での育児休業取得の経験がある<sup>15</sup>（図表 5-6-2）。

育児休業取得期間をみると、医師は「6 カ月以内」が 66.7%ともっとも割合が高く、次いで、「6 カ月超～1 年以内」となっている。看護師は、「6 カ月超～1 年以内」が 59.5%となっており、次いで、「1 年超～1 年半程度」が 21.4%などとなっている（図表 5-6-3）。

図表 5-6-1：性別にみた子供の有無（単位＝％）

	医師				看護師				医療技術職員				病院事務職員			
	n	いる	いない	不明	n	いる	いない	不明	n	いる	いない	不明	n	いる	いない	不明
計	170	60.6	38.2	1.2	379	20.8	78.6	0.5	166	39.8	59.6	0.6	128	46.9	52.3	0.8
<性別>																
男性	123	68.3	30.9	0.8	19	36.8	63.2	0.0	49	44.9	55.1	0.0	33	45.5	51.5	3.0
女性	44	40.9	59.1	0.0	359	19.8	79.7	0.6	116	37.1	62.1	0.9	93	46.2	53.8	0.0

図表 5-6-2：現在の勤務先での育児休業取得の有無（単位＝％）

	医師				看護師				医療技術職員				病院事務職員			
	n	取得経験あり	取得経験なし	不明	n	取得経験あり	取得経験なし	不明	n	取得経験あり	取得経験なし	不明	n	取得経験あり	取得経験なし	不明
計	103	5.8	93.2	1.0	79	53.2	46.8	0.0	66	3.0	95.5	1.5	60	3.3	95.0	1.7
<性別>																
男性	84	2.4	96.4	1.2	7	0.0	100.0	0.0	22	0.0	100.0	0.0	15	0.0	100.0	0.0
女性	18	22.2	77.8	0.0	71	57.7	42.3	0.0	43	4.7	93.0	2.3	43	4.7	95.3	0.0

※子供がいる者を対象に集計。

図表 5-6-3：育児休業取得期間（単位＝％）

	n	6 カ月以内	6 カ月超～1 年以内	1 年超～1 年半程度	それ以上	不明
医師	6	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
看護師	42	7.1	59.5	21.4	4.8	7.1
医療技術職員	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
病院事務職員	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

※育児休業取得経験がある者を対象に集計。

<sup>15</sup> 本設問では現在の勤務先での育児休業取得経験を聴いているため、他の職場での育児休業取得経験まで聴いていないことに留意する必要がある。

## (2)子育て中の働き方

子供がいる者について、現在の勤務先での子育て中の働き方をみると、いずれの職種も、女性に比べ男性のほうが、「変化なし（通常勤務）」の割合が高い。男性はほとんどが通常勤務のままのようである。女性の場合、「変化なし（通常勤務）」の割合は、医師が16.7%、看護師が57.7%、医療技術職員が41.9%、病院事務職員が67.4%となっており、とくに女性の医師で、子育て期に何らかの働き方の変化があったことがわかる。

具体的な働き方の変化としては、女性の医師の場合、「当直免除」が61.1%ともっとも割合が高く、次いで、「時間短縮勤務」「日数減」がそれぞれ38.9%、「残業免除」が22.2%などとなっている。看護師（女性）の場合、「夜勤免除」が31.0%ともっとも割合が高い。医療技術職員（女性）は「時間短縮勤務」が16.3%ともっとも高くなっている。病院事務職員（女性）も、「時間短縮勤務」が18.6%ともっとも高い（図表5-6-4）。

そこで、何らかの働き方の変化が多い女性についてのみ勤務形態別にみると、いずれの職種も、「変化なし（通常勤務）」の割合は「常勤」のほうが高い。常勤以外の働き方に比べ、「常勤」のほうが通常勤務のままの割合が高いことがわかる。

ただし、医師では、「変化なし（通常勤務）」の割合は「常勤」が22.1%、「非常勤・研修医」が11.1%となっており、いずれの勤務形態でも子育て期の働き方に何らかの変化があった割合が高い。一方、医療技術職員、病院事務職員では、「非常勤・アルバイト」でも、「変化なし（通常勤務）」の割合は、それぞれ42.9%、70.6%となっており、通常勤務のままの者が多い。

医師について勤務形態別にみた働き方の変化を具体的にみると、「常勤」「非常勤・研修医」のいずれも、「当直免除」がもっとも割合が高く（「常勤」55.6%、「非常勤・研修医」66.7%）、次いで、「常勤」では、「時間短縮勤務」「日数減」「残業免除」などとなっており、一方、「非常勤・研修医」では、「日数減」「時間短縮勤務」「残業免除」「会議・研究会などの参加免除」「休職・辞職」などとなっている。両者を比較すると、「非常勤・研修医」のほうが「日数減」「時間短縮勤務」「会議、研究会などの参加免除」「休職・辞職」などの割合が高い。

他方、医療技術職員の勤務形態別にみた働き方の変化をみると、「非常勤・アルバイト」のほうが、「時間短縮勤務」がもっとも割合が高い。「常勤」と「非常勤・アルバイト」を比較すると、「非常勤・アルバイト」のほうが「時間短縮勤務」「会議、研究会などの参加免除」「休職・辞職」などの割合が高い。

病院事務職員も、「非常勤・アルバイト」のほうが、「時間短縮勤務」がもっとも割合が高くなっている（図表5-6-5）。

図表 5-6-4：子育て中の働き方（複数回答、単位＝％）

	n	変化なし (通常勤務)	休職・辞職	時間短縮勤務	日数減	残業免除	当直免除 (夜勤免除)	会議・研究会などの参加免除	その他の業務内容軽減措置	不明
医師・計	103	77.7	1.9	6.8	6.8	3.9	10.7	1.9	1.0	7.8
<性別>										
男性	84	90.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5
女性	18	16.7	11.1	38.9	38.9	22.2	61.1	11.1	5.6	0.0
看護師・計	79	62.0	3.8	2.5	0.0	1.3	27.8	0.0	1.3	3.8
<性別>										
男性	7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性	71	57.7	4.2	2.8	0.0	1.4	31.0	0.0	1.4	4.2
医療技術職員・計	66	56.1	4.5	10.6	3.0	3.0	0.0	1.5	4.5	21.2
<性別>										
男性	22	81.8	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	4.5	4.5
女性	43	41.9	7.0	16.3	4.7	0.0	0.0	2.3	4.7	30.2
病院事務職員・計	60	73.3	0.0	15.0	0.0	0.0	-	0.0	1.7	10.0
<性別>										
男性	15	86.7	0.0	6.7	0.0	0.0	-	0.0	6.7	0.0
女性	43	67.4	0.0	18.6	0.0	0.0	-	0.0	0.0	14.0

※子供がいる者を対象に集計。医師調査の選択肢「当直免除」は、看護師調査、医療技術職員調査では「夜勤免除」となっている。病院事務職員では、当該選択肢はない（「-」で表記）。

図表 5-6-5：勤務形態別にみた女性の子育て中の働き方（複数回答、単位＝％）

	n	変化なし (通常勤務)	休職・辞職	時間短縮勤務	日数減	残業免除	当直免除 (夜勤免除)	会議・研究会などの参加免除	その他の業務内容軽減措置	不明
医師・計	18	16.7	11.1	38.9	38.9	22.2	61.1	11.1	5.6	0.0
<勤務形態>										
常勤	9	22.2	0.0	33.3	22.2	22.2	55.6	0.0	0.0	0.0
非常勤・研修医	9	11.1	22.2	44.4	55.6	22.2	66.7	22.2	11.1	0.0
看護師・計	71	57.7	4.2	2.8	0.0	1.4	31.0	0.0	1.4	4.2
医療技術職員・計	43	41.9	7.0	16.3	4.7	0.0	0.0	2.3	4.7	30.2
<勤務形態>										
常勤	6	66.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
非常勤・アルバイト	28	42.9	7.1	21.4	7.1	0.0	0.0	3.6	0.0	28.6
病院事務職員・計	43	67.4	0.0	18.6	0.0	0.0	-	0.0	0.0	14.0
<勤務形態>										
常勤	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0
非常勤・アルバイト	34	70.6	0.0	17.6	0.0	0.0	-	0.0	0.0	11.8

※子供がいる女性を対象に集計。看護師は「常勤」しかない。医師調査の選択肢「当直免除」は、看護師調査、医療技術職員調査では「夜勤免除」となっている。病院事務職員では、当該選択肢はない（「-」で表記）。

### (3)勤務先の子育て支援の満足度

現在の勤務先の子育て環境についての満足度をみると、「満足である」（「満足している」「まあ満足」の合計）とする割合は、医師が 15.5%、看護師が 20.3%、医療技術職員が 19.7%、病院事務職員が 31.7%となっている。「不満である」（「大変不満である」「やや不満である」の合計）とする割合が高いのは、看護師が 38.0%でもっとも高く、次いで、医療技術職員が 30.3%、医師が 30.1%となっている。これを性別にみると、男性では、医師、看護師、病院事務職員で「どちらともいえない」がもっとも割合が高い。「不満である」とする割合がもっとも高いのは、医療技術職員（63.7%）である。一方、女性では、「満足である」とする割合は、医師が 50.0%ともっとも高く、次いで、病院事務職員が 39.5%などとなっている。看護

師と医療技術職員は、いずれも「どちらともいえない」がもっとも高いものの、看護師については、それに次いで、「不満である」とする割合が36.6%と他の職種に比べ高い(図表5-6-6)。

次に、女性の勤務先の子育て環境満足度を育児休業の有無別にみると、育児休業経験ありのサンプル数が比較的多い看護師では、「育児休業経験あり」とする者で、「満足である」とする割合が高い(図表5-6-7)。

子育て期の働き方別にみると、医師、看護師、病院事務職員については、「通常勤務」に比べ「それ以外(何らかの支援あり)」のほうが「満足である」とする割合が高い(図表5-6-8)。

院内保育所の利用経験別にみると、利用経験ありのサンプル数が比較的多い看護師では、「利用経験あり」とする者で、「満足である」とする割合が高くなっている(図表5-6-9)。

図表 5-6-6：勤務先の子育て環境満足度（単位＝％）

	n	勤務先の子育て環境満足度						満足度		
		大変満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	大変不満である	不明	満足である	どちらともいえない	不満である
医師・計	103	2.9	12.6	50.5	21.4	8.7	3.9	15.5	50.5	30.1
医師										
<性別>										
男性	84	0.0	8.3	56.0	21.4	9.5	4.8	8.3	56.0	30.9
女性	18	16.7	33.3	27.8	16.7	5.6	0.0	50.0	27.8	22.3
看護師・計	79	3.8	16.5	39.2	26.6	11.4	2.5	20.3	39.2	38.0
看護師										
<性別>										
男性	7	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	57.1	42.9
女性	71	4.2	18.3	38.0	23.9	12.7	2.8	22.5	38.0	36.6
医療技術職員・計	66	6.1	13.6	36.4	19.7	10.6	13.6	19.7	36.4	30.3
医療技術職員										
<性別>										
男性	22	0.0	0.0	31.8	36.4	27.3	4.5	0.0	31.8	63.7
女性	43	9.3	20.9	39.5	11.6	2.3	16.3	30.2	39.5	13.9
病院事務職員・計	60	8.3	23.3	50.0	10.0	0.0	8.3	31.6	50.0	10.0
病院事務職員										
<性別>										
男性	15	0.0	13.3	80.0	6.7	0.0	0.0	13.3	80.0	6.7
女性	43	11.6	27.9	39.5	11.6	0.0	9.3	39.5	39.5	11.6

※子供がいる者を対象に集計。「満足である」は「大変満足している」「やや満足している」の合計。「不満である」は「大変不満である」「やや不満である」の合計。

図表 5-6-7：女性からみた勤務先の子育て環境満足度（単位＝％）

	n	勤務先の子育て環境満足度						満足度		
		大変満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	大変不満である	不明	満足である	どちらともいえない	不満である
医師・計	18	16.7	33.3	27.8	16.7	5.6	0.0	50.0	27.8	22.2
医師										
<育児休業の有無>										
育児休業経験あり	4	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	50.0
育児休業経験なし	14	21.4	35.7	28.6	14.3	0.0	0.0	57.1	28.6	14.3
看護師・計	71	4.2	18.3	38.0	23.9	12.7	2.8	22.5	38.0	36.6
看護師										
<育児休業の有無>										
育児休業経験あり	41	4.9	22.0	31.7	29.3	12.2	0.0	26.8	31.7	41.5
育児休業経験なし	30	3.3	13.3	46.7	16.7	13.3	6.7	16.7	46.7	30.0
医療技術職員・計	43	9.3	20.9	39.5	11.6	2.3	16.3	30.2	39.5	14.0
医療技術職員										
<育児休業の有無>										
育児休業経験あり	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
育児休業経験なし	40	10.0	20.0	42.5	10.0	2.5	15.0	30.0	42.5	12.5
病院事務職員・計	43	11.6	27.9	39.5	11.6	0.0	9.3	39.5	39.5	11.6
病院事務職員										
<育児休業の有無>										
育児休業経験あり	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
育児休業経験なし	41	12.2	29.3	36.6	12.2	0.0	9.8	41.5	36.6	12.2

※子供がいる女性を対象に集計。「満足である」は「大変満足している」「やや満足している」の合計。「不満である」は「大変不満である」「やや不満である」の合計。



図表 5-6-8：女性からみた勤務先の子育て環境満足度（単位＝％）

	n	勤務先の子育て環境満足度						満足度			
		大変満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	大変不満である	不明	満足である	どちらともいえない	不満である	
医師・計	18	16.7	33.3	27.8	16.7	5.6	0.0	50.0	27.8	22.2	
医師	<子育て期の働き方> それ以外（何らかの支援等あり）	15	20.0	33.3	26.7	13.3	6.7	0.0	53.3	26.7	20.0
	通常勤務	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
	看護師・計	71	4.2	18.3	38.0	23.9	12.7	2.8	22.5	38.0	36.6
看護師	<子育て期の働き方> それ以外（何らかの支援等あり）	30	0.0	33.3	33.3	16.7	13.3	3.3	33.3	33.3	30.0
	通常勤務	41	7.3	7.3	41.5	29.3	12.2	2.4	14.6	41.5	41.5
	医療技術職員・計	43	9.3	20.9	39.5	11.6	2.3	16.3	30.2	39.5	14.0
医療技術職員	<子育て期の働き方> それ以外（何らかの支援等あり）	25	4.0	16.0	36.0	16.0	0.0	28.0	20.0	36.0	16.0
	通常勤務	18	16.7	27.8	44.4	5.6	5.6	0.0	44.4	44.4	11.1
	病院事務職員・計	43	11.6	27.9	39.5	11.6	0.0	9.3	39.5	39.5	11.6
病院事務職員	<子育て期の働き方> それ以外（何らかの支援等あり）	14	21.4	28.6	14.3	7.1	0.0	28.6	50.0	14.3	7.1
	通常勤務	29	6.9	27.6	51.7	13.8	0.0	0.0	34.5	51.7	13.8

※子供がいる女性を対象に集計。「満足である」は「大変満足している」「やや満足している」の合計。「不満である」は「大変不満である」「やや不満である」の合計。

図表 5-6-9：女性からみた勤務先の子育て環境満足度（単位＝％）

	n	勤務先の子育て環境満足度						満足度			
		大変満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	大変不満である	不明	満足である	どちらともいえない	不満である	
医師・計	18	16.7	33.3	27.8	16.7	5.6	0.0	50.0	27.8	22.2	
医師	<院内保育所利用の有無> 利用経験あり	8	12.5	37.5	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0
	利用経験なし	10	20.0	30.0	30.0	10.0	10.0	0.0	50.0	30.0	20.0
	看護師・計	71	4.2	18.3	38.0	23.9	12.7	2.8	22.5	38.0	36.6
看護師	<院内保育所利用の有無> 利用経験あり	35	5.7	25.7	34.3	22.9	11.4	0.0	31.4	34.3	34.3
	利用経験なし	35	2.9	11.4	42.9	25.7	11.4	5.7	14.3	42.9	37.1
	医療技術職員・計	43	9.3	20.9	39.5	11.6	2.3	16.3	30.2	39.5	14.0
医療技術職員	<院内保育所利用の有無> 利用経験あり	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	利用経験なし	36	11.1	25.0	44.4	11.1	2.8	5.6	36.1	44.4	13.9
	病院事務職員・計	43	11.6	27.9	39.5	11.6	0.0	9.3	39.5	39.5	11.6
病院事務職員	<院内保育所利用の有無> 利用経験あり	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	利用経験なし	38	13.2	26.3	44.7	13.2	0.0	2.6	39.5	44.7	13.2

※子供がいる女性を対象に集計。「満足である」は「大変満足している」「やや満足している」の合計。「不満である」は「大変不満である」「やや不満である」の合計。

## 7. 組合活動

労働組合加入の有無を職種ごとにみると、「組合に加入している」とする割合は、医師が15.9%、看護師が37.7%、医療技術職員が22.9%、病院事務職員が17.2%となっている。医療技術職員を職種別にみると、診療放射線技師が96.2%ともっとも割合が高くなっている。病院事務職員を配属別にみると、いずれも1~2割程度となっている。

医師について性別にみると、男性のほうが女性に比べ「組合に加入している」とする割合が高い。年齢別にみると、年齢が「40代」で24.1%ともっとも割合が高くなっており、「50代以上」は7.1%ともっとも低くなっている。勤続年数別にみると、勤続年数が長くなるほ

ど、その割合が高い。勤務形態別にみると、「組合に加入している」とする割合は、「常勤」が 24.5%となっており、「非常勤・研修医」(3.1%) よりも高い。身分別にみると、「助教」で 27.8%ともっとも高くなっている。役職別にみると、「役職あり」のほうが高い(図表 5-7-2)。

看護師について性別にみると、女性のほうが男性に比べ「組合に加入している」とする割合が高い。年齢別にみると、年齢が「30代」で 46.0%、「20代以下」で 38.9%と高くなっており、「40代以上」は 25.3%と低くなっている。勤続年数別にみると、「組合に加入している」とする割合は、勤続年数が長くなるほど高まる傾向にあり、「5～7年未満」でピークとなっている。役職別にみると、「役職なし」のほうが高い(図表 5-7-3)。

医療技術職員について性別にみると、男性が 40.8%となっており、女性に比べ「組合に加入している」とする割合が高い。年齢別にみると、年齢が「50代以上」で 31.8%ともっとも割合が高く、次いで「30代」が 27.9%となっている。勤続年数別にみると、勤続年数が「7年以上」で 32.0%ともっとも高く、次いで、「3年未満」(24.1%)、「5～7年未満」が 21.1%などとなっている。勤務形態別にみると、「組合に加入している」とする割合は、「常勤」が 41.8%となっており、「非常勤・アルバイト」(13.5%) よりも高い。役職別にみると、「役職あり」のほうが 56.3%と高くなっている(図表 5-7-4)。

病院事務職員について性別にみると、女性のほうが男性に比べ「組合に加入している」とする割合が高い。年齢別にみると、おおむね年齢が高くなるほど「組合に加入している」とする割合が高くなる。勤務形態別にみると、「組合に加入している」とする割合は、「常勤」のほうが「非常勤・アルバイト」に比べわずかに高い。役職別にみると、「役職なし」のほうが高くなっている(図表 5-7-5)。

次に、労働組合加入者について、直近 1 ヶ月の組合活動参加時間をみると、平均値がもっとも高いのは、医療技術職員(平均値 90 分)となっている。その他の職種では病院事務職員が 12 分などが高くなっている(図表 5-7-6)。直近 1 ヶ月間で参加した組合活動内容としては、医療技術職員では、「レクリエーション」が 31.6%でもっとも高い(図表 5-7-7)。

図表 5-7-1：労働組合加入の有無(単位=%)

	n	組合に加入している	組合に加入していない	不明
医師	170	15.9	79.4	4.7
看護師	379	37.7	58.0	4.2
医療技術職員	166	22.9	72.9	4.2
<職種>				
臨床検査技師	46	17.4	82.6	0.0
診療放射線技師	21	95.2	4.8	0.0
薬剤師	20	10.0	90.0	0.0
理学療法士等	39	12.8	82.1	5.1
その他	38	5.3	81.6	13.2
病院事務職員	128	17.2	82.0	0.8
<配属>				
配属 総務、会計関係	41	17.1	82.9	0.0
医事関係	49	16.3	81.6	2.0
診療科補助	28	17.9	82.1	0.0
その他	9	22.2	77.8	0.0

図表 5-7-2 : 医師の労働組合加入の有無

(単位=%)

	n	組合に加入している	組合に加入していない	不明
医師・計	170	15.9	79.4	4.7
<性別>				
男性	123	17.1	78.9	4.1
女性	44	13.6	84.1	2.3
<年齢>				
30代以下	97	12.4	84.5	3.1
40代	54	24.1	72.2	3.7
50代以上	14	7.1	85.7	7.1
<勤続年数>				
3年未満	61	4.9	93.4	1.6
3～5年未満	35	22.9	77.1	0.0
5年以上	69	23.2	73.9	2.9
<勤務形態>				
常勤	102	24.5	70.6	4.9
非常勤・研修医	65	3.1	93.8	3.1
<身分>				
講師以上	32	15.6	78.1	6.3
助教	54	27.8	66.7	5.6
医員以下	79	8.9	88.6	2.5
<役職>				
役職あり	40	20.0	70.0	10.0
役職なし	124	15.3	81.5	3.2

図表 5-7-3 : 看護師の労働組合加入の有無

(単位=%)

	n	組合に加入している	組合に加入していない	不明
看護師・計	379	37.7	58.0	4.2
<性別>				
男性	19	26.3	68.4	5.3
女性	359	38.4	57.4	4.2
<年齢>				
20代以下	198	38.9	56.6	4.5
30代	100	46.0	49.0	5.0
40代以上	79	25.3	73.4	1.3
<勤続年数>				
3年未満	75	26.7	65.3	8.0
3～5年未満	84	36.9	60.7	2.4
5～7年未満	46	54.3	43.5	2.2
7年以上	151	37.7	60.3	2.0
<役職>				
役職あり	54	27.8	70.4	1.9
役職なし	323	39.3	56.0	4.6

図表 5-7-4 : 医療技術職員の労働組合加入の有無

(単位=%)

	n	組合に加入している	組合に加入していない	不明
医療技術職員・計	166	22.9	72.9	4.2
<性別>				
男性	49	40.8	59.2	0.0
女性	116	14.7	79.3	6.0
<年齢>				
20代以下	67	17.9	80.6	1.5
30代	43	27.9	69.8	2.3
40代	31	19.4	77.4	3.2
50代以上	22	31.8	54.5	13.6
<勤続年数>				
3年未満	54	24.1	75.9	0.0
3～5年未満	32	6.3	90.6	3.1
5～7年未満	19	21.1	78.9	0.0
7年以上	50	32.0	62.0	6.0
<勤務形態>				
常勤	55	41.8	56.4	1.8
非常勤・アルバイト	96	13.5	82.3	4.2
<役職>				
役職あり	16	56.3	43.8	0.0
役職なし・診療科等検査等補助	137	20.4	76.6	2.9

図表 5-7-5 : 病院事務職員の労働組合加入の有無

(単位=%)

	n	組合に加入している	組合に加入していない	不明
病院事務職員・計	128	17.2	82.0	0.8
<性別>				
男性	33	9.1	87.9	3.0
女性	93	19.4	80.6	0.0
<年齢>				
20代以下	32	9.4	90.6	0.0
30代	32	18.8	81.3	0.0
40代	38	15.8	84.2	0.0
50代以上	23	26.1	73.9	0.0
<大学勤続年数>				
3年未満	35	14.3	85.7	0.0
3～5年未満	26	19.2	80.8	0.0
5～10年未満	25	20.0	80.0	0.0
10年以上	33	18.2	81.8	0.0
<勤務形態>				
常勤	49	18.4	81.6	0.0
非常勤・アルバイト	70	15.7	82.9	1.4
<役職>				
役職あり	21	9.5	90.5	0.0
役職なし	97	16.5	82.5	1.0

図表 5-7-6：直近1ヵ月の組合活動参加時間（単位＝％）

	n	組合参加時間							平均値			最大値 (時間)	最小値 (時間)
		0時間	1～3時 間未満	3～10時 間未満	10～15 時間未 満	15～20 時間未 満	20時間 以上	不明	平均 (時間)	標本標 準偏差	平均値 分換算		
医師	27	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0
看護師	143	91.6	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	0.1	0.0	1	0
医療技術職員	38	50.0	31.6	7.9	0.0	0.0	2.6	7.9	1.5	3.5	90.0	20	0
病院事務職員	22	86.4	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.6	12.0	2	0

※労働組合員を対象に集計。

図表 5-7-7：直近1ヵ月で参加した組合活動内容（複数回答、単位＝％）

	n	デモ・大 会	職場集 会・討論 集会	勉強会	組合内の 会議（執 行委員会 等）	レクリ エーショ ン	その他	とくに活 動はして いない	不明
医師	27	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	77.8	22.2
看護師	143	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	69.2	30.1
医療技術職員	38	0.0	5.3	2.6	5.3	31.6	7.9	47.4	7.9
病院事務職員	22	0.0	0.0	0.0	4.5	4.5	4.5	72.7	13.6

※労働組合員を対象に集計。

## 第6章 在院時間、生活時間——2日間の行動の事例から

### 1. 日勤の場合の在院時間、生活時間、睡眠時間の職種間比較

調査では、医師、看護師、医療技術職員、病院事務職員それぞれについて、過去2日間（休日でない直近の勤務日）の1日あたりの行動を24時間表記での自由記述で尋ねている。また、とくに当該2日間の(a)起床時刻、(b)出勤時刻（病院に着いた時間）、(c)退勤時刻（病院を出た時間）、(d)就床時刻——の4つの時刻についても記述するよう求めている<sup>16</sup>。

日勤の場合について見たものが図表6-1-1である<sup>17</sup>。起床時刻はいずれの職種も「6時～7時59分」の割合がもっとも高くなっている。出勤時刻をみると、看護師は、「6時～7時59分」の割合が1日目75.9%、2日目69.6%ともっとも高くなっており、他の職種よりも早期に出勤している割合が高い。医師も、「6時～7時59分」の割合が高く、1日目57.0%、2日目58.6%になっており、次いで、「8時～9時59分」も4割程度いる。医療技術職員、病院事務職員は、「8時～9時59分」の割合がもっとも高い。

退勤時刻では、医師が「21時～23時59分」の割合が1日目41.0%、2日目43.8%ともっとも高くなっており、他の職種に比べもっとも遅く退社している。就床時間をみると、「24時以降」の割合は、医師が1日目63.9%、2日目64.9%と高く、医療技術職員も1日目58.6%、2日目61.6%と高い。

2日間ともに日勤の場合、その在院時間（退勤時刻から出勤時刻を引いた値）をみると、「14時間以上」（「14～16時間未満」と「16時間以上」の合計）は、医師が1日目43.0%、2日目40.4%と他の職種に比べ高くなっている（図表6-1-2）。医師の在院時間が他の職種に比べ長いことがうかがえる。

次に、1日目退勤後から翌出勤までの生活時間（2日目の出勤時刻から1日目の退勤時刻を引いた値。以下、「生活時間」と略す）をみると、生活時間が「10時間未満」（「8時間未満」と「8～10時間未満」の合計）の割合は、医師が40.0%と、他の職種に比べ高くなっている（図表6-1-3）。

1日目就床時刻から翌起床時刻までの睡眠時間（2日目の起床時刻から1日目の就床時刻を引いた値。以下、「睡眠時間」と略す）をみると、睡眠時間が「6時間未満」（「4時間未満」「4～5時間未満」「5～6時間未満」の合計）の割合は、医師が33.0%ともっとも高く、次いで、医療技術職員が25.7%、看護師が18.4%、病院事務職員が15.3%となっている（図表6-1-4）。

<sup>16</sup> 調査票上では、回答例を付している。連続する2日分の行動の記録を求めているが、その日程、曜日については任意としている。

<sup>17</sup> 各職種の当直や夜勤のサンプルが少ないため、日勤の場合（2日間のいずれも日勤）のみの集計をした。ただし、当該2日間は、調査票上、連続しているが、回答された曜日は任意であることに留意がいる。

図表 6-1-1：日勤の場合の起床時刻、出勤時刻、退勤時刻、就床時刻（2日分）（単位＝％）

		n	0時～3 時59分	4時～5 時59分	6時～7 時59分	8時～9 時59分	10時～ 11時59 分	12時～ 15時59 分	16時～ 18時59 分	19時～ 20時59 分	21時～ 23時59 分	24時以 降	
医師	1 日目	起床時間	122	0.8	21.3	77.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		出勤時刻	121	0.0	1.7	57.0	39.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.8	
		退勤時刻	122	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	13.9	35.2	41.0	7.4
		就床時刻	119	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	36.1	63.9
	2 日目	起床時刻	116	0.0	17.2	81.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		出勤時刻	111	0.0	0.9	58.6	40.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		退勤時刻	112	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	18.8	30.4	43.8	5.4
		就床時刻	111	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	35.1	64.9
看護師	1 日目	起床時間	253	0.4	27.7	70.0	1.2	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
		出勤時刻	253	0.0	0.0	75.9	21.3	1.6	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0
		退勤時刻	252	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	41.3	40.9	16.3	0.8
		就床時刻	249	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	51.8	47.8
	2 日目	起床時刻	165	0.0	30.3	61.2	6.1	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		出勤時刻	161	0.0	0.0	69.6	23.0	4.3	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0
		退勤時刻	160	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	41.3	41.9	15.0	0.6
		就床時刻	157	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	50.3	49.0
医療技術 職員	1 日目	起床時間	145	0.7	14.5	83.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		出勤時刻	145	0.0	0.0	35.9	61.4	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
		退勤時刻	146	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.5	32.9	40.4	19.9	1.4
		就床時刻	145	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	41.4	58.6
	2 日目	起床時刻	141	0.0	18.4	78.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		出勤時刻	141	0.0	0.0	34.8	61.7	2.8	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
		退勤時刻	139	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	38.8	35.3	20.1	0.0
		就床時刻	138	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.4	61.6
病院事務 職員	1 日目	起床時間	118	0.0	25.4	72.9	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		出勤時刻	117	0.0	0.0	11.1	86.3	0.9	1.7	0.0	0.0	0.0	
		退勤時刻	117	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.5	57.3	29.9	3.4	0.9
		就床時刻	118	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	54.2	45.8
	2 日目	起床時刻	118	0.0	27.1	72.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		出勤時刻	118	0.0	0.0	13.6	83.9	0.8	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0
		退勤時刻	118	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8	61.9	25.4	5.9	0.0
		就床時刻	117	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.9	52.1

※日勤の場合について、無回答を除き集計。

図表 6-1-2：日勤の場合の在院時間（2日分）（単位＝％）

		n	8時間未 満	8～10時 間未満	10～12時 間未満	12～14時 間未満	14～16時 間未満	16時間以 上	14時間以 上計
医師	在院時間(1日目)	121	3.3	8.3	19.8	25.6	31.4	11.6	43.0
	在院時間(2日目)	109	1.8	7.3	22.9	27.5	33.9	6.4	40.3
看護師	在院時間(1日目)	252	0.0	15.1	45.2	32.9	6.0	0.8	6.8
	在院時間(2日目)	160	0.6	23.8	41.3	28.8	5.0	0.6	5.6
医療技術 職員	在院時間(1日目)	145	15.9	15.9	29.7	27.6	11.0	0.0	11.0
	在院時間(2日目)	138	13.8	20.3	30.4	24.6	10.9	0.7	11.6
病院事務 職員	在院時間(1日目)	117	36.8	17.9	35.0	8.5	0.9	0.9	1.8
	在院時間(2日目)	118	35.6	22.0	31.4	9.3	1.7	0.0	1.7

※日勤の場合について、無回答を除き集計。在院時間は退勤時刻から出勤時刻を引いた値。

図表 6-1-3：1日目退勤後から翌出勤までの生活時間（単位＝％）

	n	8時間未 満	8～10時間 未満	10～12時間 未満	12～14時間 未満	14～16時間 未満	16時間以上	10時間未 満計
医師	110	8.2	31.8	24.5	22.7	10.0	2.7	40.0
看護師	151	0.0	3.3	27.2	42.4	19.9	7.3	3.3
医療技術職員	140	0.0	10.7	26.4	27.1	17.1	18.6	10.7
病院事務職員	117	0.0	1.7	7.7	30.8	21.4	38.5	1.7

※2日ともに日勤の者（1日目、2日目いずれも日勤）を対象に無回答を除き集計。生活時間は2日目の出勤時刻から1日目の退勤時刻を引いた値。

図表 6-1-4：1 日目就床時刻から翌起床時刻までの睡眠時間(単位=%)

	n	4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上	6時間未満計
医師	112	0.9	6.3	25.9	38.4	20.5	8.0	33.1
看護師	152	2.0	2.0	14.5	33.6	29.6	18.4	18.5
医療技術職員	140	0.0	7.9	17.9	40.0	25.0	9.3	25.8
病院事務職員	118	0.0	4.2	11.0	39.0	36.4	9.3	15.2

※2日ともに日勤の者（1日目、2日目いずれも日勤）を対象に無回答を除き集計。睡眠時間は、2日目の起床時刻から1日目の就床時刻を引いた値。

## 2. 医師の勤務時間、仕事及び生活時間

### (1) 医師の診療の1日の事例

医師の1日の行動事例を参考としてまとめたものが図表 6-2-1 である（以下、ケース番号で各事例を示す。以下の事例をまとめた図表のケースは回答の誤記等を修正し加工している。以下同じ）。例えば、ケース 1 は、1 時に就床し、7 時に起床（睡眠時間は 6 時間）。8 時 30 分に病院に出勤し、カルテチェックのうえ、9 時から 12 時まで新患外来を行っている。午後は 13 時から 15 時にかけて病棟回診をし、15 時から 19 時まで実験。19 時 30 分に一旦帰宅し夕食を済ませたうえで再度出勤し、実験を 24 時 30 分まで続けている。最終的な帰宅は 24 時 40 分であり、25 時に就床に至っている。在院時間は、途中の外出はあるものの、おおまかにみて 16 時間弱である。

ケース 2 は、1 時 30 分に就床し、6 時 30 分に起床（睡眠時間は 5 時間）。7 時 30 分に病院に出勤し、8 時～8 時 30 分までカンファレンス。8 時 30 分に病棟回診し、9 時から 12 時まで内視鏡検査。午後には、13 時から 15 時 30 分まで病棟業務を行い、15 時 30 分にカンファレンス。16 時 30 分に回診、18 時に医局会。20 時から論文作成などを行い、22 時 30 分に退勤、23 時に帰宅。就床は 24 時である。在院時間はおよそ 16 時間となっている。

以上を踏まえると、医師の業務には、外来や病棟回診、検査などの診療のほかにも、カンファレンスや実験、論文作成、書類書きなど様々な業務をこなしている。カンファレンスは、出勤後すぐに行う場合（ケース 2、ケース 3、ケース 7、ケース 8）もあれば、午後、あるいは終業時間後に行われる場合もあり（ケース 5、ケース 6、ケース 7）、1 日に複数回、様々なカンファレンスがなされている。研究に付随する業務も多く、実験だけでなく、学会発表・講演会準備や論文作成、データ整理を診療業務の合間や終業時間後、さらには、帰宅後にも行っている（例えば、ケース 5、ケース 6）。また、早朝出勤直後（始業前）、抄読会をしている者もいる（ケース 5）。学生指導の例としては、ケース 7 が診療で学生指導をしており、ケース 8 も研修医指導や学生実習を業務中に行っている。

医師の中には、A 大学病院以外の病院で外勤する者もいる（図表 6-2-2）。ケース 9 は、7 時 30 分に自宅を出て、9 時から 12 時まで外勤先で外来診療を行い、15 時に帰院。以降、資料整理やカンファレンスを行い、20 時に退勤している。ケース 10 も、7 時 30 分に自宅を出て、9 時から 12 時 30 分まで外勤先で外来診療を行っている。14 時に帰院し、19 時まで実験を行い、以降、再度、外勤先で外来診療を行っている。

図表 6-2-1：医師の診療等業務の1日の事例〔医師調査〕

時刻	事項	時刻	事項
ケース1	(男性、30歳、子供なし、常勤、糖尿病・内分泌代謝内科、助教(特定雇用))	ケース5	(男性、33歳、子供なし、非常勤、整形外科、医員)
0100	就寝	0000	学会発表準備(0:00~1:00)
0700	起床	0100	就床(1:00~5:50まで睡眠)
0730	朝食	0550	起床
0830	出勤、カルテチェック	0615	朝食
0900	新患外来(9:00~12:00)	0710	病院出勤(抄読会)
1200	昼食	0830	手術(8:30~12:30)
1300	病棟回診	1230	昼食(12:30~13:00)
1500	病棟回診終了	1300	手術(13:00~16:00)
1500	実験	1600	病棟回診(16:00~16:30)
1900	実験終了	1630	カンファレンス(16:30~17:30)
1930	一旦帰宅	1800	カンファレンス(18:00~19:00)
	夕食	1900	病棟業務(19:00~21:00)
2030	再出勤	2100	学会発表準備(21:00~22:30)
	実験	2230	退勤
2430	実験終了	2245	帰宅、夕食(22:45~23:15)
2440	帰宅	2330	学会発表準備(23:30~24:30)
2500	就寝	2500	就床(1:00~6:00まで睡眠)
ケース2	(男性、35歳、子供あり、常勤、消化器内科、医員)	ケース6	(男性、40歳、子供あり、常勤、呼吸器・感染症内科、助教(特定雇用))
0130	就床		大学宿直(～6:30まで仮眠)
0630	起床	0630	起床
0700	自宅を出る	0700	朝食・病棟回診(7:00~8:00)
0730	出勤	0800	書類作成等(8:00~8:30)
0800	カンファレンス(8:00~8:30)	0830	外来診療(8:30~12:00)
0830	病棟回診	1200	研究(12:00~13:00)
0900	内視鏡検査(9:00~12:00)	1300	昼食(13:00~13:30)
1230	昼食	1330	研究・論文作成(13:30~18:30)
1300	病棟業務(13:00~15:30)	1830	研究カンファレンス(研究グループ)(18:30~19:30)
1530	カンファレンス	2000	病院から退勤
1630	回診(教授回診)		夕食等
1800	医局会	2130	論文作成(21:30~24:00)
2000	論文作成	2430	就寝
2200	夕食	ケース7	(男性、44歳、子供なし、常勤、放射線科、助教(特定雇用))
	論文作成	0600	起床
2230	退勤	0600	朝食
2300	帰宅	0650	自宅発
2400	就床	0715	出勤
ケース3	(男性、38歳、子供なし、常勤、血液内科、助教(診療))	0800	科内カンファレンス
0700	起床	0900	診療+学生教育
0750	自宅を出る	1230	昼食
0810	病棟カンファレンス(8:10~8:40)	1300	診療+学生教育
0840	病棟診療(8:40~11:00)	1730	他科とのカンファレンス
1100	食堂で食事(11:00~12:00)	1800	研究、学会への準備
1200	病棟診療(12:00~19:00)	2100	病院発
1900	勉強会(19:00~20:00)	2130	帰宅、夕食
2000	夕食(20:00~20:30)	2300	入浴
2030	病棟診療(20:30~21:00)	2400	就床
2100	書類書き(21:00~24:00)	ケース8	(女性、65歳、子供あり、常勤、麻酔科蘇生科、准教授)
2400	退勤	0030	就床(0:30~6:00まで睡眠)
2410	帰宅	0600	起床
2500	就寝	0610	朝食など(6:10~6:50)
ケース4	(男性、55歳、子供あり、常勤、整形外科、准教授)	0655	自宅を出る
0530	起床、朝食		病院に出勤
0620	自宅を出る	0715	カンファレンス(7:15~8:15)
0700	病院に出勤	0845	研修医指導(8:45~9:30)
0800	ミーティング(8:00~8:30)	1030	学生実習(10:30~12:30)
0845	手術(8:45~11:00)	1230	昼食
1100	病棟処置(11:00~11:30)	1300	会議(13:00~14:00)
1130	昼食(11:30~12:00)	1400	説明会(14:00~15:00)
1200	病棟回診(12:00~12:30)	1500	書類整理(15:00~17:00)
1230	手術ミーティング(12:30~13:30)	1700	手術票チェック(17:00~18:00)
1400	書類書き、データ整理とまとめ(14:00~16:00)	1800	書類書き、データのまとめ(18:00~19:30)
1600	講演会の準備(16:00~20:00)	1930	病院から退勤
2000	病院から退勤	2000	夕食、片づけ(20:00~21:00)
2040	帰宅	2100	団欒(21:00~22:30)
2300	就床	2230	資料チェック(22:30~23:30)
		2430	就床

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、勤務形態、診療科、身分を示す。



図表 6-2-2 : 外勤の事例 (2 日分) [医師調査]

日・時刻	事項	日・時刻	事項
ケース9 (女性、33歳、子供なし、非常勤、循環器内科、大学院生時間外診療)		ケース10 (女性、34歳、子供なし、その他、小児科・新生児科、その他)	
1日目	0630 起床 0730 自宅を出る 0900 パート先の病院着 0900 外来診療(9:00~12:00) } 外勤 1200 移動・昼食(12:00~14:00) 1500 大学で資料整理 1700 病棟カンファレンス(17:00~19:00) 2000 退勤 2030 帰宅 2430 就床	1日目	0100 帰宅 0230 就床(2:30~6:30まで睡眠) 0630 起床 0730 自宅を出る(外勤先へ出勤) 0900 外勤先で外来診療 } 外勤 1230 外来終了 1400 大学へ帰院・昼食 1430 実験・論文読みなど 1730 実験終了・外勤先へ出勤 1900 外勤先で外来診療 } 外勤 2100 外来終了 2200 大学へ帰院・論文読み・カルテ整理 2330 帰宅 2430 就床
2日目	0700 起床 0730 自宅を出る 0800 病院着 0900 心エコー(9:00~12:00) 1200 昼食 1300 運動負荷試験(診療外来) 1500 研究のまとめ(15:00~18:00) 1800 医局会(18:00~19:00) 1900 夕食 2000 退勤 2030 帰宅 2430 就床	2日目	0030 就床 0630 起床 0800 出勤 0900 外来診療 1300 外来終了 1400 昼食 1500 外来カンファレンス 1630 カンファレンス終了 1700 実験 1900 実験終了・退勤 1930 職場の飲み会 2300 帰宅 2430 就床

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケース属性のカッコ内は、性、年齢、子供の有無、勤務形態、診療科、身分を示す。

(2) 医師の宿直の事例

医師の宿直の事例をまとめたものが図表 6-2-3 である。ケース 11、ケース 12 いずれも、日勤の通常業務をこなし、ケース 11 の場合、17 時 30 分から翌朝にかけて宿直をしている。ケース 12 の場合も、1 日目の通常勤務(日勤)を終え、18 時から翌朝まで宿直をしている。宿直時間内の行動をみると、ケース 11 の場合、宿直開始後、救急などの対応をし、夕食は 22 時 30 分から 22 時 50 分までに済ませ、23 時から 24 時にかけて読影、翌 0 時から 1 時 30 分にかけてカンファレンス準備を行っている。3 時から 6 時まで仮眠をとっており、3 時間程度の睡眠時間である。ケース 12 も、1 日目の通常勤務の後、18 時以降は研究室で研究活動や医局業務をし、24 時 30 分から当直室で就床をするも、5 時 30 分に外来患者の電話対応をしている。以上を踏まえると、宿直開始後、仮眠をとるまでの間、研究や雑務の処理をするなど何らかの仕事をしており、その間にも救急外来対応をしている。また仮眠後も、救急外来の対応をしている者がいる。いずれの事例も翌日は通常勤務である。

ケース 13 は、1 日目に外勤勤務を経て、帰院の後、宿直を行った事例である(図表 6-2-4)。また、外勤先での宿直の事例としてケース 14、ケース 15 もある(図表 6-2-5)。ケース 14 では、1 日目に A 大学病院で通常勤務(日勤)を行い、20 時に他院で宿直を行っている。当直開始後は、2 度、分娩を行っており、当直終了後、帰院した後、2 日目の通常勤務を行っている。ケース 15 も、1 日目は A 大学病院で通常勤務(日勤)を行い、18 時に退勤の後、18 時 45 分以降、他院で宿直を行っている。2 日目は A 大学病院での通常勤務についている。

図表 6-2-3 : 宿直の事例 (2日分) [医師調査]

日・時刻	事項	日・時刻	事項	
ケース11 (男性、29歳、子供なし、常勤、放射線科、医員)		ケース12 (男性、42歳、子供あり、常勤、循環器内科、講師)		
1 日目	2530 就床	1 日目	0030 就床	
	0630 起床、朝食		0630 起床	
	0730 自宅出る		0740 出勤	
	0745 病院着		0830 病棟カンファレンス	
	0800 カンファレンス(8:00~9:00)		0830 研究室にて医局業務(8:30~10:00)	
	0900 業務(9:00~12:30)		1000 外来診療(10:00~12:30)	
	1230 昼食(12:30~13:30)		1230 昼食(12:30~13:00)	
	1330 業務(13:30~17:30)		1300 外来診療(13:00~16:00)	
	1730 宿直開始		1600 研究室にて研究活動(16:00~17:30)	
	救急など対応		1730 研究カンファレンス(17:00~18:00)	
2230 夕食(22:30~22:50)	1800 宿直業務開始	2 日目	0530 外来患者電話対応	
2300 読影(23:00~24:00)	1930 夕食(19:30~20:00)		0600 起床	
2 日目	0000 カンファレンス準備(0:00~1:30)		2100 研究室にて研究活動または医局業務(21:00~24:00)	0600 研究室にて朝食、休憩(6:00~7:45)
	0300 仮眠		2430 当直室にて就床(24:30~翌5:30)	0745 病棟カンファレンス(7:45~8:30)
	0600 仮眠明け			0830 研究室にて研究活動(8:30~12:30)
	0730 朝食			1230 昼食(12:30~13:00)
	0800 カンファレンス(8:00~9:00)			1300 研究室で研究活動(13:00~16:30)
	0900 業務(9:00~12:30)			1630 病棟業務(16:30~18:00)
	1230 昼食(12:30~13:10)			1800 研究室にて研究活動(18:00~19:30)
	1320 業務			1930 夕食・休憩(19:30~21:00)
	1900 カンファレンス(19:00~20:30)		2100 研究室で研究活動(21:00~23:00)	
	2030 返書作成、事務仕事(20:30~22:00)		2400 就床	
2230 退勤				
2300 夕食等				
2530 就寝				

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、勤務形態、診療科、身分を示す。

図表 6-2-4 : 外勤先勤務を経て A 大学病院で宿直の事例 (2日分) [医師調査]

日・時刻	事項	
ケース13 (男性、43歳、子供なし、常勤、眼科、助教(特定雇用))		
1 日目	0630 起床	
	0650 自宅を出る	
	0700 出勤	A大学病院勤務
	病棟回診	
	0745 離院	外勤先勤務
	0915 他病院勤務	
	外来	A大学病院での勤務、宿直
	1330 昼食	
	外来	
	1445 離院	
大学帰院		
回診、レーザー治療、当直開始		
1800 夕食		
1830 雑用		
2130 献眼加工		
2300 病棟処置		
2430 就寝		
病棟の床のワックスがけで眠れず(3:30まで)		
2 日目	0700 起床	
	回診	
	0830 朝食	
	0900 外来	
	1330 昼食	
	1340 外来	
	1600 学生の指導	
	1800 病棟業務(ICなど)(18:00~21:45)	
2200 退勤		
2330 就床		

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、勤務形態、診療科、身分を示す。

図表 6-2-5：外勤先での宿直の事例（2日分）〔医師調査〕

日・時刻	事項	日・時刻	事項
ケース14 (男性、46歳、子供あり、常勤、産婦人科、助教 (特定雇用))		ケース15 (女性、30歳、子供なし、非常勤、呼吸器・感染症内科、医員)	
1 日 目	0630 起床	1 日 目	0000 就床 (0:00~7:00)
	0700 自宅出る		0700 起床
	0730 出勤		0730 朝食
	0900 外来		0800 病院へ出勤
	1430 昼食 (14:30~15:00)		病棟回診
	1600 外来終了		1000 病理解剖立ち会い (10:00~12:30)
	1600 カンファレンス		1230 食事 (12:30~13:00)
	1730 終了		1300 病理解剖遺族へ説明 (13:00~14:00)
	統括医長業務		1400 気管支鏡検査 (14:00~17:00)
	2000 退勤		1700 カルテかき、病棟回診 (17:00~18:00)
2 日 目	他院当直へ	1800 病院から退勤	
	2300 分娩 (23:00~24:30)	1845 他病院へ出勤	
	2500 就床	1845 夕食 (18:45~19:00)	
	0400 分娩 (4:00~5:00)	2030 当直回診 (20:30~21:00)	
	他院当直終了	2100 文献読み、研究データまとめ (21:00~22:00)	
	0830 病院到着	2200 仮眠	
	実験データまとめ	仮眠 (前日22:00~翌7:00)	
	統括医長業務	0700 朝食 (7:00~7:30)	
	1200 昼食 (12:00~12:30)	0730 他院退勤	
	1230 学会準備	0800 病院へ出勤	
1500 カンファレンス (15:00~17:00)	0830 病棟回診		
1700 研究、ミーティング (17:00~19:00)	1130 緊急CT (11:30~12:30)		
1900 学会準備 (19:00~21:00)	1230 カルテかき (12:30~13:00)		
2100 退勤	1300 昼食 (13:00~13:30)		
2130 帰宅	1330 処置 (13:30~14:00)		
夕食等	1400		
2500 就床	1700 カンファレンス (17:00~18:00)		
	1800 夕食 (18:00~18:30)		
	1830 カルテかき、研究発表準備 (18:30~22:00)		
	2200 退勤		
	2215 帰宅		
	2215 家事等		
	2500 就寝		

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、勤務形態、診療科、身分を示す。

### (3)子育て期の医師の仕事と子育ての両立状況

子育て期の医師の1日の行動をまとめたものが図表 6-2-6 である。ケース 16 (女性、36歳) は、6時に起床後、7時30分に子供を幼稚園に送迎。8時30分に出社後、午前・午後には検査業務を行い、17時に終業。17時30分に退勤し、18時に子供の迎えをし、帰宅の後は家事。21時に子供の寝かしつけをした後は、資料読み等をして就床は23時。ケース 17 (女性、44歳) は、7時30分に子供を見送った後、午前中に学校参観、午後にも子供の用事を済ませたうえで、15時から研究会出席を行い、18時に帰宅している。ケース 18 (女性、37歳) では、起床後に子供の支度・授乳を済ませて後、8時30分から他病院の外勤外来を午前中に行い、午後には帰宅し、再度子供の世話などを行っている。これらの事例では、家事・育児負担があるため、終業時間後間もなく帰宅している者が多く、また短時間勤務の者もいるようである。その一方で、ケース 19 (女性、34歳) は通常勤務を終えたのち、17時30分以降に一旦帰宅をし、19時に再度帰院の後は、外来のカンファレンスや実験などを行い、最終的に23時に帰宅する者もいた。

なお、ケース 21 (男性、40歳)、ケース 22 (男性、39歳) は、男性のケースであり、ケース 21 は朝に子供を保育園に送っている。ケース 22 は18時に一旦退勤し、子供のお迎えをした後、再度出勤して、レポート作成業務をこなし22時に退勤している。

図表 6-2-6 : 子育て期の医師の診療の1日の事例〔医師調査〕

時刻	事項	時刻	事項
ケース16	(女性、36歳、子供あり、非常勤、循環器内科、医員)	ケース19	(女性、34歳、子供あり、常勤、小児科・新生児科、医員)
2300	就床(23:00～6:00まで睡眠)	0000	就寝
0600	起床	0600	起床
0730	子供を幼稚園へ送迎	0740	自宅出る、子どもの送り
0830	出勤・業務(検査)(8:30～12:30)	0810	病棟・検査・回診(8:10～11:00)
1230	昼休み	1100	カンファレンス(11:00～12:00)
1300	午後検査(13:00～17:00)	1200	昼食
1700	終了	1300	外来(13:00～16:30)
1730	病院から退勤	1630	病棟カンファレンス(16:30～17:15)
1800	こども迎え	1730	一旦帰宅(17:30～19:00)
1900	夕飯	1900	外来のカンファレンス(19:00～21:30)
1930	家事・育児	2130	実験(21:30～23:00)
2100	寝かしつけ	2300	帰宅
2200	資料読み等	2400	就寝
2300	就床	ケース20	(女性、30歳、子供あり、常勤、眼科、医員)
ケース17	(女性、44歳、子供あり、非常勤、糖尿病・内分泌代謝内科、医員)		夜泣きで起こされる(数回)
0600	起床	0700	起床・朝食など
0630	朝食	0800	保育園へ子供の見送り
0730	学校(バス停まで)見送り	0830	病棟へ行き入院患者診察
0830	自宅をでる	0900	オペ室へ(外回り仕事)
0900	学校参観(9:00～10:30)	1000	オペに入る(助手)
1200	昼食	1300	オペ室のロッカー前でパンを食べる
1300	子供の用事(13:00～14:30)	1320	オペに入る
1500	研究会出席(15:00～17:30)	1730	病棟業務
1800	帰宅	1830	帰宅
1830	夕食		家事・育児など
2100	家事、洗濯等	2200	就床
2200	資料よみ(22:00～23:00)	ケース21	(男性、40歳、子供あり、常勤、眼科、助教(診療))
2400	就寝	0700	起床
ケース18	(女性、37歳、子供あり、非常勤、小児科・新生児科、医員)	0800	出勤、保育園への送り(2名)
2300	就寝	0900	外来診察
0600	起床	1455	外来診察終了
	家事・子供の支度・授乳	1500	病棟業務
0830	他病院の外来業務		回診、カンファレンス、術前IC
1230	外来終了	1950	病棟業務終了
1250	帰宅	2010	帰宅、夕食等
	家事・子供の世話	2400	就床
1600	保育園お迎え	ケース22	(男性、39歳、子供あり、常勤、放射線科、助教(特定雇用))
1830	夕食	0700	起床
	家事・子供の世話	0745	自宅を出る
2300	就寝	0800	出勤
		0800	カンファレンス
		0900	外来開始
		1230	外来終了
			昼食
		1330	放射線業務(13:30～17:00)
		1700	終了
		1800	一時退勤
			子供のお迎え
		1830	出勤
			放射線業務のレポート作成
		2200	退勤
		2400	就床

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、勤務形態、診療科、身分を示す。

### 3. 看護師の勤務時間、仕事及び生活時間

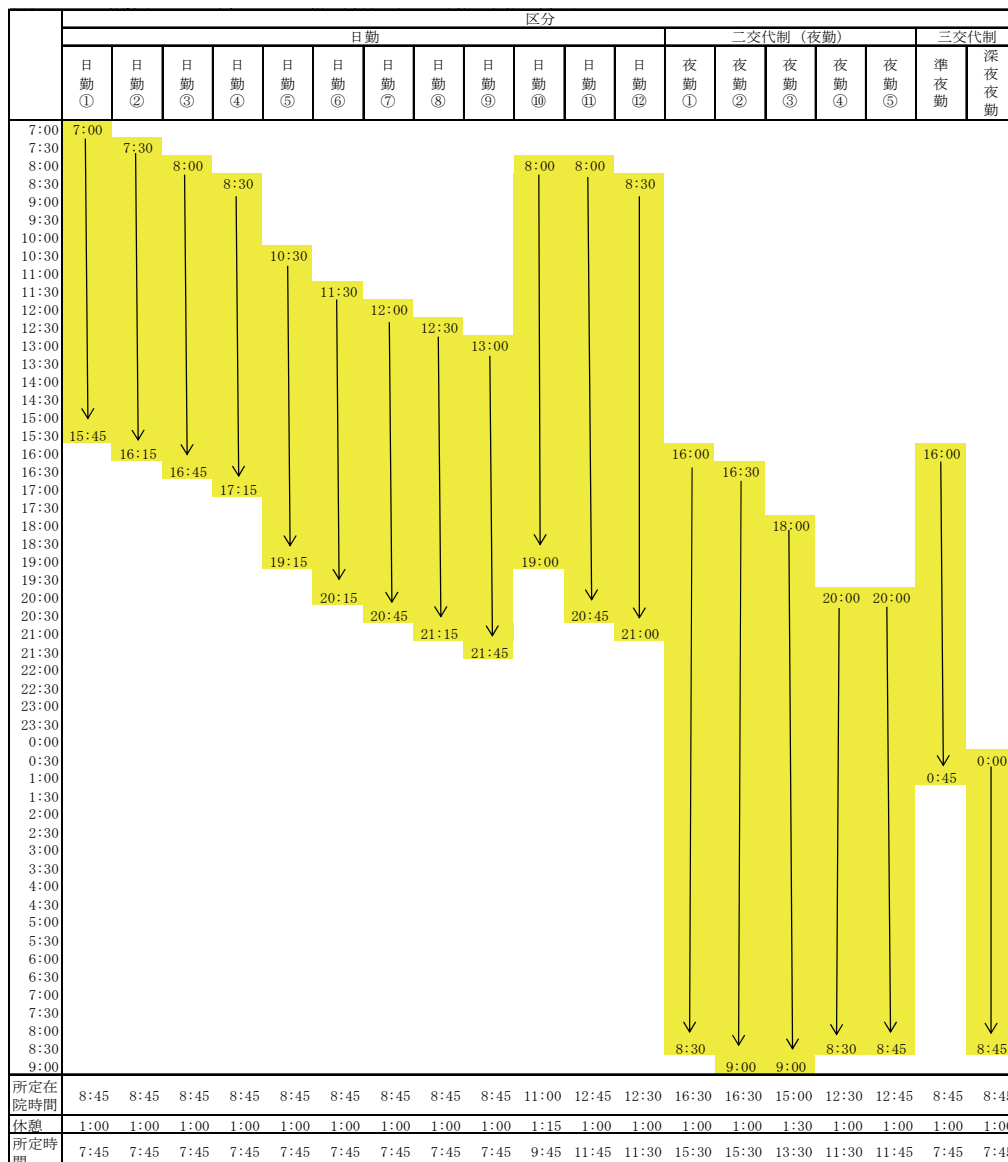
#### (1) 看護師の1ヵ月単位の変形労働時間制の下での始業・終業時間の区分

病棟をかかえる病院は24時間体制であるため、看護師は、二交代制と三交代制などにより夜勤に対応している場合が多い。A大学病院の規程から、看護師の1ヵ月単位の変形労働

時間制の下での始業・終業時間の区分をまとめたのが図表 6-3-1 である<sup>18</sup>。

二交代制の場合、例えば、日勤③（8:00～16:45）と夜勤①（16:00～8:30）という具合にシフトが組まれる。三交代制の場合、日勤①（8:00～16:45）、準夜勤（16:00～0:45）、深夜夜勤（0:00～8:45）という具合にシフトが組まれることになる<sup>19</sup>。

図表 6-3-1：看護師の1ヵ月単位の変形労働時間制の下での始業・終業時間の区分



## (2)看護師の業務（日勤）1日の事例

看護師調査から、看護師の業務（日勤）の一般病棟での1日の行動事例を参考としてまとめたものが図表 6-3-2 である。

例えば、ケース 1 は、0 時に就床し、6 時に起床（睡眠時間は 6 時間）、7 時に出勤し、8 時 20 分に始業・申し送りを行っている。9 時～10 時まで検温等をし、10 時から配薬・点滴。11 時 30 分から 1 時間の昼休み。午後は、13 時から下膳、夜勤の部屋わりをし、13 時 30 分から 14 時までカンファレンス等したあとに、16 時に夜勤の申し送りをしている。その後、18 時 30 分から院内発表会の準備などをして、23 時に帰宅している。就床は 24 時である。在院時間はおよそ 17 時間である。

図表 6-3-2 の一般病棟の業務をみると、入院患者の検温、配薬、点滴、環境整備、採血、血糖測定、保清、清拭、配膳・下膳、食事介助、入浴介助——等様々である。出勤してからの「情報収集」や「申し送り」「カンファレンス」も随時なされており、交代勤務や入院患者に対応するための情報交換の頻度も多い。ケース 2 では、終業時間以後に、「退院前カンファレンス」や「事例検討会」も行われている。ケース 3 では、患者・家族の IC（インフォームドコンセント）同席や主治医との情報交換を行っている。リーダー業務のある者もいる（ケース 4、ケース 6）。

次に、一般病棟以外の配属部署（手術室、内視鏡センター、集中治療部、外来部門）の 1 日の業務をみたものが、図表 6-3-3 である。例えば、ケース 7（高度救命救急センター）は、24 時に就床し、6 時に起床（睡眠時間 6 時間）。7 時に出勤。7 時 20 分に情報収集、8 時に申し送り。その後、8 時 30 分から検温、9 時に保清。9 時 30 分から 9 時 45 分までチームカンファレンス。その後点滴などを行い、昼休み後、12 時 30 分から点滴・リハビリなどを行っている。18 時から 20 時 30 分まで ER 対応があり、20 時 30 分に夜勤者への申し送り。以降、記録やインシデントレポート記載で終業は 24 時である。在院時間は 17 時間に及ぶ。帰宅は 24 時 20 分で就床は 25 時。

ケース 9（手術室）は、7 時 30 分に病院に着き、7 時 45 分からオペ準備。8 時始業でミーティングし、9 時 30 分からオペ介助（外回り）をしている。午後もオペ介助をし、18 時 30 分に終了。終了後は、器械片づけなどをする。21 時 15 分に退勤、24 時に就床。

ケース 11（外来部門）は、7 時 50 分に病院出勤。8 時 15 分に申し送り。午前の外来の採血・検温、点滴介助をし、昼食をはさみ、午後は、13 時 30 分から 15 時 15 分にかけて、他部署へのリリースをしている。17 時 15 分の定例会に参加し、18 時 15 分に退勤。19 時に帰宅し、24 時に就床している。

図表 6-3-2：看護師の業務（日勤、一般病棟）の1日の事例〔看護師調査〕

時刻	事項	時刻	事項
ケース1	(女性、25歳、子供なし、二交代制、一般病棟、役職なし)	ケース4	(女性、34歳、子供なし、二交代制、一般病棟、役職なし)
0000	就床(0:00～6:00まで)		睡眠(23:00～6:00まで)
0600	起床	0600	起床。朝食・支度
0700	出勤	0740	家を出る
0820	始業・申し送り	0750	出勤
0900	検温等(9:00～10:00)	0800	始業
1000	配薬・点滴	0815	申し送り
1130	休憩調整、昼休み(11:30～12:30)	0900	検温・点滴・保清
1300	下膳・夜勤の部屋わり	0900	後輩指導・翌日の検査拾い(9:00～11:30)
1330	カンファレンス(13:30～14:00)	1130	休憩(11:30～12:30)
1400	指示受け	1230	リーダー業務(12:30～13:30)
1500	申し送りをメンバーからもらう(15:00～16:00)	1330	カンファレンス(13:30～14:00)
1600	夜勤へ申し送り(16:00～16:30)	1400	夜勤の部屋決め・検温
1700	指示受け残り・明日の業務確認	1600	申し送り
1800	メンバーの声かけ(手伝える業務等がないか確認)	1700	合同カンファレンス(17:00～17:30)
1830	係りの仕事と院内発表会の準備(18:30～23:00)	1800	師長・副師長会に参加(18:00～19:30)
2300	帰宅	1930	終了
2330	夕食・入浴	2000	帰宅。夕食など。
2400	就床	2300	就寝
ケース2	(女性、27歳、子供なし、二交代制、一般病棟、役職なし)	ケース5	(女性、31歳、子供なし、二交代制、一般病棟、役職なし)
2300	就寝		テレビ・インターネットなど
0630	起床	0300	就床(3:00～11:30まで睡眠)
0645	朝食	1130	起床
0720	自宅を出る		入浴・昼食など
0745	病棟に出勤し情報収集開始	1230	出勤
0815	始業、申し送り	1300	始業
0830	点滴準備、環境整備、採血(9:15頃まで)	1300	ナースコール対応
0915	検温、点滴、配薬、患者の保清など	1400	清潔ケア
1200	昼休み		患者搬送等
1245	業務再開	1600	休憩
1330	チームカンファレンス(13:30～14:00)	1645	点滴・配茶・ナースコール対応
1400	検温にまわる	1800	配膳・下膳・食事介助
1600	申し送り	1900	患者死亡対応
	記録、物品などの確認	2150	退勤
1700	退院前カンファレンス(17:00～17:45)	2215	帰宅
1800	事例検討会(18:00～19:00)		テレビ・インターネット・読書等(22:15～翌2時頃)
1915	病院から退勤	0200	就床
2000	夕食など	ケース6	(女性、53歳、子供あり、二交代制、一般病棟、役職なし)
2300	就寝	2300	就床
ケース3	(女性、35歳、子供なし、二交代制、一般病棟、役職なし)	0600	起床
2300	就床(23:00～6:00まで)	0630	朝食、家事など
0600	起床	0700	自宅を出る
0715	自宅を出る	0740	病院へ到着
0725	病院に出勤	0800	始業、朝礼、カンファレンス(8:00～9:00)
0730	情報収集	0900	モーニングケア、患者ケアなど(9:00～10:00)
0800	始業・点滴準備・配膳	1000	患者のシャワー、処置介助(10:00～11:00)
	申し送り(8:20～8:50)	1100	リーダー業務(11:00～11:45)
	清掃(8:50～9:15)	1145	昼休み(11:45～12:30)
	検温・点滴(9:15～10:30)	1230	食事介助(12:30～13:30)
1030	検査の介助・搬送・ベッドサイドで患者の話を聞く	1330	カンファレンス(13:30～14:30)
1130	血糖測定・配薬・配膳・配茶・食事介助	1430	リーダー業務(点滴翌日分確保、夜勤者の患者分担等、14:30～15:00)
	下膳・配薬	1500	リーダー業務(メンバーからの送りきく、15:00～15:30)
1245	昼休み(12:45～13:25)	1530	点滴確認、準備(15:30～16:00)
1330	カンファレンス(13:30～14:00)	1600	夜勤者への引継ぎ(16:00～16:20)
1400	検温・清拭(14:00～14:30)	1620	患者ケア(清拭等、16:20～17:15)
1430	入浴介助(14:30～15:00)	1715	リーダー業務、翌日の検査説明、指示確認(17:15～18:00)
1500	清拭・洗髪介助(15:00～15:30)	1840	リーダー業務、病室のラウンド、整理整頓(18:00～18:30)
1530	リーダーに申し送り(15:30～15:45)	1830	係の仕事の相談(18:30～19:30)
1545	巡視・明日の検査説明(15:45～16:15)	1930	リーダー業務、翌日の入院、担当者決めなど(19:30～20:00)
1615	記録(16:15～16:45)	2000	終業
1645	点滴準備(16:45～17:00)	2030	退勤
1700	IC同席(家族対応17:00～17:45)	2130	帰宅。夕食など。
1745	IC同席(患者本人17:45～18:30)	2300	就床
1830	主治医と情報交換(18:30～18:45)		
1845	記録(18:45～19:25)		
1930	研修発表の準備・スライド作り(19:30～21:00)		
2130	病院より退勤		
2145	帰宅。食事、お弁当づくりなど。		
2400	就床		

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、交代制、配属、役職を示す。

図表 6-3-3：看護師の業務(日勤)の1日の事例〔看護師調査〕

時刻	事項	時刻	事項	時刻	事項
ケース7	(男性、25歳、子供なし、二交代制、高度救命救急センター、役職なし)	ケース9	(女性、25歳、子供なし、二交代制、手術室、役職なし)	ケース11	(女性、45歳、子供あり、夜勤なし、外来部門、役職なし)
2400	就床	0630	起床	0550	起床
0600	起床。朝食など。	0715	家を出る	0630	弁当作り・洗濯・片付け
0700	病院へ出勤	0730	病院着	0720	自宅を出る
0720	情報収集	0745	仕事開始。オペ準備。	0750	病院出勤
0800	申し送り	0800	始業・ミーティング	0815	申し送り
0830	検温	0830	他室の入室手伝い		採血・検温
0900	保清	0930	オペ介助(外回り2件)		点滴介助
0930	チームカンファレンス(9:30~9:45)	1015	オペ後片付け・部屋づくり	1240	昼食(12:40~13:30)
	点滴	1030	他の部屋の入れ替え手伝い	1330	他部署へリリーフ(13:30~15:15)
1100	注入準備	1115	オペ準備		掃除・翌日準備
1200	昼休み(12:00~12:30)	1200	休憩	1715	定例会
1230	点滴・リハビリなど	1245	オペ介助	1815	病院から退勤
1700	注入準備	1600	休憩	1900	帰宅
1800	ER対応(18:00~20:30)	1615	オペ介助の続き	2000	夕食、片づけ
2030	夜勤者へ申し送り(20:30~21:00)	1830	退室(OPE介助終了)・申し送り		翌日、昼食準備・入浴
2100	医師へ指示の確認	1840	退室手伝い(他室)・部屋づくり・器械片付け	2400	就床
2115	記録(21:15~23:30)	2045	勤務終了(記録・雑務・情報交換など)	ケース12	(女性、35歳、子供あり、夜勤なし、外来部門、役職なし)
	環境整備	2115	退勤	0530	起床
2330	インシデントレポート記載(23:30~24:00)	2130	帰宅・食事・入浴など	0615	朝食、支度、子供の準備
2400	終業	2230	自由時間	0720	自宅を出る
2420	帰宅	2400	就床	0800	出勤
2500	就床			0815	始業、申し送り
ケース8	(女性、26歳、子供なし、三交代制、集中治療部、役職なし)	ケース10	(男性、36歳、子供なし、夜勤なし、手術室、役職なし)		採血、点滴管理
0645	起床。朝食など。	0530	起床	1200	昼休み(12:00~13:00)
0720	自宅を出る	0730	自宅を出る	1300	記録
0740	出勤	0745	病院へ出社		点滴管理、申し送り
0800	申し送り		始業	1500	話し合い
0830	環境整備・物品確認・点検(8:30~9:00)		オペ器械出し	1600	製薬会社の勉強会(16:00~16:40)
0900	患者の観察(分娩経過中9:00~11:50)	1130	昼食	1640	点滴管理
		1230	オペ器械出し	1715	終業
1150	昼食(11:50~12:15)	1700	終業	1730	退勤
1215	分娩介助(12:15~14:00)		明日の準備	1810	帰宅
1400	患者の検温・病棟・説明(14:00~14:20)		病院から退勤	1900	夕食、入浴
1420	物品の確認・点検・記録(14:20~15:30)	1830	帰宅	2030	子供の寝かしつけ
1530	更衣・清拭(15:30~16:00)	1900	夕食	2100	翌日の準備
1600	申し送り		部屋の片付けやネットサーフィン	2200	テレビ、新聞、メール
1620	記録(16:20~17:30)	2400	就床	2250	就寝
1730	終業				
1800	帰宅。夕食など。				
2030	テレビ(20:30~22:30)				
2300	就床				

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、交代制、配属、役職を示す。

### (3) 看護師の二交代制の事例

看護師の二交代制は、24時間を二分割するが、A大学病院の場合、夜勤時間のパターンは12時間、14時間、16時間の3パターンである。そのなかでも日勤8時間と16時間の組み合わせが取られる場合が多い。例えば、日勤8:00~16:45、夜勤16:00~翌8:30という具合にシフトが組まれる。看護師の二交代制の事例をまとめたものが図表6-3-4である。ケース13では、1日目の就床が1時で、起床は9時30分である。11時に昼食をして、12時から14時まで仮眠をとっている。自宅を出たのは14時30分。15時に出勤し、始業は16時。16時20分から16時30分まで申し送り。16時30分から18時まで検温、BS(バイタルサイン)測定、点滴交換などを行っている。18時に入院患者の夕食の配膳をし、食事介助、下膳。20時に患者の就寝前の巡視。21時病棟消灯。21時30分から夕食休憩をとっている。23時以降2時間ごと病室巡視。2日目は5時に排液、記録、点滴準備、6時に点滴交換、検温な



どをしている。8時10分に日勤者への申し送りをし、その後、8時30分に内服確認、食事等確認などをし、10時に退勤している（在院時間はおよそ19時間）。帰宅は11時。昼食の後、仮眠し5時に起きて以降、テレビ視聴や夕食などをとり、21時に就床している。

なお、例えば、二交代制で夜勤シフトが16時開始の場合、前日が日勤であれば、翌日の夜勤勤務開始まで余暇時間が生じるはずである。二交代制で1日目（日勤）、2日目（夜勤）のケースを見たものが図表6-2-5である。ケース15は、1日目に通常の日勤業務をしており、その日の20時に退勤。20時20分に帰宅し、21時に夕食などをし再度帰宅したのは、2日目の翌2時である。2時40分に就床し、起床は12時20分。その後食事、準備等をして、自宅を出たのは13時50分。14時20分に病院に着き、16時に申し送り。16時40分に病棟ラウンドをし、以降、夜勤が翌日まで続いている。ケース16も同様であり、1日目の日勤終了後、17時30分に退勤。23時に就床し、翌日7時に起床。その後、9時に再び就床し、12時30分に起床している。自宅を出たのは14時30分で、14時50分に病院着。16時40分から巡視などを始め、夜勤が翌日まで続いている。看護師は日勤終了後、翌日の夜勤シフトの間、外出や自宅でのテレビ視聴、仮眠等を適宜入れ過ごしている姿が垣間見える。

図表 6-3-4 : 二交代制の夜勤シフトの事例 (2 日分) [看護師調査]

日・時刻	事項	日・時刻	事項
ケース13	(女性、38歳、子供なし、二交代制、一般病棟、役職なし)	ケース14	(女性、54歳、子供あり、二交代制、一般病棟、副看護師長)
1日目	0100 就床(1:00~9:30) 0930 起床 0930 掃除、弁当作り(9:30~11:00) 1100 昼食、テレビ(11:00~11:30) 1200 仮眠(12:00~14:00) 1430 自宅を出る 1500 病院に出勤 1600 始業 1620 申し送り(16:20~16:30) 1630 検温、BS測定、点滴交換、配茶(16:30~18:00) 1800 夕食の配膳 食事介助 1840 下膳、内服確認、食事等の確認、検温(18:40~20:00) 2000 就寝前の巡視(20:00~21:00) 2100 消灯、消灯後リーダーへ申し送り(21:00~21:30) 2130 休憩、夕食(21:30~21:45) 2145 コール対応、記録など 2300 巡視(以降2時間ごとに病室巡視)	1日目	0030 就床(0:30~12:00まで睡眠) 1200 起床 1300 昼食・新聞をみる(12:00~13:00) 1300 入浴 1400 学習(14:00~14:20) 1420 自宅を出る 1545 病院に出勤 始業・申し送り・注射準備 1700 検温・患者のケア・スタッフから送りをきく 記録・点滴・血糖施行 1930 夕食(19:30~20:00) 点滴更新・眠剤配り・注射 2100 病棟消灯・スタッフから送りを聞く 1時間ごとチェック患者対応・吸引・体交・VS測定 Dr報告・ナースコール対応・電カルテ入力 明日の点滴オーダーチェック 内服薬チェック
2日目	0330 休憩 0500 排液、記録、点滴準備 0600 点滴交換、検温、モーニングケア 配茶、BS測定 リーダーへの申し送り 0800 配膳 0810 申し送り(日勤へ) 0830 内服確認、食事等確認、下膳、モーニングケア 0900 記録、他の業務 1000 病院から退勤 1100 帰宅、昼食 1200 仮眠 1500 テレビ 1700 入浴 1800 夕食(18:00~18:30) 1830 テレビ 2100 就床	2日目	記録 0200 休憩・夜食(2:00~3:00) 巡視・VS・点滴準備 患者VSチェック・コール対応 0500 ドレーン排液片付け 点滴更新 検温・内服配り・スタッフより送りを受ける ptチェック 0815 申し送り(8:15~8:35) 記録 1030 病院から退勤 子供関係の諸手続きへ(10:30~13:00) 1300 帰宅・食事 1430 仮眠(14:30~17:30) 1730 夕食準備 1830 夕食(18:30~19:00) 入浴 2030 マニュアルの見直し・自己学習(20:30~22:00) 2200 就床

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、交代制、配属、役職を示す。

図表 6-3-5 : 二交代制の 1 日目 (日勤)、2 日目 (夜勤) の事例〔看護師調査〕

日・時刻	事項	日・時刻	事項
ケース15 (女性、25歳、子供なし、二交代制、一般病棟、役職なし)		ケース16 (女性、26歳、子供なし、二交代制、一般病棟、役職なし)	
1 日 目	0640 起床	1 日 目	0700 起床
	0715 自宅を出る		0710 朝食
	0730 病院着 (病棟)		0730 自宅を出る
	0815 申し送り (8:15~8:45)		0740 病院へ出勤
	0845 環境整備 (ゴミ捨て・掃除)、薬の確認、退院準備など (8:45~9:00)		0810 申し送り (8:10~8:20)
	0900 ラウンド (保清、点滴、配薬、処方、介助、血糖測定等) (9:00~11:30)		0900 検温 (9:00~10:30)
	1130 昼休み (11:30~12:00)		1030 清潔ケア
	1200 記録、ラウンド、点滴更新		1130 昼休み (11:30~12:30)
	1330 カンファレンス (13:30~14:00)		1230 下膳・内服確認
	1400 ドレーン、尿破棄、検温、オペ出し準備、指示受け、実施		1300 記録
	1500 O P E 出し		1400 カンファレンス (14:00~14:30)
	1515 退院支援、患者処方、患者搬送など		1430 検温・巡視 (14:30~15:30)
	1600 申し送り		1530 記録・内服薬準備・尿破棄
	1620 環境整備 (ゴミ捨て・掃除)、薬の確認、退院準備など		1600 申し送り
	1730 記録		1645 夜勤へ引き継ぎ
1850 係の仕事、確認事項の確認→夜勤へ申し送り	1700 翌日の指示拾い・残った記録		
2000 病院から退勤	1730 退勤		
2020 帰宅	1800 帰宅		
2100 夕食	1900 夕食・入浴		
2200 イベント	2100 テレビ		
2 日 目	0200 帰宅	2 日 目	2300 就床
	0210 シャワー		0700 起床 (23:00~7:00まで睡眠)
	0240 就床 (2:40~12:20まで睡眠)		0900 再び就床
	1220 起床		1230 起床
	1230 入浴		1300 シャワーを浴びる・食事
	1300 食事		1430 自宅を出る
	1320 準備		1450 病院へ出勤
	1350 家を出る		1620 申し送り
	1420 病棟着		1640 巡視・BS測定・配茶・配薬
	1530 点滴作る		1800 配膳
	1600 申し送り		1830 下膳・食事量、内服薬チェック・抗生剤投与
	1640 ラウンド、処方 (16:40~20:00)		1900 休憩
	2000 消灯前ラウンド、検温		1930 イブニングケア
	2030 記録		2000 巡視・記録
	2100 消灯、休憩、夕食 (21:00~21:30)		2100 消灯
2130 ラウンド	2120 申し送り・記録		
2200 バランス出す、Dr報告	2300 巡視		
2230 記録			
2300 測定、ラウンド、記録			
<夜勤勤務はまだまだ続く・・・翌10:00まで・・・>			

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、交代制、配属、役職を示す。

(4)看護師の三交代制の事例

1)三交代制：日勤→準夜勤の事例

看護師の三交代制は通常、24時間を8時間で三分割するため、例えば、日勤 8:00~16:45、準夜勤 16:00~0:45、深夜夜勤 0:00~8:45 という具合にシフトが組まれる。三交代制で、1日目が日勤で、2日目が準夜勤のケースをまとめたものが図表 6-3-6 である。ケース 17 では、1日目が 19 時退勤で、19 時 30 分に帰宅。翌 1 時 30 分に就床し、8 時 30 分に起床。朝食を済ませた後、10 時に外出。夕食、美容院などの用事を済ませ、15 時に出勤。16 時に申し送りを受け、準夜勤業務についている。その後、24 時に申し送りを済ませ 1 時 15 分に退勤している。就床は 2 時 30 分である。ケース 18 も、1 日目の 20 時に退勤して後、20 時 30 分に帰宅。翌 1 時に就床し、9 時に起床。家事等を済ませたのち、13:30 に仮眠を入れている。14 時 30 分に出勤準備。15 時に病院着で準夜勤業務についている。24 時に申し送りをして、

1時20分に退勤。1時30分に帰宅し、就床は4時である。

図表 6-3-6：三交代制の1日目（日勤）、2日目（準夜勤）の事例〔看護師調査〕

ケース17 (女性、26歳、子供なし、三交代制、集中治療部、役職なし)		ケース18 (女性、30歳、子供あり、三交代制、一般病棟、役職なし)		ケース19 (女性、27歳、子供なし、三交代制、一般病棟、役職なし)	
1日目	0600 朝食など(6:00~7:00) 0700 自宅を出る 0730 病院に出勤 0800 申し送り(8:00~9:00) 0900 分乳、沐浴、採血など 1100 授乳、検温 1145 昼休み(11:45~12:15) 検温、授乳、患者家族対応など 1600 申し送り 1730 病棟間記録のカンファレンス(17:30~18:50) 1900 病院から退勤 1930 帰宅 2000 フットサル(20:00~21:00) 2300 夕食 お風呂、テレビなど	1日目	0630 起床・朝食・弁当作り 0730 自宅を出る 0740 病院到着 0800 申し送り 0820 沐浴 0830 外来業務へ 0900 助産外来開始。 モニター装着・妊婦健診など 記録、情報管理。 1300 昼食(13:00~13:30) 1330 病棟へ戻る 点滴準備・物品の片付け 1600 申し送り 1700 勉強会 1730 病棟会 1900 チーム会 2000 チーム会終了・退勤 2030 帰宅 2100 夕食 2300 入浴	1日目	0600 起床 0720 自宅を出る 0730 病院に出勤 0800 申し送り 0830 始業・カンファレンス 0900 検温 1100 患者の清拭 1210 昼休み 1250 午後のケア・下膳など 1330 記録 1400 検温・巡視 1550 点滴チェック・翌日の確認 1600 申し送り 1645 面談・記録 1730 終業 1800 帰宅 1900 夕食(友人と食べに行く) 2130 帰宅 2230 テレビ 2300 入浴。テレビ・インターネット 2530 就寝
2日目	0130 就床 0830 起床 0900 朝食 1000 外出(10:00~12:30) 1230 昼食(12:30~13:40) 1400 美容院 1430 出発 1500 病院に出勤 1600 申し送り 1700 検温、授乳(17:00~18:00) 1800 環境整理など(18:00~20:00) 2000 検温、授乳(20:00~21:00) 2100 休憩、夕食(21:00~21:30) 2130 授乳など(21:30~23:00) 2300 授乳 2400 申し送り 0115 退勤 0230 就床	2日目	0100 就床 0900 起床・朝食 掃除・洗濯など家事(9:30~11:30) 昼食準備・夜勤弁当作り(12:00~13:30) 1330 仮眠 1430 出勤の準備 1500 病院到着 1515 情報収集(15:15~16:00) 1600 申し送り(16:00~16:45) 1645 業務開始 検温、授乳介助、 記録、電話対応 2200 休憩(22:00~22:30) 2230 記録 2400 申し送り(24:00~24:30) 0120 退勤 0130 帰宅 0200 入浴 0300 テレビ等 0400 就床	2日目	0830 起床 0930 掃除・洗濯など 1100 友人とランチに行く 1300 帰宅 テレビ・インターネット 1515 出勤(自宅を出る) 1525 病院に出勤 1600 申し送り 1700 検温 1800 配膳 1900 点滴チェック 2000 記録 2100 消灯 2130 休憩・夕食 2300 巡視 申し送り 2445 病棟を出る 2500 退勤 2530 就床

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、交代制、配属、役職を示す。

## 2)三交代制：日勤→深夜夜勤の事例

三交代制で、1日目が日勤で、2日目が深夜夜勤のケースをまとめたものが図表 6-3-7 である。ケース 20 では、1日目の 19 時 10 分に退勤後、19 時 30 分に帰宅。23 時 20 分に就床するも、しばらくしてのち起床し 23 時 40 分に自宅を出ている。23 時 55 分に病院に出勤し、深夜夜勤を開始し、翌 9 時に終業。9 時 30 分に退勤し、9 時 50 分に帰宅。朝食を済ませ就床。12 時 30 分に起床し、外出。17 時 30 分に帰宅し、19 時に就床し 23 時 15 分に起床。23 時 55 分に再度出勤している。

ケース 21 も、1日目の 17 時 30 分に終業し、18 時に帰宅。夕食を済ませ 20 時に就床するが、23 時 30 分には出勤し、深夜夜勤業務を開始。翌 8 時 30 分に申し送りをし、11 時に終業。12 時に帰宅し、食事を済ませ 13 時に就床。19 時以降テレビや入浴などをして、21 時に就床し、23 時に起床して、23 時 30 分に再度出勤している。いずれのケースも、日勤と深夜夜勤との間が短く、また睡眠時間も断続的で短いようである。

図表 6-3-7：三交代制の1日目（日勤）、2日目（深夜夜勤）の事例〔看護師調査〕

ケース20 (女性、27歳、子供なし、三交代制、一般病棟、役職なし)	ケース21 (女性、25歳、子供なし、三交代制、一般病棟、役職なし)	ケース22 (女性、24歳、子供なし、三交代制、一般病棟、役職なし)	ケース23 (女性、27歳、子供なし、三交代制、一般病棟、役職なし)
1日目 0000 入浴、テレビなど 0100 就床 0700 起床 0730 自宅を出る 0750 出勤 0800 申し送り、カンファレンス 0900 検温、沐浴、授乳 1215 昼休み 1300 検温、授乳 1500 記録申し送り 1600 委員会出席 1740 病棟会 1910 病院から退勤 1930 帰宅 2220 就床 起床 2340 自宅を出る 2355 出勤	1日目 0000 就床 0630 起床、仕度 0730 自宅を出る 0745 病院に出勤 0800 始業、申し送り(～8:30) 0900 検温等 1000 清潔ケア 1100 食事援助(授乳)、面会対応 1200 記録 1240 昼食(～13:15) 1330 検温、面会対応 1400 点滴 授乳 1500 記録、カンファレンス(～15:20) 物品補充、分乳 1600 記録 1730 終業 1800 帰宅 1830 夕食、入浴(～19:30) 2000 就床 2330 出勤	1日目 2230 就床 0600 起床 0640 朝食 0715 自宅を出る 0740 病院に出勤 0800 始業、申し送り 0830 検温 0920 カンファレンス 0940 清潔援助 1030 食事援助・授乳介助 1220 昼休み 1310 検温 1400 食事援助・授乳介助 1600 申し送り・記録 1700 終業 1715 病院から退勤 1745 帰宅 1800 夕食・入浴 2000 就床 2230 起床 2330 自宅を出る 2350 病院に出勤	1日目 0625 起床 0645 お弁当準備、食事など 0715 出勤 0735 職場にて情報収集 0800 始業、申し送り 0830 採血、沐浴 0900 産婦人科処置係、介助(胎児エコー、膣洗浄、内診、抜糸、子宮エコー) 1235 昼食(～13:00) 1300 午後の処置開始 1600 処置片付け 1620 追加の処置介助 1645 片付け 1700 緊急入院受け入れ手伝い、他のスタッフ業務手伝い 1800 帰宅(途中買い物をして)18:30帰宅 1930 就床、シャワー、食事 2230 起床 洗面、更衣、夜食準備等 出勤のため自宅を出る 2345 職場着 簡単に情報収集 申し送り
2日目 0000 申し送り 0030 検温、授乳 0400 検温 0600 休憩 0645 授乳 0900 終業 0930 病院から退勤 0950 帰宅 1030 朝食、就床 1230 起床 1300 友達の家へあそびに 1600 実家へ 1730 帰宅 入浴、夕食など 1900 就床 2315 起床 2340 自宅を出る 2355 出勤	2日目 0000 申し送り(～0:30) 0100 検温、分乳 0200 授乳、検温等 0500 授乳、検温等 0600 点滴 0700 環境整備 0730 授乳(～8:30) 0830 申し送り 0900 記録、ケア(～10:00) 1000 記録 1100 終業 1200 帰宅、食事、入浴 1300 就床 1900 テレビなど 2000 入浴 2100 就床 2300 起床 2330 家を出る・出勤	2日目 0000 始業・申し送り 検温 0200 食事援助 0400 休憩 0500 検温・食事援助 記録 0730 食事援助 0815 申し送り 0900 終業 0945 病院から退勤 1030 帰宅 1100 昼食 入浴 就床 1800 起床 夕食 2000 入浴 2100 テレビなど 2300 就床	2日目 0000 始業、申し送り(～0:30) 2000 NSコール対応 授乳介助 0300 記録、他チーム手伝い 0400 NSコール対応 授乳介助 0430 緊急入院受け入れ 0500 休憩 0530 受け入れ、入力 0600 NSコール対応 検温、点滴交換、授乳介助、指導 0745 配膳、配茶(～7:55) 0800 申し送り 0830 カンファレンス 0845 Drに再度指示確認 0900 記録 0940 師長に書類提出があったが会えず、一旦帰宅 1000 帰宅 1030 ガソリン、洗車 1130 病棟に戻り、師長に書類提出 1200 退社 1220 帰宅 1300 昼食 1330 仮眠 1500 旅行の準備 1600 友達と約束していた温泉宿へ宿へ到着、入浴 1730 食事 2030 入浴 2200 飲酒 2430 睡眠

※1:時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、交代制、配属、役職を示す。

※2:勤務時間帯部分に網。

### 3)三交代制のその他の事例

三交代制でのその他の事例をまとめたのが図表 6-3-8 である<sup>20</sup>。ケース 24 は、1 日目が準夜勤で、2 日目も準夜勤のケースである。1 日目に 2 時に就床し 8 時に起床。朝食、家族団欒をし、14 時 50 分に自宅を出て、出勤は 15 時 30 分。16 時始業で準夜勤業務を開始し、翌 2 時に退勤している。帰宅は 2 時 30 分であり、3 時に就床。7 時 30 分に起床し、8 時 15 分に自宅を出て外来業務見学（勤務外）を済ませ、再度、自宅に戻ったのは 14 時。休息を経て、15 時 30 分に出勤し、準夜勤業務を開始。勤務終了は翌 1 時である。

ケース 25 は、1 日目が深夜夜勤で、2 日目も深夜夜勤のケースである。1 日目の 0 時に申し送りを受け深夜夜勤を開始。9 時 20 分頃に退勤し、10 時に帰宅。12 時に食事をとり、14 時 30 分から 23 時まで睡眠をとっている。23 時に食事をとり、23 時 35 分に出勤。深夜夜勤を開始し、8 時に申し送りをし、その後、カンファレンスを 8 時 45 分までしている。9 時 15 分に帰宅し、昼食を経て、仮眠を 14 時から 18 時までとり、夕食等の後、23 時に就寝している。

ケース 26 は、1 日目が深夜夜勤で、2 日目も準夜勤のケースである。1 日目の前日 19 時に起床し、23 時 45 分に病院出勤。0 時に申し送りを受け深夜夜勤を開始。8 時に申し送りをし、10 時 30 分に終業。10 時 50 分に退勤。買い物等して、12 時に帰宅。以降、家事、昼食などして、15 時から 17 時 30 分まで仮眠。その後、買い物等して 20 時に帰宅し、夕食などをして、翌 1 時に就床している。起床は 8 時 30 分で、その後、朝食やテレビ視聴などをして、自宅を出たのは 15 時 10 分。15 時 40 分に病院に出勤し準夜勤業務を開始している。24 時に申し送りをして準夜勤を終了。

ケース 27 は、1 日目が深夜夜勤で、2 日目も日勤のケースである。1 日目の前日 23 時に起床し、23 時 45 分に出勤。0 時 10 分に申し送りを受け、深夜夜勤を開始。8 時 15 分に申し送りをし、9 時 15 分に終業。9 時 45 分に退勤し帰宅後、11 時に就床。15 時 30 分に起床し、16 時 30 分に病棟会準備のため病院に出勤。17 時に勉強会をし、17 時 30 分から 21 時まで病棟会をしている。チーム会の後、食事を済ませ帰宅。24 時に就床し、翌 6 時 30 分に起床。2 日目の日勤を 8 時より開始し、16 時 45 分に終業。17 時 15 分に退勤し、夕食をして、21 時に帰宅。22 時に就床している。

<sup>20</sup> 三交代制では組み立て方により様々なバリエーションがありえるが、今回の調査でみられたものとしてまとめたものが図表 6-3-8 である。

図表 6-3-8 : 三交代制の事例〔看護師調査〕

ケース24	ケース25	ケース26	ケース27
(女性、28歳、子供なし、三交代制、一般病棟、役職なし)	(女性、28歳、子供なし、三交代制、一般病棟、役職なし)	(女性、31歳、子供なし、三交代制、一般病棟、役職なし)	(女性、24歳、子供なし、三交代制、集中治療部、役職なし)
1日目(準夜勤)→2日目(準夜勤)の事例	1日目(深夜夜勤)→2日目(深夜夜勤)の事例	1日目(深夜夜勤)→2日目(準夜勤)の事例	1日目(深夜夜勤)→2日目(日勤)の事例
0200 就床 0800 起床・朝食・新聞等 家族とすごす 1230 昼食・夜勤のごはんの準備 1450 自宅を出る 1530 病院に出勤 1600 始業・申し送り 1700 検温・下膳 授乳介助 消灯 2200 休憩(～22:30) 記録 0000 申し送り 0140 記録・終業 0200 病院から退勤 0230 帰宅 入浴 0300 就床 0730 起床 朝食など 0815 自宅を出る 0900 外来業務見学(勤務外) 1315 病院を出る 1400 自宅へ戻り、休息 1500 自宅を出る 1530 病院に出勤 1600 始業・申し送り 1700 検温・下膳 1800 授乳(～19:00) 記録 消灯 2100 夕食(～22:30) 記録 2400 申し送り 0100 勤務終了・自分の仕事	0000 申し送り(～0:30) 0430 休憩(～5:00) 0600 検温、洗面介助(～7:50) 0800 申し送り(～8:40) 0840 カンファレンス(～8:50) 0850 記録(～9:20) 1000 帰宅 1200 食事 1230 入浴(～13:30) 1430 睡眠(～23:00) 2300 食事 2335 出勤 0000 申し送り(～0:30) 0430 休憩(～5:00) 0600 検温、洗面介助(～8:00) 0800 申し送り(～8:30) 0830 カンファレンス(～8:45) 0915 帰宅 1200 昼食 1400 仮眠(～18:00) 1800 夕食(～19:00) 2000 入浴(～21:00) 2300 就寝	前日19時起床 2345 病院出勤 0000 申し送り・始業(～0:30) 0030 分乳・児をあやす(～1:30) 0130 検温 0200 授乳 0415 休憩(～4:35) 0435 検温 0500 授乳 検温 0740 授乳 0800 申し送り(～8:50) 0850 物品補充・入院患者受け入れ記録(～10:15) 1030 終業 1050 病院から退勤 買い物等 1200 帰宅 1210 洗濯・掃除(～13:00) 1310 昼食 1400 テレビのニュース 1500 仮眠(15:00～17:30) 1730 仮眠から起床 1800 買い物等 2000 帰宅 2030 夕食 2300 DVD 0030 入浴など 0100 就床 0830 起床 0900 朝食 0950 DVD(～12:10) 1215 シャワー 1300 昼食 1510 自宅を出る 1540 病院に出勤 1600 始業・申し送り(～16:30) 1630 検温・授乳(～18:00) 1800 分乳・洗いもの 1850 休憩・夕食(～19:15) 1930 検温・授乳(～21:00) 2200 抗生剤 2300 授乳(～24:00) 2400 申し送り	2300 起床 2345 出勤 0010 申し送り(～0:30) 0030 検温・調乳(～2:00) 0200 注入 検温 0500 注入 物品補充など 0800 注入 0815 申し送り(～9:00) 0915 終業 0945 退勤 入浴 1100 就床 1530 起床 1630 病棟会準備のため病院へ 1700 勉強会 1730 病棟会(～21:00) チーム会 2100 食事 2300 帰宅 入浴など 2400 就床 0630 起床 0730 朝食 出勤 0800 申し送り 0800 分乳など(～10:00) 1000 検温・面会対応など 1100 注入 1200 昼食 1230 点滴準備など 検温 1400 注入 1530 面会対応 1615 申し送り(～16:30) 1645 終業 1715 退勤 1730 食事(～21:00) 2100 帰宅 2100 入浴など 2200 就床

※1:時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、交代制、配属、役職を示す。  
 ※2:勤務時間帯部分に網。

(5)子育て期の看護師の仕事と子育ての両立状況

子育て期の看護師の1日の行動をまとめたものが図表 6-3-9 である。ケース 28 (女性、42歳) は、5時30分に起床し、6時30分に子供を起こし、7時30分に自宅を出て保育園に子供を送っている。8時に出勤し、17時20分に退勤。18時に帰宅し家事をこなし、21時に子供を寝かしつけ、22時に就床している。

ケース 29 (女性、38歳) は、4時45分に起床し、5時から朝食準備し、6時30分に子供の世話などして、6時40分に自宅を出て、7時40分に出勤している。8時より日勤始業開始し、17時45分に終業。17時55分に退勤し、18時30分に保育園等に子供のお迎えをしている。19時に帰宅し、夕食や子供の世話などし、21時30分に子供を寝かせつけ、自身も就寝。

ケース 32 は、2交代制で、1日目に日勤をし、2日目に夜勤を行ったケースで、1日目(日

勤) 終了後、2 日目に 6 時起床。家事、夕食の準備をして、16 時 30 分に子供のお迎えをした後に、19 時 40 分に病院に出勤し夜勤業務をこなしている。

子育て・家事があるため、いずれの事例も起床が早く(例えば、ケース 28 は 5 時 30 分、ケース 29 が 4 時 45 分、ケース 30 が 4 時、ケース 31 が 5 時 30 分)、その反面、子供の寝かせつけもあり、24 時前に就床する者(ケース 28 が 22 時、ケース 29 が 21 時 30 分、ケース 31 が 21 時)が目立つ。また子供の送迎の関係で、終業後間もなく退勤する者もいる。

図表 6-3-9：子育て期の看護師の事例〔看護師調査〕

ケース28	(女性、42歳、子供あり、夜勤なし、その他、役職なし)	ケース30	(女性、48歳、子供あり、夜勤なし、その他、役職なし)	ケース32	(女性、36歳、子供あり、二交代制、手術室、役職なし)	
0530	起床	0400	起床	1 日 目	0600	起床
	家事		家事他		0620	朝食
0630	子供を起こす	0600	朝食		0710	自宅を出る
0700	朝食	0700	自宅を出る		0730	病院に出勤
0730	自宅を出る	0800	病院に出勤		0800	始業・朝のミーティング
0750	保育園へ子供を連れて行く		検査介助(～12:00)		0815	患者入室(8:15～8:45)
0800	出勤	1200	昼休み、昼食(～12:45)			手術
0815	カンファレンス・検査介助(～12:00)	1330	検査介助(～17:00)		1130	昼休み(11:30～12:00)
1200	休憩	1715	病院から退勤		1200	手術
1300	検査介助・準備(～17:20)	1800	帰宅・夕食		1820	病院から退勤
1720	退勤	1830	PTAの集まり(～22:30)		1840	帰宅
1800	帰宅(家事)	2100	子供の送迎のため中座		1900	夕食・入浴
1830	夕食・家事	2245	帰宅		2000	テレビなど
2000	入浴・家事		入浴		2300	就床
2100	子供を寝かしつける	2400	就寝	2 日 目	0600	起床
2200	就寝(家事後)	ケース31	(女性、37歳、子供あり、二交代制、集中治療部、役職なし)		0620	朝食
ケース29	(女性、38歳、子供あり、夜勤なし、手術室、役職なし)	0530	起床		0800	家の掃除・洗濯・昼食の準備(8:00～10:00)
0445	起床	0700	朝食準備、朝食		1200	昼食
0500	朝食準備(～5:30)	0730	出社		1300	夕食の準備(13:00～15:00)
0630	自分の準備と子供の世話		病院勤務、申し送り		1500	昼寝(15:00～16:00)
0640	自宅を出る	0900	検温		1630	子供のお迎え(16:30～17:00)
0740	病院に出勤		ケア(BB、IABP心電図はりかえ)		1940	病院に出勤
0800	始業・オペ準備		昼休み		2000	手術交代
0845	オペ開始(～17:45)		点滴、配薬、下膳、口腔ケア		2300	終了
1745	終業	1300	ベッド整備	2300	器械洗浄・器械組み・滅菌(23:00～24:30)	
1755	病院から退勤		検温	2430	他の手術終了	
1830	保育園へお迎え・児童館お迎え	1500	カンファレンス	2430	部屋掃除・器械洗浄・器械組み・滅菌 <翌日夜勤業務につづく>	
1900	帰宅	1600	申し送り			
1930	夕食・入浴・子供の世話	1700	子供迎え、買い物、帰宅			
2130	子供おかしつけ一緒に就床	1800	夕食づくり			
		1900	夕食			
		2100	T.V.、就寝			

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、交代制、配属、役職を示す。

#### 4. 医療技術職員の勤務時間、仕事及び生活時間

##### (1) 薬剤師の業務の1日の事例

薬剤師の業務(日勤)の1日の行動事例を参考としてまとめたものが図表 6-4-1 である。

例えば、ケース 1 は、6 時 30 分に起床し、7 時 40 分自宅を出て、8 時に出勤(8 時 30 分に朝礼)。9 時から 10 時 30 分まで病棟カンファレンス。午前中は病棟で患者の服薬指導。昼食を経て、午後は、12 時 30 分から薬剤部で調整の業務。16 時から病棟で患者への服薬指導。17 時 30 分に記録作成などを行い、19 時 30 分に退勤している。20 時に帰宅し、夕食などをして、23 時に就床。

ケース 2 は、6 時に起床し、6 時 50 分に自宅を出て、7 時 25 分に病院着。早朝セミナー、朝礼をして、午前中は 8 時 30 分から外来の抗がん剤調整、午後は、院内 TPN(経中心静脈高カロリー輸液)調整などを行っている。16 時から病棟で服薬指導、記録作成等を行い、18

時 45 分に退勤。20 時に帰宅。夕食などをすませ、25 時に就床。

ケース 1～ケース 6 をみると、薬剤師の業務としては、入院患者などの調剤業務や、患者入院時の持参薬鑑別業務、病棟の薬剤管理指導業務、薬剤管理指導記録作成、院内 TPN 調整業務、外来の抗がん剤調整業務、医師等への医薬品情報提供業務（DI 業務）、——など様々な仕事をこなしている。また、出勤時には朝礼やミーティング、早朝セミナー、カンファレンスなど情報交換の機会等も多い。ケース 5 は早朝業務の前に、論文紹介・症例報告をしている。製薬メーカー主催の勉強会に参加する者（ケース 4）や認定試験の勉強など自己研鑽に励む者（ケース 3）もあり、医薬品にかかわる最新情報取得に励む現状が垣間見える。

図表 6-4-1：薬剤師の 1 日の事例〔医療技術職員調査〕

ケース1	(女性、24歳、子供なし、薬剤師、非常勤、役職なし)	ケース4	(男性、25歳、子供なし、薬剤師、常勤、役職なし)
0630	起床	0000	就床
0640	朝食	0700	起床
0740	自宅を出る	0710	風呂、身支度(～8:00)
0800	病院へ出勤	0800	自宅を出る
0830	朝礼	0815	病院に出勤
0900	病棟カンファ開始(～10:30)	0825	ミーティング
1030	病棟にて患者へ服薬指導(～11:30)	0830	病棟業務(薬学的管理、処方チェック、患者訪問など)
1130	昼食(～12:30)	1030	病棟カンファレンス及び回診(～11:30)
1230	薬剤部調剤室にて業務(～16:00)	1130	調剤業務(～12:30)
1600	病棟にて患者へ服薬指導(～17:30)	1230	昼休み(～13:30)
1730	病棟業務、記録作成(～19:15)	1330	薬品請求業務(～14:00)
1930	退勤	1400	患者指導、薬剤指導(～16:00)
2000	帰宅	1600	調剤業務(～17:30)
2030	夕食、入浴等(～22:00)	1730	薬剤管理指導記録作成(～18:15)
2230	テレビ鑑賞	1830	病院から退勤
2300	就床	1900	製薬メーカー主催の勉強会(～21:30)
ケース2	(女性、25歳、子供なし、薬剤師、非常勤、役職なし)	2200	帰宅
0600	起床	2210	食事、ニュースチェックなど
	朝食など	2350	就寝
0650	自宅を出る	ケース5	(男性、25歳、子供なし、薬剤師、非常勤、役職なし)
0725	病院に出勤	0030	就床(0:30～6:30まで睡眠)
0745	早朝セミナー(7:45～8:15)	0630	起床
0825	朝礼	0640	朝食など
0830	外来、抗がん剤調整(～11:30)	0720	自宅を出る
1130	昼休み(～12:30)	0730	出勤
1230	院内TPN調整、翌日分準備など(～16:00)	0745	論文紹介・症例報告(～8:20)
1600	病棟、服薬指導、記録作成等(～18:45)	0820	早朝業務
1845	終業、病院から退勤	0825	ミーティング・連絡事項の確認
2000	帰宅	0830	調剤業務(～11:30)
	夕食、テレビを見る、入浴	1130	昼食(～12:30)
2500	就床	1230	DI業務(～14:30)
ケース3	(女性、28歳、子供なし、薬剤師、非常勤、役職なし)	1430	調剤業務(～16:30)
0100	就床	1630	病棟業務(～20:30)
0700	起床	2030	終業
0800	家を出る	2100	退勤
0815	病院着	2130	買い物など
0825	朝会→仕事開始	2230	帰宅
0330	入院時初回面談、持参薬鑑別(8:30～11:30)	2430	就床
1130	調剤(11:30～12:30)	ケース6	(男性、30歳、子供あり、薬剤師、常勤、役職なし)
1230	昼食	0700	起床
1330	午後の仕事開始	0710	朝食など(～7:50)
1330	調剤・払い出し(～16:00)	0800	自宅を出る(病院へ出社)
1600	病棟業務(～19:45)	0815	病院に出勤
1945	終業	0825	朝礼後、病棟で薬剤管理指導業務(～11:30)
2000	症例報告の資料づくり(～21:30)	1130	外来、入院患者の調剤(～12:30)
2130	病院から退勤	1230	昼休み(12:45～13:15)
2200	家に帰宅	1330	外来、入院患者の調剤(～16:00)
2230	認定試験の勉強(～24:00)	1600	病棟で薬剤管理指導業務(～19:00)
2400	入浴など	1900	病院から退社
2500	就床	1915	帰宅
		2100	夕食、入浴など
		2300	就寝

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、職種、勤務形態、役職を示す。



## (2)臨床検査技師、診療放射線技師の業務の1日の事例

臨床検査技師、診療放射線技師の業務（日勤）の1日の行動事例を参考としてまとめたものが図表 6-4-2 である。

まず、臨床検査技師の事例として、ケース 7 からケース 10 があげられる。例えば、ケース 7 は、1時に就床し7時に起床。8時15分に自宅を出て、8時25分に出勤。8時30分から午前の血液検体検査をこなしている。11時30分から12時05分まで昼食。以降、18時まで、午後の検体検査。18時終業の後、18時15分から21時50分まで研究や勉強、雑務をして、21時50分に退勤、22時に帰宅。就床は25時である。また、ケース 8 は、6時15分に起床し、7時10分に自宅を出て、7時25分に出勤。7時30分から機械立ち上げをして、8時30分から午前の染色体検査及び遺伝子検査（報告書作成含む）をしている。昼休み後、午後の検査業務を行い、15時から16時までカンファレンスの資料作りをし、17時15分に終業。以降、委員会や症例検討会（ケースカンファレンス）、実験などを行い、退勤したのは20時50分。21時10分に帰宅後、論文を読むなどして、24時に就床している。

臨床検査技師は、検査機器を使うため、朝には機械の立ち上げをし、午前、午後に分けて検体検査などを行っている。症例検討会や実験、研究などもこなしている（ケース 8 やケース 9）。

一方、診療放射線技師の事例として、ケース 11 からケース 15 があげられる。例えば、ケース 11 は、5時50分に起床後、7時10分に自宅を出て、7時40分に病院着。7時50分に点検など準備を行い、スタッフミーティング、放射線部ミーティングを実施。8時50分から午前の臨床を開始。午後には13時30分から17時30分まで臨床を行っている。その後、放射線部技術ミーティング（勉強会）、学会総会準備などをして、20時50分に終了。21時に退勤。帰宅は21時20分。24時に就床。

ケース 12 は、6時30分に起床。7時30分に自宅を出て、8時に出勤。8時15分からカンファレンスで1日の打ち合わせを行い、8時30分にも部ミーティング（引き継ぎと連絡）を行っている。9時から午前の診療開始し、昼食後は13時30分から午後の診療を行っている。17時15分に終業。後に、CT導入による学習会を19時までに行い、退勤は19時50分。帰宅は20時10分。24時に就床している。

ケース 13 は、0時に就床し、5時45分に起床。6時50分に自宅を出て、7時35分に病院着。ミーティングをし、8時45分から午前の撮影業務を行い、昼食をはさみ、13時から午後の撮影業務を実施している。終業は17時15分。その後、自習などして、18時40分に退勤。19時30分に帰宅し、就床は23時45分となっている。

以上によれば、診療放射線技師は放射線を用いた検査・治療を業務とする職種であるが、医療機器を使用して午前、午後に分けて、治療、撮影などの業務を実施している。入社時にミーティングを実施し、1日の業務や引き継ぎを綿密にしている。業務終了後も、勉強会などの頻度が多いようである。

図表 6-4-2：臨床検査技師、診療放射線技師の1日の事例【医療技術職員調査】

ケース7	(女性、29歳、子供なし、臨床検査技師、常勤、役職なし)	ケース10	(女性、60歳、子供あり、臨床検査技師、その他、役職なし)	ケース13	(女性、33歳、子供なし、診療放射線技師、常勤、役職なし)
0100 就床		2300 就床(23:00～翌6:30まで睡眠)		0000 就床(0:00～5:45まで睡眠)	
0700 起床		0630 起床		0545 起床	
0710 朝食など		0640 朝食など(～8:40)		0600 朝食など(～6:50)	
0815 自宅を出る		0840 自宅を出る		0650 自宅を出る	
0825 病院に出勤		0850 病院に出勤		0735 病院に出勤	
0830 血液検体検査(～11:30)		0900 入院、外来患者の一般検査検体を取り扱う・検査報告をする		0820 ミーティング(部署)	
血液像・尿検査				0830 ミーティング(放部)	
1130 昼休み(～12:05)		1215 昼休み(昼食、12:15～12:30)		0845 AM撮影	
1205 午後の検体検査開始(～18:00)		1300 午後の検体検査開始(～16:15)		1200 昼休み(～13:00)	
1800 終業		1615 午後の検体検査終了		1300 PM撮影	
1815 研究・勉強・色々な雑務(～21:50)		1630 病院から退勤		1715 終業	
2150 病院から退勤		1645 帰宅		1800 自習他(～18:30)	
2200 帰宅		1730 夕食・入浴など		1840 病院から退勤	
2210 夕食・入浴、家事など		2000 介護(～22:00)		1930 帰宅	
2500 就床		2200 テレビ・読書・インターネットなど		1945 夕食、TV、新聞、洗濯など	
		2300 就床		2345 就床	
ケース8	(女性、26歳、子供なし、臨床検査技師、常勤、役職なし)	ケース11	(男性、40歳、子供あり、診療放射線技師、常勤、主任)	ケース14	(女性、27歳、子供なし、診療放射線技師、常勤、役職なし)
0615 起床		0550 起床		0020 就床(0:20～翌5:40まで睡眠)	
0630 朝食など(6:00～7:00)		0620 朝食		0540 起床。身支度、朝食を終える(～6:40)	
0710 自宅を出る(病院へ入社)		0710 自宅を出る		0640 自宅を出発	
0725 病院に出勤		0740 病院到着		0715 病院に到着	
0730 朝の機械立ち上げ(～8:30)		0750 日常点検、準備開始		0730 装置管理(モーニングチェック)	
0830 通常業務、染色体検査及び遺伝子検査(報告書作製含む)		0815 スタッフミーティング(カテ室)		0830 部内ミーティング、部門ミーティング	
1210 昼休み(～13:00)		0830 放射線部ミーティング		0840 業務開始	
1300 午後の通常業務開始、染色体検査・遺伝子検査		0850 臨床開始		放射線(外照射)治療	
1500 カンファレンスの資料作り(～16:00)		1230 午前終了 昼休み		1210 業務終了一昼食	
1700 午後の検査終了		1330 午後臨床開始		1300 PM業務開始	
1715 終業		1730 臨床終了		特殊照射	
1730 制度管理委員会(～19:00)		1745 放射線部技術ミーティング(勉強会)		治療計画など	
1900 症例検討会(ケースカンファレンス)(～20:00)		1815 勉強会終了		1715 終業	
2000 実験		1840 学会総会準備(～20:50)		勉強・私用(病院で)	
2050 病院から退勤		治験(ステント)打ち合わせ(19:00～19:30)		1930 帰宅	
2110 帰宅、夕食など		2050 終了		友人とご飯など終え、自分の家へ	
2230 テレビを見たり、論文に目を通す等		2100 退勤		2230 自宅に到着	
2400 就床		2120 帰宅		2300 23:00～24:00まで自由時間	
		2130 夕食、入浴、ニュースチェック		2440 就床	
ケース9	(女性、27歳、子供なし、臨床検査技師、非常勤、役職なし)	ケース12	(男性、36歳、子供あり、診療放射線技師、常勤、役職なし)	ケース15	(男性、25歳、子供なし、診療放射線技師、非常勤、役職なし)
0130 就床(1:30～6:30まで睡眠)		0630 起床		0100 就床	
0630 起床(朝食など。～7:10)		0650 朝食(～7:05)		0600 起床	
0710 自宅を出る		0730 自宅を出る		0715 自宅を出る	
0730 病院に出勤		0800 病院に出勤		0730 出勤	
朝当番・機械の立ち上げ・コントロール測定など(7:30～8:30)		0815 カンファレンス(一日の打ち合わせ)		0815 カテ室カンファレンス	
0830 自分の業務にとりかかる(～12:00)		0830 部ミーティング(引継ぎと連絡)		0830 部内ミーティング	
1200 昼休み(昼食12:00～13:00)		0900 診療開始(～12:00)		1130 脳外カテ開始	
1300 午後の業務開始(～17:15)		1200 昼食(～13:00)		1230 脳外カテ終了	
1715 終業		1330 午後診療開始		1230 昼休み(～13:30)	
1730 研究開始(～21:50)		1715 終業		1330 脳外カテ開始	
2150 研究終了		1800 CT導入による学習会(～19:00)		1430 脳外カテ終了	
2200 病院から退勤		1950 病院から退勤		1440 放科カテ開始	
2220 帰宅		2010 帰宅		1630 放科カテ終了	
2230 夕食・入浴・洗濯など		2020 夕食		1700 放科カテ(～20:00)	
2430 テレビ		2100 テレビ、入浴など(～23:30)		2000 終業	
2500 就床		2400 就床		2020 退勤	
				2030 帰宅	
				0100 就床	

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、職種、勤務形態、役職を示す。

### (3)理学療法士等の業務の1日の事例

理学療法士等の業務（日勤）の1日の行動事例を参考としてまとめたものが図表 6-4-3 である。

例えば、理学療法士の事例として、ケース 16 をみると、5 時 50 分に起床し、6 時 20 分に自宅を出て、7 時に病院着。回診の準備を 7 時 30 分までに行い、7 時 30 分から 7 時 50 分まで回診を行っている。8 時にミーティング、カルテチェックを行い、8 時 30 分から午前の診療を開始し、昼食をはさみ、13 時から 17 時 30 分まで午後の診療をしている。18 時以降、学生指導などをし、19 時にはカルテ記載。20 時 10 分に病院から退勤している。20 時 35 分に帰宅し、24 時に就床している。

その他の職種をみても、作業療法士（ケース 18）、言語聴覚士（ケース 19、ケース 20）、視能訓練士（ケース 21）、歯科衛生士（ケース 22、ケース 23）、いずれも、出勤後、ミーティングを行い、午前と午後に分けて診療などを行っている。診療等の終了後、カンファレンスや症例検討会、製薬会社からの説明会への参加等を行っている者も目立つ。

臨床工学技士は、医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作、保守点検を行う職種である。ケース 24（臨床工学技士）では、透析装置の操作をしている事例である。ケース 23 は、4 時 30 分に起床し、5 時 30 分に自宅を出て、6 時 20 分に病院着。6 時 30 分に透析装置を立ち上げ、治療準備、カルテチェックを行っている。血液透析については、8 時 30 分から 13 時にかけて、及び、13 時 40 分から 17 時 10 分にかけて、二度に分けて行っている。また、8 時 30 分から午前中にかけて血漿交換療法、血球成分除去療法も実施。昼食は 15 時から 15 時 30 分にかけてとっている。透析の終了は 17 時 10 分であり、18 時 30 分まで片づけ等を行い、18 時 30 分に退勤している。19 時 30 分に帰宅。22 時に就床している。

ケース 25（臨床心理士）は、24 時 30 分に就床し翌 7 時まで睡眠。8 時 10 分に自宅を出て、8 時 25 分に病院着。出勤後はミーティングを行い、8 時 40 分から 10 時にかけて、電話対応や記録を行っている。10 時から緩和ケアチーム回診を行い、昼食をはさみ、13 時 30 分から 15 時にかけて午後の緩和ケアチーム回診を行っている。15 時から 18 時までは電話対応業務や記録を行っている。18 時から 20 時にかけて緩和ケアカンファレンスに参加し、20 時 30 分に病院から退勤。20 時 50 分に帰宅し、23 時 45 分に就床している。

ケース 26（社会福祉士）は、6 時 30 分に起床し 7 時 30 分に出勤。8 時 30 分にミーティングをして、午前のケース対応をし、昼食をはさみ、12 時 40 分から午後のケース対応をしている。18 時に退勤。19 時に帰宅し、23 時に就床している。

図表 6-4-3 : 理学療法士等の1日の事例〔医療技術職員調査〕

<p>ケース16 (男性、49歳、子供あり、理学療法士、常勤、主任)</p> <p>0550 起床。朝食など(～6:20)</p> <p>0620 出社</p> <p>0700 病院に出勤</p> <p>回診の準備(～7:30)</p> <p>0730 回診(～7:50)</p> <p>0800 ミーティング</p> <p>0820 カルテチェック</p> <p>0830 診療開始</p> <p>1200 午前の診療終了</p> <p>1200 昼休み</p> <p>1230 院内メールチェック</p> <p>1300 午後の診療開始</p> <p>1730 午後の診療終了</p> <p>「リハビリテーション指導書」説明実施</p> <p>1800 学生のプレゼンテーション</p> <p>1840 学生指導・フィードバック</p> <p>1900 カルテ記載</p> <p>2010 病院から退勤</p> <p>2035 帰宅</p> <p>夕食、入浴など(～23:00)</p> <p>2400 就床</p>	<p>ケース19 (女性、29歳、子供なし、言語聴覚士、常勤、役職なし)</p> <p>0000 就床</p> <p>0600 起床、朝食等</p> <p>0645 自宅を出る</p> <p>0730 病院に出勤</p> <p>0800 ミーティング</p> <p>0830 看護記録チェックの上、治療開始</p> <p>1300 午前の治療終了</p> <p>昼休み</p> <p>1340 午後の患者の治療開始</p> <p>1800 終業</p> <p>1800 治療記録の記載</p> <p>1900 勉強会</p> <p>2000 病院から退勤</p> <p>2040 帰宅</p> <p>2100 夕食、入浴等</p> <p>2230 テレビ観賞、家族と会話</p> <p>2400 就床</p>	<p>ケース23 (女性、38歳、子供なし、歯科衛生士、常勤、役職なし)</p> <p>0600 起床</p> <p>0610 朝食など(～7:10)</p> <p>0715 自宅を出る</p> <p>0805 病院に出勤</p> <p>0830 診察室の清掃・ミーティング</p> <p>0900 診察開始(受付業務・アシスタント・電話対応等)</p> <p>1245 午前の診察終了</p> <p>1250 昼休み(～13:30)</p> <p>1330 午後の診察開始(受付業務・アシスタント・電話対応等)</p> <p>1805 外来診察終了</p> <p>1810 医局会(～19:00)</p> <p>1930 病院から退勤</p> <p>2020 帰宅</p> <p>2030 夕食・入浴など</p> <p>2230 テレビなど</p> <p>2400 就床</p>
<p>ケース17 (女性、25歳、子供なし、理学療法士、非常勤、役職なし)</p> <p>2300 就床</p> <p>0530 起床</p> <p>0540 テレビ、朝食など</p> <p>0630 自宅を出る</p> <p>0640 病院に出勤</p> <p>0730 整形の回診</p> <p>0800 ミーティング</p> <p>0830 午前の治療開始</p> <p>1200 午前の診療終了、治療記録の記載</p> <p>1220 昼休み</p> <p>1300 午後の診療開始</p> <p>1800 午後の診療終了、記録の記載、書類の作成</p> <p>2030 病院から退勤</p> <p>2100 帰宅</p> <p>2130 夕食、入浴、テレビなど</p> <p>2400 就床</p>	<p>ケース20 (女性、30歳、子供なし、言語聴覚士、非常勤、役職なし)</p> <p>0630 起床</p> <p>0640 朝食など</p> <p>0740 自宅を出る</p> <p>0750 出社</p> <p>0800 ミーティング</p> <p>0820 カルテチェック</p> <p>0900 診療開始</p> <p>1255 昼休み</p> <p>1330 診療開始</p> <p>1730 カンファレンス</p> <p>1800 症例検討会</p> <p>2020 診療記録、報告書作成</p> <p>2150 病院から退勤</p> <p>2200 帰宅</p> <p>2210 夕食、入浴など</p> <p>2300 就寝</p>	<p>ケース24 (男性、60歳、子供あり、臨床工学士、常勤、主任)</p> <p>0430 起床。朝食など。</p> <p>0530 自宅を出る</p> <p>0620 病院に出勤</p> <p>0630 透析装置の立ち上げ・治療準備・カルテチェック(～8:30)</p> <p>0830 診療介助(～17:10)</p> <p>0830 血液透析(～13:00)</p> <p>0830 血漿交換療法(～12:00)</p> <p>1000 血球成分除去療法(～11:30)</p> <p>1340 血液透析(～17:10)</p> <p>1500 昼食(15:00～15:30)</p> <p>1710 終了</p> <p>1710 片付け・準備(～18:30)</p> <p>1830 病院から退勤</p> <p>1930 帰宅</p> <p>1930 夕食・入浴・読書</p> <p>2200 就床</p>
<p>ケース18 (男性、29歳、子供なし、作業療法士、非常勤、役職なし)</p> <p>入浴、家事など</p> <p>0130 研究(～2:00)</p> <p>0200 就床</p> <p>0630 起床</p> <p>朝食など</p> <p>0700 自宅を出る</p> <p>0710 病院に出勤</p> <p>0720 カルテチェック、書類作成</p> <p>0800 ミーティング、カルテチェック、書類作成</p> <p>0830 患者の治療開始</p> <p>1200 午前の患者治療終了、カルテ記載</p> <p>1215 昼休み(～13:00)</p> <p>1300 午後の治療開始(～17:00)</p> <p>1700 カルテ記載</p> <p>1800 リハビリ機器の説明会</p> <p>1830 カルテ記載</p> <p>2000 研究(文献検索、統計解析、抄録作成)(～23:00)</p> <p>2300 病院から退勤</p> <p>2315 帰宅</p> <p>2330 夕食、家族との団欒、洗濯などの家事(～25:30)</p> <p>2600 就床</p>	<p>ケース21 (女性、27歳、子供なし、視能訓練士、その他、役職なし)</p> <p>0630 起床</p> <p>0700 自宅を出る</p> <p>0730 出勤</p> <p>0830 勤務開始</p> <p>視力、眼圧、散瞳、フレア、眼底写真など。</p> <p>1300 昼休み</p> <p>1400 午後の検査開始(予約の検査、午後診察前の検査)</p> <p>1715 終業</p> <p>1800 製薬会社の説明会</p> <p>1930 病院から退勤</p> <p>2000 帰宅</p> <p>2100 入浴など</p> <p>2400 就床</p>	<p>ケース25 (女性、31歳、子供なし、臨床心理士、非常勤、役職なし)</p> <p>2430 就床(翌7:00まで睡眠)</p> <p>0700 起床</p> <p>0730 朝食など</p> <p>0810 自宅を出る</p> <p>0825 病院に出勤</p> <p>0830 ミーティング</p> <p>0840 電話対応や記録(～10:00)</p> <p>1000 緩和ケアチーム回診</p> <p>1200 昼休み(昼食12:00～12:30)</p> <p>1230 昼電話当番(～13:30)</p> <p>1330 緩和ケアチーム回診(～15:00)</p> <p>1500 電話対応業務や記録(～18:00)</p> <p>1800 緩和ケアカンファレンス(～20:00)</p> <p>2030 終業・病院から退勤</p> <p>2050 帰宅</p> <p>2100 入浴・夕食・テレビなど</p> <p>2345 就床</p>
<p>ケース22 (女性、22歳、子供なし、歯科衛生士、常勤、役職なし)</p> <p>0630 起床</p> <p>0640 朝食・シャワーなど</p> <p>0800 自宅を出る</p> <p>0815 出勤</p> <p>0825 診察室清掃</p> <p>0900 午前の診療開始(～12:30)</p> <p>1240 午前の診療終了</p> <p>1240 昼休み(～13:30)</p> <p>1330 午後の診療開始(～17:40)</p> <p>1740 終業</p> <p>1800 製薬会社の説明会へ参加</p> <p>1830 医局会(～19:15)</p> <p>1915 病院から退勤</p> <p>1930 帰宅</p> <p>1940 夕食・シャワーなど</p> <p>2130 テレビ等</p> <p>2330 就床</p>	<p>ケース26 (女性、34歳、子供なし、社会福祉士、常勤、役職なし)</p> <p>0630 起床</p> <p>0730 病院へ出社</p> <p>0830 ミーティング</p> <p>ケース対応開始(間に記録)</p> <p>1210 昼休み(～12:40)</p> <p>1240 ケース対応開始(間に記録)</p> <p>1800 終業</p> <p>1800 病院から退勤</p> <p>1900 帰宅</p> <p>1930 夕食・入浴など</p> <p>2100 読書・テレビのニュースチェック等</p> <p>2300 就床</p>	

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、職種、勤務形態、役職を示す。

(4)医療技術職員の夜勤の事例

医療技術職員の夜勤の事例をまとめたものが図表 6-4-4 である。ケース 27（診療放射線技師）、ケース 28（臨床検査技師）いずれも、日勤の通常業務をこなし、ケース 27 の場合、17 時 15 分から翌朝 8 時 30 分にかけて宿直をしている。ケース 28 の場合も、1 日目の日勤を終え、17 時から翌朝 8 時まで宿直をしている。

宿直の状況みると、ケース 27 の場合、1 時 30 分に就床し 7 時に起床。7 時 30 分には機械を立ち上げ、8 時 30 分にミーティングをすませ、宿直業務を終了し、9 時に病院を退勤し、9 時 30 分に帰宅している。

ケース 28 の場合、1 日目の 18 時に日勤が終了し、2 時 30 分に当直業務を終え、3 時に就寝し、5 時 50 分に起床している。7 時に日勤の準備をし、8 時 30 日から日勤を開始している。その日の退勤は 20 時で、帰宅は 20 時 30 分。就床は 24 時 30 分である。

図表 6-4-4：医療技術職員の夜勤の事例【医療技術職員調査】

ケース27	(男性、24歳、子供なし、診療放射線技師、非常勤、役職なし)	ケース28	(女性、36歳、子供なし、臨床検査技師、非常勤、役職なし)
1 日 目	0000 就床(0:00~6:30まで睡眠)	1 日 目	2430 就床(24:30~翌5:50)
	0630 起床		0550 起床・シャワー・朝食等
	0640 朝食		0725 家を出る
	0720 自宅を出る		0745 出勤・朝の準備
	0730 病院出勤(機械立ち上げ)		0830 検査(8:30~12:00)
	0830 ミーティング		1200 昼食
	0900 冠動脈造影検査開始		1245 午後の業務開始(12:45~18:00)
	1200 昼休み(12:00~13:00)		1700 夜勤開始(当直業務17:00~翌朝8:00)
	1330 冠動脈造影検査(13:30~17:15)		1800 日勤終了
	1715 終業		2 日 目
1715 宿直業務開始(17:15~翌朝8:30まで)	0300 就寝		
宿直業務継続中	0550 起床		
0130 就床	朝食など		
0700 起床	0700 朝の準備(日勤の準備)		
0730 機械立ち上げ	0830 当直終了・日勤スタート(8:30~12:30)		
0830 ミーティング・宿直業務終了	1315 午後業務スタート(13:15~17:15)		
0900 病院退勤	1730 ミーティング(17:30~18:30)		
0930 帰宅	2000 病院から退勤		
1200 実家へ帰省	2030 帰宅		
1430 眼科検診(14:30~16:00)	夕食・入浴・家事等		
1800 帰宅	2430 就寝		
1830 夕食・入浴(~19:30)			
2000 テレビ・読書など			
2400 就床			

※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カッコ内は、性、年齢、子供の有無、職務、勤務形態、役職を示す。

5. 病院事務職員の勤務時間、仕事及び生活時間

病院事務職員（医事関係、診療科等事務補助）の業務（日勤）の1日の行動事例を参考としてまとめたものが図表 6-5-1 である。

例えば、ケース 1 は、6 時に起床。7 時 10 分に自宅を出て、8 時に出勤と同時に仕事の準備。8 時 20 分に朝礼後、午前の会計処理、伝票整理などを行っている。昼休み後、午後の伝票処理や翌日の退院患者の内容チェックなどを行っている。18 時から係内の勉強会。19 時 30 分

に退勤。20時15分に帰宅。24時に就床している。

ケース1～ケース10によれば、医事関係の業務は、外来受付、予約センターオペレーター、治療費の会計・レセプトの作成・カルテの管理、DPC（診断群分類包括評価）手術確認・伝票整理、DPC・診断書・退院サマリーの作成、未集金業務、患者相談・苦情処理など——多岐にわたっている。

図表 6-5-1：病院事務（医事関係、診療科等補助）の1日の事例〔病院事務職員調査〕

<p>ケース1 (女性、22歳、子供なし、医事関係、非常勤、役職なし)</p> <p>0030 就床(0:30～6:00まで睡眠)</p> <p>0600 起床(朝食等)(～7:10)</p> <p>0710 自宅を出る</p> <p>0800 病院に出勤・仕事の準備</p> <p>0820 朝礼・会計処理・伝票処理・資料作成</p> <p>1200 昼食(～13:00)</p> <p>1300 午後の業務(伝票処理・明日の退院患者の内容チェックなど)</p> <p>1800 係内での勉強会</p> <p>1930 病院から退勤</p> <p>2015 帰宅</p> <p>2045 夕食・入浴など(～22:00)</p> <p>2200 テレビのチェック等(～23:30)</p> <p>2400 就床</p>	<p>ケース5 (女性、64歳、子供あり、医事関係、不明、役職なし)</p> <p>2400 就床(24:00～翌6:00まで睡眠)</p> <p>0600 起床・朝食など(6:30～7:45)</p> <p>0750 自宅を出る</p> <p>0805 病院に出勤</p> <p>0820 外来で紹介状スキャン</p> <p>0900 通常業務(～12:00)</p> <p>1200 昼食(～13:00) 要請がある場合交代で紹介状スキャン</p> <p>1300 午後の業務開始(～17:15)</p> <p>1715 業務終了後、緊急スキャン等の対応(～17:30)</p> <p>1740 病院から退勤</p> <p>1800 帰宅</p> <p>1900 夕食・入浴など(～20:30)</p> <p>2030 テレビ・ビデオ・ニュースチェック等(～24:00)</p> <p>2400 就床</p>	<p>ケース8 (女性、27歳、子供なし、診療科等事務補助、非常勤、役職なし)</p> <p>2330 就床(23:00～翌6:00まで睡眠)</p> <p>0600 起床、朝食など(6:15～7:30)</p> <p>0730 自宅を出る</p> <p>0800 病院出勤、着替え、各自準備</p> <p>0830 初診、再診受付(～11:30)</p> <p>1130 昼食(～12:20)</p> <p>1220 午後の受付、カルテ準備、作成(～15:30)</p> <p>1530 終業(15:30～16:00)帰宅準備</p> <p>1600 病院から退勤</p> <p>1700 帰宅</p> <p>1830 家事など</p> <p>1900 夕食、入浴など(19:00～22:00)</p> <p>2200 テレビチェック、趣味の時間など</p> <p>2300 就床</p>
<p>ケース2 (男性、52歳、子供なし、医事関係、常勤、主査)</p> <p>0030 就床</p> <p>0610 起床・朝食(～8:05)</p> <p>0805 自宅を出る</p> <p>0825 病院へ出勤</p> <p>0830 受付(8:30～8:45)</p> <p>0845 医療事務(患者相談・苦情処理等)</p> <p>1215 昼食(～13:00)</p> <p>1300 医療事務(～14:00)</p> <p>1400 会議(～15:00)</p> <p>1500 医療事務(会議資料作成・打合せ等)</p> <p>2200 病院から退勤</p> <p>2220 帰宅</p> <p>2220 夕食・入浴など(～23:30)</p> <p>2330 インターネット・メールチェック(～24:00)</p>	<p>ケース6 (男性、32歳、子供なし、医事関係、常勤、役職なし)</p> <p>0630 起床・朝食など</p> <p>0750 自宅を出る</p> <p>0820 出勤・外来ホールへ</p> <p>0900 デスクへ戻る</p> <p>0900 未収金業務(9:00～12:00)</p> <p>1200 昼食・昼休み(～13:00)</p> <p>1300 未収金業務(～14:00)</p> <p>1400 院内症例検討会の準備(～16:00)</p> <p>1600 産科医療補償制度(～17:00)</p> <p>1700 灯油の補充など</p> <p>1900 退勤</p> <p>2000 帰宅・入浴・食事</p> <p>2100 読書・テレビなど</p> <p>2400 就床</p>	<p>ケース9 (女性、44歳、子供あり、診療科等事務補助、非常勤、役職なし)</p> <p>0520 起床・洗濯・コーヒー飲む</p> <p>0600 お弁当、朝食作り・朝食</p> <p>0820 自宅出る</p> <p>0840 病院着・準備</p> <p>0900 本日の外来再チェック、病棟で入退院患者の確認</p> <p>1000 外来スタート</p> <p>診察補助、患者呼び出し、次回の説明など情報提供書送付、スキャン文書処理、診断書処理</p> <p>1345 昼食</p> <p>1445 病棟でのやり残り業務処理</p> <p>データベースバックアップ、来週の入退院チェック</p> <p>1615 病院退勤</p> <p>1640 帰宅</p> <p>1800 夕食準備・片付け。ニュース</p> <p>2000 PCメールチェック・TV・読書など</p> <p>読書</p> <p>2230 就床</p>
<p>ケース3 (女性、50歳、子供あり、医事関係、アルバイト、役職なし)</p> <p>0630 起床・朝食・家事</p> <p>0930 家を出る</p> <p>0940 出勤</p> <p>1000 予約センターオペレーター(～13:00)</p> <p>1300 昼食</p> <p>1400 予約センターオペレーター(～17:00)</p> <p>1700 清掃・終業</p> <p>1725 退勤</p> <p>1740 帰宅</p> <p>1835 夕食・入浴など</p> <p>2150 テレビ・読書</p> <p>2350 就床</p>	<p>ケース7 (男性、29歳、子供なし、医事関係、常勤、役職なし)</p> <p>0000 就床(0:00～6:00まで睡眠)</p> <p>0600 起床。朝食等(6:10～7:30)</p> <p>0730 自宅を出る</p> <p>0745 出勤</p> <p>会計準備</p> <p>0820 朝礼</p> <p>0845 病棟への搬送、連絡事項確認</p> <p>0900 退院患者会計計算</p> <p>0945 入退院受付窓口応援</p> <p>1015 退院患者会計</p> <p>1200 昼食、休憩</p> <p>1300 DPC、手術の確認</p> <p>1430 病棟搬送</p> <p>1500 DPC伝票類整理</p> <p>1730 翌日退院確認</p> <p>入院中患者内容確認</p> <p>1915 退勤</p> <p>1930 帰宅</p> <p>2000 夕食、入浴、家事</p> <p>2200 TV、ゲーム等</p> <p>2400 就床</p>	<p>ケース10 (女性、42歳、子供あり、診療科等事務補助、その他、役職なし)</p> <p>2100 就床(21:00～翌4:40まで睡眠)</p> <p>0440 起床、朝食など(4:50～7:15)</p> <p>0715 自宅を出る(幼稚園へ送迎→病院へ出社)</p> <p>0830 病院に出勤</p> <p>0900 DPC・診断書作成・退院サマリーの作成(～12:00)</p> <p>1200 昼食(～13:00)</p> <p>1300 DPC・診断書作成・退院サマリーの作成(～16:00)</p> <p>1600 終業</p> <p>1620 病院から退勤</p> <p>1700 娘のお迎え</p> <p>1730 帰宅</p> <p>1800 夕食・入浴など(～19:00)</p> <p>洗濯・掃除・テレビ</p> <p>2300 就床</p>
<p>ケース4 (男性、43歳、子供なし、医事関係、常勤、主査)</p> <p>0615 起床・朝食など(6:30～7:15)</p> <p>0715 自宅を出る</p> <p>0800 出勤・清掃</p> <p>0830 患者の自動受付機整列案内</p> <p>0845 労災関係業務・返戻レセプト登録(～12:00)</p> <p>1200 昼休み(～13:00)</p> <p>1300 労災関係業務・返戻レセプト登録(～19:00)</p> <p>1900 退勤</p> <p>1930 帰宅。夕食など。新聞・テレビのニュース</p> <p>2300 就床</p>	<p>※時刻は四ケタの24時間で表示。ケースの属性カクコ内は、性、年齢、子供の有無、配属、勤務形態、役職を示す。</p>	